大正十二年十二月二日印刷
大正十二年十二月五日發行

漢文叢書

編者　塚本哲三
東京府下大久保町西大久保三百三十六番地

發行者兼印刷者　三浦理
東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷所　有朋堂印刷部
東京市神田區錦町三丁目九番地

發行所　有朋堂書店
東京市神田區錦町一丁目十九番地

大正十三年十二月二日印刷
大正十三年十二月五日發行

漢文叢書
蒙求

編輯者　東京府下大久保町西大久保二百三十六番地　塚本哲三
發行兼印刷者　東京市神田區錦町一丁目十九番地　三浦理
印刷所　東京市神田區錦町三丁目九番地　有朋堂印刷部
發行所　東京市神田區錦町一丁目十九番地　有朋堂書店

哉。此甄擇恐レ難ニ全備一也。

芟煩摭華　爾曹勉旃

今以ニ有限之力一、當レ讀ニ無涯之書一。徒欲ニ強記洽聞一。終恐脣腐齒落。所下以芟ニ除繁冗一。採中摭精華上。冀爾曹披尋。儻獲ニ微益一也。

今有限の力を以て無涯の書を讀むに當つて、徒に強記洽聞(一)せんと欲するも、終に恐らくは、脣腐ち齒落ちん。繁冗(二)を芟り除き、精華を採り摭ふ(三)所以なり。冀はくば爾が曹披尋せば、儻は微益を得ん。

(一)物事を博く知ること　(二)煩しくむだなるもの　(三)拾也　(四)この蒙求をひらきたづねば、或は些少の益ある事あらんかと也

蒙求終

風。是日疾發。臥讀二琳所一レ作。翕然而起曰。此愈二我病一。數加二厚賜一。太祖嘗使三琳作レ書與二韓遂一。時從二太祖出一。因於二馬上一具レ草。書成呈レ之。太祖攬レ筆。欲レ有レ所レ定。而竟不レ能二增損一。魏文帝與二吳質一書曰。孔璋章表殊健。微爲二繁富一。元瑜書記翩翩。致足レ樂也。

なり」と。

㊀官名、文書記錄を司る役　㊁文書檄文　㊂頭痛　㊃起きあがるさま　㊄二つとも上奏文の一體　㊅文辭華麗に過ぐるをいふ　㊆高くあがる貌にて他より秀づる也

李子言。自二史記一至二晉宋一。子史向二千卷一。況搜神列異。浩浩雜書。雖レ可二時復見錄一。且古人窮二一經一明。猶辭二皓首一。

浩浩萬古（一）　不可備甄

李子言ふ、史記より晉宋に至るまで、子史（二）千卷に向んとす。況んや、搜神列（三）異、（四）浩浩たる雜書をや。時に復た見て錄すべきこと難し。且つ古人一經を窮めて明かにするも、猶ほ皓首（五）を辭せんや。この甄擇（六）恐らくは全備し難からん。

㊀これより以下四句の標題は李瀚が蒙求を作りし志を述べしにて、云はゞ跋ともいふべきもの也　㊁歷史及び諸子百家の書　㊂後漢の王嘉の著せる搜神記、怪異を記せる幽冥錄、齊諧記、述異記等をいふ　㊃水のさかんにひろ〴〵としたる貌にて、書の夥しくあるをいへる也　㊄白髮、老人　㊅甄は表也、あらはしえらぶこと

文帝以爲二中書舍人一。上好二文章一。自謂人莫二能及一。照悟二其旨一。文章多二鄙言累句一。咸謂照才盡。實不レ然也。嘗賦二擬古詩一云。十五諷二詩書一。篇翰靡レ不レ通。文選照作レ昭。

魏志。廣陵陳琳字孔璋。陳留阮瑀字元瑜。琳避二難冀州一。袁紹使レ典二文章一。袁氏敗。歸二太祖一。太祖愛二其才一。竝以二琳瑀一爲二司空軍謀祭酒。管二記室一。軍國書檄。多琳瑀所レ作。典略曰。琳作二諸書及檄一。草成呈二太祖一。太祖先苦二頭

魏志にいふ、廣陵の陳琳、字は孔璋、陳留の阮瑀、字は元瑜。琳難を冀州に避く。袁紹、文章を典らしむ、袁氏敗れて、太祖に歸す。太祖、其才を愛し、竝に琳瑀を以て司空軍謀祭酒となし、記室(一)を管らしむ。軍國の書檄(二)、多くは琳瑀の作るところなり。典略に曰く、琳、諸書及び檄を作り、草成つて太祖に呈す。太祖、先に頭風(三)に苦む。この日、疾發る。臥して琳の作るところを讀み、翕然(四)として起つて曰く、「これ我が病を愈す」と。數〻厚賜を加ふ。太祖嘗て瑀をして書を作つて韓遂に與へしむ。時に太祖の出づるに從ふ。因つて、馬上に於て草を具す。書成つて之を呈す。太祖筆を攬つて定むるところあらんと欲するも、竟に增損する能はざりきと。魏の文帝、吳質に與ふる書に曰く、「孔璋の章表は(五)殊に健なり。微しく、繁富(六)を爲す。元瑜が書記は(七)翩翩として、致めて樂むに足る

南史。鮑照字明遠。東海人。文辭贍逸。嘗謁二宋臨川王義慶一。未レ見レ知。欲二貢レ詩言一レ志。人止レ之曰。卿位尙卑。不レ可三輕忤二大王一。照勃然曰。千載上有二英才異士一。沈沒而不レ聞者。安可レ數哉。大丈夫豈蘊二智能一。碌碌與二燕雀一相隨乎。於レ是奏レ詩。義慶奇レ之。賜二帛二十匹一。尋擢爲二國侍郎一。

南史にいふ、鮑照、字は明遠、東海の人なり。文辭贍逸なり。(一)嘗て宋の臨川王義慶に謁す。未だ知られず。詩を貢して(二)志を言はんと欲す。人、これを止めて曰く、「卿の位、尙ほ卑し、輕〻しく大王に忤ふべからず。」照、勃然として曰く、「千載の上に英才異士あるも、沈沒して(三)聞えざるもの安んぞ數ふべけんや。大丈夫、豈に智能を蘊み、碌碌(四)として、燕雀(五)と相隨はんや」と。こゝに於て、詩を奏す。義慶、これを奇として、帛二十匹を賜ひ、尋いで擢んでゝ國侍郎となす。文帝、以て中書舍人となす。上、文章を好み、自ら謂へらく、人、能く及ぶなしと。照、その旨を悟り、文章に鄙言累句を多くす。咸謂ふ、「照の才盡きたり」と。實(六)は然らざるなり。嘗て擬古(七)の詩を賦して云ふ、『十五にして詩書を諷し、篇翰(八)通ぜざるなし』と。文選に照を昭に作る。

(一) 豐富にしてすぐれたり (二) 獻上也 (三) 智能をつゝみて自らあらはれざるが故との意を含む (四) 尋常にして勝れるところなきをいふ (五) 凡庸の人にたとふ (六) 天子より文才秀あるがために害せらるゝを恐れて也 (七) 古體の詩にまねて作れる詩 (八) 書物

古列女傳。魯季敬姜。莒女也。號二戴己一。魯大夫公父穆伯之妻。文伯之母。博達知レ禮。文伯退レ朝。朝二敬姜一。敬姜方績。文伯曰。以二歜之家一。而主猶績。懼干二季孫之怒一。其以レ歜爲レ不レ能レ事レ主乎。敬姜歎曰。魯其亡乎。使二僮子備一レ官。而未二之聞一邪。昔聖王處レ民。男女效レ績。否則有レ辟。古制也。又出二魯語一。

古列女傳にいふ、魯の季敬姜は、莒の女なり。戴己と號す。魯の大夫公父穆伯の妻にして、文伯の母なり。博く達して(一)禮を知る。文伯朝より退いて敬姜に朝(二)す。敬姜、方に績す。文伯曰く、「(三)歜の家を以てして、主(四)猶ほ績ぐ。懼らくは(五)季孫の怒を干さん。それ歜を以て主に事ふる能はずとするか。」敬姜歎じて曰く、「魯は其れ亡びんか。(六)僮子をして官に備はらしむ。而、未だ之を聞かずや。むかし、聖王の民を處する、男女(七)績を效す。しからざれば、辟あり。古の制なり」と。又(八)魯語に出づ。

(一) ひろく物事に通達して　(二) 父母の所へ行くをもしかいふ　(三) 文伯の名　(四) 大夫及其妻を敬して呼ぶ稱　(五) 季康子をいふ、康子は家の宗家にて魯國の執政なるを以て也　(六) わかものをいふ。而は汝也。汝已に官吏となり乍ら未だ道を聞かざるかと也　(七) 功績　(八) 國語といふ書の篇名

鮑照篇翰　陳琳書檄

古列女傳。宋鮑女宗者。鮑蘇妻也。養レ姑甚謹。蘇去仕レ衞。三年而娶ニ外妻一。女宗因ニ往來者一。請ニ問其夫一不レ輟。賂ニ遺外妻一甚厚。女宗之姒曰。可ニ以去一矣。女宗曰。婦人固以ニ一醮一不レ改。夫死不レ嫁。爲レ分者也。吾姒不レ教ニ吾以ニ居レ室之禮一。而反欲レ使ニ吾爲ニ見レ棄之行一。將安用レ之。遂不レ聽。事レ姑愈謹。宋公聞而美レ之。表ニ其閭一號曰ニ女宗一。君子謂ニ女宗謙而知レ禮。

古列女傳にいふ、宋の鮑女宗は鮑蘇の妻なり。姑を養うて甚だ謹む、蘇去つて衞に仕ふ。三年にして、外妻(一)を娶る。女宗、往來の者に因つて、その夫を請問(二)すること輟まず。外妻に賂遺(三)すること甚だ厚し。女宗の姒(四)曰く、「以て去るべし。」女宗曰く、「婦人固より一醮(五)して改めず、夫死するも嫁せざるを分とする者なり。吾が姒、吾に教ふるに室(六)に居るの禮を以てせず、反つて、吾をして棄てらるゝの行を爲さしめんと欲す。將た安んぞ此を用ひん」と。遂に聽かず。姑に事ふる、愈々謹む。宋公聞いて之を美とし、その閭(七)に表して號して女宗といふ。君子、女宗は謙にして禮を知れりといふ。

(一) めかけ (二) 安否、起居をたづぬると (三) 物を贈る (四) 年長じたる女をいふ、蓋し蘇の兄の妻ならん (五) 婚姻の儀式に酒をくむこと、女一度嫁せば、夫死するも終身改めざるべきをいふ (六) 夫家也。棄てらるゝの行とは妬をいふ、婦人には七去の法ありて妬はその第一のものなれば也 (七) 村の入口の門

有二美色一。粲聘焉。容服帷帳甚レ麗。專レ房燕婉。歷レ年後。婦病亡。傳嘏往唁。粲不レ哭而神傷。嘏問曰。婦人才色竝茂爲レ難。子遺レ才而好レ色。此自易レ遇。何哀之甚。粲曰。佳人難二再得一。顧逝者不レ能レ有二傾國之色一。未レ可レ謂二之易一レ遇。痛悼不レ能レ已。歲餘亦亡。世說曰。奉倩與レ婦至篤。冬月婦病レ熱。乃出二中庭一。自取レ冷還。以レ身熨レ之。婦亡。奉倩後少時亦卒。以レ是獲二譏於世一。見二惑溺篇一。

なるを難しとなす。子は才を遺れて色を好む。これ自ら遇ひ易し。何ぞ哀むことの甚しきや。」粲曰く、「佳人(三)は再び得難し。顧ふに、逝く者、傾國の色ある能はざるも、未だ之を遇ひ易しと謂ふべからず」と。痛悼して已むこと能はず。歲餘にして亦た亡す。世說に曰く、『奉倩、婦と至つて篤し。冬月、婦、熱を病む。乃ち中庭に出でゝ、自ら冷を取りて還り、身を以て之を熨す(四)。婦亡す。奉倩も後少時にして亦た卒す。是を以て譏を世に獲たり』と。惑溺篇に見ゆ。

(一) 專らねやの中にありて色を樂む　(二) 精神也、號泣して悲しまざるも心の中にては愁へ傷むと也　(三) 死せる妻をいふ　(四) おさへ溫める

宋女愈謹　敬姜猶績

書令一。履居ニ州郡一。清潔絶倫。祿賜皆散ニ之親故一。但性急爲ㇾ累。嘗食ニ雞子一。以ㇾ筯刺ㇾ之不ㇾ得。大怒擲ㇾ地。雞子圓轉不ㇾ止。便下ㇾ牀以ニ屐齒一踏ㇾ之。又不ㇾ得。瞋甚。掇內ニ口中一。齧破而吐ㇾ之。既躋ニ重位一。每以ニ柔克一爲ㇾ用。謝奕性麤。嘗忿ㇾ述。極ㇾ言罵ㇾ之。述無ㇾ所ㇾ應。面ㇾ壁而已。居半日。奕去。始復ㇾ坐。人以ㇾ此稱ㇾ之。舊本述誤作ㇾ術。

まんとす。又得ず。瞋ること甚し。掇(六)りて口中に內れ、齧み破つて之を吐く。すでに重位に躋るや、每に柔克(七)を以て用となす。謝奕性麤(八)なり。嘗て述を忿り、言を極めて之を罵る。述、應ふるところなし。壁に面ふのみ。居ること半日、奕、去つて、始めて座に復る。人、これを稱す。舊本に述を誤つて術に作る。

㊀おろか　㊁比すべき者なく衆人にぬきんづること　㊂親戚故舊　㊃雞卵　㊄下駄の歯　㊅采る也
㊆柔順にして克己なり　㊇性質粗暴

荀粲傳曰。粲字奉倩。常以婦人才智不ㇾ足ㇾ論。自宜ニ以ㇾ色爲ㇾ主。驃騎將軍曹洪女

荀粲傳に曰く、粲、字は奉倩、常に以へらく、婦人の才知は論ずるに足らず。自ら宜しく色を以て主となすべしと。驃騎將軍曹洪の女、美色あり。粲聘す。容服帷帳、甚だ麗し。房を(一)專にして燕婉す。年を歷て後、婦病んで亡す。傳嘏、往いて唁ふ。粲、哭せずして(二)神傷む。嘏、問うて曰く、「婦人は才色並に茂

玄伯。司空羣之子。爲二幷州刺史一。加二振威將軍一。使持節護匈奴中郎將一。懷二柔吏民一。甚有二威惠一。京邑貴人。多寄二寶貨一。因レ泰市二奴婢一。泰皆挂二之於壁一。不レ發二其封一。及三徵爲二尙書一。悉以還レ之。

護匈奴・中郎將を加ふ。吏民を懷柔し、(一)甚だ威惠あり。(二)京邑の貴人、多く寶貨を寄せ、泰に因つて奴婢を市ふ。泰、皆これを壁に挂けて、その封を發かず。徵されて尙書となるに及び、悉く以て之を還す。

㊀なづけ柔らぐ　㊁威德恩惠　㊂都會々田舍

王述忿狷　荀粲惑溺

晉書。王述字懷祖。東海太守承之子。安レ貧守レ約。不レ求二聞達一。性沈靜。年三十尙未レ知レ名。人或謂二之癡一。累二遷尙

晉書にいふ、王述、字は懷祖、東海の太守承の子なり。貧に安んじ約を守り聞達を求めず、性沈靜なり。年三十、尙ほ未だ名を知られず。人或は之を癡といふ。(一)尙書令に累遷し、屢〻州郡に居る。淸潔絕倫、(二)祿賜は皆これを親故に散ず。(三)但だ性急なるを累となす。嘗て雞子を食ふに、筯を以て之を刺さんとして得ず。大に怒り、地に擲つ。雞子圓轉して止まず。便ち牀を下り、(四)屐齒を以て之を踏(五)

得レ備二郡守一。不レ聞三仁愛教化。以全二安愚民一。顧多刑二殺人一。欲二以立一レ威。天道神明。人不レ可二獨殺一。我不レ意當四老見三壯子被二刑戮一。行矣。去レ女東歸。掃二除墓地一耳。遂去。歳餘延坐二棄市一。東海賢二其母一。延年兄弟五人。至二大官一。東海號曰二萬石嚴嫗一。

晉書。殷羨字洪喬。陳郡長平人。爲二豫章太守一。都下人士。因レ其致レ書者百餘函。行次二石頭一。皆投二之水中一曰。沈者自沈。浮者自浮。殷洪喬不レ爲二致書郵一。其資性介立如レ此。

洪喬擲水　陳泰挂壁

晉書にいふ、殷羨、字は洪喬、陳郡長平の人なり。豫章の太守たり。都下の人士、それに因つて書を致すもの百餘函、行いて石頭に次り、皆これを水中に投じて曰く、「沈むものは自ら沈め、浮ぶものは自ら浮べ。殷洪喬は、致書郵なら(一)ず」と。その資性介立(二)、かくの如し。

(一) 郵便配達夫　(二) 獨り立ちて人を相容れざること

魏志。陳泰字

魏志にいふ、陳泰、字は玄伯、司空羣の子、并州の刺史なり、振威將軍・使持節・

小民一者。以レ文內レ之。衆謂レ當レ死者。一朝出レ之。謂レ當レ生者。詭二殺之一。吏民莫三能測二其意深淺一。冬月傳二屬縣囚一。會二論府上一。流レ血數里。河南號二屠伯一。其母從二東海一來到二洛陽一。見レ報レ囚。大驚。止二都亭一。不二肯入一レ府。延年至謁。母閉レ閤不レ見。延年免レ冠頓二首閤下一。良久乃見レ之。因數二責延年一。幸

陽に至つて、(六)囚を報ずるを見、大に驚き、都亭に止まつて肯て府に入らず。延年至つて謁す。母、(七)閤を閉ぢて見はず、延年冠を免いで閤下に頓首す。良や久しうして、乃ち之を見る。因つて、延年を(八)數責す、「幸に郡守に備はることを得たるも、仁愛敎化、以て愚民を全安するを聞かず、顧つて多く人を刑殺し、以て威を立てんと欲す。天道は(九)神明なり、人のみ獨り殺すべからず。我れ意はざりき、老に當つて壯子の刑戮せらるゝを見んとは。(一〇)行け。女を去つて東に歸り、(一一)墓地を掃除せんのみ」と。遂に去る。歲餘、延年坐して(一二)棄市せらる。東海その母を賢なりとす。延年の兄弟五人、大官に至る。東海、號して(一三)萬石嚴嫗といふ。

(一) 沂郡 (二) 法に當て丶罪に入る丶こと (三) 不意に殺す (四) 郡府の役人を集めて囚の罪を論じ (五) 人殺しといふ程の意 (六) 罪人を君に奏して罪に行ふこと (七) 戸口のくゞり戸 (八) 數も責もせむるなり (九) 多く人を殺さばやがて己も殺さるべしとの意を含める也 (一〇) 延年府にかへれ、其面を見るを欲せずと也 (一一) 延年殺さるゝの報の來るを待たんとの意 (一二) 罪人の屍を市中に曝すこと、さらし首也 (一三) 一門の中五人二千石となりし故也

従母扣ㇾ頭請ㇾ救。不ㇾ聽。既而素服哭ㇾ之。流ㇾ涕曰。殺ㇾ卿者。兗州刺史。哭ㇾ弟者荀道將。

なり』と。

(一)法令下知の書類堆積せりとも　(二)母の姉妹、をば　(三)みのがす也。近親といへども法に觸るれば容赦せずと也　(四)天子より授りし符節をつゑつきて。卽ち國法によりての意　(五)白裝束、喪服なり　(六)補佐の官　(七)郡守縣令の轉任を行ふなり　(八)伯はかしらの義、牛馬を屠殺する如く人を殺す故かくいふ

其伏ㇾ法如ㇾ此。後領二靑州刺史一。多退二參佐一。轉二易守令一。以二嚴刻一立ㇾ功。日加二斬戮一。流ㇾ血成ㇾ川。號曰二屠伯一。晞出屯二無鹽一。以二弟純一領二靑州一。刑殺甚二於晞一。百姓號。小荀酷二於大荀一。

前漢。嚴延年字次卿。東海下邳人。遷二河南太守一。野無二行盜一。威震二旁郡一。其治務摧二折豪強一扶二助貧弱一。貧弱雖ㇾ陷ㇾ法。曲ㇾ文以出ㇾ之。豪傑侵二

前漢の嚴延年、字は次卿、東海下邳の人なり。河南の太守に遷る。野に行盜なく、威、(一)旁郡に震ふ。その治、務めて豪強を摧折し、貧弱を扶助す。貧弱は法に陷ると雖も、文を曲げて以て之を出す。豪傑の小民を侵すものは、(二)文を以て之を內る。衆當に死すべしと謂ふものは、一朝に之を出し、當に生くべしと謂ふものは、之を(三)詭殺す。吏民能く其意の深淺を測るなし。冬月屬縣の囚を傳へて、府上に(四)會論し、血を流すこと數里。河南、(五)屠伯と號す。その母、東海より來り、洛

荀弟轉酷　嚴母掃墓

晉書にいふ、荀晞、字は道將、河內山陽の人、兗州の刺史たり。晞、官事に練す。文簿盈積するも、斷決流るゝが如く、人敢て欺かず。その從母、これに依る。奉養甚だ厚し。その子、將たらんことを求む。晞、これを距んで曰く、「吾、王法を以て人に貸さず。將た後悔なからん」と。固くこれを欲す。晞、乃ち以て督護となす。後、法を犯す。晞、節に仗つて之れを斬る。從母頭を扣いて救を請ふ。聽かず。すでにして素服してこれを哭し、涕を流して曰く、「卿を殺すものは兗州の刺史、弟を哭するものは荀道將」と。その法に仗ることかくの如し。後、青州の刺史を領し、多く參作を置き、守令を轉易す。嚴刻を以て功を立てんとし、日に斬戮を加へ、血を流して川を成す。號して屠伯といふ。晞出でゝ、無鹽に屯す。弟純、青州を領し、刑殺、晞よりも甚し。百姓號す、『小荀は大荀より酷

晉書。荀晞字道將。河內山陽人。爲兗州刺史。晞練於官事。文簿盈積。斷決如流。人不敢欺。其從母依之。奉養甚厚。其子求爲將。晞距之曰。吾不以王法貸人。將無後悔。固欲之。晞乃以爲督護。後犯法。晞仗節斬之。

耕二隴畝一。吟レ詩不レ倦。以二儒雅一著レ名。成帝時。爲二太尉一。初値二永嘉喪亂一。在二鄉里一甚窮餒。鄉人以二鑒名德一。傳共飯レ之。時兄子邁。外甥周翼並小。常攜レ之就レ食。鄉人曰。各自飢困。以二君賢一。欲二共相濟一耳。恐不レ能レ兼二有所一レ存。鑒於レ是獨往。食訖以レ飯著二兩頰邊一。還吐與二二兒一。後並得レ存。同過レ江。邁至二護軍一。翼剡縣令。鑒薨。翼追二撫育之恩一。解レ職。席レ苫心喪三年。

名德を以て、傳へて共に之を飯せしむ。時に兄の子邁、(三)外甥周翼、並に小なり。常に之を攜へて食に就く。鄉人曰く、『各自ら飢困す。君の賢なるを以て、共に相濟はんと欲するのみ。恐らくは、(四)存するところを兼有する能はざらん』と。鑒ここに於て、獨り往き、食し訖るや、飯を以て兩頰の邊に著け、還つて吐いて二兒に與ふ。後、並に存するを得たり。同じく(五)江を過ぐ。邁は護軍に至り、翼は剡縣の令たり。鑒薨ず。翼、撫育の恩を追うて、職を解き苫を席き、心喪すること三年なり。

(一)懷帝の永嘉五年後趙の石勒の攻め來りし騷亂をいふ (二)貧しくして食に飢うると (三)姉妹の子をいふ (四)家に在る所の二兒までもあはせ養ふことは出來ざるべしと也 (五)漢の劉聰のために追はれて晉揚子江を渡りて都を南京に遷したるをいふ

晉書。氾毓字稚春。濟北盧人。奕世儒素。敦㆓睦九族㆒。客㆓居青州㆒。逮㆑毓七世。時人號㆓其家㆒。兒無㆓常父㆒。衣無㆓常主㆒。少履㆓高操㆒。安㆑貧有㆓志業㆒。武帝累召不㆑就。

晉書。郗鑒字道徽。高平金鄕人。少孤貧。博㆓覽經籍㆒。躬

氾毓字孤　郗鑒吐哺

晉書にいふ、氾毓、字は稚春、濟北盧の人なり。(一)奕世儒素にして、(二)九族に(三)敦睦なり。青州に客居すること、毓に逮ぶまで七世、時人、その家を號す、『(四)兒に常父なく、衣に常主なし』と。少にして高操を履み、貧に安んじて志業あり、武帝累りに召せども就かず。

(一)代々儒家たり　(二)諸説あり、孫沈の説によれば高祖父・曾祖父・祖父・父・己・子・孫・曾孫・玄孫とこれに附きたる親族をいふ　(三)あつく睦し　(四)一族の子は皆己が子の如く愛する故なり

晉書にいふ、郗鑒、字は道徽、高平金鄕の人、少にして孤貧なり。博く經籍を覽、躬づから隴畝に耕し、詩を吟じて倦まず。儒雅を以て名を著す。成帝の時大尉となる。初め(一)永嘉の喪亂に値ひ、鄕里に在つて、甚だ(二)窮餒す。鄕人、鑒の

聖明。今聞當レ見二棄去一。故自扶奉送。寵爲人選二一大錢一受レ之。後官至二太尉一。寵前後歷二宰二郡一。果登二卿相一。而清約省素。家無二貨積一。嘗出二京師一。欲レ息二亭舍一。亭吏止レ之曰。整頓洒掃。以待二劉公一。不レ可レ得也。寵無レ言而去。時人稱二其長者一。

後漢廉范字叔度。京兆杜陵人。肅宗時。遷二蜀郡太守一。厲以二淳厚一。成都民物豐盛。邑宇逼側。舊制禁二民夜作一。以防二火災一。而更相隱蔽。燒者日屬。范乃毀二削先令一。但嚴使レ儲レ水而已。百姓爲レ便。歌曰。廉叔度來何暮。不レ禁レ火民安作。平生無レ襦。今五袴。在レ蜀數年。免歸。

後漢の廉范、字は叔度、京兆杜陵の人なり。肅宗の時、蜀郡の太守に遷り、厲ますに淳厚を以てす、成都民物豐盛(一)、邑宇逼側す。舊制に民の夜作(二)を禁じ、以て火災を防ぐ。しかも更る相隱蔽し、燒くるもの日に屬す(三)。范、乃ち先令を毀削し、但だ嚴に水を儲へしむるのみ。百姓便となし、歌つて曰く、「廉叔度、來ること何ぞ暮き。火を禁ぜずして民安作す、平生襦(四)なかりしに、今は五袴あり」と。蜀に在ること數年、免じ歸る。

(一) 民の物產ゆたかにして、邑宇即ち民家いつぱいに建てりとの意 (二) 夜業 (三) 火災絕えず (四) 襦袢

頗爲二官吏一所レ擾。寵除二煩苛一。禁二察非法一。郡中大化。徵爲二將作太匠一。山陰縣有二五六老叟一。尨眉皓髮。自二若邪山谷間一出。人齎二百錢一。以送レ寵。寵勞レ之曰。父老何自苦。對曰。山谷鄙生。未三嘗識二郡朝一。它守時。吏發二求民間一。至レ夜不レ絕。明府下レ車以來。狗不二夜吠一。民不レ見レ吏。年老遭二値

を送る。寵、これを勞して曰く、「父老何ぞ自ら苦む。」對へて曰く、「山谷の鄙生、未だ嘗て郡朝（八）を識らず。它の守の時は、吏（九）、民間に發求し、夜に至つて絕えず、明府（一〇）、車を下つて以來、狗夜吠えず。民、吏を見ず。年老いて聖明に遭値す。今聞く、當に棄て去らるべしと。故に自ら扶けて（一一）奉送す」と。寵、爲に人ごとに一大錢を選んで之を受く。後、官大尉に至る。寵、前後二郡を歷宰（一二）し、累りに（一三）卿相に登る。而して淸約省素（一四）、家に貨積なし。嘗て京師を出で、亭舍（一五）に息はんと欲す。亭吏これを止めて曰く、「整頓洒掃、以て劉公を待つ、得べからず」と。寵、言なくして去る。時人、その長者（一六）なるを稱す。

（一）山中に住む民なれば質朴にして　（二）白髮の老人に至るまで市井を見たることなき者あり　（三）前の太守及官吏のために苦しめみだされしとなり　（四）わづらはしくむごき法律　（五）宮殿宗廟の普請を主る官也　（六）おきな　（七）ごましは交りの眉毛及び白髮　（八）郡の役所　（九）私に民財を徵發すること　（一〇）寵太守の尊稱　（一一）杖に扶けられて　（一二）つかさどる　（一三）九卿宰相となる　（一四）潔白にして儉約に、質素なること　（一五）十里毎に吏を置きて不法を治む、之を亭といふ。その旅舍なり　（一六）德望高き長者なることを稱美す

不レ成當レ行レ法。即應レ聲爲レ詩曰。煮レ豆持作レ羹。漉レ豉以爲レ汁。萁在二釜底一然。豆在二釜中一泣。本是同根生。相煎何太急。帝深有二慙色一。東阿即陳思王曹植舊封。

を漉し以て汁と爲す、萁は釜底に在つて然え、豆は釜中に在つて泣く、本と是れ同根より生ず、相煎る何ぞ太だ急なる」と。帝深く慙づる色あり。東阿は、即ち陳思王曹植の舊封なり。

(一)文帝の弟、曹植　(二)味噌　(三)まめがら　(四)燃也　(五)暗に帝と己とは父母を同じうせる兄弟なるに何故にかく苛めらるゝやとの意を諷りて也

後漢劉寵字祖榮。東萊牟平人。拜二會稽太守一。山民愿朴。乃有下白首不レ入二市井一者上。

劉寵一錢　廉范五袴

後漢の劉寵、字は祖榮、東萊牟平の人なり。會稽の太守に拜せらる。山民愿朴、乃ち白首まで市井に入らざるものあり。頗る官吏に擾さる。寵、煩苛を除き、非法を禁察し、郡中大に化す。徵して、將作大匠となす。山陰縣に、五六の老叟あり、厖眉皓髮、若邪山谷の間より出で、人ごとに百錢を齎して、以て寵

曰。臣少失二父母一。長養二兄嫂一。年十三學レ書。三冬文史足レ用。十五學二撃劒一。十六學二詩書一。誦二二十二萬言一。十九學二孫吳兵法。戰陣之具。鉦鼓之教。亦誦二二十二萬言一。又常服二子路之言一。年二十二。長九尺三寸。目若二懸珠一。齒若二編貝一。勇若二孟賁一。捷若二慶忌一。廉若二鮑叔一。信若二尾生一。若レ此可三以爲二天子大臣一矣。朔文辭不遜。高自稱譽。上偉レ之令レ待二詔公車一。後常爲レ郎與二枚皐郭舍人一倶在二左右一。詼嘲而已。

服す。年二十二にして、長九尺三寸、目は懸珠の若く、齒は編貝の若く、勇は孟賁の若く、捷は慶忌の若く、廉は鮑叔の若く、信は尾生の若し。此の若くんば、以て天子の大臣たるべし」と。朔文辭不遜高く自ら稱譽す。上、之を偉として公(八)車に待詔せしむ。後、常に郎となる。枚皐・郭舍人と倶に左右に在つて詼嘲(九)するのみ。

(一)官、人を官位に任ずる藝能の品目　(二)官次によらず藝能にて任用すること　(三)自分の得失長短　(四)名をてらひ賣る　(五)冬三ケ月間の稱　(六)公儀の記錄役の用に立つ　(七)孔子の弟子子路勇の必要なるをいふ、その言に歸服するなり　(八)公車門にて詔を待たせ置く　(九)詼謔、滑稽

世說曰。魏文帝嘗令二東阿王七步作一レ詩。

世說に曰く、魏の文帝、嘗て東阿王をして七步に詩を作らしむ。成らざれば當(一)に法に行ふべしと。卽ち聲に應じて詩を爲つて曰く、「豆を煮て以て羹と作し、豉(二)

得レ觀二竹書一。隨レ宜分釋。皆有二議證一。遷二尙書郞一。時有レ人於二嵩高山下一得二竹簡一枚一上兩行科斗書。傳以相示。莫レ有二知者一。司空張華以問レ晳。晳曰。此漢明帝顯節陵中策文也。檢驗果然。時人伏二其博識一

にありて祕書を校べる役人に付托して　(七)校合して舊の如く順序を綴る　(八)大旨、意義　(九)晳が考へを以て　(一〇)道理に叶ひ證據に當る　(一一)古代文字、形蝌蚪に似たるよりいふ　(一二)策命の文にして陵の中へ納む

曼倩三冬　陳思七步

前漢東方朔字曼倩。平原厭次人。武帝擧二方正賢良文學材力之士一。待以二不次之位一。四方士。上書言二得失一。自衒鬻者以レ千數。朔上書

前漢の東方朔、字は曼倩、平原厭次の人なり。武帝、(一)方正賢良文學材力の士を擧げ、待つに不次(二)の位を以てす。四方の士、上書して得失(三)を言ひ、自ら衒鬻(四)する者、千を以て數ふ。朔、上書して曰く、「臣少にして父母を失ひ、長じて兄嫂に養はる。年十三にして書を學ぶ、三冬(五)にして、(六)文史用ふるに足る。十五にして擊劍を學び、十六にして詩書を學び、二十二萬言を誦す。十九にして、孫吳の兵法、戰陣の具、鉦鼓の教を學び、亦た二十二萬言を誦す。又常に(七)子路の言に

晉書。束晳字廣微。陽平元城人。漢疎廣之後。廣曾孫。避レ難徙レ居。因去ニ疎之足一。遂改レ姓焉。晳博學多聞。少遊ニ國學一。後爲ニ佐著作郎一。初太康二年。汲郡人。盜ニ發魏襄王墓一。或言安釐王冢。得ニ竹書數十車一。武帝以ニ其書一付ニ祕書一。校綴ニ次第一。尋ニ考指歸一。而以ニ今文一寫レ之。晳在ニ著作一。

晉書にいふ、束晳、字は廣微、陽平元城の人なり。漢の疎廣の後なり、廣の曾孫、難を避けて居を徙す。因つて、疎(一)の足を去り、遂に姓を改む。晳、博學多聞、少にして國學(二)に遊び、後、佐(三)著作郎となる。はじめ太康二年、汲郡の人、魏の襄王の墓を盜發す(四)。或は言ふ、安釐王の冢と。竹書(五)數十車を得たり。武帝、その書を以て祕書(六)に付し、校(七)して次第を綴り、指歸(八)を尋考して、今文を以て之を寫さしむ。晳、著作に在つて竹書を觀るを得、宜しきに(九)隨つて分釋す。皆義證(一〇)あり。尚書郎に遷る。時に人あり、嵩高山の下に於て、竹簡一枚を得たり。上の兩行は科斗(一一)の書なり。傳へて以て相示す。知るものあるなし。司空張華、以て晳に問ふ。晳曰く、「これ漢の明帝の顯節陵中の策文(一二)なり」と。檢驗するに果して然り。時人、その博識に伏す。

(一)「疎」の足扁をとり去り「束」とす　(二) 國都に在る學校　(三) 著作郎（朝廷にて天下のことを記錄する官）を佐くる官　(四) 墓を發くは棺內に收めたる寶物を盜まん爲なり　(五) 竹簡に彫り付けたる古書　(六) 祕書閣の文庫

王渡㆑江。江中有㆑物。大如㆑斗。圓而赤。直觸㆓王舟㆒。舟人取㆑之。王怪問㆓羣臣㆒。莫㆓能識㆒。使㆓使聘㆖㆑魯問㆓孔子㆒。孔子曰。此萍實也。可㆓剖食㆖㆑之。吉祥也。惟覇者爲㆓能獲㆒焉。使者反。王遂食㆑之。大美。久之使來。以告㆓魯大夫㆒。大夫因㆓子游㆒問曰。夫子何以知㆓其然㆒。曰吾昔之㆑鄭。過㆓陳之野㆒。聞㆓童謠㆒。曰。楚王渡㆑江得㆓萍實㆒。大如㆑斗赤如㆑日。剖而食㆑之。甜如㆑蜜。此楚王之應。吾是以知㆑之。

し。直に王の舟に觸る、舟人これを取る。王、怪んで羣臣に問ふも、能く識るなし。使をして魯に聘して、(二)孔子に問はしむ。孔子曰く、「これ萍實(三)なり。剖いて之を食すべし。吉祥(四)なり、惟だ覇者能く獲ることを爲す」と。使者反る。王、遂に之を食ふ。大に美なり。久しうして使來り、以て魯の大夫に告ぐ。大夫、子(五)游に因つて、問うて曰く、「夫子、何を以てその然るを知る。」曰く、「吾、むかし鄭に之き、陳の野を過ぎ、童謠を聞く。曰く、楚王江を渡つて、萍實を得ん。大いさ、斗の如く、赤きこと日の如く、剖いて之を食ふに甜きこと蜜の如くならんと。これ楚王の應(六)なり。吾これを以て之を知る」と。

(一) 一斗桝 (二) 使者を遣す (三) うきぐさの果實 (四) めでたきしるし、吉瑞 (五) 孔子の弟子、因はたより介する意 (六) 前表、前兆

母乃截レ髪得二雙髪一。以易二酒肴一。樂飲極レ歡。雖二僕從一亦過レ所レ望。侃至二太尉都督荊江等諸軍事長沙郡公一。侃每レ飲レ酒有二定限一。常歡有レ餘而限已竭。佐吏殷浩等。勸二更少進一。侃曰。年少曾有二酒失一。亡親見レ約。故不二敢踰一。侃嘗丁二母憂一。艱辛在二幕下一。二客來弔。儀服鮮異。遣レ人尋レ之。但有二雙鶴飛沖レ天而去一。

を飲む毎に定限あり。常に歡餘あつて、(六)限すでに竭く。佐吏(七)殷浩等、更に少しく進めんことを勸む。侃曰く、「年少にして嘗て酒失あり。亡親に約せらる。故に敢て踰えず」と。侃、嘗て母の憂(八)に丁り、艱辛(九)して幕下に在り。二客來り弔ふ。儀服鮮異なり。人を遣して之を尋ねしむ。但だ雙鶴の飛んで天に沖して(一〇)去るあるのみ。

(一)孝行廉直　(二)にはか　(三)賓客をもてなす用意なし　(四)二個のそへがみ、かつら　(五)思ひの外の饗應　(六)常に興に乘じて歡樂餘りあるも定量の杯つくれば決して飲まず　(七)輔佐の吏　(八)母の喪　(九)官職を辭し艱苦辛勞して。幕下は幕張りわたしたる家即喪屋　(一〇)高く天へも屆くかと見ゆる程に飛上る

語家曰。楚昭

楚昭萍實　東晳竹簡

家語に曰く、楚の昭王、江を渡る。江中に物あり。大いさ斗(一)の如く、圓にして赤

郡陳遺。少爲ニ郡吏一。母好食ニ鐺底焦飯一。遺在レ役。常帶レ嚢。毎レ煮レ食輒錄ニ其焦一以貽レ母。後孫恩亂聚得ニ數升一。常帶自隨。及ニ敗逃竄一。多有ニ餓死一。遺以レ此得レ活。母晝夜泣涕。目爲失レ明耳無レ所レ聞。遺還入レ戶。再拜號咽。母豁然朗明。

飯を食ふ。遺、役に在つて、常に嚢を帶び、食を煮る毎に輒ちその焦を錄つて、以て母に貽る。後孫恩の亂に、聚めて數升を得、常に帶びて自ら隨ふ。敗れて逃竄するに及び、多く餓死あり。遺、これを以て活くるを得たり。母、晝夜泣涕して、目爲に明を失ひ、耳聞くところなし。遺、還つて戶に入り、再拜して、號(二)咽す。母豁然として朗明なり。

(一) なべの底。焦飯は飯のこげ (二) 聲をあげて泣く

晉書。陶侃字士行。鄱陽人。徙ニ潯陽一。早孤貧。爲ニ縣吏一。孝廉范逵嘗過レ侃。時倉卒無ニ以待ニ賓客一。其

晉書にいふ、陶侃、字は士行、鄱陽の人。潯陽に徙る。早く孤にして貧なり。縣吏となる。(一)孝廉の范逵、嘗て侃を過ぎる。時に倉卒(二)、以て賓客を待つなし。(三)その母、乃ち髮を截つて、雙髲(四)を得、以て酒肴に易へ、樂飮して歡を極む。僕從と雖も、亦た望むところに過ぐ(五)。侃、大尉都督荊江等諸軍長沙郡公に至る。侃、酒

以二布數以レ少敗一レ衆也。項籍引レ兵。西至レ關不レ得レ入。又使下布等先從二間道一破中關下軍上。遂得二入至一咸陽一。布爲二前鋒一。項羽封二諸將一。立レ布爲二九江王一。歸レ漢封二淮南王一。

前漢項羽自立爲二西楚霸王一。王二梁楚地一。更立二沛公一爲二漢王一。王二巴蜀漢中一。漢王就レ國。張良辭歸レ韓。漢王送至二褒中一。因說二漢王一。燒二絕棧道一。以備二諸侯盜兵一。亦示三羽無二東意一。迺使三良還行燒二絕棧道一。

前漢の項羽、自立して西楚の霸王となり、梁楚の地に王たり。更めて沛公を立てゝ漢王となし、巴蜀漢中に王たらしむ。漢王、國に就く。張良、辭して韓に歸る。漢王、送つて褒中(一)に至る。因つて漢王に說く、「棧道を燒絕し、以て諸侯盜兵に備へ、亦た羽に東(二)する意なきを示せ」と。迺ち良をして、還るときに行ゝ棧道(三)を燒絕せしむ。

(一)地名　(二)東に出でゝ天下を爭ふ意　(三)かけはし、溪間に架せる橋

陳遺飯感　陶侃酒限

南史。宋初吳

南史にいふ、宋の初、吳郡の陳遺、少にして郡吏となる。母、好んで鐺底(一)の焦

前漢黥布。六人。姓英氏。少時客相レ之。當ニ刑而王一。及レ壯坐レ法黥。欣然笑曰。人相レ我。當ニ刑而王一。幾是乎。聞者笑レ之。布以レ論輸ニ驪山一。驪山之徒數十萬人。布與ニ其徒長豪傑一交通。乃率ニ其曹耦一亡之ニ江中一爲ニ羣盜一。衆數千人。後以レ兵屬ニ項梁一。楚兵常勝。功冠ニ諸侯一。兵皆服ニ屬楚一者。

前漢の黥布は、六の人なり。姓は英氏、少時客これを相す、「當に刑せられて王たるべし」と。壯に及びて、法に坐して黥せらる。(一)欣然として笑つて曰く、「人、我を相す。當に刑せられて王たるべしと。幾んど是れか」と。聞く者、之を笑ふ。布、以て論ぜられて(二)驪山に輸す。(三)驪山の徒數十萬人あり。布その徒長豪傑と交通す。乃ちその曹耦(四)を率ゐ、亡げて江中に之き、羣盜となる。衆數千人あり。後、兵を以て(五)項梁に屬す。(六)楚の兵、常に勝ち、功、諸侯に冠たり。兵皆楚に服屬するは、布が數〻少を以て衆を敗りしを以てなり。項籍、兵を引いて、西、關に至り、入ることを得す。又布等をして、先づ閒道より關下の軍を破らしめ、遂に入つて咸陽に至ることを得たり。布、先鋒たり。項羽、諸將を封ずるとき、布を立て、九江王となす。漢に歸して淮南王に封ぜらる。

(一) いれずみせらる　(二) 罪ありて論議裁判せらる　(三) おくられて勞役に服せしめらる　(四) ともがら、仲間　(五) 項梁、姪の項羽と義兵を起して秦を攻むる時、英布手下を率ゐて項梁に味方せり　(六) 項羽の軍

常侍。轉從事中郎。聞步兵廚。營人善釀。有貯酒三百斛。乃求爲步兵校尉。籍不拘禮教。能爲青白眼。見禮俗之士。以白眼對之。及嵆喜來弔。籍作白眼。喜不懌而退。喜弟康聞之。乃齎酒挾琴造焉。籍大悅。乃見青眼。由是禮法之士疾之若讎。籍時率意獨駕。不由徑路。車迹所窮。輒慟哭而反。

校尉と爲る。籍、(三)禮教に拘らず。能く(四)青白眼を爲し、(五)禮俗の士を見れば、白眼を以て之に對す。嵆喜、(六)來りて弔ふに及び、籍、白眼を作す。喜、懌ばずして退く。喜の弟、康之を聞き、乃ち酒を齎らし、琴を挾んで造る。籍、大に悅び、乃ち青眼を見はす。これに由つて、禮法の士、之を疾むこと讎の如し。籍、時に(七)率意獨り駕し、徑路に由らず。車迹窮まるところ、輒ち慟哭して反る。

(一)陳留は郡の名。尉氏は縣の名　(二)步兵廚營人は步兵校尉の役所の料理人　(三)禮儀の教に頓着せず　(四)黑眼と白眼　(五)世上一通りの禮儀に拘泥する窮屈なる人　(六)阮籍の母の死せる時來り弔ひしなり　(七)意のむくにまかするなり

黥布開關　張良燒棧

蜀志。馬良字季常。襄陽宜城人。兄弟五人。竝有二才名一。鄕里爲二之諺一曰。馬氏五常。白眉最良。良眉中有二白毛一。故以稱レ之。先主稱二尊號一。以レ良爲二侍中一。及二東征一レ呉。遣下良入二武陵一。招中納五溪蠻夷上。蠻夷渠帥。皆受二印號一。咸如二意指一。

馬良白眉　阮籍青眼

蜀志にいふ、馬良、字は季常、襄陽宜城の人なり。兄弟五人、竝に才名あり。鄕里これが諺を爲して曰く、『馬氏の五常(一)、白眉最も良し』と。良の眉中に白毛あり。故に以て之を稱す。先主、尊號(二)を稱し、良を以て侍中となす。東、呉を征するに及び、良を遣し、武陵に入つて、五溪の蠻夷を招納せしむ。蠻夷の渠帥、皆印號(三)を受け、咸意指(四)の如くす。

(一)兄弟五人皆常の字あり、故にいふ　(二)皇帝と稱するなり、先主は劉備なり　(三)印綬名號　(四)意のまゝになる

晉書。阮籍字嗣宗。陳留尉氏人。爲二散騎

晉書にいふ、阮籍、字は嗣宗、陳留尉氏(一)の人なり。散騎常侍となり、從事中郎に轉ず。歩兵(二)の厨に營人の善く醸し、貯酒三百斛あるを聞き、乃ち求めて歩兵の

勃以二中涓一從二攻戰一。以レ功封二絳侯一。勃爲レ人木彊敦厚。高帝以爲レ可レ屬二大事一。勃不レ好二文學一。毎レ召二諸生一說レ事。東鄕坐責レ之。趣爲レ我語。其椎魯少文如レ此。舊本薄作レ舂非。

る毎に、東鄕して坐して之を責め、「趣に我が爲に語れ」と。その椎魯少文、かくの如し。舊本に薄を舂に作るは非なり。

(一) 蠶を入れて養ふ具、萑葦を編みてつくる。材官は申嘉私謁の條を見よ　(二) 強き弓を引き得ること　(三) 宮中の掃除役　(四) 質朴にしてあつし卽ち輕薄ならず　(五) 諸學者　(六) 東向きなり、客は東向主は西向が禮法なるに、勃は之に頓着せず　(七) 椎魯は馬鹿質朴。文は禮文、禮儀のあや

前漢灌嬰。睢陽販レ繒者也。以二中涓一從二高祖一。及三項籍敗二垓下一。嬰以二御史大夫一將二車騎一。別追至二東城一破レ之。所レ將卒五人。共斬レ籍。以レ功賜二爵潁陰侯一。文帝時爲二丞相一。

前漢の灌嬰は、睢陽の繒を販るものなり。中涓を以て高祖に從ふ。項籍の垓下に敗るゝに及びて、嬰、御史大夫を以て、車騎を將ゐ、別に追つて東城に至り之を破る。將ゐる所の卒五人と共に籍を斬る。功を以て爵を潁陰侯に賜ふ。文帝の時丞相となる。

(一) 絹帛類をいふ　(二) 項羽

白之處一。人不レ信。記而試レ之無レ差。時人咸以爲レ知レ味。

列子引。孔子曰。淄澠之合。易牙知レ之。易牙齊大夫。善聞レ味。辨二淄澠二水一。但嘗而知レ之也。

列子に引く、孔子曰く、「淄澠の合する、易牙これを知る」と。易牙は齊の大夫にして、善く味を聞き、(一)淄澠(二)二水を辨ず。但だ嘗めて之を知るなり。

(一) 二川の名　(二) 識別の意

周勃織薄　灌嬰販繒

前漢周勃。其先卷人。徙レ沛。以レ織二薄曲一爲レ生。常以レ吹レ簫給二喪事一。材官引强。高祖起。

前漢の周勃、その先は卷の人なり。沛に徙り、(一)薄曲を織るを以て生となす。常に簫を吹くを以て、喪事に給す。材官(二)引强なり。高祖起るや、勃、(三)中涓を以て、從つて攻戰し、功を以て絳侯に封ぜらる。勃、人となり、(四)木彊敦厚なり。高帝以爲へらく、大事を屬すべしと。勃、文學を好まず。(五)諸生を召して事を說かしむ

晉書。苻朗字元達。略陽臨渭氏人。堅從兄子。拜青州刺史。降晉。加員外散騎侍郎。既至揚州。風流邁於一時。超然自得。善識味。鹹酢及肉。皆別所由。會稽王爲設盛饌。極江左精餚。食訖。問曰。關中之食孰若此。答曰。皆好。惟鹽味小生耳。既問宰夫。皆如其言。或人殺雞以食之。既進。朗曰。此雞棲常半露。檢之皆驗。又食鵝肉。知黑

晉書にいふ、苻朗、字は元達、略陽臨渭氏の人、堅の從兄の子なり。(一)青州刺史に拜す。晉に降つて、員外散騎侍郎を加へらる。既に揚州に至り、風流一時に邁ぎ、(二)超然自得、善く味を識り、鹹酢及び肉皆由るところを別つ。(三)會稽王、(四)爲に盛饌を設け、(五)江左の精餚を極む。(六)食し訖つて問うて曰く、「關中の食、これに孰若ぞ。」答へて曰く、「皆好し。惟だ鹽味少しく生しきのみ」と。すでにして、(七)宰夫に問ふに、皆其言の如し。或人、雞を殺し以て之を食はしむ。すでに進む。朗曰く、「この雞の(八)棲、常に半ば露はる」と。これを檢するに皆驗あり。又鵝肉を食はしむ。(九)黑白のところを知る。人信ぜず。記して之を試むるに、差なし。時人咸以て味を知るとなす。

(一) 苻賢にて前秦王なり　(二) 自慢する　(三) 何れの地より出でしかを食ひ分ける　(四) 盛なる馳走　(五) 江[illegible]地方　(六) 念入りに料理せるさかな　(七) 料理人　(八) 鳥舍、とや　(九) 黑き羽の所の肉と白き羽の所の肉

急而好ㇾ潔。故及ㇾ是。莊公卽邾子謚。旋小便。廢墮也。

ち、性急

魏志。王思濟陰人。領㆓豫州刺史㆒。思能吏。然苛碎無㆓大體㆒。官至㆓九卿㆒。封㆓列侯㆒。魏略曰。思性急。嘗執ㇾ筆作ㇾ書。蠅集㆓筆端㆒。驅去復來。如ㇾ是再三。思恚怒。自起逐ㇾ蠅。不ㇾ能ㇾ得。還取ㇾ筆擲ㇾ地。蹋㆓壞之㆒。

魏志にいふ、王思は濟陰の人なり。豫州の刺史を領す。思は能吏(一)なり。然れども、苛碎(二)にして大體(三)なし。官、九卿に至り、列侯に封ぜらる。魏略に曰く、思、性急なり。嘗て筆を執つて書を作るに、蠅、筆端に集まる。驅り去れば復た來る。是の如きこと再三。思、恚怒し、自ら起つて蠅を逐ひ、得ること能はず。還つて筆を取つて地に擲ち、蹋んで之を壞ると。

(一)能ある官吏 (二)わづかの事にまで苛酷なること (三)おほまかに大體を總括するの寛大なし

苻朗皁白　易牙淄澠

若二氷雪一。綽約若二處子一。不レ食二五穀一。吸レ風飲レ露。乘二雲氣一。御二飛龍一。而遊二乎四海之外一。

四海の外に遊ぶと。

㊀神の如き人、仙人　㊁たをやかなる貌　㊂處女

左氏傳。邾子在二門臺一。臨レ廷。閽以二缾水一沃レ廷。邾子望二見之一怒。閽曰。夷射姑旋焉。命執レ之弗レ得。滋怒。自投二于牀一。廢二于鑪炭一爛。遂卒。莊公卞

邾子投火　王思怒蠅

左氏傳にいふ、邾子、門臺(一)に在りて、廷に臨む。閽、(二)缾水(三)を以て廷に沃ぐ。(四)邾子、之を望見して怒る。閽曰く、「夷射姑、旋せり」(五)と。命じて之を執へしむれども得ず。滋す怒つて自ら牀より投じ、鑪炭(六)に廢ちて爛れ、遂に卒す。莊公、卞(七)急にして潔を好む。故に是れに及ぶ。莊は即ち邾子の諡、旋は小便、廢は墮つるなり。

㊀樓門に居るなり　㊁門番　㊂壺に入れたる用心水　㊃廷中へ撒水する　㊄邾の大夫夷射姑の小便なりと、門番は夷射姑に恨ある故かく詐りて之を罪に陷れんとはかりし也　㊅鑪の炭の盛んに起れる中　㊆せつか

人極醜無雙。臼頭深目。長指大節。昂鼻結喉。肥項少髮。折腰出胸。皮膚如漆。年四十無所容入。衒嫁不售。乃拂拭短褐。自詣宣王。願備後宮之掃除。宣王方置酒於漸臺。左右聞之。掩口大笑。王召見之。無鹽爲陳四殆。王於是立折漸臺。罷女樂。退諂諛。去彫琢。進直言。延側陋。立太子。拜無鹽爲后。而齊國大安。

拭し、自ら宣王に詣り、後宮の掃除に備はらんと願ふ。宣王、方に漸臺に置酒す。(六)左右之を聞き、口を掩うて大に笑ふ。王召して之を見る。無鹽、爲に四殆を陳ず。(七)王、こゝに於て、立どころに漸臺を折き、女樂を罷め、諂諛を退け、彫琢を去り、(八)直言を進め、側陋を延き、(九)太子を立て、無鹽を拜して后と爲す。而て齊國大に安し。

㊀容貌此の上なくみにくし ㊁高き鼻細きのど、項はうなじ ㊂いれて妻とす ㊃自ら方々に嫁入を運動す ㊄賤者の衣。潔く意を決して ㊅物見の臺 ㊆國をあやふくする事の四箇條。一に外强國に接するに内姦臣朝に在りて民歸服せず、二、宮殿華麗を極めて民疲弊す、三、賢者直臣野に隱れて佞臣不肖時を得、四、遊蕩酒色これ事とし内外の禮を治めず、これ也 ㊇みがきかざりたる器 ㊈賤人にまじれる賢人

莊子曰。藐姑射之山。有神人居焉。肌膚

莊子に曰く、藐姑射の山に神人ありて居る。(一)肌膚は氷雪の若く、綽約として(二)處子の若し。(三)五穀を食はず。風を吸ひ、露を飲み、雲氣に乘じ、飛龍に御して

史記。晉大夫趙簡子。有レ臣曰二周舍一。好二直諫一。周舍死。簡子每レ聽レ朝。常不レ悅。大夫請レ辠。簡子曰。大夫無レ辠。吾聞千羊之皮。不レ如二一狐之腋一。諸大夫朝。徒聞二唯唯一。不レ聞二周舍之鄂鄂一。是以憂也。舊本鄂作レ諤。

史記にいふ、晉の大夫趙簡子、臣あり。周舍といふ。直諫を好む。周舍死す。簡子、朝を聽く每に、常に悅ばず。大夫、辠を請ふ。(一)簡子曰く、「大夫辠なし。吾れ聞く、千羊の皮は一狐の腋に如かずと。(二)諸大夫朝するも、徒唯唯を聞くのみ。(三)周舍の鄂鄂を聞かず。(四)これを以て憂ふるなり」と。舊本に鄂を諤に作る。

(一)罪也 (二)わきのしたの皮。狐の腋は價最も高し、卽ち衆愚は一賢に及ばざるを喩ふ (三)はいはいと善惡ともに少しも逆ふことなきをいふ (四)正しく直言すること

無鹽如漆　姑射若氷

古列女傳。鍾離春者。齊無鹽邑之女。宣王正后也。爲レ

古列女傳にいふ、鍾離春は、齊の無鹽邑の女、宣王の正后なり。人となり、極醜無雙、(一)臼頭深目、長指大節、(二)昂鼻結喉、肥項少髮、折腰出胸、皮膚は漆の若く、年四十にして容入するところなし。(三)衒嫁すれども售れず。乃ち短褐を拂(五)

鈍質朴。不下爲二鄕親一所上レ重。不レ修二常人之節一。不レ爲二皎厲之事一。每欲二容レ才長レ物。終不レ顯二人之短一。年四十餘。對策升レ第。遷二尙書郞一。時欲下沙二汰郞官一。非才者罷上レ之。舒曰吾卽其人也。襆レ被而出。轉二相國參軍一。文帝深器二重之一。每二朝會罷一。目二送之一曰。魏舒堂堂。人之領袖也。及二山濤薨一。領二司徒一。陳留周震。累爲二諸府一所レ辟。辟書既下。公卿喪亡。僉號レ震爲二殺公掾一。舒命レ之竟無レ患。識者稱二其達一レ命。年老遜レ位。賜二几杖安車駟馬一。門施二行馬一。時論以爲。晉興以來。三公能辭レ榮善レ終者。未二之有一。

目送して曰く、「魏舒は堂堂、人の領袖たり」と。山濤薨ずるに及びて、司徒を領す。陳留の周震、累りに諸府に辟さる。(八)辟書すでに下れば、公(九)輒ち喪亡す。僉、震を號して、殺公の掾となす。舒、これに命ずれども、竟に患なし。識者、その命(一〇)に達するを稱す。年老いて位を遜る。几杖安車駟馬を賜ひ、門に行馬(一一)を施す。時論爲へらく、晉興つて以來、三公能く榮を辭し終を善くするもの、未だ之あらず」と。

(一) 母方の家 (二) 家を新築する也 (三) 鄕黨親族 (四) 潔白嚴正を事とせず (五) 人の才をねたまずその人の志を達するやうになさんと欲し (六) 寢具を布呂敷に包んで出づ (七) 晉の文帝、魏の相國となりし時のこと也 (八) 衆人の儀表なりと也 (九) 山濤をいふ。周震を招聘する書下り震既に來らんとしてその上官たる山濤死せし也 (一〇) 天命に通達せること (一一) こまよせ。之を設くるは高貴榮寵の家に限る

太玄法言一焉。劉歆謂曰。今學者祿利。尚不レ能レ明レ易。又如レ玄何。吾恐後人用覆ニ醬瓿一也。雄笑而不レ應。年七十一卒。侯芭爲起レ墳。

魏舒堂堂　周舍鄂鄂

晉書にいふ、魏舒、字は陽元、任城樊の人なり。少にして孤、(二)外家甯氏に養はる。甯氏、(一)宅を起す。相者云ふ、「當に貴甥を出すべし」と。外祖母盛氏の甥、少にして慧なるを以て、意、之に應ずと謂へり。舒曰く、「當に外氏の爲に、この宅相を成すべし」と。舒、姿望秀偉、酒を飲む石餘、遲鈍質朴、(三)鄕親に重んぜられず、常人の節を修めず、(四)皎厲の事を爲さず。每に才を容れ(五)物を長ぜんと欲し、終に人の短を顯はさず。年四十餘、對策して第に升り、尚書郎に遷る。時に郎官を沙汰し、非才の者は之を罷めんと欲す。舒曰く、「吾、卽ち其人なり」と。(六)被を襆して出づ。(七)相國參軍に轉ず。文帝、深く之を器重し。朝會罷む每に、これを

晉書。魏舒字陽元。任城樊人。少孤。爲ニ外家甯氏一所レ養。甯氏起レ宅。相者云。當レ出ニ貴甥一。外祖母以ニ盛氏甥小而慧一。意謂レ應レ之。舒曰。當下爲ニ外氏一成中此宅相上。舒姿望秀偉。飲レ酒石餘。遲

稱二功德一。獲二封爵一甚衆。雄復不レ侯。以二耆老久次一轉二大夫一。恬二於勢利一如レ是。及下莽誅二甄豐父子一。投中劉歆子棻四裔上。辭所二連及一。便收不レ請。時雄校二書天祿閣上一。治獄使者欲レ收レ雄。雄恐レ不レ能二自免一。迺從レ閣自投下。幾死。莽嘗從レ雄學二奇字一。棻以二雄素不一レ與レ事。有レ詔勿レ問。然京師爲二之語一曰。惟寂寞自投レ閣。爰清靜。作二符命一。蓋以二雄解嘲之言一譏レ之也。雄家貧嗜レ酒。人希レ至二其門一。時有二好事者一。載二酒肴一從遊學。而侯芭常從レ雄居。受二

からしむ。然れども、京師これが語を爲して曰く、『惟だ寂寞自ら閣より投ず。爰に靜淨符命を作る』(九)と。蓋し雄が解嘲(一〇)の言を以て之を譏るなり。雄、家貧にして酒を嗜む。人、その門に至ること希なり。時に好事者あつて、酒肴を載せて、從つて遊學す。而して侯芭、常に雄に從つて居り、太玄・法言(一一)を受く。劉歆、謂つて曰く、「今の學者祿利あるも、尙ほ易を明かにする能はず。又玄(一二)を如何。吾、恐らくは、後人用つて醬瓿(一三)を覆はんことを」と。雄笑つて應へず。年七十一にして卒す。侯芭、爲に墳を起す。

(一) 文章のみやびやかなること (二) 書記也 (三) 三帝の名 (四) 天より人君に豫言するめでたき命示 (五) 老人の久しく位にあること (六) 慾なきさま (七) 四境の外なる邊地 (八) 收捕也 (九) 王莽が王位をうばひしを稱美せる文を作れるをいふ (一〇) 揚雄が文の篇名 (一一) 二者とも雄の著書名 (一二) 玄妙の理 (一三) 醬油がめのふたとすること、著書の時勢に合はずして無價値扱さるゝ意

以レ私害レ公。遂往。聞二戰鬬之聲一。恐駭而死。人曰。不占可レ謂二仁者之勇一也。

前漢揚雄字子雲。年四十餘。自レ蜀來遊二京師一。大司馬王音奇二其文雅一。召爲二門下史一。與二王莽劉歆一並。哀帝之初。又與二董賢一同レ官。當二成哀平閒一。莽賢皆爲二三公一。權傾二人主一。所レ薦莫レ不二拔擢一。而雄三世不レ徙レ官。莽簒レ位。談說之士。用二符命一

前漢の揚雄、字は子雲、年四十餘、蜀より來つて京師に遊ぶ。大司馬王音、その（一）文雅を奇とし、召して門下の史（二）となす。王莽・劉歆と竝ぶ。哀帝の初、又董賢と官を同じうす。（三）成哀平の閒に當つて、莽賢、皆三公となる。權、人主を傾け、薦むるところ、拔擢されざるはなし。而して、雄は三世官を徙さず。莽、位を簒ふ。談說の士、（四）符命を用ひ、功德を稱し、封爵を獲るもの、甚だ衆し。雄、復た侯たらず。（五）耆老の久次を以て、大夫に轉ず。勢利に（六）恬たることかくの如し。莽が甄豐父子を誅し、劉歆の子棻を四裔に投ずるに及び、辭の連及するところ、便ち收（八）めて、請はず。時に、雄、書を（七）天祿閣上に校す。治獄の使者、雄を收めんと欲す。雄、自ら免るる能はざるを恐れ、迺ち閣より自ら投下し、幾んど死す。棻、嘗て雄に從つて奇字を學ぶ。莽、雄が素より事に與らざるを以て詔あり、問ふな

深愛二其才一。衡始冠。而融四十。遂與爲二交友一。上書薦レ之。有レ云。鷙鳥累レ百。不レ如二一鶚一。融數稱二述於曹操一。操以二其言悖逆一。送與二劉表一。表不レ能レ容。送與二江夏太守黃祖一。祖性急。衡言不レ遜。遂殺レ之。年二十六。

人は平凡にして數ふるに足らず　(八)鷙鳥は鷹の類、鶚は大鷲。小才を多く集むるよりも一人の才を用ふるに如かずと也

不占殞車　子雲投閣

新序曰。齊崔杼弑二莊公一。有二陳不占者一。聞二君難一將レ赴レ之。比レ去。餐則失レ匕。上レ車失レ式。御者曰。怯如レ是。去有レ益乎。曰死レ君義也。無レ勇私也。不二

新序に曰く、(一)齊の崔杼、莊公を殺す。陳不占といふ者あり。君の難を聞いて、將に之れに赴かんとす。(二)去るに比んで、(三)餐すれば匕を失ひ、車に上れば(四)式を失ふ。御者曰く、「怯なること是の如し。去るも益あらんや。」曰く、「君に死するは義なり。勇なきは私なり。私を以て公を害せず」と。遂に往く。戰鬪の聲を聞き、(五)恐駭して死す。人曰く、「不占は仁者の勇といふべきなり」と。

(一)春秋の齊國也　(二)馳せつけんとするころはひ　(三)飯を食へば　(四)軾なり、車のよこぎ　(五)おどろき車から落ちて

所之。至於刺字漫滅。時許都新建。賢士大夫。四方來集。或問衡曰。盍從陳長文。司馬伯達乎。對曰。吾安能從屠沽兒邪。又問。荀文若趙稚長云何。衡曰。文若可借面弔喪。稚長可使監厨請客。唯善孔融楊脩。常稱曰大兒孔文擧。小兒楊德祖。餘子碌碌莫足數。融亦

や。」對へて曰く「吾、安んぞ能く屠沽兒(四)に從はんや」と。又問ふ、「荀文若・趙稚長は云何。」衡曰く、「文若は、(五)面を借りて喪を弔ふべく、稚長は、厨(六)を監して客を請せしむべし」と。唯だ孔融・楊脩に善し。常に稱して曰く、「(七)大兒は孔文擧、小兒は楊德祖、餘子碌碌數ふるに足るなし」と。融、亦た深く其の才を愛す。衡は始めて冠し、而して融は四十にして、遂に與に交友たり。上書して之を薦む。云へるあり、「(八)鷙鳥の百を累ぬるも、一鶚に如かず」と。融、數〻曹操に稱述す。操、その言の悖逆なるを以て、送つて劉表に與ふ。表も容るゝ能はず。送つて、江夏の太守黃祖に與ふ。祖は性急、衡の言不遜なれば、遂に之を殺す。年二十六。

(一) 時俗をそしり、之に反したる行を爲す　(二) 刺は名刺なり　(三) 名刺の文字がすり消える　(四) 肉を賣る賤業者、えた。陳長文等を卑めていふ也　(五) 容貌立派なれば、(一説には感容ある故に)彼の顔を借りて喪を弔するによろしからん　(六) 腹大にして健啖なれば臺所を監督させ、客の接伴を爲さしむるによろし。監厨は餘肉を食ふべく、請客は伴食して客に侑むる也　(七) 孔文擧（孔融）楊德祖（楊脩）の才も我より見れば大小の子供のみ、其他の人

春秋論語。太尉杜喬見而稱之曰。可爲人師。爽耽思經書。慶弔不行。徵命不應。潁川爲之語曰。荀氏八龍。慈明無雙。獻帝卽位。董卓輔政。徵之。爽欲遁不得。就拜平原相。行至宛陵。追爲光祿勳。視事三日。拜司空。自被命及登台司。九十五日。因從遷都長安。爽見卓忍暴必危社稷。辟擧才略之士。將共圖之。會病薨。

司空に拜す。命を被つてより、台司に登るに及ぶまで、九十五日なり。因つて、都を長安に遷すに從ふ。爽、卓(五)が忍暴必ず社稷を危くするを見て、才略の士を辟擧(六)し、將に共に之を圖らんとす。病に會うて薨ず。

(一) 天子の御問に對へ　(二) 吉凶の禮　(三) 召しかゝへんとするなり　(四) 荀氏の八子中爽最もすぐれ世にならびなきものぞと　(五) 三公なり、司空は卽ち其一なり

後漢禰衡字正平。平原般人。少有才辯。尙氣剛傲。好矯時慢物。遊潁川。乃陰懷一刺。旣而無

後漢の禰衡、字は正平、平原般の人なり。少にして才辯あり。氣を尙んで剛傲、好んで(一)時を矯め、物を慢る。潁川に遊ぶや、乃ち陰に(二)一刺を懷にす。すでにして、之くところなし。(三)刺字漫滅するに至る。時に許都新に建ち、賢士大夫、四方より來り集まる。或ひと衡に問うて曰く、「盍んぞ陳長文・司馬伯達に從はざる

事。平用二其計一。乃以二奴婢百人。車馬五十乘。錢五百萬一遺レ賈。爲二飲食費一。賈以レ此遊二漢廷公卿間一。名聲藉甚。及下誅二呂氏一立中孝文上。賈頗有レ力。以レ壽終。

後漢荀爽字慈明。潁川潁陰人。父淑字季和。擧二賢良方正一對策。補二朗陵侯相一。莅レ事明理。稱爲二神君一。有二子八人一。儉緄靖燾汪爽肅尃竝有二名稱一。時人謂二八龍一。爽幼好レ學。十二通二

慈明八龍　禰衡一鶚

後漢の荀爽、字は慈明、潁川潁陰の人なり。父淑、字は季和、賢良方正に擧げられて對策(二)し、朗陵侯の相に補せらる。事に莅んで明理、稱して神君となす。子八人あり。儉・緄・靖・燾・汪・爽・肅・尃、竝に名稱あり。時人これを八龍といふ。爽、幼にして學を好み、十二にして春秋論語に通ず。大尉杜喬、見て之れを稱して曰く、「人の師たるべし」と。爽、思を經書に耽らし、慶弔(一)行かず、徵命(二)應ぜず。潁川、これが語を爲して曰く、(四)『荀氏の八龍、慈明無雙』と。獻帝卽位し、董卓政を輔くるや、これを徵す。爽、遁れんと欲すれども得ず。就いて、平原の相に拜す。行いて宛陵に至るや、追うて、光祿勳となす。事を視ること三日、

起謝レ賈。留與
飮數月。賜二賈
橐中裝直千
金一。佗送亦千
金。賈令三佗稱レ
臣奉二漢約一。歸
報。高帝大說。
拜二太中大夫一。
孝惠時病免。
以二好時田地
善一往家焉。有二
五男一。乃出二橐
中裝一賣二千金一。
分二其子一。子二
百金。令レ爲二生
產一。賈常乘二安
車駟馬一。從二歌
鼓レ琴侍者十
人。寶劍直百
金一。謂二其子一曰。與レ女約。過レ女。女給二人馬酒食一。極レ欲十日而更。所レ死家得二寶劍一。後爲二陳平一畫二數

て、往いて家す。五男あり。乃ち橐中の裝を出し、千金に賣り、其子に分つ。子ごとに二百金、生產を爲さしむ。賈、常に安車駟馬（六）に乘じ、歌つて琴を鼓する侍者十人、寶劍直百金なるを從ふ。その子に謂つて曰く、「女と約す。女を過ぎ（七）らば、女、人馬の酒食を給せよ。欲（八）を極むること十日にして更へん。死するところの家、寶劍を得ん」と。後、陳平（九）の爲に數事を畫す。平、その計を用ひ、乃（一〇）ち奴婢百人、車馬五十乘、錢五百萬を以て、賈に遺り、飮食の費となす。賈、これを以て漢廷公卿の間に遊び、名聲藉甚たり。呂氏を誅し孝文を立つるに及び、賈、頗る力あり。壽を以て終る。

（一）南越の尉官趙佗　（二）魋結は亂れたる髮を椎（ツチ）の形に結べるもの。箕踞は足を箕形になげ出して坐するなり　（三）ふくろの中に珠を入れたるもの　（四）佗也　（五）縣の名　（六）前に註す　（七）立ち寄らば　（八）思ひのまゝに遊ぶこと十日にして、更に他の子の許にゆかんとなり　（九）孝惠帝崩後高祖の系統廢せられんとす、丞相陳平之を憂ふ、賈即ち默視するに忍びず陳平の爲に萬一の策數ケ條を畫せり　（一〇）その功にむくゆる爲め

黄金二十斤一。太子贈二五十斤一。公卿大夫故人邑子。設二祖道一。供二張東都門外一。送者車數百兩。既歸二鄉里一。日具二酒食一。請二族人故舊賓客一。相與娛樂。輒賣レ金以供レ具。或勸レ買二田宅一。廣曰。吾顧自有二舊田廬一。令三子孫勤二力其中一。足三以供二衣食一。此金聖主所三以惠二養老臣一也。故樂下與二鄉黨宗族一共饗二其賜一以盡中吾餘日上。族人悅服。皆以レ壽終。

終る。

(一)闕見、天子太子にまみゆる也 (二)疏廣疏受は叔父甥なれど猶父子の間の如かりし故也 (三)旅立つ人を送るためのはなむけの宴會 (四)幕を張り酒宴す (五)輌也 (六)用意し、準備し (七)祖先傳來の田地家宅 (八)天子太子より御下賜の趣旨をうけ。

前漢陸賈楚人。有二口辯一。時中國初定。尉佗平二南越一。因王レ之。高祖使下賈賜二佗印一爲中南越王上。賈至。尉佗魋結箕踞見レ賈。賈因說レ佗。佗蹶然

前漢の陸賈は楚人なり。口辯あり。時に中國はじめて定まる。(一)尉佗、南越を平げ、因つて之に王たり。高祖、賈をして佗に印を賜ひ、南越王と爲さしむ。賈至る。尉佗、(二)魋結箕踞して、賈を見る。賈、因つて佗に說く。佗、蹶然として起つて賈に謝し、留めて與に飲むこと數月。賈に(三)橐中の裝直千金なるを賜ふ。(四)宅の送りものも、亦た千金。賈、佗をして臣と稱して漢の約を奉ぜしめ、歸り報ず。高帝、大に說び、太中大夫に拜す。孝惠の時、病んで免ず。(五)好時の田地善きを以

前漢疏廣字仲翁。東海蘭陵人。兄子受字公子。宣帝時。廣爲二太子太傅一。受爲二少傅一。太子每レ朝因進見。太傅在レ前。少傅在レ後。父子竝爲二師傅一。朝廷以爲レ榮。後廣謂レ受曰。吾聞知レ足不レ辱。知レ止不レ殆。功遂身退。天之道也。豈如下歸二老故鄕一。以二壽命一終上。父子遂乞二骸骨一。許レ之。上賜二

前漢の疏廣、字は仲翁、東海蘭陵の人なり。兄の子受、字は公子。宣帝の時、廣、太子の太傅となり、受、少傅と爲る。太子朝する每に、因つて進見し、(一)太傅前に在り、少傅後に在り。(二)父子竝に師傅たり。朝廷以て榮となす。後、廣、受に謂つて曰く、「吾れ聞く、足るを知れば辱められず。止まるを知れば殆からず、功遂げ身退くは、天の道なりと。豈に故鄕に歸老し、壽命を以て終るに如かんや」と。父子遂に骸骨を乞ふ。之を許す。上、黃金二十斤を賜ひ、太子、五十斤を贈る。公卿大夫、故人邑子、(三)祖道を設けて、東都門外に(四)供張す。送者の車、數百兩あり。既に鄕里に歸り、日に酒食を(六)具して、族人故舊賓客を請ひ、相與に娛(五)樂す。輒ち金を賣つて、以て具に供す。或ひと田宅を買はんことを勸む。廣曰く、「吾顧ふに、自ら舊田廬あり。(七)子孫をして其中に勤力せしめば、以て衣食に供するに足れり。此金は、聖主の老臣を惠養する所以なり。故に鄕黨宗族と共に其(八)賜を饗して、以て吾が餘日を盡すことを樂む」と。族人悅服す。皆壽を以て

楚王彪。嘉平三年凌詐言。吳人塞涂水。請發兵以討之。司馬宣王知其計不聽。自帥中軍汎舟到甘城。凌計無所出。乃迎于武丘。面縛水次。曰。凌若有罪。公當折簡召凌。何苦自來邪。宣王曰。以君非折簡之客故耳。卽以凌歸于京師。道經賈逵廟。凌呼曰。賈梁道。王凌是大魏忠臣。唯爾有神知之。至項仰鴆而死。六月宣王疾。夢凌逵爲祟。遂薨。

づるところなく、乃ち武丘に迎へ、水次に面縛して曰く、「凌、もし罪あらば、公當に折簡にて凌を召すべし。何ぞ苦に自ら來るや。」宣王曰く、「君が折簡の客に非ざるを以ての故のみ」と。卽ち凌を以て京師に歸る。道、賈逵の廟を經るや、凌、呼んで曰く、「賈梁道・王凌は是れ大魏の忠臣なり。唯だ爾、神あらば之を知らん」と。項に至り、鴆を仰いで死す。六月、宣王疾む。凌逵祟を爲すと夢み、遂に薨ず。

(一) 節と鉞とをかりて天子の代理をなす　(二) 司馬懿也　(三) 水邊　(四) 自ら己が手をしばりて出づるなり　(五) 竹札半分なり、一通の手紙といふ程の意　(六) 君は一本位の手紙で來る人に非ざればと也　(七) 連れ　(八) 地名　(九) 鴆といふ鳥を材料とせる毒藥

二疏散金　陸賈分橐

將閭曰。公子不臣。罪當死。吏致法焉。將閭曰。闕廷之禮。吾未嘗敢不從賓贊也。廊廟之位。吾未嘗敢失節也。受命應對。吾未嘗敢失辭也。何謂不臣。願聞罪而死。使者曰。臣不得與謀。奉書從事。將閭仰天大呼天者三。曰天乎。吾無罪。昆弟三人。皆流涕。拔劍自殺。

に、吾未だ嘗て辭を失はざるなり。何ぞ不臣といふ。願はくは、罪を聞いて死せん。」使者曰く、「臣、謀に與るを得ず。書を奉じて事に從ふのみ」と。將閭、天を仰いで大に天を呼ぶこと三たび。曰く、「天か、吾、罪なし」と。昆弟三人、皆涕を流し、劍を拔いて自殺す。

㈠ 兄弟　㈡ 宮中、宮內　㈢ 朝廷　㈣ 君の贊助者となりて客に應接すること

魏志。王凌字彥雲。太原祁人。爲征東將軍都督揚州諸軍事。累遷大尉。假節鉞。謀廢齊王立

魏志にいふ、王凌、字は彥雲、大原祁の人なり。征東將軍都督揚州諸軍事たり。大尉に累遷し、節鉞を假つて齊王を廢し、楚王彪を立てんことを謀る。嘉平三年、凌、詐つて言ふ、「吳人涂水を塞ぐ。請ふ兵を發し、以て之を討たん」と。司馬宣王、その計を知つて聽かず。自ら中軍を帥ゐ、舟を汎べて甘城に到る。凌、計出

所レ出。或以爲蜀與レ吳本爲ニ和國一。宜レ可レ奔レ吳。或以爲南中七郡。阻險斗絕。易ニ以自守一宜レ可レ奔レ南。唯周以レ爲自レ古無下寄ニ他國一爲ニ天子一者上。乃上疏諫。遂從ニ周策一。劉氏無レ虞一邦蒙レ賴。周之謀也。時晉文王爲ニ魏相國一。以ニ周有ニ全レ國之功一。封ニ陽城亭侯一。晉室踐祚。除ニ散騎常侍一。不レ拜。

の功あるを以て、陽城亭侯に封ず。晉室(八)踐祚して、散騎常侍に除す。拜せず。

(一)古聖人の道に　(二)生活計　(三)書經と禮記　(四)九卿の位　(五)蜀南　(六)遂に他方と隔絕す　(七)劉氏は蜀の天子の姓、虞はうれひ、賴は幸なり。即ち王室に憂なく民生に安んじたるは周の謀のお蔭なりとなり　(八)晉武帝

將閭仰天　王凌呼廟

史記。秦公子將閭昆弟三人。二世胡亥。信ニ趙高之謀一。囚ニ於內宮一。議ニ其罪一。使ニ使令ニ

史記にいふ、秦の公子將閭、昆弟(一)三人あり。二世胡亥、趙高の謀を信じて、內宮(二)に囚へ、その罪を議し、使をして將閭に令せしめて曰く、「公子不臣、罪、死に當る。吏、法を致す。」將閭曰く、「闕廷(三)の禮、吾未だ嘗て敢て賓贊(四)に從はずんばあらざるなり。廊廟の位、吾未だ嘗て敢て節を失はず。命を受けて應對する

與。人有從學者。遇不肯教。云。必當先讀百遍。言讀書百遍而義自見。從學者云。苦渴無日。遇言。當以三餘。冬者歲之餘。夜者日之餘。陰雨者時之餘。

て別異を作る　(五)從學せんと欲するの情切なれども、時間なしとなり

蜀志。譙周字允南。巴西充國人。耽古篤學。家貧未嘗問產業。誦讀典籍。欣然獨笑。以忘寢食。研精六經。尤善書禮。頗曉天文。遷光祿大夫。位亞九列。及魏大將軍鄧艾入陰平。後主使羣臣會議。計無

蜀志にいふ、譙周、字は允南、巴西充國の人なり。古に耽り、學に篤し。家貧なれども、未だ嘗て產業を問はず。典籍を誦讀し、欣然として獨り笑ひ、以て寢食を忘る。六經を研精し、尤も書禮に善し。頗る天文に曉し。光祿大夫に遷り、位九列に亞ぐ。魏の大將軍鄧艾、陰平に入るに及び、後主、羣臣をして會議せしむ。計出づるところなし。或は以爲へらく、蜀と吳と本と和國なり。宜しく吳に奔るべしと。或は以爲へらく、南中の七郡、阻險斗絕す。以て自ら守り易し。宜しく南に奔るべしと。唯だ周のみ以爲へらく、古より、他國に寄りて天子たる者なしと。乃ち上疏して諫む。遂に周の策に從ふ。劉氏虞なく、一邦賴を蒙るは、周の謀なり。時に晉の文王、魏の相國たり。周が國を全うせる

迫ㇾ乎。帝歎息
而去。復引入
論ニ道舊故一。相對累日。因共偃臥。光以ㇾ足加ニ帝腹上一。明日太史奏。客星犯ニ帝坐一甚急。帝笑曰。
朕故人子陵共臥耳。除ニ諫議大夫一。不ㇾ屈。乃耕ニ於富春山一。後人名ニ其釣處一。爲ニ嚴陵瀨一焉

氣を付けめされ」と補ひ見よ　(一四) 釣を垂れし所を

魏略。董遇字季直。性質訥好ㇾ學。與ニ兄季中一采ㇾ稆負販。常挾ニ持經書一。投ㇾ閑習讀。明帝時。官至ニ大司農一。初遇作ニ老子訓注一。又善ニ左氏傳一。更爲作ニ朱墨別

董遇三餘　譙周獨笑

魏略にいふ、董遇、字は季直、性質訥にして(一)學を好む。兄季中と稆を采り負(二)販す。常に經書を挾持し、(三)閑に投じて習讀す。明帝の時、官、大司農に至る。初め、遇、老子訓注を作り、又左氏傳を善くし、更に爲に(四)朱墨別異を作る。人從學する者あるも、遇、敎ふるを肯んぜずして云ふ、「必ず當に先づ讀むこと百遍なるべし、言ふ、讀書百遍にして、義自ら見ゆ」と。從ひ學ぶ者云ふ、「(五)日なきを苦渇す。」遇言ふ、「當に三餘を以てすべし。冬は歲の餘、夜は日の餘、陰雨は時の餘」と。

(一) 朴訥、かざり氣なし　(二) 行商す　(三) ひまさへあれば　(四) 左氏傳中の勸善懲惡の辭を見わけて朱と墨とに

名姓。隱レ身不レ見。帝思二其賢一。乃令下以二物色一訪上レ之。後齊國上言。有二一男子一。披二羊裘一釣二澤中一。帝疑二其光一。乃備二安車玄纁一聘レ之。三反而後至。舍二於北軍一。給二牀褥一。太官進レ膳。車駕幸二其館一。光臥不レ起。帝卽二臥所一。撫二光腹一。良久乃張レ目熟視曰。昔唐堯著レ德。巢父洗レ耳。士故有レ志。何至二相

る」と。帝、その光なるを疑ひ、乃ち安車玄纁(四)を備へて之を聘し、三反して後に至る。北軍に舍し、牀褥を給し、大官膳を進め、車駕その館に幸す(五)。光臥して起きず。帝、臥所に卽き、光の腹を撫す。良や久しくして、乃ち目を張り、熟視して曰く、「むかし、唐堯德を著し、巢父(六)耳を洗ふ。士故(七)と志あり。何ぞ相迫るに至るや」と。帝(八)、歎息して去る。復た(九)引いて入れ、舊故を論道(一〇)し相對すること累日、因つて共に偃臥す(一一)。光、足を以て帝の腹上に加ふ。明日、太史奏す、「客(一二)星、帝坐を犯すこと甚だ急なり(一三)」と。帝笑つて曰く、「朕、故人子陵と共に臥すのみ」と。諫議大夫に除すれども屈せず。乃ち富春山に耕す。後人、その釣處(一四)を名けて嚴陵瀨となす。

(一)人相書　(二)嚴光を也　(三)羊のかはごろも　(四)安車は安坐して乘るべき車。玄纁は黑色と淺あかねとの絹　(五)聘使往復すること　(六)堯位を隱士巢父に讓らんとするや、巢父之を聞くをけがらはしとなし、川に至て耳を洗ひ、山に隱る　(七)隱士別に志ありて世塵に心を寄せぬものなるに　(八)迚も光を我心に從はすことは不可能也と　(九)其後　(一〇)論議し　(一一)寢ころび、ねそべる　(一二)「昨夜」と補ひ見よ　(一三)「災悪の前兆ならん御

委二功曹岑晊一。二郡又爲レ謠曰。汝南太守范孟博。南陽宗資主二畫諾一。南陽太守岑公孝。弘農成瑨但坐嘯。凡黨事始レ自二甘陵周福汝南宗資一。成二於李膺張儉一。海內塗炭二十餘年。諸所二蔓衍一。皆天下善士。伯武仲進皆字也。舊本宗誤作レ宋。

莊子曰。堯治二天下一。伯成子高。立爲二諸侯一。堯授レ舜。舜授レ禹。伯成子高。辭レ爲二諸侯一耕。

後漢嚴光字子陵。會稽餘姚人。少與二光武一同遊學。光武卽レ位。乃變二

伯成辭耕　嚴陵去釣

莊子に曰く、堯、天下を治め、伯成子高、立つて諸侯となる。堯、舜に授け、舜、禹に授く。伯成子高、(一)諸侯たることを辭して耕す。

●「世運の次第に末季に赴くを嘆き」と補ひ見よ

後漢の嚴光、字は子陵、會稽餘姚の人なり。少にして光武と同じく遊學す。光武位に即くや、乃ち名姓を變じ、身を隱して見えず。帝その賢を思ひ、乃ち物(一)色を以て(二)之を訪はしむ。後、齊國上言す。「一男子あり。(三)羊裘を披いて澤中に釣

後漢桓帝。受二學於甘陵周福一。及レ卽レ位。擢爲二尚書一。時同郡河南房植。有レ名二當朝一。鄕人爲二之謠一曰。天下規矩。房伯武。因レ師獲レ印。周仲進。二家賓客互相譏揣。各樹二朋徒一。漸成二尤隙一。由レ是甘陵有二南北部一。黨人之議。自レ此始矣。後汝南太守宗資。任二功曹范滂一。南陽太守成瑨。亦

後漢の桓帝、學を甘陵の周福に受く。位に卽くに及んで、擢んでゝ尚書となす。時に同郡河南の房植、當朝(一)に名あり。鄕人これが謠を爲つて曰く、『天下の規矩(二)は房伯武、師に因つて印を獲るは周仲進(三)』と。二家の賓客、互に相譏揣(四)し、各朋徒を樹て、漸く尤隙(五)を成す。これに由つて、甘陵に南北部あり。黨人の議、これより始まる。後に汝南の太守宗資、功曹の范滂に任じ、南陽の太守成瑨も、亦た功曹の岑晊に委す。二郡、又謠を爲つて曰く、『汝南の太守は范孟博、南陽の宗資は畫諾(六)を主る。南陽の太守は岑公孝、弘農の成瑨は但だ坐嘯(七)す』と。凡そ黨事、甘陵の周福、汝南の宗資より始まり、李膺・張儉に成り、海内塗炭(八)二十餘年。諸〻の蔓衍(九)するところ、皆天下の善士なり。伯武・仲進は皆字なり。舊本に宗を誤つて宋に作る。

(一)當時の朝廷 (二)方圓、轉じて手本たるべき人 (三)天子の師たるの故のみにて尚書の印綬を得たる周仲進とも也 (四)そしる (五)互に怨みてすきを生ずること (六)文書をしるし、印を押し承諾すると (七)すわつてうそぶくなり (八)氷火の苦になやむなり (九)はびこる

自遺二其姑一。如レ是者久之。姑怪問二鄰母一。鄰母具對。姑感慙呼還。恩養愈謹。其子後因二遠汲一溺死。妻恐二姑哀傷一不二敢言一。而託以二行學不一レ在。姑嗜二魚膾一。又不レ能二獨食一。夫婦常力作供レ膾。呼二鄰母一共レ之。舍側忽有二涌泉一。味如二江水一。每旦輒出二雙鯉魚一。常以供二二母之膳一。赤眉散賊經二詩里一。弛レ兵而過。曰。驚二大孝一必觸二鬼神一。時歲荒。賊乃遺二詩米肉一。受而埋レ之。比落蒙二其安全一。永平初。擧二孝廉一。拜二郎中一。除二江陽令一。

膾を嗜む。又獨り食する能はず。夫婦、常に力作して膾を供し、隣母を呼んで之を共にす。舍側忽ち涌泉あり。味、江水の如く、毎旦輒ち雙鯉魚を出す。常に以て(五)二母の膳に供す。(六)赤眉の散賊、詩の里を經、兵を弛めて過ぐ。曰く、「大孝を驚かさば、必ず鬼神に觸れん」と。時に(七)歲荒なり。賊乃ち詩に米肉を遺る。受けて之を埋む。(八)比落その安全を蒙る。永平の初、孝廉に擧げられ、郎中に拜し、江陽の令に除せらる。

㊀ 奉養をつくし孝順なること　㊁ 遠に去る也　㊂ 御馳走、珍味　㊃ 魚のなます　㊄ 母と鄰母　㊅ 赤眉とは前漢王莽の末に起りし賊名。散賊とは各地に散亂して荒しまはる賊　㊆ 凶年、飢饉　㊇ 近村

宗資主諾　成瑨坐嘯

忿恨。伺二彦暫行一。取二蠐螬一炙飴レ之。母食以爲レ美。然疑二其異物一。密藏以示レ彦。彦見レ之。抱レ母慟哭。絕而復蘇。母目豁然卽開。仕レ吳中書侍郎。吳平爲二小中正一。

して、卽ち開く。吳に仕へて中書侍郎たり、吳平いで小中正たり。

(一) 官に任用するために召し出すこと (二) むちうつ (三) すくもむし也、この虫の汁は眼の障害を除くによしと傳へらる。孝心の德が偶然にも下女の惡戲をしてかゝる結果に到らしめし也 (四) 打開くるさま

後漢姜詩廣漢人。事レ母至孝。妻龐奉順尤篤。母好飮二江水一。水去レ舍六七里。妻常泝レ流而汲。後値レ風不二時得一レ還。母渴。詩責而遣レ之。妻寄二止隣舍一。晝夜紡績。市二珍羞一。使三鄰母以レ意

後漢の姜詩は廣漢の人なり。母に事へて至孝なり。妻龐、(一)奉順尤も篤し。母好んで江水を飮む。水、舍を去ること六七里。妻、常に流に泝つて汲む。後、風に値うて、時に還るを得ず。母渴す。詩、責めて之を遣る。(二)妻、隣舍に寄止して、晝夜紡績し、(三)珍羞を市ひ、隣母をして、意を以て、自ら其姑に遺らしむ。此の如くすること久し。姑、怪んで隣母に問ふ。隣母具に對ふ。姑、感歎して呼び還す。恩養愈〻謹む。その子、後、遠く汲むに因つて溺死す。妻、姑の哀傷せんことを恐れて、敢て言はず。而して託するに行學して在らざるを以てす。姑、(四)魚

長嘯曰。猶不レ陵ニ我嘯歌ー。後爲ニ王敦長史ー。嘗使至レ都。明帝在ニ東宮ー見レ之甚相親重。問曰。論者以レ君方ニ庾亮ー。自謂ニ何如ー。答曰。端ニ委廟堂ー。使ニ百寮準則ー。鯤不レ如レ亮。一丘一壑自謂過レ之。終ニ豫章太守ー。

(一) 道理に通じ行簡易なり (二) 言識の高尚なるをいふ (三) 氣儘に任せて物事を意とせず、下僕が公儀の葛を盗みしに掛り合ひて官吏籍から除名せられしも、清歌鼓琴以て念頭にかけざりしと也 (四) おごれる顔つきにて空うそぶくなり (五) 前に出づ (六) 端は玄端の服、委は委貌の冠、即ち禮装するなり (七) のつとりならふ (八) 名利を遁れて山川に心を寄することは (九) 庾亮

晉書。盛彥字翁子。廣陵人。母因レ疾失レ明。彥不レ應ニ辟召ー。躬自侍養。母食必自哺レ之。母疾久。婢使數見ニ捶撻ー。婢

盛彥感蠐　姜詩躍鯉

晉書にいふ、盛彥、字は翁子、廣陵の人なり。母、疾に因つて明を失ふ。彥、(一)辟召に應ぜず。躬自ら侍養し、母食すれば必ず自ら之を哺す。母疾久しく、婢使(二)數〻捶撻せらる。婢忿恨し、彥が暫く行くを伺ひ、(三)蠐螬を取つて、炙つて之を餉す。母食して以て美となす。然れども、其異物なるを疑ひ、密に藏して以て彥に示す。彥、これを見、母を抱いて慟哭し、絶えて復た蘇る。母の目(四)豁然と

有下過二於 畫ㇾ眉 者上。上 愛二其 能一。弗二備 責一也。後 爲二冀 州 刺 史一。盜 賊 禁 止。守二太 原一。太 原 郡 清。

晉書。謝鯤字幼輿。陳國陽夏人。少知ㇾ名。通簡有二高識一。不ㇾ修二威儀一。東海王越辟爲ㇾ掾。任達不ㇾ拘坐除ㇾ名。鯤清歌鼓ㇾ琴。不二以屑ㇾ意。鄰家高氏女有二美色一。鯤嘗挑ㇾ之。女投ㇾ梭折二其兩齒一。時人爲二之語一曰。任達不ㇾ已。幼輿折ㇾ齒。鯤聞ㇾ之。傲然

晉書にいふ、謝鯤、字は幼輿、陳國陽夏の人なり。少にして名を知らる。(一)通簡にして高識(二)あり。威儀を修めず。東海王越、辟して掾となす。任達(三)拘らず。坐して名を除かる。鯤、清歌琴を鼓し、以て意に屑しとせず。隣家の高氏の女、美色あり。鯤、嘗て之を挑む。女、梭を投じ、その兩齒を折る。時人これが語を爲して曰く、『任達已まず。幼輿齒を折る』と。鯤之を聞き、傲然(四)長嘯して曰く、「猶ほ我が嘯歌を廢せず」と。後、王敦の長史となる。嘗て使して都に至る。明帝、東宮に在つて、之を見、甚だ相親重す。問うて曰く、「論者、君を以て庾(五)亮に方ぶ。自ら謂ふに如何。」答へて曰く、「廟堂に端委(六)し、百寮をして準則(七)せしむるは、鯤、亮に如かず。一丘一壑(八)は、自ら謂へらく、之に過ぎたり(九)」と。豫章の太守に終る。

子高。平陽人。從杜陵。爲京兆尹。長安市偸盜尤多。敞視事。窮治所犯。盡行法罰。枹鼓稀鳴市無偸盜。敞本治春秋。以經術自輔。其政頗雜儒雅。表賢顯善。不醇用誅罰。以此能自全。然無威儀。罷朝會。走馬章臺街。使御史驅。自以便面拊馬。又爲婦畫眉。長安中。傳張京兆眉憮。有司以奏。宣帝問之。對曰。臣聞閨房之內。夫婦之私。

安の市、偸盜(一)尤も多し。敞、事を視て、犯すところを窮治し(二)、盡く法罰を行ふ。枹鼓(三)鳴ること稀に、市に偸盜なし。敞、本と春秋を治め(四)、經術を以て自ら輔く。その政、頗る儒雅(五)を雜へ、賢を表し、善を顯し、醇ら(六)誅罰を用ひず。これを以て能く自ら全うす。然れども威儀なし。朝會より罷れば(七)、馬を章臺(八)の街に走らせ、御史をして驅らしめ、自ら便面(九)を以て馬を拊つ。又婦の爲に眉を畫く。長安中、張京兆の眉憮(一〇)を傳ふ。有司以て奏す。宣帝これを問ふ、對へて曰く、「臣聞く、閨房の內、夫婦の私(一一)は、眉を畫くに過ぐる者あり」と。上、その能を愛して、備に責めず。後、冀州の刺史となる。盜賊禁止す。太原に守たり。郡淸し。

(一) ぬすびと　(二) 其質をさぐり窮め治めて　(三) 枹は鼓のむち、枹鼓は太鼓のこと。古は罪人あれば太鼓を打ち鳴らすの例なりしなり　(四) よく春秋を研究し　(五) 儒道の正しき法　(六) 專におなじ　(七) 退出すれば　(八) 章臺宮の在る町　(九) 顔をかくす爲に造れる一種の扇　(一〇) 美しき眉　(一一) 夫婦間の私交は妻の眉を畫いてやるよりも妄なものなりと也

守。肅宗初立。擢二司空一。倫奉レ公盡レ節。數上書言レ事。無レ所二依違一。性質慤少二文采一。在レ位以二貞白一稱。時人方二之貢禹一。然少二蘊藉一。不レ修二威儀一。亦以レ此見レ輕。或問二倫有レ私乎。對曰。昔人有下與二吾千里馬一者上。吾雖レ不レ受。毎二三公有レ所二選擧一。心不レ能レ忘。而亦終不レ用。吾兄子病。一夜十起往。退而安寢。吾子有レ疾。雖レ不二省視一。而竟夕不レ眠。若レ是者。豈可レ謂レ無レ私乎。病乞レ罷。以二二千石俸一終二其身一。

雖も、しかも竟夕眠らず。(一三)かくの若きもの、豈に私なしといふべけんや」と。病んで罷めんことを乞ひ、二千石の俸を以て其身を終る。

(一)造幣局の屬官 (二)取締る也 (三)はかり (四)枡目 (五)よこしま (六)聖主なれば我奏する政事上の得失を一見して決斷すべしと也 (七)蓋延といふ者馮翊の大守となりて、非法多きを以て倫數々諫說せしところ却て恨みて擧用せざりしをいふ。將は州將にて馮翊太守也 (八)建武は光武帝、永平は明帝の年號 (九)ためらふ、ぐづぐづして決せず (一〇)質朴誠實にして飾氣なく、貞正潔白 (一一)內に含蓄する所少なし、卽ち奥ゆかしき所なし (一二)終夜賂をうけずと云へども駿馬を贈りし人を忘るゝ能はず、選擧して官を授けんと思ひしも、その私なるを知りて終に用ゐざりし也と (一三)終夜

前漢張敞字

張敞畫眉　謝鯤折齒

前漢の張敞、字は子高、平陽の人なり。杜陵に徙り、京兆の尹となる。長

後漢第五倫字伯魚。京兆長陵人。爲二京兆督鑄錢掾一。領二長安市一。時鑄錢多二姦巧一。倫平二銓衡一。正二斗斛一。市無二阿枉一。百姓悦服。毎レ讀二詔書一。常歎息曰。此聖主也。一見決矣。等輩笑レ之曰。爾説レ將尚未レ下。安能動二萬乘一乎。倫曰。未レ遇二知己一。道不レ同故耳。建武永平閒。爲二會稽蜀郡太

後漢の第五倫、字は伯魚、京兆長陵の人なり。京兆の督鑄錢(一)の掾たり。長安の市を領す。時に鑄錢姦巧多し。倫、銓衡(三)を平にし、斗斛(四)を正し、市に阿枉(五)なく、百姓悦服(二)す。詔書を讀む毎に、常に歎息して曰く、「これ聖主なり。一見せば決せん」と。等輩、之を笑つて曰く、「爾(七)、將に説くも尚ほ未だ下らず。安んぞ(六)能く萬乘を動かさんや。」倫曰く、「未だ知己に遇はず。道同じからざるが故のみ」と。建武(八)・永平の閒、會稽蜀郡の太守となる。肅宗、初めて立つて、司空に擢んづ。倫、公に奉じ、節を盡し、數〻上書して事を言ひ、依違(九)する所なし。性質(一〇)愨、文采少く、位にある、貞白を以て稱せらる。時人之を貢禹に方ぶ。然れども、蘊藉(一一)少く、威儀を修めず。亦た此を以て輕んぜらる。或ひと倫に問ふ、「私ありや」と。對へて曰く、「昔、人、吾に千里の馬を與ふる者あり。吾、受けずと雖も、三公選擧する所ある毎に、心に忘るゝ(一二)能はず。而も、亦た終に用ひず。吾が兄の子、病めり。一夜十たび起つて往き、退いて安寢す。吾が子疾あり。省視せずと

梁。除二中軍參軍一。初整兄寅爲二西陽內史一卒。其子往二整墅一停住十二日。整就二兄妻范一求レ米。范未レ還。整怒。仍自取二范車帷一爲レ質。范詣レ臺訴。御史中丞任昉論曰。昔人睦レ親。衣無二常主一。整之撫レ姪。食有二故人一。何其不レ能レ折二契鍾庾一。而禭帷交質。人之無情。一何至レ此。實教義所レ不レ容。紳冕所二共棄一。臣請免二整新除官一。付二廷尉一治レ罪。

と爲つて卒す。その子、整の墅(一)に往き。停住すること十二日。整、兄の妻范に就いて米を求む。范、未だ還さず。整怒る、仍つて、自ら范の車帷(二)を取つて質と爲す。范、臺(三)に詣つて訴ふ。御史中丞任昉、論じて曰く、「昔人親に睦み、衣(四)にも常主なし。整の姪を撫する、食(五)に故人あり。何ぞ其れ契を鍾庾(六)に折ること能はずして、禭帷交〻質とする。人の無情、一に何ぞ此に至る。實に教義の容れざるところ、紳冕(八)のともに棄つるところなり。臣請ふ、整が新に除せられし官を免じ、廷尉に付して罪を治めん(九)」と。

(一) 別莊、しもやしき (二) 禭帷也婦人乘車の際前にかける飾物 (三) 御史臺 (四) 衣に一定の持主なく、互に着せあふ意 (五) 食を與ふるに冷酷也と也。公孫弘が丞相となり、故人齎高賀に粗食を與へて冷遇したる故事に基く (六) 鍾は六石四斗。庾は十六斗。折契は手形を折り棄つると (八) 貸借を消す也高位高官を指す (九) 引渡し

前所ニ載還一皆明珠文犀。吳祐傳。吳恢爲ニ南海太守一。其子祐年十二。隨到レ官。恢欲下殺ニ靑簡一以寫中經書上。祐諫曰。大人踰ニ越五嶺一。遠在ニ海濱一。其俗誠陋。然舊多ニ珍怪一。上爲ニ國家一所レ疑。下爲ニ權威一所レ望。此書若成。則載レ之兼兩。昔馬援以ニ薏苡一興レ謗。王陽以ニ囊衣一徼レ名。嫌疑之間。先賢所レ愼。恢乃止。撫ニ其首一曰。吳氏世不レ乏ニ季子一矣。

下、權威に望まれん。この書（一〇）、もし成らば、之を載するに兼兩（一一）せん。むかし、馬援、薏苡を以て謗を興し、王陽、囊衣を以て名を徼む。嫌疑の間は、先賢の愼むところなり」と。恢、乃ち止み、その首を撫して曰く、「吳氏、世々、季子（一二）に乏しからず」と。

（一）はと麥　（二）熱帶地方にあるマラリア、おこり等の如き熱病の氣　（三）其事を帝に奏聞するものなし　（四）光ある珠玉とあやある犀の角　（五）官地　（六）あを竹の片を炙りて油を去り之に經書を寫さしめんとす　（七）父を呼ぶ稱　（八）風俗　（九）いやし　（一〇）竹札に寫す所の經書　（一一）二疊の車　（一二）季子は季札なり、卽ち吳氏の系統には、季子の如く無慾にして正直なるものに乏しからずとなり

南史。劉整仕レ

劉整交質　五倫十起

南史にいふ、劉整、梁に仕へて中軍參軍に除せらる。初め整の兄寅、西陽內史

鮮明。而亡二金銀錦繡之物一。及レ遷二徙去一レ處。所レ載不レ過二囊衣一。不レ蓄二積餘財一。去レ位家居。亦布衣疏食。天下服二其廉一。而怪二其嗇一。故俗傳。王陽能作二黃金一。

(一) 才能器量及び聲譽即ち評判 (二) 俸祿官位 (三) 自ら身にあてがひ養ふ (四) 立派、あざやか (五) 轉任して
て (六) 一嚢の衣 (七) 粗食 (八) 利慾にきれいなり、廉潔

後漢馬援在二交阯一。常餌二薏苡實一。能輕レ身省レ慾。以勝二瘴氣一。南方薏苡實大。援欲二以爲一レ種。軍還。載二之一車一。時人以爲南土珍怪。權貴皆望レ之。援時方有レ寵。故莫二以聞一。卒後有二上書譖レ之者一。以爲

後漢の馬援、交阯に在り。常に薏苡の實を餌ひ、能く身を輕くし、慾を省き、以て(二)瘴氣に勝つ。南方の薏苡、實大なり。(一)援、以て種と爲さんと欲し、軍還るとき、之を一車に載す。時人以爲へらく、「南土の珍怪なり」と。權貴皆之を望む。援、時に方に寵あり。故に以聞(三)するなし。卒する後、上書して之を譖る者あり。以爲へらく、前に載せ還るところは皆明珠文犀(四)なりと。呉祐の傳にいふ、呉恢、南海の太守となる。その子祐年十二、隨つて(五)官に到る。恢、青簡(六)を殺ぎて、以て經書を寫さしめんと欲す。祐、諫めて曰く、「大人(七)、五嶺を踰越して、遠く海濱に在り。その俗(八)、誠に陋(九)なり。然れども、舊と珍怪多し。上、國家に疑はれ、

著二窓間一。後雞作二人語一。與二處宗一談論。極有二玄致一。終日不レ輟。處宗因レ此功業大進。

(一)置く　(二)覺え　(三)ふかきおもむき

王陽囊衣　馬援薏苡

前漢の王吉、字は子陽、子駿、孫崇、竝に御史大夫に至る。崇、平帝の時、大司空となる。吉より崇に至り、世々、清廉に名あり。然れども、(一)材器名稱は稍く父に及ぶこと能はず。而して(二)祿位は彌々隆なり。皆車馬衣服を好み、その自ら(三)奉養する極めて(四)鮮明なれども、しかも金銀錦繡の物なし。(五)遷徙して處を去るに及び、載するところは(六)囊衣に過ぎず。餘財を蓄積せず。位を去つて家居すれば、亦た(七)布衣疏食す。天下その(八)廉に服して、その奢を怪む。故に俗に傳ふ、『王陽能く黄金を作る』と。

前漢王吉字子陽。子駿。孫崇。竝至二御史大夫一。崇平帝時。爲二大司空一。自レ吉至レ崇。世名二淸廉一。然材器名稱。稍不レ能レ及レ父。而祿位彌隆。皆好二車馬衣服一。其自奉養極爲二

簫史鳳臺　宋宗雞窓

列仙傳。簫史者。秦穆公時人。善吹簫。能致孔雀白鶴。居數年。吹似鳳聲。鳳凰來止其屋。爲作鳳臺。夫婦止其上。不下數年。一日。妻字弄玉。一日皆隨鳳凰飛去。故秦人作鳳女祠雝宮中。時有簫聲。

列仙傳にいふ、簫史は秦の穆公の時の人なり。善く簫を吹き、能く孔雀・白鶴を致す。(一)居ること數年。吹くこと鳳聲に似たり。鳳凰、來つて其屋に止まる。爲に鳳臺を作り、夫婦その上に止まつて、下らざること數年。一に曰く、妻、字は弄玉、一日皆鳳凰に隨つて飛び去る。故に秦人鳳女の祠を雝宮中に作る。(二)時に簫聲有りと。

(一) 誘ひ招き寄せる　(二) 秦の宮殿の名

幽冥錄。晉兗州刺史。沛國宋處宗。嘗買一長鳴鷄。愛養甚至。常籠

幽冥錄にいふ、晉の兗州の刺史、沛國の宋處宗、嘗て一の長鳴雞を買ひ、愛養甚だ至る。常に籠にして窓の間に著く。(一)後、雞、人語を作し、(二)處宗と談論し、極めて玄致あり。(三)終日輟まず。處宗これに由つて、功業大に進む。

獨畏二馬服子趙括將一耳。廉頗易レ與。趙王既怒二頗數敗一。又聞二反閒之言一。因使三括代二頗一。秦使三起爲二上將軍一。括至擊二秦軍一。秦軍佯敗走。張二二奇兵一以劫レ之。趙軍分而爲レ二糧道絕。秦發二河內民年十五以上一悉詣二長平一。遮二絕趙救及糧食一。趙卒不レ得レ食四十六日。皆內陰相殺食。來攻二秦壘一。不レ能レ出。括出二銳卒一自搏戰。秦軍射二殺括一。括軍敗。卒四十萬人降レ起。起計曰。趙卒反覆。非二盡殺一レ之。恐爲レ亂。乃挾レ詐盡坑二殺之一。前後斬二首虜一四十五萬人。趙人大震。

を撃つ。秦の軍、佯つて敗走し、二奇兵（四）を張り、以て之を劫かす。趙の軍、分れて二と爲り、糧道絕ゆ。秦、河內の民年十五以上を發し、悉く長平に詣らしめ、趙の救及び糧食を遮絕す。趙の卒、食を得ざること四十六日。皆內陰に相殺して食ひ、來つて秦の壘を攻むれども出すこと能はず。括、銳卒を出して自ら搏戰す。秦の軍、射て括を殺す。括の軍敗れ、卒四十萬人、起に降る。起計つて曰く、「趙の卒は反覆（五）せん、盡く之を殺すに非ざれば、恐らくは亂を爲さん」と。乃ち詐（六）を挾み、盡く之を坑殺す（七）。前後首虜を斬ると四十五萬人。趙人大に震ふ。

（一）壘也　（二）閒者を入れうらぎらしむ　（三）趙の名將趙奢の封號　（四）二個の奇兵　（五）うらがへる、むほん
（六）計略にかけ　（七）穴埋にして殺す。一說には遂ひつめて擊ち亡ぼすの義とす

卽日駕西都二關中一。賜二敬姓劉氏一。拜二郎中一。號二奉春君一。封二建信侯一。是時冒頓單于兵强。控弦四十萬騎。數苦二北邊一。上患レ之問レ敬。敬曰。陛下誠能以二適長公主一妻二單于一。厚奉二遺之一。彼必以爲二閼氏一。生レ子必爲二太子一。使三辯士風諭以二禮節一。冒頓在固爲二子婿一。死外孫爲二單于一。豈聞下外孫敢與二大父一抗禮上哉。上欲レ遣二長公主一。呂后泣曰。妾唯一女。奈何棄二之匈奴一。乃取二家人子一爲二公主一。妻二單于一。使三敬往結二和親約一。

人の子を取つて公主となし、單于に妻あはし敬をして往いて和親の約を結ばしむ。

(一)隆盛　(二)等也　(三)四方の塞　(四)にはかに　(五)土地肥えてゆたかなり　(六)自然の寶庫　(七)咽喉、のど　(八)冒頓は匈奴の王の名、單于は匈奴語にて王の音譯　(九)弓術に巧みなる兵　(一〇)正嫡内親王　(一一)匈奴語にて皇后の音譯　(一二)さとす　(一三)存生せば

史記。白起郿人。善用レ兵。事二秦昭王一。號二武安君一。秦攻二趙壘一。數挑レ戰。趙將廉頗堅レ壁不レ出。秦使三人爲二反閒一曰。秦

史記にいふ、白起は郿の人なり。善く兵を用ふ。秦の昭王に事へ、武安君と號す。秦、趙の壘を攻め、數〻戰を挑む。趙將廉頗、(一)壁を堅うして出でず。秦、人をして反閒を爲さしむ。曰く、「秦、獨り馬服の子趙括の將たるを畏るゝのみ。(二)廉頗は與し易し」と。趙王すでに頗が數〻(三)敗るゝを怒り、又反閒の言を聞く。因つて、括をして頗に代らしむ。秦、起をして上將軍たらしむ。括、至つて秦の軍

洛陽。婁敬說曰。陛下都洛陽。豈欲與周比隆哉。然取天下與周異。臣竊以爲不侔矣。且秦地。被山帶河。四塞以爲固。卒然有急百萬之衆可具。因秦之故資。甚美膏腴之地。此所謂天府。陛下入關而都之。山東雖亂。秦故地可全而有。此亦扼天下之亢。而拊其背也。

を比せんと欲するか。然れども、天下を取ること周と異なり。臣竊に以爲へらく、侔しからずと。且つ秦の地は、山を被り、河を帶び、四塞以て固と爲す。卒然急ありとも、百萬の衆具ふべし。秦の故資に因らば、甚美膏腴の地、これ謂ゆる天府なり。陛下關に入つて之に都せば、山東亂ると雖も、秦の故地全うして有つべし。此れ亦た天下の亢を扼して其背を拊つなり」と。即日駕して、西、關中に都し、敬に姓劉氏を賜ひ、郎中に拜し、奉春君と號し、建信侯に封ず。この時、冒頓單于、兵強く、控弦四十萬騎、數〻北邊を苦む。上、之を患ひ、敬に問ふ。敬曰く、「陛下誠に能く適長公主を以て單于に妻あはし、厚く之を奉遺せば、彼必ず以て閼氏と爲さん。子を生まば必ず太子と爲さん。辯士をして風諭するに禮節を以てせしめよ。冒頓在らば、固より子壻たり。死すれば、外孫、單于たり。豈に外孫敢て大父と抗禮するを聞かんや」と。上、長公主を遣らんと欲す。呂后泣いて曰く、「妾唯だ一女のみ。奈何ぞ之を匈奴に棄てん」と。乃ち家

有二大節一。尤明二左氏傳國語一。爲二之解詁一。永平中獻レ之。拜爲レ郎。與二班固一竝校二祕書一。應二對左右一。後爲二侍中一。領二騎都尉一。所レ著經傳義詁。及論難百餘萬言。學者宗レ之。後世稱爲二通儒一。

後漢許愼字叔重。汝南召陵人。性淳篤。博學二經籍一。馬融敬レ之。時人爲二之語一曰。五經無雙許叔重。爲二郡功曹一。擧二孝廉一。再遷除二洨長一。卒二于家一。初愼以二五經傳說。臧否不レ同。撰爲二五經異義一。又作二說文解字一。皆傳二於世一。

後漢の許愼、字は叔重、汝南召陵の人なり。性淳篤にして(一)、博く經籍を學ぶ。馬融、之を敬す。時人之が語を爲して曰く、「五經無雙なり許叔重」と。郡の功(二)曹たり。孝廉に擧げらる。再び遷りて洨の長に除せられ(三)、家に卒す。初め愼、五經の傳說臧否同じからざるを以て(四)、撰んで五經の異義を爲る。又說文の解字を作る。皆世に傳はる。

(一) 淳朴篤實　(二) 官名　(三) 縣名　(四) 善惡

婁敬和親　白起坑降

前漢高祖在二

前漢の高祖、洛陽に在り。婁敬說いて曰く、「陛下洛陽に都するは、豈に周と隆(一)

後漢賈逵字景伯。扶風平陵人。弱冠能誦二左氏傳及五經本文一。以二大夏侯尙書一敎授。兼二通五家穀梁之說一。自爲二兒童一。常在二大學一。不レ通二人閒事一。身長八尺二寸。諸儒爲二之語一曰。問レ事不レ休。賈長頭。性愷悌多二智思一。俶儻

賈逵問事　許愼無雙

後漢の賈逵、字は景伯、扶風平陵の人なり。弱冠にして、能く左氏傳及び五經の本文を誦す。(一)大夏侯の尙書を以て敎授し、(二)五家穀梁の說に兼通す。兒童たるより、常に大學に在つて(三)人閒の事に通ぜず。身の長八尺二寸。諸儒これが語をなして曰く、『事を問うて休まず賈長頭』と。(四)性愷悌、知思多く、(五)俶儻にして大節あり。尤も左氏傳・國語に明かに、これが(六)解詁を爲る。永平中、これを獻ず。拜せられて郎となる。班固と竝に祕書を(七)校し、左右に應對す。後、侍中となり、騎都尉を領す。著すところの經傳義詁、及び論難百餘萬言は、學者これを宗とす。後世稱して(八)通儒となす。

(一) 前漢の博士也　(二) 前漢の尹更始・劉向・周慶・丁姓・王彥五家の春秋穀梁傳についての說　(三) 世間の事　(四) やわらぎ樂む　(五) 他に異なりて大志あること　(六) 注解　(七) 校訂　(八) 天下今古の事に通達せる明知の儒者

酒。元帝以爲二軍諮祭酒。逖以二社稷傾覆。常懷二振復之志。逖二奮威將軍豫州刺史。仍將二本流徙部曲百餘家一渡レ江。中流擊レ楫而誓曰。祖逖不レ能レ淸二中原一而復濟者。有レ如二大江一。辭色壯烈。衆皆慨歎。屯二于淮陰。起レ冶鑄二兵器。得二二千餘人一而後進。逖愛レ人下レ士。雖二疎交賤隷。皆恩禮遇レ之。由レ是黃河以南。盡爲二晉土。未レ幾病卒。豫州士女。若レ喪二考妣。譙梁百姓。爲レ之立レ祠。冊贈二車騎將軍。王敦久懷二逆亂。畏レ逖不二敢發。至レ是始得レ肆レ意焉。

百餘家を將ゐて江を渡り、中流にして楫を擊ち(六)、誓つて曰く、「祖逖、中原を淸むることを能はずして、復た濟ることあらば、大江の如きことあらん」(七)と。辭色壯烈、衆皆慨歎す。淮陰に屯し(八)、治を起して兵器を鑄る。二千餘人を得て後に進む。逖、人を愛して士に下り、疎交賤隷と雖も、皆恩禮これを遇す。これに由つて、黃河以南、盡く晉の土となる。未だ幾ならずして、病んで卒す。豫州の士女、考妣(九)を喪するが若し。譙梁の百姓、これが爲に祠を立つ。冊して車騎將軍を賜はる。王敦、久しく逆亂を懷けども(一〇)、逖を畏れて敢て發せず。こゝに至つて、始めて意を肆にするを得たり。

(一)書物　(二)博くかねわたる　(三)官名　(四)振起、恢復　(五)亂の爲めに流浪して江左に遷りたる部落　(六)楫をとり船ばたをたゝき　(七)必ず神都を淸ること大江の水の如く明かならんとの意　(八)屯營　(九)死せる父母
(一〇)むほんをせんとの志あり

產業。後從二師長安。買レ符入二函谷關。乃慨然歎曰。丹不レ乘二使者車。終不レ出レ關。既至二京師。常爲二都講。諸儒咸敬二重之。後更始徵爲二諫議大夫。持レ節使歸二南陽。安集受レ降。果如二其志。建武中。辟擧二高第。累二轉司徒。在レ朝廉直公正。與二侯霸杜林張湛郭伋一齊レ名。相善。

關を出でず」と。既に京師に至り、常に都講(五)と爲る。諸儒咸な之を敬重す。後、更始、(六)徵して諫議大夫と爲す。節を持し、使して南陽に歸り、安集(七)して降を受く。果して其志の如し。建武中、辟されて高第に擧がり、司徒に累轉す。朝に在つて廉直公正、侯霸・杜林・張湛・郭伋と名を齊しうして相善し。

(一) 繼母　(二) 生産のたよりとなすもの卽ち田宅を買ふ　(三) 割符、關に出入する切手也　(四) 立身して天子の勅使となり　(五) 學頭、代講を爲すもの　(六) 更始將軍劉玄が帝位に卽くや　(七) 王莽の騷亂の爲苦める民をあつめ安んじ、且つ王莽に走りし人人の降をゆるす

晉書。祖逖字士稚。范陽遒人。博二覽書記一。該二涉古今一。京師亂。避二地淮

晉書にいふ、祖逖、字は士稚、范陽遒の人。(一)書記を博覽して、古今に該涉す。(二)京師亂れ、地を淮泗に避く。元帝、以て軍諮祭酒(三)と爲す。逖、社稷の傾覆を以て、常に振復(四)の志を懷く。奮威將軍豫州の刺史に遷る。仍つて、本の流徙(五)の部曲

居二廷中一。公卿盡會立。王生老人。曰吾襪解。顧謂二釋之一。爲レ我結レ襪。釋之跪而結レ之。或讓二王生。獨奈何廷辱二張廷尉一。王生曰。吾老且賤。自度終亡レ益二於張廷尉一。廷尉天下名臣。吾聊使レ結レ襪。欲二以重一レ之。諸公聞レ之。賢二王生一而重二釋之一。

て且つ賤し。自ら度るに、終に張廷尉に益するなし。廷尉は天下の名臣なり。吾、聊か襪を結ばしむるは、以て之を重くせんと欲するなり(七)」と。諸公、之を聞き、王生を賢として釋之を重んず。

(一)財貨を納めて騎郎に任ぜられたりとなり　(二)選びあげられずと也　(三)評議を執り行ふこと正しく　(四)生は先生也、王某先生　(五)黄帝・老子の道　(六)したがふなり、此處は其紐をいふ　(七)賢者に仕ふるの禮を盡したる賢德を天下に重くせんと

後漢郭丹字少卿。南陽穰人。幼孤孝順。後母哀二憐之一。爲鬻二衣裝一買二

郭丹約關　祖逖誓江

後漢の郭丹、字は少卿、南陽穰の人なり。幼にして孤となり、孝順なり。後母(一)之を哀憐し、爲に衣裝を鬻いで產業(二)を買ふ。後、師に長安に從ひ、符(三)を買つて函谷關に入る。乃ち慨然として歎じて曰く、「丹(四)、使者の車に乗らざれば、終に

者師。後十年興。十三年。孺子見二我濟北穀城山下一。黃石卽我已。遂去不レ見。且日視二其書一。迺太公兵法。良異レ之。常習誦。後從二高帝一過二濟北一。果得二黃石一。取而寶二祠之一。良死幷葬焉。初良數以二兵法一說二高祖一。常用二其策一。爲二他人一言。皆不レ省。良以爲二天授一。遂從不レ去。良多病。未二嘗特將一レ兵。常爲二畫策臣一。及レ封二功臣一。良未三嘗有二戰鬪功一。帝曰。運二籌帷幄中一決二勝千里外一。子房功也。迺封爲二留侯一。

(一) 土橋のほとり　(二) 道士の服　(三) わかもの、目下の者を輕蔑して用ゐる詞　(四) 夜のあけがた　(五) 約束。出會を約するなり　(六) 翌日　(七) 天より自分に授かりし君なりと　(八) はかりごとを帷幄卽ち陣營の中にめぐらし、其勝を千里の外に決す

前漢張釋之字季。南陽堵陽人。以レ貲爲二騎郎一。事二文帝一。十年不レ得レ調。亡レ所レ知レ名。後拜二廷尉一。持レ議平。天下稱レ之。王生者。善爲二黃老言一。嘗召

前漢の張釋之、字は季、南陽堵陽の人。(一)貲を以て騎郎となり、文帝に事ふ。十年(二)調ばるゝを得ず。名を知らるゝところなし。後、廷尉に拜せられ、(三)議を持すること平にして、天下之を稱す。王生といふもの、(五)黃老の言を善くす。嘗て召されて廷中に居り、公卿盡く會立す。(四)王生は老人なり。曰く、「吾が韈解けたり」(六)と。顧みて釋之に謂ふ、「我が爲に韈を結べ」と。釋之跪いて之を結ぶ。或ひと王生を讓む、「獨り奈何ぞ廷にして張廷尉を辱しむ」と。王生曰く、「吾老い

忍下取レ履。因跪進。父以レ足受レ之。笑去。復還曰。儒子可レ教矣。後五日平明。與レ我期レ此。良跪曰。諾。及レ往父已先在。怒曰。與二老人一期。後何也。去。後五日蚤會。五日鷄鳴往。父又先在。復怒曰。去。後五日蚤來。五日良夜半往。有レ頃父亦來。喜曰。當レ如レ是。出二一編書一曰。讀レ是則爲二王

人と期し、後るゝは何ぞや。去れ。後、五日、蚤く會せよ」と。五日鷄鳴に往く。父又先づ在り。復た怒つて曰く、「去れ。後五日、蚤く來れ」と。五日、良、夜半に往く。頃くあつて、父亦た來り、喜んで曰く、「當に是の如くなるべし」と。一編の書を出して曰く、「是を讀まば、王者の師とならん。後十年にして興らん。十三年にして孺子我を濟北の穀城山下に見よ。黄石は卽ち我のみ」と。遂に去つて見えず。(六)旦日その書を視れば、迺ち太公の兵法なり。良、之を異とし、常に習誦す。後、高帝に從ひ、濟北を過ぐ。果して黄石を得たり。取つて之を寶祀し、良死して幷せ葬る。初め良數〻兵法を以て高祖に說くや、常に其策を用ふ。他人の爲に言へば皆省みられず。良以爲へらく、(七)天授と。遂に從つて去らず。良、多病にして未だ嘗て特り兵に將たらず。常に畫策の臣たり。功臣を封ずるに及び、良、未だ嘗て戰鬪の功あらず。帝曰く、「(七)籌を帷幄の中に運らし、勝を千里の外に決するは子房の功なり」と。迺ち封じて留侯となす。

爲レ政淸整門無二雜賓一。桓溫嘗問二會稽王一談更進邪。惔曰極進。然故第二流耳。温曰。第一復誰。曰。故在二我輩一。其高自標置如レ此。舊注云惔夜在二簡文坐一。愁然歎曰。淸風朗月。恨無二玄度一。玄度高士許詢也。

㈠精神純潔にして器量遠大なること。標奇とは世俗を拔きたる人品　㈡草廬　㈢柴のあみ戶。細小路の汚なきところなれども心やすらかなりと也　㈣衆人にすぐれたりと自ら信ずること　㈤うれへかなしむ貌

前漢張良字子房。其先韓人。嘗遊二下邳圯上一。有二一老父一衣レ褐。至二良所一。直墮二其履圯下一。謂曰。孺子下取レ履。良愕然欲レ歐レ之。爲二其老一。迺彊

子房取履　釋之結韈

前漢の張良字は子房、その先は韓人なり。嘗て下邳の圯(一)上に遊ぶ。一老父あり。褐(二)を衣たり。良の所に至りて、直に其履を圯下に墮し、謂つて曰く、「孺子(三)下つて履を取れ」と。良愕然として、之を毆たんと欲せしが、その老いたるが爲に、迺ち彊忍し、下つて履を取り、因つて跪いて進む。父足を以て之を受け、笑つて去り、復た還つて曰く、「孺子教ふべし。後五日、平明(四)、我と此に期(五)せよ」と。良跪いて曰く、「諾」と。往くに及びて、父已に先づ在り。怒つて曰く、「老

即便就酌。醉而後歸。郡將候ㇾ酒。逢二其潛熟一。取二頭上葛巾一漉ㇾ酒。畢還復著ㇾ之。卒號二靖節先生一。其妻翟氏。志趣亦同。能安二苦節一。夫耕二於前一。妻鋤二於後一。一云。九月九日無ㇾ酒。坐二籬邊叢中一。摘ㇾ菊盈ㇾ把而坐。久之望二見白衣人至一。太守王弘送ㇾ酒也。飲醉而歸。

晉書。劉惔字眞長。沛國相人。少清遠有二標奇一。與ㇾ母寓二居京口一。家貧織二芒屩一以爲ㇾ養。雖二蓽門陋巷一晏如也。王導深器ㇾ之。後稍知ㇾ名。惔雅善二言理一。簡文作ㇾ相。惔與二王濛一並爲二談客一。俱蒙二上賓禮一。累二遷丹陽尹一。

晉書にいふ、劉惔、字は眞長、沛國相の人なり。少にして清遠(一)、標奇あり。母と京口に寓居す。家貧にして芒屩(二)を織つて、以て養となす。蓽門陋巷(三)と雖も、晏如たり。王導深く之を器とす。後稍く名を知らる。惔、雅言理を善くす。簡文、相となり、惔と王濛と並に談客たり。倶に上賓の禮を蒙る。丹陽の尹に累遷す。政を爲すこと清整、門に雜賓なし。桓溫、嘗て「會稽王の談更に進むや」と問ふ。惔曰く、「極めて進む。然れども、故第二流のみ。」溫曰く、「第一は復た誰ぞ。」曰く、「故我輩に在り」と。その高く自ら標置(四)すること此の如し。舊注に云ふ、惔、夜、簡文の座に在り。(五)湫然として歎じて曰く、「清風朗月、恨むらくは玄度なし」と。玄度は、高士許詢なり。

能ㇾ致。潛嘗往二廬山一。弘令下潛故人龐通之齎二酒具一。於二半道一要上之。潛有二脚疾一。使下一門生二兒舉中籃轝上。及ㇾ至。欣然共飲。先ㇾ是顏延之在二潯陽一。與ㇾ潛情欵。後爲二始安郡一。經二過潛一。臨ㇾ去留二二萬錢一與ㇾ潛。潛悉送二酒家一。稍就取ㇾ酒。嘗九月九日無ㇾ酒。出二宅邊菊叢中一坐。久之逢二弘送ㇾ酒至一。

生二兒をして籃轝(四)を舉げしむ。至るに及び、欣然として共に飲む。これより先、顏延之、潯陽に在り、潛と情欵(五)す。後に、治安郡を爲む。潛を經過し、去るに臨み、二萬錢を留めて潛に與ふ。潛、悉く酒家に送り、稍く就いて酒を取る。嘗て九月九日に酒なし。宅邊の菊叢中に出でゝ坐す。久しうして、弘の酒を送つて至るに逢ふ。卽便ち就いて酌み、醉うて後に歸る。郡將(六)、潛を候す。その酒熟するに逢ひ、頭上の葛巾を取つて酒を漉し、畢つて還つて復た之を著く。卒して靖節先生と號す。その妻翟氏、志趣亦た同じく、能く苦節に安んず。夫は前に耕し、妻は後に鉏く。一に云ふ、九月九日に酒なし。籬邊の叢中に坐す。菊を摘んで把(七)に盈ちて坐す。之を久しうして、白衣の人の至るを望み見る。太守王弘、酒を送るなり。飲醉して歸る。

(一) 招致　(二) 故舊、朋友　(三) まちうく　(四) 竹にて編み兩人にて運ぶやうにしたる車　(五) 心より打ちとけ相したしむこと　(六) 郡守　(七) 片手のひら

之禮。不レ可二以不一レ肅。罷レ朝坐二府中一。爲レ檄召レ通。詣二丞相府一。不レ來且レ斬レ通。通恐入言レ上。上曰。汝第往。吾今使二人召一レ若。通至。免レ冠。徒跣頓首謝レ嘉。嘉責曰。夫朝廷者。高皇帝之朝廷也。通小臣戲二殿上一。大不敬當レ斬。通頓首出レ血不レ解。上度二丞相已困一レ通。使三使持レ節召レ通而謝二丞相一。是吾弄臣也。乃釋レ之。

上に戲る。大不敬なり。斬に當る」と。通、頓首して血を出せども、解けず。上、丞相已に通を困むるを度り、使をして節(五)を持して通を召し、丞相に謝せしむ。「これ吾が弄臣なり(六)」と。乃ち之を釋す。

(一)材官はすぐれたる材力ある者。蹶張は足にて強き弩をはる者　(二)私に願ふことありて謁見を求むる客　(三)通告狀　(四)はだしになるなり　(五)かきつけ　(六)宦官などの如く、もてあそび使ふ臣なりの意

南史。陶潛字淵明。或云字深明。名元亮。江州刺史王弘。欲レ識レ之不レ

淵明把菊　眞長望月

南史にいふ、陶潛、字は淵明。或は云ふ、字は深明、名は元亮と。江州の刺史王弘、これを識らんと欲して致すこと能はず(一)。潛、嘗て廬山に往く。弘、潛の故(二)人龐通之をして、酒具を齎し、半道に於て之を要せ(三)しむ。潛、脚疾あり。一門

晉先賢傳。孔翊字元性。爲ニ洛陽令一。置ニ水於庭一。得ニ求囑書一。皆投ニ水中一。一無レ所レ發。

前漢申屠嘉。梁人。以ニ材官蹶張一從ニ高帝一擊レ楚。孝文時。稍遷至ニ丞相一。爲レ人廉直。門不レ受ニ私謁一。時鄧通方愛幸。居ニ上旁一。有ニ怠慢之禮一。嘉奏曰。陛下幸ニ愛羣臣一。則富ニ貴之一。至ニ於朝廷

晉先賢傳にいふ、孔翊、字は元性、洛陽の令たり。水を庭に置き、求囑(一)の書を得れば、皆水中に投じ、一も發くところなし。

(一) 頌み願ふ文書 (二) 政道に依怙のことなきやうにとの公廉の心よりかくせる也

前漢の申屠嘉は、梁人なり。(一)材官蹶張を以て、高帝に從つて楚を擊つ。孝文の時、稍く遷つて丞相に至る。人となり廉直、門に私謁(二)を受けず。時に鄧通方に愛幸せられ、上の旁に居て、怠慢の禮あり。嘉、奏して曰く、「陛下、羣臣を幸愛せば、これを富貴にせよ。朝廷の禮に至つては、以て肅まずんばあるべからず」と。朝を罷めて府中に坐し、(三)檄を爲つて通を召し、丞相府に詣らしめ、來らずんば且に通を斬らんとす。通、恐れて入つて上に言ふ。上曰く、「汝、第往け。吾、今、人をして若を召さしめん」と。通、至り、冠を免ぎ、徒跣頓首して(四)嘉に謝す。嘉、責めて曰く、「夫れ朝廷は高皇帝の朝廷なり。通、小臣にして殿

雎賢一。識入レ秦。言二於昭王一。王拜爲二客卿一。遂爲レ相。封二應侯一。賈後使レ秦。雎微行。夜敝衣步見レ賈。賈驚曰。范叔無レ恙乎。留與坐飲食。取二綈袍一賜レ之。雎取二大車駟馬一。爲レ賈御入二相府一。乃先入。賈待良久。問二門下一曰。范叔不レ出何也。門下曰。無二范叔一。乃吾相張君也。賈大驚。乃肉袒膝行。謝レ罪曰。賈不レ意君能自致二於青雲之上一。賈不下敢復讀二天下之書一。與中天下之事上。賈有二湯鑊之罪一。請自屏二於胡貉之地一。唯君死二生之一。擢二賈之髮一以贖レ罪尚未レ足。雎曰汝罪有レ三耳。然所二以得一レ無レ死者。以三綈袍戀戀有二故人之意一。故釋レ公。

く自ら青雲(八)の上に致さんとは。賈、敢て復た天下の書を讀み、天下の事に與からず。賈、湯鑊(九)の罪あり。請ふ自ら胡貉(一〇)の地に屏れん。唯だ君之を死生せよ。賈の髮を擢き、以て罪を贖ふも、尚ほ未だ足らず」と。雎曰く、「汝が罪、三(一一)あるのみ。然れども、死なきを得る所以は、綈袍戀戀(一二)として、故人の意あるを以てなり。故に公を釋す」と。

(一) 策士が諸侯を說き廻るをいふ (二) 祕密の事柄 (三) 魏の相 (四) 小便す (五) 宮中に在りて賓客を掌る官 (六) 客分の家老 (七) 粗帛のわたいれ。下賤の者の衣服也 (八) 高位 (九) 釜にて煮らるゝ程の大罪 (一〇) 北方のえびす (一一) 齊に讒口せること、厠中に辱しめしこと、醉ひて溺せしこと (一二) 思ひしたふ

孔翊絶書　中嘉私謁

自賚。乃先事ニ魏中大夫須賈。賈使レ齊。雎從。齊襄王聞ニ雎辯口。乃使三人賜ニ金及牛酒。賈怒以爲。雎持ニ魏國陰事一告レ齊。既歸以告ニ魏齊。齊怒使三舍人笞ニ擊雎。雎佯死。卽卷以レ簀。置ニ厠中。賓客醉更溺レ之。會齊醉。雎告ニ守者一。得ニ出亡伏匿一。更ニ名姓一曰ニ張祿。夜見ニ秦謁者王稽。稽知ニ

齊に使し、雎從ふ。齊の襄王、雎の辯口を聞き、乃ち人をして金及び牛酒を賜はしむ。賈怒つて以爲へらく、雎、魏國の陰事(二)を以て齊に告ぐと。既に歸り、以て魏齊(三)に告ぐ。齊怒り、舍人をして雎を笞擊せしむ。雎佯つて死す。卽ち卷くに簀を以てし、厠の中に置けり。賓客醉うて更〻に之に溺す。會〻齊醉ふ。雎、守者に告げて、出亡伏匿するを得たり。名姓を更めて張祿(四)と曰ふ。夜、秦の謁者王稽を見る。稽、雎の賢を知り、載せて秦に入り、昭王に言ふ。王、拜して客卿(五)となす。遂に相となし、應侯に封ず。賈、後に秦に使す。雎、微行し、敝衣(六)、歩して賈を見る。賈、驚いて曰く、「范叔恙なきや」と。留めて與に坐して、飮食せしめ、綈袍(七)を取り、之に賜ふ。雎、大車駟馬を取り、賈の爲に御して相府に入り、乃ち先づ入る。賈、待つこと良〻久し。門下に問うて曰く、「范叔出でざるは何ぞや」と。門下曰く、「范叔といふものなし。乃ち吾が相張君なり」と。賈大に驚き、乃ち肉袒膝行し、罪を謝して曰く、「賈、意はざりき。君能

而出望二見頗一。引レ車避匿。舍人諫曰。廉君宣二惡言一。而君畏匿恐懼。庸人尚羞レ之。況於二將相一乎。相如曰。公之視レ頗孰二與秦王一。曰。不レ若也。相如曰。夫以二秦王之威一。而相如廷叱レ之。辱二其羣臣一。吾雖レ駑。獨畏二廉將軍一哉。顧念強秦不三敢加二兵於趙一者。徒以二吾兩人在一也。今兩虎共鬭。勢不二俱生一。吾所二以爲一レ此者。先二國家之急一。而後二私讎一也。頗聞レ之。肉袒負レ荊。至レ門謝レ罪曰。鄙賤之人。不レ知二將軍寬之至一レ此。卒相與驩。爲二刎頸之交一

秦敢て兵を趙に加へざるは、徒に吾兩人の在るを以てなり。今兩虎共に鬭はば、勢俱に生きじ。吾が此を爲す所以は、國家の急を先にして、私讎を後にするなり」と。頗之を聞き、肉袒(五)して、荊(六)を負ひ、門に至りて罪を謝して曰く、「鄙賤の人、將軍の寬なるの此に至れるを知らず」と。卒に相與に驩び、刎頸(七)の交を爲せり。

(一) 門下、食客 (二) おそれかくる (三) 凡人、たゞの人 (四) 愚者、おろか (五) 兩肩をぬぐ (六) 鞭を負ふなり、之にて吾を罪せよとの意なり (七) 死生を共にし頸を刎ねらるゝも厭はざる程の親しき交り

史記。范雎字叔。魏人。遊二說諸侯一。欲レ事二魏王一。家貧無二以

史記にいふ、范雎、字は叔、魏の人なり。諸侯に遊說(一)して、魏王に事へんと欲す。家貧しくして、以て自ら資するなし。乃ち先づ魏の中大夫須賈に事ふ。賈、

史記。廉頗爲二趙相一。藺相如拜二上卿一。位在二頗右一。頗曰。我爲レ將。有二攻城野戰之大功一。而相如徒以二口舌一爲レ勞。位居二我上一。且素賤人。吾羞レ爲二之下一。宣言曰。我見必辱レ之。相如聞不レ肯二與會一。每二朝時一常稱レ病。不レ欲二與レ頗爭一レ列。已

廉頗負荊　須賈擢髮

史記にいふ、廉頗、趙の相たるとき、藺相如、上卿に拜せられ、位、頗の右に在り。頗曰く、「我は將となつて、攻城野戰の大功あり。而して、相如は徒に口舌を以て勞をなし、位我が上に居る。且つ素より賤人なり。吾、之が下たるを羞づ」と。宣言して曰く、「我れ見ば必ず之を辱しめん」と。相如聞いて與に會することを肯んぜず。朝する時每に、常に病と稱して、頗と列を爭ふことを欲せず。すでにして、出でゝ頗を望見すれば、車を引いて避け匿る。舍人(一)諫めて曰く、「廉君、惡言を宣して、君畏(二)匿恐懼す。(三)庸人だに尙ほ之を羞づ。況んや、將相に於てをや」と。相如曰く、「公の頗を視ること、秦王に孰與ぞや。」曰く、「若かず。」相如曰く、「夫れ秦王の威を以てすら、相如、廷に之を叱し、其の羣臣を辱かしむ。吾駑(四)なりと雖も、獨り廉將軍を畏れんや。顧み念ふに、强

部鼓吹一。何必效レ蕃。王晏嘗鳴二鼓吹一候レ之。聞二羣蛙鳴一曰。此殊聒二人耳一。珪曰。我聽二鼓吹一殆不レ及レ此。晏有二慙色一。仕至二散騎常侍一。晉本作二稚圭一。

南史。周顒字彥倫。宋元徽中。爲二剡令一。音辭辨麗。長二於佛理一。著二三宗論一。言二空假義一。入レ齊終二國子博士兼著作一。大學諸生慕二其風一。爭事二華辭一。始著二四聲切韻一。行二於時一。初隱二鍾山一。及三出爲二縣令一。孔稚珪過二鍾山草堂一。作二北山移文一。其詞有レ曰。蕙帳空兮夜鶴怨。山人去兮曉猿驚。

南史にいふ、周顒、字は彥倫、宋の元徽中、剡の令となる。音辭辨麗(一)、佛理に長じ、三宗論を著し、空假(二)の義を言ふ。齊に入つて、國子博士兼著作郎に終る。大學の諸生、其風を慕ひ、爭つて、華辯を事とす。始めて、四聲切韻を著し、時に行はる。初め鍾山に隱る。出でゝ縣令たるに及び、孔稚珪、鍾山の草堂に過り、(三)北山移文を作る。その詞に曰へるあり、『蕙帳(四)空しくして夜鶴怨み、山人去つて曉猿驚く』と。

(一) 明かにうるはしきこと (二) 佛說の空・假・中の三諦をいふ。空とは理の本體にして卽ち空寂なるもの、假とは因緣により出現する諸法の存在、中とは空にあらず假にあらざる絕對の理なり、それ等は佛道のさとりの實相なるを以て諦といへる也 (三) 文選卷四十三に出づ (四) 蕙は香草、山人之を葺きて帳となせり

南史。孔珪字德璋。會稽山陰人。齊明帝時爲二南郡太守一。珪風韻淸疏。好二文詠一。飮レ酒七八斗。不レ樂二世務一。居宅盛營二山水一。憑レ几獨酌。傍無二雜事一。門庭之內。草萊不レ翦。中有二蛙鳴一。或問レ之曰。欲レ爲二陳蕃一乎。珪曰。我以レ此當二兩

稚珪蛙鳴　彦倫鶴怨

南史にいふ、孔珪、字は德璋、會稽山陰の人なり。齊の明帝の時、南郡の太守たり。珪、風韻淸疏、(一)文詠を好み、酒を飮むこと七八斗、(二)世務を樂まず。居宅盛に山水を營み、(三)几に憑つて獨り酌み、傍に雜事なし。門庭の內、草萊(四)翦らず、中に蛙鳴あり。或ひと之に問うて曰く、「陳蕃ならんと欲するか。」(五)珪曰く、「我、これを以て兩部(六)の鼓吹に當つ。何ぞ必ずしも蕃に效はん」と。王晏、嘗て鼓吹を鳴らして、之を候し、羣蛙の鳴を聞いて曰く、「これ殊に人耳に聒し。(七)」珪曰く、「我鼓吹を聽くに、殆んど此に及ばず」と。晏、慙づる色あり。仕へて、散騎常侍に至る。舊本に稚圭に作る。

(一) 風采趣味さつぱりして淸し　(二) わが七八升　(三) おしまづき、つくゑ　(四) 茂れる雜草　(五) 「陳蕃下榻」を見よ　(六) 兩部は音樂を奏する坐部と立部となり。鼓吹は樂器の總稱　(七) やかましい、さわがし

田文。齊威王孫。父嬰爲二齊相一卒。文代立。封二萬戸於薛一。招二致賓客及亡人一。有レ罪者皆歸レ之。以レ故傾二天下之士一。食客數千人。無二貴賤一。一與レ文等。嘗待レ客夜食。有二一人一蔽二火光一。客怒以飯不レ等。輟レ食辭去。文起自持二其飯一比レ之不レ異。客慙自剄。士以レ此多歸レ之。文相二齊湣王一。湣王欲レ去レ之。乃如レ魏。魏昭王以爲レ相。齊襄王立。而孟嘗君中立。爲二諸侯一。無レ所レ屬。襄王與連和。卒諡二孟嘗君一。

文代り立ち、萬戸(一)に薛に封ぜらる。賓客及び亡人(二)を招致し、罪あるもの皆これに歸す。故を以て天下の士を傾く。食客數千人、貴賤となく、一に文と等し。嘗て客に待(三)して夜食するとき、一人あり、火光を蔽ふ(四)。客、怒つて以へらく、己が飯等しからずと。食を輟めて辭し去る。文、起つて自ら其飯を持ちて之を比するに、異ならず。客慙ぢて自剄(五)す。士、これを以て多く之に歸す。文、齊の湣王に相たり。湣王、これを去らんと欲す。乃ち魏に如く。魏の昭王、以て相となす。齊の襄王立つ。孟嘗君、中立して諸侯となり、屬するところなし。襄王ともに連和(六)す。卒して、孟嘗君と諡す。

(一) 民家數萬ある薛の地に封ぜらる　(二) 亡命の客　(三) 請待　(四) 燭の影をなす、故に一客の膳部暗くなりしなり　(五) 自殺　(六) 和親を結ぶ

晉書。顧榮字彥先。吳人。弱冠爲二黃門侍郎一。吳平。與二二陸一同入レ洛。號二三俊一。歷二廷尉正一。及二趙王倫簒一レ位。倫子虔爲二大將軍一。以レ榮爲二長史一。初榮與二同寮一宴飮。見二執レ炙者一。容貌不レ凡。有二欲レ炙之色一。榮割レ炙啗レ之。坐者問二其故一。榮曰。豈有二終日執一レ之。而不レ知二其味一。及二倫敗一。榮被レ執。將レ誅而執レ炙者爲二督率一。救レ之得レ免。元帝時。終二散騎常侍一。

晉書にいふ、顧榮、字は彥先、吳人なり。弱冠にして、黃門侍郎たり。吳平いで、(一)二陸と同じく洛に入り、三俊と號す。廷尉の正を歷、趙王倫の位を簒ふに及んで、倫の子虔、大將軍となり、榮を以て長史となす。初め、榮、同寮と宴飮し、(二)炙を執る者を見る。容貌凡ならず。炙を欲するの色あり。榮、炙を割いて之を啗はしむ。坐者、その故を問ふ。榮曰く、「豈に終日これを執つて其味を知らざるあらんや」と。倫の敗るゝに及んで、榮、執へられ、將に誅せられんとす。而して、炙を執るもの、(三)督率たり。これを救うて免るゝを得たり。元帝の時、散騎常侍に終る。

(一) 陸機と陸雲　(二) あぶり肉を執りて給侍する者　(三) 叛逆者を誅するを檢視する者、誅戮を司る役人

史記。孟嘗君

史記にいふ、孟嘗君田文は、齊の威王の孫なり。父嬰、齊の相と爲つて卒す。

博聞。仕ㇾ魏爲ニ司徒ー。武帝踐祚。拜ニ大尉ー。曾性至孝。閨門整肅。自ㇾ少及ㇾ長。無ニ聲樂嬖幸之好ー。年老與ㇾ妻相見。皆正ニ衣冠ー。相待如ㇾ賓。然性奢豪。務在ニ華侈ー。帷帳車服。窮ニ極綺麗ー。厨膳滋味。過ニ於王者ー。毎ニ燕見ー。不ㇾ食ニ太官所ㇾ設。帝輒命取ニ其食ー。蒸餅上不ㇾ坼作ニ十字ー。不ㇾ食。食日萬錢。猶曰。無ニ下ㇾ箸處ー。劉毅等數劾ニ奏曾侈忲無ㇾ度。帝以ニ其重臣ー。一無ㇾ所ㇾ問。

少より長ずるに及ぶまで、(三)聲樂嬖幸の好なし。年老い妻と相見るに、皆衣冠を正しうし、相待つこと賓の如し。然れども、性奢豪、務めて華侈に在り、帷帳車服、綺麗を窮極し、厨膳滋味、王者に過ぐ。燕見する毎に、(四)太官の設くるところを食はず。帝、輒ち命じて其食を取らしむ。(五)蒸餅の、上坼けて十字を作さゞれば食はず。食、日に萬錢。猶ほ曰く、「箸を下すところなし」と。劉毅等、數々曾の(六)侈忲度なきを劾奏す。帝、その重臣なるを以て一も問ふところなし。

(一)位をふむ、即位 (二)一家の内向きとゝのひてつゝしみあり (三)音樂。嬖幸は好色によりて上の愛寵を得るなり (四)天子の食膳を主るもの (五)まんぢゆうがよく蒸れて上に十字形のさけ目の出來たるものならでは食はず (六)おごり

顧榮錫炙　田文比飯

吾家所レ寡レ有者。煖之レ薛。召二諸民當レ債者一悉來。合レ券以レ責賜レ民。因燒二其券一。民稱二萬歲一。反レ齊見レ君曰。臣竊計。君宮中積二珍寶一。狗馬實二外廐一。美人充二下陳一。所レ寡レ有者義耳。竊爲レ君市レ義。矯レ命以レ責賜二諸民一。因燒二其券一。乃臣所三以爲レ君市二義也。後君就二國於薛一。民扶レ老攜レ幼。迎二道中一。君顧謂レ煖曰。先生所二以爲レ文市一レ義乃今見レ之。

㈠自ら生活すること　㈡たのむ、よる　㈢野菜の饌具　㈣劍のつか　㈤疏也、かきつけ　㈥孟嘗君の名　㈦債也、借財也　㈧其采地　㈨旅裝を整ふ　㈩券は木牘を以てこれを書し、剖きて二となし各一を收めて驗とする也　⑪陳は列也、後列といふにおなじく、妻妾の居る所

論語曰。齊景公有二馬千駟一。死之日。民無二得而稱一。

晉書。何曾字穎考。陳留陽夏人。少好レ學

齊景駟千　何曾食萬

論語に曰く、齊の景公、㈠馬千駟あり。死するの日、民得て㈡稱するなしと。

㈠駟は車一乘に馬四匹あるもの、故に馬四千匹、車千乘なり　㈡其德を也

晉書にいふ、何曾、字は穎考、陳留陽夏の人なり。少にして學を好んで博聞なり。魏に仕へて司徒となる。武帝㈠踐祚し大尉に拜す。曾、性至孝、㈡閨門整肅なり。

門下客。有頃。復彈鋏歌曰。長鋏歸來乎出無車。君爲之駕。比門下之車客。後復彈鋏歌曰。長鋏歸來乎無以爲家。君問煖有老母。使人給其食用。無使乏。後君出記。問門下客。誰能爲文收責於薛者。煖署曰能。煖治裝。載券契而行。辭曰。責畢收。以何市而反。君曰。視

と問ひ、人をして、其食用を給せしめて、乏からしむるなし。後、君、記を出し、門下の客に問ふ。「誰か能く文が爲に責を薛に收むる者ぞ」と。煖、署して曰く、「能くせん」と。煖、治裝し、券契を載せて行く。辭して曰く、「責畢く收めば、以て何をか市うて反らん。」君曰く、「吾が家に有ること寡きところの者を視よ」と。煖、薛に之き、諸民の當に債ふべき者を召して、悉く來らしむ。券を合せ、責を以て民に賜ふ。因つて其券を燒く。民、萬歲と稱す。齊に反り、君に見えて曰く、「臣竊に計るに、君の宮中、珍寶を積み、狗馬、外廐に實ち、美人、下陳に充つ。有ること寡きところの者は義のみ。竊に君の爲に義を市はんとし、命を矯め、責を以て、諸民に賜ひ、因つて其券を燒く。乃ち臣が君の爲に義を市ふ所以なり」と。後、君、國に薛に就けば、民、老を扶け、幼を攜へ、道中に迎ふ。君、顧みて煖に謂つて曰く、「先生、文の爲に義を市ふ所以、乃ち今之を見る」と。

倉粟一。以賑二貧民一。請歸レ節伏二矯制罪一。上賢而釋レ之。後爲二主爵都尉一。列二於九卿一。治務二無爲一。引二大體一不レ拘二文法一。性倨少レ禮。面折不レ能レ容二人之過一。以二數直諫一。不レ得二久居一レ位。武帝曰。古有二社稷臣一。如レ黯近レ之矣。大將軍靑侍中。上踞レ廁視レ之。丞相弘宴見。上或時不レ冠。至レ黯不レ冠不レ見也。

㈠六國の時衞弱し、故に君と稱し帝といはず ㈡比は竝也、家屋の相竝びて近接せるをいふ ㈢天子の制なりといつはる罪 ㈣法文、法律 ㈤國家と浮沈を共にする臣 ㈥天子の暇の時拜謁する

戰國策曰。齊人有二馮煖者一。貧乏不レ能二自存一。使三人屬二孟嘗君一曰。願寄二食門下一。君受レ之。左右食以二草具一。居有レ頃。倚レ柱彈二其劍一歌曰。長鋏歸來乎食無レ魚。君聞食レ之比二

戰國策に曰く、齊人馮煖といふ者あり。貧乏にして㈠自存すること能はず。人をして孟嘗君に㈡屬せしめて曰く、「願はくは、門下に寄食せん」と。君、之を受く。左右食はしむるに㈢草具を以てす。居ること頃くあつて、柱に倚り、その劍を彈じ、歌つて曰く、㈣「長鋏歸らんか、食に魚なし」と。君聞いて、之を食はしむること門下の客に比す。頃くあつて、復た鋏を彈じ、歌つて曰く、「長鋏歸らんか、出づるに車なし」と。君之が爲に駕せしめ、門下の車客に比す。後復た鋏を彈じ、歌つて曰く、「長鋏歸らんか、以て家を爲むることなし」と。君、煖に老母ありや

前漢汲黯字長孺。濮陽人。其先有レ寵二於古之衞君一。至レ黯十世。世爲二卿大夫一。孝景時。爲二太子洗馬一。以レ嚴見レ憚。武帝卽レ位。黯爲二謁者一。河内失レ火。燒二千餘家一。上使二往視一レ之。還報曰。家人失レ火。屋比延燒。不レ足レ憂。河内貧人。傷二水旱一萬餘家。或父子相食。臣謹以二便宜一持レ節。發二河内

前漢の汲黯、字は長孺、濮陽の人なり。その先、古の衞君(一)に寵あり。黯に至るまで十世、世〻卿大夫たり。孝景の時、太子の洗馬となり、嚴を以て憚らる。武帝位に卽き、黯を謁者となす。河内火を失し、千餘家を燒く。上、往いて之を視しむ。還り報じて曰く、「家人火を失し、屋比(二)延燒す。憂ふるに足らず。河内の貧人、水旱に傷むもの萬餘家。或は父子相食む。臣謹んで便宜を以て、節を持し、河内の倉粟を發し、以て貧民を賑はせり。請ふ、節を歸し矯制(三)の罪に伏せん」と。上、賢として之を釋す。後、主爵都尉となり、九卿に列す。治、無爲を務め、大體を引き、文法(四)に拘らず。性倨りて禮少く、面折して人の過を容るゝこと能はず。數〻直諫するを以て、久しく位に居ることを得ず。武帝曰く、「古社稷(五)の臣あり。黯の如きは之に近し」と。大將軍靑、侍中たるとき、上、厠に踞して之を視る。丞相弘、宴見(六)するに、上、或は時に冠せず。黯に至つては、冠せざれば見えず。

澗水一可ㇾ固。引ㇾ兵操ㇾ之。匈奴。復攻ㇾ恭。恭募二先登數千人一。直馳ㇾ之。胡騎散走。遂擁二絶澗水一。恭於二城中一穿ㇾ井十五丈。不ㇾ得ㇾ水。吏士渴乏。笮二馬糞汁一而飲ㇾ之。恭仰歎曰。聞昔貳師將軍拔二佩刀一刺ㇾ山。飛泉涌出。今漢德神明。豈有ㇾ窮哉。乃整ㇾ衣向ㇾ井拜禱。有ㇾ頃水泉奔出。乃令二吏士一揚ㇾ水以示ㇾ虜。虜以爲二神明一。遂引去。後復攻ㇾ恭。恭擊走ㇾ之。數月食盡窮困。乃煮二鎧弩一。食二其筋革一。恭與ㇾ士推ㇾ誠同二死生一。故皆無二二心一。虜圍ㇾ之不ㇾ能ㇾ下。關寵上書求ㇾ救。時肅宗用二司徒鮑昱議一。遣ㇾ軍迎ㇾ恭歸。復奏恭節過二蘇武一。宜ㇾ蒙二爵賞一。遂拜二騎都尉一。

て去る。後復た恭を攻む。恭擊つて之を走らす。數月食盡きて窮困す。乃ち(五)鎧弩を煮て、その筋革を食ふ。恭の士に與する、誠を推して死生を同じうす。故に皆二心なく、虜之を圍んで下すこと能はず。關寵上書して救を求む。時に、肅宗、司徒鮑昱の議を用ひ、軍を遣し、恭を迎へて歸す。復奏す、「恭の節、蘇武に過ぐ。宜しく爵賞を蒙るべし」と。遂に騎都尉に拜せらる。

(一) 壓也、壓取　(二) 附　(三) たにみづ　(四) 遮り絶つ　(五) よろひやいしゆみ

汲黯開倉　馮煖折劵

後漢耿恭字伯宗。扶風茂陵人。少慷慨多大略。有將帥才。永平末。爲戊巳校尉。屯金蒲城。匈奴攻城。恭乘城搏戰。以毒藥傅矢。傳語匈奴曰。漢家箭神。其中瘡者必有異。因發強弩射之。虜中矢者。視創皆沸。匈奴相謂曰。漢兵神。眞可畏也。遂解去。恭以下疏勒城傍有

後漢の耿恭、字は伯宗、扶風茂陵の人なり。少にして慷慨大略多く、將帥の才あり。永平の末、戊巳校尉となり、金蒲城に屯す。匈奴、城を攻む。恭、城に乘りて搏戰す。(一)毒藥を以て矢に傅け、(二)匈奴に傳語して曰く、「漢家の箭は神なり。その中り瘡つく者は、必ず異あらん」と。因つて強弩を發つて之を射る。虜、矢に中る者、創を視るに皆沸く。匈奴相謂つて曰く、「漢の兵は神なり。眞に畏るべし」と。遂に解いて去る。恭、疏勒城の傍に澗水あり、固むべきを以て、兵を引いて之に據る。匈奴、復た恭を攻む。恭、(三)先登數千人を募り、直に之に馳す。胡騎散走す。遂に澗水を擁絶す。(四)恭、城中に於て井を穿つこと十五丈。水を得ず。吏士渇乏し、馬の糞汁を笮つて之を飲む。恭、仰ぎ歎じて曰く、「聞く、昔貳師將軍佩刀を拔いて山を刺し、飛泉涌出すと。今漢の德神明なり。豈に窮まることあらんや」と。乃ち衣を整へて、井に向つて拜禱す。頃ありて水泉奔出す。乃ち吏士に令し、水を揚げ、以て虜に示す。虜、以て神明と爲し、遂に引い

後漢戴封字平仲。濟北剛人。擧二賢良方正一。對策第一。擢拜二議郎一遷二西華令一。汝穎有二蝗災一。獨不レ入レ界。時督郵行レ縣。蝗忽大至。及レ去蝗亦頓除。一境奇レ之。其年大旱。封禱請無レ獲。乃積レ薪坐二其上一。以自焚。火起而大雨暴至。遠近歎服。遷二中山相一。諸縣囚四百餘人。當レ行レ刑。封哀レ之。皆遣二歸家一。與剋二期日一。皆無二違者一。官至二太常一。

戴封積薪　耿恭拜井

後漢の戴封、字は平仲、濟北剛の人なり。賢良方正に擧げられ、對策第一なり。擢んでられて議郎に拜し、西華の令に遷る。汝穎に蝗災(一)あり。獨り界に入らず。時に督郵、縣を行る。蝗忽ち大に至る。去るに及びて、蝗亦た頓に除く。一境之を奇とす。其年大に旱(二)す。封、禱り請へども獲ることなし。乃ち薪を積んで、其上に坐し、以て自ら焚かんとす。火起りて、大雨暴かに至り、遠近歎服す。中山の相に遷る。諸縣の囚四百餘人、刑を行ふに當つて、封、これを哀み、皆家に遣歸し、ともに期日(三)を剋す。皆違ふものなし。官、太常に至る。

(一) いなむし多く發生して稻を食ひあらしたるも、ひとり西華の國境より内に入り來らず　(二) ひでり　(三) 獄にかへり來るべき期日を定む

左氏傳。楚子囊將レ死。遺言謂二子庚一。必城レ郢。君子謂子囊忠。君薨不レ忘レ增二其名一。將レ死不レ忘レ衞二社稷一。可レ不レ謂レ忠乎。初楚共王疾。告二大夫一曰。不穀不德。若以二大夫之靈一。獲下保二首領一以沒中於地上。請爲二靈若厲一。及レ卒。子囊曰。君命以レ共。請謚二之共一。楚徙二都郢一。未レ有二城郭一。築レ城未レ訖。子囊欲レ訖未レ暇。故遺言見レ意。

左氏傳にいふ、楚の子囊、將に死せんとするや、遺言して子庚に謂ふ、「必ず郢に城け」と。君子謂へらく、子囊忠なり。君薨じて其名を增すことを忘れず。(一)將に死せんとするに、社稷(二)を衞ることを忘れず。忠と謂はざるべけんやと。初め楚の共王疾む。大夫に告げて曰く、「不穀、不德なり。若し大夫の靈(三)を以て首領を保ち、以て地に沒するを獲ば、請ふ、靈若しくは厲となせ(四)」と。卒するに及びて、子囊曰く、「君命ずるに、共(五)を以てせり。請ふ之を共と謚せん」と。楚、都を郢に徙し、未だ城郭あらず。城を築いて未だ訖らず。子囊訖らんと欲して、未だ暇あらず。故に遺言して意を見す。

(一) 楚子薨じて共と追謚せるをいふ (二) 社は土の神、稷は穀の神、諸侯封ぜらるれば社稷を祭る、故に轉じて國家の義にいふ (三) 家老達の力により弑逆せらるゝことなく壽を全うして死するを得ばと也 (四) ともに謚也。國亂るゝも未だ滅びざるとき靈と謚し、罪なき者を殺したるとき厲と謚す (五) 恭に通ず、謚なり。卽ち身を卑下してよき謚を願はず共を以て相應なる謚と思ひし也

反任之。史魚驟諫不從。將卒。命其子曰。吾在朝。不能進蘧伯玉。退彌子瑕。是不能正君也。生不能正君。死無以成禮。我死汝置屍牖下。於我畢矣。其子從之。靈公弔焉。怪而問之。其子以其父言告公。公愕然失容曰。是寡人之過也。史魚生時。恆欲進賢而退不肖。及其死。又以屍諫。可謂至忠矣。命之殯於客位。進蘧伯玉爲上卿。退彌子瑕遠之。孔子聞之曰。古之烈諫者。死則已矣。未有若史魚。死而屍諫。忠感其君者也。可不謂直乎。

はざるなり。生きて君を正すこと能はずんば、死して以て禮を成すことなし。我死せば、汝、屍を牖下に置け。(二)我に於て畢れり(三)」と。其子之に從ふ。靈公弔し、怪んで之を問ふ。其子、其父の言を以て公に告ぐ。公、愕然として容を失うて曰く、「是れ寡人の過なり。史魚生ける時、恆に賢を進めて不肖を退けんと欲す。其死に及び、又屍を以て諫む。至忠と謂ふべし」と。之に命じて、客位(四)に殯せしめ、蘧伯玉を進めて上卿となし、彌子瑕を退けて之を遠くす。孔子之を聞いて曰く、「古の烈諫する者も、死すれば已む。未だ史魚の若く、死して屍諫(五)し、忠、其の君を感ぜしむる者あらず。直と謂はざるべけんや」と。

(一) 不才 (二) 牖は窓也、葬禮をなす勿れとの意 (三) それが我分相應也 (四) 上客の位 (五) 屍となりて諫む

假還レ洛。輜重甚盛。淵在二岸上一。據二胡床一。指二揮左右一。皆得二其宜一。淵既神姿峯穎。雖レ處二鄙事一。神氣尤異。機於二船上一。遙謂レ之曰。卿才如レ此。亦復作レ劫邪。淵便泣涕。投レ劒歸レ機。辭厲非常。機彌重レ之。與定レ交。

據り、左右を指揮し、皆その宜しきを得たり。淵、既に神姿峰穎(五)、鄙事に處すと雖も、神氣尤も異なり。機、船上に於て、遙に之に謂つて曰く、「卿の才、かくの如し。亦た復た劫(六)を作すか」と。淵便ち泣涕し、劍を投じて機に歸す。辭厲(七)非常なり。機、彌々之を重んじ、與に交を定む。

(一)男逹　(二)おひはぎを爲す　(三)休暇にて歸る　(四)一種の牀几　(五)相貌の鋭く高きこと　(六)强盜、おひはぎ　(七)言葉づかひはげし

史魚黜殯　子囊城郢

家語曰。衛大夫蘧伯玉之賢。靈公不レ用。彌子瑕不肖。

家語に曰く、衛の大夫蘧伯玉の賢、靈公用ひず。彌子瑕の不肖(一)、反つて之に任ず。史魚、驟々諫むれども從はず。將に卒せんとし、其子に命じて曰く、「吾、朝に在つて、蘧伯玉を進め、彌子瑕を退くること能はず。是れ君を正すこと能

高闓字。世説干作ㇾ萬。涌作ㇾ擒。與ㇾ此小異。

晉書。虞騤字思行。會稽餘姚人。歷二吳興太守一。王導常謂曰。孔愉有二公才一。而無二公望一。丁潭有二公望一。而無二公才一。兼ㇾ之者。其在ㇾ卿乎。官未ㇾ達而喪。時人惜ㇾ之。舊本才誤作ㇾ體。

虞騤才望　戴淵峰穎

晉書にいふ、虞騤、字は思行、會稽餘姚の人、吳興の太守を歷たり。王導、常に謂つて曰く、「孔愉は公才(一)あれども公望(二)なし。丁潭は公望あれども公才なし。これを兼ぬるものは、それ卿に在るか」と。官、未だ達せずして喪す。時人これを惜む。舊本に、才を誤つて體に作る。

(一) 三公となるべき才　(二) 三公と仰がるべき德器

世說。戴淵字若思。少游俠。嘗在二江淮閒一攻掠。陸機赴ㇾ

世說にいふ、戴淵、字は若思、少にして遊俠(一)なり。嘗て江淮の閒に在つて攻掠(二)す。陸機、假(三)に赴き、洛に還る。輜重甚だ盛なり。淵、岸上に在つて胡床(四)に

後漢黃憲字叔度。汝南愼陽人。世貧賤。父爲二牛醫一。陳蕃周擧。常相謂曰。時月之閒。不レ見二黃生一。則鄙吝之萌。復存二乎心一。及三蕃爲二三公一。歎曰。叔度若在。吾不三敢先佩二印綬一。郭林宗少。游二汝南一。先過二袁閎一。不レ宿而退。從レ憲。累レ日方還。或問レ之。林宗曰。奉高之器。譬二諸汎濫一。雖レ淸而易レ挹。叔度。汪汪若二千頃陂一。澄レ之不レ淸。淆レ之不レ濁。不レ可レ量也。後擧辟無レ所レ就。奉

後漢の黃憲、字は叔度、汝南愼陽の人、世々貧賤なり。父は牛醫たり。陳蕃●周擧、常に相謂つて曰く、「時月の閒も、黃生を見ざれば、鄙吝の萌、復た心に存す」と。●蕃、(二)三公となるに及び、歎じて曰く、「叔度若し在らば、吾敢て先づ印綬を佩びず」と。郭林宗、少きとき汝南に游び、先づ袁閎に過ぎり、宿せずして退き、憲に從へば、日を累ねて方に還る。或ひと之を問ふ。林宗曰く、「奉高の器は諸を(三)汎濫に譬ふ。淸しと雖も、挹み易し。叔度は(四)汪汪として千頃の(五)陂の若し。之を澄ませども淸まず、之を淆せども濁らず。量るべからず」と。後擧(六)辟就くところなし。奉高は閎の字なり。世說に千を萬に作り、淆を撓に作る。これと小しく異なり。

(一) 鄙しくけちくさき心 (二) 大尉・司徒・司空 (三) 汎は橫にわき出づる泉、濫は上方にわき出づる泉 (四) 水のひろ〲としたる貌 (五) 池、貯水池なり (六) 官の招命推擧

生一日千里。王佐才也。遂與定交。允少好大節。有志於立功。常習誦經傳。朝夕試馳射。三公竝辟。以司徒高第爲侍御史。獻帝時。爲司徒。及董卓遷都關中。朝政大小悉委於允。允矯情屈意。每相承附。卓亦推心不疑。故得扶持王室於危亂之中。臣主內外。莫不倚恃。允見卓簒逆已兆。密與司隷黃琬等謀共誅之。允性剛稜疾惡。初懼卓豺狼。故折節圖之。卓既殲滅。自謂無復患難。仗正持重。不循權宜之計。羣下不甚附之。反爲卓將李傕所殺。

徒の高第を以て侍御史となり、獻帝の時、司徒となる。董卓の都を關中に遷すに及び、朝政大小、悉く允に委す。允、情を矯め(三)、意を屈し、每に相承附す。卓も亦た心を推して疑はず。故に王室を危亂の中に扶持するを得たり。臣主內外倚恃せ(四)ざるなし。允、卓の簒逆(五)、已に兆すを見、密に、司隷高琬等と謀つて、共に之を誅す。允、性剛稜(六)、惡を疾む。初め卓の豺狼(七)を懼れ、故に節を折つて之を圖る。卓、既に殲滅し、自ら謂へらく、復た患難なしと。正に仗り(八)、重を持し、權宜(九)の計に循はず。羣下甚だ之に附かず。反つて、卓の將李傕の爲に殺さる。

(一) 一日千里を走る駿馬の謂、俊才をいふ　(二) 騎射　(三) 心をためいつはる也　(四) 力にする　(五) 王位をうばはんとはかること　(六) 剛毅にして威稜ある也　(七) 豺や狼の如く殘虐にして飽くことなき心　(八) 正道による　(九) 機宜に適したるたくらみ

得二白璧一雙一來。當レ爲レ婚。公至二所レ種石中一。得二玉五雙一以聘。遂以レ女妻レ之。天子異レ之。拜爲二大夫一。於二種レ玉處四角一。作二大石柱一。各一丈。中央一頃地名曰二玉田一。今北平王氏。即其後也。

幽冥錄。海陵黃尋先貧。因二大風雨一。散二飛錢一至二其家一。觸二籬園一誤落者無數。餘處皆拾得。富至二數千萬一。擅二名江北一。

幽冥錄にいふ、海陵の黃尋、先に貧し。大風雨に因つて、錢を散飛して、其家に至る。(一)籬園に觸れ、誤つて落つるもの、無數。(二)餘處皆拾ひ得たり。(三)富、數千萬に至り、名を江北に擅にす。

(一)園のまがき　(二)他處にても皆拾ひ得たり　(三)尋の家富數千萬に至れる也

王允千里　黃憲萬頃

後漢王允字子師。大原祁人。郭林宗見而奇レ之曰。王

後漢の王允、字は子師、大原祁の人なり。郭林宗見て之を奇として曰く、「王生は(一)一日千里、王佐の才なり」と。遂に與に交を定む。允少にして、大節を好み、功を立つるに志あり。常に經傳を習誦し、朝夕(二)馳射を試む。三公竝に辟す。司

雍伯。洛陽人。性篤孝。父母亡。葬二無終山一。遂家焉。山高無レ水。公汲作二義漿於坂頭一。行者皆飲レ之。三年有二一人一就飲。出二懷中石子一升一。與レ之云。種レ此。玉當レ生二其中一。又得二好婦一。言畢不レ見。乃種二其石一。數歲時時往視。見二玉子生一。北平徐氏有レ女。人多求不レ許。公試求焉。徐氏戲云。

に葬り、遂に家す。（一）山高くして水なし。公、汲んで義漿（二）を坂頭に作り、行くもの、皆これを飲む。三年にして、一人あり、就いて飲む。懷中より石子（三）一升を出し、これに與へて云ふ、「これを種ゑよ。玉、當に其中に生ずべし。又好婦を得ん」と。言畢つて見えず。乃ち其石を種う。數歲にして、時時往いて觀れば、玉子の生ずるを見る。北平の徐氏、女あり。人多く求むれども許さず。公、試に求む。徐氏戲れて（四）云ふ、「白璧一雙を得て來らば、當に婚を爲すべし」と。公、種うるところの石中に至り、玉五雙を得て以て聘す。遂に女を以て、之に妻あはす。天子、これを異とし、拜して大夫となす。玉を種うる處の四角に於て、大石柱を作る。各一丈。中央一頃（五）の地を名づけて、玉田といふ。今の北平の王氏は、卽ち其後なり。

（一）其まゝ無終山に住む　（二）義は衆と事を共にすること、漿は水也。人に施す飲料水をいふ　（三）小石也　（四）公は微賤、故に徐氏以て狂となし、其璧あるべからざるを計りてかくいへる也　（五）百畝をいふ

異。輒傳經術。言得失。文雅雖不及蕭望之匡衡。然指意略同。哀帝時為丞相。上欲封當。當召。病篤不應召。或謂當。不可強起受侯印。為子孫邪。當曰吾居大位。已負素餐責矣。起受侯印。還臥而死。死有餘罪。今不起者。所以為子孫也。遂乞骸骨。上賜養牛一。上尊酒十石。月餘卒。子晏以明經歷位大司徒。漢興惟韋平父子至宰相。

の為にすべからざらんや。」當曰く、「吾、大位に居て、すでに素餐(四)の責を負ふ。起つて、侯印を受け、還つて臥して死すれば、死して餘罪あらん。今起たざるは、子孫の為にする所以なり」と。遂に骸骨を乞ふ(五)。上、養牛一、上尊酒十石を賜ふ。月餘にして卒す。子の晏、明經を以て位大司徒を歴たり。漢興つて、惟だ韋平(六)父子、宰相に至る。

(一) 本づきて也　(二) 文章の雅正なるは　(三) 趣旨精神　(四) 空しく祿を食むのせめ　(五) 退官せんと請ふ　(六) 父子宰相に至る、故に題に「相延」といふ也

雍伯種玉　黄尋飛錢

搜神記。羊公

搜神記にいふ、羊公雍伯は、洛陽の人なり。性篤孝なり。父母亡せて、無終山

車騎將軍。輔政。元帝立。復封延壽中子嘉爲平恩侯。後亦爲大司馬車騎將軍。武帝衛太子史良娣。宣帝祖母也。良娣生男進。號史皇孫。武帝末。巫蠱事起。衛太子及良娣史皇孫皆遭害。皇孫有男。號皇曾孫。既登位。是爲宣帝。而良娣母及兄恭已死。乃封恭子高爲樂陵侯。曾爲將陵侯。玄爲平臺侯。及高子丹以功德封武陽侯。侯者凡四人。高至大司馬車騎將軍。丹左將軍。

平臺侯となし、及び高の子丹、功德を以て武陽侯に封ぜらる。侯たるもの凡そ四人。高は大司馬車騎將軍に至り、丹は左將軍たり。

㈠ 顯の小女を皇后と爲さんと欲し、女醫淳于衍に毒殺せしめし也　㈡ 史は氏(ウヂ)良娣は女官の名にて、太子妃の次に位す　㈢ 巫はみこ也、蠱はまじなひ師也。此事件のこと「丙吉牛喘」に出づ

前漢韋賢及子玄成。皆爲丞相。平當字子思。平陵人。以明經爲博士。公卿薦當。論議通明。給事中。每有災

前漢の韋賢、及び子玄成、皆丞相となる。平當、字は子思、平陵の人なり。明經を以て、博士となる。公卿、當を薦む、論議通明なりと。給事中とす。災異ある每に、輒ち經術に傅きて、㈠得失を言ふ。㈡文雅は蕭望之・匡衡に及ばずと雖も、然れども、㈢指意略ゝ同じ。哀帝の時、丞相となる。上、召して、當を封ぜんと欲す。當、病篤く、召に應ぜず。或ひと當に謂ふ、「强ひて起つて侯印を受け、子孫

不レ異。乃徐言曰。嚢爛ニ汝手一。其性度如レ此。海內稱爲ニ長者一。

前漢宣帝許皇后。元帝母也。爲ニ霍光夫人顯一所レ毒崩。及ニ元帝爲ニ太子一。迺封ニ后父廣漢一爲ニ平恩侯一。其弟舜爲ニ博望侯一。延壽爲ニ樂成侯一。許氏侯者三人。廣漢薨。謚ニ戴侯一。宣帝以ニ延壽一。爲ニ大司馬

許史侯盛　韋平相延

前漢宣帝の許皇后は、元帝の母なり。霍光の夫人顯に毒せられて崩ず。元帝、太子たるに及んで、迺ち后の父廣漢を封じて、平恩侯(一)となし、その弟舜を博望侯となし、延壽を樂成侯となす。許氏の侯たるもの三人。廣漢薨ず。戴侯と謚す。宣帝、延壽を以て大司馬車騎將軍となして政を輔けしむ。元帝立つ。復た延壽の中子嘉を封じて、平恩侯となし、後亦た大司馬車騎將軍となす。武帝の衞太子の史良娣(二)は、宣帝の祖母なり。良娣、男進を生む。史皇孫と號す。武帝の末、巫蠱の事起る。衞太子及び良娣・史皇孫、皆害に遭ふ。皇孫、男あり、皇曾孫と號(三)す。すでにして位に登る。これを宣帝となす。而して、良娣の母、及び兄恭すでに死す。乃ち恭の子高を封じて樂陵侯となし、曾を將陵侯となし、玄を

文饒。弘農華陰人。桓帝時。遷㆓南陽太守㆒。典㆓歷三郡㆒。溫仁多ㇾ恕。雖ㇾ在㆓倉卒㆒。未㆓嘗疾言遽色㆒。吏人有ㇾ過。但用㆓蒲鞭㆒罰ㇾ之。示ㇾ辱而已。靈帝時。爲㆓大尉㆒。帝頗好㆓學藝㆒。每㆓引見㆒。常令ㇾ講ㇾ經。寬常於ㇾ坐被ㇾ酒睡伏。帝問㆓大尉醉邪㆒。對曰。臣不㆓敢醉㆒。但任重責大。憂心如ㇾ醉。帝重㆓其言㆒。夫人欲㆓試ㇾ寬令ㇾ恚。伺㆘當㆓朝會㆒裝嚴已訖㆖。使㆘婢奉㆓肉羹㆒。翻汙㆗朝服㆖。婢遽收ㇾ之。寬神色

(一)典歷す。溫仁にして恕多し。(二)倉卒に在りと雖も、未だ嘗て(三)疾言遽色せず。吏人過あれば、但だ(四)蒲鞭を用ひて、之を罰し、辱を示すのみ。靈帝の時、大尉となる。帝、頗る學藝を好む。引見する每に常に經を講ぜしむ。寬、常て坐に於て(五)酒を被つて睡り伏す。帝問ふ、「大尉醉へりや。」對へて曰く、「臣、敢て醉はず。但だ任重く責大に、憂心醉へるが如し」と。帝、その言を重んず。夫人、寬を試みて恚らしめんと欲し、朝會に當り、(六)裝嚴すでに訖るを伺ひ、婢をして肉羹を奉じ、翻して朝服を汙さしむ。婢、遽て丶之を收む。寬、神色異ならず。乃ち徐に言つて曰く、「羹、汝の手を爛らし丶ならん」と。その性度かくの如し。海內稱して長者となす。

(一) つかさとり歷たり (二) あわたゞしき時にも (三) 言をはげまして人に對し、或はあわてたる顏色をせず (四) がまの穗をむちとせるもの、之にて打つも痛からず (五) 酒に醉ひ (六) おごそかなる朝服の裝ひ

結二恩德一。及二後入レ界。老幼相攜。逢二迎道路一。所レ過問二民疾苦一。聘二求者德雄俊一。設二几杖之禮一。朝夕與二參政事一。始到行レ部。到二西河美稷一。有二童兒數百一。各騎二竹馬一。於二道次一迎拜。伋問。兒曹何自レ遠來。對曰。聞二使君到一喜。故來奉迎。伋辭二謝之一。及二事訖一。諸兒復送至二郭外一。問使君何日當レ還。伋計レ日告レ之。既還。先レ期一日。伋爲レ違二信於諸兒一。遂止二野亭一。須レ期乃入。

の美稷(三)に至る。童兒數百あり。各竹馬に騎し、道次に於て迎拜す。伋問ふ、「兒曹何ぞ遠きより來れる。」對へて曰く、「使君(四)到ると聞いて喜ぶ。故に來つて奉迎す」と。伋、これを謝辭す。事訖るに及び、諸兒、復た送つて郭外に至る。問ふ、「使君、何れの日か當に還るべき」と。伋、日を計つて之に告ぐ。すでに還る。期(五)に先つこと一日なり。伋、信を諸兒に違へたるが爲に、遂に野亭に止まり、期を須つて乃ち入る。

(一) 德行のすぐれたる者、才能の勝れたる者などをめしかゝふ。耆とは歲八十又は六十なり、即ち老人の德ある者なり (二) 几はオシマヅキと訓じ、脇息のこと、杖はつゑ也。即ち老者を優遇するの禮をいふ也 (三) 縣の名 (四) 州牧の敬稱 (五) 約束の日限

後漢劉寛字

後漢の劉寛、字は文饒、弘農華陰の人。桓帝の時、南陽の太守に遷り、三郡を

舊注引二世説一云。周鎮罷二臨川一。泊二清溪渚一。王丞相導往看レ之。時夏暴雨。船狹小又大漏。殆無二坐處一。王曰。胡威之淸。何以過レ此。卽啓用レ之。今本無レ載。

舊注に、世説を引いて云ふ、周鎮、(一)臨川を罷め、淸溪渚に泊す。(二)王丞相導、往いて之を看る。時に夏にして暴かに雨る。船狹小にして又大に漏る。殆んど坐するところなし。王曰く、「(三)胡威の淸、何を以て此に過ぎん」と。卽ち啓して之を用ふ。(四)今本に載するなし。

(一)臨川の太守を罷め　(二)丞相王導　(三)胡威の淸廉、「胡威推縑」の條に見ゆ　(四)古本世說に見ゆと也

郭伋竹馬　劉寛蒲鞭

後漢郭伋字細侯。少有二志行一。王莽時爲二幷州牧一。建武中復爲レ牧。伋前在二幷州一。素

後漢の郭伋、字は細侯、少にして志行あり。王莽の時、幷州の牧となる。建武中、復た牧となる。伋、前に幷州に在りて、素より恩德を結ぶ。後、界に入るに及び、老幼相攜へて、道路に逢迎す。過ぐるところ、民の疾苦を問ひ、(一)耆德雄俊を聘求し、(二)几杖の禮を設け、朝夕政事に與參せしむ。始め到つて、部を行り、西河

即位。拜蜀郡太守。又爲漁陽太守。捕擊姦猾。賞罰必信。吏民皆樂爲用。匈奴嘗以萬騎入漁陽。堪擊破之。郡界以靜。乃於孤奴。開稻田八千餘頃。勸民耕種。以致殷富。百姓歌曰。桑無附枝。麥穗兩岐。張公爲政。樂不可支。視事八年。匈奴不敢犯塞。帝嘗召見諸郡計吏。問前後守令能否。蜀計掾進曰。張堪昔在蜀。仁以惠下。威能討姦。前公孫述破時。珍寶山積。捲握之物足富十世。而堪去職日之。乘折轅車。布被囊而已。帝聞歎息。

田八千餘頃を開き、民に耕種を勸め、以て殷富(四)を致さしむ。百姓歌つて曰く、『桑(五)に附枝なし。麥穗兩岐。張公政を爲して、樂支るべからず』と。事を視ること八年。匈奴、敢て塞を犯さず。帝嘗て諸郡の計吏を召見し、前後守令の能否(六)を問ふ。蜀の計掾、進んで曰く、「張堪、むかし蜀に在り。仁、以て下を惠み、威、能く姦を討つ。前に公孫述破るゝとき、珍寶山積し、捲握(七)の物も、十世を富ますに足る。而して、堪、職を去るの日、折轅車(八)に乘り、布被の囊のみ」と。帝、聞いて歎息す。

(一) 行正しく嚴し　(二) よこしまにしてずるき者　(三) 縣の名　(四) 富みさかゆ　(五) 桑には寄生木なく、麥の穗兩またありとなり、豐穰を稱したるなり　(六) やり手なりしか無能なりしかを問ひしなり　(七) 一にぎりの物の意、珠玉の類をいふなるべし　(八) ながゑの折れたる車

母傅太后從弟商一。崇諫。太后大怒。又諫二董賢貴寵過一レ度。由レ是重得レ罪。尚書令趙昌。佞諂害レ崇。奏與二宗族一通。疑有レ姦。請レ治。上責曰。君門如二市人一。何以欲レ禁二切主上一。對曰。臣門如レ市。臣心如レ水。願得二考覆一。上怒下二崇獄一窮治。竟死二獄中一。

切せんと欲す。」對へて曰く、「臣の門は市の如く、臣の心は水の如し。(八)願はくは、考覆を得ん」と。(九)上怒つて、崇を獄に下して窮治す。竟に獄中に死す。

(一)縁を結ぶ　(二)重ねて主上の意に逆ひ罪を得　(三)おもねりへつらふ　(四)宗族と交通す　(五)崇を也　(六)標題に所謂門雜也、門前に人の雜踏すると市の如し　(七)數々諫めて主上を制禁するは何ぞや。内々宗族と通じ、主上を諫め制して其間に畫策謀議する所あるならんと也　(八)至りて淸しと也　(九)よく考へしらべられたし

後漢張堪字君游。南陽宛人。年十六。受二業長安一。志美行厲。諸儒號曰二聖童一。世祖

張堪折轅　周鎮漏船

後漢の張堪、字は君游、南陽宛の人なり。年十六、業を長安に受く。志美にして行厲に、(一)諸儒號して聖童といふ。世祖位に卽いて、蜀郡の太守に拜す。又漁陽の太守となる。姦猾を捕擊し、(二)賞罰必信、吏民皆用を爲すを樂しむ。匈奴嘗て萬騎を以て漁陽に入る。堪擊つて之を破る。郡界以て靜なり。乃ち(三)狐奴に於て、稻

己。言有レ可レ采。必演而成レ之。面告ニ其短。而退稱レ所レ長。薦ニ達賢士。多レ所ニ奬進。知而不レ言。以爲ニ己過。海内英俊。皆信ニ服之。曹操既積ニ嫌忌。而郗慮搆ニ成其罪。遂見レ害。魏文帝意好ニ融文辭。每歎曰。楊班儔也。

論議のみを事とせるを以て閑職といへる也 (六) 其善行が自分より出でたるごとく喜ぶ (七) 演衍して其言を成就せしむ (八) 面と向ひて其人の短所を告げ戒む (九) 融を忌み嫌ふ心段々と積りて (一〇) 郗慮といふ者操にへつらひ融の罪を誣ひ構ふ (一一) 本傳には「深」に作る

前漢鄭崇字子游。高密大族。世與ニ王家ニ相嫁娶。從ニ平陵。哀帝擢爲ニ尙書僕射。數求レ見諫爭。上初納ニ用之。每レ見曳ニ革履。上笑曰。我識ニ鄭尙書履聲。久之上欲レ封ニ祖

前漢の鄭崇、字は子游、高密の大族なり。世々王家と相嫁娶す。(一)平陵に徙る。哀帝擢んでゝ尙書僕射となす。數々見えんことを求めて、諫爭す。上、初は之を納用す。見るごとに革履を曳く。上笑つて曰く、「我、鄭尙書の履聲を識る」と。久しうして、上、祖母傅太后の從弟商を封ぜんと欲す。崇諫む。太后、大に怒る。又董賢の貴寵度に過ぐるを諫む。これに由つて、(二)重ねて罪を得たり。尙書令趙昌、(三)佞諂にして崇を害とし、奏すらく、(四)「宗族と通ず。疑ふらくは、姦あらん」と。上、(五)責めて曰く、「君の門、(六)市人の如し。何を以てか主上を(七)禁

學。博涉多ニ該覽一。爲ニ北海相一。時袁曹方盛。而融無レ所ニ協附一。負ニ其高氣一。志在レ靖レ難。而才疏意廣。迄無ニ成功一。劉備表領ニ青州刺史一。後爲ニ少府一。拜ニ太中大夫一。性寬容少レ忌。好レ士喜誘ニ益後進一。及レ退ニ閑職一。賓客日盈レ門。常歎曰。坐上客恒滿。樽中酒不レ空。吾無レ憂矣。聞ニ人之善一。若レ出ニ諸

なり、しかも、融、協附(三)するところなし。その高氣を負み、志、難を靖んずるに在り。しかも、才疏く意廣く、迄(四)に成功するなし。劉備、表して青州の刺史を領せしむ。後に少府となり、太中大夫に拜す。性寬容にして忌むこと少し。士を好み、喜んで後進を誘益す。閑職に退くに及び、賓客日に門に盈つ。常に歎じて曰く、「坐上客恒に滿つ。樽中(五)の酒空しからず。吾、憂なし」と。人の善を聞いては、(六)これを己より出づるが若くし、言采るべきあれば、必ず演(七)べて之を成す。面(八)のあたり、その短を告ぐれども、退いては長ずるところを稱し、賢士を薦達し、奬進するところ多し。知つて、言はざれば以て己の過となす。海内の英俊、皆これに信服す。曹操、すでに嫌忌(九)を積み、而して、郗慮(一〇)、その罪を構へ成す。遂に害せらる。魏の文帝、意(一一)、融の文辭を好み、毎に歎じて曰く、「楊班の儔なり」と。

(一) 博く羣書に涉り該ね覽る所多し　(二) 袁紹と曹操　(三) 和同親附す　(四) 迄は竟也　(五) 太中大夫の職は言説

在後。從者皆恐。至滹沱河。侯吏還白。河水流澌。無船不可濟。令霸往視。霸恐驚衆。欲且前阻水。還即詭曰。氷堅可渡。官屬皆喜。光武笑曰。侯吏果妄語。遂前比至河。河氷亦合。乃令霸護渡。未畢數騎而氷解。上謂曰。安吾衆得濟免者。卿之力也。又謂官屬曰。王霸權以濟事。殆天瑞也。以爲軍正。後至上谷太守。

堅くして渡るべし」と。官屬皆喜ぶ。光武笑つて曰く、「候吏果して妄語す」と。遂に前んで河に至る比、河氷亦た合す。乃ち霸をして渡(六)を護らしむ。(七)未だ數騎を畢へずして氷解く。上、謂つて曰く、「吾が衆を安んじ、濟り免るゝを得るは、卿の力なり」と。又官屬に謂つて曰く、「王霸、(八)權りて以て事を濟す、殆んど天瑞(九)なり」と。以て軍正となす。後に上谷の太守に至る。

(一) 逃げ逝きたり (二) 疾き風ありて始めて風に倒れざる強き草を知り得。以て事に遭ひて撓けざる勇士に比する也 (三) ものみ、斥候 (四) 氷解けて流る (五) 兎に角前進して水に據り、背水の陣を布かんと欲す (六) 渡水を (七) 軍皆渡り、唯數騎だけ渡り畢らぬ所にて氷解けたり (八) 機智を運らし事を謀り成す (九) 天命の一幸運

孔融坐滿　鄭崇門雜

後漢孔融好

後漢の孔融、學を好み、博渉(一)して該覽多し。北海の相となる。時に袁曹(二)方に盛

前漢李廣利發二屬國六千騎一。及郡國惡少年數萬人一。以往至二貳師城一。取二善馬一。故號二貳師將軍一。耿恭曰。昔貳師拔二佩刀一刺レ山。飛泉涌出。

前漢の李廣利は屬國の六千騎、及び郡國の惡少年(一)數萬人を發して、以て往いて(二)貳師城に至り、善馬を取る。故に貳師將軍と號す。(三)耿恭曰く、「むかし、貳師、佩刀を拔いて山を刺す。飛泉涌き出づ」と。

(一)强力にして義を踏み行はざる少年　(二)大宛國の城の名　(三)後出「耿恭拜井」の條を參照せよ

後漢王霸字元伯。潁川潁陽人。從二光武一爲二功曹令史一。光武曰。潁川從レ我者皆逝。而子獨留。努力。疾風知二勁草一。及二王郎起一。光武在レ薊。卽南馳。聞二郎兵

後漢の王霸、字は元伯、潁川潁陽の人なり。光武に從つて、功曹令史たり。光武曰く、「潁川の我に從ふもの皆逝る(一)。しかるに子獨り留まる。努力せよ。(二)疾風に勁草を知る」と。王郎の起るに及んで、光武、薊に在つて、卽ち南に馳す。郎の兵、後に在りと聞いて、從者皆恐る。滹沱河に至る。(三)候吏還つて白す、「河水澌(四)を流す。船なければ濟るべからず」と。霸をして、往いて視せしむ。霸、衆を驚かさんことを恐れ、且く(五)前んで水に阻らんと欲す。還つて、卽ち詭つて曰く、「氷

處レ世。當レ掃二除天下一。安事二一室一乎。勒知三其有二清世志一。甚奇レ之。後爲二樂安太守一。時李膺爲二青州刺史一。名レ有二威政一。屬城聞レ風皆自引去。蕃獨以二清績一留。郡人周璆字孟玉。高潔之士。前後郡守。招命不レ至。唯蕃能致焉。字而不レ名。特爲置二一榻一。去則懸レ之。後爲二豫章太守一。以レ禮待二徐稺一爲二功曹一。性方峻。不レ接二賓客一。惟稺來。特設二一榻一。去則懸レ之。靈帝初。爲二太傅一錄二尙書事一。與二大將軍竇武一。謀レ誅二中官一。事泄見レ害。

玉、高潔の士なり。前後の郡守、招命すれども至らず。唯だ蕃能く致す。(六)字して(七)名いはず。特に爲に(八)一榻を置き、去れば之を(九)懸く。後、豫章の太守となる。禮を以て徐稺を待ち、功曹となす。性方峻(一〇)にして、賓客に接らず。惟だ稺來れば、特に一榻を設け、去れば之を懸く。靈帝の初、太傅と爲つて尙書の事を錄ぶ。大將軍竇武と中官(一一)を誅せんことを謀り、事泄れて害せらる。

(一) 靜かに籠り居て (二) 庭や屋宇に草生じ塵積る (三) 伺ひ見る (四) 州の所屬の城の太守等、其風を聞き、己の秕政を發かれんことを恐れ自ら引き去る (五) 清き治績あるを以て (六) 招き寄す (七) 尊敬して字を呼び本名をいはず (八) 一つの腰掛 (九) 他人に用ひしめざる也 (一〇) 正しくしてきびし (一一) 宦官

廣利泉涌　王霸氷合

穆生設レ醴。及ニ元王薨一。後至ニ孫戊即一レ位。常設。後忘レ設焉。穆生退曰。可ニ以逝一矣。醴酒不レ設。王之意怠。不レ去楚人將レ鉗ニ我於市一。先王之所ニ以禮ニ吾三人一者。爲ニ道之存一。今而忽レ之。是忘レ道也。忘レ道之人。胡可ニ與久處一。遂謝レ病去。申公白公獨留。王稍淫暴。二人諫不レ聽。胥ニ靡之一。

る。申公・白公、獨り留まる。王稍く淫暴にして、二人諫むれども聽かず。これを胥靡す。(四)

(一) 荀卿の門人にて楚の時の學者　(二) あまざけ　(三) 鐵にて頸を束ぬ。囚徒とするをいふ　(四) つなぎて囚徒として服役せしむるなり

後漢陳蕃字仲擧。汝南平輿人。年十五。嘗閑ニ處一室一。而庭宇蕪穢。父友薛勤來候レ之。謂レ蕃曰。孺子何不ニ灑掃以待ニ賓客一。蕃曰。大丈夫

後漢の陳蕃、字は仲擧、汝南平輿の人なり。年十五、嘗に一室に閒處して(一)庭宇(二)蕪穢す。父の友薛勤、來つて之を候し、蕃に謂つて曰く、「孺子、何ぞ灑掃して以て賓客を待たざる。」蕃曰く、「大丈夫の(三)世に處する、當に天下を掃除すべし。安んぞ一室を事とせんや」と。勤、その淸世の志あるを知つて、甚だ之を奇とす。後、樂安の太守となる。時に、李膺、靑州の刺史となり、威政あるに名あり。屬(四)城風を聞いて皆自ら引いて去る。蕃、獨り淸績(五)を以て留まる。郡人周璆、字は孟

至二宰相封侯一。於レ是起二客館一。開二東閣一。以延二賢人一。與二參謀議一。弘身食二一肉脫粟飯一。故人賓客仰二衣食一。奉祿皆以給レ之。家無レ所レ餘。然其性意忌。諸嘗有レ隙。雖二陽與善一。後竟報二其過一。殺二主父偃一。徙二董仲舒膠西一。皆弘力也。

楚元置醴　陳蕃下榻

前漢楚元王交字游。高祖少弟。好レ書多二材藝一。嘗與二魯穆生白生申公一。俱受二詩於浮丘伯一。及レ封二楚王一。以二穆生等一。爲二中大夫一。敬二禮申公等一。穆生不レ嗜レ酒。每二置酒一。常爲二

前漢の楚の元王交、字は游、高祖の少弟なり。書を好みて材藝多し。嘗て魯の穆生・白生・申公と倶に詩を(一)浮丘伯に受く。楚王に封ぜらるゝに及び、穆生等を以て中大夫となし、申公等を敬禮す。穆生、酒を嗜まず。置酒する每に、常に穆生の爲に(二)醴を設く。元王薨ずるに及び、後、孫の戊の位に卽くに至るまで、常に設く。後、設くるを忘る。穆生退いて曰く、「以て逝るべし。醴酒の設けざる、王の意怠る。去らずんば、楚人將に我を市に(三)鉗せんとす。先王の吾三人を禮する所以の者は、道の存するが爲なり。今にして之を忽にするは、これ道を忘れたるなり。道を忘れたるの人、胡ぞ與に久しく處るべけんや」と。遂に病を謝して去

上。年四十餘乃學二春秋雜說一。武帝立。時弘年六十。以二賢良一徵爲二博士一。免歸。後復徵二賢良文學一。對策。天子擢爲二第一一。召見容貌甚麗。拜二博士一。待二詔金馬門一。稍遷至二丞相一。封二平津侯一。其後以爲二故事一。至二丞相一封自レ弘始。時上方興二功業一。屢擧二賢良一。弘自見爲二擧首一。起二徒步一數年

(二)免ぜられて歸る。後、復た賢良文學に徵され對策す。天子擢んで丶第一となす。召し見るに、容貌甚だ麗し。博士に拜し、(三)金馬門に待詔し、稍く遷つて丞相に至り、平津侯に封ぜらる。その後、(四)以て故事となす。丞相に至つて、封ぜらるるは、弘より始まる。時に、上方に功業を興し、(五)屢〻賢良を擧ぐ。弘、自ら(六)擧首とせらる。(七)徒步より起り、數年にして、宰相封侯に至る。是に於て、客館を起し、(八)東閣を開き、以て賢人を延いて、謀議に與參せしむ。弘、身、(九)一肉脫粟飯を食ふ。故人賓客、衣食を仰ぐ、奉祿皆以て之に給し、家に餘すところなし。然れども、その性、(一〇)意忌む。諸の嘗て(一一)隙あるは、陽に與に善くすと雖も、後、竟に其過に報ゆ。主父偃を殺し、董仲舒を膠西に徙す。皆弘の力なり。

(一) 海濱　(二) 弘、匈奴に使して還り報告せしに、武帝以て不能となす。其爲に免官となりて故鄉に歸る　(三) 召されて未だ正官に就かざる間、金馬門にて命の下るを待つ　(四) 公孫弘が丞相に至りて封侯せられしを典例とす　(五) 歷也　(六) 擢んじて第一とせらる　(七) 卑しき身分　(八) 東向きの小門　(九) 一品の肉と玄米の飯　(一〇) 人をいみきらふ所多し　(一一) 間隙、不和

城令吳質書。其略曰。每念ニ昔日南皮之遊。誠不可忘。既妙ニ思六經ニ。逍ニ遙百氏ニ。彈棊閒設。終以ニ博奕。高談娛心哀箏順耳。馳ニ騁北場ニ。旅ニ食南館ニ。浮ニ甘瓜於淸泉ニ。沈ニ朱李於寒水ニ。皦日既沒。繼以ニ朗月ニ。同乘竝載以遊ニ後園ニ。余顧而言玆樂難常。質字季重。濟陰人。以ニ文才ニ爲ニ文帝所ニ善。官至ニ振威將軍ニ。

思し、百氏に逍遙し、(四)彈棊閒ゝ設け、終りに博奕を以てす。(五)高談心を娛ましめ、(六)哀箏耳に順ふ。(七)北場に馳騁し、(八)南館に旅食し、甘瓜を淸泉に浮べ、(九)朱李を寒水に沈め、(一〇)皦日すでに沒し、繼ぐに朗月を以てす。同じく乘り竝びに載せ、以て後園に遊びぬ。(一一)余顧みて言ふ、この樂常なり難しと。』質、字は季重、濟陰の人なり。文才を以て文帝に善せられ、官、振威將軍に至る。

(一) 題に魏儲といふは即ち魏の太子の義也 (二) 縣の名、文帝の嘗て吳質と遊びし地也 (三) 六經の深き趣を味ひ百家の書に心を遊ばしめたり (四) 一種の遊戲、黑白の棊子各六個（又八個）を持ち、二人相對し相擊ちて勝負を爭ふもの (五) 老莊虛無の說をなすなり、淸談 (六) 聲淸き箏 (七) 北の馬場に馬を馳せ (八) 旅は集也。衆と會食す (九) 赤きすもゝ (一〇) 白日 (一一) 今に至りて其當時を回顧して

前漢公孫弘。菑川薛人。少家貧牧ニ豕海

前漢の公孫弘は菑川薛の人、少にして家貧し。(一)豕を海上に牧す。年四十餘、乃ち春秋雜說を學ぶ。武帝立つ。時に弘年六十。賢良を以て徵され、博士となる。

督郵至レ縣。吏白。應二束帶見一レ之。潛歎曰。吾不レ能下爲二五斗米一折上レ腰。拳拳事二鄉里小人一邪。即解二印綬一去レ縣。乃賦二歸去來一。後徵二著作郎一不レ就。又不レ營二生業一。遇レ酒則飲。嘗言夏月虛閑高二臥北窻之下一。清風颯至。自謂二羲皇上人一。性不レ解レ音。畜二素琴一張一。絃徽不レ具。毎二朋酒之會一。則撫而和レ之曰。但識二琴中趣一。何勞二絃上聲一。

のみ。何ぞ絃上の聲を勞せんや」と。

(一) けだかき志 (二) 氣秀て、物事に拘泥せざること (三) 己の天眞のまゝにして虛飾する事なく (四) 事實の記錄 (五) もち粟、酒を醸す原料 (六) うるち稻 (七) 行、くだ〳〵しからずして志高し (八) 郡守の屬官にて郡中の非法を糾す役人 (九) 禮裝して (一〇) 僅かばかりの俸給の爲にぺこ〳〵しては居られず (一一) ねんごろに謹み敬ひて (一二) 俗務もなく靜かなる時 (一三) 太古伏羲時代の人たる思あり (一四) 飾無き琴 (一五) つる、ことぢ (一六) 朋友との酒飲み會 (一七) 友の歌に (一八) たゞ琴中の趣を解すれば足る、何も絃上の聲など聞くには及ばぬ事也

魏儲南館　漢相東閤

魏文帝諱丕。字子桓。爲二太子一時。嘗與二元

魏の文帝、諱は丕、字は子桓。太子(一)たる時、嘗て元城の令吳質に書を與ふ。その略に曰く、『昔日南(二)皮の遊を念ふ毎に、誠に忘るべからず。すでに六經(三)を妙

晉陶潛字元亮。潯陽人。大司馬侃曾孫。少懷二高尚一。博學善屬レ文。穎脫不羈。任レ眞自得爲二鄕鄰一所レ貴。嘗著二五柳先生傳一。以自況。時人謂二之實錄一。爲二彭澤令一。在レ縣公田悉令レ種二秫穀一。曰令三吾常醉二於酒一足矣。妻子固請レ種レ秔。乃使二一頃五十畝種レ秫。素簡貴不レ私事二上官一。郡遣二

晉の陶潛、字は元亮、潯陽の人なり。大司馬侃の曾孫なり。少にして(一)高尙を懷き、博學にして善く文を屬る。(二)穎脫不羈、(三)眞に任せて自得し、鄕隣の爲に貴ばる。嘗て五柳先生の傳を著し、以て自ら況ぶ。時人之を實錄(四)と謂ふ。彭澤の令となり、縣にあり。公田に悉く秫穀(五)を種ゑしめ、曰く、「吾をして常に酒に醉はしめば足れり」と。妻子固く秔(六)を種ゑんと請ふ。乃ち一頃の五十畝に秫を種ゑ、五十畝に秔を種ゑしむ。素より簡貴、(七)私に上官に事へず。郡、督郵(八)を遣し、縣に至らしむ。吏白す、「應に束帶(九)して之に見ゆべし」と。潛歎じて曰く、「吾、五斗米(一〇)の爲に、腰を折ること能はず。拳拳(一一)として鄕里の小人に事へんや」と。卽ち印綬を解いて縣を去り、乃ち歸去來を賦し、後、著作郎に徵さるゝも就かず。又生業を營まず。酒に遇へば則ち飲む。嘗て言ふ、「夏月虛閒、(一二)北窗の下に高臥し、淸風颯として至らば、自ら羲皇(一三)上の人と謂ふ」と。性、音を解せざれども、素琴(一四)一張を畜ふ。絃徽(一五)具はらず。朋酒(一六)の會ごとに撫して之に和して(一七)曰く、「但だ琴中(一八)の趣を識る

晉書。張翰字季鷹。呉人。有二淸才一。善屬レ文。而縱任不レ拘。時人號爲二江東步兵一。旣入レ洛。齊王冏辟爲二大司馬東曹掾一。翰因レ見二秋風起一。乃思二呉中菰菜蓴羹鱸魚鱠一曰。人生貴レ得レ適レ志。何能羈二宦數千里一。以要二名爵一乎。遂命レ駕而歸。俄而冏敗。人皆謂二之見一レ機。或曰。卿乃可レ縱二適一時一。獨不レ爲二身後名一邪。答曰。使三我有二身後名一。不レ如二卽時一盃酒一。時人貴二其曠達一。

晉書にいふ、張翰、字は季鷹、呉の人なり。淸才あり、善く文を屬す。しかも縱任(一)にして拘らず、時人號して江東の步兵(二)となす。旣に洛に入る。齊王冏、辟して大司馬東曹の掾となす。翰、秋風の起るを見るに因り、乃ち呉中の菰菜(三)・蓴羹・鱸魚の鱠を思うて曰く、「人生は志に適ふを得るを貴ぶ。何ぞ能く數千里に羈宦(四)し、以て名爵を要めんや」と。遂に駕を命じて歸る。俄にして冏敗る。人皆之を機を見ると謂ふ。或ひと曰く、「卿、乃ち一時に縱適すべきも、獨り身後の名を爲さずや。」答へて曰く、「我をして身後の名あらしむるは、卽時一盃の酒に如かず」と。時人その曠(五)達を貴ぶ。

(一) ほしいまゝなり、氣任に事を爲して　(二) 張翰は呉人なるが故に江東といふ、步兵は步兵校尉にて阮籍の官也。卽ち張翰は江東の阮籍とも稱すべしと也　(三) 菰菜は食用となる一種の水草。蓴羹はじゆんさいのあつもの。鱸魚の鱠はすゞきのなます　(四) 官職の爲に束縛せらる　(五) 心ひろくしてよく大局の義に通達す

爲レ業。舍東南角籬上有二桑樹一生。高五丈餘。遙望見三童童如二小車蓋一。或謂當レ出二貴人一。先主少時。與二諸小兒一於二樹下一戲言。吾必當レ乘二此羽葆蓋車一。先主垂レ手下レ膝。顧自見二其耳一。好二交結一。豪俠年少爭附レ之。靈帝末。黄巾起。州郡各擧二義兵一。先主率二其屬一。討レ賊有レ功。除二安喜尉一。累二遷豫州牧一。從二曹公一還レ許。曹公從容謂曰。今天下英雄。惟使君與レ操耳。本初之徒。不レ足レ數也。先主方食失二匕箸一。本初。袁紹字。

「吾、必ず當にこの羽葆蓋車(二)に乘るべし」と。先主手を垂るれば膝より下る。顧れば自ら其耳を見る。交結を好み、豪俠の年少、爭つて之に附す。靈帝の末、(三)黄巾起り、州郡各義兵を擧ぐ。先主その屬を率ゐ、賊を討つに功あり。安喜の尉に除せられ、豫州の牧に累遷す。曹公に從ひ、許に還る。曹公從容として謂つて曰く、「今天下の英雄、惟だ使君と操とのみ。本初の徒は、數ふるに足らず」と。先主方に食し、匕箸を失ふ。(四)本初は、袁紹の字なり。

(一) 飾り立てる貌　(二) 五采の羽毛にて作れるはた、蓋車はおほひある車。王侯の用なり　(三) 靈帝の中平元年、鉅鹿の張角部下三十萬を擧げて反す。頭に黄巾を著くるを以て名あり　(四) 其時恰も雷震あり、劉備は曹操の己れを憚る態あるを見、故意に臆病を飾りて食事中に箸とさじとを取落せるなりといふ

張翰適意　陶潛歸去

應レ之。毗杖レ節而立二軍門一。帝乃止。對壘百餘日。會亮卒。先レ是亮使至。帝問三諸葛公食可二幾米一。對曰。三四升。次問二政事一。曰。二十罰已上皆自省覽。帝曰。其能久乎。竟如二其言一。漢晉春秋曰。楊儀等整レ軍而出。百姓奔告二宣王一。王追焉。姜維令下儀反レ旗鳴レ鼓。若中將レ向二宣王一者上。王乃退。不二敢偪一。於レ是儀結レ陣而出。入レ谷然後發レ喪。宣王之退。百姓諺曰。死諸葛。走二生仲達一。或以告レ王。王曰。吾能料レ生。不レ便レ料死也。

て、儀、陣を結んで出で、谷に入り然る後に喪を發す。宣王の退くや、百姓諺して曰く、『死せる諸葛、生ける仲達を走らす』と。或ひと以て王に告ぐ。王曰く、「吾、能く(五)生を料るも、死を料るに便ならざるなり」と。

(一)魏の明帝　(二)司馬仲達のおくりな。以下帝といふ皆仲達の事也　(三)喪の時婦人の首につくる飾、之を贈るは婦女子におなじ也と侮辱するにひとし　(四)約わが國の三四合　(五)亮の生時をば料りしも死後は料り得ず

蜀志。先主劉備字玄德。涿郡涿縣人。漢中山靖王勝之後。少孤。與レ母販レ履織レ席

蜀志にいふ、先主劉備、字は玄德、涿郡涿縣の人、漢の中山の靖王勝の後なり。少にして孤なり。母と履を販ぎ、席を織つて、業となす。舍の東南角の籬上に桑樹ありて生ず。高さ五丈餘。遙に望めば、童童として(一)小車蓋の如きを見る。或ひと謂ふ、「當に貴人を出すべし」と。先主少き時、諸小兒と樹下に於て戲言す。

晉書。諸葛亮帥二衆十餘萬一。壘二于郿之渭水南原一。天子遣二護軍秦朗一。督二步騎二萬一。受二宣帝節度一。朝廷以三亮遠寇利在二急戰一。每命レ帝持重。以候二其變一。亮數挑レ戰。帝不レ出。因遣二帝巾幗婦人之飾一。帝怒表請二決戰一。天子不レ許。乃遣二衞尉辛毗一。杖レ節以制レ之。亮復挑レ戰。帝將レ出レ兵以

晉書にいふ、諸葛亮、衆十餘萬を帥ひ、郿の渭水の南原に壘す。天子、護軍秦朗を遣し、步騎二萬を督し、(一)宣帝の節度を受けしむ。朝廷、亮が遠く寇し、(二)利、急戰に在るを以て、每に帝に命じて持重し、以て其變を候はしむ。亮、數〻戰を挑むも帝出でず。因つて帝に巾幗婦人の飾を贈る。帝、怒り、表して決戰せんと請ふ。天子許さず。乃ち衞尉辛毗(三)を遣し、節を杖き、以て之を制せしむ。亮、復た戰を挑む。帝、將に兵を出し、以て之に應ぜんとするも、毗、節を杖いて軍門に立つ。帝、乃ち止む。對壘百餘日、會〻亮卒す。これより先、亮の使至る。帝、問ふ。「諸葛公、食幾ばかり米ぞ」對へて曰く、「三四升」(四)と、次に政事を問ふ。曰く、「二十罰已上は、皆自ら省覽す」と。帝曰く、「それ能く久しからんや」と。竟に其言の如し。漢晉春秋に曰く『楊儀等、軍を整へて出づ。百姓奔つて宣王に告ぐ。王追ふ。姜維、儀をして旗を反し、鼓を鳴らして將に宣王に向はんとする者の若くならしむ。王、乃ち退いて敢て偪らず。こゝに於

丞相等劾奏。錯欲レ疏ニ羣臣ー。大逆無道。當ニ要斬ー。使ニ中尉召レ錯ゥ紿載行レ市。錯衣ニ朝衣ー。斬ニ東市ー。

前漢趙禹斄人。武帝時以ニ刀筆吏ー積レ勞。遷ニ御史ー。至ニ中大夫ー。與ニ張湯ー論ニ定律令ー。作ニ見知ー。吏傳相監司以レ法。盡自レ此始。爲レ人廉裾。爲レ吏以來。舍無ニ食客ー。公卿相造請。禹終不ニ行報謝ー。務在レ絕ニ知友賓客之請ー。孤立行ニ一意ー而已。嘗中廢。已爲ニ廷尉ー。以レ壽卒。

前漢の趙禹は、斄人なり。武帝の時、刀筆の吏(一)を以て勞を積み、御史に遷り、中大夫に至る。張湯と律令を論定し、見知(二)を作す。吏傳へて、相監司するに法を以てすること、盡く此より始まる。人となり廉裾(三)。吏と爲つて以來、舍に食客なし。公卿相造請(四)するも、禹終に行いて報謝せず。務めて知友賓客の請を絕つに在り。孤立して一意を行ふのみ。嘗て中ごろ廢し、已にして廷尉となり、壽を以て卒す。

㊀ 賤吏、小役人　㊁ 人の犯罪を知りて之を告發せざる者を罰する法　㊂ 裾は倨に通ず。廉直にして人におごら　㊃ ごきげんうかゞひ

亮遺巾幗　備失匕箸

川人。學二申商刑名於張恢一。以二文學一爲二太常掌故一。錯爲レ人峭直刻深。孝文時擧二賢良一。對策高第。遷二中大夫一。孝景時爲二御史大夫一。請三諸侯之罪過削二其支郡一。所レ更令三十章。諸侯讙譁。吳楚七國俱反。以レ誅レ錯爲レ名。上問二袁盎一。盎素不レ好レ錯。對曰。方今計獨有下斬レ錯赦二七國一。復中其故地上。則兵可二毋レ血レ刃而俱罷一。上默然。曰。顧誠何如。吾不下愛二一人一謝中天下上。後

掌故となる。錯、人と爲り(二)峭直刻深なり。孝文の時、賢良に擧げられ、對策高第なり。中大夫に遷る。孝景の時、御史大夫となる。諸侯の罪過には、その(三)支郡を削らんを請ふ。更むるところの令三十章、諸侯(四)讙譁す。(五)吳楚七國ともに反し、錯を誅するを以て名となす。上、袁盎に問ふ。盎、素より錯を好まず。對へて曰く、「方今の計、獨り錯を斬り、七國を赦し、その故地を復するあらば、則ち兵、刃に血ぬるなくして俱に罷むべし」と。上、默然たり。曰く、「顧ふに、誠に何如ぞ(六)吾れ一人を愛して天下に謝せざらんや」と。後、丞相等、劾奏す。「錯、群臣を疏せんと欲す。大逆無道、當に(七)要斬すべし」と。中尉をして、錯を召さしめ、紿いて載せて市に行く。錯、朝衣を衣て、東市に斬らる。

(一) 申不害と商鞅　(二) 眞直にて融通のきかざること。刻深は殘忍なること　(三) 國の四邊に在る郡　(四) かまびすしくさわぐ　(五) 吳王・膠西王・膠東王・菑川王・濟南王・楚王・趙王　(六) 錯を指す　(七) 腰を斬る刑に處すべし

(六)徼外を懷來す。蠻夷その威信に歸附す。後、東郡の太守となりしとき。河水盛に溢れ、瓠子の金堤を(七)泛浸す。尊、躬づから吏民を率ゐ、白馬を投沈し、身を以て金堤を塡めんと請ふ。而して、水波稍却きて廻還す。吏民狀を奏す。天子之を嘉し、中二千石を秩とし、黃金二十斤を加賜す。官に卒す。吏民、これを紀す。舊本、尊を誤つて遵に作る。

㈠ 村里　㈡ 曲折せる阪路　㈢ 父母のかたみ、卽ち王陽自らをさす也　㈣ 登也　㈤ 馬を早く馳せて夙く通り過ぎよ　㈥ 西南の國境外　㈦ うかべひたす

行部。至邛郲九折阪。歎曰。奉先人遺體。奈何數乘此險。後以病去。及尊爲刺史。至其阪。問吏曰。此非王陽所畏道邪。曰是。尊叱其馭曰。驅之。王陽爲孝子。王尊爲忠臣。居部二歲。懷來徼外。蠻夷歸附其威信。後爲東郡太守。河水盛溢。泛浸瓠子金隄。尊躬率吏民。投沈白馬。請以身塡金隄。而水波稍卻迴還。吏民奏狀。天子嘉之。秩中二千石。加賜黃金二十斤。卒官。吏民紀之。舊本尊誤作遵。

鼂錯峭直　趙禹廉裾

前漢の鼂錯は、潁川の人なり。㈠申商の刑名を張恢に學ぶ。文學を以て太常

前漢鼂錯潁

權。典執レ政。無レ所二回避一。常乘二驄馬一。京師畏憚。爲二之語一曰。行行且止。避二驄馬御史一。後以レ牾二宦官一。七年不レ調。獻帝時爲二光祿勳一。

官に牾ふを以て、七年調せられず(三)。獻帝の時、光祿勳となる。

(一)去勢して宮中に仕へる小臣　(二)あをうま、葦毛の馬　(三)選びあげられずとなり

前漢王尊字子贛。涿郡高陽人。少孤。牧二羊澤中一。竊學問。能二史書一。略通二尙書論語大義一。涿郡太守徐明。薦レ尊不レ宜三久在二閭巷一。上召レ尊爲二郿令一。稍遷二益州刺史一。先レ是王陽爲二刺史一

前漢の王尊、字は子贛、涿郡高陽の人なり。少にして孤なり。羊を澤中に牧し、竊に學問して史書を能くし、略尙書論語の大義に通ず。涿郡の太守徐明、尊を薦めて、宜しく久しく閭巷(一)に在らしむべからずと。上、尊を召して郿の令となす。稍あつて益州の刺史に遷る。是より先、王陽、刺史となつて、部を行り、邛郲(二)の九折阪に至り、歎じて曰く、「先人の遺體(三)を奉ず。奈何ぞ數〻此險に乘ぜん(四)」と。後、病を以て去る。尊、刺史たるに及び、その阪に至り、吏に問うて曰く、「これ王陽が畏れしところの道に非ずや。」曰く、「是なり」と。尊、その馭を叱して曰く、「之を驅れ(五)。王陽は孝子なり。王尊は忠臣たり」と。部に居ること二歳、

太后心欲ニ以レ王爲レ嗣。大臣及袁盎等。有レ所レ關ニ說於帝一。王怨レ盎陰使三人刺ニ殺之一。上由レ此怨ニ望於王一。益疎レ之。後入朝。欲レ留弗レ許。歸レ國意不レ樂。北獵ニ梁山一。有レ獻三牛足上出ニ背上一。王惡レ之。病薨。王不レ死時。財巨萬。及レ死藏府黃金尙四十餘萬斤。他財物稱レ是。贊曰。怙レ親亡レ厭。牛禍告レ罰。

山に獵す。(三)牛の足上りて背上に出づるを獻ずるものあり。王、これを惡み、病んで薨ず。王死せざる時、財巨萬あり。死に及んで、藏府の黃金、尙ほ四十餘萬斤、他の財物、これに稱ふ。贊に曰く、『親を怙んで厭くなく、牛禍罰を告ぐ』と。

(一) 天子の庭園 (二) 止めんとて諫め說くなり (三) 足は下に着きてこそ身を輔くるなれ、今背上に出ずるは孝王朝に背きて上をおかすに象りたる也

後漢桓典字公雅。沛郡龍亢人。太傅榮玄孫。拜ニ侍御史一。時宦官秉レ

桓典避馬　王尊叱馭

後漢の桓典、字は公雅、沛郡龍亢の人太傅榮の玄孫なり。侍御史に拜す。時に(二)宦官權を秉る。典、政を執つて囘避するところなし。常に(二)驄馬に乘る。京師畏憚し、これが爲に語りて曰く、『行行且つ止まつて、驄馬御史を避けよ』と。後、宦

書監驃騎將軍。條同謀者。超越階次。奴卒厮役亦加爵位。每朝會。貂蟬盈坐。時人諺曰。貂不足狗尾續。倫祠太廟。遇大風。飄折麾蓋。時有雉入殿中。又於殿上得異鳥。問皆不知名。累日向夕。宮西有素衣小兒。言是服劉鳥。倫使錄小兒。幷鳥閉置牢室。明旦開視。戶扃如故。並失所在。倫目上有瘤。時以爲妖。惠帝復位賜死。

（一二）音伏瘤に通ず、瘤ある趙王倫を伏するの意也　（一三）入口のとざし　（一四）鳥も小兒も居らず

前漢梁孝王武。文帝子。景帝初入朝。是時上未置太子。與王宴飲。從容言曰。千秋萬歲後。傳於王。王心內喜。後復入朝。入則侍帝同輦。出則同車遊獵上林中。及栗太子廢。

前漢の梁の孝王武は、文帝の子なり。景帝の初めに入朝す。この時、上、未だ太子を置かず。王と宴飲し、從容言つて曰く、「千秋萬歲の後、王に傳へん」と。王、心內に喜び、後復た入朝す。入つては則ち帝に侍して輦を同じうし、出でゝは則ち車を同じうして、上林の中に遊獵す。栗太子廢せらるゝに及び、太后心に王を以て嗣となさんと欲す。大臣及び袁盎等、帝に關說するところあり。王、盎を怨み、陰に人をして之を刺し殺さしむ。上、これに由つて王を怨望し、益之を疎んず。後入朝するや、留らんと欲すれども許さず。國に歸れども、意樂まず。北、梁

人。倫矯レ詔。自爲二使持節大都督中外諸軍事一。秀封二大郡一。據二兵權一。百官總レ已聽二於倫一。倫素庸下無二智策一。受二制於秀一。秀威權振二朝廷一。天下皆事レ秀。無レ求二於倫一。秀起レ自二琅邪外史一。累二官於趙國一。以二諂媚一自達。既執二機衡一。遂恣二其姦謀一。多殺二忠良一。以逞二私欲一。倫僭二帝位一。以レ秀爲二中

すでに機衡を執り、遂にその姦謀を恣にし、多く忠良を殺し、以て私欲を逞うす。倫、(六)僭して帝位に即き、秀を以て中書監驃騎將軍となす。餘の同じく謀るもの、(七)階次を超越す。奴卒厮役も、(八)亦た爵位を加ふ。朝會する每に、貂蟬座に(九)盈つ。時人の諺に曰く、『貂足らずして狗尾續ぐ』(一〇)と。倫、大廟を祠る。大風に遇うて、(一一)麾蓋を飄折す。時に雉あつて殿中に入り、又殿上に於て異鳥を得たり。問ふに皆名を知らず。累日夕に向ひ、宮西に素衣の小兒あり。これを服劉鳥(一二)といふ。倫、小兒を錄せしめ、鳥と併せて閉ぢて牢室に置く。明旦開き視るに、戶扃(一三)故の如くして、(一四)並に所在を失ふ。倫、目上に瘤あり。時に以て妖となす。惠帝、位に復して死を賜ふ。

(一) 卑賤の者にして上の寵ある者 (二) 無實の罪をかまへ被せて害するなり (三) いつはりて (四) 凡庸下愚 (五) こびへつらふ (六) 天下の機密權衡 (七) 身分をかへりみずして上を凌ぐなり (八) 卑しき召使 (九) 侍中中常侍の冠なり、貂の尾と蟬の羽とを以て飾る。貂は內强勁にして外溫潤なるを以て君子に比し、蟬は露を吞み不淨を食はず故に高潔の士に比す (一〇) 小人に比す。卽ち高潔の君子少く小人多きをいふ也 (一一) 旗と車のかさとを折

其父亮爲二尚書一。而陟爲二中書令一。每二朝會一。詔以二屛風一隔二其坐一。舊注引二宣城記一云。隔以二雲母屛風一。陟誤作レ隲。

つ。舊注に、宣城記を引いて云ふ、『隔つるに雲母の屛風を以てす』と。陟、誤つて隲に作る。

● 優待するの意也

趙倫瘤怪　梁孝牛禍

晉書。趙王倫字子彝。宣帝第九子。拜二車騎將軍一。諂二事中宮一。大爲三賈后所二親信一。嬖人孫秀構二害愍懷太子一。遂廢二賈后一爲二庶

晉書にいふ、趙王倫、字は子彝、宣帝の第九子なり。車騎將軍に拜し、中宮に諂ひ事へて大に賈后に親信せらる。(一)嬖人孫秀、愍懷太子を構害し、(二)遂に賈后を廢して庶人となす。倫、詔を(三)矯めて自ら使持節大都督中外諸軍事となる。秀、大郡に封ぜられて、兵權に據る。百官己を總べて、倫に聽く。倫、素より(四)庸下にして智策なく、制を秀に受く。秀の威權、朝廷に振ふ。天下皆秀に事へて、倫に求むるなし。秀、瑯邪の外史より起つて、趙國に累官し、(五)諂媚を以て自ら達す。

三輔決錄。韋康字元將。京兆人。父端從二涼州牧一徵爲二太僕一。康代爲二涼州刺史一。時人榮レ之。孔融嘗與二端書一曰。前日元將來。淵才亮茂。雅度弘毅。偉世之器也。昨日仲將又來。懿性貞實。文敏篤誠。保レ家之主也。不レ意雙珠近出二老蚌一。仲將名誕。有二文才一。善屬二辭章一。官至二光祿大夫一。

三輔決錄にいふ、韋康、字は元將、京兆の人なり。父端は涼州の牧より徵されて太僕となる。康、代つて涼州の刺史となる。時人これを榮とす。孔融、嘗て端に書を與へて曰く、「前日元將來る。(一)淵才亮茂、(二)雅度弘毅、偉世の器なり。昨日仲將又來る。(三)懿性貞實、文敏篤誠、家を保つの主なり。意はざりき、雙珠近く(四)老蚌に出でんとは」と。仲將、名は誕、文才あり。善く辭章を屬る。官、光祿大夫に至る。

(一)深智。亮茂は明かにして盛なり　(二)風儀正しく志廣くしてつよし　(三)美性　(四)年老たるはまぐり、老蚌は父の端に比し、雙珠は誕兄弟に比す

吳錄。紀陟字子上。丹陽人。吳王孫休時。

吳錄にいふ、紀陟、字は子上、丹陽の人なり。吳王孫休の時、その父亮、尚書たり。而して、陟、中書令たり。朝會する毎に、詔して(一)屛風を以て其座を隔

息す。大中大夫陳煒後れて至り、曰く、「夫れ人小にして聰了なるも、大にして未だ必ずしも奇ならず。」融曰く、「君の言ふところを觀るに、將た早慧(四)ならざらんや。」膺、大に笑つて曰く、「高明必ず偉器とならん」と。融の家傳に曰く、兄弟七人あり。融は第六なり。四歳の時、諸兄と共に梨棗を食ふや、輒ち小なる者を引く。人、其故を問ふ。答へて曰く、「我は小兒なり。法、當に小なる者を取るべし」と。これに由つて、宗族これを奇とす。

(一) 人をあなどり自らを重くするなり　(二) 父祖の代より親しく交はる家　(三) 才高く智明なる意、尊稱也　(四) 年少にして悧巧なること

及レ與二通家一。皆不レ得レ白。融造レ門曰。我是李君通家子弟。門者言レ之。膺請レ融問曰。高明祖父。嘗與レ僕有二舊恩一乎。融曰然。先君孔子。與二李老君一同レ德比レ義。而相師友。則融與レ君累世通家。衆坐歎息。大中大夫陳煒後至。曰夫人小而聽了。大未二必奇一。融曰。觀二君所一レ言。將不二早慧一乎。膺大笑曰。高明必爲二偉器一。融家傳曰。兄弟七人。融第六。四歳時。每與二諸兄一共食二梨棗一。輒引二小者一。大人問二其故一。答曰。我小兒。法當レ取二小者一。由レ是宗族奇レ之。

端康相代　亮陟隔坐

季江夜遇レ盜。欲レ殺レ之。兄弟更相ニ爭死一。遂兩釋焉。桓帝徵不レ至。使三畫工圖二其形狀一。肱臥以レ被韜レ面。竟不レ得レ見レ之。後隱遯遠浮二海濱一竄伏。賣卜給レ食。還卒二於家一。弟子劉操頌レ德。謝承書曰。肱性篤孝。事二繼母一。年少嚴厲。肱感二凱風之孝一。兄弟同レ被而寢。不レ入二房室一。以慰二母心一。

風の孝に感じ、兄弟被を同じうして寢ね、房室(七)に入らず。以て母の心を慰む。

(一) 自然に至り極まれるをいふ　(二) 天文學　(三) 船にのり海外へ行くこと。竄伏はかくれふす也　(四) 後漢書　(五) 其繼母年若くしてあらく嚴しく肱に當る　(六) 詩經の凱風篇なり、衞國の俗淫猥にして、七人の子ある母もなほ安ずる能はず、故に其子此詩を作りて、子を養ふの苦を歌ひ以つて母の心を慰めしなり　(七) 妻の室

後漢孔融字文擧。魯國人。孔子二十世孫。幼有二異才一。十歲隨レ父詣二京師一。時河南尹李膺。簡重不二妄接一レ士。自レ非二當世名人

後漢の孔融、字は文擧、魯國の人、孔子二十世の孫なり。幼にして異才あり。十歲父に隨つて京師に詣る。時に河南尹李膺、簡重(一)にして、妄りに士に接せず。當世の名人及び通家に非ざるよりは、皆白すことを得ず。融、門に造つて曰く、「我は是れ李君通家(二)の子弟」と。門者、これを言ふ。膺、融を請ひ問うて曰く、「(三)高明の祖父、嘗て僕と舊恩ありや。」融曰く、「然り。先君孔子、李老君と德を同じうし、義を比して相師友たり。則、融、君と累世の通家なり」と。衆坐歎

爲二光祿勳一。詔問レ昆。前在二江陵一。反レ風滅レ火。後守二弘農一。虎北渡レ河。行二何德政一。而致二是事一。昆對曰。偶然耳。左右笑二其質訥一。帝歎曰。此乃長者之言也。命書二諸策一。

後漢姜肱字伯淮。彭城廣戚人。與二弟仲海季江一。俱以二孝行一著聞。其友愛天至。常共二臥起一。肱博通二五經一。兼明二星緯一。士之就學者。三千餘人。二弟名聲相次。皆不レ應二徵聘一。肱嘗與二

姜肱共被　孔融讓果

後漢の姜肱、字は伯淮、彭城廣戚の人なり。弟仲海・季江と倶に、孝行を以て著聞す。その友愛天至(一)なり。常に臥起を共にす。肱博く五經に通じ、兼ねて、(二)星緯に明かなり。士の就いて學ぶもの三千餘人。二弟名聲相次ぐ。皆徵聘に應ぜず。肱嘗て季江と夜盜に遇ふ。これを殺さんと欲す。兄弟更〻死を相爭ふ。遂に兩ながら釋す。桓帝徵せども至らず。畫工をして、その形狀を圖せしむ。肱、臥して被を以て面を韜む。竟に之を見るを得ず。後に隱遯して遠く(三)海濱に浮んで竄伏し、賣卜して食を給す。還つて家に卒す。弟子劉操、德を頌す。(四)謝承の書に曰く、肱、性篤孝、繼母に事ふ。(五)年少にして嚴厲なり。肱、(六)凱

物無ㇾ貲。貧者餓二死於道一。嘗到ㇾ官。革二易前弊一。求二民病利一。未ㇾ踰ㇾ歳。去珠復還。百姓皆反ㇾ業。商貨流通。稱爲二神明一。徵還。吏民攀ㇾ車請ㇾ之。乃夜遁去。隱處自耕。鄰縣士民慕ㇾ德。就居止者百餘家。

役人の殘せし弊害を改め　(六)利害を明にし求む　(七)其土地の官吏人民共が其留任を乞ひ、車にすがりつく也

後漢劉昆字桓公。陳留東昏人。建武初。除二江陵令一。時縣連年火災。昆輒向ㇾ火叩頭。多能降ㇾ雨止ㇾ風。稍遷二弘農太守一。先ㇾ是崤黽驛道多二虎災一。行旅不ㇾ通。昆爲ㇾ政三年。仁風大行。虎皆負ㇾ子渡ㇾ河。帝異ㇾ之。徵

後漢の劉昆、字は桓公、陳留東昏の人なり。建武の初、江陵の令に除せらる。時に縣連年火災あり。昆輒ち火に向つて叩頭すれば、多く能く雨を降らし風を止む。稍ありて弘農の太守に遷る。これより先、崤黽(一)の驛道、虎災(二)多く、行旅通ぜず。昆、政を爲すこと三年。仁風大に行はれ、虎、皆子を負うて河を渡る。帝之を異とし、徵して光祿勳となす。詔して昆に問ふ、「前に江陵に在りて、風を反(三)し、火を滅す、後、弘農に守たるときは虎、北に河を渡る。何の德政を行うて、この事を致すや。」昆對へて曰く、「偶然のみ」と。左右その質訥(四)を笑ふ。帝歎じて曰く、「これ乃ち長者(五)の言なり」と。命じて諸を策(六)に書せしむ。

(一)地名也。崤山黽池　(二)虎、人を傷害す　(三)止め　(四)質朴にして言語鈍きをいふ　(五)有德者　(六)かきつけ

書注云。謙不畏神祠。遇有靈廟。皆焚之。

後漢孟嘗字伯周。會稽上虞人。遷合浦太守。郡不産穀實。而海出珠寶。與交阯比境。常通商販。貿糴粮食。先時宰守。竝多貪穢。詭人採求。不知紀極。珠漸徙於交阯郡界。行旅不至。人

孟嘗還珠　劉昆反火

後漢の孟嘗、字は伯周、會稽上虞の人なり。合浦の太守に遷る。郡、穀實を産せず。而して、海、珠寶を出す。交阯と境を比べ、常に商販を通じ、粮食を貿糴す。(一)先時の宰守、竝に多く貪穢にして、(二)人を詭めて採求し、紀極を知らず。(三)珠漸く交阯の郡界に徙り、行旅(四)至らず、人物貲なく、貧者道に餓死す。嘗、官に到り、前弊(五)を革易し、民の病利(六)を求む。未だ歳を踰えずして、去珠復た還り、百姓皆業に反り、商貨流通す。稱して神明となす。徵し還さるゝや、吏民(七)車を攀ぢて之を請ふ。乃ち夜遁れ去り、隱處して自ら耕す。隣縣の士民、徳を慕うて就いて居止するもの百餘家。

(一) 眞珠と米とを交易する也　(二) 貪欲にしてけがらはしきこと　(三) 際限なしとなり　(四) 行商旅客　(五) 前の

不ν好。煩二大巫嫗一。爲報二河伯一。更求二好女一。使下吏卒抱二大巫嫗一。投中之河中上。有ν頃曰。何久也。弟子趣ν之。凡投二三弟子一。豹曰。巫嫗女子。不ν能ν白ν事。煩二三老一。爲入白ν之。復投二三老河中一。豹簪ν筆磬折。嚮ν河立良久。又曰。三老不ν還。欲ν使下廷掾與二豪長者一人一入趣上ν之。皆叩ν頭血流。豹曰。狀二河伯留ν客之久一。若皆罷去。吏民大驚恐。從ν是不三敢復言二河伯娶ν婦。豹即發ν民鑿二十二渠一。引二河水一灌二民田一。皆得二水利一。民人足富。豹名聞二天下一。澤流二後世一。

め去れ」と。吏民大に驚恐し、これより敢て復た河伯婦を娶ることを言はず。豹、即ち民を發して、十二渠を鑿ち、河水を引き、民田に灌ぐ。皆水利を得、民人足り富み、豹の名、天下に聞え、澤、後世に流る。(九)

㊀河川の神。土地の長老、代官の下役及び神子など河神婦を娶ると稱して美女を河中に投じ、祭祀の費として錢數百萬を徴收し分配して私腹を肥しゐたる也　㊁其處にて敎化を司るもの、多く老人にて一鄕に三人あるを以てかくいふ　㊂みこ、巫女　㊃絹のひとへ　㊄河伯に嫁ぐ婦　㊅腰をまげて河伯に禮する狀　㊆自ら頭を破りて謝せるをいふ　㊇白狀するなり、明かにするなり　㊈、布き傳はる

晉書。何謙字恭子。東海人。從二謝玄一征伐。驍果多二權略一。

晉書にいふ、何謙、字は恭子、東海の人なり。謝玄に從つて征伐す。驍果にして(一)權略多し。(二)舊注に云ふ、『謙、神祠を畏れず。靈廟有るに遇へば、皆之を焚く。』

㊀驍、武勇にして果斷　㊁權謀策略

時。西門豹爲二鄴令一。豹到問三民所二疾苦一。長老曰。苦下爲二河伯一娶上レ婦。以レ故貧。俗語。不二爲娶一レ婦。水來漂二溺人民一。豹曰。至レ時幸來告。吾亦往送レ女。至二其時一。豹往會二河上一。三老官屬豪長者。里父老皆會。其巫老女子。從二弟子女十人一。皆衣二繒單衣一。立二大巫後一。豹呼二河伯婦一。視レ之曰。是女

ころを問ふ。長老曰く、「(一)河伯の爲に婦を娶ることを苦む。故を以て貧し。俗に語らく、爲に婦を娶らざれば、水來つて人民を漂溺す」と。豹曰く、「時に至らば、幸はくば來り告げよ。吾も亦た往いて女を送らん」と。その時に至り、豹往いて河上に會す。(二)三老・官屬・豪長者・里の父老皆會す。(三)其巫は老女子なり。弟子の女十人を從へ、皆(四)繒の單衣を衣て、大巫の後に立つ。豹、(五)河伯の婦を呼び、之を視て曰く、「この女好からず。大巫嫗を煩はさん。爲に河伯に報ぜよ。更に好女を求めん」と。吏卒をして大巫嫗を拘へ、之を河中に投ぜしむ。頃くあつて曰く、「何ぞ久しきや。弟子之に趣け」と。凡そ三弟子を投ず。豹曰く、「巫嫗は女子、事を白すこと能はず。三老を煩はさん。爲に入つて之れを白せ」と。復た三老を河中に投ず。豹筆を簪にし(六)磬折し、河に嚮つて立ち、良や久しうして、又曰く、「三老還らず。廷掾と豪長者一人とをして入つて之に趣かしめんと欲す」と。皆(七)叩頭して血流る。豹曰く、「河伯、客を留むるの久しきを(八)狀せり。若皆罷

不失一字。觀人圍棊。局壞。粲爲覆之。棊者不信。以帊蓋局。使更以他局爲之。用相比校。不誤一道。其強記默識如此。性善算。作算術。略盡其理。善屬文。擧筆便成。無所改定。時人以爲宿構。然正復精思覃思。亦不能加也。典略曰。粲既才高。辯論應機。鍾繇王朗等。雖爲卿相。至於朝廷奏議。皆閣筆不能措手。

し。性、算を善くし、算術を作り、略其理を盡す。善く文を屬る。筆を擧ぐれば、便ち成つて改定するところなし。時人以て宿構(四)となす。然れども、正に復た精思覃思(五)するも、亦た加ふる能はざるなり。典略に曰く、「粲、すでに才高く、辯論機に應ず。鍾繇・王朗等、卿相たりと雖も、朝廷の奏議に至つては、皆筆を閣いて手を措くこと能はず。」

(一) 棊の局面不明となれば、之をまた元の如くに復すとなり　(二) 帛三幅をいふ　(三) くらべかんがふる　(四) 豫め用意し置くこと　(五) 思をふかうし、おもんぱかること

西門投巫　何謙焚祠

史記。魏文侯

史記にいふ、魏の文侯の時、西門豹、鄴の令となる。豹到りて民の疾苦すると

文姬、中郎將邕之女。博學有二才辯一。妙二於音律一。舊注云。琰年九歲時。邕夜鼓レ琴絃絕。琰曰。第二絃。邕故絕二一絃一。以問レ之。琰曰。第四絃。邕曰。爾偶中耳。琰曰。昔季札觀レ風。知二國之存亡一。師曠吹レ律。識二南風之不レ競。以レ此推レ之。何不レ知也。

り。舊注に云ふ、琰年九歲の時、邕、夜、琴を鼓す。絃絕ゆ。琰曰く、「第二絃」と。邕、故に一絃を絕つて以て之を問ふ。琰曰く、「第四絃」と。邕曰く、「爾偶中つるのみ。」琰曰く、「昔、季札(一)風を觀て、國の存亡を知り、師曠律を吹いて南風(二)の競はざるを識る。これを以て之を推すに、何ぞ知られざらん」と。

(一) 左傳襄二十九年の條參照 (二) 南方楚國をいふ。左傳襄十八年の條參照

魏志王粲累二拜侍中一。博物多識。問無レ不レ對。與レ人共行。讀二道邊碑一。人問曰。卿能闇誦乎。曰能。因使二背而誦一レ之。

魏志にいふ、王粲、侍中に累拜す。博物多識、問ふに對へざるなし。人と共に行き、道邊の碑を讀む。人問うて曰く、「卿能く闇誦するか。」曰く、「能くせん」と。因つて、背きて之を誦せしむ。一字を失はず。人の棊を圍むを觀る。局壞る(一)。粲爲に之を覆す。棊する者信ぜず。帊(二)を以て局を蓋ひ、更に他局を以て之を爲らしむ。用つて相比校する(三)に、一道を誤らず。その強記默識、かくの如

以ニ耕織一爲レ業。詠ニ詩書一。彈レ琴以自娯。因ニ東出レ關。過ニ京師一。作ニ五噫之歌一曰。陟ニ彼北芒一兮噫。顧ニ覽帝京一兮噫。宮室崔嵬兮噫。人之劬勞兮噫。遼遼未央兮噫。肅宗聞而非レ之。求レ鴻不レ得。乃易ニ姓名一。居ニ齊魯之閒一。遂至レ吳。依ニ大家皐伯通一。居ニ廡下一。爲レ人賃舂。每レ歸妻爲具レ食。不下敢於ニ鴻前一仰上。擧レ案齊レ眉。伯通異レ之曰。彼傭能使ニ其妻敬一レ之如レ此。非ニ凡人一也。乃舍ニ之於家一。鴻潛閉著ニ書十餘篇一。卒ニ於吳一。

ず。乃ち姓名を易へて、齊魯の閒に居り、遂に吳に至り、大家皐伯通に依り、廡（九）下に居て人の爲に賃舂（一〇）す。歸る每に、妻爲に食を具するに、敢て鴻の前に於て仰がず。案を擧ぐること眉に齊し。伯通、之を異として曰く、「彼の傭、能く其妻をして、之を敬せしむること、此の如し。凡人に非ざるなり」と。乃ち之を家に舍らしむ。鴻、潛に閉ぢて書十餘篇を著す。吳に卒す。

（一）節操堅きこと　（二）勢とおなじ、權勢ある家　（三）洛陽の北方の山にある墓地　（四）高くそびえたる貌　（五）苦勞　（六）廣大なる貌　（七）未央宮　（八）朝廷を出　（九）のき下　（一〇）賃錢を得て米麥を搗く

後漢蔡琰字

蔡琰辨琴　王粲覆棊

後漢の蔡琰、字は文姬。中郎將邕の女なり。博學にして才辯あり。音律に妙な

韓之削弱。數以レ書諫ニ韓王一。王不レ能レ用。於レ是觀ニ往者得失之變一。作ニ孤憤五蠹內外儲說林說難十餘萬言一。人或傳ニ其書一至レ秦。秦王見レ之曰。寡人得下見ニ此人一與レ之游上。死不レ恨矣。後非使レ秦。秦王悅レ之未ニ信用一。李斯毀レ之。王下レ吏治レ非。斯使ニ人遺一レ藥。使ニ自殺一

す。秦王、これを悅ぶも、未だ信用せず。李斯、これを毀る。王、吏に下して非を治す(五)。斯、人をして藥を遣らしめて自殺せしむ。

(一)其名を以て實を責め、名實相一致せしむる法をいふ　(二)主旨なり　(三)どもりて物事を說くこと能はず　(四)以下皆韓非子の篇名なり　(五)吟味する也

後漢梁鴻受ニ業大學一。家貧尙ニ節介一。博覽不レ爲ニ章句一。歸ニ鄕里一。埶家慕ニ其高節一。多欲レ女レ之。鴻竝不レ娶。後娶ニ孟氏一。隱ニ霸陵山中一。

後漢の梁鴻、業を大學に受く。家貧にして節介(一)を尙び、博覽にして、章句を爲めず。鄕里に歸る。埶家(二)その高節を慕ひ、多く之に女あはさんと欲す。鴻、竝に娶らず。後孟氏を娶り、霸陵山中に隱れ、耕織を以て業となし、詩書を詠じ、琴を彈き、以て自ら娯む。東、關を出づるに因つて京師を過ぎ、五噫の歌を作つて曰く、『彼の北芒(三)に陟れば噫、帝京を顧覽するに噫、宮室崔嵬(四)たり噫、人の劬(五)勞する噫、遼遼(六)たる未央(七)噫』と。肅宗聞いて之を非る(八)として鴻を求むれども得

於二文吏一。以相參撿。欲レ除レ吏。先爲二科例一以防二請託一。其所レ居。亦無二赫赫名一。去後常見レ思。後爲二御史大夫一。免レ官。王莽爲二宰衡一。陰誅二不レ附レ己者一。見レ誣自殺。兩龔謂二勝舍一。兩唐謂二林遵一也。

㊀科目の名　㊁同類相結びて黨をなせるもの　㊂古聖人の敎によらず、法にて事を執行する役人　㊃新に官を授くるをいふ　㊄科目の規定。請託は依頼　㊅顯れ盛なる貌　㊆宰相となし、周公の太宰と伊尹の阿衡とを合して尊びかくいへるなり

史記。韓非韓之諸公子也。喜二刑名法術之學一。而其歸本二於黃老一。爲レ人口吃不レ能二道說一。而善著レ書。與二李斯一俱事二荀卿一。非見二

韓子孤憤　梁鴻五噫

史記にいふ、韓非は韓の諸公子なり。(一)刑名法術の學を喜ぶ。その歸、(二)黃老に本づけり。人となり口吃にして道說すること能はず。しかも善く書を著す。李斯と俱に荀卿に事ふ。(三)非、韓の削弱せらるゝを見、數々書を以て韓王を諫むれども、王用ふること能はず。是に於て、往者の得失の變を觀、(四)孤憤・五蠧・內外儲・說林・說難十餘萬言を作る。人或は其書を傳へて秦に至る。秦王、これを見て曰く、「寡人、この人を見て之と游ぶを得ば、死すとも恨みず」と。後、非、秦に使

征。從至二穎川一。盜賊悉降。而竟不レ拜レ郡。百姓遮レ道曰。願從二陛下一復借二寇君一一年。乃留二恂長社一。鎭二撫吏人一。受二納餘降一。恂經明行修。名重二朝廷一。所レ得秩奉。厚施二朋友故人及從吏士一。常曰。吾因二士大夫一以致レ此。可二獨享一乎。時人歸二其長者一。以爲レ有二宰相器一。

前漢何武字君公。蜀郡郫人。擧二賢良一。對策。拜二諫大夫一。成帝時。累二進大司空一。爲レ人仁厚。好進レ士。獎二稱人善一。爲二楚內史一。厚二兩龔一。在二沛郡一厚二兩唐一。及レ爲二公卿一。薦二之朝廷一。世以レ此多焉。然疾二朋黨一。問二文吏一必於二儒者一。問二儒者一必

前漢の何武、字は君公、蜀郡郫の人なり。(一)賢良に擧げられて對策し、諫大夫に拜す。成帝の時、大司空に累進す。人と爲り仁厚、好んで士を進め、人の善を獎稱す。楚の內史となつて、兩龔に厚し。沛郡に在つて、兩唐に厚し。公卿となるに及び、これを朝廷に薦む。世、これを以て多とす。然れども、(二)朋黨を疾む。(三)文吏を問ふには、必ず儒者に於てし、儒者を問ふには、必ず文吏に於てし、以て相參檢す。(四)吏を除せんと欲すれば、先づ(五)科例をなし、以て請託を防ぐ。その居るところ、亦た赫赫の名なきも、去つて後、常に思はる。後に御史大夫となり、官を免ず。(六)王莽、(七)宰衡となり、陰に己に附かざる者を誅す。誣ひられて自殺す。兩龔は勝舍を謂ひ、兩唐は林遵を謂ふなり。

行二大將軍事一。謂曰。昔高祖留二蕭何一鎭二關中一。今吾委レ公以二河内一。堅守轉運。給二足軍糧一。率二厲士馬一。防二遏它兵一。勿レ令二北度一而已。後拜二潁川太守一。入爲二執金吾一。明年潁川盜賊起。帝謂曰。潁川迫二近京師一。當下以レ時定上。惟念獨卿能平レ之耳。從二九卿一復出。以憂レ國可レ知也。卽日車駕南

士馬を率厲し、它兵を防遏し(二)、北に度らしむることなけんのみ」と。後に潁川の太守に拜し、入つて執金吾となる。明年、潁川に盜賊起る。帝謂つて曰く、「潁川は京師に迫近す。當に時を以て(三)定むべし。惟だ念ふに、獨り卿能く之を平げんのみ」と。(四)九卿より復た出づ。以て國を憂ふること知るべきなり。卽日車駕南征す。從つて潁川に至る。盜賊悉く降る。而して、竟に郡に拜せず。百姓道を遮つて曰く、「願はくは、陛下に從つて、復た寇君を借ること、一年せん」と。乃ち恂を長社に留めて、吏人を鎭撫し、餘降を受納せしむ。恂、經に明かに行修まり、名朝廷(五)に重し。得るところの秩奉は、厚く朋友故人及び從吏士に施す。常に曰く、「吾、士大夫に因つて、以て此を致す。獨り享くべけんや」と。時人その長者に歸し(六)、以て宰相の器ありとなす。

(一) うつし運ぶ　(二) ふせぎとゞむる　(三) 短時日を以ての意　(四) 奉常・光祿勳・衞尉・大僕・廷尉・大鴻臚・宗正・大司農・少府をいふ。執金吾の高位より復た出でて地方の大守となるをいふ　(五) 潁川の地也　(六) 歸服し

煮之一。以更熨ニ兩脇下一。太子起坐。更適ニ陰陽一。但服レ湯二旬而復レ故。天下盡以ニ扁鵲一爲三能生ニ死人一。過ニ邯鄲一。聞レ貴ニ婦人一。即爲ニ帶下醫一。過ニ雒陽一。聞三周人愛ニ老人一。即爲ニ耳目痺醫一。入ニ咸陽。聞三秦人愛ニ小兒一。即爲ニ小兒醫一。隨レ俗爲レ變。秦太醫令李醯。自知ニ伎不レ如ニ扁鵲一也。使三人刺ニ殺之一。至レ今言レ脈者。由ニ扁鵲一。史扁鵲傳索隱云。案言ニ五分之熨一者。謂三熨レ之令ニ溫暖之氣入ニ五分一也。八減之齊者。謂ニ藥之齊和所レ減有ニ八。越人當時有ニ此方一也。

五分ならしむるを謂ふなり。八減の齊とは、藥の齊和減ずるところ八あるをいふ。越人當時この方あるなり。』

㊀ 祕密の醫方なり、祕傳とする處方なり　㊁ 心・肺・脾・肝・腎をいふ。癥結は腹中にかたまり滯る病　㊂ 少陽・太陽・陽明。五會は百・胸・聽・氣・臑の各會なり　㊃ 火のし　㊄ 煮て和ぐ　㊅ 湯藥　㊆ 婦人病　㊇ 扁鵲の法

後漢寇恂字子翼。上谷昌平人。光武拜ニ恂河內太守一。

寇恂借一　何武去思

後漢の寇恂、字は子翼、上谷昌平の人なり。光武、恂を河内の太守に拜し、大將軍の事を行はしむ。謂つて曰く、「昔、高祖、蕭何を留めて關中を鎭せしむ。今、吾公に委するに、河内を以てす。堅く守つて(二)轉運し、軍糧を給足し、

長桑君知三扁鵲非二常人一。出二其懷中藥一予レ之飲。乃悉取二其禁方書一予レ之。忽然不レ見。扁鵲以レ此視レ病。盡見二五臟癥結一。特以診レ脈爲レ名耳。後過レ虢。虢太子死。扁鵲曰。臣能生レ之。乃使三弟子子陽厲二鍼砥石一。以取二外三陽五會一。有レ閒太子蘇。乃使三子豹爲二五分之熨一。以二八減之齊一和二

くその禁方(一)の書を取つて之に予へ、忽然として見えず。扁鵲、これを以て病を視て盡く五臟(二)の癥結を見る。特に脈を診するを以て名となすのみ。後、虢に過る。虢の太子死す。扁鵲曰く、「臣、能く之を生かさん」と。乃ち弟子子陽をして、鍼を砥石に厲がしめ、以て外の三陽五會(三)を取る。聞くあつて、太子蘇る。乃ち子豹をして、五分の熨(四)を爲り、八減の齊(五)を以て之を和煮し、以て更る兩脇の下を熨さしむ。太子起坐し、更に陰陽に適ふ。但湯を服する、二旬(六)にして故に復す。故に天下盡く扁鵲を以て、能く死人を生かすと爲す。邯鄲に過る。婦人を貴ぶと聞き、卽ち帶下(七)の醫となる。雒陽を過ぐ。周人が老人を愛すと聞き、卽ち耳目痺の醫となる。咸陽に入る。秦人が小兒を愛すと聞き、卽ち小兒の醫となる。俗に隨つて變をなす。秦の太醫令李醯、自ら伎の扁鵲に如かざるを知り、人をして之を刺し殺さしむ。今に至つて脈を言ふもの、扁鵲に由る。史(八)の扁鵲傳の索隱に云ふ、『按ずるに、五分の熨と言ふは、これを熨して溫暖の氣入ること

顔色復。半日能起坐。遂活。奉還廬山下居。爲人治病。不取錢物。使病愈者爲種一株杏。數年有二十萬餘株。鬱然成林。杏子大熟。奉於林中作倉。宣語。欲買杏者。但自取之。一器穀得一器杏。毎穀少而取杏多者。有虎逐之。有偸杏。虎逐齧死。家人知送杏還。死者卽活。自是買杏者。自平量之不敢欺。奉以所得粮穀賑救貧窮。供給行旅。民間僅百年。乃昇天。顔色常如年三十時也。

但だ自ら之を取れ。一器の穀、一器の杏を得よ」と。穀少くして杏を取ること多き者あるに、虎あつて之れを逐ふ。杏を偸むあれば、虎逐うて齧死す。家人知つて杏を送つて還せば、死者卽ち活く。これより、杏を買ふもの、自ら之れを平量にして敢て欺かず。奉、得るところの粮穀を以て貧窮を賑救し、行旅に供給す。(五)民間にある僅に百年にして、乃ち天に昇る。顔色常に年三十の時の如きなり。

(一)ゆり動かす　(二)しばらく　(三)あんず　(四)世に語りふらす　(五)人間界

史記。扁鵲勃海鄭人。姓秦名越人。少時

史記にいふ、扁鵲は勃海鄭の人。姓は秦、名は越人。少時、長桑君、扁鵲の常人に非ざるを知り、その懷中の藥を出し、これに予へて飲ましめ、乃ち悉

舍及監省。數有二妖怪一。少子韙以二中台星坼一。勸二華遜一レ位。華不レ從。曰天道玄遠。惟修レ德以應耳。不レ如靜以待レ之。以俟二天命一。卒レ之以二忠正一。爲二趙王倫孫秀等一。矯レ詔害レ之。朝野悲痛。華性好二人物一。士有二一介之善一。爲レ之延譽。雅愛二書籍一。嘗徙レ居。載レ書三十乘。天下奇祕。世所二稀有一者。悉在二華所一。博物洽聞。世無二與比一。

神仙傳。董奉字君異。候官人。杜燮爲二交州刺史一。得レ毒病死三日。奉時在二南方一。乃往以二三丸藥一内二其口中一。令下人擧二其頭一搖中捎之上。食頃燮開レ目動二手足一。

董奉活燮　扁鵲起虢

神仙傳にいふ、董奉字は君異、候官の人なり。杜燮、交州の刺史となる。毒を得て病んで死すること三日。奉、時に南方に在り。乃ち往いて三丸藥を以て、その口中に入れ、人をして、其頭を擧げて、之を搖捎(一)せしむ。食頃(二)にして、燮、目を開き手足を動かし、顏色還り、半日にして能く起坐して遂に活く。奉、廬山の下に還つて居り、人の爲に病を治して錢物を取らず。病癒ゆる者をして、爲に一株の杏を種ゑしめ、數年にして、十萬餘株あり。鬱然として林を成す。杏子大に熟す(三)。奉、林中に於て倉を作り、宣語(四)すらく「杏を買はんと欲するものは、

華強記默識。四海之內。若レ指二諸掌一。武帝嘗問二漢宮室制度一。應對如レ流。聽者忘レ倦。數歲拜二中書令一。贊二成伐レ吳之計一。封二廣武縣侯一。名重二一世一。衆所二推服一。聲譽益甚。有二台輔之望一。惠帝時。拜二中書監一。盡レ忠匡輔。彌縫補レ闕。雖レ當二闇主虐后之朝一。而海內晏然華之功也。進二司空一。第

服せられ、聲譽益〻甚だしく、台輔(三)の望あり。惠帝の時、中書監に拜せられ、忠を盡して匡輔(四)し、彌縫(五)して闕を補ひ、闇主虐后(六)の朝に當ると雖も、しかも、海內晏然たるは華の功なり。司空に進む。第舍及び監省、數〻妖怪あり。少子韙、(七)中台の星の坼くる(八)を以て、華に位を遜れと勸む。華從はずして曰く、「天道玄遠、惟だ德を修め、以て應ぜんのみ。如かず、靜にして以て之を待ち、以て天命を俟ち、これを卒るに忠正を以てせんには」と。趙王倫・孫秀等、詔を矯めて之に害せらるゝや、朝野悲痛す。華、性、人物を好み、士、一介の善あれば、之が爲に延譽す。もとより、書籍を愛す。嘗て居を徙すや、書を載する三十乘(九)、天下の奇祕、世の稀に有るところの者、悉く華の所に在り。博物洽聞、世ともに比すべきものなし。

(一) 文選卷十三に載す (二) 言はずして心に存する也 (三) 台は三台星、三公に比す。三公たるの望あるをいふ (四) たすけ正す (五) 補ひ合す (六) 惠帝賈皇后 (七) 台星の中坐、司空にあたる (八) 裂開する也、光芒二星に分裂する如くなるをいふ (九) 車也。三十車

陰嬉識一曰。庚子之旦。金板剋レ書。出ニ地庭中一。曰。臣族虐王禽。宋均曰。謂下殺ニ關龍逢一之後。庚子之旦。庭中地有中此板異上也。龍同姓。稱ニ族虐王一。王殺レ我。必見レ禽也。

り出づ。曰く、『臣の族虐王禽にせられんと。』宋均曰く、『關龍逢を殺すの後、庚子の旦、庭中の地に、(二)この板異あるを謂ふなり。龍は(三)同姓なれば族虐王と稱す。王、我を殺したれば。必ず禽にせられんとなり』と。

(一) 臣は關龍逢。虐王は夏の桀王。禽は擒也。桀王殷の湯王に擒にせられんとの豫言也　(二) 鮭也　(三) 紂と同姓

晉書。張華字茂先。范陽方城人。學業優博。辭藻溫麗。器識弘曠。初未レ知レ名。著ニ鷦鷯賦一。阮籍見レ之曰。王佐才也。由レ是聲名始著。晉受レ禪。拜ニ黃門侍郎一。

晉書にいふ、張華、字は茂先、范陽方城の人なり。學業優博、辭藻溫麗、器識弘曠なり。初め未だ名を知られず。(一)鷦鷯の賦を著す。阮籍これを見て曰く、「王佐の才なり」と。これに由つて、聲名始めて著はる。晉、禪を受けて黃門侍郎に拜す。華、强記默識、(二)四海の內、これを掌に指すが若し。武帝、嘗て漢の宮室制度を問ふ。應對流るゝが如く、聽くもの、倦むを忘る。數歲にして、中書令に拜し、吳を伐つの計を贊成し、廣武縣侯に封ぜらる。名一世に重く、衆に推

諮祭酒一。時劉輿見レ任二於越一。人士多爲レ所レ構。惟凱縱二心事外一。無二迹可一レ閒。後以二其性儉家富一。説レ越令三就換二錢千萬一。冀二其有レ吝因レ之可レ乘。越於二衆坐中一問レ凱。凱頽然已醉。幘墮二机上一。以レ頭就穿取。徐答云。下官家故有二兩千萬一。隨二公所一レ取矣。輿於レ是乃服。越甚悦。因曰。不レ可下以二小人之慮一。度中君子之心上。後石勒亂被レ害。

その吝むあらば之に因つて乘ずべきを冀ふ。越、衆坐中に於て凱に問ふ。凱、(六)頽然として已に醉ひ、(七)幘を机上に墮し、頭を以て就いて穿ち取り、徐に答へて云ふ、「下官の家、もと兩千萬あり。公の取るところに隨ふ」と。輿、こゝに於て乃ち服す。越、甚だ悦ぶ。因つて曰く、「小人の慮を以て君子の心を度るべからず」と。後、石勒の亂に害せらる。

(一) 圍は五寸也、腰のまはり五尺なるをいふ　(二) 風韻高遠なり　(三) 誣構する也、無實の罪をきせらる　(四) 隙なり、罪に陷るゝ口實を見出す能はざるなり　(五) 借る也　(六) 姿勢のくづるゝさま　(七) 髮をつゝむ巾

舊注。引二論語

龍逢板出　張華台坼

舊注に、論語陰嬉讖を引いて曰く、『庚子の旦、金板に書を尅せるもの、地庭中よ

至吹二嘉帽一墮落。嘉不二之覺一。溫使二左右勿一レ言。欲レ觀二其擧止一。嘉良久如レ廁。溫令二取還一レ之。命二孫盛一作レ文嘲レ嘉。著二嘉坐一。嘉還見即答レ之。其文甚美。嘉好二酣飲一。愈多不レ亂。溫問酒有二何好一而卿嗜レ之。嘉曰。公未レ得二酒中趣一耳。又問。聽レ妓。絲不レ如レ竹。竹不レ如レ肉。何也。答曰。漸近使二之然一。

酣飲(三)を好み、愈〻多くして亂れず。溫、問ふ、「酒何の好きことあつて、卿これを嗜む。」嘉曰く、「公、未だ酒中の趣を得ざるのみ」と。又問ふ、「妓を聽くに、(四)絲は竹に如かず、竹は肉に如かざるは何ぞや。」答へて曰く、「漸く近く(五)して之をして然らしむ」と。

(一) 宴におなじ　(二) 同役や屬官　(三) 甚だしく酒を飲むこと　(四) 絲は琴瑟の類、竹は簫笛の類、肉は歌聲也。此句は古語也　(五) 自然の音に近くなる故然りとなり

晉書。庾凱字子嵩。潁川鄢陵人。長不レ滿二七尺一。而腰帶十圍。雅有二遠韻一。參二東海王越軍事一。轉二軍

晉書にいふ、庾凱、字は子嵩、潁川鄢陵の人。長七尺に滿たずして、腰帶十圍(一)あり。雅遠韻(二)あり。東海王越の軍事に參し、軍諸祭酒に轉ず。時に、劉輿、越に任ぜられ、人士多く爲に構へらる(三)。惟だ凱心を事外に縱(四)にし、迹の閒すべきなし。後、その性儉にして家富めるを以て、越に說いて、就いて錢千萬に換へ(五)しめ、

雨。而鳳持レ竿誦レ經。不レ覺二潦水流一レ麥。妻還怪問方悟。後爲二名儒一。年老執レ志不レ倦。太守連召請。恐レ不レ得レ免。乃詐與二寡嫂一訟レ田。後舉二直言一。到二公車一。託レ病隱二身漁釣一。

直言に舉げられ、公車(三)に到るも、病に託して身を漁釣に隱す。

(一) たまり水　(二) やもめとなりしあによめ　(三) 徵召を司る役所の名

孟嘉落帽　庾凱墮幘

晉書。孟嘉字萬年。江夏人。少知レ名。爲二征西桓溫參軍一。溫甚重レ之。九月九日。溫燕二龍山一。寮佐畢集。時佐吏竝著二戎服一。有レ風

晉書にいふ、孟嘉、字は萬年、江夏の人なり。少にして名を知られ、征西桓溫の參軍となる。溫、甚だ之を重んず。九月九日、溫、龍山に燕す(一)。寮佐(二)畢く集まる。時に佐吏竝に戎服を著す。風あつて至り、嘉の帽を吹いて墮落す。嘉、これを覺らず。溫左右をして言ふなからしめ、その舉止を觀んと欲す。嘉、良や久しうして廁に如く。溫、取つて之を還さしめ、孫盛に命じ、文を作つて嘉を嘲り、嘉の坐に著けしむ。嘉、還つて見て卽ち之に答ふ。その文、甚だ美なり。嘉、

伯槐。河内溫人。避二地上黨一。耕二種山阿一。當時旱蝗。林獨豐收。盡呼二比鄰一。升斗分レ之。仕至二光祿大夫一。魏略曰。林少單貧。自レ非二手力一不レ取二之於人一。性好レ學。漢末爲二諸生一。帶レ經耕鋤。其妻餉レ之。雖レ在二田野一。相敬如レ賓。

耕種す。當時、旱蝗(二)あり。林、獨り豐收す。盡く比鄰を呼び、升斗をもつて之を分つ。仕へて光祿大夫に至る。魏略に曰く、林、少にして單貧(三)、手力に非ざるよりは、之を人に取らず。性學を好む。漢末諸生(四)となり、經を帶びて耕鋤す。その妻、之に餉る(五)。田野に在りと雖も、相敬すること賓の如し。

(一)山の隅なり　(二)ひでりにして稻虫多く發生す　(三)たよるべき人なく且つ貧し　(四)書生、學生　(五)食物を運びおくる

後漢高鳳字文通。南陽葉人。家以レ農爲レ業。鳳專精誦讀。晝夜不レ息。妻嘗之レ田。曝二麥於庭一。令二鳳護一レ雞。時天暴

後漢の高鳳、字は文通、南陽葉の人なり。家、農を以て業となす。鳳、專精誦讀、晝夜息まず。妻嘗て田に之き、麥を庭に曝す。鳳をして雞を護らしむ。天暴に雨る。而も、鳳、竿を持し經を誦し、潦水(一)の麥を流すを覺えず。妻還つて怪み問うて方に悟る。後、名儒となる。年老いたれども、志を執つて倦まず。太守連りに召請す。免るゝを得ざるを恐れて、乃ち詐りて寡嫂(二)と田を訟ふ。後に

而老子申レ之無レ已者何。弼曰。聖人體レ無。無又不レ可ニ以訓一。故不レ說也。老子是有者也。故常言ニ無所レ不レ足。何晏爲ニ吏部尚書一。甚奇レ弼。歎曰。仲尼稱ニ後生可レ畏。若ニ斯人一者。可三與言ニ天人之際一乎。蓋云神伏。出ニ世說一。無レ載。

㊀儒學と道術　㊁言辭才識秀逸なる也　㊂無は陰陽相對の未だ分れざる絶對根源の氣にして、萬物みな之によりて出づ　㊃體得す　㊄却て有に執する者也　㊅少年をいふ。論語に出づ

晉郭奕字大業。太原陽曲人。高爽有ニ識量一。少レ所ニ推先一。見ニ阮咸一心醉。不レ覺歎焉。山濤稱ニ其高簡有ニ雅量一。太康中爲ニ尚書一。有ニ重名一。朝臣皆出ニ其下一。

晉の郭奕、字は大業、太原陽曲の人。高爽にして識量あり。推先する所少し。阮咸を見て心醉し、覺えず歎ず。山濤、その高簡にして雅量あるを稱す。太康中、尚書となり、重名あり。朝臣皆その下に出づ。

㊀人を己れより先に推して尊び重んず　㊁高潔にして簡易

常林帶經　高鳳漂麥

魏志。常林字

魏志にいふ、常林、字は伯槐、河内溫の人なり。地を上黨に避けて、山阿に

曰。晉司徒闕武帝問レ曷。答曰。三公具瞻所レ歸。不レ可レ用レ非二其次一。昔魏文帝用二賈詡一。孫權笑レ之。

魏志。王弼山陽人。好論二儒道一。辭才逸辯。注二易及老子一。年二十餘卒。何劭爲二其傳一曰。弼字輔嗣。爲二尚書郎一。時裴徽爲二吏部郎一。弼未レ冠。往造焉。徽一見異レ之。問曰。夫無者誠萬物之所レ資。然聖人莫二肯致一レ言。

何晏神伏　郭奕心醉

魏志にいふ、王弼は山陽の人、好んで儒道を論ず。(一)辭才逸辨、(二)易及び老子に注す。年二十餘にして卒す。何劭その傳を爲つて曰く、弼、字は輔嗣、尚書郎たるとき、裴徽、吏部郎たり。弼、未だ冠せず。往いて造る。徽、一見して之を異とす。問うて曰く、「夫れ無は誠に萬物の資するところ。然れども、聖人肯て言を致すなし。而して、老子(三)は之を申べて已むなきものは何ぞや。」弼曰く、「聖人は無を體す。(四)無又以て訓ふべからず。故に說かざるなり。老子は、是れ有(五)なる者なり。故に常に無の足らざるところを言ふ」と。何晏、吏部尚書たり。甚だ弼を奇とす。歎じて曰く、「仲尼、後生(六)畏るべしと稱す。斯の人の若きもの、與に天人の際を言ふべきか」と。舊に云ふ、神伏、世說に出づと。載するなし。

以三玩 有二德 望一。乃 遷二司 空一。既 而 歎 息 謂二賓 客一曰。以レ我 爲二三 公一。是 天 下 爲レ無レ人。談 者 以 爲二知 言一。玩 翼 亮 累 世。常 以二弘 重一。爲二人 主一所二貴 嘉一。性 通 雅。不下以二名 位一格上レ物。誘二納 後 進一。謙二禮 布 衣一。由レ是 縉 紳 之 徒。莫レ不レ蔭二其 德 宇一。

がず、後進を誘納し、布衣を謙禮す。是に由つて、(六)縉紳の徒、その德宇に蔭れざるなし。

(一) ゆつたりして正しきこと (二) 道理を辨へたる言辭 (三) 代々君を輔佐す (四) 度量大にして態度重々し (五) 理に通じて風雅なること (六) 縉は挿也、紳は大帶也。笏を挿み、紳を垂るゝもの、即ち朝臣高位の者をいふ

魏 志。賈 詡 字 文 和。武 威 姑 臧 人。少 時 人 莫レ知。唯 閻 忠 異レ之。謂 詡 有二良 平 之 奇一。後 拜二尚 書一。典二選 擧一。多レ所二匡 濟一。文 帝 時 爲二太 尉一。荀 勗 別 傳

魏志にいふ、賈詡、字は文和、武威姑臧の人なり。少時人知るなし。唯だ閻忠これを異とす。謂ふ、「詡、(一)良平の奇あり」と。後、尚書に拜し、選擧を典り、(二)匡濟する所多し。文帝の時、大尉となる。荀勗別傳に曰く、晉の司徒闕く。武帝、勗に問ふ。答へて曰く、「三公は(三)具瞻の歸する所、其(四)次に非ざるを用ふべからず。昔、魏の文帝、賈詡を用ふるや、孫權、之を笑ふ」と。

(一) 張良と陳平 (二) 正しく救ふ (三) 民のともに仰ぎみる所の意 (四) 其位

謝。安國曰。公等足二與治一乎。卒善遇レ之。爲レ人多二大略一。知足二以當世取舍一。而出二於忠厚一。貪二嗜財利一。然所二推擧一。皆廉士賢二於己一者。士亦以レ此稱レ之。唯天子以爲二國器一。官至二御史大夫一。行二丞相事一。

㈠法に觸れて罪に問はる　㈡梁の縣名　㈢田は姓、甲は甲乙の甲にて某といふにおなじ　㈣死灰の如き勢なき獄裡の身も罪を免れて又立身することあらんとの喩也　㈤小便するなり、官威を以ておさへんとの意　㈥刑徒の中　㈦我よりも高官となりて我を壓迫せずばの意　㈧肩をぬぐ　㈨相手にするに　㈩取るべきを取り捨つべきを捨つるの才あれども其人の爲めに圖るや親切の心より出づとの意にや　㈠㈠國政を執るに足る器量

陸玩無人　賈詡非次

晉書。陸玩字士瑤。吳人。器量淹雅。累二轉尚書散騎常侍一。尋而王導郗鑒庾亮相繼薨。朝野以レ爲三良既沒。

晉書にいふ、陸玩、字は士瑤、吳の人なり。器(一)量淹雅、尚書散騎常侍に累轉す。尋いで、王導・郗鑒・庾亮相繼いで薨ず。朝野以爲へらく、三良すでに沒すと。玩が德望あるを以て、乃ち司空に遷る。既にして、歎息して賓客に謂つて曰く、「我を以て三公とするは、これ天下人無きが爲なり」と。談者以て知言(二)となす。玩、(三)翼亮累世、常に弘重(四)を以て人主に貴嘉せらる。性(五)通雅、名位を以て物を格

之。琰常曰。大器晩成。終必遠至。孫禮盧毓始入二軍府一。琰曰。孫疏亮亢烈。剛簡能斷。盧清警明レ理。百鍊不レ消。皆公才也。後咸至二鼎輔一。

前漢韓安國字長孺。梁成安人。徙二睢陽一。事二梁孝王一爲二中大夫一。後坐レ法抵レ罪。蒙獄吏田甲辱二安國一。安國曰。死灰獨不二復然一乎。甲曰。然卽溺レ之。無レ何。漢使三使者拜二內史一。起二徒中一爲二二千石一。田甲亡。安國曰。甲不レ就レ官。我滅二而宗一。甲肉袒

前漢の韓安國、字は長孺、梁の成安の人なり。睢陽に徙る。梁の孝王に事へて、中大夫となる。後、法に坐して(一)罪に抵る。(二)蒙の獄吏(三)田甲、安國を辱しむ。安國曰く、「死(四)灰獨り復た燃えざらんや。」甲曰く、「然らば卽ち之に溺(五)せん」と。何もなくして、漢、使者をして內史に拜せしむ。徒(六)中より起つて二千石となる。田甲亡ぐ。安國曰く、「甲(七)、官に就かずんば、我、而の宗を滅さん」と。甲、肉(八)袒して謝す。安國曰く、「公等與に治(九)するに足らんや」と。卒に善く之を遇す、人と爲り大略多し。知は以て當世の取舍(一〇)に足れるも、而も忠厚に出づ。財利を貪嗜するも、然れども、推擧するところは、皆廉士にして、己より賢なるものなり。士亦た此を以て之を稱す。唯だ天子以て國器(一一)となす。官、御史大夫に至り、丞相の事を行ふ。

與二一竹杖一曰。騎レ此任レ所レ之。則自至矣。既至。可三以レ杖投二葛陂中一。又爲作二一符一曰。以レ此主二地上鬼神一。長房乘レ杖。須臾來歸。自謂去レ家適經二旬日一。已十餘年矣。卽以レ杖投レ陂。顧視則龍也。遂能醫二療衆疾一。鞭二笞百鬼一。後失二其符一。爲二衆鬼一所レ殺。

季珪士首　安國國器

魏志。崔琰字季珪。河東武城人。遷二中尉一。甚有二威重一。朝士瞻望。太祖亦敬憚焉。明帝時。崔林嘗與二陳羣一論二冀州人士一。稱レ琰爲レ首。林琰從弟。少無二名望一。雖二姻族一猶輕レ

魏志にいふ、崔琰、字は季珪、河東武城の人なり。中尉に遷る。甚だ威重(一)あり。朝士瞻望(二)す。太祖も亦た敬憚す。明帝の時、崔林、嘗て陳郡と冀州の人士を論じ、琰を稱して首となす。林は琰の從弟、少にして名望なし。姻族と雖も、猶ほ之を輕んず。琰常に曰く、「大器は晩成す。終に必ず遠く至らん」と。孫禮・盧毓、はじめて軍府に入る。琰曰く、「孫は疏亮亢烈(三)、剛簡にして能く斷ず。盧は淸警理に明かに(四)、百鍊すれども消えず(五)。皆公才(六)なり」と。後、咸鼎輔(七)に至る。

(一) 威厳ありておもくしきこと　(二) 仰ぎのぞむ　(三) 疏亮は理に明かなり。亢烈は性質はげしきなり。剛簡はつよくして簡易なるなり　(四) 心淸くしてつゝしみ深し　(五) 德の厚き意　(六) 三公たるの才　(七) 三公輔弼

使レ懸二之舍一後。家人見卽其形也。以爲二縊死一。遂葬レ之。長房隨入二深山一。羣虎中留使二獨處一。長房不レ恐。又臥二於空室一。以二朽索一懸二萬斤石於心上一。衆蛇來齧レ索且レ斷。長房亦不レ移。翁曰。子可レ敎也。復使レ食レ糞。糞中有レ蟲。臭甚。長房意惡レ之。翁曰。子幾得レ道。恨於レ此不レ成。長房辭歸。翁

空室に臥せしめ、朽索(二)を以て萬斤の石を心上(三)に懸く、衆蛇來つて索を齧み、まさに斷えんとす。長房、亦た移らず。翁曰く、「子敎ふべきなり」と。復た糞を食はしむ。糞中に蟲あり、臭甚し。長房、意、これを惡む。翁曰く、「子、幾んど道を得んとす。恨むらくは、こゝに於て成らず」と。長房、辭して歸る。翁、一竹杖を與へて曰く、「これに騎して之くところに任せば、自ら至らん。すでに至らば、杖を以て葛陂(四)の中に投ずべし」と。又爲に一符を爲つて曰く、「これを以て地上の鬼神を主らしめん」と。長房、杖に乘り、須臾にして歸り來る。自ら謂ふ、家を去つて適く旬日を經たりと。すでに十餘年なり。卽ち杖を以て陂に投ず。顧視すれば則ち龍なり。後、遂に能く衆疾を醫療し百鬼を鞭笞(五)す。後、その符を失ひ、衆鬼に殺さる。

(一) 仙翁が長房を也　(二) 腐れなば　(三) 胸の上　(四) 池の名　(五) むち打ちて使役す

不ニ兼覆一。地不ニ周載一。火爁炎而不レ滅。水浩洋而不レ息。猛獸食ニ顓民一。鷙鳥攫ニ老弱一。於レ是女媧錬ニ五色石一。以補ニ蒼天一。斷ニ鼇足一以立ニ四極一。殺ニ黑龍一以濟ニ冀州一。積ニ蘆灰一以止ニ淫水一。蒼天補。四極正。淫水涸。冀州平。狡蟲死。顓民生。

を攫む。こゝに於て、女媧(五)、五色の石を錬つて以て蒼天を補ひ、鼇足(六)を斷つて以て四極を立て、黑龍を殺して以て冀州を濟ひ、蘆灰(七)を積んで、以て淫水(八)を止む。蒼天補はれ、四極正しく、淫水涸れ、冀州平ぎ、狡蟲(九)死し、顓民生く。

㊀ 東西南北四方のはて、冀・兗・青・徐・揚・荊・豫・梁・雍をいふ。天下亂るゝの喩 ㊁ 社會の秩序の行はれざるの喩 ㊂ さかんに火のもゆる貌、浩洋は大水の貌。大旱洪水をいへる也 ㊃ 善民。鷙鳥は猛禽。洪水の時禽獸、人に逼れるをいふ ㊄ 伏義に代りて立ち聖德の名ありし天子。五色は五倫に喩ふ ㊅ 大龜の足、惡徒を剿絕して紀綱を新に立つるをいふ ㊆ 君德に喩へし也 ㊇ 地に洪水のため蘆生ぜしを以てその灰を積みて淫水を止む。淫水は平地に水の上るをいふ ㊈ 狡猾の徒亡び太平となれるをいふ

後漢費長房。既遇ニ仙翁一。欲レ求レ道。而顧ニ家人爲レ憂。翁乃斷ニ一青竹一。度與ニ長房身一齊。

後漢の費長房、すでに仙翁に遇うて、道を求めんと欲すれども、家人の憂を爲さんを顧ふ。翁、乃ち一青竹を斷ち、度つて長房の身と齊くし、これを舍後に懸けしむ。家人、見れば卽ち其形なり。以て縊れ死せりとなし、遂に之を葬る。長房、隨つて深山に入る。群虎(一)の中に留めて、獨り處らしむ。長房恐れず。又

酒。雅爲ニ劉惔一所レ貴。惔常毎云。見ニ次道飲一。令ニ人欲レ傾ニ家釀一。言ニ其能溫克一也。舊本惔作レ恢誤。

ふなり。舊本、惔を恢に作るは誤れり。

㊀ 粟也 ㊁ 家につくれる酒を盡く飲ましむる意 ㊂ 溫和にして能く己にかつなり

世說。王孝伯曰。名士不三必須ニ奇才一。但使ニ常無レ事。痛ニ飲酒一。熟ニ讀離騷一。便可レ稱ニ名士一。

世說にいふ、王孝伯曰く、「名士は必ずしも奇才を須たず。たゞ常に事無からしめ、酒を痛飲し、離騷(一)を熟讀すれば、便ち名士と稱すべし」と。

㊀ 屈原の作になる賦の名

女媧補天　長房縮地

淮南子曰。往古之時。四極廢。九州裂。天

淮南子に曰く、往古の時、(一)四極廢し、九州裂く。(二)天兼ねて覆はず。地周ねく載せず。(三)火爁炎して、滅せず。水浩洋として、息まず。猛獸顓氏(四)を食し、鷙鳥老弱

重。自以其作不ㇾ謝二班張一。以示二皇甫謐一。謐稱ㇾ善。爲二其賦序一。張載爲注二魏都一。劉逵注二呉蜀一而序ㇾ之。張華見曰。班張之流也。於ㇾ是競相傳寫。洛陽爲ㇾ之紙貴。初陸機欲ㇾ爲二此賦一。聞二思作一。撫ㇾ掌而笑。與二弟雲一書曰。此間有二傖父一。欲ㇾ作二三都賦一。須二其成一。當三以覆二酒甕一耳。及二思賦出一。機歎伏以爲不ㇾ能ㇾ加。遂輟ㇾ筆焉。

と欲す。その成るを須つて、當に以て酒甕(八)を覆ふべきのみ」と。思の賦出づるに及び、機歎伏し、以爲へらく、加ふる能はずと。遂に筆を輟む。

(一) 貌は便に通ず、容貌短小にしてみにくきこと (二) 魏・呉・蜀の三都 (三) 岷山臨邛 (四) 十年に同じ、稔は五穀のみのる意、即ち一年に一度なるを以て歳の義に用ふ (五) かきねとしきみ (六) 記 (七) 班固の兩都の賦、張衡の二京賦に讓らず (四) 呉人が中州の人をいやしむの語 (八) さけがめの口を覆ふに用ふる外價値なしとの意

劉惔傾釀　孝伯痛飲

晉書。何充字次道。廬江灊人。康帝時。爲二中書監一錄二尚書事一。充能飲ㇾ

晉書にいふ、何充、字は次道、廬江灊の人なり。康帝の時中書監となりて尚書の事を錄す。充、能く酒を飲む。(一)雅より劉惔に貴ばる。惔、常に毎に云ふ、「次道の飲むを見れば、人をして(二)家釀を傾けんと欲せしむ」と。その能く(三)溫克なるを言

甚尊重之。毎為報書及賜。常召司馬相如等。視草乃遣。初安入朝。使為離騷傳。旦受詔。日食時上。毎宴見。談說得失及方技賦頌。昏暮然後罷。後謀反自殺。

晉書。左思字太冲。齊國臨淄人。貌寢口訥。而辭藻壯麗。造齊都賦。一年乃成。復欲賦三都。乃詣著作郎張載。訪岷邛之事。遂搆思十稔。門庭藩溷。皆著筆紙。遇得一句。卽便疏之。自以所見不博。求為祕書郎。及賦成。時人未之

晉書にいふ、左思、字は太冲、齊國臨淄の人。(一)貌寢にして口訥、しかも、辭藻壯麗なり。齊都の賦を造るに、一年にして乃ち成る。復た(二)三都を賦せんと欲し、乃ち著作郎張載に詣つて(三)岷邛の事を訪ふ。遂に思を構ふること(四)十稔。門庭(五)藩溷、皆筆紙を著く。一句を得るに遇ひ、卽ち之を(六)疏す。自ら以へらく、見る所博からずと。求めて、祕書郎となる。賦成るに及びて、時人未だこれを重んぜず。自ら以へらく、その作、(七)班張に謝せずと。以て皇甫謐に示す。謐、善と稱して、その賦の序を爲る。張載、爲に魏都に注し、劉逵、吳蜀に注して、之に序す。張華見て曰く、「班張の流なり」と。こゝに於て、競うて相傳寫す。洛陽これが爲に紙貴し。初め、陸機、この賦を爲らんと欲す。思が作るを聞いて掌を撫して笑ふ。弟雲に與ふる書に曰く、「この間、(八)傖父あり、三都の賦を作らん

前漢淮南王安。高祖之孫。好レ書鼓レ琴。不レ喜二弋獵狗馬馳騁一。亦欲下以行二陰德一拊二循百姓。流中名譽上。招二致賓客方術之士一數千人。作二爲內外篇一。又有二中篇一。言二神仙黃白之術一。時武帝好二藝文一。以下安屬爲二諸父一。辯博善爲中文辭上。

淮南食時　左思十稔

前漢の淮南王安は、高祖の孫なり。書を好み、琴を鼓し、弋獵(一)狗馬の馳騁を喜ばず。亦た以て陰德を行ひ、百姓を拊循(二)し、名譽を流(三)へんと欲し、賓客方術の士を招致する、數千人。(四)內外篇を作爲す。又中篇(五)あり。神仙黃白(六)の術を言ふ。時に武帝藝文を好む。安が屬にして諸父(七)たり。辯博にして、善く文辭を爲るを以て、甚だ之を尊重す。(八)報書及び賜を爲る每に、常に司馬相如等を召して草(九)を視せしめて乃ち遣る。初め、安入朝す。離騷傳を爲らしむ。旦に詔を受け、日の食時に上る。(一〇)宴見ごとに、得失及び方技賦頌を談說し、昏暮にして、然る後に罷む。後謀反して自殺す。

(一) 弋はイグルミを以て鳥をとること、弋獵はかりなり。狗馬は犬馬。馳騁はかけまはること (二) なでしたがふ (三) 傳に同じ (四) 內書二十一篇、今の淮南子也。外書傳らず (五) 八卷、傳はらず (六) 丹砂を煉りて金銀をつくる方術 (七) 從父叔父 (八) 安への返書及び之に賜ふ書 (九) 草稿、したがき (一〇) 天子の間暇の時に謁すること

後漢蔡順字君仲。汝南人。少孤養レ母。母終未レ葬。里中災。火將レ逼二其舍一。順伏レ棺。號哭叫レ天。火遂越燒二它室一。太守韓崇召爲二東閣祭酒一。母平生畏レ雷。自レ亡後。每レ有二雷震一。順輒圜レ冢泣曰。順在レ此。崇聞輒差二車馬一。到二墓所一。後舉二孝廉一。不レ就。
舊注云。王莽末。天下大荒。順拾レ椹。赤黑異レ器盛レ之。赤眉賊見而問レ之。順曰。黑者奉レ母。赤者自食。賊知二其孝一。乃遺二米二斗。牛蹄一隻一。

後漢の蔡順、字は君仲、汝南の人なり。少きより孤(一)にして母を養ふ。母終つて未だ葬らず。里中に災あり。火將に其舍に逼らんとす。順、棺に伏し、號哭して天に叫ぶ。火遂に越えて它室(二)を燒く。太守韓崇、召して東閣祭酒となす。母平生雷を畏る。亡せしより後、雷震ある每に、順輒ち冢を圜り、泣いて曰く、「順こゝに在り」と。崇、聞いて輒ち車馬を差し、墓所に至らしむ。後、孝廉(三)に擧げらる。就かず。舊注に云ふ、王莽の末、天下大に荒る。順、椹を拾ふ。赤黑器を異にして、之を盛る。赤眉の賊見て之を問ふ。順曰く、「黑き者(四)は母に奉じ、赤き者は自ら食ふ」と。賊、その孝を知つて、乃ち米二斗牛蹄(五)一隻を遺る。

(一) 父なきをいふ　(二) 他におなじ　(三) 科目の名　(四) 黑きは熟したるにて甘く赤きは酸し。故にかくせし也　(五) 牛の片方の股

休徵。瑯邪臨沂人。性至孝。繼母朱氏不慈。而祥愈恭謹。父母疾。衣不レ解レ帶。湯藥必親嘗。母嘗欲二生魚一。時天寒水凍。祥解レ衣。將三剖レ氷求二之。氷忽自解。雙鯉躍出。母又思二黃雀炙一。復有二黃雀數十一。飛入二其幕一。鄕里驚歎。以爲二孝感所一レ致。有二丹柰結一レ實。母命守レ之。每二風雨一。輒抱レ樹而泣。篤孝純至如レ此。漢末遭レ亂。扶レ母攜レ弟避二地廬山一。隱居三十年。不レ應二州郡之命一。年垂二耳順一。乃應レ召。舉二秀才一。累二遷大尉一。武帝時拜二太保一。

れども、祥愈〻恭謹なり。父母疾むや、衣帶を解かず。湯藥必ず親ら嘗む。母嘗て生魚を欲す。時に天寒くして水凍る。祥、衣を解き將に氷を剖いて之を求めんとす。氷忽ち自ら解け、雙鯉躍り出づ。母又黃雀(一)の炙を思ふ。復た黃雀數十あり、飛んで其幕に入る。鄕里驚嘆して、以て孝感(二)の致すところとなす。丹柰の實を結ぶあり。母命じて之を守らしむ。風雨ごとに輒ち樹を抱いて泣く。(三)篤孝純至、かくの如し。漢末亂に遭ひ、母を扶け、弟を攜へて、地を廬山に避け、隱居三十年。州郡の命に應ぜず。年、(四)耳順に垂んとして、乃ち召に應ず。秀才に擧げられ、大尉に累遷す。武帝の時、太保に拜せらる。

(一) 形小にして口の黃色の雀　(二) 誠孝、天を感動せしめし也　(三) 赤色のかちなし　(四) 六十歳の稱、論語に六十而耳順とあり

後漢黄香字文強。江夏安陸人。博學二經典一。究二精道術一。能二文章一。京師號曰。天下無雙。江夏黄童。官至二尙書令魏郡太守一。陶淵明曰。香九歲失レ母。思慕骨立。事レ父竭レ力致レ養。冬無二被袴一。而盡二滋味一。暑則扇二床枕一。寒則以レ身溫レ席。和帝嘉レ之。特加二異賜一。

後漢の黄香、字は文強、江夏安陸の人。博く經典を學び、道術を究精し、文章を能くす。京師號して曰く、『天下無雙江夏の黄童(一)』と。官、尙書令魏郡の太守に至る。陶淵明曰く、(二)「香九歲のとき、母を失ひ、思慕して骨立(三)す。父に事へて力を竭し養を致す。冬は被袴(四)なけれども、滋味を盡し、暑には則ち床枕を扇ぎ、寒には則ち身を以て席を溫む。和帝これを嘉して、特に異賜(五)を加ふ。」

(一) 當時未だ冠せず、故に童といふ　(二) 以下の文、淵明の士孝傳に出づ　(三) 慕ふあまりに體やせて骨出づ　(四) 夜具とはかま　(五) 特別のたまもの

王祥守柰　蔡順分椹

晉書。王祥字

晉書にいふ、王祥、字は休徵、瑯邪臨沂の人。性至孝なり。繼母朱氏、不慈な

高子傳。老萊子楚人。少以二孝行一。養レ親極二甘脆一。年七十。父母猶存。萊子服二荊蘭之衣一。爲二嬰兒戲於二親前一。言不レ稱レ老。爲レ親取レ食上レ堂。足跪而偃。因爲二嬰兒啼一。誠至發レ中。楚室方亂。乃隱耕二於蒙山之陽一。著レ書號二老萊子一。莫レ知レ所レ終。舊注云。著二五色斑斕之衣一。出二列女傳一。今文無レ載。

老萊斑衣　黃香扇枕

高士傳にいふ、老萊子は楚人なり。少にして孝行を以て親を養ひ、甘脆(二)を極む。年七十にして、父母猶ほ存す。萊子、荊蘭の(一)衣を服し、嬰兒の戲を親の前に爲し、言、老を稱せず。親の爲に食を取つて堂に上り、足跪いて偃す。因つて、嬰兒の啼を爲す。誠至中より發す。楚室方に亂る。乃ち隱れて蒙山の陽に耕し、書を著して老萊子と號す。終るところを知るなし。舊注に云ふ、五色斑斕の衣を著く。列女傳に出づと。今文載するなし。

(一) 荊はにんじんぼくといふ木、蘭はあららぎといふ草、即ち此等を畫きたる衣。一説に斑斕の誤なりと

(二) あまくしてもろし。老人の食し易き食物

忽於二腰間一躍出墮レ水。使三人沒レ水取レ之。不レ見レ劍。但見二兩龍一。各長數丈。蟠縈有二文章一。沒者懼而反。須臾光彩照レ水。波浪驚沸。於レ是失レ劍。

魏志。呂虔字子格。任城人。遷二徐州刺史一。請二王祥一爲二別駕一。民事一以委レ之。世多二其能任一レ賢。初虔有二佩刀一。工相レ之以爲。必登二三公一。可レ服二此刀一。虔謂レ祥曰。苟非二其人一。刀或爲レ害。卿有二公輔之量一。故以相與。祥爲二三公一。臨レ薨以レ刀授レ覽曰。汝後必興。足レ稱二此刀一。覽後奕世多二賢才一。興二於江左一。

魏志にいふ、呂虔、字は子格、任城の人なり。徐州の刺史に遷り、王祥を請うて別駕となし、民事一に以て之に委ぬ。世、その能く賢に任ずるを多とす。初め虔佩刀あり。(一)工之を相して、以爲へらく、必ず三公(二)に登つて、此刀を服すべしと。虔、祥に謂つて曰く、「苟くも其人に非れば、刀或は害を爲さん。卿は公輔(三)の量あり。故に以て相與ふ」と。祥、三公となり、薨ずるに臨み、刀を以て覽に授けて曰く、「汝後に必ず興らん。此刀稱(四)ふるに足れり」と。覽の後、奕世(五)賢才多く、江左(六)に興る。

(一)劍工 (二)大尉・司徒・司空の總稱 (三)天子を輔佐するの器量 (四)相適する也 (五)代々、累代 (六)江東也、東晉をいふ

天一耳。華問レ在二何郡一。曰在二豫章豐城一。華即署レ煥爲二豐城令一。煥到レ縣。掘二獄基一。得二石函一。中有二雙劍一。竝刻題。一曰二龍泉一。一曰二太阿一。其夕氣不二復見一。煥遣レ使。送レ一與レ華。留レ一自佩。或曰。得レ兩送レ一。張公可レ欺乎。煥曰。本朝將レ亂。張公當レ受二其禍一。此劍當レ繫二徐君墓樹一耳。靈異之物。終當二化去一。華得レ劍。報レ煥書曰。詳觀二劍文一。乃干將也。莫邪何不レ至。雖レ然天生二神物一。終當レ合耳。華誅失二劍所在一。煥卒。子華爲二州從事一。持レ劍行經二延平津一。

す。張公當に其禍を受くべし。この劍、當に徐君の墓樹に繫くべきのみ。靈異の物、終に當に化し去るべし」と。華、劍を得て煥に報ずる書に曰く、『詳に劍文を觀るに、乃ち干將なり。莫邪何ぞ至らざる。然りと雖も、天、神物を生ず。終に（六）當に合すべきのみ』と。華誅せられ、劍の所在を失ふ。煥卒し、子華、州の從事となり、劍を持し、行いて延平津を經るや、忽ち腰間より躍り出で、水に墜つ。人をして水に沒して、之を取らしむれども劍を見ず。但だ兩龍を見る。各長さ數丈、（七）蟠縈文章あり。沒する者懼れて反る。須臾にして、光彩水を照し、波浪驚沸す。是に於て劍を失ふ。

（一）兩斗星と牽牛星との間にして呉越の分野　（二）天文學、天文星象　（三）官に任ずること　（四）獄舍の礎　（五）共に鍛工干將莫邪夫婦の鍛冶したる古の名劍　（六）ながく人の佩用とならざるべしと也　（七）わだかまりまつはれるあや

晉書。初呉之未滅。斗牛間常有紫氣。道術者。皆以呉方强盛未可圖。惟張華以爲不然。及呉平紫氣愈明。華聞豫章雷煥妙達緯象。乃要煥宿。屏人共尋天文。登樓仰觀。煥曰。惟斗牛間有異氣。寶劍之精。上徹於

雷煥送劍　呂虔佩刀

晉書にいふ、初め呉の未だ滅びざるや、斗牛の間、常に紫氣あり。道術の者、皆以へらく、呉方に强盛ならんこと未だ圖る(二)べからずと。惟だ張華のみ以爲へらく、然らずと。呉平らぐに及び、紫氣愈〻明かなり。華、豫章の雷煥が妙に緯象に達すと聞き、乃ち煥を要へて宿せしめ、人を屏け、共に天文を尋ね、樓(一)に登つて仰ぎ觀る。煥曰く、「惟だ斗牛の間に異氣あり。寶劍の精、上つて天に徹するのみ」と。華、何の郡に在りやと問ふ。曰く、「豫章の豐城に在り」と。華、卽ち煥を署(三)して豐城の令と爲す。煥、縣に至り、獄基(四)を掘り、石函を得たり。中に雙劍あり。竝に刻題し、一は龍泉(五)と曰ひ、一は太阿と曰ふ。その夕、氣復た見えず。煥、使を遣し、一を送つて華に與へ、一を留めて自ら佩ぶ。或人曰く、「兩を得て一を送る。張公欺くべけんや。」煥曰く、「本朝將に亂れんと

天使也。當三往燒二東海糜竺家一。感二君見一レ載。故以相語。竺因私請レ之。婦曰不レ可レ得レ不レ燒。君可二馳去一。我當二緩行一。日中火當レ發。竺乃還レ家。遽出二資物一。日中而火大發。

㊀縣名　㊁蜀漢の劉備　㊂身を寄せて乘る　㊃火災を免れんことを請ふ　㊄正午

續齊諧記。汝南桓景。隨二費長房一遊學累レ年。長房謂レ之曰。九月九日。汝家當レ有二災厄一。急宜レ去。令下家人各作二絳囊一。盛二茱萸一以繋レ臂。登二高山一飲中菊酒上。此禍可レ消。景如レ言。擧家登レ高。夕還見二雞犬牛羊一時暴死一。長房聞レ之曰。代レ之矣。今世人每レ至二九日一。登レ山飲二菊酒一。帶二茱萸囊一是也。

續齊諧記にいふ、汝南の桓景、費長房に隨ひ、遊學年を累ぬ。長房これに謂つて曰く、「九月九日、汝の家、當に災厄あるべし。急に宜しく去るべし。家人をして各絳囊(一)を作り、茱萸を盛り、以て臂に繋け、高山に登り菊酒を飲ましむれば、この禍(二)、消ゆべし」と。景、言の如くす。擧家(三)高きに登り、夕に還れば、雞犬牛羊、一時に暴死するを見る。長房、これを聞いて曰く、「これに代れり」(四)と。今世人九日に至る每に、山に登つて菊酒を飲み、茱萸囊を帶ぶるは是なり。

㊀赤色のふくろ　㊁ぐみとは別なり、かははじかみ　㊂一家中みな　㊃雞牛等の人に代れるをいふ

賦。常居二窮素一。所レ處蓬蒿没レ人。閉レ門養レ性。不レ治二名利一。澹高。時人莫レ知。惟劉龔知レ之。終身不レ仕。三輔重焉。

終身仕へず。(四)三輔これを重んず。

(一) 天文學　(二) 貧困貧窮　(三) よもぎ　(四) 京兆、扶風、馮翊

蜀志。糜竺字子仲。東海朐人。仕二先主一。累二拜安漢將軍一。搜神記曰。竺嘗從レ洛歸。未レ達レ家數十里。路見二婦人一。從レ竺求二寄載一。行可二數里一。婦謝去。謂レ竺曰。我

糜竺收資　桓景登高

蜀志にいふ、糜竺、字は子仲、(一)東海朐の人なり。(二)先主に仕へ、安漢將軍に累拜す。

搜神記に曰く、竺、嘗て洛より歸る。未だ家に達せざること數十里にして、路に婦人を見る。竺に從つて寄載を求む。行くこと數里ばかり、婦謝して去らんとし、竺に謂つて曰く、「我は(三)天使なり。當に往いて東海糜竺の家を燒くべし。君が載せられたるを感ず。故に以て相語ぐ」と、竺、因つて私に(四)之を請ふ。婦曰く、「燒かざるを得べからず。君、馳せ去るべし。我、當に緩行すべし。(五)日中に火當に發すべし」と。竺、乃ち家に還り、遽に資物を出す。日中にして火大に發す。

娶レ妻而美。三年不レ言不レ笑。御以如レ皐。射レ雉獲レ之。其妻始笑而言。賈大夫曰。才之不レ可二以已一。我不レ能レ射。汝遂不レ言不レ笑。

㊀ 賈といふ賢人あり、其容貌みにくしとなり ㊁ 一言の妙語を發す ㊂ 水澤、岸 ㊃ 才藝なくてはならぬものなりと也。卿もまた今の一言を發せざれば、我と相見ることなかりしならんとの意を寓す

論語曰。一簞食。一瓢飲。在二陋巷一。人不レ堪二其憂一。回也不レ改二其樂一。賢哉回也。

高士傳。張仲蔚。扶風平陵人。明二天官一。博物善レ文。好二詩

顔回簞瓢　仲蔚蓬蒿

論語に曰く、一簞の食、一瓢の飲、陋巷に在り。人は其憂に堪へず。回や其樂を改めず。賢なるかな回や。

㊀ 簞はじきろう即ち竹を編みて作りたる器。食は飯。瓢はひさご即ち瓠を剖きて爲りたる飲器 ㊁ 狹く汚きちまた

高士傳にいふ、張仲蔚は扶風平陵の人なり。天官に明かに、博物にして文を善くし、詩賦を好む。常に窮素に居て、處るところ、蓬蒿人を沒す。門を閉ぢ、性を養ひ、名利を治めず、清高なり。時人知るなく、惟だ劉龔のみこれを知る。

閣。載以蜀人恃險好亂。因著銘以作誡。益州刺史張敏奇之。表上其文。武帝遣使鐫之於劍閣山焉。仕至中書侍郎。載甚醜。每行。小兒以瓦石擲之。委頓而反。

閣山に鐫(五)しむ。仕へて、中書侍郎に至る。載、甚だ醜し。行く毎に小兒瓦石を以て之に擲ち、委頓(六)して反る。

㈠ みやびやか ㈡ 安否を訪ふ ㈢ 長安より蜀に行く道中嶮阻のところにして要害の地なり ㈣ 劍閣銘は文選銘類に見ゆ ㈤ 刻む、ゑる ㈥ 傷けられて倒るゝ貌

左氏傳曰。叔向適鄭。鬷蔑惡。欲觀叔向。從使之收器者而往。立於堂下。一言而善。叔向將飲酒。聞之曰。必鬷明也。下執其手而上曰。昔賈大夫惡。

左氏傳に曰く、叔向、鄭に適く、鬷蔑(一)惡し。叔向を觀んと欲し、使の器を收むる者に從つて往き、堂下に立ち、一言(二)して善し。叔向將に酒を飲まんとし、之を聞いて曰く、「必ず鬷明ならん」と。下つて其手を執り、上つて曰く、「むかし賈大夫惡し。妻を娶るに美なり。三年言はず笑はず。御として以て皐(三)に如き、雉を射て之を獲たり。其妻始めて笑つて言ふ。賈大夫曰く、「才(四)以て已むべからず。我、射る能はずんば汝遂に言はず笑はじ」と。

法活レ之。所レ惛者曲レ法滅レ之。所レ居郡。必夷ニ其豪一。爲レ守視ニ都尉一如レ令。爲ニ都尉一陵ニ太守一奪ニ之治一。後爲ニ河東都尉一。與レ守爭レ權棄市。

視ること、(三)令の如し。都尉となつては、太守を陵いで之が治を奪ふ。後、河東の都尉となり、守と權を爭つて(四)棄市せらる。

(一)一郡の太守祿二千石　(二)勢の衆に勝れたる者　(三)太守の下に都尉あり、その下に令あり。太守が次位の都尉に對するに第三位の令の如くするなり　(四)罪人の屍を市にさらすの刑

晉書。張載字孟陽安平人。性閑雅。博學有ニ文章一。父收爲ニ蜀郡太守一。太康初。至レ蜀省レ父。道經ニ劍

孟陽擲瓦　賈氏如皐

晉書にいふ、張載、字は孟陽、安平の人なり。(一)性閑雅にして、博學文章あり。父は收、蜀郡の太守たり。太康の初、蜀に至つて父を省し、(二)道、(三)劍閣を經。載、以へらく、蜀人險を恃んで亂を好むと。因つて、(四)銘を著し、以て誡を作る。益州の刺史張敏、これを奇とし、表して其文を上る。武帝、使を遣し、之を劍

拜縱爲中郎。遷長安令。直法行治。不避貴戚。遷河內都尉。至則誅滅其豪穰氏之屬。道不拾遺。爲南陽太守。破碎寧成家。徙定襄太守。至則掩其獄中重罪。一切捕鞫。殺四百餘人。郡中不寒而栗。時趙禹張湯爲九卿。然其治尚寬。輔法而行。縱以鷹擊毛摯爲治。後以廢格沮事棄市。

破碎す。定襄の太守に徙り、至れば、則ちその獄中の重罪を掩し、一切捕鞫(三)して、四百餘人を殺す。郡中寒からずして栗(四)す。時に趙禹・張湯、九卿たり。然も、其治寬を尙び、法を輔けて行ふ。縱は鷹(五)の毛を擊つて摯るを以て治を爲す。後、廢(六)格沮事を以て棄市せらる。

(一)せめおびやかす　(二)醫術を心得たるを以て武帝の母の王太后に寵さる　(三)捕へて罪をたゞす　(四)おそれふるふ　(五)鷹が小鳥をうつて殺すが如く、法の嚴しきこと　(六)廢格は天子の命をすてゝ服せざるなり。沮事は已成の事を打ちこはすなり

前漢周陽由。景帝時爲郡守。武帝立。由居二千石中。最爲暴酷驕恣。所愛者撓

前漢の周陽由は、景帝の時、郡守たり。武帝立ち、由、二(一)千石の中に居り、最も暴酷驕恣をなす。愛するところの者は、法を撓めて之を活かし、憎むところの者は、法を曲げて之を滅す。居るところの郡、必ず其(二)豪を夷ぐ。守となつては都尉を

川屯田聚落。悉封奏上。肅宗嘉之。拜兗州刺史。以淸約率下。常席羊皮服布被。後遷武威太守。歸鄕潛居山澤。結草爲廬。與諸生織席自給。歲荒。司空張敏。司徒魯恭饋糧。悉無所受。徙居新安關下。拾橡實以自資。年九十六卒。舊本恂作詢誤也。

居し、草を結んで廬となし、諸生と席を織つて自ら給す。歲荒す。(三)司空張敏・司徒魯恭、糧を饋るも、悉く受くるところなし。居を新安關下(四)に徙し、橡の實を拾うて以て自ら資す。年九十六にして卒す。舊本に恂を詢に作るは誤なり。

(一)村落　(二)隠遁し、隠居し　(三)饑饉あり　(四)函谷關

前漢義縱河東人。少時嘗與張次公倶攻剽爲羣盜。縱有姉。以醫幸王太后。上

義縱攻剽　周陽暴虐

前漢の義縱は河東の人、少時嘗て張次公と倶に攻剽(一)して羣盜をなす。縱、姉あり。醫(二)を以て王太后に幸せらる。上、縱を拜して中郎となす。長安の令に遷る。法を直にし、治を行うて、貴戚を避けず。河内都尉に遷る。至れば、則ちその豪穰氏の屬を誅滅す。路に遺ちたるを拾はず。南陽の太守となり、寧成の家を

尉。屢乞ㇾ遜ㇾ位。司馬宣王以爲豫克壯。書喩未ㇾ聽。豫書答曰。年過二七十一而居ㇾ位。譬猶二鐘鳴漏盡而夜行不ㇾ休。是罪人也。遂固稱ㇾ疾。拜二太中大夫一。食二卿祿一。豫淸約儉素。賞賜散二之將士一。每二胡狄私遺一。悉簿藏ㇾ官不ㇾ入ㇾ家。家常貧匱。雖二殊類一。咸高二豫節一。

とし。これ罪人なり」と。遂に固く疾と稱す。太中大夫に拜し、卿の祿を食んで薨ず。豫、淸約儉素(五)にして、賞賜は之を將士に散じ、胡狄の私に遺る每に、悉く簿(六)して官に藏め、家に入れず。家常に貧匱(七)なり。殊類(八)と雖も、咸、豫の節を高しとす。

(一)境外のえびす (二)安かに靜かなり (三)心强壯也 (四)夜明の鐘鳴りてより夜の漏刻の水の盡くるまで夜行の禁を犯して休まず (五)心淸くつゝましやか (六)帳面に記す (七)貧しくとぼし (八)異類、胡狄をいふ

後漢李恂字叔英。安定臨涇人。拜二侍御史一。持ㇾ節使二幽州一。宣二布恩澤一。慰二撫北狄一。所ㇾ過皆圖二寫山

後漢の李恂、字は叔英、安定臨涇の人なり。侍御史に拜し、節を持して幽州に使し、恩澤を宣布し、北狄を慰撫す。過ぐるところ、皆山川・屯田(一)・聚落を圖寫し、悉く封じて奏上す。肅宗、これを嘉し、兗州刺史に拜す。淸約を以て下を率ゐる、常に羊皮を席き、布被を服す。後、武威の太守に遷る。鄕に歸つて山澤に潛(二)

鵠。飛翔近レ地。市人擲レ之。墮レ地。民爭取レ之。即爲二一圓石一。顥令レ槌二破之一。得二一金印一。文曰忠孝侯印。顥字智伯。常山人。漢靈帝時。爲二大尉一。

石となる。顥、これを槌破(四)せしめ、一金印を得たり。文に曰く忠孝侯印と。顥、字は智伯、常山の人。漢の靈帝の時、大尉となる。

(一)村雨　(二)山かさゝぎ　(三)石をなげつけて　(四)つちにて打ち破る

魏志。田豫字國讓。漁陽雍奴人。齊王時。領二幷州刺史一。外胡聞二其威名一。相率來獻。州界寧肅。百姓懷レ之。徵爲二衛

田豫儉素　李恂淸約

魏志にいふ、田豫、字は國讓、漁陽雍奴の人なり。齊王の時、幷州刺史を領す。外胡(一)、その威名を聞き、相率ゐて來りて獻ず。州界寧肅(二)にして、百姓これに懷く。徵されて衛尉となり。屢ゝ位を遜らんことを乞ふ。司馬宣王、以爲へらく、豫克壯(三)なりと。書もつて喩せども未だ聽かず。豫、書もつて答へて曰く、「年七十を過ぎて、位に居るは、譬へば猶ほ鐘(四)鳴り漏盡きて、夜往いて休まざるがご

晉書。孔愉字敬康。會稽山陰人。與二同郡張茂偉康丁潭世康一齊レ名。時人號曰二會稽三康一。建興初。出爲二丞相椽一。後以下討二華軼一功上。封二餘不亭侯一。愉嘗行經二餘不亭一。見下籠二龜於路一者上。愉買而放二之溪中一。龜中流左顧者數四。及レ是鑄二侯印一。而印龜左顧。三鑄如レ初。印工以告。愉乃悟。遂佩焉。

晉書にいふ、孔愉、字は敬康、會稽山陰の人なり。同郡の張茂偉康、丁潭世康と名を齊うす。時人號して會稽の三康といふ。(一)建興の初、出でゝ丞相の掾となり、後、華軼を討ずるの功を以て、餘不亭侯に封ぜらる。愉、嘗て行き餘不亭を經、龜を路に籠にする者を見る。愉、買つて之を溪中に放つ。龜、中流に左顧するもの數四。(二)是に及びて、侯の印を鑄るに、(三)印の龜左顧す。三たび鑄れども初の如し。印工以て告ぐ。愉乃ち悟つて遂に佩ぶ。

(一) 愍帝の時の年號。一說に建興は永興の誤、華軼を討ちしは建興の前の懷帝永嘉五年にありしを以てなりと　(二) 餘不亭侯となるに及んで　(三) 印鈕の龜。列侯左右將軍は黃金の印に龜の鈕を用ひたり

博物志。張顥爲二梁相一。新雨後。有レ鳥如二山

博物志にいふ、張顥、梁の相となる。(一)新雨の後、鳥あり、(二)山鵲の如く、飛翔して地に近づく。市人これに(三)擲つて地に墮す。民爭つて之を取れば、卽ち一圓

初附。吳人悦服。稱ニ羊公一不レ名。祜與レ抗相對。使命交通。抗稱ニ祜德量一。雖ニ樂毅諸葛孔明一不レ能レ過也。抗嘗病。祜遺ニ之藥一。抗服レ之無ニ疑心一。人多諫レ抗。抗曰。羊祜豈酖レ人者。時以爲三華元子反復見ニ於今一。抗每告ニ其戍一曰。彼專爲レ德。我專爲レ暴。是不レ戰而自服也。各保ニ分界一而已。無レ求ニ細利一。孫皓聞以詰レ抗。抗曰。一鄉一邑。不レ可レ無ニ信義一。況大國乎。臣不レ如レ此。正是彰ニ其德一。於レ祜無レ傷也。抗終ニ大司馬荊州牧一。

を諫む。抗曰く、「羊祜豈に人を酖(二)する者ならんや」と。(三)時に華元・子反復た今に見はるとなす。抗、每に其戍(四)に告げて曰く、「彼專ら德を爲し、我專ら暴を爲すは、是れ戰はずして自ら服するなり。各分界を保たんのみ。細利を求むるなかれ」と。孫皓、聞いて以て抗を詰る(五)。抗曰く、「一鄉一邑、信義なかるべからず。況んや大國をや。臣かくの如くならざれば、正に是れ其德を彰し、祜に於て傷るなきなり」と。抗、大司馬荊州牧に終る。

(一) 初めて降る者をなつけ愛する　(二) 毒也　(三) 時人古への華子再生せる也となす　(四) 其の邊の戍兵　(五) 「かかる手ぬるきことにては勝つ見込無しと」と補ひ見よ

孔愉放龜　張顥墮鵲

伐レ吳乎。客有下獻二醇酒一器一者上。王使三人注二江之上流一。使三士卒飲二其下流一。味不レ及レ加レ美。而士卒戰自五也。異日有下獻二一囊糗糒一者上。王又以賜レ軍。軍士分而食レ之。其不レ足レ踰レ嗌。而戰自十也。今子爲レ將。士卒升二分菽粒一。子獨芻豢黍粱何也。子非二吾子一。無レ入二吾門一。子發謝二其母一。然後内レ之。

し、子獨り芻豢黍粱とは何ぞや。子は吾が子に非ず。吾が門に入ることなかれ」と。子發、その母に謝し、然る後、之を内る。

㊀豆つぶ　㊁豆つぶの幷合せるを分ちて半粒となす　㊂芻は草食の牛羊。豢は穀食の犬豕。黍はきび。粱はおはあは　㊃純濃なる酒　㊄五人力を出す　㊅他日　㊆はしひ、乾飯　㊇十人力を出す

吳志。陸抗字幼節。丞相遜次子。爲二吳將一。時晉平南將軍羊祜鎭二南夏一。石城以西盡爲二晉有一。降者不レ絶。祜增修二德信一。以懷二

吳志にいふ、陸抗、字は幼節、丞相遜の次子なり。吳の將となる。時に晉の平南將軍羊祜、南夏を鎭す。石城以西、盡く晉の有となり、降る者絶えず。祜、增く德信を修め、以て㊀初附を懷く。吳人悅服し、羊公と稱して名いはず。祜、抗と相對し、使命交通す。抗、祜の德量を稱す、「樂毅・諸葛孔明と雖も過ぐる能はず」と。抗、嘗て病む。祜、之に藥を遺る。抗、之を服して疑心なし。人多く抗

自照。稱二其父字一曰。王文開生レ如二此兒一邪。居貧帽敗。自入レ市買レ之。嫗悅二其貌一。遺以二新帽一。時人以爲レ達。終二司徒長史一。

（一）投げやりで我儘で、小節に拘らず世上の事は氣にとめぬ　（二）相手にせぬ、交らない　（三）風流の聞え高く評判よし　（四）それらの行を見て、きさくにてさつぱりしたる性質と爲す

勾踐投醪　陸抗嘗藥

古列女傳。楚子發攻レ秦。軍絕レ糧。士卒升二分菽粒一而食レ之。子發朝夕芻豢黍粱。大破二秦將一而歸。其母閉レ門而不レ內。使二人數一レ之曰。子不レ聞二越王勾踐之

古列女傳にいふ、楚の子發、秦を攻め、軍、糧を絕つ。士卒、（一）菽粒を（二）升分して之を食す。子發は、朝夕（三）芻豢黍粱をくふ。大に秦の將を破りて歸る。その母門を閉ぢて內れず。人をして之を數めしめて曰く、「子、越王勾踐の吳を伐ちしを聞かずや。客、（四）醇酒一器を獻ずる者あり。王、人をして江の上流に注がしめ、士卒をして其下流に飲ましむ。味、美を加ふるに及ばずして、士卒戰自ら五なり。（五）（六）異日、一囊の（七）糗糒を獻ずる者あり。王又以て軍に賜ひ、軍士分つて之を食す。其れ嗌を踰ゆるに足らずして、戰自ら十なり。（五）今子將となつて、士卒菽粒を升分

慇懃。婢以白レ女。女遂潛修二音好。一厚相贈結。呼レ壽夜入。壽踰レ垣而至。家中莫レ知。時西域有レ貢二奇香。一一著レ人則經レ月不レ歇。帝甚貴レ之。唯賜二充及大司馬陳騫。一其女密盜以遺レ壽。寮屬聞二其芬馥。一稱二之於充。一充意知二女與レ壽通。一即以妻焉。官至二散騎常侍。河南尹。一

一 すがたかはかたち　二 たちゐふるまひ　三 招きて宴する　四 門扉に連瑣の模様を刻み付け青色に塗りたるもの　五 寝ても覚めても壽の君〳〵と口にし思ひ切也と也　六 うるはしくつや〳〵かに而もきちんとして立派なるをならびなし　七 心ときめきて　八 相慕ふ切なる胸の思　九 音信を以て好しみを通じ　一〇 物を相贈りて厚くよしみを交はし　一一 充の女　一二 司空の下役共　一三 芳香のかんばしき形容　一四 嗅ぎての意　一五 告ぐ

晉書。王濛字仲祖。太原晉陽人。哀靖皇后父也。少放縱不羈。不レ爲二鄉曲所一レ齒。晚節始克レ己勵レ行。有二風流美譽。一善二隸書。一美二姿容。一嘗覽レ鏡

晉書にいふ、王濛、字は仲祖、太原晉陽の人、哀靖皇后の父なり。少にして、放縱不羈、(一)鄉曲に齒せられず。(二)晚節始めて己に克つて行を勵ます。(三)風流美譽あり。隸書を善くす。姿容に美し。嘗て鏡を覽て自ら照し、その父の字を稱して曰く、「王文開、此の如き兒を生むや」と。居貧にして帽敗れ、自ら市に入つて之を買はんとす。嫗、その貌を悅び、遺るに新帽を以てす。時人以て(四)達となす。司徒長史に終る。

晉書。韓壽字徳眞。南陽堵陽人。美二姿貌一。善二容止一。賈充辟爲二司空掾一。充毎レ讌二賓寮一。其女輒於二靑瑣中一窺レ之。見レ壽悦焉。女大感想。發二於寤寐一。婢後往二壽家一。具説二女意一。竝言二其女光麗艶逸。端美絶倫一。壽聞而心動。令三爲通二

韓壽竊香　王濛市帽

晉書にいふ、韓壽、字は徳眞、南陽堵陽の人なり。(一)姿貌美にして(二)容止に善し。賈充、辟して司空の掾となす。充、賓寮を(三)讌する毎に、その女、輒ち(四)青瑣中に於て之を窺ひ、壽を見て悦ぶ。女大に感想し、(五)寤寐に發す。婢、後、壽の家に往き、具に女の意を說き、竝にその女の(六)光麗艶逸端美絶倫なるを言ふ。壽聞いて(七)心動き、爲に(八)慇懃を通ぜしむ。婢、以て女に白す。女遂に潛に(九)音好を修め、厚く相贈結し、壽を呼んで夜入らしむ。壽、垣を踰えて至る。家中知るなし。時に(一〇)西域奇香を貢するあり。一たび人に著くれば、月を經て歇まず。帝、甚だ之を貴び、唯だ充及び大司馬陳騫に賜ふ。(一一)その女、密に盗み、以て壽に遺る。(一二)寮屬、その(一三)艾馥を聞いて、之を充に稱す。充、意に女と壽と通ずるを知り、即ち以て妻はす。官、(一四)散騎常侍(一五)河南尹に至る。

有二黒子一。右腋下有二赤誌一。如二牛榔大一。母曰我翁也。遂爲二夫婦一如レ初。時人謂曰。廬里龐公。鑿レ井得レ銅。買レ奴得レ翁。

後漢陰識字次伯。南陽新野人。光烈皇后兄。封二原鹿侯一。顯宗時。拜二執金吾一。位二特進一。其先出レ自二管仲一。世奉二其祀一。謂爲二相君一。宣帝時。陰子方者。至孝有二仁恩一。臘日晨炊。而竈神形見。子方再拜受レ慶。家有二黃羊一。因以祀レ之。自レ是暴至二巨富一。田有二七百餘頃一。輿馬僕隸。比二於邦君一。子方常言。我子孫必將二強大一。至レ識三世而遂繁昌。故後常以二臘日一祀レ竈。薦二黃羊一焉。

後漢の陰識、字は次伯、南陽新野の人、光烈皇后の兄なり。(一)原鹿侯に封ぜられ、顯宗の時、執金吾に拜し特進に位す。その先、管仲より出づ。世々その祀を奉じ、謂うて相君となす。宣帝の時、陰子方といふもの、至孝にして仁恩あり。(二)臘日晨炊して、竈神形見はる。子方再拜して慶を受く。家に黃羊あり。(三)因つて以て之を祀る。これより、暴に巨富に至る。田七百餘頃(四)あり。(五)輿馬僕隸、邦君に比す。子方常に言ふ、「我が子孫、必ず將に強大ならんとす」と。識に至つて、三世にして遂に繁昌す。故に後常に臘日を以て竈を祀るに黃羊を薦む。

(一) 縣名　(二) 冬至より第三の戌の日　(三) 「其黃羊を犧牲として供へ」と補ひ見よ　(四) 七千餘畝。一頃は百畝　(五) こし、うま、しもべ

顯歸レ罪。寔曰。視二君狀貌一。不レ似二惡人一。當レ由二貧困一。令レ遣二絹二匹一。自レ是一縣無レ盜。後累命不レ起。卒二于家一。海內赴者三萬餘人。制二衰麻一者以レ百數。共刊レ石立レ碑。諡二文範先生一。

風俗通。龐儉亡二其父一。隨レ母流落。後居二盧里一。鑿レ井得レ銅。遂富。因求レ奴得二老蒼頭一。於レ家數日。蒼頭自言。堂上母是我婦。母聞乃問レ之。奴曰。婦艾氏女。字阿宏。左足下

龐儉鑿井　陰方祀竈

風俗通にいふ、龐儉、その父を亡ひ(一)、母に隨つて流落す(二)。後盧里に居り、井を鑿つて銅を得、遂に富む。因つて奴を求めて、老蒼頭(三)を得たり。家に於て數日、蒼頭自ら言ふ、「堂上(四)の母は是れ我が婦」と。母聞いて乃ち之を問ふ。奴曰く、「婦は艾氏の女、字は阿宏、左の足下に黑子あり。右の腋下に赤誌(五)あり。半櫛の大の如し。」母曰く、「我が翁なり」と。遂に夫婦たること初の如し。時人謂つて曰く、『盧里の龐公、井を鑿つて銅を得、奴を買うて翁を得たり』と。

(一) 行方不明となる　(二) 落ぶれて流浪す　(三) 漢代にしもべを蒼頭といへり、其は靑色の頭巾を被りし爲なり　(四) 堂上にて母と尊ばるゝ人は我が妻なり　(五) 赤色のあざ

吏白欲禁訟者。寔曰。訟以求直。禁之理將何申。卒無訟者。去官吏人追思之。在鄉閭。平心率物。有爭訟。輒求判正。曉譬曲直。退無怨者。至乃歎曰。寧爲刑罰所加。不爲陳君所短。時歲荒。有盜夜入其室。止於梁上。寔陰見之。呼子孫正色訓之曰。夫人不可不自勉。不善之人。未必本惡。習以性成。遂至於此。梁上君子是矣。盜大驚。自投於地。稽

曉譬(四)するに、退いて怨む者なし。乃ち歎じて、むしろ刑罰に加へらるゝも、陳君に短(五)とせられざれと曰ふに至る。時に歲荒ぶ(六)。盜あり、夜、その室に入つて梁上に止まる。寔、陰に之を見、子孫を呼び、色を正しくして之に訓へて曰く、「夫れ人自ら勉めずんばあるべからず。不善の人、未だ必ずしも本より惡ならず。習、性と成り、遂に此に至る。梁上の君子、是れなり」と。盜大に驚き、自ら地に投じ、稽顙(七)して罪に歸す。寔曰く、「君の狀貌を視るに、惡人に似ず。當に貧困に由るべし」と。絹二匹を遺らしむ。これより、一縣盜なし。後、累命(八)すれども起たず。家に卒す。海內赴くもの三萬餘人。衰麻(九)を制するもの百を以て數ふ。共に石に刊んで碑を立つ。文範先生と諡す。

㊀ 刺史の輔佐 ㊁ ゐてもたつても ㊂ 人を導く也 ㊃ たとへを引いてさとす ㊄ 曲なり、曲事、ひがごと ㊅ 五穀實らざるをいふ ㊆ 額を地にすりつくる禮 ㊇ しきりに召出す ㊈ 喪服、麻布にて製す

舊注云。後漢黃向。豫章人。嘗行於レ路拾二得金嚢一。乃訪レ主還レ之。

後漢陳寔字仲弓。潁川許人。少作二縣吏一。爲二都亭刺佐一。有レ志好レ學。坐立誦讀。縣令奇レ之。聽レ受二業太學一。後除二大丘長一。修レ德淸靜。百姓以安。

黃向訪主　陳寔遺盜

舊注に云ふ、後漢の黃向は豫章の人なり。嘗て行いて路に於て金嚢を拾ひ得たり。乃ち主を(一)訪うて之を還す。

(一) 其持主を訪ねて之を還す。題に訪主とあるは即ち其事也

後漢の陳寔、字は仲弓、潁川許の人なり。少にして縣吏と作り、都亭の刺佐と(一)なる。志あつて學を好み、坐立誦讀す。(二)縣令、これを奇とし、聽して業を大學に受けしむ。後、大丘の長に除せらる。德を修めて淸靜、百姓以て安し。吏白して訟者を禁ぜんと欲す。寔曰く、「訟は以て直を求む。之を禁ぜば、理將に何にか申べんとす」と。卒に訟ふるもの無し。官を去るや、吏人これを追思す。郷閭に在つて、心を平かにし、(三)物を率ゐ、爭訟あれば、乃ち判正を求め、曲直を

曰。昔孫伯符志業不ㇾ遂。於ㇾ是竟ㇾ坐不ㇾ得ㇾ談。伯符孫策字也。

史記。魏文侯伐二中山一。使三子撃守二之。子撃逢二文侯之師田子方於朝歌一。引ㇾ車避下謁。子方不ㇾ爲ㇾ禮。子撃因問曰。富貴者驕ㇾ人乎。且貧賤者驕ㇾ人乎。子方曰。亦貧賤者驕ㇾ人耳。夫諸侯而驕ㇾ人。則失二其國一。大夫而驕ㇾ人。則失二其家一。貧賤者。行不ㇾ合。言不ㇾ用。則去之二楚越一。若ㇾ脱ㇾ躧然。奈何其同ㇾ之哉。子撃不ㇾ懌而去。

史記にいふ、魏の文侯、中山を伐ち、子撃をして之を守らしむ。子撃、文侯の師田子方に朝歌(一)に逢ふ。車を引いて避けて下謁す。子方、禮を爲さず。子撃因つて問うて曰く、「富貴の者人に驕るか。且つ貧賤の者人に驕るか。」子方曰く、「亦た貧賤の者人に驕るのみ。夫れ諸侯にして人に驕れば其國を失ふ。大夫にして人に驕れば其家を失ふ。貧賤の者、行合はず言用ひられざれば、去つて楚越に之く。(二)躧を脱するが若く然り。奈何ぞ其れ之に同じうせんや」と。子撃、(三)懌ばずして去る。

(一) 地名　(二) 草履、わらぐつ　(三) 悦也

曰笞未二嘗泣一。今泣何也。對曰。他日得レ罪笞常痛。今母之力不レ能レ痛。是以泣。十二國史。瑜作レ兪。

ば、常に痛めり。今母の力痛むること能はず。(二)これを以て泣く」と。十二國史に、瑜、兪に作る。

㊀前日　㊁母の力の衰へ行くを悲む也

世說。豪爽篇。晉陳逵字林道。住二西岸一。都下諸人。共邀至二牛渚一。陳善二言理一。諸人欲二共言折レ陳。陳以二如意一拄レ頰。望二鷄籠山一。歎

陳逵豪爽　田方簡傲

世說豪爽篇にいふ、晉の陳逵、字は林道、西岸に住す。都下の諸人、共に邀へて牛渚に至る。陳、言理を善くす。諸人共に言うて陳を折かんと欲す。陳、如意を以て頰を(一)拄へ、雞籠山を望んで歎じて曰く「(二)むかし、孫伯符、志業遂げず」と。こゝに於て、坐を竟るまで、談ずるを得ず。伯符は孫策の字なり。

㊀拄く　㊁呉の孫伯符が三國鼎立の時、劉備・曹操と天下を爭ひ十分その才能を用ふる事なくして早世せるを惜める也、其言の中に伯符以外の人は我言を折く力なしとの意を諷す

校レ其可レ知矣。
太祖大悅。卽
施行焉。時軍
國多事。用レ刑嚴重。凡應二罪戮一。而爲レ沖徵所二辨理一。賴以濟宥者。前後數十。太祖數對二羣臣一稱
述。有二欲レ傳レ後意一。會卒。

㊀小兒にして成人の如き智あること　㊁罪科決定して誅戮せらるゝ也　㊂救ひて罪をゆるさる　㊃ほめのぶる　㊄我が後を傳ふ、世嗣とす

孝子傳。丁蘭
事レ母孝。母亡。
刻レ木爲レ母事レ
之。蘭婦誤以レ
火燒二母面一。應レ
時髮落如レ割。

說苑曰。伯瑜
有レ過。其母笞レ
之。泣。母曰。他

丁蘭刻木　伯瑜泣杖

孝子傳にいふ、丁蘭、母に事へて孝なり。母亡す。木を刻みて母となし之に事ふ。蘭の婦、誤つて、火を以て㊀母の面を燒く、時に應じて㊁髮落ちて割るが如し。

㊀母の木像の面　㊁卽時に報ありしをいふ

說苑に曰く、伯瑜過あり。その母、之を笞つ。泣く。母曰く、「他日㊀笞てども未だ嘗て泣かず。今泣くは何ぞや。」對へて曰く、「他日罪を得て笞たるれ

山之陽一。夏居二山之陰一。蟻壤一寸。而仭有レ水。乃掘レ地遂得レ水。以二管仲隰朋之智一。至二其所レ不レ知。不レ難レ師二於老馬與一レ蟻。今人不レ知下以二其愚心一師中聖人之智上。不二亦過一乎。

(一) まよひまどふ。漢音にてはベイコク也　(二) 蟻壤は蟻のすめる土、卽ちありづかの一寸四方なるものの下には、一仭卽ち八尺（一說に四尺）にして水ありとなり

魏志。鄧哀王沖字倉舒。武帝子。少聰察岐嶷。五六歲有下若二成人一之智上。時孫權曾致二巨象一。太祖欲レ知二其斤重一。訪二之羣下一。莫三能出二其理一。沖曰。置二象大船之上一。而刻二其水痕所一レ至。稱レ物以載レ之。則

魏志にいふ、鄧哀王沖、字は倉舒、武帝の子なり。少にして聰察岐嶷(一)、五六歲にして、成人の若きの智あり。時に孫權曾て巨象を致す。太祖、その斤重を知らんと欲す。これを羣下に訪ふ、能く其理を出すなし。沖曰く、「象を大船の上に置いて、その水痕の至るところを刻み、物を稱つて以て之を載すれば、校して其れ知るべし」と。太祖大に悅び、卽ち施行す。時に軍國多事、刑を用ふること嚴重なり。凡そ罪戮(二)すべくして、沖に徵されて辨理され、賴つて以て濟宥(三)するもの、前後數十。太祖數〻羣臣に對して稱述(四)し、後を傳へんと欲するの意(五)あり。會卒す。

道子一所レ害。非美ニ姿儀一。人多愛悅。或目レ之云。濯濯如ニ春月柳一。嘗被ニ鶴氅裘一。渉レ雪而行。孟昶窺見曰。此眞神仙中人也。恭爲レ性不レ弘。闇ニ於機會一。尤信ニ佛法一。臨レ刑猶誦ニ佛經一。

㊀うるはしきはまれ　㊁生れ付の才智　㊂馳する貌　㊃清く光る貌　㊄鶴の白毛にて製したるけごろも

韓非子曰。管仲隰朋。從ニ於桓公一而伐ニ孤竹一。春往冬返。迷惑失レ道。管仲曰。老馬之智可レ用也。乃放ニ老馬一而隨レ之。遂得レ道。行ニ山中一無レ水。隰朋曰。蟻冬居ニ

管仲隨馬　倉舒稱象

韓非子に曰く、管仲・隰朋、桓公に從つて孤竹を伐つ。春往いて冬返り、迷惑して道を失ふ。管仲曰く、「老馬の智、用ふべきなり」と。乃ち老馬を放つて之に隨ひ、遂に道を得たり。山中を行くに水なし。隰朋曰く、「蟻、冬は山の陽に居り、夏は山の陰に居る。(二)蟻壤一寸にして、仞に水あり」と。乃ち地を掘り、遂に水を得たり。管仲・隰朋の智を以てすら、その知らざるところに至れば、老馬と蟻とを師とするに難からず。今人その愚心を以て聖人の智を師とするを知らず。亦た過ならずや。

何平叔若在。當ニ復絕倒ー。玠嘗以人有レ不レ及。可ニ以レ情恕ー。非意相干可ニ以レ理遣ー。故終身不レ見ニ喜慍色ー。玠以敦豪爽不羣。好居ニ物上ー。恐非ニ忠臣ー。求向ニ建鄴ー。京師人士。聞ニ其姿容ー。觀者如レ堵。會卒。時謂レ被ニ看殺ー。

て時を距て一以て其の所說を大成しよく老子の玄理を闡明せるを音樂に喩へて斯くいへる也。中朝は魏の都。江表は江州也　(四)老子の微妙なる論旨のいとぐち　(五)豪放爽快にして羣衆を超越せること　(六)人に看られたる爲めに死せしゆゑ斯くいふ

晉書。王恭字孝伯。太原晉陽人。少有ニ美譽ー。清操過レ人。自負ニ才地高華ー。有ニ宰輔之望ー。爲ニ佐著作郎ー。歎曰。仕官不レ爲ニ宰相ー才志何足ニ以騁ー。累遷安北將軍ー。爲ニ會稽王

晉書にいふ、王恭、字は孝伯、太原晉陽の人なり。少にして(一)美譽あり。清操人に過ぐ。(二)才地高華を自負して宰輔の望あり。佐著作郎となる。歎じて曰く、「仕官して宰相とならずんば、才志何ぞ以て(三)騁するに足らん」と。安北將軍に累遷し、會稽王道子に害せらる。恭、姿儀に美、人多く愛悅す。或ひと之を目して云ふ、(四)『濯濯として春月の柳の如し』と。嘗て(五)鶴氅裘を被て雪を涉つて行く。孟昶窺ひ見て曰く、「これ眞に神仙中の人なり」と。恭、性たる弘ならず。機會に闇く、尤も佛法を信じ、刑に臨んで猶ほ佛經を誦す。

晉書。衞玠總角乘二羊車一入レ市。見者以爲二玉人一。觀者傾レ都。拜二太子洗馬一。以二天下亂一移レ家。南行至二豫章一。時王敦鎭二豫章一。長史謝鯤雅重レ玠。相見欣然。言論彌レ日。敦謂レ鯤曰。昔王輔嗣吐二金聲於中朝一。此子復玉二振於江表一。微言之緒。絕而復續。不レ意永嘉之末。復聞二正始之音一。

晉書にいふ、衞玠、總角にして、羊車に乘つて市に入る。見るもの以て玉人となす。觀るもの都を傾く。(一)太子洗馬に拜す。(二)天下の亂を以て家を移し、南行して、豫章に至る。時に、王敦、豫章を鎭す。長史謝鯤、もとより玠を重んず。相見て欣然たり。言論日を彌ふ。敦、鯤に謂つて曰く、「昔、王輔嗣、(三)金聲を中朝に吐く。この子、復た江表に玉振す。(四)微言の緒絕えて復た續ぐ。意はざりき、永嘉の末、復た正始の音を聞かんとは。何平叔、若し在らば、當に復た絕倒すべし」と。玠、嘗て以へらく、人及ばざるあらば、情を以て恕すべし。非意相干さば、理を以て遣るべしと。故に終身喜慍の色を見ず。玠以へらく、敦、(五)豪爽不羣、好んで物の上に居る。恐らくは、忠臣に非ずと。求めて建鄴に向ふ。京師の人士、其姿容を聞いて、觀るもの堵の如し。會卒す。時に看殺せらる(六)といふ。

(一) あげまき、幼時なり (二) 五胡の亂 (三) 音樂は最初に鐘を打つて其調を伸べ揚げ、終に磬を打つて其調ををさむ。之を金聲玉振といひ以て一曲の大成とす。王輔嗣魏の代に初めて老莊の理を論じ、その子の衞玠復び江州に

字巨卿。扶風茂陵人。丞相嘉七世孫。剛性方直。常慕ニ史鰌汲黯之爲ヒ人。平帝時。擧ニ賢良方正一對策。王莽令ニ元后下レ詔罷歸。建武七年。徵拜ニ侍御史一。遷ニ尚書令一。光武嘗欲ニ出游一。剛以隴蜀未レ平。不レ宜ニ宴安逸豫一。諫不レ見レ聽。遂以レ頭軔ニ乘輿輪一。帝遂爲止。以ニ數切諫一失レ旨。出爲ニ平陰令一。復拜ニ大中大夫一。舊注云。以レ刀斷ニ馬鞅一。未レ詳レ所レ出。剛轉作レ綱。

直にして、常に史鰌汲黯(一)の人と爲りを慕ふ。平帝の時、賢良方正(二)に擧げられて對策す。王莽、元后をして、詔を下して罷め歸らしむ。建武七年、徵して侍御史に拜し、尚書令に遷る。光武嘗て出游せんと欲す。剛以へく「隴蜀未だ平がず。(三)宴安逸豫に宜しからず」と。諫むれども聽かれず。遂に頭を以て乘輿の輪を軔(四)む。帝遂に爲に止む。數切諫するを以て、旨を失ひ、出でゝ平陰の令となり、復た大中大夫に拜せらる。舊注に云ふ、『刀を以て馬鞅(五)を斷つ』と。未だ出づるところを詳にせず。剛、轉じて綱に作る。

(一) 共に方直を以て名高かりし人　(二) 科目の名、對策は答案也　(三) 安んじ樂む　(四) 輪を止むる木此處にては止むと訓ず　(五) 馬のむながひ

衞玠羊車　王恭鶴氅

餐。臣願賜二尚方斬馬劍一。斷二佞臣一人一。以厲二其餘一。上問誰也。對曰。安昌侯張禹。上大怒曰。小臣居レ下訕レ上。廷二辱師傅一。罪死不レ赦。御史將レ雲下。雲攀二殿檻一。檻折。呼曰。臣得下從二龍逢比干一。遊中於地下上足矣。未レ知二聖朝何如一耳。御史遂將レ雲去。於レ是左將軍辛慶忌。免レ冠解二印綬一。叩二頭殿下一曰。此臣素著二狂直於世一。使二其言是一。不レ可レ誅。其言非固當レ容レ之。臣敢以レ死爭。慶忌叩頭流レ血。上意解。然後得レ已。及二後當レ治レ檻。上曰。勿レ易。因而輯レ之。以旌二直臣一。雲自レ是不二復仕一。

て、左將軍辛慶忌、冠を免じ、印綬を解き、殿下に叩頭して、曰く、「この臣、素より狂直を世に著はす。其言をして是ならしめば誅すべからず。其言非なるも、固より當に之を容すべし。臣敢て死を以て爭はん」と。慶忌、叩頭血を流す。上の意解く。然して後に、已むを得たり。後、檻を治むべきに及び、上曰く、「易ふるなかれ。因つて之を輯めて(七)以て直臣を旌はせ」と。雲、これより復た仕へず。

㊀大志あること　㊁禁錮　㊂尸位は徒らに位にありて其事を務めざること、素餐は功なくして徒に祿を食むこと　㊃天子の器物を司る所　㊄宮殿の欄干　㊅龍逢は夏の桀王の臣、比干は殷の紂王の臣、二人とも忠臣にして王を諫めて殺さる　㊆其折りたる欄干の木をよせ集めて繕ひ

後漢申屠剛

後漢の申屠剛、字は巨卿、扶風茂陵の人なり。丞相嘉の七世の孫。剛、性方

前漢朱雲字游。魯人也。容貌甚壯。以二勇力一聞。好二倜儻大節一。當世高レ之。擧二方正一。爲二槐里令一。坐レ廢錮。成帝時。張禹以二帝師一位二特進一。甚尊重。雲上書求レ見。公卿在レ前。雲曰。今朝廷大臣。上不レ能レ匡レ主。下亡二以益一レ民。皆尸位素

朱雲折檻　申屠斷鞅

前漢の朱雲、字は游、魯の人なり。容貌甚だ壯にして、勇力を以て聞え、(一)倜儻大節を好む。當世之を高しとす。方正に擧げられ、槐里の令となる。坐して(二)廢錮せらる。成帝の時、張禹、帝の師を以て特進に位し、甚だ尊重せらる。雲、上書して見えんことを求む。公卿前に在り。雲曰く、「今朝廷の大臣、上は主を匡すこと能はず、下は以て民を益することなく、皆(三)尸位素餐す。臣願はくは、(四)尚方の斬馬劍を賜はり、佞臣一人を斷つて、以て其餘を厲まさん」と。上問ふ、「誰ぞや。」對へて曰く、「安昌侯張禹なり」と。上大に怒つて曰く、「小臣下に居つて上を訕り、師傅を廷辱す。罪死赦さず」と。御史、雲を將ゐて下さんとす。雲、(五)殿檻を攀ぢて檻折る。呼んで曰く、「臣、下、(六)龍逢比干に從つて地下に遊ぶことを得ば足れり。(七)未だ聖朝何如を知らざるのみ」と。御史、遂に雲を將ゐて去る。こゝに於

其德。屢辟舉不ㇾ就。桓帝時。陳蕃胡廣上疏薦ㇾ之。備ㇾ禮徵不ㇾ至。嘗爲二太尉黃瓊一所ㇾ辟。瓊卒。乃往設二雞酒一薄祭。哭畢而去。不ㇾ告二姓名一。時會者郭林宗等聞ㇾ之。疑二其稺一也。遣二茅容一追。及ㇾ之共言二稼穡之事一。臨ㇾ訣謂ㇾ容曰。爲ㇾ我謝二林宗一。大樹將ㇾ顚。非二一繩所一ㇾ維。何爲栖栖不ㇾ遑二寧處一。及三林宗有二母憂一。往弔ㇾ之。置二生芻一束於廬前一而去。衆怪不ㇾ知二其故一。林宗曰。此必南州高士徐孺子也。詩不ㇾ云乎。生芻一束。其人如ㇾ玉。吾無二德以堪一ㇾ之。

畢つて去り、姓名を告げず。時に會するもの、郭林宗等、これを聞き、その稺なるを疑ふや、茅容をして追はしむ。これに及び、共に稼穡(三)の事を言ふ。訣に臨んで容に謂つて曰く、「我が爲に林宗に謝せよ。大樹の將に顚らんとする、一繩の維ぐところに非ず。何すれぞ、栖栖(四)として寧處に遑あらざる」と。林宗母の憂あるに及び、往いて之を弔し、生芻(五)一束を廬前に置いて去る。衆怪みて其故を知らず。林宗曰く、「此れ必ず南州の高士徐孺子ならん。詩(六)に云はずや、生芻一束、その人玉の如しと。吾、德以て之に堪ふるなし」と。

(一) 召しかゝふ (二) 粗末な祭 (三) 農作 (四) 求むるところあるが如くして得ざる貌、いそがはしき貌 (五) まわら (六) 詩經小雅白駒篇

好ニ季札劍ヲ。口弗ニ敢言ハ。季札心知ル之ヲ。爲ニ使ス上國ニ未ダ獻ゼ。還至ル徐ニ。徐君已死ス。乃解ニ其寶劍ヲ。懸ニ徐君冢樹ニ而去ル。從者曰。徐君已死ス。尙誰ニ予ヘン乎。季子曰。不ル然ラ。始吾心已許ス之ヲ。豈以テ死ヲ倍ニ吾心ニ哉。札封ニ於延陵ニ。故號ニ延陵季子ト。新序曰。徐人嘉而歌フ之ヲ曰。延陵季子兮不ル忘レ故ヲ。脫ニ千金之劍ヲ兮帶ニ丘墓ニ。

きて、徐君の冢(三)樹に懸けて去る。從者曰く、「徐君已に死す。尙ほ誰に予ふるや。」季子曰く、「然らず。始め吾が心已に之を許す。豈に死を以て吾が心に倍かんや」と。札、延陵に封ぜらる。故に延陵の季子と號す。新序に曰く、『徐人嘉して之を歌ふ。曰く、延陵の季子故を忘れず。千金の劍を脫して丘墓に帶ばしむと。』

㊀徐國の君　㊁中國、呉は東南隅に在る故に中國を指していふ　㊂墓の傍に植ゑたる樹木

後漢徐穉字孺子。豫章南昌人。家貧常自耕稼。非ニ其力ニ不ル食。恭儉義讓。所ル居服ニ

後漢の徐穉、字は孺子、豫章南昌の人なり。家貧にして、常に自ら耕稼す。その力に非ざれば食はず。恭儉義讓、居るところ其德に服す。屢ば辟擧すれど(二)も、就かず。桓帝の時、陳蕃胡廣、上疏して、之を薦む。禮を備へて徵せども至らず。嘗て太尉黃瓊に辟さる。瓊卒す。乃ち往いて雞酒を設けて(一)薄祭し、哭し

而不レ拜レ賜。帝怪問。對曰。孔子忍ニ渴於盜泉之水一。曾參回ニ車於勝母之閭一。惡ニ其名一也。此臟穢之寶。誠不ニ敢拜一。帝歎曰。清乎尙書之言。乃更以ニ庫錢三十萬一賜レ意。轉ニ僕射一。出爲ニ魯相一。以ニ愛利一爲レ化。人多殷富。卒遺言上書陳。昇平之世。難ニ以レ急化一。宜ニ少寬假一。帝感ニ傷其意一。詔賜ニ錢二十萬一。

の相となる。(五)愛利を以て化を爲す。人多く殷富なり。卒するとき、遺言して、上書して陳ず、「昇平の世、急を以て化し難し。宜しく少しく寬暇すべし」と。帝、その意を感傷し、詔して錢二十萬を賜ふ。

(一) まいなひを收むるなり　(二) 財産目錄　(三) 珠は蚌より取れる圓き玉、璣は珠の圓からざるもの　(四) 盜泉は名惡し、故に渴すれどもその水を飮まず、勝母の名、孝子の忌むところ、故に邑に入らずし引きかへせし也　(五) 民を愛して其利を計る

● 季札挂劍　徐穉置芻

史記。吳季札吳王壽夢季子也。初使北過ニ徐君一。徐君

史記にいふ、吳の季札は、吳王壽夢の季子なり。初め北に使して、徐君に過ぎる。(一) 徐君、季札の劍を好し、口敢て言はず。季札、心に之を知れども、上國に使するが爲に、未だ獻ぜず。還つて徐に至れば、徐君已に死せり。乃ち其(二)寶劍を解

子貢贖之。辭而不取金。孔子聞之曰。賜失之矣。夫聖人擧事。可以移風易俗。而教導可以施於百姓。非獨適身之行也。今魯國富者寡。而貧者衆。贖人受金。則爲不廉。何以相贖乎。自今以後。魯人不復贖人於諸侯。

て、教導以て百姓に施すべし。獨り身の行に適するのみに非ざるなり。今魯國、富める者、寡くして、貧しき者衆し。人を贖うて金を受くるを不廉と爲さば、何を以て相贖はんや。今より以後、魯人復た人を諸侯に贖はじ」と。

(一) あがなふ、貨財を以て其臣妾たる者を受け戻すをいふ　(二) 魯國の官府

後漢鍾離意字子阿。會稽山陰人。顯宗徵爲尚書。時交阯太守張恢。坐贓千金。伏法。以資物簿入大司農。詔賜羣臣。意得珠璣。委地

後漢の鍾離意、字は子阿、會稽山陰の人なり。顯宗、徵して尚書となす。時に交阯の太守張恢、(一)贓千金に坐して法に伏す。(二)資物の簿を以て大司農に入る。詔して羣臣に賜ふ。意、珠璣を得たり。地に委して賜を拜せず。帝、怪んで問ふ。對へて曰く、「孔子は(三)渴を盗泉の水に忍び、(四)曾參は車を勝母の閭に回す。その名を惡めばなり。これ贓穢の寶、誠に敢て拜せず。」帝歎じて曰く、「清いかな尚書の言」と。乃ち更に庫錢三十萬を以て意に賜ふ。僕射に轉じ、出でゝ魯

為レ塞。上漏下濕。匡坐而弦。子貢乘二大馬一中レ紺而表レ素。軒車不レ容レ巷。往見レ憲。憲華冠縦履。杖レ藜而應レ門。子貢曰。嘻先生何病。憲曰無レ財謂二之貧一。學而不レ能レ行。謂二之病一。今憲貧也。非レ病也。子貢逡巡有二慙色一。

る。」憲曰く、「財なき之を貧といふ。學んで行ふ能はざる之を病といふ。今憲は貧なり。病に非ざるなり」と。子貢逡巡（一一）して慙づる色あり。

（一）環はまはり、堵は一丈四方、小さき室をいふ　（二）よもぎを以て作りたる戸　（三）桑の枝をまげて戸のくるゝとなす　（四）われたるかめを以て壁にはめこみし窓　（五）あらぬのを以て窓塞ぎとなす　（六）屋根もり、床下濕ふ　（七）正坐して琴をひく　（八）紺色の衣を下に著、白色の衣を上に着く　（九）大夫の乘る車　（一〇）樺の皮にて造れる冠を被り、草履をひきずりて　（一一）あとずざり

端木辭金　鍾離委珠

家語。端木賜字子貢。魯國之法。贖二人臣妾于諸侯一者。皆取二金於府一。

家語にいふ、端木賜、字は子貢。魯國の法、人の諸侯に臣妾たるを贖ふもの、（一）皆金を府に取る。（二）子貢これを贖ふ。辭して金を取らず。孔子これを聞いて曰く、「賜、これを失せり。夫れ聖人の事を擧ぐる、以て風を移し俗を易ふべし。而し

王。而致之闕下。軍往說越王。王請擧國內屬。其相呂嘉不欲內屬。發兵攻殺其王。及漢使者皆死。軍死時年二十餘。故世謂之終童。

孫晨藁席　原憲桑樞

三輔決錄。孫晨字元公。家貧織席爲業。明詩書。爲京兆功曹。冬月無被。有藁一束。暮臥朝收。

三輔決錄にいふ、孫晨、字は元公、家貧にして席を織つて業となす。詩書に明かなり。京兆の功曹となる。冬月被(一)なし。藁一束あり。暮に臥し、朝に收む。

(一) ふすま、夜具

莊子曰。原憲居魯。環堵之室。茨以生草。蓬戶不完。桑以爲樞。而甕牖二室。褐以

莊子に曰く、原憲、魯に居て、(一)環堵の室、茨くに生草を以てす。(二)蓬戶完からず。(三)桑以て樞となして、(四)甕牖二室、(五)褐を以て塞となす。(六)上漏り、下濕ふ。(七)匡坐して弦す。子貢、大馬に乘り、(八)中紺にして表素に、(九)軒車巷に容らず。往いて憲を見る。憲、(一〇)華冠縱履し、藜を杖いて門に應ず。子貢曰く、「噫、先生何ぞ病め

博能屬レ文。聞二於郡中一。年十八。武帝選爲二博士一。步入レ關。關吏與二軍繻一。軍問以レ此何爲。吏曰。爲二復傳一。還當レ合レ符。軍曰。丈夫西遊。終不二復傳還一。棄レ繻而去。及下爲二謁者一。使行中郡國上。建レ節東出レ關。關吏識レ之曰。此使者。迺前棄繻生也。後擢二諫大夫一。使二南越一。自請願受二長纓一。必羈二南越

入る。關吏、軍に繻(二)を與ふ。軍問ふ、「此を以て何にかせん」と。吏曰く、「復傳(三)どなし、還るとき、當に符を合すべし」と。軍曰く、「丈夫西遊(四)す。終に復傳をもつて還らず」と。繻を棄てゝ去る。謁者となり、使して郡國を行るに及び、節(五)を建てゝ東關(六)を出づ。關吏之を識つて曰く、「この使者は、迺ち前の棄繻生なり」と。後、諫大夫に擢んでられ、南越に使す。自ら請ふ、「願はくは長纓(七)を受け、必ず南越王を羈(八)して之を闕下に致さん」と。軍、往いて越王に說く。王、國を擧げて內屬せんことを請ふ。その相の呂嘉、內屬を欲せず、兵を發して其王を攻殺す。漢の使者に及ぶまで皆死す。軍死するとき、年二十餘。故に世これを終童といふ。

(一) 條理をわきまへ、物事に博く通ず (二) 帛にて作れる關所のわりふ (三) かへりのしるし (四) 長安を指す。長安に遊學するからには高位高官となりて歸へり復傳などもて歸るまじと也 (五) 使節 (六) 函谷關 (七) 冠の紐の長いもの (八) しばり上ぐ

之武帝召以爲レ郎。邛筰君長。聞下南夷與レ漢通。得二賞賜一多上。願下爲二內臣妾一請レ吏比中南夷上。拜二相如中郞將一。建レ節往使。因二巴蜀吏幣物一。以賂二西南夷一。至レ蜀。太守以下郊迎。縣令負二弩矢一先驅。蜀人以爲レ寵。於レ是卓王孫臨邛諸公。皆因二門下一獻二牛酒一。以交驩。王孫喟嘆自以。得レ使三女尙二長卿一晚。相如略二定西南夷一。邛筰冉駹斯楡之君。皆請レ爲二臣妾一。除二邊關一。邊關益斥。舊注云。蜀城北七里有二昇仙橋一。相如題二其柱一曰。大丈夫不レ乘二駟馬車一。不三復過二此橋一。

て自ら以へらく、女をして長卿に尙せしむるを得ること晚しと。相如、西南夷を略定す。(七)邛筰・冉駹・斯楡の君、皆臣妾たらんと請ひ、邊關を除く。邊關益〻斥く。(八)舊注に云ふ、蜀城の北七里に昇仙橋あり。相如その柱に題して曰く、『大丈夫、(九)駟馬の車に乘らずんば、復た此橋を過ぎず』と。

(一)劍を投げつけ擊ち中つる術。一說に短劍を持ちて長き武器につけ入り縱橫に斬りまくる術也と　(二)貲也、家財、資　(三)卷之中、文君當壚を參照せよ　(四)西南なる夷の部族　(五)光榮　(六)めあはす　(七)皆西南夷の部族の名　(八)開く也　(九)貴人の乘る車

前漢終軍字子雲。濟南人。少好レ學。以二辨

前漢の終軍、字は子雲、濟南の人なり。少にして學を好み、(一)辨博にして能く文を屬するを以て郡中に聞えたり。年十八、武帝選んで博士と爲し、步して關に

前漢司馬相如字長卿。蜀郡成都人也。少好讀書。學擊劍。名犬子。既學慕藺相如之爲人。更名相如。以貲爲郎。事景帝爲武騎常侍。非其好也。病免。家貧無以自業。及卓文君從奔。後卓王孫分與財物。爲富人。久

相如題柱　終軍棄繻

前漢の司馬相如、字は長卿、蜀郡成都の人なり。少にして讀書を好み、擊劍(一)を學ぶ。犬子と名づけしが、すでに學びて、藺相如の人となりを慕ひ、名を相如と更む。貲(二)を以て郎となり、景帝に事へ、武騎常侍となる。その好にあらざるなり。病んで免ず。家貧にして、以て自ら業とするなし。(三)卓文君從ひ奔るに及び、後、卓王孫、財物を分與して、富人となる。久しうして、武帝召して以て郎となす。邛(四)筰の君長、南夷漢と通じて、賞賜を得ること多しと聞き、內臣妾とならん、吏を請うて南夷に比せんことを願ふ。相如を中郎將に拜し、節を建てゝ往いて使し、巴蜀の吏の幣物に因つて、以て西南夷に賂す。蜀に至れば、太守以下郊迎し、縣令弩矢を負うて、先驅す。蜀人以て寵(五)となす。是に於いて、卓王孫、臨邛の諸公、皆門下に因つて、牛酒を獻じ、以て交歡す。王孫、喟歎し

前漢張安世字子孺，少以ニ父湯任一爲レ郎。用レ善レ書。給ニ事尚書。精ニ力於職。休沐未ニ嘗出。武帝幸ニ河東。嘗亡ニ書三篋。詔問莫ニ能知。唯安世識レ之。具作ニ其事。後購求得レ書。以相校。無レ所ニ遺失。上奇ニ其材。擢爲ニ尚書令。昭帝立。爲ニ右將軍光祿勳。封ニ富平侯。事ニ武帝三十餘年。忠信謹厚。勤ニ勞政事。夙夜不レ怠。宣帝時。爲ニ太司馬車騎將軍。安世爲ニ公侯。食ニ邑萬戸。身衣ニ弋綈。夫人自紡績。家僮七百人。皆有ニ手技一作レ事。内治ニ產業。累ニ積纖微。是以能殖ニ其貨。富ニ於霍光。

前漢の張安世、字は子孺、少にして父湯の任を以て郎となる。書を善くするを用つて、尚書に給事す。職に精力して、休沐(一)未だ嘗て出でず。武帝、河東に幸す。嘗て書三篋(二)を亡ふ。詔して問ふに、能く知るものなく、唯だ安世之を識る。具さに其の事を作す。後購求して書を得たり。以て相校(三)ぶるに遺失するところなし。上、其材を奇とし、擢んでゝ尚書令となす。昭帝、立つて右將軍光祿勳となり、富平侯に封ぜらる。武帝に事ふる三十餘年。忠信謹孝、政事に勤勞し、夙夜怠らず。宣帝の時、大司馬車騎將軍となる。安世、公侯となつて、邑萬戸を食めども、身に弋綈(四)を衣、夫人自ら紡績す。家僮七百人、皆手技あつて事を作す。内、産業を治め、纖微(五)を累積す。これを以て能く其貨を殖し、霍光より富めり。

(一) 休暇日　(二) 三箱　(三) 校合、對照　(四) 黑きあつぎぬの衣　(五) 微細なること

後漢應奉字世叔。汝南南頓人。少聰明。自レ爲二童兒一及レ長。凡所二經履一。莫レ不二暗記一。讀レ書五行竝下。爲二郡決曹史一。行レ部四十二縣。錄二囚徒數百千人一。及レ還。太守問レ之。奉口說二罪繫姓名。坐狀輕重一。無二遺脫一。時人奇レ之。官至二司隸校尉一。謝承書曰。奉年二十時。嘗詣二彭城相袁賀一。賀時出行。閉レ門造レ車。匠於レ內開レ扇。出二半面一視レ奉。奉去後數十年。於レ路見二車匠一。識而問レ之。

後漢の應奉、字は世叔、汝南南頓の人なり。少にして聰明なり。童兒たりしより長ずるに及び、凡そ經履(一)するところ、暗記せざるなし。書を讀むや、五行(二)竝に下る。郡の決曹史となり、部を行ること四十二縣、囚徒數百千人を錄す。還るに及んで、太守これを問ふ。奉、口づから罪繫(三)の姓名、坐狀(四)の輕重を說くに遺脫なし。時人、これを奇とす。官、司隸校尉に至る。漢承の書に曰く、奉、年二十の時、嘗て彭城の相たる袁賀に詣る。賀、時に出行し、門を閉ぢて車を造る。車匠、內より扇(五)を開き、半面を出して奉を視る。奉去つて後數十年、路に於て、車匠を見る。識つて之を問ふ。

(一) 巡同　(二) 一度に五行づゝ讀み下す　(三) 罪人　(四) 犯罪の狀態　(五) 門扉。門のとびら

逆一。猶以三惲據二經讖一。難二即害一レ之。使二近臣脅一。令三自告二狂病不一レ覺レ所レ言。惲乃瞋レ目罵曰。所レ陳皆天文聖意。非三狂人所二能道一。會レ赦出。乃南遁二蒼梧一。建武中。爲二上東城門候一。帝嘗出獵夜還。惲拒關不レ開。不レ受レ詔。帝乃廻從二東中門一入。明日惲上書諫曰。昔文王不三敢槃二于遊田一。以二萬民一惟憂。而陛下遠獵二山林一。夜以繼レ晝。其如二社稷宗廟一何。書奏。賜二布百匹一。貶二東中門候一。爲二參封尉一。再遷二長沙太守一。

赦に會ひて出づ。乃ち、南、蒼梧(四)に遁る。建武中、上東城門候(五)となる。帝、嘗て出でゝ獵し、夜還る。惲拒ぎ關(六)ぢて開かず。詔を受けず。帝、乃ち、廻つて東中門より入る。明日、惲、上書して諫めて曰く、「むかし、文王敢て游田に槃(七)せず。萬民を以て惟れ憂とす。しかるに、陛下遠く山林に獵し、夜、以て晝に繼ぐ。それ社稷宗廟を如何」と。書奏して、布百匹を賜ふ。東中門候を貶して參封尉(八)となし、再び長沙太守に遷る。

㈠ 日月運行の度數を測りて暦を作る術　㈡ 罪を推し極むる　㈢ 經は經書、讖は讖緯とて未來のことを豫言する者なり　㈣ 山の名　㈤ 十二門一人づゝあり、門守　㈥ 閉也　㈦ 樂しむ　㈧ 瑯邪郡の縣名

應奉五行　安世三篋

廟。出二便門一。欲レ御二樓船一。廣徳當二乘輿車一。免冠頓首曰。宜レ從レ橋。陛下不レ聽レ臣。臣自刎以レ血汙二車輪一。陛下不レ得レ入レ廟矣。上不レ說。光祿大夫張猛曰。臣聞主聖臣直。乘レ船危。就レ橋安。聖主不レ乘レ危。御史大夫言可レ聽。上曰曉レ人不レ當レ如レ是邪。乃從レ橋。後乞二骸骨一。賜二安車駟馬黄金六十斤一。懸二其安車一。傳二子孫一。

す、當に是の如くなるべからざらんや」と。乃ち橋よりす。後、骸骨を乞ふや(七)、安車(八)駟馬、黄金六十斤を賜ふ。その安車を懸けて子孫に傳ふ。

(一) 魯の申公の傳へし詩經　(二) 經學に明かに行迹修る　(三) 閣の名　(四) ゆつたりとして、くつろぎあること　(五) 元旦に作りて八月に熟する酒を供して、宗廟を祭るなり　(六) 長安城の南面西傍に在る第一門　(七) 老いて退官を願ふや　(八) 老人又は婦女の乘る車

後漢郅惲字君章。汝南平西人。明二天文歷數一。王莽時。寇賊羣發。惲至二長安一上書。莽大怒。收二繫詔獄一。劾以二大

後漢の郅惲、字は君章、汝南平西の人なり。天文暦數(一)に明かなり。王莽の時、寇賊群發す。惲、長安に至つて上書す。莽、大に怒り、詔獄に收繫し、劾(二)するに、大逆を以てす。猶ほ惲が經讖に據るを以て、即ち之を害するを難かり、近臣をして脅さしめ、自ら狂病(三)言ふところを覺えずと告げしむ。惲乃ち目を瞋らして、罵つて曰く、「陳ぶるところ、皆天文の聖意、狂人の能く道ふところに非ず」と。

前漢薛廣德字長卿。沛郡相人。以ニ魯詩一教授。御史大夫蕭望之。薦ニ廣德經行宜レ充ニ本朝一。爲ニ博士一。論ニ石渠一。後拜ニ御史大夫一。爲レ人溫雅。有ニ醞藉一。及レ爲ニ三公一。直言諫爭。元帝酎ニ祭宗

巻之下

廣德從橋　君章拒獵

前漢の薛廣德、字は長卿、沛郡相の人なり。(一)魯詩を以て教授す。御史大夫蕭望之、廣德の(二)經行、宜しく本朝に充つべきを薦む。博士となり、(三)石渠を論ず。後に御史大夫に拜す。人となり、溫雅にして(四)醞藉あり。三公となるに及び、直言諫爭す。元帝、宗廟に(五)酎祭して、(六)便門より出で、樓船に御せんと欲す。廣德、乘輿の車に當つて冠を免じ、頓首して曰く、「宜しく橋よりすべし。陛下臣に聽かざれば、臣自刎し、血を以て車輪を汙さん。陛下、廟に入るを得じ」と。上說ばず。光祿大夫張猛曰く、「臣聞く、主聖なれば、臣直なりと。船に乘るは危く、橋に就くは安し。聖主は危きに乘ぜず。御史大夫の言聽くべし。」上曰く、「人を曉

之脛一。剖二賢人之心一。

㊀殷の紂王也 ㊁比干を指す。比干紂王を諫むるや、王怒り、我聞く聖人の心に七個の竅ありと、今汝に於て之を見んとて其の心臓を剖きしをいふ

少レ子。醜而短黑。元后固請。荀顗荀勗竝稱二充女之美一。乃定レ婚。南風妬忌多二權詐一。太子畏惑レ之。嬪御罕レ有二進幸者一。性酷虐。嘗手殺二數人一。或以レ戟擲二孕妾一。子隨レ刃墮レ地。武帝怒將レ廢レ之。荀勗等救得レ不レ廢。及三立爲二皇后一。遂荒淫放恣。專制二天下一。威服二內外一。初誅二楊駿及汝南王亮。太保衞瓘。楚王瑋等一。皆臨機專斷。天下咸怨。及二太子廢一。趙王倫等。因二衆怒一謀レ廢レ后。后懼遂害二太子一。以絕二衆望一。倫乃率レ兵入レ宮廢レ之。矯レ詔齎二金屑酒一賜レ死。

勗等、救うて廢せられざるを得たり。立つて皇后となるに及び、遂に荒淫放恣、(七)專ら天下を制し、威、內外を服す。初め楊駿及び汝南王亮、太保衞瓘、楚王瑋等を誅せしに、皆臨機專斷なり。天下咸な怨む。太子廢せらるゝに及び、趙王倫等、衆怒に因つて后を廢せんことを謀る。后懼れ、遂に太子を害し、以て衆望を絕つ。倫、乃ち兵を率ゐ、宮に入つて之れを廢し、(八)詔を矯めて(九)金屑酒を齎して死を賜ふ。

(一)五つの可なる點、卽ち種賢・多子・容美・色白・長身之なり　(二)武帝の皇后楊氏　(三)詐欺權謀　(四)太子の侍女　(五)寵愛　(六)はらめる妾　(七)すさびてみだらにて其の上我儘　(八)后の位　(九)毒酒也

書泰誓曰。商王受斷二朝涉

書の泰誓に曰く、『(一)商王受、朝涉の脛を斷り、(二)賢人の心を剖く』と。

游卿。北海人。去レ官不レ仕ニ於王莽一。舊注曰。章負レ笈追レ師。不レ遠ニ千里一。

晉惠帝賈皇后名南風。父充位ニ三公一。初武帝欲下爲ニ太子一取中衞瓘女上。曰。衞公女有ニ五可一。賈公女有ニ五不可一。衞家種賢而多レ子。美而長白。賈家種妬而

『章、笈を負うて(一)師を追ひ、千里を遠しとせず』と。

一 書箱を負うて、どんなに遠く迄でも行きて師に就く

南風擲孕　商受斮涉

晉の惠帝の賈皇后、名は南風、父の充は三公に位す。はじめ、武帝、太子の爲に衞瓘の女を取らんと欲し、曰く、「衞公の女は五可(一)あり。賈公の女は五不可あり。衞家の種は賢にして子多く、美にして長白なり。賈家の種は妬にして子少く、醜にして短黑なり」と。元后(二)固く請ひ、荀顗、荀勗も、並に充が女の美を稱して、乃ち婚を定む。南風、妬忌にして權詐(三)多し。太子畏れて之に惑ひ、嬪御(四)の進幸(五)せらるゝ者あること罕なり。性酷虐、嘗て手づから數人を殺し、或は戟を以て孕妾に擲ち、子、刃に隨つて地に墮つ。武帝怒つて將に之を廢せんとす。荀

師一而立レ之。是爲二悼公一。周子有レ兄。而不慧。不レ辨二菽麥一。故不レ可レ立。杜預曰。菽大豆。豆麥殊レ形。易レ別。故以爲二癡者之候一。不慧蓋世所レ謂白癡。

故に以て癡者の候(五)となす。不慧は蓋し世に謂ゆる白癡なり」と。

(一) 迎也　(二) 厲公の子、當時京師に在り　(三) 無智、ばか　(四) 大豆と麥の見分けもつかず　(五) 證、しるし

史記。虞卿游說之士。躡レ蹻擔レ簦。說二趙孝成王一。一見賜二黃金百鎰白璧一雙。再見爲二趙上卿一。故號爲二虞卿一。

虞卿擔簦　蘇章負笈

史記にいふ、虞卿は游說の士なり。蹻(一)を躡み、簦(二)を擔うて、趙の孝成王に說き、一たび見えて、黃金百鎰(三)白璧一雙(四)を賜ひ、再び見えて、趙の上卿となる。故に號して虞卿といふ。

(一) 草履　(二) 長柄のかさ　(三) 一鎰は二十兩、或は二十四兩とも云ふ　(四) 一對

前漢蘇章字

前漢の蘇章、字は游卿、北海の人なり。官を去つて王莽に仕へず。舊注に曰く、

交當世。沖素簡淡。器量隤然。有公輔之望。兄子濟輕之。嘗詣湛。見床頭有周易。問曰。叔父何用此爲。湛曰。體中不佳時。脫復看耳。濟請言之。因剖析玄理。微妙有奇趣。皆濟所未聞。武帝亦以湛爲癡。每見濟。輒嘲之曰。卿家癡叔死未。濟常無以答。及是又問。濟曰。臣叔殊不癡。因稱其美。帝曰。誰比。濟曰。山濤以下。魏舒以上。仕至汝南內史。

り。皆濟が未だ聞かざるところなり。武帝も亦湛を以て癡となし、濟を見る毎に、輒ち之を嘲つて曰く、「卿が家の癡叔死せしか未だなるか」と。濟、常に以て答ふることなし。こゝに及びて又問ふ。濟曰く、「臣の叔、殊に癡ならず」と。因つて其美を稱す。帝曰く、「誰が比ぞ。」濟曰く、「山濤以下、魏舒以上」と。仕へて、汝南の内史に至る。

(一) 知識度量 (二) 龍額の如き額 (三) 隠れたる器量 (四) 白癡、ばか (五) 沖素は幼少よりの生れ付といふこと 簡淡は簡易淡泊にして、物事にあつさりとせること。隤然は順なる貌 (六) 三公輔弼たらんとするのぞみ (七) 心中也 (八) 細密に判別する也

左氏傳曰。晉欒書。中行偃。使荀罃士魴逆周子于京

左氏傳に曰く、晉の欒書、中行偃、荀罃士魴をして、周子を京師より逆へて、(一)之を立てしむ。これを悼公と爲す。(二)周子兄あり。しかも不慧にして(三)菽麥を辨ぜ(四)ず。故に立つべからずと。杜預曰く、「菽は大豆、豆麥形を殊にす。別ち易し。

信乃乘二王車一黄屋左纛。曰。食盡漢王降レ楚。楚皆呼二萬歳一。之二城東一觀。以レ故漢王得下與二數十騎一出二西門一遁上。羽見レ信。問二漢王安在一。曰。已出去矣。羽燒二殺信一。

安にか在ると問ふ。曰く、「已に出で去る」と。羽、信を燒き殺す。

(一)欺く、だます　(二)しのび出づ　(三)黄屋は天子の車に青蓋を立て、其裏を黄色の絹にて被ふなり、纛はもと旄旗にして羽毛にて作れるもの、之を車の左方に立て、天子の標とす

晉書。王湛字處沖。少有二識度一。龍顙大鼻。少二言語一。初有二隱德一。人莫二能知一。兄弟宗族。皆以爲レ癡。其父昶獨異焉。闔レ門守レ靜。不レ

濟叔不癡　周兄無慧

晉書にいふ、王湛、字は處沖、少にして識度(一)あり。龍顙大鼻(二)にして言語少し。初め隱德(三)あり。人能く知ることなし。兄弟宗族、皆以て癡(四)となす。その父昶獨り異とす。門を闔ぢ靜を守り、當世に交らず。沖素簡淡(五)、器量隤然(六)、公輔の望あり。兄の子濟、之を輕んず。嘗て湛に至り、床頭周易あるを見、問うて曰く、「叔父、何ぞ此を用ふることをなす。」湛曰く、「體中(七)佳ならざるとき、脫しくは復た看るのみ。」濟之を言はんことを請ふ。因つて玄理を剖析(八)す。微妙にして奇趣あ

況。高陽人。丞相商之子。與二呂祿一善。及二高后崩一。大臣欲レ誅二諸呂一。呂祿爲二將軍一。軍二於北軍一。大尉周勃不レ得レ入。乃使三人劫二商。令三寄給二祿。祿信レ之與出游。勃乃得三入據二北軍一。遂誅二諸呂一。天下稱二酈寄賣一レ友。

ずるに及び、大臣、諸呂を誅せんと欲す。呂祿、將軍となり、北軍に軍す。大尉周勃、入ることを得ず。(三)乃ち人をして商を劫さしめ、寄をして祿を紿かしむ。祿、之を信じ、與に出游す。勃、乃ち入りて北軍に據ることを得、遂に諸呂を誅す。天下、酈寄友を賣ると稱す。

(一)呂皇后 (二)呂氏の一族 (三)北軍に擊ち入ることを得ざるなり

前漢紀信爲二將軍一。項羽圍二漢王榮陽一。信曰。事急矣。臣請誑レ楚。可二以閒出一。於レ是夜出二女子東門一二千餘人。楚因四面擊レ之。

前漢の紀信、將軍となる。項羽、漢王を滎陽に圍む。信曰く、「事急なり。臣請ふ、(一)楚を誑かし、以て(二)閒出すべし」と。こゝに於て、夜、女子を東門より出すこと二千餘人。楚因つて、四面より之を擊つ。信、乃ち王の車に乗り、(三)黄屋左纛す。故を以て、漢王、數十騎と西門を出でゝ、遁るゝことを得たり。羽、信を見て、漢王

先與二少兒一通生二去病一。及二衞皇后尊一。去病以二后姉子一。年十八爲二侍中一。從二大將軍一征二匈奴一。以レ功封二冠軍侯一。驃騎將軍。後置二太司馬位一。去病秩祿皆與レ青等去。病爲レ人少言不レ泄。有レ氣敢往。上嘗欲レ敎二之吳孫兵法一。對曰。顧二方略何如一耳。不レ至レ學二古兵法一。上爲治レ第。令レ視レ之。對曰。匈奴不レ滅。無二以レ家爲一也。上益重二愛之一。

軍たり。後、太司馬の位を置き、去病の秩祿、皆青と等し。去病、人となり、少言にして泄らさず。(一)氣あり敢往す。上嘗て之に吳孫の兵法を敎へんと欲す。對へて曰く、「方略何如を顧るのみ。古の兵法を學ぶに至らず」と。上、爲に(二)第を治め、之を視せしむ。對へて曰く、「匈奴滅せざれば、(三)家を以て爲すことなからむ」と。上、益〻之を重愛す。

(一) 膽力ありて勇敢なり　(二) 邸宅を新築する也　(三) 家ありとも如何ともすることなし

前漢酈寄字

酈寄賣友　紀信詐帝

前漢の酈寄、字は況、高陽の人なり。丞相商の子なり。呂祿と善し。(一)高后崩

母兄衞長君。及姉子夫。子夫自平陽公主家得幸武帝。故青冒姓衞氏。給事建章。後拜車騎將軍。擊匈奴。以功封長平侯。元朔中。將三萬騎出高闕。追匈奴右賢王。得右賢裨王十餘人。衆男女萬五千餘人。畜數十百萬。引兵還至塞。天子使使者持大將軍印。卽軍中拜青爲大將軍。諸將皆以兵屬。立號而歸。李廣傳注。衞青征匈奴。絶大漠。大克獲。帝就拜大將軍於幕中府。故曰幕府。

兵を引いて還つて塞(六)に至る。天子、使者をして大將軍の印を持し、軍中に卽いて、青を拜して大將軍と爲さしむ。諸將皆兵を以て屬す。號(七)を立てゝ歸る。李廣傳の注にいふ、衞青、匈奴を征し、大漠を絶つて、大に克獲す。帝、就いて大將軍に幕中の府に拜す。故に幕府(八)といふ。

(一) 側にゐて雜用に從事すること　(二) 天子の女を娶るをいふ　(三) 上林苑中の宮殿の名　(四) 山の名　(五) 匈王
(六) 中國と匈奴との通路にある要塞　(七) 大將軍の號令を出すこと　(八) 幕は軍陣に引き張る幕、府は事を治むる處、幕府は大將軍の居るところなり

前漢霍去病。大將軍衞青姊少兒子也。其父霍仲孺。

前漢の霍去病は、大將軍衞青の姊少兒の子なり。その父霍仲孺、先に少兒と通じて去病を生む。衞皇后尊きに及び、去病、后の姊の子なるを以て、年十八にして侍中となり、大將軍に從つて、匈奴を征し、功を以て冠軍侯に封ぜらる。驃騎將

計一用レ事。年十三爲二侍中一。與二大農丞東郭咸陽孔僅一。三人者。言二利事一析二秋毫一。拜二御史大夫一。昭帝時。謀反伏レ誅。

つ。御史大夫に拜す。昭帝の時、謀反して誅に伏す。

(一)商人　(二)暗算、胸算用　(三)微細のことをも分つとなり

前漢衞青字仲卿。其父鄭季。河東平陽人。以二縣吏一給二事侯家一。平陽曹壽。尚二武帝姉陽信長公主一。鄭季與二主家僮衞媼一通生レ青。青有二同

衞青拜幕　去病辭第

前漢の衞青、字は仲卿、その父鄭季、河東平陽の人なり。縣吏を以て侯家に給事(一)す。平陽の曹壽、武帝の姉陽信長公主を尙る(二)。鄭季、主家の僮衞媼と通じて青を生む。青、同母兄衞長君及び姉子夫あり。子夫、平陽公主の家より、幸を武帝に得たり。故に、青、姓衞氏を冒す。(三)建章に給事し、後、車騎將軍に拜し、匈奴を撃ち、功を以て長平侯に封ぜらる。元朔中、三萬騎を將ゐて、(四)高闕より出で、匈奴の右賢王を追ひ、右賢の裨王(五)十餘人、衆男女萬五千餘人、畜數十百萬を得、

於吏職。尤善爲二鉤距一以得二事情。鉤距者。設欲レ知二馬賈一。則先問レ狗。已問レ羊。又問レ牛。然後及レ馬。參二伍其賈一。以レ類相準。則知二馬之貴賤一。不レ失レ實矣。唯廣漢至精能行レ之。它人效者莫二能及一。郡中盜賊閭里輕俠。其根株窟穴所在。及吏受取請求。銖兩之姦皆知レ之。後上書告二丞相魏相事一。失レ實。宣帝惡レ之。下二廣漢廷尉獄一。又坐下賊二殺不辜一數罪上。吏民守レ闕號泣者數萬人。或願レ代レ死。竟坐要斬。百姓追思。歌レ之至レ今。

の根株窟穴(五)の所在、及び吏の受取請求、銖兩(六)の姦、皆これを知る。後上書して、丞相魏相の事を告げて實を失ふ。宣帝これを惡んで、廣漢を廷尉の獄に下す。又不辜(七)を賊殺する數罪に坐す。吏民闕を守つて號泣するもの數萬人。或は死に代らんことを願ふ。竟に坐して要斬(八)す。百姓追思し、これを歌うて今に至る。

(一)廣く傳はり聞ゆる也 (二)つまみ出す也、伏は隱れたる犯罪 (三)距はけづめ也、距ある鉤針は呑めば則ち隨ひ、之を吐けば則ち逆ふが如く、人をして其中に入りて出づる能はざらしめ、以て隱情を鉤索するをいふ (四)男達 (五)親分。窟穴は巢窟 (六)銖は黃鐘一龠の重さの十二分の一、兩は二十四銖。些細なる惡事を指す (七)無實銖の罪を受けたる者 (八)腰をきらる

前漢桑弘羊。雒陽賈人子。武帝時。以二心

前漢の桑弘羊は、雒陽の賈人(一)の子なり。武帝の時、心計を以て事を用ひ、年十三にして侍中たり。大農の丞東郭・咸陽・孔僅三人の者と利事を言ひ、(三)秋毫を析

見難問一應レ聲面對。特見二寵愛一。文帝即位。累二封陳王一。舊注引二謝靈運一云。天下才共有二一石一。子建獨得二八斗一。我得二一斗一。自レ古及レ今同用二一斗一。奇才博敏安有レ繼レ之。

較す　(四)　人々にて一斗を同用す　(五)　博學にして敏捷

廣漢鉤距　弘羊心計

前漢趙廣漢字子都。涿郡蠡吾人也。遷二京兆尹一。威名流聞。其發レ奸擿レ伏如レ神。政清。吏民稱レ之不レ容レ口。自二漢興一治二京兆一者。莫二能及一。爲レ人強力。天性精二

前漢の趙廣漢、字は子都、涿郡蠡吾の人なり。京兆の尹に遷る。威名流聞す。(一)その奸を發き伏(二)を擿むこと、神の如し。政清く、吏民これを稱して口を容れず。漢興つてより、京兆を治むるもの、能く及ぶなし。人と爲り強力、天性吏職に精し。尤も善く鉤距(三)を爲し、以て事情を得たり。鉤距とは、もし馬の賈を知らんと欲せば、先づ狗を問ひ、已にして羊を問ひ、又牛を問ひ、然る後に、馬に及び、其賈を參伍し、類を以て相準ずれば、則ち馬の貴賤を知り、實を失はず。唯だ廣漢至精能く之を行ふ。它人效ふもの能く及ぶなし。郡中の盜賊、閭里の輕俠(四)、そ

於大魏。足下高視於上京。當此之時。人人自謂握靈蛇之珠。家家自謂抱荊山之玉也。孔璋陳琳字。偉長徐幹字。公幹劉楨字。德璉應瑒字也。

魏志。陳思王曹植字子建。年十歲餘。誦讀詩論及辭賦數十萬言。善屬文。太祖嘗視其文曰。汝倩人邪。植曰。言出爲論。下筆成章。奈何倩人。時銅爵臺新成。太祖悉將諸子登臺。使各爲賦。植援筆立成。可觀。太祖甚異之。每進

魏志にいふ、陳思王曹植、字は子建。年十歲餘、詩論及び辭賦數十萬言を誦讀し、善く文を屬る。(一)太祖嘗て其文を視て曰く、「汝、人を倩ふか。」植曰く、「言出でゝは論となり、筆を下せば章を成す。奈何ぞ人を倩はん。」時に、(二)銅爵臺、新に成る。太祖悉く諸子を將ゐて、臺に登り、各をして賦を爲らしむ。植、筆を援つて立どころに成る。觀るべし。太祖、甚だ之を異とす。進見して難問する每に、聲に應じて對ふ。特に寵愛せらる。文帝即位し、陳王に累封す。舊注に謝靈運を引いて云ふ、『天下の才共に(三)一石あり。子建獨り八斗を得、我一斗を得たり。古より今に及ぶまで、(四)同じく一斗を用ふ。奇才博敏、(五)安んぞ之に繼ぐあらんや』と。

(一) 綴也 (二) 後漢の獻帝建安十五年の冬、曹操の鄴に建てし臺也 (三) 皆て一石あり、才の量を斛目に喩へて比

魏志。王粲字仲宣。山陽高平人。除二黄門侍郎一。以二西京擾亂一不レ就。乃之二荊州一。依二劉表一。表以二粲貌寢而體弱一。進退不二甚重一也。歸二太祖一。累二拜侍中一。曹植與二楊脩一書曰。今世作者可二略而言一。昔仲宣獨二步於漢南一。孔璋鷹二揚於河朔一。偉長擅二名於青土一。公幹振二藻於海隅一。德璉發二迹

魏志にいふ、王粲、字は仲宣、山陽高平の人なり。黄門侍郎に除せらる。西京(一)の擾亂を以て、就かず。乃ち荊州に之いて劉表に依る。表、粲の貌寢(二)にして體弱を以て、進退甚だ重んぜず。(三)太祖に歸し、侍中に累拜す。曹植が楊脩に與ふる書に曰く、『今世の作者、略して言ふべし。昔仲宣は、(四)漢南に獨歩し、孔璋は河朔(五)に鷹揚し、偉長は名を青土(六)に擅にし、公幹は藻を海隅(七)に振ひ、德璉は迹を大魏に發し、足下は上京に高視(八)す。この時に當つて、人人自ら謂へらく、靈蛇(九)の珠を握ると。家家自ら謂へらく、(一〇)荊山の玉を抱く』と。孔璋は陳琳の字、偉長は徐幹の字、公幹は劉楨の字、德璉は應瑒の字なり。

(一) 長安也。後漢の獻帝董卓に欺かれて洛陽の都を長安に遷す時の亂をいふ (二) 風采あがらず (三) 魏の曹操 (四) 漢水の南即ち荊州 (五) 河北、即ち冀州。鷹揚は鷹の飛揚する如く文學を以て世に高き也 (六) 青州 (七) こゝにては齊をいふ (八) 高き所より眼下に見下す (九) 隋侯の珠。侯嘗て大蛇の傷つけるを見て助け放ちたり、大蛇後に大江より明珠を銜み來りてその恩に報いたり (一〇) 和氏荊山にて得たる名玉

彌レ日。留宿至レ旦遣レ之。湣既還レ船。須臾悽遺レ傳レ教。覓二張孝廉船一。召與同載。遂言二之於簡文帝一。帝召與語歎曰。張湣勃窣爲二理窟一。官至二御史中丞一。

晉書。裴頠字逸民。司空秀之子。弘雅有二遠識一。博學稽古。少知レ名。中丞周弼見而歎曰。頠若二武庫兵縱横一。一時之傑也。樂廣嘗與レ頠清言。欲下以レ理服上レ之。而頠辭語豐博。廣笑而不レ言。時人謂レ頠爲二言談之林藪一。累二遷左僕射一。爲二趙王倫一所レ害。

晉書にいふ、裴頠、字は逸民、司空秀の子なり。弘雅(一)にして遠識あり。博學稽古(二)、少にして名を知らる。中丞周弼、見て歎じて曰く、「頠は武庫の兵縱横たるが如く、一時の傑なり」と。樂廣、嘗て頠と清言し、理を以て之を服せんと欲す。而して頠の辭語豐博なり。廣笑つて言はず。時人頠を言うて、言談の林藪(三)となす。左僕射に累遷し、趙王倫に害せらる。

(一) ひろくして正し　(二) 往古の事を考へ知ること　(三) やぶなり、言談の豐富なるを藪の草木多きに喩へていふ

仲宣獨歩　子建八斗

晉書。張憑字長宗。吳郡人。有二志氣一。爲二鄕閭一所レ稱。擧二孝廉一。負二其才一。自謂。必參二時彥一。初欲レ詣二劉惔一。鄕里及同學者共笑レ之。既至。惔處二之下坐一。神意不レ接。憑欲二自發一而無レ端。會王濛就レ惔清言。有レ所レ不レ通。憑於二末坐一判レ之。言旨深遠。足レ暢二彼我之懷一。一坐皆驚。惔延二之上坐一。清言

晉書にいふ、張憑、字は長宗、吳郡の人なり。志氣あり。(一)鄕閭に稱せらる。(二)孝廉に擧げられ、その才を負み、自ら謂ふ、「必ず時彥に參せん」(三)と。初め劉惔に詣らんと欲す。鄕里及び同學の者、共に之を笑ふ。すでに至る。惔、これを下坐に處き、神意接らず。憑、(四)自ら發せんと欲するも端なし。會〻王濛惔に就いて(五)清言す。通ぜざるところあり。憑、末坐に於て之を判す。言旨深遠、彼我の懷を暢ぶるに足れり。一坐皆驚く、惔これを上坐に延き、清言日を(六)彌り、留宿旦に至つて之を遣る。憑、すでに船に還る。須臾にして、惔敎を傳へしめ、張孝廉の船を覓め、召して與に同じく載せ、遂に之を簡文帝に言ふ。帝、召して與に語り、歎じて曰く、「張憑(七)勃窣理窟をなす」と。官御史中丞に至る。

(一) 鄕は大邑にして一萬二千五百家をいふ、閭は村里なり。鄕閭は鄕村といふ意 (二) 科目の名 (三) 彥は美士也 參は交はる也、時の名士に交はらんと也 (四) 同じく孝廉の科にあげられたる者 (五) 淸談す (六) 終日といふにおなじ (七) 勃窣は行くことゆるき貌、議論ゆるくして迫らざれども、終に理に合するをいふ。理窟は理の聚まる所の意

趙孟疵面　田駢天口

舊注云。晉趙孟字長舒。爲ニ尚書令史一。善ニ淸談一。面有ニ疵點一。時人曰。諸事不レ決問ニ疵面一。

舊注に云ふ、晉の趙孟、字は長舒、尚書令史たり。淸談(一)を善くす。面に疵點(二)あり。時人曰く、『諸事決せざれば、疵面に問へ』と。

(一) 六朝頃の隱士の論ぜし老莊虛無の談論　(二) きず

七略曰。田駢齊人。好ニ談論一。時號曰ニ天口駢一。言ニ其口如一レ天不レ可レ窮也。

七略に曰く、田駢は齊人なり。談論を好み、時に號して天口駢と曰ふ。その口、天の窮むべからざる(一)が如きを言ふなり。

(一) 口より出づる論議の廣く無邊なること

張憑理窟　裴頠談藪

寡人ノ飲。不レ絶ニ冠纓ニ者不レ懽。羣臣百餘人。皆絶ニ去其冠纓ニ而上レ火。盡レ懽而罷。後晉與レ楚戰。有ニ一臣ニ常在レ前。五合五獲レ首卻レ敵。卒勝ニ晉人ニ。莊王怪問。乃夜絶レ纓者。願報レ王也。

(一) かんむりのひも　(二) 促也、火を促して來りて點む

史記。飛廉生ニ惡來ニ。惡來有レ力。飛廉善走。父子俱以ニ材力ニ事レ紂。惡來善毀ニ讒諸侯ニ。武王伐レ紂。并殺ニ惡來ニ。是時飛廉爲レ紂石ニ北方ニ。晏子春秋曰。惡來手裂ニ虎兕ニ。皇甫謐曰。作ニ石槨於北方ニ。

惡來多力　飛廉善走

史記にいふ、飛廉惡來を生む。惡來力あり。飛廉善く走る。父子俱に材力を以て紂に事ふ。惡來善く諸侯を毀讒す、(一) 武王紂を伐ち、并せて、惡來を殺す。この時、飛廉、紂の爲に北方に石る。(二) 晏子春秋に曰く、『惡來手づから虎兕を裂く。』(三) 皇甫謐曰く、『石槨を北方に作る。』

(一) 惡口を言ひて罪におとしいれる、讒言す　(二) 石槨をつくる　(三) 虎と野牛

而賤レ妾。臣不幸。有二罷癃之病一。而君之後宮笑レ臣。願得二笑レ臣者頭一。勝笑應曰。諾。終不レ殺。歲餘賓客稍引去者過レ半。勝怪レ之。客曰。以二君不一レ殺二笑レ躄者一。以爲愛レ色而賤レ士。即去耳。勝乃斬二笑躄者頭一。自造二躄者門一謝焉。後乃復來。

㊀ びつこ ㊁ ちんばをひくさま、蹣跚 ㊂ 腰曲り背隆起する病、せむし ㊃ 至る也 ㊄ さきに去りし客また來る也

說苑曰。楚莊王賜二羣臣酒一。日暮酒酣。燈燭滅。有下引二美人之衣一者上。美人援二絕其冠纓一告レ王。趣レ火來上。視二絕レ纓者一。王曰。賜二人酒一。使二醉失一レ禮。奈何欲レ顯二婦人之節一。而辱レ士乎。乃命二左右一曰。今日與二

說苑に曰く、楚の莊王、羣臣に酒を賜ふ。日暮れ酒酣にして、燈燭滅ゆ。美人の衣を引く者あり。美人、その冠纓を援き絕つて、(一)王に告げ、火を趣し(二)來りて、纓を絕つ者を視しめんとす。王曰く、「人に酒を賜ひ、醉うて禮を失はしむ。奈何ぞ婦人の節を顯さんことを欲して士を辱めんや」と。乃ち左右に命じて曰く、「今日寡人と飲み、冠纓を絕たざる者は懽ばず」と。羣臣百餘人、皆その冠纓を絕ち去り、而して火を上ぐ。懽を盡して罷む。後、晉と楚と戰ふ。一臣あり。常に前に在り。五たび合ひ、五たび首を獲て、敵を卻け、卒に晉人に勝つ。莊王怪み問へば、乃ち夜纓を絕たれし者、顯はして王に報ぜしなり。

史記。平原君趙勝。趙之諸公子。喜二賓客一。賓客至者數千人。相二趙惠文王。及孝成王一。三去レ相。三復レ位。家樓臨二民家一。有二躄者一。槃散行汲。美人居二樓上一。見大笑レ之。明日躄者至レ門。請曰。士之不レ遠二千里一而來者。以二君能貴レ士

趙勝謝躄　梵莊絶纓

史記にいふ、平原君趙勝は趙の諸公子なり。賓客を喜び、賓客至る者數千人。趙の惠文王及び孝成王に相となり、三たび相を去り、三たび位に復る。家樓、民家に臨む。(一)躄者あり。(二)槃散として行いて汲む。美人、樓上に居り、見て大に之を笑ふ。明日、躄者門に至り、請うて曰く、「士の千里を遠しとせずして來る者は、君が能く士を貴んで妾を賤むを以てなり。臣、不幸にして罷癃の病あり。而して、君の後宮、臣を笑ふ。願はくば、臣を笑ふ者の頭を得ん」(三)と。勝、笑つて應へて曰く、「諾」と。終に殺さず。歳餘にして賓客稍く引き去る者、半に過ぐ。勝、之を怪む。客曰く。「君が躄を笑ふ者を殺さゞるを以て、以爲へらく、色を愛して士を賤むと、卽ち去るのみ。」勝、乃ち笑ふ者の頭を斬り、自ら躄者の門に造(四)つて謝す。後乃ち復(五)た來る。

於妻。妻捐酒毀器。涕泣諫曰。君飲酒太過。非攝生之道。宜斷之。伶曰善。吾不能自禁。當祝鬼神自誓。可具酒肉。妻從之。伶跪祝曰。天生劉伶。以酒爲名。一飲一斛五斗解酲。婦人之言。愼不可聽。仍引酒銜肉。頹然復醉。嘗醉與俗人相忤。其人攘袂奮拳而往。伶徐曰。雞肋不足以安尊拳。其人笑而止。伶未嘗厝意文翰。著酒德頌一篇。嘗爲建威參軍。太始初。對策。盛言無爲之化。時輩皆高第得調。伶獨以無用罷。竟以壽終。

從ふ。伶跪いて祝りて曰く、「天、劉伶を生じ、酒を以て名をなさしむ。一飲一斛、五斗酲(四)を解く。婦人の言は、愼んで聽くべからず」と。仍つて酒を引き、肉を銜み、頹然(五)として復た醉ふ。嘗て醉うて俗人と相忤ふ。その人、袂(六)を攘げ、拳を奮つて往く。伶、徐に曰く、「雞肋(七)以て尊拳を安んずるに足らず」と。その人笑つて止む。伶、未だ嘗て意を文翰に措かず。酒德頌一篇を著す。嘗て建威參軍となり、太始の初、對策し、盛に無爲の化を言ふ。時輩皆高第(八)、調を得たれども、伶獨り無用を以て罷められ、竟に壽を以て終る。

(一) 君父も路人視し、動物も植物も同一なりと思惟する也 (二) 鹿一匹を駕する位の小車 (三) 酒を飲まんと欲するなり (四) ふつかえひを解きさます (五) 醉ひくづるゝさま (六) 袂をまくりかゝげて臂を出すこと (七) 雞のあばら骨、小弱なる意 (八) 選也、得調とは及第したるをいふ

醉。而家人不ㇾ知。以爲ㇾ死也。權葬ㇾ之。酒家計二千日滿一。乃憶下玄石前日酤ㇾ酒。醉向ㇾ醒耳。往視ㇾ之。云。玄石之死三年。已葬。於ㇾ是開ㇾ棺。醉始醒。俗云。玄石飲ㇾ酒。一醉千日。

るや三年。已に葬る」と。こゝに於て、棺を開けば、醉始めて醒む。俗に云ふ、『玄石酒を飲み、一醉千日』と。

㊀酒を買ふなり　㊁千日にして醉の醒むるといふその程度　㊂假なり

晉書。劉伶字伯倫。沛國人。放ㇾ情肆ㇾ志。常以下細二宇宙一齊中萬物上爲ㇾ心。常乘二鹿車一。攜二一壺酒一。使二人荷ㇾ鍤隨一ㇾ之。謂曰。死便埋ㇾ我。其遺二形骸一如ㇾ此。嘗渴甚。求二酒

晉書にいふ、劉伶、字は伯倫、沛國の人なり。情を放にし、志を肆にす。常に宇宙を細とし、萬物(一)を齊しうするを以て心と爲す。常に鹿車(二)に乘り、一壺酒を攜へ、人をして鍤を荷ひ、之に隨はしめ、謂つて曰く、「死せば便ち我を埋めよ」と。その形骸を遺るゝこと、かくの如し。嘗て渇(三)すること甚し。酒を妻に求む。妻、酒を捐て、器を毀ち、涕泣して諫めて曰く、「君、酒を飲むこと太だ過ぎたり。攝生の道にあらず。宜しく之を斷つべし。」伶曰く、「善し。吾、自ら禁ずること能はず。當に鬼神に祀り、自ら誓ふべし。酒肉を具すべし」と。妻、之に

爲二皇后一。後寵少衰而弟絶幸。爲二昭儀一。姊弟顓レ寵十餘年。皆無レ子。及二帝暴崩一。民間歸二罪昭儀一。昭儀自殺。哀帝立。尊レ后爲二皇太后一。西京雜記曰。飛燕爲二皇后一。女弟在二昭陽殿一。后體輕腰弱。善二行步進退一。昭儀不レ能レ及。但弱骨豐肌。尤工二笑語一。二人竝色如二紅玉一。爲二當時第一一。

工なり。二人竝に色紅玉の如し。當時第一たり。

㈠ 宮中に召使ふ官婢なり ㈡ 私生兒なれば死するやうに、取りあげもせずに置く ㈢ 正式の行幸にあらでしのびあるきなり ㈣ 女官の名 ㈤ 女官の名 ㈥ 人を面白がらせる語

博物志曰。昔劉玄石於二中山酒家一酤レ酒。酒家與二千日酒一。忘レ言二其節度一。歸至レ家當レ

玄石沈湎　劉伶解酲

博物志に曰く、昔劉玄石、中山の酒家に於て酒を㈠酤ふ。酒家、千日酒を與へ、その㈡節度をいふを忘る。歸つて家に至りて、醉に當る。而るに家人知らず、以て死せりとなし、㈢權に之を葬る。酒家、千日の滿つるを計り、乃ち玄石が前日酒を酤ひしを憶ひ、醉醒むるに向んとするのみと。往いて之を視る。云ふ、「玄石の死す

強飯勉レ之。卽貴願無二相忘一。後生二男據一。遂立爲二皇后一。而男爲二太子一。遭二巫蠱事起一。江充爲レ姦。太子與レ后共誅レ充。太子敗亡。后自殺。

陥れし事件

前漢飛燕。孝成帝趙皇后也。本長安宮人。初生。父母不レ擧。三日不レ死。遂收養レ之。及レ壯屬二陽阿主家一。學二歌舞一。號曰二飛燕一。帝嘗微行出。過レ主。作レ樂。見而說レ之。召入レ宮。大幸。女弟復入。俱爲二倢伃一。貴傾二後宮一。立

前漢の飛燕は、孝成帝の趙皇后なり。本と長安の宮人なり。初め生まれしとき、父母擧げず。三日たつも死せず。遂に收めて之を養ふ。壯なるに及び、陽阿主の家に屬し、歌舞を學び、號して飛燕と曰ふ。帝、嘗て微行して出で、主に過ぎる。樂を作さしめ、見て之を說び、召して宮に入れ、大に幸す。女弟復た入り、俱に倢伃となる。貴、後宮を傾け、立つて皇后となる。後、寵少しく衰へて、弟絕だ幸せられ、昭儀となる。姉弟寵を顓にすること十餘年。皆子なし。帝、暴に崩ずるに及び、民間、罪を昭儀に歸す。昭儀自殺す。哀帝立ち、后を尊んで皇太后となす。西京雜記に曰く、飛燕、皇后となり、女弟、昭儀、昭陽殿に在り。后は體輕く腰弱く、行步進退に善く、昭儀及ぶ能はず。但し弱骨豐肌、尤も笑語に

張衡西京賦曰。衞后興二於鬒髮一飛燕寵二於體輕一。衞后前漢孝武帝皇后也。字子夫。其家號曰二衞氏一。出二平陽侯邑一。初爲二平陽公主謳者一。武帝祓二霸上一。還過レ主。既飲謳者進。帝獨說二子夫一。帝起更レ衣。子夫侍二尚衣一。軒中得レ幸。主因奏二子夫一。送入レ宮。子夫上レ車。主拊二其背一曰。行矣。

張衡の西京賦に曰く、『衞后は鬒髮(一)に興り、飛燕は體輕に寵せらる』と。衞后は前漢孝武帝の皇后なり。字は子夫、その家號して衞氏と曰ひ、平陽侯の邑より出づ。初め平陽公主の謳者(二)たり。武帝、霸上(三)に祓し、還つて主(四)に過る。既に飲み、謳者進む。帝、獨り子夫を說ぶ。帝起つて衣を更ふ。子夫、(五)尚衣に侍し、(六)軒中に幸を得たり。主、因つて子夫を奏め(七)、送つて宮に入る。子夫、車に上るとき、主、その背を拊でゝ曰く、「行け。(八)强飯して之を勉めよ。卽し貴くば、願はくば相忘るゝなかれ」と。後、男據を生み、遂に立つて皇后となる。而して、男は太子となる。(九)巫蠱の事起るに遭ひ、江充、姦を爲し、太子、后と共に充を誅せんとし、太子敗亡し、后自殺す。

(一) 黑髮。髮美なるを以て武帝に見出されしをいふ (二) 歌舞を藝とする者 (三) 霸上は霸水のほとり、祓はおはらひ也、災を除き福を求むる也 (四) 公主の宅に立寄る (五) 尚は主るなり、衣裳を主る役 (六) 軒車(母衣をかけたる車)の中にて寵幸を得たるなり (七) 進むるなり、差し上ぐるなり (八) 强て食事せよとの意、壯健なれといふに同じ (九) 漢の武帝の時、江充等、太子が巫蠱卽ちみこを以て帝をいのり殺さんとすと讒し、太子等を罪に

增玉潤。

晉樂廣字彥輔。年八歲夏侯玄見レ之。謂二其父一曰。廣神姿朗徹。當レ爲二名士一。可レ令二專學一。必能興二卿門戶一。衞瓘見而奇レ之。命二諸子一造焉。曰。此人之水鏡。見レ之瑩然若下披二雲霧一而覩中靑天上也。王衍自言。與レ人語甚簡。及レ見レ廣便覺二己之煩一。其爲二識者歎美一如レ此。

晉の樂廣、字は彥輔。年八歲のとき、夏侯玄、これを見て、その父に謂つて曰く、「廣、神姿朗徹、當に名士となるべし。專ら學ばしむべし。必ず能く卿が門戶を與さん。」衞瓘見て之を奇とし、諸子に命じて造らしむ。(一)曰く、「これ人の水鏡。(二)これを見れば瑩然、雲霧を披いて靑天を覩るが若きなり。」王衍、自ら言ふ、「人と語れば甚だ簡なり。(三)廣を見るに及んで、便ち己の煩なるを覺ゆ」と。その識者に歎美せらるゝこと、此の如し。

(一) 至りて交らしむ　(二) 人の鏡、人の手本となるべき人物　(三) 明かなる鏡　(四) わづらはし、煩雜

衞后髮鬒　飛燕體輕

已而仕二京師一。數爲二朝廷在位賢者一。稱二君平德一。年九十餘終。

晉書。衞玠字叔寶。五歲風神秀發。祖父瓘曰。此兒有レ異二於衆一。顧吾年老。不レ見二其成長一耳。玠舅驃騎將軍王濟。儁爽有二風姿一。每レ見レ玠。輒歎曰。珠玉在レ側覺二我形穢一。又嘗語レ人曰。與レ玠同遊。宛若二明珠之在レ側朗然照一レ人。玠妻父樂廣有二海內重名一。議者以爲二婦公氷淸。女

叔寶玉潤　彥輔氷淸

晉書にいふ。衞玠、字は叔寶、五歲にして、風神秀發なり。(一)祖父瓘曰く、「この兒、衆に異なるあり。顧るに、吾年老いたり。その成長を見ざらんのみ。」玠の舅驃騎將軍王濟、儁爽にして、(二)風姿あり。玠を見る每に、輒ち歎じて曰く、「珠玉側に在り、我が形の穢しきを覺ゆ」と。又嘗て人に語つて曰く、「玠と同じく遊べば、宛として、明珠の側に在つて、朗然として(三)人を照すが若し」と。玠の妻の父樂廣、海內に重名あり。(四)議者、以て婦公(五)は氷淸、女壻(六)は玉潤となす。

(一) 風采の特に勝れたるなり　(二) 儁は俊、爽は明、秀でゝさわやかなり　(三) 明かなる貌　(四) 世上の取沙汰に　(五) 樂廣を指す　(六) 玠を指す

前漢嚴遵字君平。蜀郡人。修レ身自保。非二其服一弗レ服。非二其食一弗レ食。卜二筮於成都市一。以爲卜筮者賤業。而可三以惠レ衆。人有二邪惡非正之問一。則依二蓍龜一爲言二利害一。與二人子一言依二於孝一。與二人弟一言依二於順一與二人臣一言依二於忠一。各因レ勢。道レ之以レ善。裁日閲二數人一。得二百錢一足二自養一。則閉レ肆下レ簾而授二老子一。博覽亡レ不レ通依二老莊之指一。著二書十餘萬言一。揚雄少。時從游學。

前漢の嚴遵、字は君平、蜀郡の人なり。身を修めて自ら保ち(一)、その服に非ざれば服せず、その食に非ざれば食せず。成都の市に卜筮す。(二)以爲へらく、卜筮は賤業なれども、以て衆を惠むべしと。人、邪惡非正の問あれば、(三)蓍龜に依つて爲に利害を言ひ、人の子と言へば孝に依り、人の弟と言へば順に依り、人の臣と言へば忠に依り、各勢に因つて之を道くに善を以てす。裁に日に數人を閲し、百錢を得て自ら養ふに足れば、則ち肆を閉ぢ簾を下して、老子を授く。博覽にして通ぜざるなし。老莊の指(四)に依つて、書十餘萬言を著す。揚雄、少時從つて游學す。すでにして、京師に仕へ、數〻朝廷在位の賢者の爲に君平の德を稱す。年九十餘にして終る。

(一) 德を保つなり　(二) うらなひ　(三) 蓍は筮に用ひるめどきなり、後世之を竹にて作る。龜は卜に用ふる龜なり
(四) 老子莊子の精神に從ひて

黒丹青之所レ爲。

吳志。闞澤字德潤會稽人。家世農夫。至レ澤好レ學居貧無レ資。常爲レ人傭書。以供二紙筆一。所レ寫既畢。讀誦亦遍。追レ師論講。究二覽羣籍。兼通二歷數一。由レ是顯レ名。仕二孫權一爲二中書令侍中太子太傅一。每二朝大議一經典所レ疑。輒諮二訪之一。以二儒學勤勞一。封二都鄕侯一。

德潤傭書　君平賣卜

吳志にいふ、闞澤、字は德潤、會稽の人なり。家世〻農夫なり。澤に至つて學を好む。居貧にして資なし。常に人の爲に傭書(一)して、以て紙筆に供す。寫すところ、すでに畢れば、讀誦亦た遍し。師を追うて論講す。群籍を究覽し、兼て歷數に通ず。これに因つて、名を顯はす。孫權に仕へて、中書令侍中太子太傅と爲る。朝の大議ごとに、經典の疑はしきところは、輒ち之に諮訪(二)す。儒學勤勞を以て、都鄕侯に封ぜらる。

(一) やとはれて筆耕す　(二) 師に隨つて　(三) とひはかる

有二何能一。曰臣有レ所レ造。願王觀レ之。越レ日謁二見王一。王曰。若與偕來者何人邪。對曰。臣之所レ造能レ倡者。王視レ之。趨步俯仰信人也。巧夫。頷二其頤一則歌合レ律。捧二其手一則舞應レ節。千變萬化唯意所レ適。王以爲二實人一也與二盛姬內御一竝觀レ之。技將レ終。倡者瞬二其目一。而招二王之左右侍妾一。王怒欲レ誅二偃師一。偃師立剖二散倡者一。以示レ王。皆傅二會革木一。膠漆白

これを觀よ」と。日を越えて、王に謁見す。王曰く、「若與に偕に來るものは何人ぞや。」對へて曰く、「臣の造るところ、(三)倡を能くするもの」と。王、之を視るに、(四)趨步俯仰、信に人なり。巧なるかな。其(五)頤を頷ぐれば、則ち歌、律に合ひ、其の手を捧ぐれば、則ち舞、節に應じ、千變萬化、唯だ意の適する所なり。王、以て實に人なりとなし、(六)盛姬內御と竝に之を觀る。技、將に終らんとす。倡者、その目を瞬いて、王の左右侍妾を招く(七)。王、怒つて偃師を誅せんと欲す。偃師、立どころに倡者を剖散して(八)、以て王に示す。皆革木を傅會し(九)、膠漆白黑丹青の爲るところなり。

(一) 天子が諸國を巡視するをいふ　(二) 細工人　(三) 俳優、わざをぎ　(四) おもむき走り、うつむきあふぐ　(五) 頤を曲ぐるなり、頭を搖がすなり　(六) 盛姬は數多の美人、內御は後宮內に侍る美女　(七) 招きて之に戲る　(八) ときくづす　(九) よせあつめる

司奏二巴大不敬一。詔問レ巴。巴對曰。臣鄕里。以二臣能治レ鬼護一レ病。爲レ臣立レ廟。今旦耆老皆入レ廟致レ饗。是以來遲。適臣本縣成都市失レ火。臣噀レ酒爲レ雨。以滅二火災一。詔原レ罪即遣レ使往驗二其言一。答云。正旦失レ火。食時有二大雨一。從二東北一來。火乃息。雨皆酒氣。後一日大風天霧暗。失二巴所在一。尋二問之一。其日還二成都一與二親戚一別去。而昇レ天矣。巴字叔元。見二後漢書一。

老皆廟に入つて饗を致す。これを以て來ること遲し。適臣が本縣成都の市、火を失す。臣、酒を噀いて雨となし、以て火災を滅す」と。詔して、罪を原し、即ち使を遣して、往いて其言を驗せしむ。答へて云ふ、(三)「正旦火を失す。食時に大雨あつて東北より來る。火乃ち息む。雨皆酒氣あり」と。後一日、大風天霧暗し。巴の所在を失ふ。これを尋ね問ふに、其日、成都に還り、親戚と別れ去つて、天に昇る。巴、字は叔元、後漢書に見ゆ。

(一) 正月朔日の朝賀 (二) 六十を耆といひ七十を老といふ、老人の稱 (三) 正月元日

列子曰。周穆王西巡狩。道有レ獻二工人一。名偃師。王曰。若

列子に曰く、周の穆王、西に(一)巡狩す。道に(二)工人を獻ずるあり。名は偃師なり。王問うて曰く、「若、何の能かある。」曰く、「臣造るところあり。願はくは、王、

上レ車。軸折車廢。江陵父老。流涕竊言曰。吾王不レ反矣。榮至詣二中尉府一對レ簿。中尉郅都簿責二訊王一。王恐自殺。葬二藍田一。燕數萬銜レ土置二冢上一。百姓憐レ之。

尉郅都、簿をもつて王を責訊す。王恐れて自殺す。藍田に葬る。燕、數萬、土を銜んで冢上に置く。百姓これを憐む。

㊀其領地臨江に入りて三年目に　㊁廟の外垣の内、内垣の外なる空地　㊂壖地を侵して宮殿を建立したる罪に問はれたり　㊃人の旅行を送る宴、門出の祝、祖道　㊄壞る　㊅罪狀を書したる文書

神仙傳。欒巴蜀郡人。漢帝召爲二尚書一。正朝大會。巴獨後到。頗有二醉色一。又飲レ酒。望二西南一噀レ之。有

欒巴噀酒　。　偃師舞木

神仙傳にいふ、欒巴は蜀郡の人なり。漢帝、召して尚書と爲す。(一)正朝の大會に、巴、獨り、後れて到る。頗る醉色あり。又酒を飲み、西南を望んで之れを噀く。有司、巴、大いに不敬なりと奏す。詔して、巴に問ふ。巴、對へて曰く、「臣の郷里、臣が能く鬼を治め、病を護るを以て、臣の爲に廟を立つ。今旦、耆(二)

晉書。殷仲文陳郡人轉ニ尙書ニ。素有ニ名望ー。自謂必當ニ朝政ー。又謝琨之徒。疇昔所レ輕者。竝皆比レ肩。常怏怏不レ得レ志。忽遷ニ洛陽太守ー。意彌不レ平。後謀反伏レ誅。仲文時照レ鏡不レ見ニ其面ー。數日而遇レ禍。

晉書にいふ。殷仲文は陳郡の人なり。尙書に轉ず。素より名望あり。自ら謂ふ、「必ず朝政に當らん」と。又謝琨の徒、疇昔(一)輕んずるところの者、竝に皆肩を比(二)ぶ。常に怏快(三)として志を得ず。忽ち洛陽の太守に遷る。意彌平ならず。後に謀反して誅に伏す。仲文時に(四)鏡に照せども其面を見ず。數日にして禍に遇ふ。

(一)前日、さきに　(二)同等の位になる　(三)意に滿たざる貌　(四)仲文或時己が面を鏡に照して寫し見しに、不思議にも其面鏡に寫らざりき

前漢臨江閔王榮。景帝子。立爲ニ太子ー。廢爲ニ臨江王ー。三歲坐下侵ニ廟壖地ー爲上レ宮。上徵レ榮。榮行祖ニ於江陵北門ー。既

前漢の臨江の閔王榮は、景帝の子なり。立つて太子となり、廢せられて臨江王となる。三(一)歲にして、廟の壖地(二)を侵して宮となすに坐(三)す。上、榮を徵す。榮行くとき、江陵の北門に祖(四)す。既に車に上るや、軸折れ、車廢(五)す。江陵の父老、流涕して竊に言つて曰く、「吾が王反らず」と。榮至り、中尉府に詣つて簿(六)に對す。中

晉平公鑄ニ爲大鐘一。使ニ工聽レ之。皆以爲レ調。師曠曰。不レ調。請更鑄レ之。平公曰。工皆以爲レ調矣。師曠曰。後世有ニ知レ音者一。將レ知レ不レ調。臣竊爲レ君恥レ之。至ニ師涓一。果知ニ鐘之不一レ調。是師曠欲ニ善調レ鐘。以爲ニ後之知音一也。

愼子曰。離朱之明。察ニ毫末於百歩之外一。下レ水尺不レ能レ見ニ淺深一。非ニ目不一レ明。其勢難レ視也。

調(三)へりとなす。師曠曰く、「調はず。請ふ更めて之を鑄ん。」平公曰く、「工皆以て調へりとなす。」師曠曰く、「後世音を知るものあらば、將に調はざるを知らんとす。臣、竊に君の爲に之を恥づ」と。師涓(四)に至り、果して鐘の調はざるを知る。これ師曠善く鐘を調へんと欲せるは、以て後の知音(五)の爲にせるなり。

愼子に曰く、離朱の明、毫末を百歩の外に察すれども、水を下ること尺なれば、淺深を見る能はず。目の明かならざるに非ず、その勢(六)、視難ければなり。

(一)善く音律を聽き分くる耳　(二)樂工、樂人　(三)音の律に合ふこと　(四)衞の靈公の樂人　(五)知音者　(六)場合

仲文照鏡　臨江折軸

後漢向長字子平。河內朝歌人。隱居不レ仕。性尙二中和一。好通二老易一。貧無二資食一。好事者更饋焉。受レ之取レ足。而反二其餘一。讀レ易至二損益卦一。歎曰。吾已知二富不レ如レ貧。貴不レ如レ賤。但未レ知二死何二如生一耳。建武中。男女娶嫁既畢。敕斷二家事一。勿二相關一。遂肆レ意遊二五嶽名山一。不レ知レ所レ終。

後漢の向長、字は子平、河内朝歌の人なり。隱居して仕へず。性中和(一)を尙ぶ。好んで老易(二)に通ず。貧にして資食なし。好事者、更〻饋る。これを受け、足るを取つて其餘を反す。易を讀み、損益の卦に至つて歎じて曰く、「吾、すでに富の貧に如かず、貴の賤に如かざるを知る。但だ未だ死は生に何如といふを知らざるのみ。」建武中、男女娶嫁(三)、すでに畢るや、敕めて(四)家事を斷ち、相關かること勿からしめ、遂に意を肆にして、五嶽(五)名山に遊ぶ。終るところを知らず。

(一)過激ならずして世俗と和するをいふ、中庸に所謂中和にあらず　(二)老子と周易　(三)向長の子の男子は娶り、女子は嫁がしむ　(四)兒を戒めて家事を以て煩はさざらしむる也　(五)泰・華・衡・恆・嵩と五つの高山

師曠淸耳　離婁明目

呂氏春秋曰。

呂氏春秋に曰く、晉の平公、大鐘を鑄爲し、工(一)をして之を聽かしむ。皆以て

起レ歷。曰。律容二一龠一。積二八十一寸一。則一日之分也。與レ長相終。律長九寸。百七十一分而終復。三復而得二甲子一。夫律陰陽九六。爻象所二從出一也。故黄鐘紀二元氣一之謂レ律。律法也。莫レ不レ取レ法焉。贊曰。歷數則唐都落下閎。

ろなり。故に黄鐘は元氣を紀す。(八)これを律といふ。律は法なり。法を取らざるなし。贊に曰く、(九)歷數は唐都・落下閎と。

㊀仙術を行ふ人　㊁二十八宿を四方に分ち、其距離を測りて、日月星辰の運行を定むること　㊂從來用ひたる顓頊曆を改めて太初曆を作りしをいふ　㊃黄鐘の律管　㊄曆數を割り出す　㊅量の名　㊆黄鐘の長さと終數と相乘ずるをいふ　㊇天地の元氣を理むるなり　㊈曆數は唐都と落下閎と其の淵奥を極めたりと

前漢邴丹字曼容。琅邪人。養レ志自修。爲レ官不レ肯レ過二六百石一。輒自免去。

曼容自免　子平畢娶

前漢の邴丹、字は曼容、琅邪の人なり。志を養うて自修す。官と爲れども、六(一)百石に過ぐるを肯んぜず。輒ち自ら免じ去る。(二)

㊀祿を貪る念無き也　㊁自ら官を退き去る

幸雨立。我雖ㇾ短也。幸休居。於ㇾ是始皇使ㇾ得二半相代一。嘗欲ㇾ大二苑囿一。旃曰。善。多縱二禽獸於其中一。寇從二東方一來。令二麋鹿觸一ㇾ之足矣。始皇以ㇾ故輟止。二世立。又欲ㇾ漆二其城一。旃曰。佳哉漆城蕩蕩。寇來不ㇾ能ㇾ上。卽欲ㇾ就ㇾ之。易ㇾ爲ㇾ漆耳。顧難ㇾ爲二蔭室一。二世笑而止。

城に漆せんと欲す。旃曰く、「佳なる哉。漆城蕩蕩、(一〇)寇來るも上る能はざらん、卽ち之に就かんと欲するも、漆を爲し易きのみ。顧ふに、(一一)蔭室を爲し難からん。」二世、笑つて止む。

(一) 倡は役者、侏儒は一寸法師 (二) 世を治むる道 (三) 楯をもちて君側を衞る士 (四) 雨に濡れて寒きをいふ (五) 欄干 (六) 長け高きとによつて何等益するとなきに、たゞこの雨中に立ちて濡るゝを得るは幸ひなりと滑稽味を含めしなり (七) 半數づゝ交代せしむ (八) 庭園 (九) やむ。以てとは旃の此言によりて始皇その非を悟れるなり (一〇) 廣平の貌 (一一) 漆を乾かす室、此處は此城を入れて其漆を乾かす程の室を造ること難からんと諷刺せり

前漢方士唐都分二天部一。巴郡落下閎與焉。都分二天部一。而閎運ㇾ算轉ㇾ歷。其法以ㇾ律

前漢の方士唐都、(一)天部を分つ。(二)巴郡の落下閎與かる。都、天部を分ち、閎、算を運らし、(三)歷を轉ず。その法、(四)律を以て(五)歷を起す。曰く律、(六)一龠を容る。八十一寸を積めば則ち一日の分なり。(七)長と相終る。律の長さ九寸、百七十一分にして終つて復す。三復して、甲子を得。夫れ律は陰陽九六、爻象の從つて出づるとこ

耳。許曰。筐匪苞苴。固當レ輕ニ於天下之寶一。今本無レ載。

史記。優旃秦倡侏儒。善爲ニ笑言一。然合ニ於大道一。秦始皇時。置酒而天雨。陛楯者皆沾寒。旃哀レ之。謂曰。汝欲レ休乎。我即呼レ汝。汝應曰レ諾。有レ頃臨レ檻大呼曰。陛楯郎。郎曰諾。優旃曰汝雖レ長何益。

優旃滑稽　落下歷數

史記にいふ、優旃は、秦の倡(一)にして侏儒なり。善く笑言を爲す。然れども、大道(二)に合ふ。秦の始皇の時、置酒して天雨ふる。(三)陛楯の者、皆沾寒(四)す。旃、これを哀み、謂つて曰く、「汝、休せんと欲するか。我、即し汝を呼ばゞ、汝、應へて諾といへ」と。しばらくあつて、(五)檻に臨んで、大に呼ばつて曰く、「陛楯郎。」郎曰く、「諾。」優旃曰く、「汝、長と雖も、何の益あらん。(六)幸に雨に立つ。我、短と雖も、幸に休居す。」こゝに於て、始皇半ば(七)相代るを得しむ。嘗て苑囿(八)を大にせんと欲す。旃曰く、「善し。多く禽獸を其中に縱たば、寇、東方より來るも、麋鹿をして之に觸れしむれば足らん」と。始皇、故を以て輟止(九)す。二世立つ。又その

事。及レ長不二復獵一。或問。漁獵同是害レ生。何止去二其一一。莊曰。獵自レ我。釣自レ物。未レ能二頓盡一。故先節二其甚者一。且夫貪レ餌否レ鉤。豈我哉。時以爲二知言一。晩節亦不二復釣一。徵命不レ就。子矯亦有二高操一。屢辭二辟命一。矯子法賜。孝武時以二散騎郞一徵不レ至。世有二隱行一云。

孝武の時、散騎郎を以て、徴せども至らず。世々、隱行ありといふ。

㈠邪氣なく質朴なり ㈡利慾に奔走するを厭ふ ㈢盜賊の害 ㈣いぐるみにて鳥を捕へ、釣にて魚をつる ㈤魚也 ㈥にはかに盡くは止められず ㈦是非曲直の理に明かなる言 ㈧官よりめす

舊注。引二世說一云。許詢字玄度。好遊二山澤一。而體便二登陟一。時人曰。許非三徒有二勝情一。有二濟勝之具一。詢隱二永興幽穴一。每致二四方諸侯之遺一。或謂レ許曰。嘗聞箕山人似レ不レ爾

舊注に、世說を引いて曰く、許詢、字は玄度、好んで山澤に遊び、而して、體登陟に便なり。時の人曰く、『許は徒だ勝情㈠あるのみならず、濟勝㈡の具あり』と。詢、永興の幽穴に隱れ、每に四方諸侯の遺を致す。或ひと許に謂つて曰く、「嘗て聞く、箕山㈢の人はしからざるに似たるのみ」と。許曰く、「筐篚苞苴㈣、固より當に天下の寶よりも輕かるべし。」今本に載するなし。

㈠名勝の地を愛するの情 ㈡登陟に便なる體軀 ㈢箕山に隱れたる許由は、堯より天下を禪られしも辭したり、然るに足下は贈物さへ之を受くるは如何にとの意 ㈣筐は竹器の方なるもの、篚は圓きもの、苞はわらにて包めるつと、其下にしくを苴といふ、贈物をさす

稱ニ宰衡一。光固辭レ位。太后詔曰。國之將レ興。尊レ師而重レ傅。其令ニ太師毋レ朝。十日一賜レ餐。賜ニ靈壽杖一。光凡爲ニ御史大夫丞相一。各再。一爲ニ太司徒太傅太師一。歷ニ三世一。居ニ公輔位一。

晉書。翟湯字道深。尋陽人。篤行純素廉潔。不レ屑ニ世事一。耕而後食。永嘉末。寇害相繼。聞ニ湯名德一。皆不ニ敢犯一。鄉鄰賴レ之。辟召不レ至。子莊字祖休。遵ニ湯之操一。不レ交ニ人物一。惟以ニ弋釣一爲レ

翟湯隱操　許詢勝具

晉書にいふ、翟湯、字は道深、尋陽の人なり。篤行(一)純素、廉潔(二)、世事を屑しとせず。耕して後に食ふ。永嘉の末、寇害(三)相繼げども、湯の名德を聞いて皆敢て犯さず。鄉鄰之に賴る。辟召すれども至らず。子莊、字は祖休、湯の操に遵ひ、人物に交らず。惟だ弋釣(四)を以て事となす。長ずるに及んで、復た獵せず。或ひと問ふ、「漁獵同じく是れ生を害す。何ぞ止だ其一を去る。」莊曰く、「獵は我よりす。釣は物よりす。(五)未だ頓(六)に盡す能はず。故に先づその甚しき者を節す。且つ夫れ、餌を貪り鉤を呑む、豈に我ならんやと。時に以て知言(七)となす。晩節亦た復た釣らず。徵命(八)にも就かず。子矯、亦た高操あり。屢ば辟命を辭す。矯の子法賜、

爲二尙書一。轉二僕射尙書令一。凡典二樞機一十餘年。有レ所レ言。輒削二草藁一。以爲章二主之過一。以奸二忠直一。人臣大罪。有レ所二薦擧一。惟恐二人之聞知一。沐日歸休。兄弟妻子燕語。終不レ及二朝省政事一。或問二光溫室省中樹皆何木一也。光默不レ應。答以二他語一。其不レ泄如レ是。哀帝立。拜二丞相一。及二王莽權盛

ば、輒ち(三)草藁を削る。以爲へらく、主の過を章して、以て忠直を(四)奸むるは、人臣の大罪と。薦擧するところあれば、惟だ人の聞知せんことを恐る。(五)沐日歸休、兄弟妻子(六)燕語するや、終に朝省の政事に及ばず。或ひと光に溫室省中の樹は皆何の木ぞと問へば、光、默して應へず。答ふるに、他語を以てす。その泄らさゞること、是の如し。哀帝立つて、丞相に拜す。王莽、權盛にして(七)宰衡と稱するに及び、光、固く位を辭す。太后詔して曰く、「國の將に興らんとするや、師を尊んで傅を重んず。其れ太師をして朝するなからしめよ」と。十日に一たび餐を賜ひ、(八)靈壽杖を賜ふ。光、凡そ御史大夫丞相となること、各再びなり。一たび太司徒、太傅、太師となり、(九)三世を歴て、(一〇)公輔の位に居る。

(一) 科目に應じ優等にて及第すること (二) 大政 (三) 紙なき時代簡を用ふ、抹殺すべく削る也 (四) 求也。忠直の名を求むる也 (五) 五日毎に一日の休を得て歸宅する日を沐日といふ (六) うちくつろぎて物語る (七) 宰相と同じ (八) 靈壽と稱する木の杖 (九) 成・哀・平の三帝の世 (一〇) 三公の位

無二文學一。恭謹無レ與比一。長子建。次甲。次乙。次慶。皆以二馴行孝謹一。官至二二千石一。景帝曰。石君及四子。皆二千石。人臣尊寵。迺舉集二其門一。凡號レ奮爲二萬石君一。慶武帝時爲二太僕一。御出。上問二車中幾馬一。慶以レ策數レ馬畢。擧レ手曰六馬。慶於二兄弟一最爲二簡易一矣。然猶如レ此。後爲二丞相一。

千石に至る。景帝曰く、「石君及び四子、皆二千石、人臣の尊寵、迺ち擧な其門に集まる」と。すべて、奮を號して萬石君となす。慶、武帝の時、太僕となり、御して(四)出づ。上、車中幾馬ぞと問ふ。慶、(三)策を以て、馬を數へ畢り、(五)手を擧げて、曰く、「六馬なり」と。慶、兄弟に於て、最も簡易(六)たり。然れども、猶ほ此の如し。後、丞相となる。

(一) 史に其名を逸す故に便宜甲乙といふ也　(二) 溫順にして謹みぶかく而も孝なり　(三) 父子五人二千石なれば合計して斯くいふ　(四) 上の爲めに車を御して出づ　(五) 天子の車は六馬ときまり居れど其間を輕忽にせず策にて一づ一つ數へて後六頭と答ふる也　(六) 物事を手輕にする

前漢孔光字子夏。孔子十四世孫。經學尤明。以二高第一

前漢の孔光、字は子夏、孔子十四世の孫たり。經學尤も明かに、(一)高第を以て尙書となり、僕射尙書令に轉ず。凡そ(二)樞機を典ること十餘年。言ふところあれ

數千。掖庭殆將二萬人一。而並寵者甚衆。莫レ知レ所レ適。常乘二羊車一。恣二其所一レ之。至便宴寢。宮人乃取二竹葉一插レ戶。以二鹽汁一灑レ地。而引二帝車一。然芳蒙レ幸。殆有二專房之寵一。侍御服飾亞二于皇后一。帝嘗與レ之樗蒲。爭レ失遂傷二上指一。帝怒曰。此固將種也。對曰。北伐二公孫一。西距二諸葛一。非二將種一何。帝有二慙色一。芳生二武安公主一也。

れ、固に將種なり」。對へて曰く、「北、公孫を伐ち、西、諸葛を距ぐ。將種に非ずして何ぞや」と。帝、慙づる色あり。芳、武安公主を生む。

(一)閤門內のつとめ (二)赤きしや、極めて薄く以て肉體のすきて見るべからしめし也 (三)斯く肉體をあらはにして帝に媚ぶべきを慨けるならん (四)宮中奉仕の美人 (五)宮女の居る宮房の舍 (六)帝が目指してゆくべき先きに迷ふ也 (七)羊に牽かする車 (八)羊は竹葉と鹽とを好めば也 (九)夜のおとぎを專にする意 (一〇)ばくち (一一)相手の失を爭ふ、即ち勝負を爭ふ (一二)武將の子孫なれば斯く氣が武々しきかと也

前漢石奮趙人。孝文時。官至二大中大夫一。

石慶數馬　孔光溫樹

前漢の石奮は趙人なり。孝文の時、官、大中大夫に至る。文學なきも、恭謹ともに比するなし。長子建、次は甲(一)、次は乙、次は慶、皆馴(二)行孝謹を以て、官、二

晉書。胡貴嬪名芳。父奮家世將門。爲二鎭軍大將軍一。武帝多簡二良家女一。以充二内職一。自擇二其美者一。以二絳紗一繫レ臂。芳既入レ選。下レ殿號泣。左右止レ之曰。陛下聞レ聲。芳曰。死且不レ畏。何畏二陛下一。拜爲二貴嬪一。時帝多二内寵一。平レ吳後。復納二孫皓宮人

胡嬪爭樗　晉武傷指

晉書にいふ、胡貴嬪、名は芳、父は奮、家世〻將門たり。鎭軍大將軍となる。武帝、多く良家の女を簡び、以て内職に充て、(一)自ら其美なる者を擇び、(二)絳紗を以て臂に繫けしむ。芳、既に選に入り、殿を下つて號泣す。(三)左右これを止めて曰く「陛下聲を聞かん。」芳曰く、「死も且つ畏れず、何ぞ陛下を畏れん」と。拜して貴嬪となす。時に、帝、内寵多し。吳を平げて後、復た孫皓の宮人數千を納る。掖(五)庭、殆んど將に萬人ならんとす。しかして竝び寵せらるゝもの(四)甚だ衆し。適く(六)ところを知るなし。常に羊車に乘り、その之くところに恣にし、至れば便ち宴寢す。(七)宮人、乃ち竹葉を取つて戸に挿み、(八)鹽汁を以て地に洒いで、帝の車を引く。然れども、芳、幸を蒙り、殆んど、(九)專房の寵あり。侍御服飾、皇后に亞ぐ。帝、嘗て之と樗蒲(一〇)す。矢(一一)を爭うて、遂に上の指を傷く。帝、怒つて曰く、「こ(一二)

之。熙出爲二幽州一。后留養レ姑。及二冀州平一。文帝納二后於鄴一。魏略曰。鄴城破。紹妻及后共坐二室堂上一。文帝入二紹舍一。見二紹妻及后一。后怖以レ頭伏二姑膝上一。紹妻兩手自搏。文帝謂曰。劉夫人云何如レ此。令二新婦擧一レ頭。姑乃捧レ后令レ仰。文帝就視。見二其顏色非一レ凡。稱二歎之一。太祖聞二其意一。遂爲迎取。典略曰。太子嘗請二諸文學一。酒酣坐歡。命二夫人甄氏一出拜。坐中衆人皆咸伏。而劉楨獨平視。太祖聞レ之。乃收レ楨。減レ死輸作。

文帝、紹の舍に入り、紹の妻及び后を見る。后、怖れて頭を以て姑の膝の上に伏す。紹の妻、兩手もて自ら搏す。(三)文帝謂つて曰く、「(四)劉夫人いかんぞ此の如くなる。新婦をして頭を擧げしめよ」と。姑、乃ち后を捧じて仰がしむ。文帝、就いて視、その顏色の凡に非ざるを見て、之れを稱歎す。太祖、その意を聞き、遂に爲に迎へ取る。典略に曰く、太子、嘗て諸文學を請ひ、酒(五)酣にして坐歡ぶや、夫人甄氏に命じて出でゝ拜せしむ。坐中の衆人、皆咸く伏す。しかるに、劉楨、ひとり平視す。太祖、これを聞き、乃ち楨を收め、死を減じて輸作(六)とす。

(一) 其中子の熙の妻として迎ふ　(二) 袁紹の居城、後に魏に收められ魏の都となる　(三) 抱き寄す　(四) 袁紹の妻をいふ對稱　(五) 太祖曹操が文帝の甄氏を望めるを聞き、其爲めに迎へ取る　(六) 輸送の役、徒刑に處する也

陵君。方爭下士。招致賓客。以相傾奪。趙平原君。使人於春申君。春申君舍之於上舍。趙使欲誇楚。爲瑇瑁簪。刀劍室以珠玉飾之。請命春申君客。春申君客三千餘人。其上客皆躡珠履。以見趙使。趙使大慙。

に舍す。趙の使、楚に誇らんと欲し、瑇瑁の簪を爲り、刀劍の室は珠玉を以て之を飾り、命を春申君の客に請ふ。春申君の客三千餘人、その上客は皆珠履を躡み、以て趙の使を見る。趙の使、大に慙づ。

(一) 士を敬ひ身をへりくだる　(二) 意を傾けて賓客を招きとる　(三) 上等の館舍　(四) 一種の海產、其甲よりべつかふを作る也　(五) さや　(六) 見えん事を求む　(七) 珠を飾りたる履を穿つ

甄后出拜　劉楨平視

魏志。文昭甄皇后。漢太保甄邯後。袁紹爲中子熙納

魏志にいふ、文昭甄皇后は、漢の太保甄邯の後なり。袁紹、中子熙の爲に之を納る。熙、出でゝ幽州を爲む。后、留まつて姑を養ふ。冀州平ぐに及び、文帝、后を鄴より納る。魏略に曰く、鄴城破る。紹の妻及び后ともに皇堂の上に坐す。

以二奢靡一相尚。愷以レ飴澳レ釜。崇以レ蠟代レ薪。愷作二紫絲布步障四十里一。崇作二錦步障五十里一。以敵レ之。崇塗レ屋以レ椒。愷用二赤石脂一。武帝每助レ愷。嘗以二珊瑚樹一賜レ之。高二尺許。枝柯扶疏。世所レ罕レ比。愷以示レ崇。崇以二鐵如意一擊碎。愷聲色方厲。崇曰。不レ足二多恨一。今還レ卿。乃命二左右一。悉取二珊瑚樹一。有二高三四尺者六七株一。條幹絕俗。光彩耀レ日。如二愷比一者甚衆。愷恍然自失。

のは甚だ衆し。愷、恍然として自失す。(一五)

(一) 其を責めて分與を乞ふ也 (二) 遠方に使する者及び商賈を劫かして其財を掠め (三) 量也 (四) 妻妾の部屋 (五) 紈はしろぎぬ、綉はぬひとり (六) 黃金翡翠の羽を耳飾りとす (七) 音樂は當時のよりぬきを網羅し (八) 奢侈 (九) 澳は燠、飴は粭の通用か。粭は米の瀋汁にて飴のかたまらぬ者、物を煮るに此を水に代用せしならん (一〇) 竹垣に紫布をはり、行步のおほひとなす (一一) 胡椒をぬり込みて其香氣を賞する也 (一二) 藥品の名、當時智も高價なりしもの (一三) えだの大なるは柯、小なるは枝、扶疎は繁れるさま (一四) 顏色變り怒氣はげしくつめ寄す (一五) うつとりせるさま

史記。楚考烈王。以二黃歇一爲レ相。封二春申君一。是時齊有二孟嘗君一。趙有二平原君一。魏有二信

史記にいふ、楚の考烈王、黃歇を以て相となし、春申君に封ず。この時、齊に孟嘗君あり、趙に平原君あり、魏に信陵君あり。方に爭つて士に下り、(一)賓客を招致し、以て相傾奪す。(二)趙の平原君、人を春申君に使す。春申君、之を上舍(三)

晉書。石崇字
季倫。父苞位
至二司徒一。臨レ終
分二財物一與二諸
子一。獨不レ及レ崇。
其母以爲レ言。
苞曰。此兒雖レ
小。後自能得。
爲二荊州刺史一。
劫二遠使商客一。
致レ富不レ貲。後
拜二衞尉一。財産
豐積。室宇宏
麗。後房百數。
皆曳二紈繡一。珥二
金翠一。絲竹盡二
當時之選一。庖
膳窮二水陸之
珍一。與二貴戚王
愷羊琇之徒一。

晉書にいふ、石崇、字は季倫。父の苞は、位、司徒に至る。終に臨み、財物を分つて諸子に與ふ。獨り崇に及ばず。其母(一)以て言を爲す。苞曰く、「此兒小と雖も、後自ら能く得ん」と。荊州の刺史となり、(二)遠使商客を劫かし、富を致すこと(三)貲られず。後、衞尉に拜す。財産豐積、室宇宏麗、(四)後房百數、皆(五)紈繡を曳き、(六)金翠を珥とし、(七)絲竹は當時の選を盡し、庖膳は水陸の珍を窮め、貴戚王愷・羊琇の徒と、(八)奢靡を以て相尚ぶ。愷、飴を以て釜を(九)澳し、崇は蠟を以て薪に代ふ。愷、(一〇)絲紫布の步障四十里を作れば、崇は錦の步障五十里を作り、以て之に敵す。崇、屋に塗るに(一一)椒を以てすれば、愷は(一二)赤石脂を用ふ。武帝、每に愷を助け、嘗て珊瑚樹を以て之に賜ふ。高さ二尺許、(一三)枝柯扶疎として、世に比ひ罕なるところなり。愷、以て崇に示す。崇、鐵如意を以て擊碎す。愷、(一四)聲色方に厲し。崇曰く、「多く恨むるに足らず。今卿に還さん」と。乃ち左右に命じ、悉く珊瑚樹を取らしむ。高さ三四尺の者、六七株あり。條幹絕俗、光彩日に輝き、愷が比の如きも

終當レ任二八家國事一。仕至二中書監一。寡二嗜欲一。惟以レ經レ國爲レ事。少有二宰相志一。賦レ詩云。稷契正二虞夏一。伊呂翼二商周一。舊本儉作レ常說也。淵年十餘時。父有牛墮レ井。營救喧擾。淵下レ簾不レ視。有二門生一。盜二其衣一。淵見謂曰。可二密藏レ之。無レ令二人知一。門生慙而去。宋明帝遷二吏部尚書一。有レ人求レ官。密袖二一餅金一。出示レ之曰。人無レ所レ知。淵曰。卿自應レ得レ官。無レ假二此物一。若見レ與。必相啓。此人懼收レ金而去。後爲二尚書令一。歸二心齊高帝一。帝立進二位中書監一。世以二名節一譏レ之。百姓語曰。可レ憐石頭城。寧爲二袁粲一死。不下作二彦回一生上。粲爲二司徒一。與二尚書令劉彦節一。貳二於高帝一。死二其事一。

と雖も、彦回となつて生きず』と。粲、司徒となり、尚書令劉彦節と高帝に貳き、その事に死す。

(一) かけはし、棧道 (二) 褚淵を指す、三公の一なる司徒たるを以てなり (三) 濕はぬるゝ、狼藉はみだりがはしきさま (四) 河の神 (五) 貧之人無禮なり (六) 袁は袁粲、劉は劉[illegible]、褚淵と共に南朝の宋に仕ふ、偶々蕭道成なる者宋をうばはんとす、袁劉二人は之を誅せんとせしも、淵のうらぎりにより反て誅せらる、故に袁劉を賞るといふ (七) 栝は檜、柏はかしは、豫章はくすの木、大木なるより大材にたとふ (八) 稷は后稷、虞に仕ふ、契は殷の始祖、夏に仕ふ、共に聖王をたすく (九) 伊は伊尹、殷即ち商をたすく、呂は太公望呂尚、周をたすく (一〇) 營救は種々救出す方法をめぐらす、喧擾はさわぐ (一一) 打ち明かす (一二) 金陵に在り、袁粲と其子と最の殺されし所

季倫錦障　春申珠履

超宗先在二僧虔舫一。抗レ聲曰。有二天道一焉。天所レ不レ容。有二地道焉。地所レ不受。投二畀河伯一。河伯不レ受。彥回大怒曰。寒士不遜。超宗曰。不レ能下賣二袁劉一得中富貴上焉免二寒士一。儉字仲寶。祖曇首。父僧綽。俱爲二侍中一。儉幼篤レ學。丹陽尹袁粲見レ之曰。宰相之門。括柏豫章雖レ小巳有二棟梁氣一矣。

儉、幼にして篤學なり。丹陽の尹袁粲、之を見て曰く、「宰相の門、(七)栝柏豫章、小と雖も、すでに棟梁の氣あり。終には當に人の家國の事に任ずべし」と。仕へて、中書監に至る。嗜欲寡く、惟だ國を經むるを以て事となす。少にして宰相の志あり。詩を賦して曰く、『(八)稷契は虞夏を正し、(九)伊呂は商周を翼く。』舊本に、儉を常に作るは誤なり。淵、年十餘の時、父に牛あり、井に墜つ。(一〇)營救喧擾す。淵、簾を下して視ず。門生あり。その衣を盗む。淵、見て謂つて曰く、「密に之を藏すべし。人をして知らしむるなかれ」と。門生慙ぢて去る。宋の明帝、吏部尚書に遷す。人あり、官を求む。密に一餅金を袖にし、出して之を示して曰く、「人に知らるゝなし。」淵曰く、「卿、自ら應に官を得べし。この物を假るなかれ。もし與へられなば、必ず(一一)相啓せん。」この人、懼れて、金を收めて去る。後に尚書令となる。心を齊の高帝に歸す。帝、立つて、位を中書監に進む。世、名節を以て之を譏る。百姓、語して曰く、『憐むべし(一二)石頭城。むしろ袁粲となつて死す

所レ樂。遂住半年。天氣和適。常如二三二月一。百鳥哀鳴。悲思求レ歸甚切。女曰。罪根未レ滅。使二君等如一レ此。更喚二諸仙女一。共作二歌吹一送二劉阮一。從二此山東洞口一去。不レ遠至二大道一。隨二其言一。果得レ還二家鄉一。竝無二相識一。鄉里怪異。乃驗得二七代子孫一。傳聞。上祖入レ山不レ出。不レ知二何在一。既無二親屬一。棲泊無レ所。却欲レ還二女家一。尋二山路一不レ獲。至二大康八年一。失二二人所在一。

王儉墜車　褚淵落水

南史。齊司徒褚淵字彦回。因レ送二湘州刺史王僧虔一。閣道壞落レ水。僕射王儉驚跳下レ車。謝超宗抵レ掌笑曰。落レ水三公。墜レ車僕射。彦回出レ水。霑濕狼藉。

南史にいふ、齊の司徒褚淵、字は彦回、湘州の刺史王僧虔を送るに因つて、(一)閣道壞れて水に落つ。僕射王儉、驚き跳つて車より下つ。謝超宗、掌を抵ち笑つて曰く、「(二)水に落つる三公。車より墜る僕射。彦回水を出で、(三)霑濕狼藉たり」と。超宗、先つて僧虔の舫に在り。聲を抗げて曰ふ、「天道あり、天も容れざるところ。地道あり、地も受けざるところ。(四)河伯に投界ふるも河伯受けず。」彦回大に怒つて曰く、「(五)寒士不遜なり。」超宗曰く、「(六)袁劉を賣つて富貴を得る能はず。焉んぞ寒士たるを免れんや」と。儉、字は仲寶、祖の曇首、父の僧綽、ともに侍中となる。

喜問。郎等來何晩。因邀過レ家。廳館服飾精華。東西各有レ床。帳帷設二七寶瓔珞一。非二世所一レ有。左右直悉靑衣端正。都無二男子一。須臾下二胡麻飯山羊脯一。甚美。又設二甘酒一。有二數十客一。將二三五桃一至云。來慶二女壻一。各出二樂器一。歌調作レ樂。日向レ暮仙女各還去。劉阮就二所レ邀女家一止宿。行二夫婦之道一。留十五日。求レ還。女曰。來レ此皆是宿福所レ招。得下與二仙女一交接上。流俗何

流俗何の樂むところあらん」と。遂に住まること半年。(一〇) 天氣和適、常に二三月の如く、百鳥哀鳴し、悲思歸るを求むること甚だ切なり。女曰く、「罪根未だ滅せず。君等をして此の如くならしむ」と。更に諸仙女を喚び、共に歌吹を作して、劉阮を送る。この山東の洞口より去れ、遠からずして大道に至らんといふ。その言に隨ふ。果して家郷に還ることを得たれども、並に相識なく、郷里怪異す。乃ち驗して、七代の子孫を得たり。傳聞す、上祖山に入つて出でず、何に在るを知らずと。既に親屬なく、棲泊所なし。(一一) 却つて女の家に還らんと欲し、山路を尋ぬるも獲ず。大康八年に至り、(一二) 二人の所在を失ふ。

(一) 谷川の水　(二) 手足を洗ふ　(三) かぶら(蔓菁)の葉　(四) ごまめしの飯粒　(五) 舊知　(六) 家も服も皆華美なり　(七) 婦人の頸にかざる玉環。七寶とは金・銀・琉璃・車渠・瑪瑙・玻璃・眞珠をいふ　(八) 宿直、侍者　(九) 山羊の乾肉　(一〇) 人間界にありては已に二三百年を經過せるを知らざるなり　(一一) 身を寄せ宿するところ　(一二) 西晉武帝の年號

阮肇。入天台山採藥。迷失道路。糧盡。望山頭有桃。共取食之。如覺少健。下山得澗水飲之。竝澡洗。望見蔓菁菜葉。從山復出。次有一杯流出。中有胡麻飯屑。二人相謂曰。去人不遠。因過水行一里。又度一山。出大溪。見二女。顏容絕妙。世未有。便喚劉阮姓名。如有舊。

之を食ひ、少しく健なるを覺ゆるが如し。山を下つて澗水を得て之を飲み、竝に澡洗す。蔓菁菜葉、山より復た出づるを望み見る。次に一杯の流れ出づるあり。中に胡麻飯の屑あり。二人相謂つて曰く、「人を去ること遠からず」と。因つて、水を過ぎ行くこと一里、又一山を度り、大溪に出で、二女を見る。顏容絕妙、世に未だあらず。便ち劉阮の姓名を喚び、舊あるが如し。喜んで問ふ、「郎等來ること何ぞ晩きや」と。因つて邀へて家に過らす。廳館服飾精華、東西各床あり。帳帷、七寶の瓔珞を設く、世にあるところに非ず。左右の直、悉く青衣端正にして、すべて男子なし。須臾ありて、胡麻飯・山羊脯を下す。甚だ美なり。又甘酒を設く。數十客あり。三五の桃を將ち、至つて云ふ、「來つて女壻を慶す」と。各樂器を出し、歌調樂を作す。日、暮に向はんとして、仙女各還り去り、劉阮は邀ふところの女の家に就いて止宿し、夫婦の道を行ふ。留まること十五日。還らんことを求む。女曰く、「此に來る、皆是れ宿福の招くところ、仙女と交接するを得、

舍儼然。有良田美池桑竹之屬。阡陌交通。雞犬相聞其中。往來種作。男女衣著。悉如外人。黃髮垂髫。怡然自樂。見漁人大驚。問所從來。具答之。便邀還家。爲設酒。殺雞作食。村中咸來問訊。自云先世避秦亂。率妻子邑人。來此絕境。不復出。遂與外人間隔。問今是何世。乃不知有漢。無論魏晉。此人爲具言。聞皆歎惋。餘人各復延至其家。皆出酒食。停數日辭去。既出得其船。便扶向路。處處誌之。及郡詣太守說。太守卽遣人隨往。尋向所誌。遂迷不復得路。

て其家に至り、皆酒食を出す。停まること數日にして、辭し去る。既に出でゝ、其船を得、便ち向の路に據り、處處に之を誌し、(七)郡に及び、太守に詣つて說く。太守、卽ち人をして隨ひ往かしめ、向の誌すところを尋ぬるに、遂に迷うて復た路を得ず。

(一)落英はおつるはなぶさ、繽紛は飛び亂るゝさま　(二)さながら似たり、さもにたり　(三)ひろ〴〵と開けたるさま　(四)道の南北に通ずるは阡、東西に通ずるは陌　●黃髮は老人の稱、垂髫は小兒　(五)よろこび樂むかたち　(六)歎き歎ずるなり　(七)覺えをしておく、栞しておく

續齊諧記。漢明帝永平中。剡縣有劉晨

續齊諧記にいふ、漢の明帝の永平中、剡縣に劉晨・阮肇と云ふものあり。天台山に入つて藥を採り、道路を迷失して糧盡く。山頭を望むに桃あり。共に取つて

陶潛桃花源記云。晉太元中。武陵人捕レ魚。緣レ溪行。忘二路之遠近一。忽逢二桃花林夾レ岸。數百歩中無二雜樹一。芳華鮮美。落英繽紛。漁人甚異レ之。復前行欲レ窮二其林一。林盡水源得二一山一。山有二小口一。髣髴若レ有レ光。便捨レ船從レ口入。初極狹纔通レ人。復行數十歩。豁然開朗。土地平曠。屋

陶潛の桃花源記に云ふ、晉の太元中、武陵の人、魚を捕り、溪に緣つて行き、路の遠近を忘る。忽ち桃花林の岸を夾むに逢ふ。數百歩の中、雜樹なく、芳華鮮美、(一)落英繽紛たり。漁人甚だ之を異み、復た前み行いて其林を窮めんと欲す。林盡きて、水源に一山を得たり。山に小口あり。(二)髣髴として光あるが若し。便ち船を捨てゝ口より入る。初め極めて狹く纔に人を通ず。復た行くこと數十歩、(三)豁然として開朗、土地平曠、屋舍儼然、良田美池桑竹の屬あり、(四)阡陌交通し、雞犬其中に相聞こえ、往來種作す。男女の衣著、悉く外人の如く、(五)黃髮垂髫、(六)怡然として自ら樂む。漁人を見て大に驚き、從つて來るところを問ふ。具に之を答ふれば、便ち邀へて家に還り、爲に酒を設け雞を殺して、食を作り、村中咸な來りて問訊す。自ら云ふ、先世秦の亂を避け、妻子邑人を率ゐ、この絕境に來り、復た出でず、遂に外人と閒隔すと。問ふ、「今は是れ何の世ぞ」と。乃ち漢あるを知らず。魏晉に論なし。此人爲に具に言へば、聞いて皆(六)歎惋す。餘人各復た延い

慈乞ニ分レ杯飲一ヒ酒。時天寒。溫レ酒尚未レ熱。慈拔レ簪以畫ニ杯酒一。卽中斷分爲ニ兩向。慈飲ニ其半一送ニ與操一。操未ニ卽飲一。慈乞自飲。飲畢。以レ杯擲ニ屋棟一。杯便懸著レ棟。動搖似ニ鳥飛之俯仰之狀一。欲レ落不レ落。一坐矚レ目視レ杯。已失ニ慈所在一。操嘗會レ賓。顧レ衆曰。珍羞俱備。所レ少呉江鱸魚耳。慈求ニ銅盤一貯レ水。以ニ竹竿一釣。須臾引レ鱸出。操曰。一魚不レ周ニ坐席一。慈更餌レ鈎沈レ之。復引出。皆三尺餘。操鱠レ之。恨無ニ蜀薑一。慈曰。易レ得。操恐ニ近取一レ之。因曰。吾前遣レ人。到レ蜀買レ錦。可ニ報令ト增ニ二端一。語頃卽得レ薑還。使報レ命。後返驗ニ問增レ錦之狀一。若ニ符契一也。

操、これを鱠にす。恨むらくは、蜀薑[一三]なし。慈曰く、「得やすし。」操、近く之を取らんことを恐れ、因つて曰く、「吾、前に人を遣して、蜀[八]に到つて、錦を買はしむ。報じて[一四]、二端を増さしむべし。」語頃[一五]にして、卽ち薑を得て還り、使命を報ず。後、返つて錦を増すの狀を驗問するに、符契の若きなり。

〔一〕周易、尚書、詩經、春秋、禮記　〔二〕星を觀て氣の變化を知る　〔三〕漢の天子の位　〔四〕仙人の術　〔五〕神が吉事をなすに選ぶ日、甲子・甲戌・甲申・甲午・甲辰・甲寅の六日　〔六〕行く先々にて飮食し得る酒食　〔七〕仙術の祕書　〔八〕一年　〔九〕家の棟木　〔一〇〕馳走、珍味　〔一一〕缺く也　〔一二〕ぢきに、すぐに　〔一三〕蜀に產するしようが、はじかみ　〔一四〕其の使ひ役に也　〔一五〕しばらくにして

武陵桃源　劉阮天台

運。官高者危。才高者死。當代榮華不レ足レ貪也。乃學二道術一。尤明二六甲一。能役二鬼神一。坐致二行厨一。精二思於天柱山中一。得二石室九丹金液經一。能變二萬端一。曹操聞而召レ之。閉二一室中一。斷二穀食一。日與二二升水一。朞年出レ之。顏色如レ故。操欲レ學レ道。左慈曰。學レ道當二清淨無爲一。操怒謀レ殺レ之。爲設レ酒。

に精思す。石室の九丹金液經を得て、能く萬端を變ず。曹操聞いて之を召し、一室中に閉ぢ、穀食を(七)斷ち、日に二升の水を與へ、(八)朞年にして之を出すに、顏色故の如し。操、道を學ばんと欲す。左慈曰く、「道を學ぶには、當に清淨無爲なるべし」と。操怒つて之を殺さんとを謀り、爲に酒を設く。慈、杯を分ち酒を飲まんとを乞ふ。時に天寒く、酒を溫めて尙ほ未だ熱せず。慈、簪を拔き、以て杯酒を畫すれば、卽ち中斷し、分れて兩向と爲る。慈、その半を飲み、操に送與す。操、未だ卽ち飲まず。慈乞うて自ら飲み、飲み畢り、杯を以て(九)屋棟に擲つ。杯、便ち懸つて棟に著き、動搖して、鳥飛んで俯仰するの狀に似たり。落ちんと欲して落ちず。一坐目を矚して杯を視るとき、已に慈の所在を失す。操嘗て賓を會す。衆を顧みて曰く、「(一〇)珍羞ともに備はる。(一一)少くところは、吳江の鱸魚のみ。」慈、銅盤を求めて水を貯へ、竹竿を以て釣る。(一二)須臾に鱸を引いて出づ。操曰く、「一魚坐席に周からず。」慈、更に鉤に餌して、之を沈め、復た引き出す。皆三尺餘。

初起往視。了不見羊。但見白石無數。還曰。無羊。初平曰。羊在耳。但兄自不見。便乃俱往。初平言叱叱羊起。於是白石皆起。成羊數萬頭。初起曰。我弟得神通如此。吾可學否。初平曰。唯好道便得。初起便棄妻子。留就初平。共服松脂茯苓。至五千日。能坐在立亡。日中無影。有童子之色。後還鄉。諸親死亡略盡。乃去以方數授南伯逢。初平改字爲赤松子。初起改字爲魯班。其後傳服此藥。得仙者數十人。

童子の色あり。後、郷に還る。諸親死亡し、略ぼ盡く。乃ち去つて、方を以て南伯逢に教授し(五)、初平、字を改めて赤松子と爲し、初起字を改めて魯班(六)となす。その後、傳へて、この藥を服し、仙を得るもの數十人。

㈠ 道術を修めたる者、此處にては仙人 ㈡ すなはにして謹直 ㈢ うらなはしむ ㈣ 松脂は松やに、茯苓は松の根に生ずる一種の植物、藥用となる ㈤ 顔貌、㈥ 處法。服用法

神仙傳。左慈字元放。廬江人。少明五經。兼通星氣。見漢祚將盡。乃歎曰。値此衰

神仙傳にいふ、左慈、字は元放。廬江の人なり。少にして五經(一)に明かに、兼ねて星氣(二)に通ず。漢祚(三)將に盡きんとするを見、乃ち歎じて曰く、「この衰運に値ひ、官高き者は危く、才高き者は死す。當代の榮華は貪るに足らず」と。乃ち道術を學び、尤も六甲(五)に明かに、能く鬼神を役し、坐ながら、行厨(六)を致す。天柱山中

神仙傳。黄初平丹谿人。年十五。家使レ牧レ羊。有二道士一。見二其良謹一。便將至二金華山石室中一。四十餘年不二復念一レ家。其兄初起索レ之不レ得レ見。後見三市有二道士善卜一。乃就占レ之。道士曰。金華山中。有レ牧レ羊兒。是卿弟非邪。初起即隨二道士一尋見。兄弟悲喜。問二羊何在一。初平曰。近在二山東一。

神仙傳に曰く、黄初平は丹谿の人なり。年十五、家、羊を牧せしむ。道士あり。その良謹(一)を見、便ち將ゐて金華山石室の中に至る。四十餘年、復た家を念(二)はず。その兄初起、之れを索れども見るを得ず。後、市に道士の善く卜するものあるを見、乃ち就いて、之れを占(三)せしむ。道士曰く、「金華山中に羊を牧する兒あり。是れ卿の弟か、非か。」初起、卽ち道士に隨つて尋ね見る。兄弟悲喜し、「羊何にか在る」と問ふ。初平曰く、「近く山の東に在り。」初起往いて視れども、丁に羊を見ず。但だ白石無數を見る。還つて曰く、「羊なし。」初平曰く、「羊在らんのみ、但だ兄自ら見ざるなり」と、便ち乃ち倶に往き、初平、「叱叱、羊起きよ」と言ふや、こゝに於て、白石皆起ち、羊數萬頭となる。初起曰く、「我が弟、神通を得ること此の如し、吾、學ぶべきや否や。」初平曰く、「唯だ道を好まば、便ち得ん。」初起、便ち妻子を棄て、留まつて、初平に就き、共に松脂茯苓(四)を服すること五千日に至る。坐すれば在り、立てば亡く、日中に影なきを能くす。

所ㇾ按。遷二散騎常侍一。嘗以二金貂一換ㇾ酒。復爲二所司彈劾一。帝宥ㇾ之。初祖約性好ㇾ財。孚性好ㇾ屐。同是累。而未ㇾ判二其得失一。有ㇾ詣ㇾ約。見三正料二財物一。客至。屏當不ㇾ盡。餘二兩小簏一。以著二背後一。傾ㇾ身障ㇾ之。意未ㇾ能ㇾ平。或有ㇾ詣ㇾ阮。正見二其蠟一ㇾ屐。因自歎曰。未ㇾ知一生當ㇾ著二幾量屐一。神色閑暢。於ㇾ是勝負始分。終二廣州刺史一。約字士少。豫州刺史逖之子。蘇峻尅二京師一。矯ㇾ詔以爲二侍中一。爲二石勒一所ㇾ殺。

障ふ。意、未だ平なる能はず。或ひと阮に詣るあり。正にその屐(八)に蠟するを見る。因つて自ら歎じて曰く、「未だ知らず、一生當に幾量(九)の屐を著くべきを」と。神色閑暢なり。是に於て、(一〇)勝負始めて分る。廣州の刺史に終る。約、字は士少、豫州の刺史逖の子なり。蘇峻京師に尅つや、詔(一一)を矯めて以て侍中と爲す。石勒に殺さる。

(一) 髪をみだせること (二) 酒にふけり放縱にて、常に役人の取調を受く (三) 常侍の冠 (四) 共に物を嗜むの累ある者なるが (五) 祖約の許に至る者あり (六) 蔽ひかくす (七) 簏は竹かご (八) くつに光澤を出す爲めに蠟を塗る也 (九) 量は緉に同じ、一足也 (一〇) 財を好む祖約は人にかくさんとし、屐を好む阮孚は人に見られて神色のんびりとして變るとなし、即ち阮孚の好みの方が立派に勝ちたる也 (一一) 天子の命なりといつはる

初平起石　左慈擲杯

朝。尚早。坐而假寐。麑退歎而言曰。不レ忘二恭敬一。民之主也。賊二民之主一不忠。棄二君之命一不信。有レ一二於此一。不レ如レ死也。解レ槐而死。

(一) 君道なし (二) 税をとりたて丶牆壁に彫刻などし奢侈を極む (三) 料理人 (四) 熊の掌、美味の最上にして烹て熟せざれば毒ありといふ、故に不熟を殺す也 (五) 物を運ぶに用ふる具、草の類にて編み製す (六) 朝臣に知れては事面倒と、婦人に命じて車に載せ朝廷より引出さする也 (七) 趙盾 (八) 晉の大力の士。麑の字一說に晉メイとす (九) 賊害せしめんと (一〇) 內門 (一一) 不忠か不信かの內一つ (一二) ゑんじゆの樹に頭を打つけて死す

晉書。阮孚字遙集。始平太守咸之子。元帝以爲二安東參軍一。蓬髮飮レ酒。不下以二王務一嬰上レ心。轉二從事中郞一。終日酣縱。常爲二有司一

阮孚蠟屐　祖約好財

晉書にいふ、阮孚、字は遙集、始平の太守咸の子なり。元帝、以て安東參軍となす。(一)蓬髮にして酒を飮み、王務を以て心に嬰けず。從事中郞に轉ず。終日酣縱、(二)常に有司に按ぜらる。散騎常侍に遷る。嘗て金貂を以て酒に換ふ。(三)復た所司に彈劾せらる。帝、これを宥す。初め祖約性財を好み、孚性屐を好む。(四)同じく是れ累にしてしかも未だその得失を判ぜず。(五)約に詣るあり。正に財物を料るを見る。客至る。(六)屛當して盡さず。兩小簏を餘す。(七)以て背後に著け、身を傾けて之を

已死。獨何報讎之深。對曰。臣事范中行氏。衆人遇我。我故衆人報之。智伯國士遇我。我故國士報之。襄子曰。寡人赦子亦足矣。子自爲計。讓曰。臣固伏誅。然願請君之衣而擊之。以致報讎之意。襄子持衣與之。乃拔劍三躍而擊之。曰。吾可以下報智伯矣。遂伏劍而死。

(三) 囚人を使役して斯る勞役に服せしめし也 (四) 胸さわぎす (五) うるしかぶれにて癩病患者の如くなる也 (六) 之を糺し捕へて問ふ也 (七) 天下無雙の士 (八) 自ら處決せよ

左氏傳曰。晉靈公不君。厚斂以雕牆。從臺上彈人。而觀其避丸也。宰夫胹熊蹯不熟。殺之。寘諸畚。婦人載過朝。盾爲正卿。驟諫。公患之。使鉏麑賊之。晨往。寢門開矣。盛服將

左氏傳に曰く、晉の靈公は不君なり。(一)厚く斂し、(二)以て牆に彫り、臺上より人を彈して、其の丸を避くるを觀る。(三)宰夫、(四)熊蹯を胹て熟せざれば之を殺し、諸を畚に(五)寘き、(六)婦人載せて朝を過ぐ。(七)盾、正卿たり。驟く諫む。公之を患ふ。(八)鉏麑をして之を賊せしめんとす。(九)晨に往けば、寢門開けたり。(一〇)盛服して將に朝せんとす。尚ほ早し。坐して假寐す。麑退き、歎じて言て曰く、「恭敬を忘れざるは民の主なり。民の主を賊するは不忠なり。君の命を棄つるは不信なり。(一一)此に一あるは死に如かず」と、槐に觸れて死す。(一二)

者ニ容。我必為ニ智伯一報ㇾ讎。乃變ニ名姓一。為ニ刑人一。入ㇾ宮塗ニ廁中一。挾ニ匕首一。欲三以刺ニ襄子一。襄子如ㇾ廁心動。搜ㇾ之則豫讓也。襄子義而釋ㇾ之。又漆ㇾ身為ㇾ厲。呑ㇾ炭為ㇾ啞。使ニ形狀不一ㇾ可ㇾ知。伏ニ於橋下一。襄子至ㇾ橋馬驚。曰。此必豫讓。問曰。子事ニ范中行氏一。智伯滅ㇾ之。不ニ為報ㇾ讎而反臣ニ智伯一。智伯

知るべからざらしめ、橋下に伏す。襄子、橋に至るに、馬驚く。曰く、「これ必ず豫讓ならん」と。(六)問うて曰く、「子は范・中行氏に事へて、智伯之を滅したり。爲に讐を報いずして、反つて智伯に臣たり。智伯已に死す。獨り何ぞ讐を報ぜんとするの深きや。」對へて曰く、「臣、范・中行氏に事へしとき、衆人として我を遇せり。我、故に衆人として之に報ず。智伯は國士(七)として我を遇せり。我、故に國士として之に報ず。」襄子曰く、「寡人、子を赦すも亦た足れり。子自ら(八)計を爲せ。」讓曰く、「臣、固より誅に伏す。然れども、願はくは君の衣を請うて之を撃ち、以て讐を報ずるの意を致さん」と。襄子、衣を持して之を與へしむ。乃ち劍を抜き、三たび躍つて之を撃ち、曰く、「吾、以て下、智伯に報ずべし」と。遂に劍に伏して死す。

㊀ 范氏と中行氏、范吉射と荀寅 ㊁ 諸說あり、或は酒杯といひ、或は酒を盛る器といひ、或は虎子（オマル）といふ、董份の說に「死骨ハ人ノ諱ム所ノ者、何ゾ以テ酒ヲ盛ランヤ、蓋シ深ク怨ミテ之ヲ辱メ、溲器ト爲スノミ」

毎ニ冬月罪囚當レ斷。其妻執レ燭。吉持ニ丹筆一。相向垂レ泣。

史記。豫讓晉人。嘗事ニ范中行氏一。去而事ニ智伯一。智伯尊ニ寵之一。趙襄子與ニ韓魏一合レ謀。滅ニ智伯一三ニ分其地一。襄子怨ニ智伯一。漆ニ其頭一爲ニ飮器一。讓曰。士爲ニ知レ己者一死。女爲ニ説レ己

て泣を垂る。

(一)あはれみめぐむこと　(二)死刑に處すべき　(三)赤き筆

豫讓呑炭　鉏麑觸槐

史記にいふ、豫讓は晉の人なり。嘗て(一)范・中行氏に事へ、去つて智伯に事ふ。智伯、之を尊寵す。趙襄子、韓魏と謀を合せ、智伯を滅して、其地を三分す。襄子、智伯を怨み、(二)其頭に漆して飮器となす。讓曰く、「士は己を知る者の爲に死し、女は己を説ぶ者の爲に容る。我れ必ず智伯の爲に讐を報いん」と。乃ち名姓を變じ、(三)刑人となり、宮に入つて厠中を塗り、匕首を挾んで、以て襄子を刺さんと欲す。襄子厠に如いて(四)心動く。之を捜れば、すなはち豫讓なり。襄子義として之を釋す。又身に(五)漆して癘となり、炭を呑んで啞となり、形狀をして

爲レ吉。及レ長。長八尺二寸。要帶十圍。力能扛レ鼎。性敦朴不レ拘二小節一。又無二鄉曲之譽一。王莽末天下大亂。延常嬰二甲冑一。擁二衞親族一。扞二禦鈔盜一。賴レ其全者甚衆。建武初除二細陽令一。毎レ至二歲時伏臘一。輒休二遣徒繫一歸レ家。竝感二恩德一。應レ期而還。有二囚於レ家被レ病。自載詣レ獄。既至而死。率二掾官屬一殯二于門外一。百姓感悅。永平中爲二三公一。

し、(三)鈔盜を扞禦し、それに賴つて、全きもの甚だ衆し。建武の初、細陽の令に除す。歲時伏臘(四)に至る毎に、輒ち徒繫(五)を休遣して家に歸す。竝に恩德に感じ、期(六)に應じて歸る。囚、家に於て病を被るあれば、自ら載せて獄に詣る。すでに至つて死すれば、掾官屬を率ゐて、門外に殯す。百姓感悅す。永平中(七)、三公となる。

(一) 四丈程のねりぎぬ　(二) 要は腰、帶はまはり、圍は五寸にて、十圍は五尺なり。腰のまはり五尺ありとなり　(三) 盜賊をふせぐ　(四) 伏は夏の伏日、夏至後第三第四の庚の日を初伏、中伏といひ、立秋後初めての庚の日を終伏といふ、臘は冬至後第三の戊の日なり　(五) 獄につながれたる罪人　(六) 期日を違へずに歸り來、　(七) 明帝の代の年號

會稽典錄。盛吉字君達。拜二廷尉一。性多二仁惠一。務在二哀矜一。

會稽典錄にいふ、盛吉、字は君達、廷尉に拜す。性、仁惠多し。務(一)哀矜に在り。冬月罪囚まさに(二)斷ずべき毎に、その妻、燭を執り、吉、(三)丹筆を持し、相向つ

嘗施。惟恐ㇾ見ㇾ之。振二人不ㇾ贍。先從二貧賤一始。家亡二餘財一。衣不ㇾ兼ㇾ采。食不ㇾ重ㇾ味。乘不ㇾ過二軥牛一。專趨二人之急一。甚二於己私一。既陰脫二季布之厄一。及二布尊貴一。終身不ㇾ見。自ㇾ關以東。莫ㇾ不二延ㇾ頸願ㇾ交。

趨くこと、己の私より甚し。(八) 既に陰に季布の厄を脫せしめ、布が尊貴なるに及びて、終身見えず。關(九)より以東、頸を延べ、交を願はざるなし。

㊀任俠、をとこぎ　㊁かくまひたすく　㊂尋常平凡の人、ただの人　㊃其德をつゝみて表はさず　㊄豐かならざる者　㊅采色なり、美服なり　㊆小牛　㊇自分の私事　㊈函谷關

後漢虞延字子大。陳留東昏人。延初生。其上有ㇾ物。若二一匹練一。遂上二昇天一。占者以

虞延刻期　盛吉垂泣

後漢の虞延、字は子大、陳留東昏の人なり。延、初めて生まるゝとき、その上に物あり。(一)一匹の練の如く、遂に天に上昇す。占者以て吉となす。長ずるに及び、長八尺二寸、要帶十圍、(二)力、能く鼎を扛ぐ。性敦朴にして、小節に拘らず。又鄉曲の譽なし。王莽の末、天下大に亂る。延、常に甲冑を擐ひ、親族を擁衛

勝數。適有二天幸一。窘急常得レ脱。長更折レ節爲レ儉。以レ德報レ怨。厚施而薄望。後坐二客殺一レ人。解實不レ知。御史大夫公孫弘議曰。解布衣爲二任俠一。行レ權。以二睚眦一殺レ人。當二大逆無道一。遂族レ解。

を爲し、權(一一)を行ひ、睚眦(一二)を以て人を殺す。大逆無道に當る」と、遂に解を族(一三)す。

(一)おちつきて勇氣あり　(二)心中に賊害の意を抱き、物に憤慨し易く、心に不快と感ずる時は多く人を殺すとなり　(三)身を以て交友の讎をすくふ　(四)命は亡命也、或は藏に通ず。亡命の客をかくまふをいふ　(五)劫はおびやかす、攻は人の牆を穿ちて盗む　(六)塚を堀りて棺中の物を盗む。校本版本「家」に作るは誤として改む　(七)自然の幸運　(八)差迫つて非常に困る場合にも　(九)今迄の主義方針を改め　(一〇)男だて　(一一)權詐の行をなし。權勢を振ふとも解すべきか　(一二)人が目を怒らして見たりとて　(一三)本人はもとより一族をも刑に處す

前漢朱家。魯人。魯人皆以レ儒敎。而朱家用レ俠聞。所二藏活一豪士以レ百數。其餘庸人。不レ可二勝言一。然終不レ伐二其能一。歆二其德一。諸所二

前漢の朱家は魯人なり。魯人、皆儒を以て敎ふ。而して、朱家は、俠(一)を以て聞ゆ。藏活(二)するところの豪士、百を以て數ふ。その餘、庸人(三)は勝げて言ふべからず。然れども、終に其能に伐らず。其德を飲み(四)、諸の嘗て施すところは、惟だ之を見はさんことを恐る。人の贍(五)はざるを振はすに、先づ貧賤より始む。家に餘財亡く、衣(六)は采を兼ねず。食は味を重ねず。乘(七)は軥牛に過ぎず。專ら人の急に

詩一以諷焉。其略曰。前者隨レ官去。有レ人適ニ我閭一。田家無レ所レ有。酌レ醴焚ニ枯魚一。問レ我何功德。三入ニ承明廬一。其言雖ニ頗諧合一。多切ニ世要一。世共傳レ之。

㊀詩の名は百慮に一失ありの義に取る　㊁官を罷め去りて田舍に隱遁す　㊂客ありて我里門を訪ふ　㊃田家なれば何のもてなすべきものも無し　㊄ひとよ酒を酌みひものを炙りて進む　㊅翰林院の中にありて、天子より政事の制を承くる所　㊆卑近にて世俗にかなふ　㊇世の要事に緊切也

郭解借交　朱家脫急

前漢郭解字翁伯。河內軹人。靜悍不レ飮レ酒。少時陰賊感槩。不レ快レ意所レ殺甚衆。以レ軀借レ交報レ仇。臧レ命作レ姦。剽攻不レ休。及鑄レ錢掘レ冢。不レ可ニ

前漢の郭解、字は翁伯、河內軹の人なり。(一)靜悍にして酒を飲まず。少き時、(二)陰賊感槩、意に快からずして殺すところ甚だ多し。(三)軀を以て、交に借し、仇を報じ、(四)命を臧し、姦を作し、(五)剽攻休まず、及び錢を鑄、(六)冢を掘ること勝げて數ふべからず。適ま(七)天幸あり、(八)窘急して、常に脫るゝことを得。長じて、更めて(九)節を折き、儉を爲し、德を以て怨に報い、厚く施し薄く望む。後、客の人を殺すに坐せらる。解、實は知らず。御史大夫公孫弘、議して曰く、「解布衣にして(一〇)任俠

前漢司馬安。汲黯姊子。少與黯爲太子洗馬。安文深。巧善宦。四至九卿。終河南太守。昆弟以安故。同時至二千石十人。

前漢の司馬安は、汲黯の姉の子なり。少にして、黯と太子の洗馬(一)たり。安、文深(二)にて、宦に巧善(三)なり。四たび、九卿に至り、河南の太守に終る。昆弟(四)、安の故(五)を以て、同時に二千石(六)に至るもの十人。

(一)謁者に類し、太子出づる時は前驅して威儀を爲す役 (二)文は刑法なり、深はきびし、刑法を執り行ふことのきびしきをいふ (三)巧に宮中の宦官に取り入る (四)兄弟 (五)安の立身したる御蔭にて、其の緣故を以て (六)郡の太守

文章敍錄。應璩字休通。汝南人。博學好屬文。魏明帝世。歷散騎常侍。齊王卽位。遷侍中大將軍長史。曹爽秉政。多違法度。璩爲百一

文章敍錄に、應璩、字は休通、汝南の人なり。博學にして、好んで文を屬す。魏の明帝の世、散騎常侍を歷たり。齊王卽位し、侍中大將軍長史に遷る。曹爽、政を秉つて、法度に違ふこと多し。璩、百一(一)の詩を爲りて、以て諷す。其略に曰く、『前者官(二)を墮ち去る、人あり我が閭(三)に適く、田家ある所なし(四)、醴を酌み枯魚(五)を炙く、我に問ふ何の功德ありて、三たび承明廬(六)に入りしか』と。其言頗る諧合(七)なりと雖も、多く世要(八)に切なり。世共に之を傳ふ。

生。沛公略レ地至二高陽一。召二食其一。入見。沛公方踞レ牀。使二兩女子洗一。食其長揖不レ拜。曰。足下必欲下擧二義兵一誅中無道秦上。不レ宜三踞見二長者一。於レ是沛公輟レ洗。起衣。延二上座一謝レ之。既下二陳留一。號爲二廣野君一。韓信東擊レ齊。又使三食其說二齊王田廣一。罷二歷下兵一。憑レ軾下二齊七十餘城一。及二信兵至一。廣以爲二食其賣一レ己。迺烹レ之。

擧げて、無道の秦を誅せんと欲せば、宜しく、踞して長者を見るべからず」と。ここに於て、沛公、洗ふことを輟め、起つて衣、上座に延いて之を謝す。すでに陳留を下し、號して廣野君となす。韓信、東、齊を擊つや、(五)又食其をして齊王田廣に說かしめ、歷下の兵を罷め、(六)軾に憑つて齊の七十餘城を下す。信の兵至るに及び、廣、以て食其(七)己を賣るとなし、迺ち之を烹る。

㊀おちぶる　㊁一人として酈食其を使役する者なし　㊂牀に腰を掛けて足を洗はす　㊃立ちながら胸邊に兩手をこまぬく禮式、略禮なり　㊄食其に說かしめたるは沛公にて信に非ず、沛公、信をして齊を擊たしむ、然るに食其齊王に說いて之を下し、歷城の守備を解かしむ、信、其功の及ばざるを怒り、齊を襲ひて之を破る、齊王以て食其が己を欺くと爲して之を烹たる也　㊅兵を用ひず車にのりて遊說したるのみにて　㊆已を欺く

馬安四至　應璩三入

蜀志。伊籍字機伯。山陽人。先主以爲二左將軍從事中郞一。遣レ使レ吳。孫權聞二其才辯一。欲二逆折以一レ辭。籍適入拜。權曰。勞二事無道之君一乎。對曰。一拜一起。未レ足レ爲レ勞。機捷類如レ此。權甚異レ之。

蜀志に、伊籍、字は機伯、山陽の人なり。先主、以て左將軍從事中郞となす。吳に使せしむ。孫權、その才辯を聞き、(一)逆へ折くに辭を以てせんと欲す。籍、適ま入つて拜す。權曰く、「(二)無道の君に勞事するか。」對へて曰く、「(三)一拜一起、未だ勞とするに足らず」と。(四)機捷類ね此の如し。權、甚だ之を異とす。

(一) こちらより待設けて己の辯舌にて閉口させてやらんと欲す (二) 權は意中に蜀の先主を指して無道の君といへる也。勞事はいたはりつかふる意 (三) 籍は却て無道の君といふを權を指す事に轉化し、斯く無道の君の前にて一拜一起するは勞といふ程の事でもなしと答ふる也 (四) すばやきこと

前漢酈食其。陳留高陽人。好レ讀レ書。家貧落魄。無二衣食業一。爲二里監門一。縣中賢豪不二敢役一。謂二之狂

前漢の酈食其は、陳留高陽の人なり。好みて書を讀む。家貧にして(一)落魄し、衣食の業なく、里の監門となる。縣中の賢豪、(二)敢て役せず。これを狂生といふ。沛公、地を略して高陽に至る。食其を召して、入つて見えしむ。沛公、方に(三)牀に踞し、兩女子をして洗はしむ。食其、(四)長揖して拜せず。曰く、「足下必ず義兵を

嘗使レ決ニ尙書事一。不レ能レ對。賈妃遣下左右代對上。遂安。及レ居ニ大位一。政出ニ羣下一。綱紀大壞。貨賂公行。勢位之家。以レ貴陵レ物。忠賢路絕。讒邪得レ志。更相薦擧。天下謂ニ之互市一。嘗在ニ華林園一。聞ニ蝦蟆聲一。謂ニ左右一曰。此鳴者爲レ官乎爲レ私乎。或對曰。在ニ官地一爲レ官。在ニ私地一爲レ私。及ニ天下荒亂。百姓饑死一。帝曰。何不レ食ニ肉糜一。其蒙蔽皆此類。

しむ。遂(一)に安し。大位に居るに及び、政、羣下より出で、綱紀(二)大に壞れ、貨賂(三)公行す。勢位の家、貴を以て物(四)を陵ぎ、忠賢路絕えて讒邪(五)志を得、更に相薦擧す。天下、之を互市(六)といふ。嘗て華林園に在りて、蝦蟆の聲を聞き、左右に謂つて曰く、「この鳴く者は、官の爲にするか、私の爲にするか」。或ひと對へて曰く、「官地に在つては官の爲にし、私地に在つては私の爲にす」と。天下荒亂、百姓餓死するに及び、帝曰く、「何(七)ぞ肉糜を食はざる」と。その蒙蔽(八)、皆この類なり。

(一) 武帝はそれを見て大いに悅びし爲め太子遂に安泰なるを得たり (二) 大小の法度大いに亂る (三) 賄賂、まひなひ (四) 物は人也、貴を挾みて人をしのぐ (五) 奸臣、よこしまなる臣 (六) 貿易也、賂賄を以て祿位を得、更に相薦擧するを以て斯くいふ (七) 米が無くば何故肉を煮て粥として食はざるか (八) 闇愚。おろかにて物事に暗きをいふ

伊籍一拜　酈生長揖

將軍。衆雖ㇾ多無ㇾ所㆓統一㆒。遂共立㆓更始㆒爲㆓天子㆒。更始卽㆓帝位㆒。南面朝㆓羣臣㆒。素懦弱。羞愧流ㇾ汗。擧ㇾ手不ㇾ能ㇾ言。初入都㆓宛城㆒。時漢兵誅㆓王莽㆒。傳ㇾ首詣ㇾ宛。懸㆓於市㆒。遂北都㆓洛陽㆒。後遷㆓長安㆒。初莽敗。惟未央宮被ㇾ焚。餘宮館無ㇾ所ㇾ毀。官府市里。不ㇾ改㆓於舊㆒。更始既至。居㆓長樂宮㆒。升㆓前殿㆒。郎吏以ㇾ次列㆓庭中㆒。更始羞怍。俛ㇾ首刮ㇾ席。不㆓敢視㆒。後赤眉賊入ㇾ關。見ㇾ殺。

誅し、首を傳へて宛に詣り、市に懸け、遂に、北、洛陽に都し、後、長安に遷る。初め莽敗れて、惟だ未央宮焚かれ、餘の宮館は、毀つところなく、官府市里、舊を改めず。更始、既に至りて、長樂宮に居り、(三)前殿に升る。郎吏、次を以て庭中に列す。更始、(四)羞怍して、首を俛れ席を(五)刮で、敢て視ず。後、(六)赤眉の賊(七)關に入るとき殺さる。

(一) 年長のまたいとこ (二) はぢらふ (三) 百官有司の參覲する宮殿 (四) はぢらひて顏色變る (五) 摩する也 (六) 王莽の地皇三年に樊崇といへる賊徒の、王莽に討伐せられんとするを聞き、莽兵と味方との紛れんことを恐れ、其の衆兵の眉を朱にて赤く塗りたり、故に此稱あり (七) 函谷關を越えて長安に入りしをいふ

晉惠帝初爲㆓太子㆒。朝庭咸知ㇾ不ㇾ堪㆓政事㆒。武帝亦疑焉。

晉の惠帝、初め太子たりし時、朝廷、咸な政事に堪へざるを知る。武帝も亦た疑ふ。嘗て尙書の事を決せしむ。對ふる能はず。賈妃、左右をして、代り對へ

日。吾某月日當レ往。到レ期。子訓以二食時一發。日中到。未二半日一行千餘里。乃見二書生一問。誰欲レ見レ我。卿盡語レ之。吾日中當レ往。到二日中一。子訓果往二二十三處一。諸貴人喜自謂。先詣レ之。明日相參問。各言二子訓衣服顏色如レ一。而所二論說一隨二主人所レ諮不レ同。遠近驚異。子訓去。乘二青騾一出二東門陌上一。徐徐行。諸貴人走レ馬逐不レ能レ及。行半日。而相去常一里許。乃止。

(一)科目の名　(二)仙術に達せるをいふ　(三)信實にして謙遜　(四)一夜の間。比は昔。大學に居りし時諸生と親し、今鄕に歸る諸生貴人の爲めに其來るを請ふ也　(六)第一に我を訪れくれたり　(七)驢馬、雄驢と雌馬の雜種

劉玄刮席　晉惠聞蟆

後漢劉玄字聖公。光武族兄。王莽末。平林陳牧等聚レ衆。號二平林兵一。聖公往從レ之。及レ破二莽軍一。號二聖公一。爲二更始

後漢の劉玄、字は聖公、光武の族兄(一)なり。王莽の末、平林の陳牧等、衆を聚め、平林の兵と號す。聖公往いて之に從ひ、莽の軍を破るに及び、聖公を號して、更始將軍となす。衆多しと雖も、統一するところなし。遂に共に更始を立てゝ天子となす。更始、帝位に即き、南面して羣臣を朝せしむ。素より懦弱、(二)羞愧して汗を流し、手を擧げて言ふこと能はず。初め入つて宛城に都す。時に漢兵、王莽を

餘年。顏色不レ老。嘗求抱ニ鄰舍嬰兒一。誤墮レ地死。兒家素尊ニ子訓一。即埋レ之。二十餘日。子訓自レ外來。抱レ兒還レ之。家恐ニ是鬼一。子訓既去。掘ニ視所レ埋。但泥而已。又諸老人髮白者。子訓與對坐。共語宿昔。皆還レ黑。京師貴人莫レ不三虛レ心欲レ見。爭請ニ子訓一。比レ居ニ大學一。諸生爲請ニ子訓一。子訓

外より來り、兒を抱いて之を還す。家、是れ鬼なるを恐る。子訓、すでに去る。埋むる所を掘り見れば、但だ泥のみ。又諸老人の髮白きもの、子訓とともに對坐し、共に語ること宿（四）昔にして、皆黑に還る。京師の貴人、心を虛しうして見ることを欲し、爭つて子訓を請はざるなし。（五）比て大學に居る。諸生爲に子訓を請ふ。子訓曰く、「吾、某月日、當に往くべし」と。期に到つて、子訓、食時を以て發し、日中にして到る。未だ半日ならずして、行くこと千餘里。乃ち書生を見て問ふ、「誰か我を見んと欲す。卿盡く之を語れ。吾、日中に往くべし」と。日中に到れば子訓、果して二十三處に往く。諸貴人、喜んで自ら謂へらく、『（六）先づ之に詣る』と。明日、相參問し、各、子訓の衣服顏色を言ふに、一の如し。しかれども論說するところ、主人の諸ふところに隨つて同じからず。遠近驚異す。子訓去る。（七）青騾に乘じ、東門の陌上に出で、徐徐として行く。諸貴人、馬を走らして逐へども及ぶ能はず。行くこと半日にして、相去ること常に一里許、乃ち止む。

長房之意二其神一也。謂曰。子明日可二更來一。長房且日復詣レ翁。翁與俱入二壺中一。唯見二玉堂嚴麗一。旨酒甘肴盈二衍其中一。共飲畢而出。翁約不レ聽二與レ人言一レ之。後乃就二樓上一。候二長房一曰。我神仙之人。以レ過見レ責。今當レ去。能相隨乎。樓下有二少酒一。與レ卿爲レ別。長房使二人取一レ之。不レ能レ勝。又令二十人扛一レ之。猶不レ擧。翁聞笑而下レ樓。以二一指一提上。視レ器如二一升許一。二人終日飲不レ盡。

ふや。樓下に少酒あり。卿と別を爲さん」と。長房、人をして之を取らしむ。勝ふる能はず。（七）又十人をして之を扛げしむ。猶ほ擧がらず。翁聞いて、笑つて樓を下り、一指を以て提げ上る。器を視るに一升許の如し。二日終日飲めども盡さず。

（一）みせさき、店頭 （二）酒と乾肉とを差上ぐ （三）其の神仙なるを疑ひ思ふ事を知る （四）滿ち溢れる （五）訪問して （六）過失により人間に謫せらる （七）持上る能はず

神仙傳。薊子訓齊人。擧二孝廉一。除二郎中一。又爲二都尉一。人莫レ知二其有道一。在二鄕里一常以二信讓一與レ人。三百

神仙傳にいふ、薊子訓は、齊人なり。孝廉に擧げられ、（一）郎中に除し、又都尉と爲る。人、その有道を知るなし。（二）鄕里に在つて、常に信讓を以て人に與す。（三）三百餘年、顏色老いず。かつて求めて鄰舍の嬰兒を抱き、誤つて、地に墮して死せしむ。兒の家、素より子訓を尊ぶ。卽ち之れを埋む。二十餘日にして、子訓、

六十來步。回看泣爲二白鶴一飛去。鍾遂於レ此葬レ母。冢上有レ氣屬レ天。鍾後生レ堅。堅生レ權。權生二亮及和休一。和生レ晧。爲レ晉所レ滅。降爲二歸命侯一。

(一)星の名 (二)あとを振かへる (三)墓の上、つかの上 (四)續く、つらなる

壺公謫天　薊訓歷家

後漢汝南費長房。爲二市掾一。市中有二老翁一。賣レ藥。懸二一壺於肆頭一。及二市罷一。輒跳入二壺中一。市人莫二之見一。唯長房於二樓上一覩レ之異焉。因往再拜奉二酒脯一。翁知二

後漢汝南の費長房、市掾となる。市中に老翁あり。藥を賣り、一壺を肆頭(一)に懸げ、市罷むに及び、輒ち跳つて壺中に入る。市人之を見るなし。唯だ長房樓上に於て之を覩て異む。因つて往いて再拜し酒脯(二)を奉ず。翁、長房の其神なるを意ふを知る。謂つて曰く、「子明日更に來るべし」と。長房、旦日復た翁に詣る。翁與に倶に壺中に入る。唯だ玉堂嚴麗を見る。旨酒甘肴、その中に盈衍(四)す。共に飲み畢つて出づ。翁、約して人と之を言ふを聽さず。後、乃ち樓上に就いて長房を候(五)して曰く、「我は神仙の人、過(六)を以て責めらる。今當に去るべし。能く相隨

孰視俛出二跨下一。一市皆笑以爲レ怯。及二信爲二楚王一。召二漂母一賜二千金一。及下郷亭長錢百曰。公小人。爲レ德不レ竟。召二辱レ己少年一。以爲二中尉一。告二諸將相一曰。此壯士也。方二辱レ我時一。寧不レ能レ死。死レ之無レ名。故忍而就レ此。

に漂はして蠶繭、桑の葉などをあらふ、母はそれを爲す婦人なり ㊅ 秦末に國を失ふもの多し、之を公子王孫と稱して尊べる也 ㊆ 人中て辱しめ ㊇ 男らしく命が差出せるならば ㊈ 首をたる

幽冥錄。孫鍾少時家貧。種レ瓜。瓜熟。有二三人一來乞レ瓜。鍾引入二菴中一。設二瓜及飯一。飯訖謂レ鍾曰。蒙二君厚惠一。今示二子葬地一。欲レ得二世世封侯一。欲レ爲二數代天子一。又曰。我司命也。君下レ山百步勿二反顧一。鍾下

幽冥錄にいふ、孫鍾、少き時、家貧し。瓜を種ゑて、瓜熟す。三人あり。來つて瓜を乞ふ。鍾、引いて菴中に入れ、瓜及び飯を設く。飯し訖り、鍾に謂つて曰く、「君が厚惠を蒙る。今子に葬地を示さん。世世封侯を得んと欲するや、數代の天子たらんと欲するや。」又曰く、「我は司命なり。(一)君、山を下ること百步、(二)反顧することなかれ」と。鍾、山を下ること六十來步、回看すれば、竝に白鶴となつて飛び去る。鍾、遂に此に於て母を葬る。(三)冢上に氣あり。天に屬す。(四)鍾、後に堅を生み、堅、權を生み、權、亮及び和休を生み、和、皓を生み、晉に滅され、降つて歸命侯となる。

前漢韓信。家貧。嘗從下鄕南昌亭長食。亭長妻苦之。迺晨炊蓐食。食時信往。不爲具食。信自絕去。至城下釣。有一漂母。哀之。飯信數十日。信曰。吾必重報母。母曰。大丈夫不能自食。吾哀王孫而進食。豈望報乎。淮陰少年又侮信。衆辱信曰。能死刺我。不能出跨下。信

前漢の韓信、家貧し。嘗て下郷の南昌亭の長に従つて食す。(一)亭長の妻、之を苦ふ。(二)迺ち晨に炊ぎて蓐(三)食し、食時に信往くも爲に食を具へず。信、自ら絶(四)つて去り、城下に至つて釣る。一漂母あり。(五)之を哀み、信に飯すること數十日。信曰く、「吾、必ず重く母に報いん。」母曰く、「大丈夫、自ら食する能はず。吾、王孫を哀んで食を進む。豈に報を望まんや」と。淮陰の少年、又信を侮り、信を(六)衆辱して曰く、「(八)能く死せば、我を刺せ。能はずんば、跨下より出でよ」と。信、孰(七)視して、俛(九)して跨下より出づ。一市皆笑うて以て怯となす。信、楚王たるに及び漂母を召し、千金を賜ひ、及び下郷の亭長には錢百、曰く、「公は小人、德を爲して竟へず」と。己を辱しめし少年を召し、以て中尉となし、諸將相に告げて曰く、「これ壯子なり。我を辱めし時に方つて、寧んぞ死する能はざらんや。これに死するも名なし。故に忍んで此を就せり」と。

(一) 寄食、居候　(二) 厭ふなり　(三) 起きぬ内に床の中にて食するなり　(四) 見限りて　(五) 漂は絮（わた）を水

何罪一哉。臣嘗夢見ニ一白頭翁一。教レ臣言。上大感寤。召ニ千秋一至レ前。千秋長八尺餘。體貌甚麗。帝見面説レ之。謂曰。父子之閒。人所レ難レ言。公獨明ニ其不然一。此高廟神靈。使ニ公教一レ我。公當レ爲ニ吾輔佐一。立拜ニ大鴻臚一。數月爲ニ丞相一。封ニ富民侯一。千秋無ニ他材能術學一。又無ニ伐閲功勞一。特以ニ一言一寤レ意。旬月取ニ宰相封侯一。世未ニ嘗有一。初千秋年老。上優レ之。朝見得下乘ニ小車一入ニ宮殿中上。故因號曰ニ車丞相一。

るべし」と。立どころに大鴻臚に拜し、數月にして丞相となり、富民侯に封ぜらる。千秋、他の材能術學なく、又伐閲功勞なし。(八)特だ一言を以て意を寤し、旬月に宰相封侯を取る、世、未だ嘗てあらず。初め千秋年老い、上之を優し、朝見に小車に乘り、宮殿中に入ることを得しむ。故に因つて號して車丞相と曰ふ。

(一) 高廟衞寢の郎といふ、蓋し正殿守衞の官也　(二) 誣告せられて。敗は太子が父の武帝に殺されしをいふ　(三) 非常の變を申上げて　(四) 太子江充に譖せられ、之を怨み天子の制なりと稱して武庫の兵器を出し、長樂宮の衞卒を發す。故に、子、父の兵を弄ぶといふ　(五) 笞罪、むちうつ刑罰　(六) 寤は悟に同じ、さとるなり　(七) 不然は不善なり　(八) 伐はいさを、閲は閲歴

漂母進食　孫鍾設瓜

逢。楓引レ車避レ道。進止皆有ニ表識一。軍中號爲ニ整齊一。每レ所ニ止舍一。諸將竝坐論レ功。異常獨屛ニ樹下一。軍中號曰ニ大樹將軍一。及レ破ニ邯鄲一。乃更部ニ分諸將一。各有ニ配隷一。軍士皆言。願屬ニ大樹將軍一。光武以レ此多レ之。後封ニ陽夏侯一。拜ニ征西大將軍一。賜ニ珍寶衣服錢帛一。詔曰。倉卒無蔞亭豆粥。滹沱河麥飯。厚意久不レ報。異稽首謝。

(五) 冤は兎に通ず。兎の肩の肉 (六) 功にほこらず (七) 漢軍とすべきもの (八) 行軍中止り宿る所に於て (九) 兵士を分配して各々部將に屬せしむること (一〇) 重なり、光武異を重んずるなり (一一) 急遽飢寒の時に與へられし (一二) 首を垂らして地に至らしむ、禮の一種

前漢車千秋。本姓田氏。爲ニ高寢郎一。會衞太子。爲ニ江充一所レ譖敗。久之武帝頗知ニ太子冤一。千秋上ニ急變一。訟曰。子弄ニ父兵一。罪當レ笞。天子之子過誤殺レ人。當ニ

前漢の車千秋、本姓は田氏、(一)高寢郎となる。會々、衞太子、江充に譖せられて(二)敗る。久しうして、武帝、頗る太子の冤を知る。千秋、(三)急變を上り、訟へて曰く、「子、(四)父の兵を弄ぶは、(五)罪笞に當る。天子の子、過誤人を殺すは、何の罪に當るや。臣、嘗て夢に一白頭翁を見る。臣に教へて言さしむ」と。上、大に(六)感寤し、千秋を召して、前に至らしむ。千秋、長八尺餘、體貌甚だ麗し。帝見て之を説び、謂つて曰く、「父子の閒は、人の言ひ難きところ、公、獨りその(七)不然を明かにす。これ高廟の神靈、公をして、我に教へしむ。公、當に吾が輔佐た

爲二司隷一。道經二父城一。即開レ門迎。光武署爲二主簿一。及二王郎起一。光武自レ薊東南馳。至二饒陽無蔞亭一。天寒衆飢疲。異上二豆粥一。明旦光武曰。昨得二公孫豆粥一。飢寒俱解。及レ至二南宮一。遇二大風雨一。光武入二道傍舍一。燎レ衣。異進二麥飯菟肩一。因渡二虖沱河一。還拜二偏將軍一。爲レ人謙退不レ伐。行與二諸相

飢疲す。異、豆粥を上る。明旦、光武曰く、「昨、公孫の豆粥を得て、飢寒倶に解く」と。南宮に至るに及び、大風雨に遇ひ、光武、道傍の舍に入つて衣を燎る。異、麥飯菟肩(五)を進む。因つて滹沱河を渡り、還つて偏將軍に拜せらる。人となり謙退、(六)伐らず。行きて諸將と相逢へば、輒ち車を引いて道を避く。進止、皆表(七)識あり。軍中號して整齊と爲す。(八)止舍するところ每に、諸將竝び坐して功を論ずるに、異常に獨り樹下に屏く。軍中號して大樹將軍と曰ふ。邯鄲を破るに及び、乃ち更に諸將を部分し、各(九)配隷あり。軍士皆言ふ、『願はくば大樹將軍に屬せん』と。光武これを以て之を多とす。(一〇)後、陽夏侯に封ぜられ、征西大將軍に拜す。珍寶衣服錢帛を賜ふ。詔して曰く、「倉卒たる(一一)無蔞亭の豆粥、滹沱河の麥飯、厚意久しく報ぜず」と。異、稽首して謝す。(一二)

(一) 太守の下役　(二) 王莽の末年に光武兄の劉縯と共に兵を起す、諸將劉玄を立てて帝と爲ししかば光武之に屬して司隷校尉となり、親ら征討の途次父城を通過せる也　(三) 縣名、薊・饒陽・南宮共に然り　(四) 官に除するをいふ

崔氏甚得二筆勢一。而結レ字小疎。伯英因而轉精甚巧。凡家之衣帛。必書而後練レ之。臨レ池學レ書。池水盡黑。下レ筆必爲二楷則一。號二匆匆不レ暇草書一寸紙不レ見レ遺。世尤寶二其書一。韋仲將謂二之草聖一。

世、尤も其書を寶とす。韋仲將、これを草聖といふ。

(一)字の肉をそぐをいふ、一説には字畫を減殺して甚だ平穏とす (二)構ふ也、成す也、字體のくばり (三)硯の水にては間に合はず池水に臨みその水を直に硯として用ひたりとにや。要するに習字に精勵せる形容也。これを出典として習字を臨池の技といふ (四)法則、法式 (五)急遽忽卒の際に書きたる草書及び寸紙の書

後漢馮異字公孫。潁川父城人。好レ讀レ書。通二左氏春秋孫子兵法一。漢兵起。以二郡掾一守二父城一。光武

馮異大樹　千秋小車

後漢の馮異、字は公孫、潁川父城の人なり。好んで書を讀む。左氏春秋、孫子の兵法に通ず。漢の兵起りしとき、(一)郡掾を以て、父城を守る。(二)光武、司隷となり、道、(三)父城を經るや、即ち門を開いて迎ふ。光武、(四)署して、主簿となす。王郎起るに及び、光武、薊より東南に馳せ、饒陽の無蔞亭に至る。天寒うして衆

傳遂自孤行。釋例本爲レ傳設。而所二發明一。何但左傳。故亦孤行。時王濟解レ相レ馬。又甚愛レ之而和嶠頗聚斂。預嘗稱。濟有二馬癖一。嶠有二財癖一。武帝聞レ之。謂曰。卿有二何癖一。對曰。臣有二左傳癖一。終二司隷校尉一。位特進。贈二征南大將軍一。初預好爲二後世名一。常言。高岸爲レ谷。深谷爲レ陵。刻レ石爲二二碑一。紀二其勳績一。一沈二萬山之下一。一立二峴山之上一。曰。焉知二此後不レ爲二陵谷一乎。

上に立つ。曰く、「焉んぞ此後陵谷たらざるを知らんや」と。

(一)系圖、系譜　(二)かざりけなく率直なり　(三)春秋を離れ獨立して世に行はる　(四)財をあつめ收む　(五)名の後世に稱せられん事を好む

後漢張芝字伯英。敦煌酒泉人。善二草書一。衛恆曰。章帝時。齊相杜度號二善作一レ篇。後有二崔瑗崔寔一。亦皆稱レ工。杜氏殺レ字甚安。而書體微瘦。

後漢の張芝、字は伯英、敦煌酒泉の人なり。草書を善くす。衛恒曰く、章帝の時、齊の相杜度は、善く篇を作ると號す。後に崔瑗・崔寔あり。亦た皆工なりと稱す。杜氏、(一)字を殺すこと、甚だ安くして、書體微しく瘦す。崔氏は甚だ筆勢を得たれども、(二)字を結ぶこと小く疎なり。伯英因つて轉精しく甚だ巧なり。凡そ家の衣帛必ず書して後に之を練る。(三)池に臨んで書を學び、池水盡く黑し。筆を下せば必ず楷則(四)を爲し、(五)怱怱暇あらざるの草書寸紙も遺てられずと號す。

晉書。杜預字元凱。既立レ功之後。從容無事。乃耽ニ思經籍一。爲ニ春秋左氏經傳集解一。又參ニ考衆家譜第一。謂ニ之釋例一。又作ニ盟會圖。春秋長歷一。備ニ成一家之學一。比レ老乃成。又撰ニ女記讃一。當時論者謂。預文義質直。世人未ニ之重一。唯祕書監摯虞賞レ之曰。左丘明本爲ニ春秋一作レ傳。而左

晉書にいふ、杜預、字は元凱。既に功を立つるの後、從容無事なり。乃ち思を經籍に耽らし、春秋左氏經傳集解を爲り、又衆家の譜第(一)を參考して、之を釋例といひ、又盟會圖春秋長歷を作り、一家の學を備へ成す。老する比、乃ち成る。又女記讃を撰す。當時の論者謂ふ、預、文義質直なりと。世人未だ之を重んぜず。唯だ祕書監摯虞、之を賞して曰く、「左丘明(二)、本と春秋の爲に傳を作る。しかも左傳遂に自ら孤行す(三)。釋例、本と傳の爲に設く。しかも發明するところ、何ぞ但に左傳のみならんや。故に亦孤行せん」と。時に王濟は馬を相するを解し、又甚だ之を愛す。而して、和嶠は頗る聚斂す(四)。預嘗て稱す、「濟に馬癖あり。嶠に財癖あり」と。武帝、之を聞いて、謂つて曰く、「卿、何の癖かある。」對へて曰く、「臣は左傳癖あり」と。司隷校尉に終る。位特進し、征南大將軍を贈らる。初め預、好んで後世の名を爲す(五)。常に言ふ、「高岸は谷となり、深谷は陵となる」と。石に刻して二碑となし、その勳績を紀し、一は萬山の下に沈め、一は峴山の

駟連騎。食方丈於前。可乎。妻曰。夫子織履以爲食。非與物無治也。左琴右書。樂亦在其中矣。夫結駟連騎。所安不過容膝。食方丈於前。所甘不過一肉。今以容膝之安。一肉之味。而懷楚國之憂。其可乎。亂世多害。妾恐先生之不保命也。於是子終出謝使者。遂相與逃。而爲人灌園。高士傳曰。陳仲子字子終。齊人。辭母兄。將妻適楚。居於陵。自號仲子。

を結び騎を連ぬるも、安んずるところは、膝を容るゝに過ぎず。食、前に方丈なるも、甘しとするところは一肉に過ぎず。今膝を容るゝの安と一肉の味とを以てし、而して楚國の憂を懷かば、其れ可ならんや。亂世害多し。妾恐る、先生の命を保たざらんことを」と。こゝに於て、子終出でゝ使者に謝し、遂に相與に(五)逃れて、人の爲に園に灌ぐ。高士傳に曰く、『陳仲子、字は子終、齊の人なり。母兄を辭し、妻を將ゐて楚に適き、於陵に居り、自ら於陵の仲子と號す。』

(一)四馬　(二)一丈四方、食前方丈は非常に贅澤なる食膳の形容　(三)夫の敬稱　(四)物を治めて業とする所即ち生業有りとの意　(五)其妻と共々に

元凱傳癖　伯英草聖

已甚一乎。文侯曰。干木不ㇾ趨二勢利一。懷二君子之道一。隱二處窮巷一。聲施二千里一。寡人敢勿ㇾ軾乎。干木光二乎德一。寡人光二乎勢一。干木富二乎義一。寡人富二乎財一。勢不ㇾ若二德尊一。財不ㇾ若二義高一。干木雖三以ㇾ己易二寡人一弗ㇾ爲。

干木は義に富み、寡人は財に富む。勢は德の尊きに若かず。財は義の高きに若かず。干木は己を以て寡人に易ふと雖も爲さじ。(六)」

(一) 村里、古制にては民家二十五軒ある村をいへども、此は單に小村の義也　(二) 車の横木に手をかけて禮す　(三) 官に仕へざる平民　(四) むさくるしき巷　(五) 名聲遠く行き渡れり　(六) 自己の賢を以て朕の尊貴と易へしめんとするも肯へて爲さじ

古列女傳。楚王聞二於陵子終賢一。欲三以爲ㇾ相。使下使者持二金百鎰一。往聘上ㇾ之。子終入謂ㇾ妻曰。王欲下以ㇾ我爲上ㇾ相。今日爲ㇾ相。明日結ㇾ

古列女傳にいふ、楚王、於陵の子終が賢を聞き、以て相となさんと欲し、使者をして金百鎰を持し、往いて之を聘せしむ。子終、入つて妻に謂つて曰く、「王、我を以て相と爲さんと欲す。今日相とならば、明日(一)駟を結び、騎を連ね、食、前に(二)方丈ならん。可ならんか。」妻曰く、「(三)夫子、履を織り、以て食をなす。(四)物に與て治むることなきにあらず。琴を左にし、書を右にし、樂亦其中に在り。夫れ駟

皓時爲丞相。世說曰。皓問凱。卿一宗在朝有幾人。答曰。二相五侯。將軍十餘人。皓曰。盛哉。凱曰。君賢臣忠。國之盛也。父慈子孝。家之盛也。今政荒民弊。覆亡是懼。臣何敢言盛。

へて曰く、「二相五侯、將軍十餘人。」皓曰く、「盛なる哉。」凱曰く、「君賢に臣忠なるは、國の盛なるなり。父慈に子孝なるは、家の盛なるなり。今政荒み民弊え、覆亡を是れ懼る。臣、何ぞ敢て盛なりと言はんや。」

㊀またいとこ　㊁一族

淮南子曰。段干木辭祿而處家。魏文侯過其閭而軾之。其僕曰。干木布衣之士。君軾其閭。不

干木富義　於陵辭聘

淮南子に曰く、段干木、祿を辭して家に處る。魏の文侯、その閭を過ぎて之を(一)軾す。その僕曰く、「干木は(二)布衣の士なり。君その閭に軾すは、已に甚しからずや。」文侯曰く、「干木は勢利に趨らず。君子の道を懷き、(四)窮巷に隱處し、(五)聲、千里に施く。寡人、敢て軾することなからんや。干木は徳に光り、寡人は勢に光る。

孫權。以レ功拜二折衝將軍一。吳書曰。寧輕俠殺レ人。藏二舍亡命一。聞二於郡中一。其出入。步則陳二車騎一。水則連二輕舟一。侍從被二文繡一。幃帳以二珠玉一爲レ飾。常以二繒錦一維レ舟。去或割棄。以示レ奢也。江表傳曰。曹公出二濡須一。臨レ江飲レ馬。權率レ衆應レ之。使三寧爲二前部督一。敕使三夜入二魏軍一。寧選二健兒百餘人一。徑詣二曹公營下一。踰レ壘入レ營。斬二數十級一。北軍驚駭。權曰。孟德有二張遼一。孤有二興覇一。足二相敵一也。

は珠玉を以て飾となし、常に繒錦[五]を以て舟を維ぎ、去るときは或は割き棄て、以て奢を示せり』と。江表傳に曰く、曹公、濡須[六]に出で、江に臨んで馬に飲ふ。權、衆を率ゐて之に應じ、寧をして前部[七]の督たらしめ、敕して夜魏軍に入らしむ。寧、健兒百餘人を選び、徑に曹公の營下に詣り、壘を踰えて營に入り、數十級[八]を斬る。北軍驚駭す。權曰く、「孟德に張遼あり、孤に興覇あり。相敵するに足れり」と。

㊀ 男伊達 ㊁ 親方 ㊂ 名籍を脫して逃げたるものをかくまひ ㊃ ぬひとりある衣。幃は帷におなじ、幕 ㊄ 繒はきぬ、錦はにしき ㊅ 水の名 ㊆ 「部」の字、本傳には「都」に作るといふ。こゝにては先陣の總大將 ㊇ 首を斬りて數ふる稱、戰場にて首を獲るに從ひ位級を上げらるゝより此の稱あり

吳志。陸凱字敬風。吳人。丞相遜族子。孫

吳志にいふ、陸凱、字は敬風、吳人なり。丞相遜の族子[二]にして、孫皓の時、丞相となる。世說に曰く、皓、凱に問ふ、「卿の一宗[一]、朝に在つて幾人かある」答

封事一曰。治道要務。在レ知二下之邪正一。於レ是有二辰時客主邪正之語一。其略曰。參二之六合五行一。則可下以見二人性一。知中人情上。觀レ性以レ歷。觀レ情以レ律。明主所レ宜二獨用一。官至二諫大夫一。

五行に參ふれば、以て人性を見、人情を知るべし。(四)性を觀るに歷を以てし、情を觀るに律を以てす。明主の宜しく獨り用ふべき所なりと。官、諫大夫に至る。

(一)律は十二方位をいふ、歷は甲子己丑の日及び一日中の十二時をいふ、日時を以て方位を參へ、陰陽二氣の變化を考へて占ふこと　(二)翼奉が陰陽に用ひたる用語、辰とは十二支を日に配したる語、時とは十二支を漏刻に配したる稱、而して辰を客とし時を主とす、邪正は吉凶なり　(三)上下四方、五行は木火土金水　(四)性情を觀るに律歷を以てす

甘寧奢侈　陸凱貴盛

吳志。甘寧字興霸。巴郡臨江人。少有二氣力一。好二游俠一。招二合輕薄少年一。爲二之渠帥一。仕二

吳志にいふ。甘寧、字は興霸、巴郡臨江の人なり。少にして、氣力あり。游俠(一)を好み、輕薄の少年を招合し、これが渠帥となる。(二)孫權に仕へ、功を以て折衝將軍に拜す。吳書に曰く、『寧、輕俠にして人を殺し、(三)亡命を藏舍し、郡中に聞ゆ。その出入、歩には則ち車騎を陳ね、水には則ち輕舟を連ね。侍從は(四)文繡を被、幃帳

十卦ニ更直レ日用レ事。以ニ風雨寒溫一為レ候各有ニ占驗一。房用レ之尤精。好ニ鐘律一。知ニ音聲一。孝元時。以ニ孝廉一為レ郎。與ニ石顯五鹿充宗一有レ隙。出為ニ魏郡太守一。房自知下數以ニ論議一為ニ大臣一所上レ非。不レ欲三遠ニ離左右一。及レ為ニ太守一憂懼。乃上ニ封事一言ニ災異一。既而顯告。房非ニ誹謗政治一。歸ニ惡天子一。詿ニ誤諸侯王一。遂棄市。房本姓李。推レ律自定為ニ京氏一。

論議を以て大臣に非とせらるゝを知り、遠く左右を離るゝを欲せず。太守となるに及んで憂懼し、乃ち封事を上つて、災異を言ふ。既にして、(七)顯告ぐ、「房、政治を非謗(八)し、惡を天子に歸し、諸侯王を詿誤(九)す」と。遂に棄市せらる。房、本姓は李、律を推し、自ら定めて京氏となす。

(一) 周易を研究する也　(二) わが易道を會得したる爲め却て其身を亡す者は　(三) 一卦に六爻ありて之を六日に直つれば六十卦は一年三百六十日に當る也　(四) 候司の候にて占ひ伺ふこと　(五) 音律　(六) 徵士の科目の名　(七) 石顯　(八) そしる　(九) 詿は誤也、あざむき誤らす

前漢翼奉字少君。東海下邳人。明ニ經術一。好ニ律歷陰陽之占一。元帝即位。徵レ之。奉上ニ

前漢の翼奉、字は少君、東海下邳の人、經術に明かに、(一)律歷陰陽の占を好む。元帝即位し、これを徵す。奉、封事を上つて曰く、「治道の要務は、下の邪正を知るに在り」と。こゝに於て、(二)辰時客主邪正の語あり。その略に曰く、これを(三)六合

限斷。皆岳之辭也。初岳爲二琅邪內史一。孫秀爲二小史一給レ岳。而狡黠自喜。岳惡二其爲一レ人。數撻二辱之一。秀常銜レ忿。及二趙王倫輔一レ政。秀爲二中書令一。遂誣二岳及石崇謀一レ爲レ亂。同被レ誅。謐韓壽子。賈充婦郭槐養爲レ子。時賈后淫虐。謐干二預國事一。權侔二人主一。

なす。時に賈后淫虐(九)にして、謐、國事に干預し、權、人主に侔し。

(一)かるはずみ　(二)へつらひつかへる　(三)車の後に立つ塵を望拜す。これ即ち諂事の一斑也　(四)構は無きことを有りといひ設くる也、かまへ誣ふる也　(五)西晉の年號は泰始元年を以て紀元とすと論斷せる說　(六)給事す　(七)わるがしこし　(八)むちうち辱かしむ　(九)みだらにして人をしへたぐ

前漢京房字君明。東郡頓丘人。治レ易。事二梁人焦延壽一。壽曰。得二我道一以亡レ身者京生也。其說。長二於災變一。分二六

京房推律　翼奉觀性

前漢の京房、字は君明、東郡頓丘の人、易を治めて梁人焦延壽に事ふ。壽曰く、「我が道を得て以て身を亡すものは京生(二)ならん」と。其の說、災變に長ず。六十(三)卦(一)を分つて、更〻日に直てゝ事を用ひ、風雨寒溫を以て候(四)となし、各〻占驗あり。房、これを用ひて、尤も精し。鐘(五)律を好み、音聲を知る。孝元の時、孝廉(六)を以て郎となる。石顯・五鹿・充宗と隙あり。出でゝ、魏郡の太子となる。房、自ら數〻

相舍人門外。舍人怪之。因特令閽者而問之。勃曰。顧見相君無因。故爲子爲掃。於是舍人見勃曹參。因以爲舍人。

因なし。故に子の爲に掃を爲す」と。こゝに於て、舍人、勃を曹參に見えしめ、因つて、以て舍人となす。

(一) 名刺を通じて面會すること　(二) 門を守る者、門衞

晉潘岳爲黃門侍郎。性輕躁趨世利。與衞尉石崇等諂事賈謐。每候其出。與崇輒望塵而拜。謐與之親善。號二十四友。岳爲其首。謐構愍懷太子之文。及晉書

晉の潘岳、黃門侍郎たり。性輕躁(一)にして、世利に趨る。衞尉石崇等と賈謐に諂事(二)し、每にその出づるを候ひ、崇と輒ち塵(三)を望んで拜す。謐、これと親み善し。二十四友と號す。岳、その首たり。謐、愍懷太子を構ふる(四)の文、及び晉書の限斷(五)は、皆岳の辭なり。初め、岳、瑯邪の內史たり。孫秀、小史となつて岳に給す(六)。しかも狡黠(七)自ら喜ぶ。岳、その人と爲りを惡み、數〻之を撻辱(八)す。秀、常に忿を銜む。趙王倫の政を輔くるに及び、秀、中書令たり。遂に岳及び石崇亂を爲さんと謀るを誣ひ、同じく誅せらる。謐は韓壽の子、賈充の婦郭槐、養つて子と

閭大夫歟。何故至此。原曰。擧世混濁而我獨清。衆人皆醉。而我獨醒。是以見放。漁父曰。夫聖人不凝滯於物。而能與世推移。擧世混濁。何不隨其流而揚其波。衆人皆醉。何不餔其糟而啜其釃。何故懷瑾握瑜。而自令見放爲。原曰。吾聞之。新沐者必彈冠。新浴者必振衣。誰能以身之察察。受物之汶汶者乎。寧赴湘流而葬乎江魚腹中耳。又安能以皓皓之白。而蒙世之塵埃乎。乃作懷沙之賦。懷石自投汨羅以死。後百餘年。賈生爲長沙王太傅。過湘水。投書以弔之。

(一) 官名　(二) 志は誌なり、記憶力强きこと　(三) 習也、應對に熟達せること　(四) 忌む也　(五) 江南に左遷するをいふ　(六) 髮を結はずふり亂して　(七) ゆく／＼さまよひ歎き呼ぶ也　(八) やつれ衰へてやせこけたる貌　(九) 凝りとゞこほらずして　(一〇) 世に順應し世俗と共に浮沈する意　(一一) 食ふ也、釃は酒より醇味を採りたるあとの汁。その滓を食むに喩ふ　(一二) 瑾、瑜共に美玉　(一三) 清潔なる貌　(一四) はづかしめ　(一五) 江の名

魏勃掃門　潘岳望塵

前漢魏勃。少時。欲求見齊相曹參。家貧無以自通。乃常獨早掃齊

前漢の魏勃、少時、齊の相曹參に見えんことを欲し求む。家貧にして以て自ら通ずるなし。(一) 乃ち常に獨り早に齊の相の舍人の門外を掃ふ。舍人、これを怪む。因つて、特に閽者(二)をして之を問はしむ。勃曰く、「相君に見えんことを願へども、

寵而心害其能。因讒之。王怒而疏平。後秦昭王欲與懷王會。平曰。秦虎狼之國。不如無行。懷王稚子子蘭勸王行。王死於秦。長子頃襄王立。以子蘭爲令尹。子蘭使上官大夫短原於王。王怒而遷之。原至江濱。被髪行吟澤畔。顔色憔悴。形容枯槁。漁父問曰。子非三

ち、子蘭を以て令尹と爲す。子蘭、上官大夫をして原を王に短らしむ。王怒つて之を遷す。(五)原、江濱に至り、髪を被り、(六)澤畔に行吟す。(七)顔色憔悴、(八)形容枯槁す。漁父問うて曰く、「子は三閭大夫に非ずや。何が故に此に至る。」原曰く、「世を擧つて混濁にして我獨り淸めり。衆人皆醉うて我獨り醒めたり。是を以て放たる。」漁父曰く、「夫れ聖人は物に凝滯(九)せずして、能く世と推移す。世を擧つて混濁ならば、何ぞ其流(一〇)に隨つて其波を揚げざる。衆人皆醉はゞ、何ぞ其糟を餔うて(一一)其釃を啜らざる。何の故に、瑾(一二)を懷き瑜を握りて、自ら放たれしむることを爲す。」原曰く、「吾、之を聞く。新に沐する者は必ず冠を彈き、新に浴する者は必ず衣を振ふと。誰か能く身の察察(一三)を以て、物の汶汶(一四)を受くるものならんや。寧ろ湘流に赴いて、江魚の腹中に葬られんのみ。又安んぞ能く皓皓の白を以て、世の塵埃を蒙らんや」と。乃ち懷沙の賦を作り、石を懷き、自ら汨羅(一五)に投じて以て死す。後百餘年、賈生、長沙王の太傅となり、湘水を過ぎり、書を投じ、以て之を弔ふ。

不レ能レ傷。及二黨事起一。名士・多被レ害。惟林宗袁閎得レ免。閉レ門教授。弟子以レ千數。及レ卒四方之士千餘人會葬。同志者共刻レ石立レ碑。蔡邕爲二其文一。謂二盧植一曰。吾爲二碑銘一多矣。皆有レ慙レ德。唯郭有道無二愧色一耳。其獎二拔士人一。皆如レ所レ鑒。

てたゞしきも流俗に乖かざるをいふ　(六)倫は類也、人を比較するに其類を以てす、即ち比較評論すること　(七)危は高峻、覈はあきらか、言を高峻にし、事實を究めて覈しく論ず　(八)所謂黨錮の禍即ち後漢の靈帝の時宦官の專横を非議せし清節の士百餘人の獄に投ぜられしをいふ　(九)其德無くして褒詞過ぐと也　(一〇)郭泰の號　(一一)鏡に掛けて見るが如く、其鑒識違はず皆立身せり

史記。屈原名平。楚之同姓。爲二懷王左徒一。博聞强志。明二於治亂一。嫻二於辭令一。王甚任レ之。上官大夫與レ之同レ列。爭レ

屈原澤畔　漁父江濱

史記にいふ、屈原、名は平、楚の同姓、懷王の左徒たり。(一)博聞强志、(二)治亂に明かに、辭令に嫻へり。(三)王、甚だ之に任ず。上官大夫、之と列を同じうし、寵を爭うて、心に其能を害む。(四)因つて之を讒す。王、怒つて平を疎んず。後、秦の昭王、懷王と會せんと欲す。平曰く、「秦は虎狼の國なり。行くことなきに如かず」と。懷王の稚子子蘭、王に勸めて行かしむ。王、秦に死し、長子頃襄王立

好奬二訓士類一。容貌魁偉。褒衣博帶。周二遊郡國一。嘗於二陳梁閒一行遇レ雨。巾一角墊。時人乃故折二巾一角一。以爲二林宗巾一。其見レ慕如レ此。或問二范滂一曰。林宗何如人。滂曰。隱不レ違レ親。貞不レ絶レ俗。天子不レ得レ臣。諸侯不レ得レ友。不レ知二其他一。林宗雖レ善二人倫一。而不レ爲二危言覈論一。故宦官擅レ政而

雨に遇ふ。巾の一角墊す。時人、乃ち故に巾の一角を折つて、以て林宗巾となす。その慕はるゝこと、(三)此の如し。或ひと范滂に問うて曰く、「林宗は如何なる人ぞ。」滂曰く、「(四)隱するも親に違はず。(五)貞にして俗を絶たず。天子も臣とするを得ず。諸侯も友とするを得ず。その他を知らず」と。林宗、(六)人倫を善くすと雖も、しかも、(七)危言覈論を爲さず。故に宦官政を擅にすれども、傷ること能はず。(八)黨事起るに及び、名士多く害せらる。惟だ林宗・袁閎免るゝを得たり。門を閉ぢて教授す。弟子千を以て數ふ。卒するに及び、四方の士千餘人會葬す。同志の者、共に石に刻して碑を立つ。蔡邕、その文を爲る。盧植に謂つて曰く、「吾、碑銘を爲ること多し。皆、(九)德に慙づるあり。唯だ(一〇)郭有道は愧づる色なきのみ」と。その士人を奬拔する、皆(一一)鑒するところの如し。

㊀ 辟は召す也、辟擧に應ぜずとは、官途に就かざるをいふ ㊁ 大衣、博帶はひろき帶也 ㊂ 頭巾の一方の角（かど）がひしげたり、墊は窳に通ず傾也、 ㊃ 隱遁を好めども親戚にうとくせず ㊄ 貞は正也、心が定まり

永嘉太守。郡有二名山水一。素所二愛好一。肆レ意遊遨。族弟惠連十歲能屬レ文。靈運嘉二賞之一云。每レ有二篇章一。對二惠連一輒得二佳語一。嘗於二永嘉西堂一思レ詩。竟日不レ就。忽夢レ見二惠連一。即得三池塘生二春草一。大以爲レ工。常云。此語有二神助一。非二吾語一也。後爲二侍中一。免レ官。尋レ山陟レ嶺。必造二幽峻一。登躡常著二木屐一。起爲二臨川內史一。有二逆志一。徙二廣州一。棄市。靈運詩書皆兼獨絕。每二文竟一手自寫レ之。宋文帝稱爲二二寶一。

を尋ね、嶺に陟り、必ず幽峻(八)に造る。登躡(九)常に木屐(一〇)を著く。起つて臨川の內史となる。逆志あり。廣州に徙し棄市(一一)せらる。靈運、詩書(一二)皆兼ねて獨絕、文竟る每に、手自ら之を寫す。宋の文帝、稱して二寶となす。

(一) 柄をまげたるかさ (二) 曲蓋とは周の武王が殷の紂王を討ちし時、大風にて蓋を折られたるに、大公望記念として其形に似せて造れるかさなり、此處は靈運が曲柄笠を戴く所より、尙は功名の念を絕つ能はずとそしりしなり (三) 此句莊子漁夫篇に出づ、影を畏るゝものは愚者なり、影を畏れざらんとする者は賢者なりといへども、尙物事に執着すとの意にて、此句を以て答へし意味は、曲柄笠をいたゞくは武王の故事に少しも關係なし、何となれば之を覆ひて隱して功名心を忘れんとするは、尙は功名心の全く去らざる證なればなりとならん (四) 長江以東の地卽ち今の江蘇省邊の稱 (五) 遊ぶ。敖は遊也 (六) またいとこ (七) 池のつゝみ (八) 奧深くして險しき所 (九) のぼる (一〇) げた、下駄 (一一) 罪人の屍を市中にさらす (一二) 詩と書と也

後漢郭泰字林宗。辟擧不レ應。性明レ知レ人。

後漢の郭泰、字は林宗、辟擧(一)應ぜず。性、人を知るに明かなり。好んで、士類を獎訓す。容貌魁偉、褒衣博帶(二)、郡國に周游す。嘗て陳梁の間に於て、行いて

世說新語。謝靈運好戴二曲柄笠一。孔隱士謂曰。卿欲レ希二心高遠一。何不レ能レ遺二曲蓋之貌一。謝答曰。將レ不レ畏レ影者。未レ能レ忘レ懷。南史。謝靈運。晉車騎將軍玄之孫。學博覽二羣書一。文章之美。與二顏延之一。爲二江左第一一。襲二封康樂公一。世稱二謝康樂一。爲二

靈運曲笠　林宗折巾

世說新語にいふ、謝靈運、好んで曲柄笠を戴く。孔隱士、謂つて曰く、「卿、心を高遠に希はんと欲す。何ぞ曲蓋の貌を遺るゝ能はざるや。」謝答へて曰く、「將に影を畏れざらんとするものは、未だ懷に忘るゝ能はず」と。南史にいふ、謝靈運は、晉の車騎將軍玄の孫なり。學んで博く羣書を覽、文章の美、顏延之と江左第一たり。康樂公に襲封す。世に謝康樂と稱す。永嘉の太守となる。郡に名山水あり。素より愛好するところ、意を肆にして遊敖す。族弟惠連、十歲にして能く文を屬す。靈運、これを嘉賞して云ふ、「篇章ある每に、惠連に對すれば、輒ち佳語を得」と。嘗て永嘉の西堂に於て詩を思ひ、竟日就らず。忽ち夢に惠連を見、即ち池塘春草を生ずといふを得たり。大に以て工となし、常に云ふ、「この語神助あり、吾が語に非ざるなり」と。後、侍中となり、官を免じ、山

宦官。有識危心。綱常感激。慨然歎曰。穢惡滿朝。不能奮身出命掃國家之難。雖生吾不願也。漢安初遣八使。徇行風俗。皆耆儒知名。多歷顯位。唯綱年少。官次最微。餘人受命之部。而綱獨埋其車輪於洛陽都亭。曰。豺狼當路。安問狐狸。遂奏大將軍梁冀等無君心十五事。京師震竦。時冀妹爲皇后。諸梁姻族滿朝。帝雖知言直。不忍用。終廣陵太守。

んば、生くと雖も、吾は願はざるなり」と。漢安の初、八使を遣し、風俗を徇(四)行せしむ。皆耆儒知名にして、多く顯位を歴たるもの。唯だ、綱、年少、官次最も微なり。餘人(五)命を受けて、部(六)に之く。しかるに、綱、獨りその車輪を洛陽の都(七)亭に埋めて曰く、「豺狼(八)路に當る、安んぞ狐狸を問はん」と。遂に大將軍梁冀等、君を無みするの心十五事を奏す。京師(九)震竦す。時に冀の妹、皇后たり。諸梁の姻族、朝に滿つ。帝、言の直なるを知ると雖も、用ふるに忍びず。廣陵の太守に終る。

(一) 爲すがまゝにさす　(二) 唾棄すべき惡人共　(三) 生命を拋出して　(四) 巡回視察　(五) 大儒、有名な學者　(六) それぐ\視察すべき方面に赴く　(七) 在都に在る驛亭　(八) 大姦臣要路に塞りて政を掌る世の事也、何ぞ小役人の良否など巡檢するの要あらんやと也　(九) ふるひおそる

顏無作色。有司奏頭耽荒。詔原之。今本無載。

前漢暴勝之字公子。武帝末。郡國盜賊羣起。勝之爲直指使者。衣繡衣。持斧。逐捕盜賊。督課郡國。東至海。以軍興誅不從命者。威振州郡。

暴勝持斧　張綱埋輪

前漢の暴勝之、字は公子。武帝の末、郡國の盜賊羣起す。勝之、直指使者(一)となり、繡衣(二)を衣、斧を持し、盜賊を逐捕し、郡國を督課(三)し、東、海に至る。軍興(四)を以て、命に從はざるものを誅し、威、州郡に振ふ。

(一)漢の武帝特設の官にて、本文にある如く、繡衣を著、斧を持して羣盜を追捕する役也　(二)ぬいとりある衣服　(三)視察して科條を設け功を計る　(四)軍をさしむくるの制を以て

後漢張綱字文紀。犍爲武陽人。少明經學。辟爲御史。時順帝委縱

後漢の張綱、字は文紀、犍爲武陽の人。少にして、經學に明かなり。辟されて御史となる。時に順帝宦官に委縱(一)す。有識心に危ぶむ。綱、常に感激し、慨然として、歎じて曰く「穢惡(二)朝に滿つ。身を奮ひ(三)命を出して國家の難を掃ふ能はず

病死。割棺戮尸。初石崇以奢豪矜物。廁上常有十餘婢侍列。皆有容色。置甲煎粉沈香汁。有如廁者。皆易新衣而出。客多羞脱衣。而敦脱故著新。意色無作。羣婢曰。此客必能作賊。又嘗荒恣於色。體爲之弊。左右諫之。敦曰。此甚易耳。乃開後閤。駆諸婢妾數十人。竝放之。時人嘆異。

ぎ新を著く。意色作づるとなし。羣婢曰く、『此客必ず能く賊を作さん』と。又嘗て色に荒恣(七)す。體之が爲に弊る。左右之を諫む。敦曰く、「此れ甚だ易きのみ」と。乃ち後閤(八)を開き、諸婢妾數十人を駆り、竝に之を放つ。時人嘆異す。

(一) 奇人なりとの稱あり　(二) 縣の名。その時反心を起し自ら揚州を領して其牧となりし也　(三) 屍を引き出して誅戮に處す　(四) かはやのはとり　(五) 香の名　(六) 新しき衣に取りかへしむ　(七) はしいまゝにする、すさむ　(八) 妾婢の居る室　(九) 悉く放ち遣る。題に傾室とあるは即ち此意也

舊注引世說云。王導與周顗及諸朝士。詣尚書紀瞻家。觀妓。瞻有愛妾。能作新聲。顗問答之。

舊注に、世說を引いて云ふ、王導、周顗及び諸朝士と、尚書紀瞻の家に詣り、妓を觀る。瞻に愛妾あり。能く新聲(一)を作す。顗之と問答し、顏作づる色なし。有司、顗の耽荒(二)を奏す。詔して之を諒(三)す。今本載するなし。

(一) 今樣、流行歌　(二) 色にふけりすさむ　(三) 其才を惜みて特に之を許せる也

學顯著。貴二重朝廷一。常車騎塡レ巷。賓客盈レ坐。聞二粲在一レ門。倒レ屣迎レ之。粲至。年既幼弱。容狀短小。一坐盡驚。邕曰。此王公之孫有二異才一。吾不レ如也。吾家書籍文章。盡當レ與レ之。粲曾祖龔。祖暢皆爲二三公一。

に之に與ふべし」と。粲の曾祖の龔、祖の暢は皆三公たり。(六)

(一)古昔の道を味ふ　(二)都を長安に遷す　(三)車、門前の街路に滿つ。來訪者の多きをいふ　(四)王粲の來訪を聞き　(五)あわてて履をさかしまにはきて　(六)これ即ち王公の孫といふ所以也

晉書。王敦字處仲。少有二奇人之目一。尚二武帝女襄城公主一。拜二駙馬都尉一。明帝初。移鎭二姑熟一。自領二揚州牧一。謀レ逆。

王敦傾室　紀瞻出妓

晉書にいふ、王敦、字は處仲、少にして(一)奇人の目あり。武帝の女襄城公主を尙り、駙馬都尉に拜す。明帝の初、移りて(二)姑熟を鎭め、自ら揚州の牧を領す。逆を謀り、病死す。棺を割きて(三)尸を戮す。初め石崇、奢豪を以て物に矜る。(四)厠上常に十餘婢ありて侍列す。皆容色あり。(五)甲煎粉沈香汁を置き、厠に如く者あれば、皆(六)新衣に易へて出でしむ。客多く衣を脱ぐを羞づ。而るに敦は故を脫

於魯一。戒レ之曰。我文王之子。武王之弟。成王之叔父。我於二天下一亦不レ賤矣。然我一沐三握レ髮。一飯三吐レ哺。起以待レ士。猶恐レ失二天下之賢人一。子之レ魯。愼無二以レ國驕一レ人。

吐き、起つて以て士を待つ。猶ほ天下の賢人を失はんことを恐る。子、魯に之き、愼みて(三)國を以て人に驕ることなかれ」と。

(一) 代理として自分の封地たる魯に至らしむ　(二) 一たびゆあみする毎に幾たびも髪を握り、一度の食事に幾度も口中にある食物をはき出して士に接す、三度の三は數多の意也　(三) 諸侯たるの資格に増長して

後漢蔡邕字伯喈。陳留圉人。少博學。好二辭章數術天文一。妙操二音律一。閑居翫レ古。不レ交二當世一。後爲二中郎將一。獻帝西遷。王粲徙二長安一。邕見而奇レ之。時邕才

後漢の蔡邕、字は伯喈、陳留圉の人なり。少にして博學、辭章・數術・天文を好み、妙に音律を操る。閑居して古を翫び、(一)當世に交らず。後中郎將となる。(二)獻帝西に遷り、王粲長安に徙る。邕見て之を奇とす。時に邕の才學顯著にして、朝廷に貴重せらる。常に車騎(三)巷に塡ち、賓客坐に盈つ。(四)粲が門にあるを聞き、(五)屣を倒にして之を迎ふ。粲至る。年既に幼弱、容狀短小、一坐盡く驚く。邕曰く、「此れ王公の孫にして異才あり。吾れ如かず。吾家の書籍文章、盡く當

賜盡與士卒。家無私財。身衣韋袴布被。夫人裳不加緣。帝以是重焉。及卒愍悼尤甚。車駕素服臨之。喪禮成。親祠以大牢。既葬。車駕復臨其墳。存見夫人室家。其後會朝。帝每嘆曰。安得憂國奉公如祭征虜乎。其見思如此。

駕復其墳(五)に臨み、夫人の室家に存見(六)す。其後會朝(七)に、帝毎に嘆じて曰く、「安ぞ國を憂ひ公に奉ずること祭征虜(八)が如きものを得んや」と。其の思はるゝこと此の如し。

(一)潔白にして倹約に且つ物事に心ゆきとゞく性質 (二)韋袴は皮のはかま、布被はぬののふすま (三)喪服を着けて親しく其家に臨み給ふ (四)牛、羊、豕を具ふる供物。極めて鄭重に祠る也 (五)墳墓、はか (六)見舞ふ (七)百官の朝廷に集まるをいふ (八)征虜將軍祭遵

周公握髪　蔡邕倒屣

史記曰。武王崩。周公相成王。而使其子伯禽代就封

史記に曰く、武王崩じ、周公、成王を相けて、其子伯禽をして代りて封に魯に就かしむ。之を戒めて曰く、「我は文王の子、武王の弟、成王の叔父(一)なり。我、天下に於て亦賤からず。然れども我れ一沐(二)に三たび髪を握り、一飯に三たび哺を

白裘。恐₂其不₁レ受。因謂レ之曰。吾假レ人遂忘レ之。吾與レ人如レ弃レ之。子思辭而不レ受。子方曰。我有子無。何故不レ受。子思曰。伋聞レ之。妄與不レ如レ遺₂弃物於溝壑₁。伋雖レ貧不レ忍₃以レ身爲₂溝壑₁。是以不₂敢當₁。

けず。子方曰く、「我は有り子は無し。何の故に受けざるか。」子思曰く、「伋(四)之を聞けり。妄に與ふるよりは物を溝壑に遺弃するに如かずと。(五)伋貧しと雖も、身を以て溝壑と爲すに忍びず。是を以て敢て(六)當らず」と。

(二) ぬのこ、どてら　(三) 二十日間に僅か九度食事す。極めて貧しきをいふ也　(四) 狐のわき下の白毛ある皮を以て造れる衣服、千金の値ありといふ　(五) 子思本名の自稱　(六) 敢て御辭退申したり

後漢祭遵字弟孫。潁川潁陽人。少好₂經書₁。家富給而恭儉。從₂光武₁平₂河北₁。拜₂征虜將軍₁。遵爲レ人廉約小心。克レ己奉レ公。賞

後漢の祭遵、字は弟孫、潁川潁陽の人なり。少にして經書を好み、家富給にして恭儉、光武に從ひ河北を平ぐ。征虜將軍に拜す。遵、人となり廉約(一)小心、己に克ち公に奉じ、賞賜は盡く士卒に與ふ。家に私財なく、身、(二)韋袴布被を衣、夫人の裳は緣を加へず。帝是を以て重んず。卒するに及び、愍悼尤も甚しく、(三)車駕素服して之に臨み、喪禮成りて、親しく祠るに(四)大牢を以て(五)す。既に葬れば、車

諸器械。莫レ不ニ精工堅密。爲ニ後世法。自レ古書契多編以ニ竹簡。其用ニ縑帛一者。謂レ之爲紙。縑貴而簡重。竝不レ便ニ於人。倫乃造意。用ニ樹膚麻頭。及敝布魚網。以爲レ紙。奏ニ上之。帝善ニ其能。自レ是莫レ不ニ從用。故天下咸稱ニ蔡侯紙。

は重し。竝に人に便ならず。倫乃ち造意し、(四)樹膚麻頭及び敝布魚網を用ひ、以て紙を爲り、之を奏上す。帝、其能を善し、是より從用せざるなし。故に天下咸蔡侯紙と稱す。

(一) 祕は神也、天子の御劍、器械は器具兵仗 (二) 文字 (三) 絹布 (四) 創めて考へ出すこと (五) ぼろ、すたれたる布類

說苑曰。子思居ニ於衞。縕袍無レ表。二旬九食。田子方聞レ之。使ニ人遺ニ狐

孔伋縕袍　祭遵布被

說苑に曰く、子思、衞に居る。(一)縕袍表なし。(二)二旬にして九食す。田子方之を聞き、人をして(三)狐白裘を遺らしめ、其受けざるを恐る。因て之に謂て曰く、「吾れ人に假せば遂に之を忘る。吾れ人に與ふれば之を弃つるが如し」と。子思辭して受

物志。蒙恬造レ筆。又尚書中候。玄龜負レ圖出。周公援レ筆。以二時文一寫レ之。曲禮云。史載レ筆。此則秦之前已有レ筆矣。蓋諸國或未レ二之名一。而秦獨得二其名一。恬更爲二之損益一耳。故說文曰。楚謂二之聿一。吳謂二之不律一。燕謂二之拂一。秦謂二之筆一也。舊注。引二博物志一云。蒙恬爲二秦將一。製レ筆自レ此始。今本無レ之。

て出づ。周公筆を援り、時文を以て之を寫す』と。曲禮に云く、『史、筆を載す』と。此れば則ち秦の前已に筆あり。蓋し諸國或は未だ之を名づけず、秦獨り其名を得て、恬更に之が損益〔三〕をなすのみ。故に說文に曰く、『楚之を聿と謂ひ、吳之を不律と謂ひ、燕之を拂と謂ひ、秦之を筆と謂へり』と。舊注に博物志を引きて云く、『蒙恬、秦の將となり、筆を製すること此れより始まる』と。今本に之なし。

〔一〕玄は黑色なり、水の色をいふ、龜は水族也、故に龜を玄龜といふ　〔二〕龜の背に文ありし也　〔三〕その製法を改善するをいふ

後漢宦者蔡倫。字敬仲。和帝時。轉二中常侍一。加二尚方令一。監二作祕劍及

後漢の宦者蔡倫、字は敬仲、和帝の時、中常侍に轉じ、尚方の令を加ふ。祕〔一〕劍及び諸器械を監作す。精工堅密ならざるなし。後世の法となす。古より書契〔二〕多く編むに竹簡を以てす。其縑帛〔三〕を用ふる者、之を謂て紙となす。縑は貴くして簡

字子騫。早喪レ母。父娶二後妻一生二二子一。損至孝不レ怠。母疾二惡之一。所レ生子以二綿絮一衣レ之。損以二蘆花絮一。父冬月令二損御一レ車。體寒失レ靷。父責レ之。損不二自理一。父察知レ之。欲レ遣二後母一。損泣啓レ父曰。母在一子寒。母去三子單。父善レ之而止母亦悔改。待二三子一平均。遂成二慈母一。

至孝にして怠らず。母之を疾惡(一)し、生む所の子は綿絮(二)を以て之に衣せ、損には蘆(三)花絮を以てす。父冬月損をして車を御せしむ。體寒えて靷(四)を失ふ。父之を責む。損自ら理(五)らず。父察して之を知り、後母を遣(六)らんと欲す。損泣きて父に啓して曰く、「母在せば一子寒え、母去らば三子單(七)ならん」と。父之を善として止む。母も亦悔い改め、三子を待つこと平均にして、遂に慈母となる。

(一) にくむ　(二) 綿の新しきを綿といひ、古きを絮といふ　(三) あしの穗を綿の代用とせるもの　(四) に通ず、たづな　(五) 自ら辯解せず　(六) 逐ひ去る　(七) 三子とも單衣となりて寒えん

蒙恬製筆　蔡倫造紙

初學記云。博

初學記に云く、博物志に、『蒙恬筆を造る』と。又尚書中候に、『玄(一)龜圖(二)を負う

尙。博學多能。其父儀爲二文帝司馬一見レ殺。裒痛二父非命一。未二嘗西向而坐一。示レ不レ臣二朝廷一也。隱居敎授。廬二于墓側一。旦夕常至二墓所一拜跪。攀レ柏悲號。涕淚著レ樹。樹爲レ之枯。母性畏レ雷。母沒。每レ雷輒到レ墓曰。裒在レ此。及三讀レ詩。至二哀哀父母生レ我劬勞一。未三嘗不二三復流涕一。門人受レ業者。竝廢二蓼莪之篇一。家貧躬耕。計レ口而田。度レ身而蠶。或有二助レ之者一不レ聽。舊本裒作レ褒非。

嘗て西に向ひて坐せず。朝廷に臣たらざるを示すなり。隱居して敎授す。墓側に廬し、(二)旦夕常に墓所に至りて拜跪す。(三)柏に攀ぢて悲號し、涕淚樹に著き、樹之が爲に枯る。母、性、雷を畏る。母沒す。雷每に輒ち墓に到りて曰く、「裒此にあり」と。詩を讀み、(四)哀哀たる父母我を生みて劬勞す、といふに至るに及び、未だ嘗て(五)三復流涕せずんばあらず。門人業を受くる者、竝に蓼莪の篇を廢す。家貧にして躬ら耕し、(六)口を計りて田し、身を度りて蠶す。或は之を助くる者あれども聽かず。舊本に裒を褒に作るは非なり。

(一) みさを・堅忍　(二) 父を殺したる文帝は洛陽に在りて直西にあたるを以て也　(三) かしはの木。墓所のしるしに植う　(四) 詩經小雅蓼莪篇の第一章の語、劬勞は病苦辛勞　(五) 再三　(六) 食ふだけ耕作すること

舊注云。閔損

舊注に云く、閔損、字は子騫、早く母を喪ふ。父後妻を娶り二子を生む。損、

粟都尉一。上未レ
之奇一。數與二蕭
何一語。何奇レ之。
信度二上不一レ用、
即亡。何追レ之。
居一二日來
謁。上罵曰。諸
將亡以レ十數。
公無レ所レ追。追レ
信詐也。何曰。
諸將易レ得。至レ
如レ信國士無雙。王必欲レ爭二天下一。非レ信無下可二與計一レ事者上。於レ是擇レ日齋戒。設二壇場一具レ禮。拜爲二大
將一。諸軍皆驚。後封二楚王一。都二下邳一。謀反。赦爲二淮陰侯一。卒爲二呂后所一レ斬。

し。信を追ふは詐ならん。」何曰く、「諸將は得易く、信の如きに至ては國士無雙(六)なり。王必ず天下を爭はんと欲せば、信にあらずんば與に事を計るべき者なけん」と。是に於て日を擇びて齋戒し、壇場を設けて禮を具へ、拜して大將となす。諸軍皆驚く。後楚王に封ぜられ、下邳に都し、謀反す。赦されて淮陰侯となる。卒に呂后に斬らる。

㊀ 善行 ㊁ 善行を推擧して選擇する ㊂ 數々奇妙の計を出して項羽に勸め用ひられんことを求む ㊃ 兵粮米方の役人 ㊄ 斯くて一兩日の後といふ意 ㊅ 才德一國を蓋ふ士

晉書。王裒字
偉元。城陽營
陵人。少立二操

王裒柏慘　閔損衣單

晉書にいふ、王裒、字は偉元、城陽營陵の人なり。少にして操尙を立つ。博學多能なり。其父の儀、文帝の司馬となり、殺さる。裒、父の非命を痛み、未だ

於亂世。不ㇾ求㆓聞達於諸侯㆒。先帝不ㇾ以㆓臣卑鄙㆒。猥自枉屈。三顧㆓臣於草廬之中㆒。諮ㇾ臣以㆓當世之事㆒。後常以㆓木牛流馬㆒運ㇾ粮。據㆓武功五丈原㆒。與㆓司馬宣王㆒對㆓於渭南㆒。相持百餘日。卒㆓于軍㆒。年五十四。謚㆓忠武侯㆒。亮長㆓於巧思損益㆒。連弩木牛流馬。皆出㆓其意㆒。推㆓演兵法㆒。作㆓八陣圖㆒。咸得㆓其要㆒云。

を立て丶陳ぶるなり、上疏は天子に上る奏文なり。此は先帝崩じて後、後主に上りしものにて有名なる出師表これなり （六）布衣は無官の者の衣服、士庶人にして未だ仕官せざるもの （七）名譽 （八）枉は枉駕なり、屈は身をかがむるなり、尊長の人の卑下の人を訪問せんとて車駕を枉げ身をかゞむるをいふ （九）牛及び馬に似て粮をはこぶ車なり、牛・馬は其の形狀の似たるよりいふ、人力をはぶくの便あり （一〇）縣名 （一一）巧思は巧に工夫すること、損益は利害を料ること （一二）一時に十矢を發するいしゆみ （一三）推し明らめて敷衍する （一四）孔明の作りし陣形、天地風雲の四正と、虎龍鳥蛇の四奇と合せて八陣形あり

前漢韓信淮陰人。家貧無ㇾ行。不ㇾ得㆓推擇爲㆒ㇾ吏。後屬㆓項羽㆒爲㆓郎中㆒。數以ㇾ策干ㇾ羽。羽弗ㇾ用。亡歸ㇾ漢。漢王以爲㆓治

前漢の韓信は淮陰の人なり。家貧にして行（一）なければ、推擇（二）せられて吏となることを得ず。後項羽に屬し郎中となり、數〻策（三）を以て羽を干す。羽用ひず。亡げて漢に歸す。漢王以て（四）治粟都尉となす。上未だ之を奇とせず。數〻蕭何と語る。何之を奇とす。信、上の用ひざるを度り卽ち亡ぐ。何之を追ふ。（五）居ること一二日にして來り謁す。上罵りて曰く、「諸將亡ぐるもの十を以て數ふ。公追ふ所な

以後事。謂曰。君才十倍曹丕。必能安國。終定大事。若嗣子可輔輔之。如其不才。君可自取。亮涕泣曰。臣敢竭股肱之力。效忠貞之節。繼之以死。又爲詔敕後主曰。汝與丞相從事。事之如父。自是事無巨細。皆決於亮。嘗上疏。其略曰。臣本布衣。躬耕於南陽。苟全性命

定めん。若し嗣子輔くべくんば之を輔けよ。如し其れ不才ならば、君自ら取るべし。」亮、涕泣して曰く、「臣敢て股肱の力を竭し、忠貞の節を效し、之に繼ぐに死を以てせん」と。又詔を爲り後主に勅して曰く、『汝丞相と事に從ひ、之に事ふること父の如くせよ。是より事巨細となく、皆亮に決せよ』と。嘗て上疏す。其略に曰く、『臣は本布衣にして、躬ら南陽に耕す。苟も性命を亂世に全うせんとし、聞達を諸侯に求めず。先帝、臣が卑鄙を以てせず、猥に自ら枉屈し、三たび臣を草廬の中に顧み、臣に諮るに當世の事を以てす』と。後嘗て木牛流馬を以て粮を運び、武功の五丈原に據りて、司馬宣王と渭南に對し、相持すること百餘日、軍に卒す。年五十四。忠武侯と謚す。亮、巧思損益に長ず。連弩・木牛・流馬は、皆其意に出づ。兵法を推演して八陣圖を作る。咸其要を得たりと云ふ。

(一) 蜀の劉備なり (二) 輔佐して天下に王たらしむべき價値あらば (三) 劉禪なり (四) 亮をいふ (五) 疏は箇條

以二禍福之言一。元卒成二孝子一。郷邑爲二之諺一曰。父母何在在二我庭一。化二我鳴梟一哺二所生一。時考城令王渙。政尙二嚴猛一。聞三覽以レ德化二レ人。署爲二主簿一。謂曰。主簿聞二陳元之過一。不レ罪而化レ之。得レ無レ少二鷹鸇之志一邪。覽曰。以爲二鷹鸇一不レ若二鸞鳳一。渙謝遣曰。枳棘非二鸞鳳所一レ棲。百里豈大賢之路。以レ奉資。勉入二大學一。學畢歸二郷里一。州郡竝請。皆以レ疾辭。

棲む所にあらず。百里豈に大賢の路ならん」と。奉を以て資とし、勉めて大學に入らしむ。學畢り、鄕里に歸る。州郡竝に請ふ。皆疾を以て辭す。

(一) 剽輕はへうきんなり、氣輕にして滑稽なること。游恣はほしいまゝに遊ぶ (二) 田は田耕、桑は養蠶 (三) 窮は貧窮困窮の窮、寡はやもめ、ひとりものをいふなり (四) 貧しきを救ひにぎはす (五) 一年 (六) ふくろふ、不孝の鳥とせらる (七) 親なり (八) 鷹はたか、鸇ははやぶさ、君に禮なき者を誅すること、恰も鷹鸇の鳥雀を逐ふが如く敏なるべしといふ主義 (九) 鸞は鳳凰に類し、共に仁鳥なり (一〇) 枳はからたち、棘はいばら、共にとげ多き木なり (一一) 百里四方の小縣は大賢の治むるに足らざるものなりとの意 (一二) 自分の俸祿を分ちて學資とし大學に入らしむ

諸葛顧廬　韓信升壇

蜀志。諸葛亮相二先主一。先主病篤。召レ亮屬

蜀志にいふ、諸葛亮先主に相たり。先主病篤し。亮を召し屬するに後事を以てし、謂て曰く、「君の才は曹丕に十倍せり。必ず能く國を安じ、終に大事を

駕之任。始當レ展二其驥足一耳。諸葛亮亦言二之於先主。先主以爲二治中從事。親待亞二於亮。遂竝爲二軍師中郎將。

後漢仇覽字季智。一名香。陳留考城人。爲二蒲亭長。勸二人生業。農畢乃令二子弟就レ學。剽輕游恣者。皆役以二田桑。賑二卹窮寡。朞年大化。初到。有二陳元者。獨與レ母居。而母詣レ覽。告二元不孝。覽親到二元家。與二其母子飮。因爲陳二人倫孝行。譬

後漢の仇覽、字は季智、一名は香、陳留考城の人なり。蒲亭の長となり、人に生業を勸む。農畢れば乃ち子弟をして學に就かしめ、(一)剽輕游恣の者は皆役するに(二)田桑を以てす。(三)窮寡を(四)賑卹し、(五)朞年に大に化す。初め到れる時陳元といふ者あり、獨り母と居る。而して母覽に詣り、元が不孝を告ぐ。覽、親ら元の家に到り、其母子と飮む。因て爲に人倫の孝行を陳べ、譬すに禍福の言を以てす。元卒に孝子と成る。鄕邑之が諺を爲して曰く、『父母何にか在す、我が庭に在す、我が(六)鴟梟を化して(七)所生を哺せしむ』と。時に考城令王渙、政嚴猛を尙ぶ。覽が德を以て人を化するを聞き、署して主簿となし、謂て曰く、「主簿、陳元の過を聞き、罪せずして之を化せしむ。(八)鷹鸇の志を少くことなきを得んや。」覽曰く、「以て鷹鸇とならんより(九)鸞鳳となるに若かず。」渙、謝して遣して曰く、「(一〇)枳棘は鸞鳳の

蜀志。龐統字士元。襄陽人。少時樸鈍。未レ有二識者一。司馬徽有二知レ人鑒一。稱レ統當レ爲二南州士之冠冕一。由レ是漸顯。先主領二荊州一。統以二從事一守二耒陽令一。在レ縣不レ治。免レ官。吳將魯肅。遺二先主書一曰。龐士元非二百里才一也。使レ處二治中別

龐統展驥　仇覽棲鸞

蜀志にいふ、龐統、字は士元、襄陽の人なり。少き時樸鈍(一)、未だ議する者あらず(二)。司馬徽、人を知るの鑒(三)あり。統を稱して當に南州の士の冠冕(四)たるべしと。是に由て漸く顯る。先主、荊州を領するとき、統、從事を以て耒陽の令に守たり。縣にありて治まらず。官を免ぜらる。吳の將魯肅、先主に書を遺りて曰く、『龐士元は百里の才(五)にあらざるなり。治中別駕(六)の任に處らしめば、始めて當に其驥足(七)を展ぶべきのみ』と。諸葛亮も亦之を先主に言ふ。先主以て治中從事と爲し、親待(八)、亮に亞ぐ。遂に竝に軍師中郎將となる。

(一) かざり氣なく性質にぶし　(二) 彼れ是れとその人物を批評する　(三) 鑒識　(四) 頭首の意　(五) 百里は縣なり縣令となりて一縣を治むべき才能なり　(六) 治中從事は州の刺史に從ひて諸役所の文書を掌る。別駕は刺史に從ひ別に車に乘りて巡見をする介の官なり　(七) 驥は駿馬なり、名馬の足を展べて馳するが如く大才を行ふをいふ　(八) 親しく待遇すること

前漢蕭育字次君。東海蘭陵人。哀帝時。爲光祿大夫執金吾。少與陳咸朱博爲友。著聞當世。往者有王陽貢禹。故長安語曰。蕭朱結綬。王貢彈冠。言其相薦達也。

前漢の蕭育、字は次君、東海蘭陵の人なり。哀帝の時、光祿大夫執金吾となる。少にして陳咸・朱博と友たり。當世に著聞す。往には王陽・貢禹あり。故に長安(一)、語して曰く、『蕭朱綬を結び、王貢冠を彈く』(二)と。其相薦達(三)するを言ふなり。

(一) 長安の人々 (二) 蕭が位にあれば朱を薦めて印綬を結ばしめ、後者在官すれば前者をして其れをなさしむ。王と貢と相援引し、互に仕に後れたる者は豫め冠塵を拂つて先仕の者の推薦を待つと也 (三) 互にあげすゝむるなり

前漢王吉字子陽。琅邪皐虞人。少好學明經。宣帝時。爲諫大夫。與同郡貢禹爲友。世稱。王陽在位貢公彈冠。言其取舍同也。禹字少翁。以明經潔行著聞。仕至御史大夫。

前漢の王吉、字は子陽、琅邪皐虞の人なり。少にして學を好み經に明かなり。宣帝の時諫大夫となる。同郡の貢禹と友たり。世に稱す、『王陽位にあれば貢公冠を彈く』と。其取舍(一)同じきを言ふなり。禹、字は少翁、明經潔行を以て著聞す。仕へて御史大夫に至る。

(一) 取は進むるなり、舍は退くなり。進退を共にするなり

前漢五鹿充宗字君孟。時爲二少府一貴幸。爲二梁丘易一。自二宣帝時一。善二梁丘氏說一。元帝好レ之。欲レ考二其異同一。令下充宗與二諸易家一論上。充宗乘レ貴辯口。諸儒莫二能與抗一。皆稱レ疾不二敢會一。有下薦二朱雲一者上。召入。攝レ齋登レ堂。抗レ首而請。音動二左右一。既論難。連拄二五鹿君一。諸儒爲二之語一曰。五鹿嶽嶽。朱雲折二其角一。遂爲二博士一。

前漢の五鹿充宗、字は君孟。時に少府(一)と爲て貴幸せらる。梁丘の易(二)を爲む。宣帝の時より、梁丘氏の說を善とす。元帝も之を好み、其異同を考へんと欲し、充宗をして諸易家と論ぜしむ。充宗貴(三)に乘じて辯口あり。諸儒能く與に抗するなし。皆疾と稱し、敢て會せず。朱雲を薦むる者あり。召されて入り、齋を攝めて堂に登り、首を抗げて請ふ(四)。音(五)左右を動す。既に論難し、連に五鹿君(六)を拄す。諸儒之れが語を爲して曰く、『五鹿嶽嶽(七)たり。朱雲其角を折る』と。遂に博士となる。

(一) 山海、池澤、田畝等の年貢をとりたつる役　(二) 易に關する梁丘氏の說　(三) 尊貴の權によつて、天子を笠にきて　(四) 對論せんことを　(五) 聲音が四方にひびきわたりしなり　(六) 五鹿君の學說を　(七) 角の長き貌、五鹿を鹿に譬へていふ

蕭朱結綬　王貢彈冠

史記。晏平仲嬰。爲二齊相一出。其御之妻。從二門閒一而闚二其夫一。其夫爲二相御一。擁二大蓋一。策二駟馬一。意氣揚揚。甚自得也。既而歸。其妻請レ去。夫問二其故一。妻曰。晏子長不レ滿二六尺一。身相二齊國一。名顯二諸侯一。妾觀二其出一。志念深矣。常有二以自下者一。今子長八尺。乃爲二人僕御一。然子之意自以爲レ足。妾是以求レ去也。其後夫自抑損。晏子怪問レ之。御以レ實對。晏子薦以爲二大夫一。

晏御揚揚　五鹿嶽嶽

史記にいふ、晏平仲嬰、齊の相となり出づ。其御(一)の妻、門の閒より其夫を闚ふ。其夫、相の御となり、大蓋(二)を擁し、駟馬(三)に策ち、意氣揚揚として、甚だ自得す。既にして歸る。其妻去らん(四)と請ふ。夫其故を問ふ。妻曰く、「晏子長六尺に滿たず。身、齊國に相として、名、諸侯に顯る。妾、其出づるを見るに、志念(五)深し。常に以て自ら下る(六)ものあり。今子長八尺。乃ち人の僕御となる。然るに子の意自ら以て足れりとなす。妾是を以て去らんと求むるなり」と。其後夫自ら抑損(七)す。晏子怪みて之を問ふ。御、實を以て對ふ。晏子薦めて以て大夫となす。

(一) 御者 (二) 車の大なるかさの下に倚り (三) 四頭立の馬 (四) 離緣を迫る (五) 志望念慮深し (六) へりくだる (七) 高ぶる氣を抑へへりくだる意、謙遜になる

博士。數歳蜀生皆成就還歸。爲右職。官有至郡守刺史者。又修起學官於成郡市中。招下縣子弟。爲學官弟子。爲除更繇。高者以補郡縣吏。次爲孝悌力田。每行縣。益從學官諸生。明經飭行者與俱。使傳教令。出入閨閤。吏民見而榮之。爭欲爲學官弟子。富人至出錢以求之。繇是大化。蜀地學於京師者。比齊魯焉。武帝乃令天下郡國皆立學校。自文翁始。文翁終於蜀。吏民爲立祠堂。歳時祭祀不絶。至今巴蜀好文雅。文翁之化也。

經に明かに行を飭ふる者を從へて與に倶にし、教令を傳へて閨閤(九)に出入せしむ。吏民見て之を榮とし、爭ひて學官の弟子たらんと欲し、富人は錢を出して以て之を求むるに至る。是に繇て大に化し、蜀地の京師に學ぶ者、齊魯に比す。武帝乃ち天下の郡國をして皆學校を立てしむるは、文翁より始まる。文翁、蜀に終る。吏民爲に祠堂を立て、歳時に祭祀して絶たず。今に至て巴蜀の文雅を好むは、文翁の化なり。

㊀ かた田舎にして開けず　㊁ えびすの風、野蠻の風　㊂ むさかしくして　㊃ いましめはげます　㊄ 郡中の高職　㊅ 學舍　㊆ 交代につとむる公役　㊇ 庶民の階級の上位なるもの、孝悌を首位とし、力田を次位とす、前者は親に孝、長上に悌なる者をいひ、後者は農耕に力むる者を以つて之れ充つ　㊈ 臥室の小門、即ち文翁の臥室にさへも出入せしむ

桑。民有帶刀劔者。使賣劔買牛。賣刀買犢。吏民皆富實。獄訟止息。後徵遂。議曹王生。素嗜酒亡節度。從至京師。會遂引入宮。王生曰。天子即問君何以治渤海。宜曰皆聖主之德。非小臣之力也。遂受其言以對。上説笑曰。君安得長者之言而稱之。對曰。臣非知之。乃議曹教戒臣也。上以遂老不任公卿。拜水衡都尉。王生爲丞。以褒顯遂云。

は慰也 (七) おごりかざる (八) 商賈を指して云へるなり (九) 訴訟事件 (一〇) 遂の從行員謀議官の (一一) だらしなし (一二) 王生を引き具して宮に入るに方り (一三) はめあらはす

前漢文翁廬江舒人。少好學。通春秋。景帝末爲蜀郡守。仁愛好教化。見蜀地辟陋。有蠻夷風。欲誘進之。乃選郡縣小吏開敏有材者。親自飭厲。遣詣京師。受業

前漢の文翁は、廬江舒の人なり。少にして學を好み、春秋に通じ、景帝の末に蜀郡の守となる。仁愛にして教化を好む。蜀地の(一)辟陋にして(二)蠻夷の風あるを見、之を誘進せんと欲す。乃ち郡縣の小吏の(三)開敏にして材ある者を選び、親く自ら(四)飭厲して、遣して京師に詣り、業を博士に受けしむ。數歲にして蜀生皆成就して還歸し、(五)右職となり、官、郡守刺史に至る者あり。又(六)學官を成都の市中に修起し、下縣の子弟を招きて、學官の弟子となし、爲に(七)更繇を除き、高き者は以て郡縣の吏に補し、次は(八)孝悌力田となす。縣を行る毎に、益く學官の諸生の

選ニ能治者ー。以レ遂爲ニ渤海太守ー。年七十餘。遂至レ界。移レ書敕ニ屬縣ー。悉罷下逐ニ捕盜賊ー吏上。諸持ニ鉏鉤田器ー者。皆爲ニ良民ー。吏毋レ得レ問。持レ兵者迺爲ニ盜賊ー。盜賊悉平。民安レ土樂レ業。遂乃開ニ倉廩ー假ニ貧民ー。選ニ用良吏ー。尉安牧養焉。遂見下齊俗奢侈。好ニ末技ー。不中田作上。迺躬率以ニ儉約ー。勸レ民務ニ農

盜賊となす。盜賊悉く平ぎ、民、土に安じて業を樂む。遂、乃ち倉廩(四)を開いて貧民に假し(五)、良吏を選用して尉安牧養す(六)。遂、齊俗の奢侈(七)、末技を好んで田作せざるを見、迺ち躬づから率ゐるに儉約を以てし、民に勸めて農桑(八)を務めしめ、民に刀劍を帶ぶるものあれば、劍を賣て牛を買ひ、刀を賣て犢を買はしむ。吏民皆富貴、獄訟(九)止息す。後遂を徵す。議曹(一〇)王生、素より酒を嗜んで節度を亡ふ(一一)。從て京師に至る。遂が引いて宮に入るに會す。王生曰く、「天子、卽し君何を以て渤海を治めしと問はゞ、宜しく(一二)、皆聖王の德にして、小臣の力にあらずといふべし。」遂、其言を受けて以て對ふ。上說んで笑て曰く、「君安ぞ長者の言を得て之を稱する。」對へて曰く、「臣之を知りしにあらず。乃ち議曹臣に教戒したるなり」と。上、遂が老いて公卿に任ぜざるを以て、水衡都尉に拜し、王生を丞となし、以て遂を褒顯す(一三)といふ。

(一) 郡守　(二) とらへ制する　(三) 鉏はすき、鉤はかま、共に農具　(四) 米穀を納むるくら　(五) 給與し　(六) 尉

臣姓顏名駟。文帝時爲ㇾ郞。文帝好ㇾ文。而臣好ㇾ武。景帝好ㇾ老而臣尙少。陛下好ㇾ少而臣已老。是以三葉不ㇾ遇也。上感二其言一。擢爲二會稽都尉一。一本作二景帝好ㇾ美臣貌醜一。

で臣すでに老いたり。これを以て(三)三葉遇はず」と。上、其言に感じ、(四)擢でゝ會稽都尉となす。一本に、景帝美を好んで臣の貌醜しに作る。

(一) ひげも眉も眞白なる老翁 (二) 郎官を也 (三) 三世。文帝・景帝及陛下の御代に至る間、不遇にして顯官に擧げられず斯く老の身を以て郎官に在りと也 (四) 題に塞剝とあるは即ち此事にて、窮境を脱すとの義

前漢龔遂字少卿。山陽南平陽人。以二明經一爲ㇾ官。宣帝時。渤海左右郡歲饑。盜賊竝起。二千石不ㇾ能二禽制一。上

龔遂勸農　文翁興學

前漢の龔遂、字は少卿、山陽南平陽の人なり。明經を以て官となる。宣帝の時、渤海左右の郡歲〻に饑ゑ、盜賊竝び起る。(一)二千石(二)禽制する能はず。上、能く治むるものを選び、遂を以て渤海の太守となす。年七十餘、遂、界に至り、書を移し屬縣を敕め、悉く盜賊を逐捕するの吏を罷め、諸の(三)鉏鉤田器を持するものは皆良民となし、吏も問ふことを得るなからしめ、兵を持するものは、迺ち

窮鳥賦。後擧二郡上計一。到二京師一。時司徒袁逢受レ計。計吏數百人。皆拜二伏庭中一。壹獨長揖。逢異レ之。令二左右讓一レ之。對曰。昔酈食其長二揖漢王一。今揖二三公一。何遽怪哉。逢下レ堂。執レ手延置二上坐一。河南尹羊陟。與レ逢共稱二薦之一。名動二京師一。士大夫想二望其風采一。後州郡爭致二禮命一。十辟二公府一。竝不レ就。初逢使二善相者相一レ壹。云仕不レ過二郡吏一。竟如二其言一。

や」と。逢、堂を下り、手を執つて延いて上坐に置く。河南の尹羊陟、逢と共に之を稱薦す。(六)名京師を動かす。士大夫其風采を想望す。(七)後州郡爭つて(八)禮命を致し、十たび公府に辟せども竝に就かず。初め逢善く相するものをして壹を相せしむ。云ふ、『仕へて郡吏に過ぎず』と。竟に其言の如し。

(一) 容貌の偉大なること　(二) 傲慢、おごりたかぶる　(三) 文章の題、人にしりぞけられたるを辯解するなり　(四) 各郡の上計が納むる所の貢税を受取る　(五) 立ちながら兩手を胸の邊に拱く略禮　(六) 稱揚推薦す　(七) 慕ひ望む　(八) 禮を厚くし競ひ爭ひて召聘す

漢武故事曰。上至二郎署舍一。見二一老郎鬢眉皓白一。問何時爲レ之。對曰。

漢武故事に曰く、上、郎署の舍に至り、一老郎の(一)鬢眉皓白なるを見る。問ふ、「何れの時よりか之をなす。」(二)對へて曰く、「臣、姓は顏、名は駟、文帝の時に郎となる。文帝文を好んで臣武を好む。景帝老を好んで臣尚ほ少し。陛下少を好ん

布單衣適至レ骭。從レ昏飯レ牛薄ニ夜半一。長夜曼曼何時旦。桓公召與語。說レ之。以爲ニ大夫一。

㈠城門に近き田舍　㈡南山の石は險し、白き石はきらゝかなり、生れて堯と舜との位をゆづれるが如き聖代にあはず、短き布の單衣はすねに至る。夕暮より牛を飼ひて夜半に至る、長き夜は盡きずして何の時にか夜が明けやうぞ。一本「飯」を「飲」に作る、みづかふ也

後漢趙壹字元叔。漢陽西縣人。體貌魁梧。望レ之甚偉。恃レ才倨傲。爲ニ鄉黨一所レ擯。乃作ニ解擯一。屢抵レ罪。幾至レ死。友人救得レ免。乃貽レ書謝レ恩。爲ニ

趙壹坎壈　顏駟蹇剝

後漢の趙壹、字は元叔、漢陽西縣の人なり。體貌魁梧、(一)これを望めば甚だ偉なり。才を恃んで倨傲、(二)鄉黨に擯けらる。乃ち(三)解擯を作る。屢〻罪に抵り、幾ど死に至る。友人救うて免るゝを得たり。乃ち書を貽りて恩を謝し、窮鳥の賦を爲る。後、郡の上計に擧げられて、京師に至る。時に司徒袁逢、(四)計を受く。計吏數百人、皆庭中に拜伏す。壹獨り長揖す。(五)逢之を異み、左右をして之を讓めしむ。對へて曰く、「昔、酈食其、漢王に長揖す。今三公に揖す。何ぞ遽に怪まん

于レ湯而無レ由。乃爲二有莘氏媵臣一。負二鼎俎一。以二滋味一說レ湯。致二於王道一。或曰。伊尹處士。湯使二人聘迎レ之。五反然後肯往從レ湯。言二素王及九主之事一。湯擧任以二國政一。

俎を負ひ、(四)滋味を以て湯に說き、王道に致すと。或は曰く、伊尹は處士なり。湯、人をして聘して之を迎へしむ。(五)五反して然る後に肯て往いて湯に從ひ、(六)素王及び九主の事を言ふ。湯擧げ任ずるに國政を以てす。

(一)禮を待たず、自ら進んで仕を求むるをいふ　(二)有莘氏の女、殷の湯王に嫁す、伊尹其つきそひとなりて行くなり。媵臣とは嫁に從ふ僕なり　(三)鼎はかなへ、俎はまないた。(四)滋味は美味。料理の道に明かなりと言ひ立てそれを以て湯王に近づき、因て王道を成さしめたり　(五)五回使者を復往せしめ　(六)太古の質素なる王、九主は三皇五帝及び夏の禹王を併せいふ稱

三齊略記。齊桓公夜出二近舍一。甯戚疾擊二其牛角一。高歌曰。南山研。白石爛。生不レ遭二堯與レ舜禪一。短

三齊略記にいふ、齊の桓公、夜(一)近舍に出づ。甯戚疾く其牛角を擊ち、高歌して曰く、『(二)南山研たり。白石爛たり。生まれて堯と舜との禪に遭はず。短布單衣適に骭に至る。昏より牛に飯して夜半に薄る。長夜曼曼何の時か旦けん』と。桓公召して與に語り、之を說び、以て大夫となす。

假貳。猶足ニ以爲レ生。乃之ニ臨邛一。盡賣ニ車騎一買ニ酒舍一。令ニ文君當レ壚。相如自著ニ犢鼻褌一。與ニ庸保一雜作。滌ニ器於市中一。王孫恥レ之。杜レ門不レ出。昆弟諸公更謂ニ王孫一曰。有ニ一男兩女一。所レ不レ足者非レ財也。今文君既失ニ身於長卿一。長卿故倦游。雖レ貧其人材足レ依也。王孫分ニ與文君僮百人錢百萬一。歸ニ成都一。買ニ田宅一。爲ニ富人一。久レ之。蜀人楊得意爲ニ狗監一。侍ニ武帝一。帝讀ニ子虛賦一。而善レ之曰。朕獨不レ得下與ニ此人一同上レ時哉。得意曰。臣邑人司馬相如。自言爲ニ此賦一。上驚召問以爲レ郎。

するを得ざるか。」得意曰く、「臣が邑人司馬相如自ら言ふ、此賦を爲ると。」上驚き、召し問うて以て郎と爲す。

㊀ やもめとなれりとの意 ㊁ 文君を慕ふ心を琴の音に寄せて其心を挑む ㊂ 雍容は和らげる貌、閑雅はみやびやか ㊃ 當は對偶なり、卽ち父に願ふとも父は對偶にあらずとて許さゞるべしと思ひ、夜亡げしなり ㊄ 相如の字 ㊅ 借用するなり ㊆ 壚は酒店にて酒瓮を置く場所、卽ち酒を賣る役に當らしむるなり ㊇ ふんどし ㊈ 賃仕事をする賤夫 ㊉ 飲食の器 ⑪ 學問をしつくして疲れあきたること ⑫ めしつかひ ⑬ 天子御獵用のいぬを飼ふ官

伊尹負鼎　甯戚扣角

史記。伊尹欲レ

史記にいふ、伊尹、湯を干さん(一)と欲して由なし。乃ち有莘氏(二)の媵臣となり、(三)鼎

蜀郡臨邛富人卓王孫女。新寡。好ㇾ音。司馬相如與ㇾ客至二其家一。酒酣鼓ㇾ琴。而以二琴心一挑ㇾ之。相如從二車騎一。雍容閑雅甚都。文君竊從ㇾ戸窺ㇾ之。心悅而好ㇾ之。恐ㇾ不ㇾ得ㇾ當也。夜亡奔二相如一。相如與馳歸二成都一。家徒四壁立。王孫大怒。文君久之不ㇾ樂。謂二長卿一曰。第俱如二臨邛一。從二昆弟一

司馬相如、客と其家に至る。酒酣にして琴を鼓し、琴心(二)を以て之を挑む。相如、車騎を從へ、雍容閑雅(三)にして甚だ都なり。文君竊に戸より之を窺ひ、心に悅びて之を好し、當る(四)ことを得ざらんを恐れ、夜亡げて相如に奔る。相如與に馳せて成都に歸る。家は徒だ四壁の立てるのみ。王孫大に怒る。文君久うして樂まず。長卿(五)に謂て曰く、「第だ俱に臨邛に如き、昆弟に從て假貣(六)せば、猶ほ以て生を爲すに足らん」と。乃ち臨邛に之き、盡く車騎を賣り、酒舍を買ひ、文君をして壚(七)に當らしめ、相如自ら犢鼻褌(八)を著け、庸保(九)と雜作し、器(一〇)を市中に滌ふ。王孫之を恥ぢ、門を杜ぢて出でず。昆弟諸公、更〻王孫に謂て曰く、「一男兩女あり。足らざるところのものは財にあらず。今文君既に身を長卿に失す。長卿故倦游(一一)、貧しと雖もその人材依るに足れり」と。王孫、文君に僮(一二)百人錢百萬を分ち與ふ。成都に歸り、田宅を買ひ、富人となる。久うして蜀人楊得意狗監(一三)となり、武帝に侍す。帝、子虛の賦を讀んで之を善しとして曰く、「朕獨り此人と時を同じう

人侍レ側。使者以告。崇盡出二其婢妾數十人一以示レ之。皆蘊二蘭麝一被二羅縠一。曰在レ所レ擇。使者曰。受レ命指二索綠珠一。不レ識孰是。崇勃然曰。綠珠吾所レ愛。不レ可レ得也。秀怒乃勸二趙王倫誅一レ崇。遂矯レ詔收レ之。崇正宴二樓上一。介士到レ門。崇謂二綠珠一曰。我今爲レ爾得レ罪。綠珠泣曰。當レ致二死於君前一。因自投二于樓下一而死。崇詣二東市一嘆曰。奴輩利二吾家財一。收者曰。知二財致一レ害。何不二早散一レ之。崇不レ能レ答。遂被レ害。

べからず」と。秀怒り、乃ち趙王倫に崇を誅せんことを勸め、遂に詔(八)を矯めて之を收ふ。(九)崇正に樓上に宴す。介士(一〇)門に到る。崇、綠珠に謂て曰く、「我れ今爾の爲に罪を得たり。」綠珠泣いて曰く、「當に死を君の前に致すべし」と。因て自ら樓下に投じて死す。崇、東市(一一)に詣り、嘆じて曰く、「奴輩(一二)吾が家財を利す」と。收ふる者曰く、「財の害を致すを知らば、何ぞ早く之を散ぜざりし」と。崇答ふる能はず。遂に害せらる。

(一) 即ち綠珠也 (二) 使者に (三) 蘭麝香の薫をつゝみて身につく (四) うすぎぬ (五) 御氣に入りたるをお擇び下され (六) 特に指定し求む (七) 怒るかたち。むつとして (八) 詔なりといつはりて (九) 捕也 (一〇) 甲をつけたる武士 (一一) 東市は罪人を殺す所也 (一二) 孫秀の奴輩我が家財を奪ひたり

前漢卓文君。

前漢の卓文君は、蜀郡臨邛の富人卓王孫の女にして、新(一)に寡なり。音を好む。

百官及侍衛散潰。唯紹儼然端冕。以身捍衛。兵交御輦。飛箭雨集。遂被害於帝側。血濺御服。帝深哀嘆之。及事定。左右欲浣衣。帝曰。此嵆侍中血。勿去。元帝表贈太尉。諡曰忠穆。祠大牢。

出奔すること (七)端は朝服、冕は冠也、即ち禮服なり (八)ふせぎ守る (九)とび來る矢 (一〇)其勳功を表彰して (一一)牛・羊・家の供物あること、極めて盛儀なり

晉書。石崇字季倫。渤海南皮人。拜衛尉。有妓曰緑珠。美而艶。善吹笛。中書令孫秀使人求之。崇時在金谷別館。方登涼臺。臨清流。婦

緑珠墜樓　文君當壚

晉書にいふ、石崇、字は季倫、渤海南皮の人なり。衛尉に拜す。妓あり、緑珠と曰ふ。美にして艶、善く笛を吹く。中書令孫秀、人をして之を求めしむ。崇、時に金谷の別館にあり。方に涼臺に登り、清流に臨み、(一)婦人側に侍す。使者以て告ぐ。崇、盡く其婢妾數十人を出して以て(二)之に示す。皆(三)蘭麝を蘊み、(四)羅縠を被る。曰く、「擇ぶ(五)ところにあり。」使者曰く、「命を受けて緑珠を指し(六)索む。識らず孰れか是れなる。」崇勃然(七)として曰く、「緑珠は吾が愛するところなり。得

晉嵆紹字延祖。父康與二山濤一善。臨レ誅謂レ紹曰。巨源在。汝不レ孤矣。後濤薦爲二祕書丞一。始入レ洛。或謂二王戎一曰。昨於二稠人中一始見二嵆紹一。昂昂然若三野鶴之在二雞羣一。裴頠亦深器レ之。每曰。使三延祖爲二吏部尙書一。可レ使三天下無二復遺才一。累二遷侍中一。及二惠帝蒙塵一。馳詣二行在所一。王師敗績。

晉の嵆紹、字は延祖。父の康は山濤と善し。誅せらるゝに臨んで（一）、紹に謂て曰く、「巨源（二）あり。汝孤ならじ」と。後、濤薦めて祕書丞となす。始めて洛に入るとき、或ひと王戎に謂て曰く、「昨、稠人中に（三）於て、始めて嵆紹を見るに、昂昂然（四）として、野鶴の雞羣にあるが若し」と。裴頠も亦深く之を器とす。每に曰く、「延祖をして吏部尙書たらしめば、天下をして復遺才なからしむべし（五）」と。侍中に累遷す。惠帝の蒙塵（六）に及び、馳せて行在所に詣れば、王師敗績し、百官及び侍衞散潰す。唯だ紹儼然として端冕（七）し、身を以て捍衞（八）す。兵、御輦に交り、飛箭（九）雨のごとく集り、遂に帝の側に害せられ、血御服に濺ぐ。帝深く之を哀嘆す。事定まるに及び、左右衣を浣はんと欲す。帝曰く、「此れ嵆侍中の血なり。去ること勿れ」と。元帝（一〇）、表して大尉を贈り、諡して忠穆と曰ひ、大牢（一一）を祠る。

㊀ 父康が鍾會の讒言にて誅せらるゝ時 ㊁ 山濤の字 ㊂ 衆人の中にて ㊃ 意氣のあがれるさま ㊄ 人材にして用ひられずに民間にある者無きに至らん。吏部尙書は官吏の任免等を掌る官なれば也 ㊅ 國亂れて天子の

歩走擔其兒及妻。弟子綏。度不能兩全。乃謂妻曰。吾弟早亡。惟有一息。理不可絕。止應自棄我兒耳。幸而得存。我後當有子。妻泣而從之。乃棄之。朝棄而暮及。明日繋之於樹而去。至江東。仕爲尚書右僕射。攸棄子之後。妻不復孕。過江納妾。甚寵之。訊其家屬。說是北人遭亂。憶父母姓名。乃攸之甥。攸素有德行。聞之感恨。遂不復畜妾。卒以無嗣。時人義而哀之曰。天道無知。使鄧伯道無兒。

べし」と。妻泣いて之に從ひ、乃ち之を棄つ。(五)朝に棄てゝ暮に及ぶ。明日之を樹に繋いで去る。江東に至り、仕へて(六)尚書右僕射となる。攸、子を棄つるの後、妻復孕まず。(七)江を過ぎて妾を納れ、甚だ之を寵す。其家屬を訊へば、說く是れ北人亂に遭ふと。父母の姓名を憶す。乃ち攸の(八)甥なり。攸素より德行あり。之を聞いて感恨し、遂に復妾を畜はず、卒に以て嗣なし。時人義として之を哀んで曰く、『(九)天道知るなし、鄧伯道をして兒なからしむ』と。

(一) 領地を沒收さる　(二) 兩兒を共に全うして連れ行く能はず　(三) 義理として其血統を絕つ能はず　(四) 生き長らへば　(五) 朝捨てたる其子が夕方に父母に追ひ附く　(六) 官人の給米、米錢の給與貸與等を司る官　(七) 江東に至りて　(八) 姉妹の子の稱　(九) 不仁にして後無きは天の道なるが此仁人にして兒なきは天道知る無きかと也。蓋し單に子を捨てし不仁を知らず其後の行爲のみにつきていへるにや

稍習善。求レ爲二獄小吏一。因學二律令一。轉爲二獄史一。縣中疑事皆問焉。太守行レ縣。見而異レ之。署二決曹史一。又受二春秋一通二大義一。擧二孝廉一爲二山邑丞一。宣帝時。遷二臨淮太守一。治有二異迹一。

秋を受け、大義に通ず。孝廉に擧げられ、(五)山邑の丞となる。宣帝の時、臨淮の太守に遷り、治に異迹あり。(六)

(一)里の四方にある門を守る役　(二)小さき札　(三)一縣の政事知れ難きものは、皆溫舒に問ふ　(四)巡視　(五)試驗の科目の名　(六)其治め方に他に異なりて著しくすぐれたるあとあり

晉書。鄧攸字伯道。平陽襄陵人。爲二河東太守一。沒二于石勒一。乃斫二壞車一。以二牛馬一負二妻子一而逃。又遇レ賊掠二其牛馬一。

伯道無兒　嵇紹不孤

晉書にいふ、鄧攸、字は伯道、平陽襄陵の人なり。河東の太守となり、石勒に沒せらる。(一)乃ち車を斫り壞られ、牛馬を以て妻子を負うて逃れ、又賊に遇うて、其牛馬を掠められ、歩走して其兒及び妻と弟の子綏を擔ふ。兩(二)全すること能はざるを度り、乃ち妻に謂て曰く、「吾が弟早く亡し、惟だ一息あり。(三)理絶つべからず。止だ自ら應に我が兒を棄つべきのみ。幸にして存するを得ば、(四)我れ後當に子ある

三徙。成ニ名於天下一。老ニ死于陶一。

楚國先賢傳。孫文寶到ニ洛陽一。在ニ大學左右一。得ニ一小屋一。安ニ止母一。然後入レ學。編ニ楊柳一爲レ簡。以寫レ經。

前漢路溫舒字長君。鉅鹿東里人。父爲ニ里監門一。使レ牧レ羊。溫舒取ニ澤中蒲一。截以爲レ牒。編用寫レ書。

文寶緝柳　溫舒截蒲

楚國先賢傳にいふ、(一)孫文寶、洛陽に到り、大學の(二)左右に在て、一小屋を得、母を安止す。然る後學に入り、(三)楊柳を編んで簡となして、以て經を寫す。

㊀孫敬の字　㊁附近　㊂楊柳の葉をつぎ合はせて木簡とす、即ち紙の代用なり。題に緝柳とあるは其事をいふ也

前漢の路溫舒、字は長君、鉅鹿東里の人なり。父は里の(一)監門たり。羊を牧せしむ。溫舒、澤中の蒲を取り、截りて以て(二)牒となし、編んで用て書を寫し、稍や習うて善し。獄の小吏たらんことを求め、因て律令を學び、轉じて獄吏となる。(三)縣中の疑事、皆問ふ。太守、縣を(四)行るとき、見て之を異とし、決曹史に署す。又春

以爲大名之下。難二以久居一。且勾踐可二與同レ患。難二與處レ安。乃裝二其輕寶珠玉一。與二其私徒屬一。乘レ舟浮レ海以行。終不レ反。適レ齊變二姓名一。自謂二鴟夷子皮一。隱耕二于海畔一。父子致レ產數千萬。齊人聞二其賢一以爲レ相。蠡嘆曰。居レ家致二千金一。居レ官至二卿相一。此布衣之極也。乃歸二相印一。盡散二其財一。以分二與知友鄕黨一。懷二其重寶一。閒行以去。止二于陶一。以爲此天下之中。交二易有無一之路通。可二以致レ富。自謂二陶朱公一。居無レ何。致レ貲累二巨萬一。天下稱二陶朱公一。故范蠡

適き姓名を變じ、自ら鴟(四)夷子皮と謂ふ。隱れて海畔に耕し、父子產を致すこと數千萬。齊人其賢を聞き以て相と爲さんとす。蠡、嘆じて曰く、「家に居ては千金を致し、官に居ては卿相に至れり。此れ(五)布衣の極なり」と。乃ち相の印を歸し、盡く其財を散じて、以て知友鄕黨に分與し、其(六)重寶を懷き(七)閒行して以て去る。陶に止り、以爲らく、此れ天下の中、有無を交易するの路通ず。以て富を致すべしと。自ら陶朱公と謂ひ、居ること何もなく、(八)貲を致して巨萬を累ぬ。天下、陶朱公と稱す。故に范蠡三たび徙り、名を天下に成し、陶に老死す。

(一) 越王勾踐が吳王夫差に會稽山に破られて降伏せし其恥辱 (二) 大なる名譽を揚げたる後は其地位に永く居る事は難し (三) 手輕なる寶物 (四) 鴟夷は酒を盛る革囊、吳王夫差其臣子胥の諫を惡み殺して鴟夷に盛りて棄てし事あり、身をそれに擬して斯く號せるにや (五) 賤しき素姓の出 (六) 重要なる寶 (七) しのびて間道より行く (八) 財貨

圍城之中一者上。皆有ㇾ求ニ於平原君一。今觀ニ先生之玉貌一。非ニ有ㇾ求者一。曷爲久居ニ此圍城之中一而不ㇾ去。仲連曰。世以ニ鮑焦一爲下無ニ從頌一而死上者。皆非也。衆人不ㇾ知。則爲ニ一身一。彼秦棄ニ禮義一。上ニ首功一之國也。權使ニ其士一。虜使ニ其民一。彼即爲ㇾ帝。則連蹈ニ東海一而死耳。不ㇾ忍ㇾ爲ニ之民一也。於ㇾ是衍不ニ敢復言ㇾ帝ㇾ秦。平原君欲ㇾ封ㇾ之。遂辭去。終身不ニ復見一。

することを言はず。平原君之を封ぜんと欲す。(九)遂に辭し去り、終身復見えず。

(一) 奇偉はめづらしくして大なり、俶儻は人に異なりて大志あるさま、畫策ははかりごと (二) 魏は大梁に都す、故に梁ともいふ也 (三) 圍まれたる城、即ち邯鄲城 (四) 古昔鮑焦が木を抱きて立往生せし故事、從頌はおちつける貌、即ち鮑焦の死を寛容の態度なくして死せりとするは、其眞意を解せざるものなりとの意。鮑焦の事莊子に見ゆ。焦の死せるは、世の利に趨く者を激せるにて一身の爲めには非ず。仲連の趙に留まるもの亦己一身の爲めに非ざるを喩ふる也 (五) 戰場にて首を多く斬りたるを一番の功なりとする國なり (六) 權詐、いつはり (七) 奴隸の如く其民を酷使す (八) 東海に身を投げて (九) 爲仲連を

史記。范蠡事ニ越王勾踐一。苦ㇾ身戮ㇾ力。與ニ勾踐一深謀二十餘年。竟滅ㇾ吳報ニ會稽之恥一。

史記にいふ、范蠡、越王勾踐に事へ、身を苦め力を戮せ、勾踐と深く謀ること二十餘年。竟に吳を滅し、會稽(一)の恥を報ゆ。以爲らく、大名の下(二)、以て久く居り難し。且つ勾踐、與に患を同じうすべきも、與に安に處り難しと。乃ち其輕寶珠(三)玉を裝ひ、其私徒の屬と、舟に乘り海に浮びて以て行り、終に反らず。齊に

史記。魯仲連齊人。好二奇偉俶儻之畫策一。不レ肯二仕官一。游二於趙一。會秦圍二邯鄲一。而魏使新垣衍欲レ令下趙尊二秦昭王一爲レ帝。仲連乃見二平原君一曰。梁客新垣衍安在。吾請爲レ君責而歸レ之。平原君。請爲二紹介一見レ衍。衍曰。吾視下居二此

仲連蹈海　范蠡泛湖

史記にいふ、魯仲連は齊人なり。奇偉俶儻の畫策を好み、肯て仕官せず、趙に遊ぶ。會ゝ秦、邯鄲を圍みて、魏の使新垣衍、趙をして秦の昭王を尊びて帝と爲さしめんと欲す。仲連乃ち平原君に見えて曰く、「梁客新垣衍安にかある。吾請ふ君の爲に責めて之を歸さん」と。平原君請うて紹介を爲して衍に見えしむ。衍曰く、「吾此圍城の中に居る者を視るに、皆平原君に求むることあり。今先生の玉貌を觀るに、求めある者にあらず、曷爲れぞ久しく此圍城の中に居りて去らざるか。」仲連曰く、「世鮑焦を以て從頌なくして死せりと爲すは皆非なり。衆人知らずして、則ち一身の爲とす。彼の秦は禮義を棄て首功を上ぶの國なり。權をもつて其士を使ひ、虜をもつて其民を使ふ。彼れ卽し帝と爲らば、則ち連、東海を蹈みて死せんのみ。之が民と爲るに忍びず」と。是に於て衍敢て復秦を帝と

舊注云。漢董永。少失レ母養レ父。家貧傭力。至二農月一。以二小車一推レ父。置二田頭陰樹下一。而營二農作一。父死。就二主人一貸二錢一萬一。約二賣レ身爲ヒレ奴。遂得レ錢葬レ父。還於レ路忽遇二婦人一。姿容端美。求レ爲二永妻一。永與倶詣二主人一。令二永妻織ヒレ縑。三百匹。放二汝夫妻一。乃織一月而畢。主人怪二其速一。遂放レ之。相隨至二舊相遇處一。辭レ永曰。我天之織女也。緣二君至孝一。天帝令レ助レ君償ヒレ債。言訖凌レ空而去。

舊注に云く、漢の董永は、少にして母を失ひ、父を養ふ。家貧にして傭力(一)す。農月に至れば小車を以て父を推し、田頭陰樹の下に置きて、農作を營む。父死す。主人に就きて錢一萬を貸り、身を賣り奴と爲らんと約す。遂に錢を得て父を葬る。還るとき路に於て忽ち婦人に遇ふ。姿容端美、永が妻たらんことを求む。永與に倶に主人に詣る。永が妻をして縑(二)を織らしめ、三百匹(三)にして汝夫妻を放たんと。乃ち織ること一月にして畢る。主人其速なるを怪み、遂に之を放つ。相隨ひて舊相遇ひし處に至り、永に辭して曰く、「我は天の織女なり。君が至孝に緣り、天帝君を助けて債を償はしむ」と。言ひ訖り空を凌ぎて去る。

(一) 人に雇はれて働く　(二) かとりぎぬ、織方の緻密なる一種の絹布　(三) 布帛の幅二尺五寸、長さ四丈の稱

見二匈奴來者一。問下衆與二單于一爭レ禮之狀上。皆言。衆意氣壯勇。雖二蘇武一不レ過。復召爲二軍司馬一。終二大司農一。

郭巨將坑　董永自賣

舊注に孝子傳を引きて云く、後漢の郭巨家貧しくして老母を養ふ。妻一子を生む。（一）三歲より、母常に食を減じて之に與ふ。巨、妻に謂て曰く、「貧乏にして供給すること能はず。汝と共に子を埋めん。子は再び有すべし。母は再び得べからず」と。妻敢て違はず。巨遂に坑を掘ること（二）二尺餘。忽ち黃金一釜を見る。釜上に云ふ、『天、孝子郭巨に賜ふ。官も奪ふことを得ず。人も取ることを得ず』と。

（一）生後三年を過ぎて即ち乳に離れてより　（二）郭巨の母即ち子の祖母なり

舊注引二孝子傳一云。後漢郭巨家貧養二老母一。妻生二一子一。三歲。母常減レ食與レ之。巨謂レ妻曰。貧乏不レ能二供給一。共レ汝埋レ子。子可二再有一。母不レ可二再得一。妻不二敢違一。巨遂掘レ坑二尺餘。忽見二黃金一釜一。釜上云。天賜二孝子郭巨一。官不レ得レ奪。人不レ得レ取。

永平初以レ明レ經給ニ事中一。八年遣レ衆持レ節使ニ匈奴一。衆至ニ北庭一。虜欲レ令レ拜。衆不ニ爲屈一。單于大怒。圍守閉レ之。不レ與ニ水火一。欲ニ脅服一衆拔レ刀自誓。單于恐而止。後。復遣レ衆。衆言。臣前奉レ使。不下爲ニ匈奴一拜上。單于恚恨。遣レ兵圍レ臣。今復銜レ命。必見ニ陵折一。臣誠不レ忍下持ニ大漢節一對ニ氈裘一獨拜上。帝不レ聽。衆既行。在レ路連上書固爭。詔追還。繫ニ廷尉一。會レ赦歸レ家。後帝

圍守して之を閉ぢ、水火を與へずして、脅し服けんと欲す。衆、刀を(三)拔き自ら誓ふ。單于恐れて止む。後復衆を遣さんとす。衆言ふ「臣先に使を奉じ、匈奴の爲に拜せざりしかば、單于恚恨(四)し、兵を遣し臣を圍みき。今復命を銜まば、必ず(五)陵折せられん。臣誠に大漢の節を持ち氈裘(六)に對して獨り拜するに忍びず」と。帝聽さず。衆既に行き、路にありて連に上書し固く爭ふ。詔して追還し、(七)廷尉に繫ぐ。赦に會ひ家に歸る。後、帝、匈奴より來る者を見、衆と單于と禮を爭ひし狀を問ふ。皆言ふ「衆の意氣壯勇にして、蘇武と雖も過ぎず」と。復召して軍司馬と爲す。大司農に終る。

(一) 禁中に給事する也 (二) 匈奴は漢より北に當る故その朝廷を北庭といふ (三) 刀を拔きて自殺を示し、決して拜せざるを誓ひし也 (四) いかりうらむ (五) しのぎくじく (六) 匈奴を指す、毛皮の服を著けたるよりいふ (七) 廷尉に引きわたして獄舎につなぐ

上一。使レ牧レ羝。羝乳乃得レ歸。武杖二漢節一牧レ羊。臥起操持。節旄盡落。昭帝立。匈奴與レ漢和親。漢求二武等一。匈奴詭言武死。常惠教二漢使者一言。天子射二上林中一得レ雁。足有レ係二帛書一。言在二某澤中一。由レ是得レ還。拜爲二典屬國一。秩中二千石。賜二錢二百萬。公田二頃。宅一區一。武留二匈奴一十九歳。始以二強壯一出。及レ還鬚髮盡白。至二宣帝時一。以二武著レ節老臣一。令レ朝二朔望一。號稱二祭酒一。年八十餘卒。後圖二畫於麒麟閣一。法二其形貌一。署二其官爵姓名一。

して典屬國と爲す。秩中二千石。錢二百萬、公田(一〇)二頃、宅一區を賜ふ。武、匈奴に留ること十九歳。始め強壯を以て出で、還るに及びて鬚髮盡く白し。宣帝の時に至り、武の節を著す老臣たるを以て、朔望(一一)に朝せしめ、號して祭酒と稱す。年八十餘卒す。後、麒麟閣に圖畫し、其形貌に法り、其官爵姓名を署す。

(一) 旄節、天子より將帥者たるの證として賜はる符、牛尾を以て作る (二) 匈奴の頭の稱 (三) 大なる穴倉 (四) 毛氈の毛、穴倉に敷きありし也 (五) 牡羊、雄羊 (六) 孕む (七) 節にある毛 (八) 蘇武の下役にして共に匈奴に捕はれし者 (九) 長安の御園 (一〇) 一頃は百畝 (一一) 一日と十五日

後漢鄭衆字仲師。河南開封人。精二力於學一。知二名於世一。

後漢の鄭衆、字は仲師、河南開封の人なり。學に精力にして、名を世に知らる。永平の初、經に明かなるを以て中(一)に給事す。八年衆を遣し、節を持ち、匈奴に使せしむ。衆、北庭(二)に至る。虜、拜せしめんと欲す。衆、爲に屈せず。單于大に怒り、

袁彦道一也。遂就レ局。俄頃十萬一賭。直上二百萬一。耽投レ馬絶叫。探二布帽一擲レ地曰。竟識二袁彦道一不。其通脱如レ此。仕爲二從事中郎一。

蘇武持節　鄭衆不拜

前漢蘇武字子卿。杜陵人。武帝時。以二中郎將一。持レ節使二匈奴一。單于欲レ降レ之。迺幽レ武置二大窖中一。絶不二飲食一。天雨レ雪。武臥齧レ雪。與二旃毛一并咽レ之。數日不レ死。匈奴以爲レ神。乃徙二武北海

前漢の蘇武、字は子卿、杜陵の人なり。武帝の時、中郎將を以て、節(一)を持ち匈奴に使す。單于(二)之を降さんと欲し、迺ち武を幽して大窖中(三)に置き、絶えて飲食せしめず。天、雪を雨らす。武、臥しながら雪を齧み、旃毛(四)と幷せて之を咽み、數日なるも死せず。匈奴以て神と爲す。乃ち武を北海の上に徙し、羝(五)を牧はしめ、羝乳(六)せば乃ち歸るを得んと。武、漢節を杖きて羊を牧ひ、臥起に操持し、節旄(七)盡く落つ。昭帝立つ。匈奴、漢と和親す。漢、武等を求む。匈奴詐りて言ふ、「武死せり」と。常惠(八)、漢の使者に教へ言はしむ、「天子上林(九)中に射て鴈を得。足に帛書の係れるあり。言ふ某の澤中にありと。」是に由て還ることを得たり。拜

晉袁耽字彦道。陳郡陽夏人。少有二才氣一。倜儻不羈。爲二士類一所レ稱。桓溫少時。游二于博徒一。資產俱盡。尙有二負進一。思二自報之方一。莫レ知レ所レ出。欲レ求二濟於耽一。而耽在レ艱。試以告焉。耽略無二難色一。遂變レ服懷二布帽一。隨レ溫與二債主一戲。耽素有二藝名一。債者聞レ之而不二相識一。謂レ之曰。卿當レ不レ辨レ作二

晉の袁耽、字は彦道、陳郡陽夏の人なり。少にして才氣あり。倜儻(一)にして不羈なり。士類(二)に稱せらる。桓溫少き時、博徒に游び、資產俱に盡き、尙ほ負進(三)あり。自ら報ゆるの方を思へども、出す所を知る莫し。濟を耽に求めんと欲す。而るに耽、艱(四)にあり。試に以て告ぐ。耽、略難ずる色なし。遂に服を變じ布帽を懷にして、溫に隨ひ債主と戲(五)す。耽素より藝名(六)あり。債者之を聞きて、相識らず。之に謂て曰く、「卿當に袁彦道(七)を作すを辨ぜざるべし」と。遂に局に就く。俄頃にして十萬を一たび賭け、直に百萬に上る。耽、馬を投じ絕叫し、布帽を探り地に擲ちて曰く、「竟に袁彦道を識るや不や」と。其通脫(八)此の如し。仕へて從事中郎と爲る。

(一) 他と異なりて大志あるさま　(二) 羈はたづな、世事に拘泥せざること　(三) 負債、かり　(四) 喪中に居る也。布帽は喪帽　(五) 賭博をなす　(六) 賭博の名手として有名也　(七) 賭博の名手たる袁彦道のなす妙技といふ意　(八) とゞこほりなく、己が思ひ通りに行ひて禮義に脫落せること

服五日。以報二師傅之恩一。儒者以爲レ榮。始勝毎二講授一。常謂二諸生一曰。士病レ不レ明二經術一。經術苟明。其取二青紫一。如三俛拾二地芥一。學レ經不レ明。不レ如二歸耕一。

道を傳へ德を附する人、こゝにては勝生前の恩　(四)　公卿となるをいふ、公はその綬紫、二千石以上はその綬青、故に青紫とは公卿の印綬の色にして、取るとは位に登るをいふ　(五)　俯す、かがむ。俯して草芥を拾ふごとく甚だ容易なるをいふ

舊注引二竹林七賢論一曰。阮簡咸之從子。亦以二曠達一自居。父喪。行遇二大雪一寒凍。遂詣二浚儀令一。令爲二他賓一設レ黍。簡食レ之。以致二清議一。廢頓幾二十年。

阮簡曠達　袁耽俊邁

舊註に竹林七賢論を引きて曰く、阮簡は咸の從子(一)、亦曠達(二)を以て自ら居る。父の喪に行きて大雪に遇うて寒凍す。遂に浚儀(三)の令に詣る。令、他賓の爲に黍(四)を設く。簡、之を食して以て清議(五)を致す。廢頓(六)せらるゝこと幾んど二十年なり。

(一)　從兄弟、いとこ　(二)　心ひろくして小事に拘泥せざること　(三)　浚儀縣の縣令の官舍　(四)　きびの飯　(五)　淸談、老莊の虛無を主とせる說　(六)　しりぞけ用ひられざること

翁。好ㇾ學修ニ父業一。尤謙遜下ㇾ士。復以ㇾ明ㇾ經。歷ㇾ位至ニ丞相一。故鄒魯諺曰。遺ニ子黄金滿籯一。不ㇾ如ニ一經一。玄成相ニ元帝一十年。守ㇾ正持ㇾ重。不ㇾ及ㇾ父。而文采過ㇾ之。

たしと君に乞ふ也、因て老臣の致仕するをいふ ㊁ 十六兩を一斤となす、百斤は卽ち一千六百兩也 ㊂ 第はやしきなり、一區は一箇所に同じ ㊃ 末の子 ㊄ 三四斗の量を受け納るゝ竹器也 ㊅ 天下の大任を負ふこと ㊆ 威儀堂々として文飾ある風采

前漢夏侯勝字長公。東平人。少好ㇾ學。爲ㇾ人質朴守ㇾ正。簡易亡ニ威儀一。宣帝時遷ニ太子太傅一。受ㇾ詔撰ニ尚書論語說一。賜ニ黄金百斤一。年九十卒ㇾ官。初勝授ニ太后尚書一。故賜ニ錢二百萬一。素

前漢の夏侯勝字は長公、東平の人なり。少にして學を好む。人となり質朴にして正を守り、(一)簡易にして威儀なし。宣帝の時太子の太傅に遷る。詔を受けて尚書・論語の說を撰ぶ。黄金百斤を賜ふ。年九十にして官に卒す。初め勝、太后に尚書を授く。故に錢二百萬を賜ひ、(二)素服すること五日、以て(三)師傅の恩に報ゆ。儒者以て榮となす。始め勝は講授する每に、常に諸生に謂て曰く、「士は經術に明かならざるを病む。經術苟くも明かなれば、其れ(四)青紫を取ること、(五)俛して地芥を拾ふが如し。經を學びて明かならざれば、歸りて耕すに如かず」と。

㊀ 何事にも簡略平易に行ひて禮儀作法に頓着せず ㊁ 白衣を服して師の恩に報いしなり、白衣は喪服なり ㊂

轉輪不レ得レ息。

前漢韋賢字長孺。魯國鄒人。爲レ人質朴少レ欲。篤ニ志於學一。兼ニ通禮尚書一。以レ詩教授。號稱ニ鄒魯大儒一。宣帝時。爲ニ丞相一。以ニ老病一乞ニ骸骨一。賜ニ黃金百斤一。加ニ第一區一。丞相致仕自レ賢始。少子玄成字少

韋賢滿籯　夏侯拾芥

前漢の韋賢字は長孺、魯國鄒の人なり。人となり質朴にして欲少し。志を學に篤くし、禮、尚書に兼ね通じ、詩を以て教授す。號して鄒魯の大儒と稱す。宣帝の時、丞相となり、老病を以て骸骨(一)を乞ふ。黃金百斤(二)を賜ひ、第(三)、一區を加ふ。丞相の致仕は賢より始まる。(四)少子玄成字は少翁、學を好み父の業を修め、尤も謙遜にして士に下る。復經に明かなるを以て、位を經て丞相に至る。故に鄒魯の諺に曰く、『子に黃金滿籯(五)を遺すは、一經に如かず』と。玄成元帝に相たること十年、正を守り重(六)を持することは、父に及ばざれども、而も文采(七)は之に過ぎたり。

(一) 骸骨は身體といふに同じ。官に仕ふるには身を君に捧げたるものなれば、官を辭するに際し、吾が骸骨を賜はり

倚柱而嘯。鄰婦曰。何嘯之悲。子欲嫁耶。女曰。吾豈爲不嫁而悲哉。吾憂魯君老而太子幼也。鄰婦笑曰。此魯大夫之憂。婦人何與。女曰。不然。昔晉客舍吾家。繫馬園中。馬佚馳走踐吾葵。使我終歲不食葵。鄰女奔隨人亡。其家倩吾兄行追之。逢霖水出溺死。令吾終身無兄。吾聞河潤九里。漸洳三百步。夫魯國有患。君臣父子皆被其辱。禍及衆庶。婦人獨安所逃乎。居三年。魯果內亂。齊楚攻之。連有寇。男子戰鬬。婦人

の君老いて太子の幼きを憂ふるなり。」鄰婦笑つて曰く、「此れ魯の大夫の憂なり。婦人何ぞ與らんや。」女曰く、「然らず。昔晉の客吾が家に舍り、馬を園中に繫ぐ。馬佚(三)して馳せ走り、吾が葵を踐み、我をして終歲葵を食はざらしむ。鄰女奔りて人に隨ひて亡ぐ。其家吾が兄を倩(四)ひ行きて之を追はしむ。霖(五)水の出づるに逢ひて溺死し、吾をして終身兄なからしむ。吾れ聞く河(六)潤九里漸洳三百步と。夫れ魯國患あらば、君臣父子皆其辱を被り、禍衆庶に及ばん。婦人獨り安ぞ逃るゝ所あらんや」と。居ること三年、魯果して內亂ありて、齊楚之を攻め、連に寇あり。男子は戰鬬し、婦人は轉輸(七)して息ふことを得ず。

(一) 嫁入時を過ぐる也 (二) 魯の穆公を指す (三) 逸におなじ、馬のはなれ走る事 (四) 雇におなじ (五) 三日以上降り續く雨をいふ。ながあめ (六) 大河の土をうるほすこと九里の遠きに及び、漸次に土をうるほす水といへども三百步の廣きに及ぶとなり、以て魯國の憂延いて衆庶に及ぶべきを譬へし也 (七) 糧食兵器をはこび送る

瘤何傷。王大悅曰。此賢女也。命ニ後乘一載レ之。女曰。父母在レ內。使ニ妾不レ受レ教而隨ヒ王。是奔女也。王安用レ之。王大慙。遣レ歸。使下使者奉レ禮。加ニ金百鎰一。往聘贈レ之。父母驚惶。欲三洗浴加ニ衣裳一。女曰。如レ是見レ王。變レ容更レ服。不レ見レ識也。於レ是如レ故隨ニ使者一至。閔王以爲レ后。出レ令卑ニ宮室一。塡ニ池澤一損レ膳減レ樂。後宮不レ得レ重レ采。期月之閒。化行ニ鄰國一。諸侯朝レ之。侵ニ三晉一。懼ニ秦楚一。宿瘤有レ力焉。及ニ死後一。燕遂居レ齊。閔王逃亡而弑ニ於外一。

卑くし、池澤を塡め、膳を損じ樂を減じ、後宮采(七)を重ぬることを得ず。期月の閒(八)に、化鄰國に行はれ、諸侯之に朝す。三晉(九)を侵し、秦楚を懼れしむ。宿瘤力あり。(一〇)死後に及び、燕遂に齊を居り、閔王逃亡して外に弑せらる。

(一) こぶ、宿は舊也、むかしよりあるこぶ　(二) 心に違はじと守ること　(三) 謂は爲也　(四) 後車　(五) 正式に婚せずして男女の交を結ぶ女、淫奔なる女　(六) 金貨の目方の名、異說あれど普通二十兩をいふ　(七) 衣服に色采を重ぬる也　(八) 滿一ケ年間　(九) 韓・魏・趙　(一〇) 以上の事に宿瘤の與りて力ありしをいふ

古列女傳。魯漆室邑之女。過レ時未レ適レ人。當ニ穆公時一。君老太子幼。女

古列女傳にいふ、魯の漆室邑の女、時を過ぎて未だ人に適かず。(一)穆公の時に當り、君老い太子幼し。女柱に倚りて嘯く。鄰婦曰く、「何ぞ嘯くことの悲しき。(二)子嫁せんと欲するや。」女曰く、「吾れ豈に嫁せざるがために悲まんや。吾は魯

古列女傳。齊閔王之后。頸有二大瘤一。號曰二宿瘤一。初閔王出遊至二東郭一。百姓盡觀。宿瘤採レ桑如レ故。王怪問曰。寡人出遊。百姓無二少長一。皆來觀。汝不二一視一。何也。對曰。妾受二父母教一採レ桑。不レ受三教觀二大王一。王曰。此奇女。惜哉宿瘤。女曰。婢妾之職。屬二之不二一。予之不レ忘二中心一。謂レ何。宿

古列女傳にいふ、齊の閔王の后は、頸に大なる瘤あり。號じて宿瘤といふ。初め閔王出遊して東郭に至る。百姓盡く觀る。宿瘤桑を採ること故の如し。王怪み問ひて曰く、「寡人出遊す。百姓少長となく、皆來り觀る。汝一も見ざるは何ぞや。」對へて曰く、「妾父母の教を受けて桑を採る。教として大王を視ることを受けず。」王曰く、「此れ奇女なり。惜いかな宿瘤あり。」女曰く、「婢妾の職は之を不二に屬す。(二)予の中心に忘れずんば何をか謂ん。(三)宿瘤何ぞ傷まん。」王大に悅びて曰く、「此れ賢女なり」と。(四)後乘に命じ之を載せんとす。女曰く、「父母內にあり。妾をして教を受けずして王に隨はしめば、是れ奔女なり。(五)王安ぞ之を用ひん」と。王大に慙ぢ、歸らしめ、使者をして禮を奉じ金百鎰(六)を加へ、往き聘して之を贈らしむ。父母驚惶し、洗浴して衣裳を加へんと欲す。女曰く、「是の如くにして王に見えたり。容を變へ服を更めなば識られざらん」と。是に於て故の如くにして使者に隨ひ至る。閔王以て后となす。令を出し宮室を

眞。滎陽陽武人。進征虜將軍豫州刺史。與西陽太守樊峻。以萬人守邾城。石虎遣一萬騎攻之。城陷。寶等率左右突圍出。赴江死者六千人。寶亦溺死。初寶在武昌。軍人有於市買得一白龜長四五寸養之。漸大放諸江中。邾城之敗。養龜人。被鎧持刃。自投於水中。如覺墮一石上。視之乃先所養白龜。長五六尺。送至東岸。遂得免焉。

峻と、萬人を以て邾城を守る。石虎(一)一萬騎をして之を攻めしむ。城陷り、寶等左右を率ゐ、(二)圍を突きて出で、(三)江に赴き死する者六千人、寶も亦溺死す。初め寶の武昌にありしとき、軍人の市に於て一の白龜長さ四五寸なるを買ひ得て之を養ふものあり。(四)漸く大にして諸を江中に放つ。邾城の敗に、龜を養ひし人、鎧を被り刀を持ち、自ら水中に投ず。一石上に墮つるを覺ゆるが如し。之を視れば乃ち先に養ひし所の白龜なり。長さ五六尺あり。送られて東岸に至り、遂に免るゝを得たり。

(一)後趙主第三世、字は季龍、石勒の養子也　(二)近侍の手兵　(三)揚子江を渡らんとして、おぼれ死するもの　(四)成長したる後

宿瘤採桑　漆室憂葵

蟻所困。寶取之以歸。置巾箱中。唯食黃花。百餘日毛羽成。乃飛去。其夜有黃衣童子。向寶再拜曰。我西王母使者。君仁愛救拯。實感成濟。以白環四枚與寶。令君子孫潔白位登三事。當如此環矣。寶哀平世。隱居教授。王莽徵之。遂逃遁。光武高其節。公車特徵不到。子震。安帝時爲大尉。震子秉。桓帝時爲大尉。秉子賜。靈帝時爲大尉。賜子彪。獻帝時爲大尉。魏文帝時。復爲大尉。震至彪四世大尉。德業相繼。

實に成濟(六)を感ず」と。白環四枚を以て寶に與へ、「君が子孫をして潔白にして位三事(七)に登り、當に此の環の如くならしめん」と。寶、哀平の世に隱居して教授す。王莽之を徵せども、遂に逃遁す。光武其節を高しとし、公車に特に徵せども到らず。子の震は、安帝の時太尉となり、震の子の秉は、桓帝の時太尉となり、秉の子の賜は、靈帝の時太尉となり、賜の子の彪は、獻帝の時太尉となり、魏の文帝の時、復大尉となる。震より彪に至るまで四世の大尉、德業相繼ぐ。

(一) 雀の子 (二) ふくろふ (三) 螘はけら、蟻はあり也 (四) 手拭、櫛などを納るゝ箱 (五) 菊花也、菊は延命の藥なるを以て (六) 成長を遂げたること (七) 三公

晉毛寶字碩

晉の毛寶字は碩眞、滎陽陽武の人なり。征虜將軍豫州刺史に進み、西陽太守樊

治。成恭皇后父也。性純和美ニ姿容一。有レ盛ニ名於江左一。王羲之目レ之。膚若ニ凝脂一。眼如ニ點漆一。此神仙人也。桓彝亦曰。衞玠神清。杜乂形淸。仕爲ニ丹陽丞一。

名あり。王羲之之を目して(三)、「膚は凝脂の若く、眼は點漆の如し。此れ神仙の人なり」と。桓彝亦曰く、「衞玠は神清(四)なり。杜乂は形清(五)なり」と。仕へて丹陽の丞となる。

(一) 心純粋にして温和なること　(二) 江東、即ち東晉の朝をいふ　(三) 稱へて曰く　(四) 精神の清きこと　(五) 容貌の清きこと

楊寶黃雀　毛寶白龜

續齊諧記。楊寶年九歳時。至ニ華陰山北一。見下一黄雀爲ニ鴟梟一所レ搏。墜ニ於樹下一。爲ニ螻

續齊諧記にいふ、楊寶年九歳の時、華陰山の北に至り、一黄雀(一)の鴟梟(二)に搏たれ樹下に墜ちて、螻蟻(三)に困めらるゝを見る。寶之を取りて以て歸り、巾箱(四)の中に置き、唯だ黄花(五)を食はしむ。百餘日にして毛羽成り、乃ち飛び去る。其夜黄衣の童子あり。寶に向ひ再拜して曰く、「我は西王母の使者なり。君仁愛にし救拯す。

儒一善待レ之。凡相二兩國一輔主。正レ身以率レ下。數上疏諫爭。敎二令國中一。所レ居而治。及レ去レ位。不レ問二家産業一。以二修レ學著レ書爲レ事。朝廷有二大議一。使二使者就問一レ之。其對皆有二明法一。自二魏其武安侯爲一レ相。而隆レ儒。及二仲舒對冊一。推二明孔氏一。抑二黜百家一。立二學校之官一。州郡擧二茂才孝廉一。皆自二仲舒一發レ之。以レ壽終レ家。徙二茂陵一。子及孫皆至二大官一。

平叔傅粉　弘治凝脂

魏志。何晏字平叔。南陽宛人。尚二金鄕公主一。爲二吏部尙書駙馬都尉一。世說曰。平叔美レ姿。面至白。明帝疑二其傅一レ粉。夏月令レ食二湯𩜺一。汗出。以レ巾拭レ之。轉皎白也。

魏志にいふ、何晏字は平叔、南陽宛の人なり。金鄕公主を尙り、(一)吏部尙書駙馬都尉となる。世說に曰く、平叔姿美しく、面至つて白し。明帝其粉を傅く(二)るを疑ひ、夏月湯𩜺(三)を食はしむ。汗出づ。巾を以て之を拭ふに、轉た皎白(四)たり。

(一) 天子の女を娶るをいふ　(二) 付也、卽ちおしろいをつくるをいふ　(三) にたてたる𩜺、餛飩の類をいふ　(四) 透き通れる如く白きこと

晉杜乂字弘

晉の杜乂字は弘治、成恭皇后の父なり。性純和にして(一)姿容美なり。江左(二)に盛

王帝兄。素驕。好勇。仲舒以禮誼正。王敬重焉。治國以春秋災異之變。推陰陽所以錯行。求雨閉諸陽。縱諸陰。其止雨反是。行之得所欲。公孫弘治春秋。不如仲舒。希世用事。位至公卿。仲舒以弘爲從諛。弘嫉之。乃言之於上。使相膠西王。王亦帝兄。尤縱恣。聞仲舒大

膠西王に相たらしむ。王も亦帝の兄にして尤も縱恣なり。(八) 仲舒が大儒なるを聞き、善く之を待つ。凡そ兩國の驕主に相として、身を正して以て下を率ゐ、數〻上疏して諫爭し、國中に敎令す。居る所として治る。位を去るに及び、家の産業を問はず、學を修め書を著すを以て事となす。朝廷に大議あれば、使者をして就きて之を問はしむ。其對皆明法あり。(九) 魏其武安侯の相たるよりして、儒を隆にす。(一〇) 仲舒の對冊するに及び、孔氏を推明し、百家を抑へ黜く。學校の官を立て、州郡に茂才孝廉を擧ぐること、皆仲舒より之を發す。壽を以て家に終る。茂陵に徙り、子及び孫皆大官に至る。

(一) 學びて其奧義に通ず (二) 弟子の新舊により、舊弟子が師に代りて新弟子に敎ふる也 (三) 室に閉ぢ籠りて讀書し園にも出でざること三年 (四) 春秋にあらはれたる天災地變の例に立脚して、陰陽二氣のまじり行はるゝ原理を推しきはむ (五) 凡ての陽に向ふ南門を閉ぢて火を擧ぐる事を禁じ、凡ての陰に向ふ北門を開き、水をそゝぐが如き類をいふ (六) 公孫弘は世に用ひられ政事を行はんと欲したり (七) へつらひしたがふ (八) わが儘にして檢束なきこと (九) 明かなる法度 (一〇) 孔夫子の道を明かにして世にひろむ

門濟レ思。絶二慶弔之禮一。戸牖牆壁。各置二刀筆一。著二論衡八十五篇一。釋二物類同異一。正二時俗嫌疑一。刺史辟爲二從事一。轉二治中一。自免還レ家。肅宗詔公車徵不レ行。

て王充を公車に徴す。公車は官署の名、詔を待つ者皆こゝに居て命を待つ也

前漢董仲舒。廣川人。少治二春秋一。孝景時爲二博士一。下レ帷講誦。弟子傳以二久次一相二授業一。或莫レ見二其面一。蓋三年不レ窺レ園。其精如レ此。進退容止。非レ禮不レ行。學士皆師二尊之一。武帝時。學二賢良一對策。爲二江都相一。事二易王一。

前漢の董仲舒は、廣川の人なり。少にして春秋を治め、孝景の時博士となる。帷を下して講誦し、弟子傳ふるに久次を以て業を相授く(一)。或は其面を見ること莫し。蓋し(三)三年園を窺はず(二)。其精此の如し。進退容止、禮にあらざれば行はず。學士皆之を師とし尊ぶ。武帝の時、賢良に擧られて對策す。江都の相となり、易王に事ふ。王は帝の兄にして素より驕りて勇を好む。仲舒禮誼を以て正す。王敬重す。國を治むるに(四)春秋災異の變を以てし、陰陽の錯行する所以を推す。雨を求むるには諸陽を閉ぢて諸陰を縱つ。其雨を止るには是に反す。之を行へば欲する所を得。(五)公孫弘春秋を治むれども、仲舒に如かず。(六)世に事を用ひんことを希ひ、位公卿に至る。仲舒、弘を以て(七)從諛となす。弘之を嫉み、乃ち之を上に言し、

不ㇾ受二不臣之怨一。如其無ㇾ知怨ㇾ之何益。故不ㇾ爲也。上善二其對一。憐二閔之一。賜二黃金百斤一。

後漢王充字仲任。會稽上虞人。家貧無ㇾ書。常遊二洛陽市肆一。閱二所ㇾ賣書一。一見輒能誦憶。遂博通二衆流百家之言一。仕ㇾ郡爲二功曹一。充好二論說一。始若二詭異一。終有二理實一。以爲俗儒守ㇾ文。多失二其眞一。乃閉ㇾ

王充閱市　董生下帷

後漢の王充字は仲任、會稽上虞の人なり。家貧にして書なし、常に洛陽の市肆に遊び、賣る所の書を閱し、一見輒ち能く誦憶す。遂に博く衆流百家(一)の言に通じ、郡に仕へて功曹となる。充、論說を好む。始は詭異(二)なるが若くなるも、終には理實あり。以爲らく、俗儒文を守り、多く其眞を失すと。乃ち門を閉ぢ思を潛め、慶弔の禮を絕ち、戸牖牆壁に、各〻刀筆(三)を置き、論衡八十五篇を著し、物類の同異(四)を釋し、時俗の嫌疑(五)を正す。刺史辟して從事となし、治中(六)に轉じ、自ら免じて家に還る。肅宗詔して公車(七)に徵しゝも行かず。

(一)諸流の學　(二)奇怪不思議　(三)筆也、古代竹簡に漆書し、誤まれば刀にて削る、故に書字の具を刀筆といふ也　(四)さまざまなる物の同異を解釋し　(五)世間の迷ひ疑へるを正す　(六)亦州の刺史の輔佐の官也　(七)詔し

倢伃。越騎校尉況之女。帝游二後庭一。嘗欲二同レ輦載一。辭曰。觀二古圖畫一。賢聖之君。皆有二名臣一在レ側。三代末主。迺有二嬖女一。今欲レ同レ輦。得レ無レ近二似之一乎。上善二其言一而止。太后聞レ之喜曰。古有二樊姬一。今有二班倢伃一。後趙飛燕。譖下告許皇后與二倢伃一挾二媚道一。祝二詛後宮一。詈及中主上上。考二問倢伃一。對曰。妾聞。死生有レ命。富貴在レ天。修レ正尚未レ蒙レ福。爲レ邪欲二以レ何望一。使二鬼神有一レ知。

して載らんと欲す。辭して曰く、「古の圖畫を見るに、賢聖の君には、皆名臣ありて側にあり。三代の末主(一)には迺ち嬖女(二)あり。今輦を同じうせんと欲するは、之に近似することなきを得んや」と。上其言を善しとして止む。太后之を聞き、喜びて曰く、「古へ樊姬(三)ありき。今班倢伃あり」と。後、趙飛燕、「許皇后と倢伃とは、媚道(四)を挾み、後宮を祝詛(五)し、詈り主上に及ぶ」と譖告す。倢伃を考問す。對へて曰く、「妾聞く、死生命あり(六)、富貴天にありと。正を修むるも尙ほ未だ福を蒙らず、邪をなして何を以てか望むことを欲せんや。鬼神をして知ることあらしめば、不臣の愬(七)を受けざらん。如し其れ知ることなければ、之を愬ふるも何の益かあらん。故にせざるなり」と。上其對を善しとし、之を憐閔して黃金百斤を賜ふ。

(一) 夏の桀・殷の紂・周の幽王　(二) 氣に入りの女　(三) 楚の莊王の夫人、王田（かり）を好む、姬、禽獸の肉を食はずして之を諫止す　(四) こびを求むる道　(五) 鬼神に祈りてのろふ　(六) 論語顏淵篇の語　(七) 主上を祝詛する愬

前漢元帝馮昭儀。左將軍奉世女。平帝祖母也。拜倢伃。內寵與傅昭儀等。上幸虎圈鬬獸。後宮皆坐。熊佚出圈。攀檻欲上殿。左右貴人傅昭儀等皆驚走。倢伃直前。當熊而立。上問。人情驚懼。何故前當熊。對曰。猛獸得人而止。妾恐熊至御坐。故以身當之。上嗟嘆。倍敬重焉。

馮媛當熊　班女辭輦

前漢の元帝の馮昭儀(一)は、左將軍奉世の女にして、平帝の祖母なり。倢伃(二)に拜し、內寵(三)傅昭儀と等し。上、虎圈に幸して獸を鬬はしむ。後宮皆坐す、熊佚して圈を出で、檻を攀ぢて殿に上らんと欲す。左右貴人(四)傅昭儀等皆驚き走る。倢伃直に前み、熊に當りて立つ。上問ふ、「人情として驚懼すべきに、何故に前みて熊に當るぞ。」對へて曰く、「猛獸は人を得れば止む。妾熊の御坐に至らんことを恐る。故に身を以て之に當れり」と。上嗟歎し、倍〻敬重す。

(一)昭儀は女官の名　(二)女官の名　(三)後宮内の寵愛をいふ　(四)漢の女官の名

前漢成帝班

前漢の成帝の班倢伃は、越騎校尉況の女なり。帝後庭に遊び、嘗て輦を同じう

後漢郭賀字喬卿。雒陽人。建武中爲二尙書令一。曉二習故事一。多レ所二匡益一。拜二荊州刺史一。到レ官有二殊政一。百姓便レ之。歌曰。厥德仁明。郭喬卿。忠二正朝廷一。上下平。顯宗巡狩到二南陽一。特見二嗟歎一。賜以二三公之服黼黻冕旒一。敕行レ部去二襜帷一。使三百姓見二其容服一以章二有德一。每レ所二經過一。吏人指以相示。莫レ不レ榮レ之。拜二河南尹一。以二淸靜一稱。

後漢の郭賀字は喬卿、雒陽の人なり。建武中に尙書令となる。故事に曉習(一)し、匡益(二)する所多し。荊州の刺史に拜す。官に到りて殊政(三)あり。百姓之を便として、歌つて曰く、『厥德仁明、郭喬卿、朝廷に忠正にして上下平なり』と。顯宗巡狩して南陽に到る。特に嗟歎せられて、賜ふに三公の服する黼黻冕旒(四)を以てし、敕して部を行る(五)に襜帷を去り、百姓をして其容服を見しめ、以て有德を章す。經過する所每に、吏人指して以て相示し、之を榮とせざる莫し。河南の尹に拜し、淸靜(六)を以て稱せらる。

(一) あきらかに通ず (二) あやまれるを正して益するところ多しと也 (三) 從來の政事と異りたるすぐれたる政 (四) 衮(こん)衣の裳(も)、繡する模樣によりて名を異にし、黼は斧の形にて黻は兩己相戾る形をいふなり。冕は禮式のかんむり、旒は冕の前後にたれたる玉にて、位によりて玉の數を異にす (五) 荊州の部落を巡行するときは車の前のとばりをまきて、外より百姓どもの見得るやうにすとなり、襜帷は車の前のとばり (六) 無爲にして煩はしからざること

言曰。刺史當遠視廣聽。糾察美惡。何有反垂帷裳以自掩塞乎。乃命御車褰之。百城聞風竦震。其諸贓過者。望風解印綬去。初交阯屯兵反。有司擧琮爲刺史。琮到部訊其反狀。咸言賦斂過重。民不聊生。故聚爲盜賊。琮乃告示。各使安其資業。招撫荒散。蠲復徭役。百姓以安。歌曰。賈父來晩。使我先反。今見清平。吏不敢飯。在事三年。爲十三州最。

屯兵反す。有司琮を擧げて刺史となす。琮、部に到り其反狀を訊す。咸言ふ、『賦(七)斂過重にして、民生に聊ぜず。故に聚りて盜賊となる』と。琮乃ち告示し、各其資業に安ぜしめて、荒散(八)を招撫し、徭役を蠲復す。(九)百姓以て安じ、歌つて曰く、『賈父の來る晩く、(一〇)我をして先に反せしむ、今清平を見る、吏敢て飯せず』と。事にあること三年、十三州の最となる。(一一)

(一) むかしよりのしきたり、舊例 (二) 宿場の馬車、驂駕は馬を三頭立つること (三) 上に蓋ありて四方に垂れ下げる赤きとばり (四) 遠く國内の人情風俗を視、四方の訟を聽きて (五) おそれふるふ (六) 贓は賄賂(わいろ)、過は政事上のあやまち (七) 課税の重きこと (八) 田宅荒廢して人民離散せるを (九) 免ず (一〇) 歌の意は、賈父の來ること晩かりき、其爲に我等をして先に反せしめたるが、今清く平かに治まれり、これ賈父の賜なり。吏は力を民事に盡し敢て空しく其祿を食まずとの意か。賈父の父は尊稱 (一一) 第一位なり、治績のあがりし點に於て第一位となりたりとの意

邸獄一。時宣帝生數月。以二皇曾孫一。坐二衞太子事一繫。吉哀二其無一レ辜。擇二謹厚女徒一。令レ保二養之一。武帝疾。望レ氣者。言三獄中有二天子氣一。遣レ使殺二獄繫者一。內謁者令到レ獄。吉閉レ門拒レ之。乃劾二奏吉一。上寤。因赦二天下一。郡邸獄賴レ吉得レ生。恩及二四海一。曾孫病。吉視遇甚有二恩惠一。爲レ人深厚。不レ伐レ善。自二曾孫遭遇一。絕レ口不レ道二前恩一。後上問知下吉有二舊恩一不上レ言。大賢レ之。制詔封二博陽侯一。

ぞへにあひ、獄につながれたりとなり　(七)郭穰也　(八)丙吉の罪を調べて天子に奏聞す　(九)君病　(一〇)王位に即けるをいふ

後漢賈琮字孟堅。東郡聊城人。靈帝時爲二冀州刺史一。舊典。傳車驂駕。垂二赤帷裳一。迎二於州界一。及二琮之部一。升レ車

賈琮褰帷　郭賀露冕

後漢の賈琮字は孟堅、東郡聊城の人なり。靈帝の時冀州の刺史となる。(一)舊典に、(二)傳車驂駕し、(三)赤帷裳を垂れて、州界に迎ふ。琮の部に之くに及び、車に升り言つて曰く、「刺史は當に遠く視廣く聽き美惡を糾察すべし。何ぞ反つて帷裳を垂れて以て自ら(四)掩塞することあらんや」と。乃ち御車に命じて之を褰げしむ。百城風を聞きて(五)竦震す。其諸の(六)贓過する者、風を望み印綬を解きて去る。初め交阯の

令京兆尹。職所ㇾ當ㇾ禁備逐捕。歳竟丞相課二其殿最一。奏行二賞罰一而已。宰相不ㇾ親二小事一。非ㇾ所ㇾ當下於二道路一問上也。方ㇾ春少陽用ㇾ事。未ㇾ可二太熱一。恐牛近行。用ㇾ暑故喘。此時氣失ㇾ節。恐ㇾ有ㇾ所二傷害一。三公典ㇾ調二和陰陽一。職當ㇾ憂。是以問ㇾ之。掾史乃服以。吉知二大體一。初吉爲二廷尉監一。治二巫蠱郡

之を問ふ」と。掾史乃ち服して以へらく、「吉は大體を知れり」と。初め吉廷尉監となり、(五)巫蠱を郡邸の獄に治む。(六)時に宣帝生れて數月、皇曾孫なるを以て、衞太子の事に坐して繫がる。吉其辜なきを哀み、謹厚の女徒を擇び、之を保養せしむ。武帝、氣を望む者の、獄中に天子の氣有りと言ふを疾み、使を遣し獄に繫がれたる者を殺さしむ。(七)內謁者の令獄に到る。吉、門を閉ぢ之を拒む。(八)乃ち吉を劾奏す。上寤る。因つて天下に赦す。郡邸の獄、吉に賴りて生を得、恩四海に及ぶ。曾孫病む。吉、(九)視遇甚だ恩惠あり。人となり深厚にして、善に伐らず。曾孫の遭(一〇)遇より、口を絕ちて前恩を道はず、後上問ひて、吉が舊恩あるも言はざるを知り大に之を賢とし、制詔して博陽侯に封ず。

(一) つかれたるときの息づかひをすること (二) 道に横はれる死傷者に不審を起さずして、牛のあへぐを見て問ふは場合をあやまれるものなりとの意 (三) 殿は功の下なるもの、最は功の上なるもの。課ははかりしらぶる也 (四) 少陽の氣行はるとなり、少陽は陽氣の未だ盛ならざること (五) 巫はみこ、蠱は人形などを土中に埋めなどして人をのろふこと。まじなひ (六) 宣帝は生まれたるばかりの幼児なれども、巫蠱の主謀者たる衞太子の孫なれば、まき

容寛恕若レ此。渡レ江爲二元帝鎭東府從事中郎一。甚見二優禮一。承少有二重譽一。而推レ誠接レ物。衆咸親愛。名臣王導衞玠周顗庾亮之徒。皆出二其下一。爲二中興第一一。

前漢丙吉字少卿。魯國人。宣帝時爲二丞相一。嘗出逢二淸レ道羣鬬者。死傷橫レ道。吉過レ之不レ問。吉前行。逢二人逐レ牛。牛喘吐レ舌。吉止駐。使二騎吏問一。逐レ牛行幾里矣。掾史獨謂。丞相前後失レ問。或以譏レ吉。吉曰。民鬬相殺傷。長安

前漢の丙吉字は少卿、魯國の人なり。宣帝の時丞相となる。嘗て出でゝ道を淸め、羣鬬する者の死傷道に橫はれるに逢ふ。吉之を過ぎて問はず。吉前み行く。人の牛を逐ふに逢ふ。牛喘ぎて舌を吐く。吉止駐し、騎吏をして問はしむ。「牛を逐うて行くこと幾里ぞ」と。(一)掾史獨りいへらく、「丞相は前後問を失せり」と。或は以て吉を譏る。吉曰く、「民の鬬つて相殺傷(二)するは、長安の令・京兆の尹が、職として當に禁備逐捕すべき所なり。歲の竟に丞相は其殿最(三)を課して、奏して賞罰を行ふのみ。宰相は小事を親らせず。道路に於て問ふべき所にあらず。春に方り少陽事(四)を用ふ。未だ太だ熱すべからず。恐らくは牛近く行くに、暑を用ふるの故に喘ぐか。此れ時氣、節を失し、傷害する所あらんことを恐る。三公は陰陽を調和することを典る。職として當に憂ふべし。是を以て

晉書。王承字安期。汝南内史湛之子。爲二東海太守一。政尙二清靜一。不レ爲二細察一。小吏有下盜二池中魚一者上。綱紀推之。承曰。文王之囿與レ衆共レ之。池魚何足レ惜邪。有二犯レ夜者一。爲レ吏所レ拘。承問二其故一。答曰從レ師受レ書。不レ覺日暮。承曰。鞭二撻寗越一。以立二威名一。非二政化之本一。使二吏送一令レ歸レ家。其從

晉書にいふ、王承字は安期、汝南の内史湛の子なり。東海の太守となる。政清靜を尙び、細察をなさず。小吏に地中の魚を盜む者あり。(一)綱紀之を推す。承曰く、「文王の囿(二)は、衆と之を共にす。池魚何ぞ惜むに足らんや」と。(三)夜を犯す者あり、吏に拘へらる。承其の故を問ふ。答へて曰く、「師に從ひ書を受けて覺えずして日暮る」と。承曰く、「(四)寗越を鞭撻して、以て威名を立つるは、政化の本にあらず」と。吏をして送らしめて、家に歸らしむ。其從容寛恕(五)此の如し。(六)江を渡り元帝の鎭東府の從事中郎となり、甚だ優禮せらる。承少にして重譽あり、而して(七)誠を推し物に接す。衆咸親愛す。名臣王導・衞玠・周顗・庾亮の徒、皆其下に出づ。中興第一たり。

(一) 執法者法律にてらして之を處分せんとす　(二) その。庭園　(三) 夜中通行すべからざるところを通る者あり　(四) 寗越の如き好學者をむちうつとなり　(五) 寛大にして、おもひやりのあること　(六) 西晉破れ東晉の代となりて元帝江を渡りて建鄴に奠都せしをいふ　(七) 眞心を以て人に接する

或與レ古同。或與レ古異。世謂二之籀書一。或曰。秦時下杜人程邈。爲二衙獄吏一。得レ罪幽二繫雲陽一十年。從二獄中一作二大篆一。少者增益。多者損減。方者使レ圓。圓者使レ方。奏二之始皇一。始皇善レ之出以爲二御史一。使レ定レ書。或曰。邈所レ定乃隷字也。自三秦壞二古文一有二八體一。一曰大篆。二曰小篆。三曰刻符。四曰蟲書。五曰摹印。六曰署書。七曰殳書。八曰隷書。恆字巨山。爲二黄門郎一。與二殳瓘一同遇レ害。

こと十年、獄中より大篆を作り、少き者は增益し、多き者は損減し、(三)方なる者は圓ならしめ、圓なる者は方ならしめて、之を始皇に奏す。始皇之を善し、出して以て御史となし、書を定めしむ。或は曰く、邈が定むる所は乃ち隷字なりと。秦が古文を壞りしより、八體あり。一に曰く大篆、二に曰く小篆、三に曰く刻符(四)、四に曰く蟲書(五)、五に曰く摹印(六)、六に曰く署書(七)、七に曰く殳書(八)、八に曰く隷書なり。恆字は巨山、黄門郎となる。殳の瓘と同じく害に遇ふ。

(一) 書體を說明せる書 (二) 衙縣の獄吏 (三) 四角なるものは圓くし (四) 割符に用ふる字體 (五) 鳥蟲の形を爲し旛に書きしるす字體 (六) 印璽に用ふる字體 (七) 門額に署する字體 (八) 干戈の銘に用ふるもの

王承魚盜　丙吉牛喘

程邈隷書　史籀大篆

前漢藝文志曰。史籀篇者。周時史官教二學童一書也。與二孔氏壁中古文一異レ體。又曰。秦時始造二隷書一。起下於官獄多事。苟趣二省易一。施中之於徒隷上也。

前漢藝文志に曰く、史籀篇とは、周の時の史官が學童に敎へし書なり。孔氏の壁中(一)の古文と體を異にす。又曰く、秦の時始めて隷書を造る。官獄(二)多事なれば、苟も省易に趣かしめて、之を徒隷にも施さんとせしに起る。

(一)秦の始皇に燒かるゝを虞れ孔子の後裔孔騰が古文經典を壁中に塗り籠め隱匿せるもの、後に至り漢の武帝の末魯の共王壁中より之を得 (二)訟訴事件多きを以て、大篆にては字畫多くして不便なれば、字畫を簡略にして、之をしもべの如き者に至るまでも、使用し得るやうにするため造り出せしとなり

晉衞恆善二草隷書一。爲二字勢一曰。昔周宣王時。史籀始著二大篆十五篇一。

晉の衞恆、草隷書を善くす。『字勢』(一)を爲りて曰く、『昔周の宣王の時、史籀始めて大篆十五篇を著す。或は古と同じく、或は古と異なり。世に之を籀書といふ。

或は曰く、秦の時下杜の人程邈、衙獄(二)の吏となり、罪を得て雲陽に幽繫せらるゝ

縫合傳以ニ神膏一。四五日創愈。一月間平復。爲ㇾ人性惡。且恥ニ以ㇾ醫見ㇾ業。曹操累書呼ㇾ之。數期不ㇾ反。竟殺ㇾ之。廣陵呉普從ㇾ佗學。佗謂ㇾ普曰。人體欲ㇾ得ニ勞動一。但不ㇾ當ㇾ使ㇾ極耳。動搖則穀氣得ㇾ銷血脈流通。病不ㇾ能ㇾ生。譬猶ニ戸樞終不ㇾ朽也。古之仙者。爲ニ導引之事一。熊經鴟顧。引ニ挽腰體一。動ニ諸關節一。以求ㇾ難ㇾ老。吾有ニ一術一。名ニ五禽之戲一。一曰虎。二曰鹿。三曰熊。四曰猨。五曰鳥。亦除ㇾ病兼利ニ蹏足一。以當ニ導引一。體有ニ不快一。起作ニ一禽之戲一。怡而汗出。因以著ㇾ粉。身體輕便而欲ㇾ食。普施ニ行之一。年九十餘。耳目聰明。齒牙完堅。

求む。吾に一術あり。『五禽の戲』と名づく。一に曰く虎、二に曰く鹿、三に曰く熊、四に曰く猨、五に曰く鳥なり。亦病を除き、兼ねて蹏足を利し、以て導引に當つ。體に不快あるとき、起つて一禽の戲を作さば、怡ぎて汗出でん。因つて以て粉を著くれば、身體輕便にして食を欲す」と。普之を施行するに、年九十餘にして、耳目聰明、齒牙完堅なり。

(一)數種の經書に精通し　(二)長生の術なり　(三)わかわかしい容貌　(四)醫藥　(五)しびれぐすり　(六)ささやぶり　(七)つもれる病毒をとりさるとなり　(八)たち切つたり洗つたり　(九)效能顯著の醫藥　(一〇)たびたび歸參(曹操の許へ)する日を約して、之を履行せず　(一一)食物の消化するをいふ　(一二)戸のくるる。とぼそ　(一三)腹式呼吸の類か　(一四)熊の樹によづるが如くし、みみづくの眼をくるくるまはすごとくす。仙術の方法なり　(一五)ひくこと　(一六)蹏は蹄なり、あしなり

後漢華佗字元化。沛國譙人。兼ニ通數經一。曉ニ養性之術一。年且ニ百歳一。猶有ニ壯容一。時人以爲レ仙。精ニ於方藥一。處レ劑不レ過ニ數種一。針灸不レ過ニ數處一。若疾發結ニ於內一。針藥所レ不レ能レ及者。乃令ニ先以レ酒服ニ麻沸散一。既醉無レ所レ覺。因刳ニ破腹背一。抽ニ割積聚一。若在ニ腸胃一。則斷截湔洗除ニ去疾穢一。既而

後漢の華佗字は元化、沛國譙の人なり。(一)數經に兼ね通じ、養性の術を曉る。年且に百歳ならんとするも、猶ほ(二)壯容あり。時人以て(三)仙となす。方藥に精しく、劑を處する數種に過ぎず。針灸は(四)數處に過ぎず。若し疾發して內に結び、針藥も及ぶこと能はざる所の者は、乃ち先づ酒を以て(五)麻沸散を服せしめ、既に醉ひて覺る所なければ、因つて腹背を(六)刳破し、(七)積聚を抽割す。若し腸胃にあれば、則ち(八)斷截湔洗して疾穢を除去し、既にして縫ひ合せ、傅くるに(九)神膏を以てす。四五日にして創愈え、一月の間に平復す。人となり性惡にして、且つ醫を以て業とするを恥づ。曹操累に書を以て之を呼ぶ。(一〇)數〻期して反らず。竟に之を殺す。

廣陵の吳普、佗に從ひて學ぶ。佗、普に謂つて曰く、人體は勞働を得んことを欲す。但し極めしむべからざるのみ。動搖すれば則ち(一一)穀氣銷することを得、血脈流通し、病生ずること能はず、譬へば猶ほ(一二)戸樞の終に朽ちざるがごとし。古の仙者(一三)導引の事をなし、(一四)熊經鴟顧、腰體を(一五)引挽し、諸關節を動かし、以て老い難きを

王喬雙鳧　華佗五禽

後漢王喬。河東人。爲葉令。喬有神術。每月朔望。常自詣臺朝。顯宗怪其來數。而不見車騎。密令太史伺望之。言其臨至。輒有雙鳧。自東南飛來。於是候鳧至。擧羅張之。但得一雙舃焉。後天下玉棺於堂前。喬曰。天帝獨召我邪。乃沐浴服飾寢其中。蓋便立覆。葬於城東。百姓爲立廟。號葉君祠。

後漢の王喬は、河東の人なり。葉の令となる。喬神術(一)あり。毎月朔望(二)に、常に自ら臺に詣りて朝す。顯宗其來ること數〻にして車騎を見ざるを怪み、密かに太史をして之に伺ひ望ましむ。言ふ、其至るに臨みて輒ち雙鳧(三)ありて、南より飛び來ると。是に於て鳧の至るを候ひ、羅(四)を擧げ之を張りしに、但だ一雙(五)の舃を得しのみ。後天、玉棺を堂前(六)に下す。喬曰く、「天帝獨り我を召すか」と。乃ち沐浴服飾して其中に寢ぬ。蓋便ち立に覆ふ。城東に葬る。百姓爲に廟を立て『葉君祠』と號す。

(一)仙人の術　(二)一日、十五日　(三)二羽のけり　(四)鳥を捕ふるあみ　(五)一足のくつ　(六)縣の役所の前

袁紹之命。遁還鄉里。太祖爲相。頻加禮辟。昭往應命。自陳。一介野生。無軍國之用。歸誠求去。太祖曰。人各有志。出處異趣。免卒雅尙。義不相屈。昭乃轉居陸渾山中。躬耕樂道。以經籍自娛。閭里敬愛之。建安末。民孫狼等叛亂。自相約言。胡居士賢者。一不得犯其部落。一川賴昭。咸無怵惕。後公車特徵。會卒。摯虞作昭贊曰。投簪卷帶。韜聲匿跡。

ば、(三)誠を歸して去らんことを求む」と。太祖曰く、「人各〻志あり、出處(四)趣を異にす」と。免じて(五)雅尙を卒へしめ、(六)義相屈せず。昭乃ち陸渾山中に轉居し、躬ら耕して道を樂み、經籍を以て自ら娛む。(七)閭里之を敬愛す。建安の末、民孫狼等叛亂す。自ら相約して言ふ、『(八)胡居士は賢者なり。一に其部落を犯すことを得ざれ』と。(九)一川、昭に賴り咸(一〇)怵惕するなし。後公車(一一)特に徵す。會〻卒す。摯虞、昭の贊を作りて曰く、『(一二)簪を投じ帶を卷き、(一三)聲を韜み跡を匿す』と。

(一) 冀州は袁昭の據りし所ゆゑ、昭に召し出されしも其命を辭し (二) 只一個の野育ちの人間 (三) まごころのある所を十分にのべて (四) 出仕と家居と人々其欲する所の趣を異にす (五) 平常より尙べる所、日頃よりの好尙 (六) 義を見ては強ひて權勢を以て屈伏せしめずとなり (七) 村里の人々 (八) 居士とは官につかへざる士をいふ (九) 四縣の田地方三十里半の一區劃をいふ、周制に此周圍に一川を繞らす定め也 (一〇) おそれいたむ無し。戰禍を蒙らざりしをいふ (一一) 特に公車に徵さる。公車の解は前に出づ (一二) 簪は冠のかうがひ、帶は大帶也、それを投じ卷くとは、官につかへざる意なり (一三) 世をのがるゝこと。世事をかへりみずして、隱居すること

後漢逢萌字子慶。北海都昌人。之二長安一學。通二春秋經一。時王莽殺二其子宇一。萌謂二友人一曰。三綱絶矣。不レ去禍將レ及レ人。即解レ冠桂二東都城門一。將二家屬一浮レ海客二於遼東一。萌素明二陰陽一。知二莽將レ敗。乃首戴二瓦盎一。哭二於市一曰。新乎新乎。因遂潛藏。後光武徵不レ起。

後漢の逢萌字は子慶、北海都昌の人なり。長安に之きて學び、春秋經に通ず。時に王莽其の子の宇を殺す。(一)萌友人に謂つて曰く、「三綱絶ゆ。(二)去らずんば禍將に人に及ばんとす」と。即ち冠を解き東都の城門に挂け、家屬を將ゐて海に浮び、遼東に客たり。萌素より陰陽に明かなり。莽の將に敗れんとするを知り、乃ち首に瓦盎を戴き、(三)市に哭して曰く、「新か新か」(四)と。因りて遂に潛藏す。後光武徵しゝも起たず。

(一) 莽自身の子　(二) 君は臣の綱、父は子の綱、夫は婦の綱。君臣父子夫婦の道も亡びたりと也　(三) 瓦のほとぎ
(四) 新とは王莽の國號なり。新の亡ぶべきを歎きて斯くいふ也

魏志。胡昭字孔明。穎川人。養レ志不レ仕。始避二地冀州一。辭二

魏志にいふ、胡昭字は孔明、穎川の人なり。志を養ひて仕へず。始めて地を冀州に避く。袁昭の命を辭して、(一)郷里に遁れ還る。太祖相たりしとき、頻りに禮を加へて辟す。昭往きて命に應じ、自ら陳ぶ、「一介の野生、(二)軍國の用なけれ

曾過レ姊飯。留二錢席下一而去。每二行飲レ水。常投二一錢井中一。

㊀極めて微細なる物にても　㊁姊を訪うて飯をもてなされしに　㊂他所に行きて

後漢雷義字仲公。豫章鄱陽人。初爲二郡功曹一。擢二擧善人一不レ伐二其功一。義嘗濟二人死罪一。罪者後以二金二斤一謝。不レ受。金主伺二義不在一。默投二金於承塵上一。後葺二理屋宇一。乃得レ之。金主已死。無レ所二復還一。乃以付二縣曹一。後拜二侍御史一。除二南頓令一。

後漢の雷義字は仲公、豫章鄱陽の人なり。初め郡の功曹となり、善人を擢擧し、其功に伐らず。義嘗て人の死罪を濟ふ。㊀罪者後に金二斤を以て謝す。受けず。金主、義の不在を伺ひ、默して金を承塵㊁の上に投ず。後屋宇を葺理して、乃ち之を得たり。金主已に死し、復還す所なし。乃ち以て縣曹㊂に付す。後侍御史に拜し、南頓の令に除せらる。

㊀死罪に定まりし者を助く　㊁なげし、長押　㊂縣の役人に渡して其保留方を依頼せる也

逢萌挂冠　胡昭投簪

宓子賤治二單父一。彈二鳴琴一。身不レ下レ堂。而單父治。巫馬期以レ星出。以レ星入。日夜不レ居。以レ身親レ之。而單父亦治。巫馬期問二其故一。宓子曰。我之謂レ任レ人。子之謂レ任レ力。任レ力者故勞。任レ人者故逸。

して單父治まる。巫馬期(二)星を以て出で、星を以て入り、日夜居らず(三)、身を以て之を親す。而して單父亦治まる。巫馬期其故を問ふ、宓子曰く、「我は之を人に任すといふ。子は之を力に任すといふ(四)。力に任する者は故より勞す。人に任する者は故より逸す(五)」と。

(一) 縣の名　(二) 早朝星のある内より出て夜星を戴いて歸る　(三) 家に安居せず　(四) 何も彼も自分一個の力にて爲さんとす　(五) 安逸なり

郗廉留錢　雷義送金

風俗通。郗子廉飢不レ得レ食。寒不レ得レ衣。一介不レ取二諸人一。

風俗通にいふ、郗子廉飢うれども食を得ず。寒ゆれども衣を得ず。(一)一介も諸を人に取らず。曾て(二)姉に過ぎりて飯す。錢を席の下に留めて去る。(三)行いて水を飲む毎に、常に一錢を井中に投ず。

子。太原晉陽人。少有逸才。風姿英爽。氣蓋一時。好弓馬。勇力絕人。善易及莊老。文詞俊茂。伎藝過人。和嶠裴楷齊名。尚常山公主。起家拜中書郎。遷侍中。坐免官。乃移第北邙山下。性豪侈。麗服玉食。時洛京地甚貴。濟買地爲馬埒。編錢滿之。時人謂爲金溝。

氣(一)一時を蓋ふ。弓馬を好み、勇力人に絕す。易及び莊老に善し。文詞(二)俊茂にして、伎藝人に過ぎ、和嶠・裴楷と名を齊しうす。常山公主(三)を尚り、家(四)より起りて中書郎を拜し、侍中に遷る。坐(五)して官を免ぜられ、乃ち第(六)を北邙山下に移す。性豪侈にして、麗服玉食す。時に洛京の地甚だ貴し(七)。濟、地を買ひ馬埒(八)を爲り、錢を編み之に滿つ。時人謂つて『金溝』と稱す。

(一) 其氣概一世を蓋ふ　(二) 文章詩賦すぐれて立派にて　(三) 武帝の妹也　(四) 始めて身を庶人の家より起して仕官し　(五) 事に連坐して　(六) やしき、邸宅　(七) 地價高きをいふ　(八) 馬場の周圍のかき、即ち馬乘場をいふ

巫馬戴星　宓賤彈琴

呂氏春秋曰。

呂氏春秋に曰く、宓子賤(一)單父を治むるに、鳴琴を彈きて、身堂を下らず、而

嶠喪レ婦。從姑劉氏家。經レ亂離散。唯有二一女一。甚有二姿慧一。姑屬レ公覓レ婚。公有二自婚意一。答曰。佳壻難レ得。但如レ嶠云何。姑云喪敗之餘。乞二粗存活一。便是慰二吾餘年一。何敢希二汝比一。後少日。公報レ姑云。已得二婚處一。門地壻身。盡不レ減レ嶠。因。下二玉鏡臺一枚一。姑大喜。既交禮。女以レ手披二紗扇一。撫レ手大笑曰。我固疑二是老奴一。果如レ所レト。玉鏡臺是公爲二劉越石長史一。北征二劉聰一所レ得也。

を乞ふ。便ち是れ吾が餘年を慰めん。何ぞ敢て汝の比を希はん」と。後少日にして、公姑に報じて云く、「已に婚處を得たり。門地(五)壻身、盡く嶠に減ぜず」と。因りて(六)玉鏡臺一枚を下す。姑大に喜び、既に交禮す。女、手を以て紗扇を披き、手を撫して大に笑つて曰く、「我れ固より是の(七)老奴を疑ふ。果してトする所の如し」と。玉鏡臺は是れ公の劉越石の長史たりしとき、北、劉聰を征して得たる所なり。

(一) 里閭を族といふ邦族は遠近といふが如き意也 (二) 父の從父姉妹即ちをば也、劉は其夫の姓 (三) 容姿すぐれたる才幾也 (四) 斯る大喪亂の後に生き殘りたる身ゆゑ、せめて富貴の壻を得て安穩に暮したし、お前なんぞは望む所にあらず (五) 家柄も壻自身の身も決して拙者に劣らず (六) 結納として立派な鏡臺を送りし也 (七) どうせこのずいさん(瞞をさしていふ)が人の事の樣にごまかして實は自分が壻となる氣ならんと疑ひしが

晉王濟字武

晉の王濟字は武子、太原晉陽の人なり。少にして逸才あり。風姿英爽にして、

拘二小節一。與二王澄王敦庾敳一俱爲二太尉王衍一所レ昵。號曰二四友一。澄嘗與レ人書一曰。彥國吐二佳言一如二鋸木屑一。霏霏不レ絕。誠爲二後進領袖一也。元帝時爲二湘州刺史一

木屑の如し。霏霏として絶えず。誠に後進の領袖なり(三)』と。元常の時湘州の刺史となる。

(一) 眼識　(二) のこぎりくづ、おがくづ　(三) 主要者、儀表（手本）の義

晉書。温嶠字太眞。太原祁人。性聰敏有二識量一。博學能屬レ文。少以二孝悌一稱二於邦族一成帝時爲二驃騎將軍始安郡公一。世說曰。

太眞玉臺　武子金埒

晉書にいふ、温嶠字は太眞、太原祁の人なり。性聰敏にして識量あり。博學にして能く文を屬す。少にして孝悌に以て邦族に稱せらる(一)。成帝の時驃騎將軍始安郡公となる。世說に曰く、嶠、婦を喪ふ。(二)從姑劉氏の家、亂を經て離散す。唯だ一女ありて、甚だ姿慧(三)あり。姑、公に屬して婚を覓む。公自ら婚するの意あり。答へて曰く、「佳壻得難し。但だ嶠の如きは如何。」姑云く、「(四)喪敗の餘、粗ぼ存活

為レ務。見二梁惠王一。一語連二三日三夜一無レ倦。惠王欲下以二卿相位一待上レ之。髡因謝去。送以二安車駕レ駟。束帛加レ璧。黄金百鎰一。終身不レ仕。齊人頌曰。談レ天衍。雕レ龍奭。炙二轂過一髡。劉向別錄。過字作レ輠。輠者車之盛レ膏器也。炙レ之雖レ盡。猶有二餘流一者。言二髡智不レ盡如レ炙レ輠也。衍奭謂二騶一。

です。終身仕へず。齊人頌して曰く、『天を談ずるは衍、龍を雕るは奭、轂過を炙るは髡』(五)と。劉向別錄に、過の字を輠に作る。輠は車の膏を盛る器なり。之を炙れば盡すと雖も、猶ほ餘流ある者なり。髡の智盡きざること輠を炙るが如きを言ふ。衍・奭は二騶をいふ。(六)

(一) 學問雜駁にて專門とする所なし　(二) 君をいさめ道を說くこと　(三) 君の意向を考へ其顏色をうかゞふ、御機嫌を取るを謂ふ　(四) 一つの物語を三日三晩續ける　(五) 天文をよく談ずるは騶衍、其衍の天文を修め文飾あまりありて龍文を彫るが如くなるは騶奭、轂過をあぶりて油のつきざるが如く辯舌の達者なるは淳于髡なり　(六) 騶衍・騶奭をいふ

晉胡毋輔之字彥國。泰山奉高人。少有二知レ人之鑒一。性嗜レ酒。任縱不レ

晉の胡毋輔之字は彥國、泰山奉高の人なり。少にして人を知るの鑒(一)あり。性酒を嗜み、任縱にして小節に拘らず。王澄・王敦・庾敳と倶に太尉王衍に昵まる。號して四友といふ。澄嘗て人に與ふる書に曰く、『彥國佳言を吐くこと、鋸(二)

志好レ學。王莽末爲二淮平太尹一。政理有二能名一。及二莽敗一。霸保固自守。卒全二一郡一。更始遣レ使徵レ霸。百姓老弱相攜號哭。遮二使者車一。或當レ道而臥。皆曰。願乞二侯君一。復留朞年。光武時。爲二大司徒一。

遣し霸を徵す。百姓老弱相携へて號哭し、使者の車を遮り、或は道に當りて臥す。皆曰く、『願くは侯君復留ること朞年ならんことを乞ふ』と。光武の時、大司徒となる。

(一)政を布き民を治むるに材能の名聲高し　(二)見出しに臥轍とあるは即ちそれにて、使者の車のわだちに臥してその進行を遮ると也　(三)一年、一周年

史記。淳于髡齊人。博聞強記。學無レ所レ主。其諫說慕二晏嬰之爲一レ人。然而承レ意觀レ色

淳于炙輠　彥國吐屑

史記にいふ、淳于髡は齊の人なり。博聞強記、學、主とする所なし。其諫說は晏嬰の人となりを慕ふ。然れども意を承け色を觀るを務となす。梁の惠王に見え、一語三日三夜を連ねて倦むことなし。惠王卿相の位を以て之を待たんと欲す。髡因つて謝し去る。送るに安車に駟を駕し、束帛に璧を加へ、黃金百鎰を以

伯平。扶風茂陵人。自二漢興一之後。世位相承。六世祖襲。爲二潁川太守一。與二羣從一同時。爲二二千石一者五人。故三輔號曰二萬石秦氏一。彭爲二潁川太守一。仍有二鳳凰麒麟嘉禾甘露之瑞一。集二其郡境一。肅宗幸二潁川一。輒賞二賜錢穀一。恩寵甚異。東觀漢記曰。彭去レ任。老幼攀レ轅號泣。

く。六世の祖襲、潁川の太守となり、羣從(一)と同時に、二千石となる者五人あり。故に三輔(二)號して『萬石の秦氏』といふ。彭も潁川の太守となり、仍りて鳳凰・麒麟・嘉禾・甘露の瑞(三)ありて、其郡境に集る。肅宗潁川に幸するや、輒ち錢穀を賞賜し、恩寵甚だ異なり。東觀漢記に曰く、『彭、任を去るとき、老幼轅に攀ぢ(四)て號泣す』と。

(一) 諸の從兄 (二) 三輔(地名)の人々は、二千石が五人都合一萬石の秦氏と稱せりと也 (三) 共に德政あまねくして、天下よく治まれる時に出現すと傳へらるゝめでたきしるし也 (四) 別を惜みて車のながえに取りつくと也

後漢侯霸字君房。河南密人。矜嚴有二威容一。家累二千金一。不レ事二產業一。篤レ

後漢の侯霸字は君房、河南密の人なり。矜嚴にして威容あり、家千金を累ぬ。產業を事とせず、志を篤うし學を好む。王莽の末に淮平の太尹となり、政理能名(一)あり。莽の敗るゝに及び、霸保ち固めて自ら守り、卒に一郡を全うす。更始使を

後漢郭況。眞定槀人。光武郭皇后弟。帝善ニ況小心謹愼一。年始十六。拜ニ黄門侍郎一。以ニ后弟貴重一。賓客輻湊。況謙恭下レ士。頗得ニ聲譽一。遷ニ大鴻臚一。帝數幸ニ其第一。會ニ諸侯親家一飲燕。賞ニ賜金錢縑帛一。豐盛莫レ比。京師號ニ況家一爲ニ金穴一。顯宗卽レ位。數受ニ賞賜一。恩禮倶渥。終ニ特進一。

後漢の郭況は、眞定槀の人なり。光武の郭皇后の弟なり。帝況が小心にして謹愼なるを善しとし、年始めて十六なるに、黄門侍郎に拜す。后の弟にして貴重なるを以て、賓客輻湊す。況謙恭にして士に下り、頗る聲譽(一)を得たり。大鴻臚に遷る。帝數〻其第(二)に幸し、諸侯親家を會して飲燕(三)す。金錢縑帛を賞賜し、豐盛比なし。京師況の家を號して金穴となす。顯宗位に卽き、數〻賞賜を受け、恩禮(四)倶に渥し。特進(五)に終る。

(一)ほまれ、評判　(二)やしき、邸　(三)さかもりす、宴會を催す　(四)之を親しむを恩といひ之を尊ぶを禮といふ　(五)諸侯王公將軍の特功ある者に賜ふ位にて三公の下に位す

後漢秦彭字

秦彭攀轅　侯霸臥轍

後漢の秦彭字は伯平、扶風茂陵の人なり。漢の興りてより後、世〻位相承

名姓。帝悦尊ニ幸之。賞賜鉅萬以レ十數。官至ニ上大夫。然無ニ他伎能。不レ能レ有レ所ニ薦達。獨謹レ身媚レ上而已。上使ニ相者相ヒ通。曰。當ニ貧餓死。上曰。能富レ通在レ我。於レ是賜ニ蜀嚴道銅山。得ニ自鑄ヒ錢。鄧氏錢布ニ天下。其富如レ此。上嘗病レ癰。通爲レ上嗽ニ吮之。上問曰。天下誰最愛レ我者。通曰。宜レ莫レ若ニ太子。太子入問レ疾。上使レ嚙レ癰。太子色難レ之。已而聞ニ通嘗爲レ上嚙ヒ之。太子慙。繇レ是心恨レ通。景帝立。通免家居。人告三通盜ニ出徼外鑄錢。下レ吏驗問。盡沒ニ入之。竟寄ニ死人家。

む。鄧氏の錢天下に布く、其富此の如し。上嘗て癰を病む。通上の爲に之を(六)嗽吮す。上問うて曰く、「天下誰か最も我を愛する者ぞ。」通曰く、「宜しく太子に若くなかるべし」と。太子入りて疾を問ふ。上癰を嚙(七)ましむ。太子色(八)之を難む。已にして通嘗て上の爲に之を嚙しを聞き、太子慙づ。是に繇つて心に通を恨む。景帝立つ。通免ぜられて家居す。人あり、通、(九)徼外に鑄錢を盜出すと告ぐ。吏に下して驗問し、盡く之を沒入す。(一〇)竟に人家に寄死す。(一一)

(一) 船をさ。黃色の帽をつくるを以てかくいふ (二) 衣の尻の上に當り、革帶の下に居る處 (三) 未央宮の西南なる蒼池中の臺の名 (四) 夢中に見し所に當るものを求む (五) 十數度までも巨萬の賞賜を與へたりとなり (六) 膿をすふ (七) 嚙みて膿血を出す也 (八) いやがる樣の面に表はれしをいふ (九) 西南の國境外 (一〇) 官に沒收す (一一) 民家

帝顧謂レ主曰。事レ不諧矣。弘所レ得租奉。分二贍九族一。家無二資產一。以二淸行一致レ稱。所二推進一賢士。桓梁三十餘人。或相及爲二公卿一者。

前漢鄧通。蜀郡南安人。以レ濯レ船爲二黄頭郎一。文帝嘗夢。欲レ上レ天不レ能。有二一黄頭郎一推上レ天。顧見二其衣尻帶後穿一。覺而之二漸臺一。以二夢中一陰目求。見二通衣後穿一。夢中所レ見也。召問二其

鄧通銅山　郭況金穴

前漢の鄧通は、蜀郡南安の人なり。船に濯すを以て(一)黄頭郎となる。文帝嘗て夢むらく、天に上らんと欲して能はず。一黄頭郎あり、推して天に上す。顧みて其衣の尻(二)帶の後の穿てるを見る。覺めて漸(三)臺に之き、(四)夢中を以て陰に目し求む。通が衣の後の穿てるを見る。夢中に見る所なり。召して其名姓を問ふ。帝悅びて之を尊幸し、賞(五)賜鉅萬、十を以て數ふ。官上大夫に至る。然れども他の伎能なければ、薦達する所あること能はず。獨り身を謹み上に媚ぶるのみ。上相者をして通を相せしむ。曰く、「當に貧して餓死すべし」上曰く、「能く通を富ますは我にあり」と。是に於て蜀の嚴道の銅山を賜ひ、自ら錢を鑄ることを得し

後漢宋弘字仲子。京兆長安人。光武卽ㇾ位。爲二大司空一。時帝姉胡陽公主新寡。帝與共論二朝臣一。微二觀其意一。主曰。宋公威容德器。羣臣莫ㇾ及。帝曰。方且圖ㇾ之。後引見。帝令三主坐二屏風後一。因謂ㇾ弘曰。諺言。貴易ㇾ交富易ㇾ妻。人情乎。弘曰。臣聞。貧賤之交不ㇾ可ㇾ忘。糟糠之妻不ㇾ下ㇾ堂。

後漢の宋弘字は仲子、京兆長安の人なり。光武位に卽き、大司空となる。時に帝の姉胡陽公主新に寡となる。(一)帝與に共に朝臣を論じ、(二)其意を微觀せんとす。(三)主曰く、「宋公の威容德器は羣臣及ぶことなし」と。帝曰く、(四)「方に且つ之を圖らん」と。後に引見す。帝、主をして屏風の後に坐せしむ。因つて弘に謂て曰く、「諺に言ふ、貴にして交を易へ、富にして妻を易ふと。人情なりや。」弘曰く、「臣聞く貧賤の交は忘るべからず、(五)糟糠の妻は堂より下さず」と。帝顧て主に謂て曰く、「事諧はず」と。弘、得る所の租奉は、九族に分贍して、家に資産なし。清行を以て稱せらる。推進する所の賢士、桓梁三十餘人、或は相たり(八)及ぎて公卿となる者あり。

(一) 臣下中姉の望む所の者を夫とせしめんとて也 (二) 意向を探つて見んとす (三) 公主、帝の姉 (四) 一つ其意向を探り見ん (五) 共に貧苦を忍び來れる妻は富貴となりても堂上に愛し養ふ (六) 租は采地よりの貢賦、奉は俸祿 (七) にぎはして分ち與へ (八) 後漢書註に「及ハ猶ホ繼ノゴトシ」

壞。婦人趨而至。叔子納レ之而使レ執レ燭。放二乎旦一。而蒸盡縮レ屋而繼レ之。自以爲レ辟レ嫌之不レ審矣。若其審者宜下若二魯人一然上。魯有二男子一。獨處二于室一。鄰人釐婦。又獨處二于室一。夜暴風雨至而室壞。婦人趨而託レ之。男子閉レ戸而不レ納。曰吾聞レ之。男女不二六十一不二閒居一。今子幼吾亦幼。不レ可二以納一レ子。婦人曰。子何不下如二柳下惠一然上。嫗二不逮門之女一。國人不レ稱レ亂。男子曰。柳下惠固可。吾固不可。吾將以二吾不可一。學二柳下惠之可一。孔子曰。欲レ學二柳下惠一者。未レ有レ似二於是一也。

子あり。獨り室に處る。隣人の釐婦、又獨り室に處る。夜暴に風雨至りて室壞る。婦人趨りて之に託す。男子戸を閉ぢて納れず。曰く、「吾れ之を聞けり。男女六十にならざれば、閒り居らずと。今子幼く、吾れ亦幼し。以て子を納るべからず」と。婦人曰く、「子何ぞ柳下惠の若く然らざる。(四)門に逮ばざるの女を嫗めしも、國人亂と稱せず」と。男子曰く、「(五)柳下惠は固より可なり。吾は固より不可なり。吾れ將た吾が不可を以て柳下惠の可を學ばんや」と。孔子曰く、「(六)柳下惠を學ばんと欲する者、未だ是より似たるものあらず」と。

(一) やもめ　(二) 疑を避くる爲め、燭火を執らせて夜を明かす　(三) 蒸は薪の小なるもの。薪盡きて火滅せんとすれば屋根の葺草を引拔きて之に繼ぐ　(四) 門に至れるにもあらざる女即ち往來にて行き遇ひたる女を自分の體温にてあたゝめ救ふ。箋註には不逮を門の名とせり　(五) 柳下惠は厚德の人なれば可也、我は薄德ゆゑ不可也　(六) 柳下惠を學ばんとする者の中、此魯人の如きは最もよく其精神を得たる者也との意

之。及レ嫁始以二裝飾一入レ門。七日而鴻不レ答。妻請レ罪。鴻曰。吾欲下裘褐之人可三與俱隱二深山一者上。今乃衣二綺縞一。傅二粉墨一。豈所レ願哉。妻曰。妾自有二隱居之服一。乃更爲二椎髻一。著二布衣一。操作而前。鴻大喜曰。眞梁鴻妻也。字レ之曰二德曜一。名孟光。乃共入二霸陵山中一。

なし布衣を著け、操作して(七)前む。鴻大いに喜びて曰く、「眞に梁鴻が妻なり」と。之を字して德曜と曰ふ。名は孟光なり。乃ち共に霸陵山中に入る。

㊀ 配偶者を求めて ㊁ おしろひを附け著飾りて ㊂ 更に應答せず ㊃ 裘はかはごろも、褐は毛衣、共に賤しき者の衣服なり ㊄ かんはたと訓ず、錦に似たる織物 ㊅ つちの頭の如くもとどりを束ねたるもの ㊆ 炊事道具を携へ甲斐々々しく立働きて

毛公詩傳曰。昔者顏叔子獨處二于室一。鄰人嫠婦又獨處二于室一。夜暴風雨至而室

顏叔秉燭　宋弘不諧

毛公詩傳に曰ふ、昔者顏叔子獨り室に處る。隣人の嫠婦(一)、又獨り室に處る。夜暴に風雨至りて室壞る。婦人趨りて至る。叔子之を納れて燭(二)を執らしめ、旦に放る。而して蒸(三)盡くれば屋を縮きて之に繼ぐ。自ら以爲らく、嫌を辟ること審ならず。若し其れ審にせんとせば、宜しく魯人の若く然るべしと。魯に男

子。但患二愛レ子不レ至耳。后盡レ心撫育。過二於所レ生。肅宗亦孝性淳篤。恩情天至。母子慈愛。無二纖介之閒一。有司奏レ立二長秋宮一。帝未レ有レ所レ言。皇太后曰。馬貴人德冠二後宮一。卽其人也。遂立爲二皇后一。既正二位宮闈一。愈自謙肅。能誦二易經一。好讀二春秋楚辭一。尤善二周官董仲舒書一。常衣二大練一。裙不レ加レ緣。

㈠ 諸侯の母の稱、母夫人 ㈡ 兆の大吉なる言語に絕すと也 ㈢ 多くの娘達 ㈣ 漢代の女官の名 ㈤ いささかのへだて無し ㈥ 長秋宮(皇后の居らるゝ宮)を立てゝ馬貴人を皇后となさんと乞ふ也 ㈦ 皇后に立つべき人物也 ㈧ 宮闈は皇后宮をいふ。皇后の正位に卽きてより ㈨ 周禮・董仲舒の書數多ありしも今傳はるは春秋繁露のみ也 ㈩ あつぎぬを著、質素にしてすそに裝飾を加へず

後漢梁鴻字伯鸞。扶風平陵人。同縣孟氏有レ女。狀肥醜而黑。力擧二石臼一。擇レ對至二年三十一。父母問二其故一。曰。得下賢如二梁伯鸞一者上。鴻聞而聘レ

後漢の梁鴻字は伯鸞、扶風平陵の人なり。同縣の孟氏に女あり。狀肥醜にして黑く、力石臼を擧ぐ。㈠對を擇びて年三十に至る。父母其故を問ふ。曰く、「賢なること梁伯鸞の如き者を得ん」と。鴻聞きて之を聘す。嫁するに及び、始めて㈡裝飾を以て門に入る。七日にして㈢鴻答せず。妻罪を請ふ。鴻曰く、「吾は㈣裘褐の人の與に倶に深山に隱るべき者を欲せしなり。今乃ち㈤綺縞を衣、粉墨を傅く。豈に願ふ所ならんや」と。妻曰く、「妾自ら隱居の服あり」と。乃ち更めて㈥椎髻を

後漢明德馬
皇后。伏波將
軍援小女。年
十歲。幹ニ理家
事一。同ニ成人一。嘗
久疾。大夫人
令レ筮。筮者曰。
此女雖ニ久疾一。
後當ニ大貴一。兆
不レ可レ言。後又
呼ニ相者一。使レ占ニ
諸女一。見レ后大
驚曰。我必爲ニ
此女一稱レ臣。後
選入レ宮。顯宗
卽レ位。以爲ニ貴
人一。時賈氏生ニ
肅宗一。帝命令レ
養レ之謂。女人
未ニ必當ニ自生一

後漢の明德馬皇后は、伏波將軍援の小女なり。年十歲にして、家事を幹理するに、成人に同じ。嘗て久しく疾む。大夫人(一)筮せしむ。筮者曰く、「此女は久しく疾むと雖も、後當に大いに貴かるべし。兆(二)言ふべからず」と。後又相者を呼び、諸(三)女を占はしむ。后を見て驚きて曰く、「我れ必ず此女の爲に臣と稱せられん」と。後選ばれて宮に入る。顯宗位に卽き、以て貴人(四)となす。時に賈氏肅宗を生む。帝命じて之を養はしめて謂ふ、「女人未だ必ずしも當に自ら子を生むべからず。但だ子を愛するの至らざるを患ふるのみ」と。后心を盡し撫育すること、生む所に過ぐ。肅宗亦孝性淳篤、恩情天至なり。母子の慈愛、纖介(五)の間なし。有司長秋(六)宮を立てんと奏す。帝未だ言ふ所あらず。皇太后曰く、「馬貴人は德後宮に冠たり。卽ち其人(七)なり」と。遂に立てゝ皇后となす。既に位を宮闈(八)に正して、愈〻自ら謙肅す。能く易經を誦し、好んで春秋楚辭を讀み、尤も周官(九)・董仲舒の書に善し。常に大練(一〇)を衣、裙に緣を加へず。

爲司徒。性簡忽威儀。頗失宰相之望。後爲太常。清潔脩行。盡敬宗廟。嘗臥疾齋宮。其妻哀澤老病。闚問所苦。澤大怒。以妻干犯齋禁。收送詔獄謝罪。當世疑其詭激。時人爲語曰。生世不諧。作太常妻。一歲三百六十日。三百五十九日齋。後數爲三老五更。漢官儀。於齋下云。一日不齋醉如泥。

嘗て疾に齋宮(二)に臥す。其妻澤が老病を哀み、苦む所を闚ひ問ふ。澤大に怒り妻の齋禁を干犯(三)するを以て、收めて詔獄(四)に送りて、罪を謝す。當世其詭激(五)を疑ふ。時人語をなして曰く、『世に生れて不諧(六)なるは太常の妻たり。一歲三百六十日なるに三百五十九日は齋す』と。後數々三老五更(七)となる。漢官儀に、齋の下に於て云く、『一日齋せざれば醉ひて泥(八)の如し』と。

(一) 簡略、疎忽 (二) 太廟を祭るに、身を禊ひ淸むる宮 (三) 女子の身を以て齋戒の禁を犯す (四) 漢時天子の詔を奉じて罪人を判決せし所 (五) 心にもなきにわざと正直に過ぎたる事を爲す (六) 夫婦の和合なくて不仕合 (七) 數說ありて詳ならず。其の中普通なるは、天子が天下に孝弟の道を示すために、隱居せる老官人を太子自ら給事してもてなしたまふことありて、其時の上客となりたるものをいふと。此禮を養老の禮といふ (八) 虫の名なり。醉人の止むはこれに似たりと。此處は卽ち泥醉者の如しといへるなり。

馬后大練　孟光荊釵

餓二死溝中一耳。何能富貴。買臣卽聽去。後數歲。隨二上計吏一爲レ卒。將二重車一至二長安一。詣レ闕。上書。待二詔公車一。會邑子嚴助貴幸。薦二買臣一。召見。說二春秋一。言二楚詞一。武帝說レ之。拜二中大夫一。與二嚴助一俱侍中。久之拜二會稽太守一。上謂曰。富貴不レ歸二故鄕一。如二衣レ繡夜行一。今子何如。買臣頓首謝。入二呉界一。見二其故妻。妻夫治レ道。買臣呼令三後車載二其夫妻一。到二太守舍一。置二園中一。給二食之一。妻自經死。買臣乞二其夫錢一令レ葬。悉召二見故人一。與飲食。諸嘗有レ恩者。皆報復焉。

し。今子何如(一四)」と。買臣頓首して謝す。呉の界に入り、其の故の妻と妻の夫(一五)との道を治む(一六)るを見、買臣呼びて後車をして其夫妻を載せしむ。太守の舎に到り、園中に置き、之を給食す。妻自ら經れて死す。買臣其夫に錢を乞へて葬らしむ。悉く故人を召見し、與に飲食す。諸の嘗て恩ある者、皆報復す。

(一) たきゞ。しば　(二) 薪樵を頭上にのせ　(三) 女心に市を賣り歩く貧しさを　(四) 離緣　(五) うらみ。いかり　(六) 衣食具を載せたる車　(七) 地名　(八) 宮廷　(九) 官署の名　(一〇) 同村の出身　(一一) 「その嚴助が」と補ひ見よ　(一二) 天子に推薦す　(一三) ぬひとりのある衣を著て夜行く如し、人に知られずしてつまらぬ事也　(一四) 今・卿錦を故鄕に飾りては如何　(一五) 離別せる妻と其再緣の夫　(一六) 掃除する

後漢周澤字穉都。北海安丘人。顯宗時

後漢の周澤字は穉都、北海安丘の人なり。顯宗の時司徒となる。性威儀に簡忽(一)にして、頗る宰相の望を失ふ。後太常となり、清潔脩行、敬を宗廟に盡す。

前漢朱買臣字翁子。呉人。家貧。好讀書。不治産業。常艾薪樵。賣以給食。擔束薪。行且誦書。其妻亦負戴相隨。羞之求去。買臣曰。我年五十當富貴。今已四十餘矣。女苦日久。待我富貴。報女功。妻恚怒曰。如公等。終

買妻耻醮　澤室犯齋

前漢の朱買臣字は翁子、呉の人なり。家貧し。書を讀むことを好み、産業を治めず。常に薪樵(一)を艾り、賣りて以て食に給す。束薪を擔ひ、行く〳〵且つ書を誦す。其妻も亦負戴(二)して相隨ふ。之を羞ぢて(三)去らんを求む。買臣曰く、「我れ年五十にして當に富貴なるべし。今四十餘なり。女苦むこと(四)日久し。我が富貴を待て。女が功に報いん」と。妻恚怒(五)して曰く、「公等が如きは、終に溝中に餓死せんのみ。何ぞ能く富貴ならん」と。買臣卽ち聽し去らしむ。後數歲にして、上計吏に隨ひ卒(六)となり、重車を將ゐて長安(七)に至り、闕(八)に詣りて上書し、詔を公車(九)に待つ。會〻邑子(一〇)嚴助貴幸せらる。買臣を薦む(一一)。召し見る。春秋を說き、楚詞を言ふ。武帝之を說び、中大夫に拜し、嚴助と俱に侍中たり。久うして會稽の太守に拜す。上謂て曰く、「富貴にして故鄕に歸らざるは、繡(一二)を衣て夜行くが如

僕一。初爲二滕令一奉レ車。故號二滕公一。

神怪志。將軍王果爲二益州太守一。路經二三峽一。船中望二見江崖一。石壁千丈。有レ物懸在二半崖一。似二棺槨一。問二舊行人一。皆云已久。果使二人懸レ崖就視一。乃一棺也。骸骨存焉。有二石誌一云。三百年後水漂レ我。欲レ及二長江一。垂欲レ墮。欲レ墮不レ墮。遇二王果一。果見レ銘愴然曰。數百年前知二我名一。如何。舍去。因留。爲營斂瘞埋。設レ祭而去。

神怪志にいふ、將軍王果、益州の太守となり、路三峽(一)を經、船中より江崖を望み見れば、石壁千丈なるに、物あり懸りて半崖(二)にあり。棺槨に似たり。舊行きし人(三)に問へるに、皆云ふ、『已に久し』と。果人をして崖に懸り(四)就いて視しむ。乃ち一棺なり。骸骨存す。石誌(五)あり、云く、『三百年の後、水我を漂はさん、長江に及ばんと欲して、垂れて墮ちんと欲す、墮ちんと欲して墮ちず、王果に遇はん』と。果、銘を見て愴然(六)として曰く、「數百年前我が名を知れり。如何ぞ舍て去らん」と。因つて留り、爲に營斂瘞埋(七)し、祭を設けて去る。

㊀ 西陵峽、歸鄉峽、巫峽をいふ。楊子江上流、蜀の山に在り、全長凡そ七百里 ㊁ 中腹 ㊂ 古くより往來する人に ㊃ 攀登り ㊄ 石に刻みつけたる誌銘 ㊅ あはれを催せる貌 ㊆ 葬式をいとなみ、骸骨を墓にうづめ

西京雜記。滕公駕至二東都門一。馬鳴跼不レ肯レ前。以レ足跑レ地久之。滕公使三士卒掘二馬所レ跑地一。入三尺所。得二石椁一。滕公以レ燭照レ之。有レ銘焉。乃以レ水洗。寫二其文一。文字皆古異。左右莫二能知一。以問二叔孫通一。通曰。科斗書也。以二今文一寫レ之。曰。佳城鬱鬱。三千年見二白日一。吁嗟滕公居二此室一。滕公曰。嗟乎天也。吾死其卽安レ此乎。死遂葬焉。滕公卽前漢夏侯嬰。官至二太

西京雜記にいふ、滕公駕して東都門に至る。馬鳴き跼みて肯て前まず。足を以て地を跑くこと久し。滕公士卒をして馬の跑く所の地を掘らしむ。入ること三尺ばかりにして石椁(一)を得たり。滕公燭を以て之を照せば銘(二)あり。乃ち水を以て洗ひ、其文を寫す。文字皆古異にして、左右能く知ることなし。以て叔孫通に問ふ。通曰く、「科斗の書なり(三)」と。今文を以て之を寫して曰く、『佳城鬱鬱、三千年(四)白日を見ん、吁嗟滕公此室に居らん』と。滕公曰く、「嗟乎天なり。吾れ死せば其れ卽ち此に安ぜんか」と。死して遂に葬る。滕公は卽ち前漢の夏侯嬰なり。官太僕に至る。初め滕の令となり、車を奉ず(五)。故に滕公と號す。

(一) 石にてつくれる棺のうはひつぎ　(二) 金石に刻したる文字　(三) 支那の古代に、竹片などに記せる古代文字にして、其書の形、頭大にして尾小に恰もおたまじやくしに似たるより科斗の文字と稱す　(四) 石椁久しく土中に埋もれかくるゝも三千年後には白日を見ることあるべし、而して滕公と云ふもの此の中に葬らるべし　(五) 沛公の御者となる

後漢邊韶字孝先。陳留浚儀人。以二文學一知レ名。教二授數百人一。韶口辯。曾晝日假臥。弟子私嘲レ之曰。邊孝先。腹便便。懶レ讀レ書。但欲レ眠。韶潛聞レ之。應レ時對曰。邊爲レ姓。孝爲レ字。腹便便。五經笥。但欲レ眠。思二經事一。寐與二周公一通レ夢。靜與二孔子一同レ意。師而可レ嘲。出二何典記一。嘲者大慙。韶之才捷皆此類。桓帝時拜二太中大夫一。著二作東觀一。

後漢の邊韶字は孝先、陳留浚儀の人なり。文學を以て名を知られ、數百人を教授す。韶口辯あり。曾て晝日に假臥す。弟子私かに之を嘲りて曰く、「邊孝先、腹便便(一)、書を讀むに懶く、但だ眠らんと欲す」と。韶潛かに之を聞き、時に應じ對へて曰く、「邊を姓となし、孝を字となす。腹の便便たるは五經の笥、但だ眠らんと欲するは、經事(二)を思ふなり。寐て周公と夢を通じ、靜にして孔子と意を同じうす(三)。師にして嘲るべきは、何の典記に出づるか」と。嘲りし者大に慙づ。韶の才の捷き皆此類なり。桓帝の時太中大夫に拜し、東觀(四)に著作す。

(一) 腹のこえふとれる貌 (二) 經書の意味に關する事 (三) 孔子の言に甚しいかな吾が衰へたるや久し吾復た夢に周公を見ずとあるを取りていふ也 (四) 朝廷の文庫の名

滕公佳城　王果石崖

云龍滑藏。未ㇾ詳ㇾ所ㇾ出。

樗里智嚢　邊韶經笥

史記にいふ、樗里子名は疾、秦の惠王の弟なり。疾の室(一)は昭王廟の西、渭南の陰鄉の樗里にあり。故に俗に之を樗里子といふ。滑稽多智(二)なり。秦人號して智嚢といふ。秦の武王立ち、樗里子・甘茂を以て左右の丞相となす。疾卒して渭南の章臺の東に葬る。曰く、「後百歲、是に當に天子の宮ありて我が墓を夾むべし」と。漢の興るに至り、長樂宮其東にあり、未央宮其西にあり、武庫(三)正に其墓に直る。秦人の諺に曰く、『力は則ち任鄙(四)、智は則ち樗里』と。

(一) 居室　(二) 頓智に長け辯口達者なるをいふ　(三) 武器をいるゝくら　(四) 秦の大力の士

史記。樗里子名疾。秦惠王之弟。疾室在ニ昭王廟西。渭南陰鄉樗里ー。故俗謂ニ之樗里子ー。滑稽多智。秦人號曰ニ智嚢ー。秦武王立。以ニ樗里子甘茂ー爲ニ左右丞相ー。疾卒葬ニ渭南章臺東ー。曰。後百歲。是當下有ニ天子宮ー夾中我墓上。至ニ漢興ー。長樂宮在ニ其東ー。未央宮在ニ其西ー。武庫正直ニ其墓ー。秦人諺曰。力則任鄙。智則樗里。

憂。惟有二杜康一。注謂。杜康古之造レ酒者。呂氏春秋曰。儀狄造レ酒。

淮南子曰。昔蒼頡作レ書而天雨レ粟。鬼夜哭。許愼曰。蒼頡始視二鳥跡之文一造二書契一。則詐僞萌生。去レ本趨レ末。棄二耕作之業一。務二錐刀之利一。天知二其將一レ餓。故爲雨レ粟。鬼恐下爲二文書一所上レ劾。故夜哭也。舊

㊀ 一種の詩體、漢の武帝の時、郊祀の禮を定め、音樂堂を建てて之を樂府と稱し、文人をして詩賦を作らしむ、後世其體に倣へる詩を凡て樂府と稱す。短歌行は卽ち其一つにして、長歌行と相並び、人生壽命の長短は天の定むる時妄に求むべきに非ず、但、當に時に及びて樂むべしとの意を敍せるもの ㊁ 人生はげになげきても餘りあり、其忘れ難き憂を解かんものは只酒あるのみと也

淮南子に曰く、『昔蒼頡書を作りて天粟を雨らし、鬼夜哭す』と。許愼曰く、『蒼頡始めて鳥跡の文を視て書契を造る。(一) 則ち詐僞萌生し、(二) 本を去り末に趨き、耕作の業を棄て、(三) 錐刀の利を務む。天其將に餓ゑんとするを知り、故に爲に粟を雨らす。鬼は文書に劾せらるゝを恐る。(四) 故に夜哭きしなり』と。(五) 舊と云ふ、『龍潛藏す』と。(六) 未だ出づる所を詳にせず。

㊀ 鳥の足跡の沙につきたる其模樣を見て文字を造る ㊁ 言語を以て信とする間は人自然に敦朴なれども、文字を以て證と爲すに至りては人の心に自然に詐を生じ、農耕の本を棄てて商賈の末に趨く樣になる ㊂ 錐や刀の先の如く小なる利德 ㊃ 文書に記錄して己の罪を彈劾せられんことをおそる ㊄ 舊說に曰く ㊅ ひそみかくれて復世に出でず

世說云。羅友少時多謂二之癡一。常伺二人祠一。欲レ乞レ食。了無二作容一。爲レ人強記。從二桓宣武一伐レ蜀。按二行蜀城一。道陌果木。皆默二記之一。後宣武集二蜀道事一。亦有二遺忘一。皆名二列之一。坐者歎伏。

世說にいふ、羅友少き時、多くは之を癡なりといふ。常に人の祠を伺ひ、食を乞はんと欲す。了に怍る容なし。人となり強記なり。桓宣武の蜀を伐つに從ひ、蜀城を按行し、道陌の果木、皆之を默記す。後宣武蜀道の事を集むるに、亦遺忘あり。皆之を名列す。坐せる者歎伏す。

(一) 人の墓場の祭りを伺ひ、其殘食を乞ひ食ふ (二) 記憶力強し (三) 調査して巡行し (四) 道路上のくだものの木まで一々暗記す (五) 蜀の道中記を求むるに忘れて悉くは記載する能はず (六) 凡ての名前を一々列擧す

杜康造酒　蒼頡制字

魏武帝樂府短歌行曰。慨當二以慷一。憂思難レ忘。何以解レ

魏の武帝の樂府短歌行に曰く、『慨して當に以て慷すべし、憂思忘れ難し、何を以て憂を解かん、惟だ杜康あり』と。註に謂ふ、『杜康は古の酒を造れる者なり』と。呂氏春秋に曰く、『儀狄酒を造れり』と。

矣。操於此廻師。修之幾決多有此類。又嘗出行。歸操有問外事。乃逆爲答記。敕守舍兒。若有令出。依次通之。既而果然。操怪其速。廉之知狀忌修。後因事殺之。語林曰。修至江南。讀曹娥碑。碑背有八字。曰。黃絹幼婦。外孫虀臼。操不解。問修曰。卿知否。修曰。知之。操曰。且勿言。待朕思之。行三十里乃得之。令修解。修曰。黃絹色絲。色絲絕字。幼婦少女。少女妙字。外孫女子。女子好字。虀臼受辛。受辛辭字。操曰。一如朕意。俗云。有智無智。校三十里。

「卿知るや否や。」修曰く、「之を知れり。」操曰く、「且く言ふことなかれ。朕が之を思ふを待て」と。行くこと三十里にして乃ち之を得たり。修をして解せしむ。修曰く、「黃絹は色絲、色絲は絕の字なり。幼婦は少女、少女は妙の字なり。外(八)孫は女子、女子は好の字なり。(九)虀臼は辛を受く、辛を受くとは辭の字なり。(一〇)」操曰く、「一に朕が意の如し」と。俗に云ふ、『有智無智、校ぶれば三十里』と。(一一)

(一) にはとりのあばらぼね。雞肋棄て難しといふ語これに出づ　(二) 主簿等の吏の總稱　(三) 中國に歸るべき計胸中に決し給へる也　(四) 外出する時、曹操より諮問あらんを思ひ　(五) 留守居の子供　(六) 順次に此書附より拔出して答へを通ぜよ　(七) 問ひ正して其次第を知り、修の餘りによく己の心を見拔く事の空恐ろしく覺えて之を忌むに至る　(八) 女(ムスメ)の生んだ子　(九) 辛菜をつく臼　(一〇) 辭は辭の別字體にて正しくは旁を「辛」に作るべきも早くより「辛」に誤れる也　(一一) すぐ分ると三十里行きて分ると、有智無智にはそれだけの差ありと也

後漢楊修字徳祖。太尉震玄孫。好レ學有二俊才一。爲二丞相曹操主簿一。操平二漢中一。欲三因討二劉備一。而不レ得レ進。欲レ守レ之。又難レ爲レ功。操出レ教。唯曰二雞肋一而已。外曹莫二能曉一。修獨曰。夫雞肋食レ之則無レ所レ得。棄レ之則如レ可レ惜。公歸計決

楊修捷對　羅友默記

後漢の楊修字は徳祖、太尉震の玄孫なり。學を好み俊才あり。丞相曹操の主簿となる。操、漢中を平ぐ。因つて劉備を討たんと欲す。而も進むことを得ず。之を守らんと欲すれば、又功を爲し難し。操教を出し、唯だ『雞肋』(一)と曰ふのみ。(二)外曹能く曉るなし。修獨り曰く、「夫れ雞肋は之を食へば則ち得る所なく、之を棄つれば則ち惜むべきが如し。公の(三)歸計決せり」と。操此に於て師を廻す。修の幾決多く此類あり。又嘗て出で行くに、(四)操の外事を問ふことあらんを籌り、乃ち逆め答記を爲り、(五)守舍の兒に敕ぐ、「若し令の出づることあらば、(六)次に依つて之を通ぜよ」と。既にして果して然り。操其速かなるを怪み、之を(七)廉して狀を知り修を忌む。後事に因つて之を殺す。語林に曰く、修江南に至り、曹娥の碑を讀む。碑背に八字あり、曰く、黄絹幼婦外孫齏臼と。操解せず、修に問ひて曰く、

晝軍營處所。時人多笑焉。後爲尙書郞。時欲廣田畜穀爲滅賊資。使艾行陳項以東至壽春。艾以爲田良水少。不足以盡地利。宜開河渠。可以引水澆漑。大積軍糧。又通運漕之道。乃著濟河論。以喩其指。後開廣漕渠。每東南有事。大軍興衆。汎舟而下。達于江淮。資食有儲而無水害。艾所建也。累遷征西將軍。征蜀大破之。劉禪降。以勳進太尉。鍾會忌其威名。構成其事。遂見害。

壽春に至るまでに行かしむ。(二)艾以爲らく、田良くして水少し、以て地の利を盡すに足らず、宜しく河渠を開くべく、以て水を引きて澆漑し(三)、大いに軍粮を積み、又運漕の道を通ずべしと。乃ち濟河論を著し、以て其指を喩す。後漕渠を開廣(四)す。東南に事ありて、大軍、衆を興す每に、舟を汎べて下り、江淮に達す。資食儲ありて水害なきは、艾が建つる所なり。征西將軍に累遷し、蜀を征して大いに之を破る。劉禪降る(五)。勳を以て太尉に進む。鍾會其威名を忌み、其事を構へ(六)成し、遂に害せらる。

(一) 其土地の狀態を測りて軍營を造るべき場所のひろさ等をはかり定む (二) 巡行視察して然るべく取り行はしめんとせり (三) 灌漑に同じ、そゝぎ流す (四) 運漕の便に充つべき河渠をひらきひろむ (五) 蜀の後主 (六) 無き罪をかまへつくりて

此兒有二奇骨一。可二試使レ啼。及レ聞二其聲一曰。眞英物也。父彝以二嶠所レ賞故。名レ之曰レ溫。嶠笑曰。果爾後將レ易二吾姓一也。溫豪爽有二風槩一。姿貌甚偉。面有二七星一。少與二劉惔一善。惔嘗曰溫眼如二紫石稜一。鬚作二蝟毛磔一。孫仲謀晉宣王之流亞也。尙二南康長公主一拜二駙馬都尉一。終二大司馬南郡公一。

て溫といふ。嶠笑つて曰く、「果して爾らば後(三)將に吾が姓を易へんとす」と。溫、豪爽にして風槩(四)あり、姿貌甚だ偉なり。面に七星(五)あり。少にして劉惔と善し。惔嘗て曰く、「溫の眼は紫石稜(六)の如く、鬚は蝟毛(七)の磔をなす。孫仲謀・晉の宣王の流亞(八)あり」と。南康長公主を尙り(九)、駙馬都尉に拜せられ、大司南郡公に終る。

㊀ 一年 ㊁ 珍らしき骨相 ㊂ 桓溫顯達して將來却てその名を避けんが爲め我姓を改めざるべからざるに至らん ㊃ 人品高く立派なる氣節あり ㊄ 七つのほくろが星文の如く列ぶ ㊅ 紫石英は其色淡紫にして其質すみわたり、皆五稜也、以て溫の眼のかどありて輝けるに喩へし也 ㊆ はりねずみの毛をひらきはりつけたるが如し ㊇ 此等につぐべき人物なり ㊈ 臣下にして天子の女をめとるをいふ

魏志。鄧艾字士載。義陽棘陽人。少家貧。每レ見二高山大澤一。輒規二度指三

魏志にいふ、鄧艾字は士載、義陽棘陽の人なり。少にして家貧し。高山大澤を見る每に、輒ち軍營(一)の處所を規度指畫す。時人多く笑ふ。後尙書郎となる。時に田を廣め穀を畜へて賊を滅ずの資となさんと欲し、艾をして陳項より以東

事ニ馬融一。能通ニ古今一。學。好ニ研精一。不レ守ニ章句一。融外戚豪家。多列ニ女倡。歌ニ舞於前一。植侍レ講積レ年。未ニ嘗轉眄一。融以レ是敬レ之。學終辭歸。闔レ門教授。性剛毅有ニ大節一。常懷ニ濟世志一。不レ好ニ辭賦一。能飲レ酒一石。靈帝時爲ニ尙書一。

家なり。多く女倡(三)を列ね、前に歌舞せしむ。植、講(四)に侍し年を積むも、未だ嘗て轉眄せず。融是を以て之を敬す。學終り辭し歸り、門を闔ぢて教授す。性剛毅にして大節あり。常に濟世の志を懷く。辭賦を好まず、能く酒を飲むこと一石なり。靈帝の時尙書となる。

(一)深く研究する　(二)明德皇后の里方にて其從姪に當る　(三)うたひめ　(四)講義を聽くべく馬融の許に師事すること數年なりしも一回も女倡の方をかへりみたる事なし

桓溫奇骨　鄧艾大志

晉書。桓溫字元子。譙國龍亢人。生未レ朞。溫嶠見レ之曰。

晉書にいふ、桓溫字は元子、譙國龍亢の人なり。生れて未だ朞(一)ならざるに、溫嶠之を見て曰く、「此兒奇骨(二)あり。試みに啼かしむべし」と。其聲を聞くに及びて曰く、「眞の英物なり」と。父彝、嶠が賞する所を以ての故に、之を名づけ

屢爲ニ魏將鄧艾一所レ破。及ニ後主降一。維投レ戈放レ甲。詣ニ鎭西將軍鍾會一。會厚待レ之。出則同レ轝。坐則同レ席。謂ニ長史杜預一曰。以ニ伯約一比ニ中土名士一。公林太初不レ能レ勝也。會既構ニ鄧艾一。因謂ニ維等一。詣ニ成都一自稱ニ益州牧一。欲下授ニ維兵五萬人一。使中爲ニ前驅一。魏將士憤發。殺ニ會及維一。世語曰。維死時見レ剖レ膽。如ニ斗大一。

長史杜預に謂て曰く、「伯約を以て中土の名士に比するに、公休も太初も勝ること能はず」と。會既に鄧艾を構す。(四)因つて維等に謂て曰く、「成都に詣り、自ら益州の牧と稱せん」と。維に兵五萬人を授け前驅たらしめんと欲す。(五)魏の將士憤發し、會及び維を殺す。世語に曰く、『維の死する時膽を剖かる、斗の大さの如し』と。

(一) 軍馬をとゝのへをさめて (二) 蜀の後主劉禪の魏に降るに及び (三) 魏の鎭西將軍鍾會に降りて身を寄す (四) 虛構す、無き罪を誣ひて陷る (五) 鍾會異圖を抱きひとり鄧艾を憚る、今既に其罪を虛構し之を陷れたれば、方に我志を爲すべしとて姜維等に其情を告げしならん

後漢盧植字子幹。涿郡涿人。音聲如レ鐘。少與ニ鄭玄一倶

後漢の盧植字は子幹、涿郡涿の人なり。音聲鐘の如し。少にして鄭玄と倶に馬融に事へ、能く古今に通じ、學(一)研精を好みて、章句を守らず。融は(二)外戚の豪

吳志。固丁仕二孫皓一爲二司徒一。吳書曰。初固爲二尙書一。夢三松樹生二其腹上一。謂レ人曰。松字十八公也。後十八歲。吾其爲レ公乎。卒如レ夢焉。

吳志にいふ、丁固は孫皓に仕へ司徒となる。吳書に曰く、初め固の尙書となりしとき、松樹其腹上に生ずと夢む。人に謂て曰く、「松の字は十八公なり。(一)後十八歲にして、吾れ其れ公とならん」と。(二)卒に夢の如し。

(一)「松」の字の扁と旁とを分解すれば十八公となる (二)吳の寶鼎三年二月司徒となる正に十八歲也

姜維膽斗　盧植音鐘

蜀志。姜維字伯約。天水冀人。與二費禕一共錄二尙書事一。加二督中外軍事一。遷二大將軍一。整二勒戎馬一出戰。

蜀志にいふ、姜維字は伯約、天水冀の人なり。費禕と共に尙書の事を錄す。督中外軍事を加へ、大將軍に遷り、(一)戎馬を整勒して出で戰ふ。屢〻魏の將軍鄧艾に破らる。(二)後主の降るに及び、維も戈を投じ甲を放ちて、(三)鎭西將軍鍾會に詣る。會厚く之れを待ち、出づれば則ち轝を同うし、坐すれば則ち席を同じうす。

屋梁上。須臾又益中一刀。濬意甚惡レ之。主簿李毅拜賀曰。三刀爲二州字一。又益二一刀一者。明府其臨二益州一乎。果遷二益州刺史一。後再刺二史益州一。武帝謀レ伐レ吳。詔レ濬修二舟艦一。乃作二大船一連レ舫。以レ木爲レ城。起二樓櫓一畫二鷁首怪獸於船首一以懼二江神一。舟楫之盛。自レ古未レ有。拜二龍驤將軍一。監レ軍統レ兵。先在二巴郡之所一全育一者。皆堪二徭役一供レ軍。其父母戒レ之曰。王府君生レ爾。爾必勉レ之。無レ愛レ死也。濬自レ發レ蜀。兵不レ血レ刃。順レ流鼓レ棹。徑造二三山一。孫皓降。濬解レ縛受レ璧焚レ櫬。送二于京師一。以レ功封二襄陽縣侯一。累二轉撫軍大將軍一。卒諡レ武。

順ひ揖(一六)を鼓し、徑に三山に造る。孫皓降る。濬縛(一七)を解き璧を受け櫬を焚き、京師に送る。功を以て襄陽縣侯に封ぜらる。撫軍大將軍に累遷す。卒して武と諡す。

(一) 三墳五典即ち三皇五帝の書を渉獵し (二) 滯ることなく其文を讀破し、明亮に其義に通達す (三) 志ひろく大なり (四) 長きほこ、旗さしものを押立てゝ通行するも差支なからしめんとせり (五) 其德に恥ぢ官を退きて逃れ去る (六) 巴郡は吳の國境にあり、從つて蜀吳の接戰地にして、兵士皆戰役に苦しむ (七) 法令の科條を嚴重にし (八) 夫役年貢を寛大にす (九) 賦役年貢を免除す (一〇) 生兒を殺さず完全に生長せしめし者 (一一) 刕は意、切り劃くの義なるが、其字形、州の字の隷體に類似せるより斯く言へるならん (一二) 大守の敬稱 (一三) 兩船をならべたるもの (一四) 鷁は形狀鷺に似て大なる鳥、善く翔りて風を畏れず。其鳥の首を舟に畫く也 (一五) 府君は刺史の敬稱 (一六) 棹を動かす (一七) 降服する者は面縛して璧を含み櫬を輿ふ。今璧を受け櫬を焚くは殺さゞるを示す也

起レ宅開二門前路一。廣數十步。欲レ使レ容二長戟幡旗一。衆咸笑レ之。辟二河東從事一。守令有下不二廉潔一者上。皆望レ風引去。除二巴郡太守一。郡邊二吳境一。兵士苦レ役。生レ男多不レ養。濬乃嚴二其科條一。寬二其徭課一。其産育者。皆與二休復一。所二全活一數千人。轉二廣漢太守一。垂レ惠布レ政。百姓賴レ之。夜夢下懸二三刀於臥

者あり。皆風(五)を望みて引き去る。巴郡の太守に除せらる。郡(六)吳境に邊し、兵士役に苦み、男を生めば多く養はず。濬乃ち其科條(七)を嚴しくし、其徭課(八)を寛くす。其産育する者は、皆休復(九)を與ふ。全活(一〇)する所數千人なり。廣漢の太守に轉ず。惠を垂れ政を布き、百姓之に賴る。夜三刀を臥屋の梁の上に懸け、須臾にして又一刀を益すと夢む。濬意に甚だ之を惡む。主簿李毅拜賀して曰く、「三刀(一一)は州字たり。又一刀を益すは、明府(一二)其れ益州に臨まんか」と。果して益州の刺史に遷る。後再び益州に刺史たり。武帝吳を伐たんことを謀り、濬に詔して舟艦を脩めしむ。乃ち大船を作り舫(一三)を連ね、木を以て城となし、樓櫓を起し、鷁首(一四)怪獸を船首に畫き、以て江神を懼れしむ。舟檝の盛なる、古より未だあらず。龍驤將軍に拜せられ、軍を監し兵を統ぶるに、先に巴郡ありしとき全育せし所の者、皆徭役に堪へて軍に供す。其父母之を戒めて曰く、「王府君(一五)爾を生かず。爾必ず之を勉めよ。死を愛むことなかれ」と。濬、蜀を發してより、兵刃に血ぬらず、流に

錄二尚書事一。初羣爲レ兒時。祖父寔常奇二異之一。謂二宗人父老一曰。此兒必興二吾宗一矣。博物志曰。大丘長陳寔。寔子鴻臚卿紀。紀空子司羣。羣子泰。四世於二漢魏一竝有二重名一。而其德漸漸小減。時人爲二之語一曰。公慙レ卿。卿慙レ長。蹵或作レ慼。

く、『大丘長の陳寔、寔の子鴻臚卿の紀、紀の子司空の群、群の子泰、四世漢魏に於て、竝に重名あり。而して其德漸漸小減す。時人之が語をなして曰く、(三)『公は卿に慙ぢ、卿は長に慙づ』と。蹵は或は慼にも作る。

(一)愁ふる貌　(二)宗族即ち一族の人々に　(三)公は司空にて陳羣を指し、卿は鴻臚卿にて陳紀を指し、長は大丘長にて陳寔を指す。慙づとは其德の及ばざるをいふ也

晉書。王濬字士治。弘農湖人。博涉二墳典一。疏通亮達。恢廓有二大志一。嘗

王濬懸刀　丁固生松

晉書にいふ、王濬字は士治、弘農湖の人なり。博く(一)墳典に涉り、(二)疏通亮達す。(三)恢廓にしては大志あり。嘗て宅を起し、門前の路を開く。廣さ數十步、(四)長戟幡旗を容れしめんと欲す。衆咸之を笑ふ。河東從事に辟さる。守令に廉潔ならざる

晉書。羊曼字延祖。少知レ名。歷二晉陵大守一。任達頹縱。好飲レ酒。溫嶠。庾亮。阮放。桓彝同レ志友善。竝爲二中興名士一。時州里稱二阮放一爲二宏伯一。郗鑒爲二方伯一。胡毋輔之爲二達伯一。卞壼爲二裁伯一。蔡謨爲二朗伯一。阮孚爲二誕伯一。劉綏爲二委伯一。而曼爲二黠伯一。凡八人號二兗州八伯一。蓋擬二古之八儁一也。

阮放八儁　江泉四凶

晉書にいふ、羊曼字は延祖、少にして名を知らる。晉陵の太守を歷たり。任(一)達頹縱、好みて酒を飲む。溫嶠・庾亮・阮放・桓彝、志を同うして友として善し。竝に中興(二)の名士となる。時に州里阮放を稱して宏伯(三)となし、郗鑒を方伯(四)となし、胡毋輔之を達伯(五)となし、卞壼を裁伯(六)となし、蔡謨を朗伯(七)となし、阮孚を誕伯(八)となし、劉綏を委伯(九)となし、而して曼を黠伯(一〇)となす。凡そ八人兗州の八伯と號す。蓋し古の八儁に擬へしなり。

(一)我がまゝにして身をもちくづすこと　(二)東晉の名士。中興は東晉の元帝の都を建鄴に定めしをいふ也　(三)思慮廣大にして人の長たるべきを以ていふ　(四)方正なるを以ていふ　(五)事理に通達せるを以ていふ　(六)事物を判斷し又はとりさばくことに妙を得たるを以ていふ　(七)氣性の高く明かなるを以つていふ　(八)小事にかゝはらず放大なるを以ていふ　(九)用心細密なるを以ていふ　(一〇)みだりに華美を好むを以ていふ

古人云ニ此水一。一歃懷ニ千金一。試夷齊飮。終當レ不レ易レ心。及レ在レ州。淸操愈厲。後致仕。授ニ光祿大夫金章紫綬一。

魏志。王脩字叔治。北海營陵人。年七歲喪レ母。以ニ社日一亡。來歲鄰里社。脩感ニ念母一哀甚。鄉里爲レ之罷レ社。後太祖破ニ南皮一。閱ニ脩家一。穀不レ滿ニ十斛一。有ニ書數百卷一。太祖歎曰。士不ニ妄有一レ名。乃辟爲ニ司空掾一。遷ニ魏郡太守一。爲レ治抑レ強扶レ弱。百姓稱レ之。

魏志にいふ、王脩字は叔治、北海營陵の人なり。年七歲にして母を喪ふ。社日（一）を以て亡す。來歲鄰里の社（二）に、脩、母を感念し哀むこと甚し。鄉里之が爲に社を罷む。後太祖南皮を破りしとき、脩の家を閱するに、穀は十斛に滿たざれども、書は數百卷あり。太祖歎じて曰く、「士妄りに名あるにあらず（三）」と。乃ち辟して司空の掾となす。魏都の太守に遷り、治をなすに強きを抑へ弱きを扶く。百姓之を稱す。

（一）春秋二度、土神を祭りて豐穰を祈る行事　（二）明年隣村の社日の祭　（三）士の有名なるは只譯もなく有名なるにはあらず必ずそれ相應の原因あり

憂一。每ニ號泣一。行人爲レ之流涕。事レ母孝謹。及ニ其執一レ喪。哀毀過レ禮。與ニ太常韓康伯一隣居。康伯母賢明婦人。每レ聞ニ其哭一。輟レ餐投レ筯。爲レ之悲泣。謂ニ康伯一曰。汝若居ニ銓衡一當レ擧ニ如レ此輩人一。及ニ康伯爲ニ吏部尙書一。隱之遂階ニ淸級一。廣州珍異所レ出。前後刺史多黷レ貨。朝廷欲レ革ニ其弊一。以ニ隱之一爲ニ刺史一。州有レ水曰ニ貪泉一。飲者懷ニ無レ厭之欲一。隱之至ニ泉所一。酌而飲レ之。因賦レ詩曰。

每に、餐(五)を輟め筯を投げ、之が爲に悲泣す。康伯に謂て曰く、「汝若し銓衡(六)に居らば、當に此の如き輩の人を擧ぐべし」と。康伯の吏部尙書と爲るに及びて、隱之遂に淸級(七)に階す。廣州は珍異の出づる所にして、前後の刺史多く貨に黷(八)さる。朝廷其弊を革めんと欲し、隱之を以て刺史となす。州に水あり。貪泉と曰ふ。飲む者厭くなきの欲を懷く。隱之、泉所に至り、酌みて之を飲み、因つて詩を賦して曰く、『古人此水を云ふ、一たび歃れば千金(九)を懷ふと、試に夷齊(一〇)をして飲ましめば、終に心を易へざるべし』と。州にあるに及び、淸操愈〻厲し。後致仕(一一)し、光祿大夫金章紫綬を授けらる。

(一) 文章歴史に通ず　(二) 正しく儒道を行ふを以て名を天下に表はす　(三) 二十歳の項より孤立獨行にして淸きみさをあり　(四) 父の喪に居る　(五) 食事をやめ、箸をなぐ　(六) 人物をはかりあぐる意。吏部の官は之をつかさどる也　(七) 淸顯の位にのぼる。位高く顯はれて職務の閑散なるを淸といふ　(八) 貨財を貪りて節操を汚す　(九) 千金をも得まほしき欲念を抱く　(一〇) 伯夷叔齊　(一一) 官を辭し

人。或謂ㇾ湛爲ニ僞詐ー。湛曰。人皆詐ㇾ惡。我獨詐ㇾ善。建武初。拜ニ光祿勳ー。光武臨ㇾ朝。或有ニ惰容ー。輒陳諫。常乘ニ白馬ー。上每ㇾ見。陳言。白馬生且復諫矣。及ニ郭后廢ー。稱ㇾ病不ㇾ朝。拜ニ大中大夫ー。帝强起ㇾ之。爲ニ大司徒ー。湛自陳ニ疾篤ー。遂罷。

と稱して朝せず。太中大夫に拜せらる。帝强ひて之を起たしめ、大司徒となさんとす。湛自ら疾篤しと陳べ、遂に罷む。

㈠起ち居振舞に正しき法度あり　㈡父母　㈢長安に近き右扶風、左馮翊、京兆の三地方の人々皆濡を以て手本とす　㈣惡を爲して詐りかくす意　㈤怠りなまけたる樣子

晉書。吳隱之字處默。濮陽鄄城人。博涉ニ文史ー。以ニ儒雅ー標ㇾ名。弱冠而介立。有ニ淸操ー。年十餘丁ニ父

隱之感鄰　王脩輟社

晉書にいふ、吳隱之字は處默、濮陽鄄城の人なり。博く文史に涉り、儒雅を以て名を標はす。弱冠にして介立して淸操あり。年十餘にして父の憂に丁る。號泣する每に、行人之が爲に流涕す。母に事へて孝謹なり。其喪を執るに及びて哀毀禮に過ぐ。太常韓康伯と隣居す。康伯の母は賢明の婦人なり。其哭を聞く

皇太子。以二適長一立十餘年。名號繫二於百姓一。天下莫レ不二歸レ心臣子一。見二定陶王愛幸一。道路流言。以爲三太子有二動搖之議一。審若レ此公卿以下必以レ死爭不レ奉レ詔。臣願先賜レ死以示二羣臣一。天子素仁。見二丹涕泣言又切至一。大感曰。皇后謹愼。先帝又愛二太子一。吾豈可レ違レ指。太子由レ是爲レ嗣。成帝立。累二遷左將軍一。

太子是に由つて嗣となる。成帝立つ。左將軍に累遷す。

㈠酒色に溺るゝの失行 ㈡病やゝ快よく ㈢寢室の内 ㈣天子の座の周圍を青色にてぬれる其範圍內。皇后以外の者は此内に入るを得ざる定めといふ ㈤適は嫡也 ㈥嫡太子たる其名號人民の間に普く知れ渡り居り皆心を歸して背く心なし ㈦太子を廢立せんの議

後漢張湛字子孝。扶風平陵人。矜嚴。好レ禮。動止有レ則。居二幽室一必修整。過二妻子一若二嚴君一。在二鄕黨一。詳レ言正レ色。三輔以爲二儀表一。

後漢の張湛字は子孝、扶風平陵の人なり。矜嚴にして禮を好み、(一)動止則あり。幽室に居るも必ず修整す。妻子を遇すること(二)嚴君の若し。鄕黨に在りても、言を詳にし色を正うす。(三)三輔以て儀表と爲す。人或は湛を謂て僞詐となす。湛曰く、「人は皆惡を詐り、我は獨り善を詐る」と。建武の初、光祿勳に拜せらる。(四)光武朝に望み、或は(五)惰容あれば、輒ち陳諫す。常に白馬に乘る。上見る毎に、輒ち言ふ、「白馬生且つ復諫めんとす」と。郭后の廢せらるゝに及び、疾

前漢史丹字君仲。魯國人。元帝卽ㇾ位。爲二侍中一。時定陶共王有二材藝一。子母俱愛幸。而太子頗有二酒色之失一。母王皇后無ㇾ寵。上寢ㇾ疾。皇后太子皆憂。丹以二親密臣一得ㇾ侍ㇾ疾。候二上閒獨寢時一。直入二臥內一。伏二青蒲上一。涕泣言曰。

史丹青蒲　張湛白馬

前漢の史丹字は君仲、魯國の人なり。元帝位に卽くや、侍中となる。時に定陶共王材藝あり。子母俱に愛幸せらる。而るに太子頗る酒色(一)の失あり。母王皇后寵なし。上疾に寢ぬ。皇后太子皆憂ふ。丹親密の臣たるを以て、疾に侍することを得。上の閒(二)ありて獨り寢ぬる時を候ひ、直に臥內(三)に入りて、青蒲(四)の上に伏し、涕泣して言て曰く、「皇太子適長(五)を以て立つこと十餘年、名號(六)百姓に繫れり。天下心を歸して臣子たらざるなし。定陶王の愛幸せらるゝを見、道路流言して、以て太子に動搖の議ありと爲す。審に此の若くんば、公卿以下必ず死を以て爭ひて詔(七)を奉ぜざらん。臣願はくは先づ死を賜はりて、以て群臣に示さん」と。天子素より仁なり、丹が涕泣して言ふこと又切至なるを見、大いに感じて曰く、「皇后は謹愼なり。先帝又太子を愛したり、吾れ豈に指に違ふべけんや」と。

多貧。故爲二廣被一。庶可下得レ與二氣類一接上也。其讀レ書。夙夜不レ懈。龐奇レ之曰。卿宰相器也。除二監池司馬一。自能結レ網。手以捕レ魚。作レ鮓寄レ母。母以還レ之曰。汝爲二魚官一。而以レ鮓寄レ我。非レ避レ嫌也。遷二吳令一。時皆不レ得二將レ家之一レ官。每レ得二時物一。未二以寄一レ母。常不二先食一。楚國先賢傳曰。宗母嗜レ筍。冬節將レ至。時筍尙未レ生。宗入二竹林一哀歎。而筍爲レ之出。得二以供一レ母。皆以爲二至孝所一レ感。仕二孫皓一至二司空一。

馬に除せらる。自ら能く網を結び、手づから以て魚を捕へ、(五)鮓を作りて母に寄す。母以て之を還して曰く、「汝魚官となりて、鮓を以て我に寄するは、嫌を避くるにあらず」と。吳の令に遷さる。(六)時に皆家を將る官に之くことを得ず。時物を得る每に、未だ以て母に寄せざれば、常に先づ食せず。楚國先賢傳に曰く、『宗が母筍を嗜む。冬節將に至らんとす。時に筍尙ほ未だ生ぜず。宗竹林に入り哀歎す。而して筍之が爲に出づ。以て母に供することを得たり。皆以て至孝の感ずる所となす。孫皓に仕へ司空に至れり』と。

㈠ 綿の厚いしとね、大きなる夜具 ㈡ 立派な人を友とするだけの德なし ㈢ 同氣同類の友 ㈣ 池魚の事を掌る也 ㈤ ふなずしといふ類、鹽米を以て醞酵せしめたる一種のすし ㈥ 其任に赴く者何れも一家族をまとめてゆく能はず

鼈小焉。睹父怒。相延食ㇾ鼈。辭曰。將下使二鼈長一。而後食上ㇾ之。遂出。文伯之母聞ㇾ之怒曰。吾聞二之先子一。曰。祭養ㇾ尸。饗養二上賓一。鼈於何有。而使二夫人怒一也。遂逐ㇾ之。五日。魯大夫辭而復ㇾ之。

を先子(六)に聞けり、曰く、祭(七)には尸を養ひ、饗には上賓を養ふべしと。鼈(八)に於て何かあらん。而るに夫の人を怒らしむ」と。遂に之を逐ふ。五日にして魯の大夫辭(九)して之を復す。

(一) 魯の大夫 (二) 魯の大夫 (三) 魯の大夫。客は賓客中の最上位に居るべき者、上客 (四) 客にすゝむるすつぽん (五) 睹父それを辭して曰く、すつぽんを大きくさせて後食はんと。非常に怒りて無理を言ふ也 (六) しうと即ち文伯の母の先舅 (七) 尸はかたしろとて十歳前後の少年を神に象り神靈をのりうつらせし者、祭祀には之を貴び養ふ (八) 鼈を擇びて其大なるを得るは雑作なき事也 (九) おわびして漸く家に復歸せしめたり

呉錄。孟仁字恭武。本名宗。江夏人。少從二李肅一學。其母爲作二厚褥大被一曰。小兒無二德致一客。學者

呉錄にいふ、孟仁字は恭武、本名は宗、江夏の人なり。少うして李肅に從ひ學ぶ。其母爲に厚褥(一)大被を作りて曰く、「小兒は德の客(二)を致すべきなし。學者多くは貧し。故に廣被を爲る。庶はくは氣類(三)と接はることを得べし」と。其書を讀むや、夙夜懈らず。肅、之を奇として曰く、「卿は宰相の器なり」と。(四)監池の司

因レ醉。夜至二其甕間一盜飮。爲二掌レ酒者一所レ縛。明旦視レ之。乃畢吏部也。遽釋二其縛一。卓遂引二主人一。宴二於甕側一。致レ醉而去。卓常謂レ人曰。得レ酒滿二數百斛船一。四時甘味置二兩頭一。右手持二酒杯一。左手持二蟹螯一。拍二浮酒船中一。便足レ了二一生一矣。過レ江爲二溫嶠長史一。

人に謂て曰く、「酒を得て數百斛の船に滿て、四時の甘味を兩頭に置き、右手には酒杯を持ち、左手には蟹螯を持ち、酒船中に拍浮せば、便ち一生を了るに足れり」と。江を過ぎて溫嶠の長史となる。

(一) 意の儘に振舞ふと (二) 鄰の郎中の家にてかもしたる酒熟す (三) とも、へさき (四) かにのはさみ、味美なり (五) 酒ふねの中に手を打つて泳ぎ廻らば (六) 元帝の楊子江を渡りて都を建鄴に奠めし後、溫嶠の部下なり其長史となる

文伯羞鼈　孟宗寄鮓

魯語曰。公父文伯。飮二南宮敬叔酒一。以二露睹父一爲レ客。羞

魯語に曰く、公父文伯、南宮敬叔に酒を飮ましむ。露睹父を以て客となす。羞鼈小なり。睹父怒る。相延きて鼈を食せしむ。辭して曰く、「將に鼈をして長ぜしめて後に之を食せんとす」と。遂に出づ。文伯の母之を聞き怒りて曰く、「吾れ之

店一。便獨酣暢。雖二當世富貴一。而不二肯顧一。家無二儋石之儲一。晏如也。與二兄弟同志一。常自二得於林皐閒一。王衍與レ脩談レ易。言寡旨暢。衍歎服焉。脩居貧。年四十餘未レ有レ室。王敦等斂レ錢爲レ婚。皆名士也。時慕レ之者。求レ入レ錢而不レ得。後爲二太子洗馬一。避レ亂爲レ賊所レ害。

ぶ。衍歎服す。脩の居るや貧しく、年四十餘まで未だ室あらず。(九)王敦等は錢を斂めて婚をなす、皆名士なり。時に之を慕ふ者、錢を入れんことを求むれども得ず。(一〇)後太子洗馬となる。亂を避けんとして賊に害せらる。

(一) 阮咸のいとこ　(二) 周易と老子を好み、善く虚無の清談を爲す　(三) 世事に拘らず大まかにて意のまゝに振舞ふをいふ　(四) 酒に醉ひて氣をのび〳〵さす　(五) ほんとの僅かのたくはへ　(六) のんきに安ずる貌　(七) 山林丘陵に遊びて自ら樂む　(八) 論旨がよく通る　(九) 妻　(一〇) 世の名士は錢を王敦等に納めて其女と婚を結ぶ、然るに當時阮脩の人格を慕ふ者却て持參金つきにて其女を脩に嫁せんことを求めしも、脩は聽き入れざりき

晉畢卓字茂世。新蔡鮦陽人。少希二放達一。爲二吏部郎一。常飮レ酒廢レ職。比舍郎釀熟。卓

晉の畢卓字は茂世、新蔡鮦陽の人なり。少にして(一)放達を希ふ。吏部郎となり、常に酒を飮み職を廢す。(二)比舍の郎に釀熟す。卓醉に因り、夜其甕間に至り盜み飮み、酒を掌る者に縛せらる。明旦之を視れば、乃ち畢吏部なり。遽に其縛を釋く。卓遂に主人を引きて、甕の側に宴し、醉を致して去れり。卓常に

初月犯二少微一。少微一名二處士星一。古者以二隱士一當レ之。戴逵有二美才一。人或憂レ之。俄而敷死。故會稽人士。以嘲二吳人一云。吳中高士。求レ死不レ得レ死。

士、以て吳人を嘲りて云く、『吳中の高士、死を求むれども死するを得ず』と。(五)

(一) 水の清み澄めるが如く潔白にして欲少なし (二) 三月月が少微星を犯せしなり (三) 占ふ者此星の犯されたるを見て官に仕へざる隱士に憂ありといふ (四) 當時戴逵は才美なる隱者なりし故、人々其死を憂ひたるに、案に相違して謝敷俄かに死せり (五) 吳中の高士戴逵は其德天に感じ星の初月に犯さるゝありて死せりと人に知らるべく願ひしも遂に其求めを得ず、却て會稽の高士謝敷死せりと也

晉書。阮脩字宣子。咸從子也。好二易老一。善二清言一。性簡任。不レ修二人事一。常步行。以二百錢一掛二杖頭一。至二酒

阮宣杖頭　畢卓甕下

晉書にいふ、阮脩字は宣子、咸が從子なり。(一)易老を好み清言を善くす。(二)性簡任(三)にして人事を修めず。常に步行し、百錢を以て杖頭に掛け、酒店に至れば便ち獨り酣暢す。(四)當世の富貴と雖も、肯て顧ず。家に儋石の儲なきも(五)晏如たり。(六)兄弟同志と、常に林皐(七)の間に自得す。王衍、脩と易を談ずるに、言寡くして旨暢(八)

晉書。戴逵字安道。譙國人。少博學。善屬ㇾ文。能鼓ㇾ琴。工ニ書畫一。其餘巧藝。靡ㇾ不ニ畢綜一。武陵王晞聞ニ其善鼓一ㇾ琴。使ニ人召一ㇾ之。逵對ニ使者一破ㇾ琴曰。戴安道不ㇾ為ニ王門伶人一。晞怒引ニ其兄述一。述欣然擁ㇾ琴而往。後累召不ㇾ起。

戴逵破琴　謝敷應星

晉書にいふ、戴逵字は安道、譙國の人なり。少にして博學、善く文を屬し、能く琴を鼓き、書畫に工なり。其餘の巧藝、畢く綜べざるなし。武陵王晞、其善く琴を鼓するを聞き、人をして之を召さしむ。逵、使者に對し、琴を破りて曰く、「戴安道は王門の伶人とならず」と。晞怒りて其兄述を引く。述欣然として琴を擁きて往く。後累りに召せども起たず。

(一)諸侯王召抱への樂人とは相成らず　(二)召す　(三)逵は遂に仕へざりしと也

晉謝敷字慶緒。會稽人。性澄靖寡欲。入ニ太平山一十餘年。召皆不ㇾ就。

晉の謝敷字は慶緒、會稽の人にして、性澄靖寡欲なり。太平山に入りて十餘年、召せども皆就かず。初月少微を犯す。少微は一に處士星と名づく。占者隱士を以て之に當つ。戴逵美才あり、人或は之を憂ふ。俄にして敷死す。故に會稽の人

毎ㇾ食二甘蔗一。常自ㇾ尾至ㇾ本。人或怪ㇾ之。云漸入二佳境一。尤善二丹青一。圖寫特妙。嘗以二一廚畫一。糊二題其前一。寄二桓玄一。皆其所二珍惜一者。玄發二其廚後一。竊二其畫一。而緘閉如ㇾ舊還ㇾ之。紿云。未ㇾ開。愷之見二封題如ㇾ初。直云。妙畫通ㇾ靈。變化而去。亦猶二人之登仙一。了無二怪色一。其矜伐過ㇾ實。少年因相稱譽。以爲二戲弄一。初在二桓溫府一。嘗云。愷之體中癡黠各半。合而論ㇾ之。正得ㇾ平耳。故俗傳愷之有二三絕一。才絕畫絕癡絕。終二散騎常侍一。

一廚(四)畫を以て題を其前に糊し、桓玄に寄す。皆其珍惜する所の者なり。玄其廚後を發き、其畫を竊み、緘閉舊の如くにして之を還し、紿きて云ふ、「未だ開かず」と。愷之封題(五)初の如くなるを見、直ちに云ふ、「妙畫靈に通じ、變化して去れるは、亦猶ほ人の登仙するがごとし」と。了に怪む色なし。其矜伐(六)實に過ぐ。少年因つて相稱譽して以て戲弄と爲す。初め桓溫の府にありしとき、嘗て云ふ、「愷之の體中癡黠(七)各半す。合して之を論ずれば正に平を得んのみ」と。故に俗に傳ふ、『愷之に三絕(八)あり』と。才絕・畫絕・癡絕なり。散騎常侍に終る。

(一) 砂糖きびを嚙むに、いつも末の方より始めて段々と本の方に及ぶ (二) 繪畫 (三) 寫生 (四) 廚は櫃也、櫃に納めたる珍藏の畫に其櫃の前面のみに封印し (五) 前面の封印 (六) 自負してはこる (七) 愚と智と半々也 (八) 三つの人並みすぐれたること

官京氏易ニ最密。故善言ニ災異一。終ニ大司農一。護字君卿。少隨レ父爲レ醫。出ニ入貴戚家一。是時王氏方盛。賓客滿レ門。五侯爭レ名。其客各有レ所レ厚。不レ得ニ左右一。唯護盡入ニ其門一。咸得ニ其驩心一。爲レ人精ニ辯論議一。常依ニ名節一。聽者皆竦。仕至ニ廣漢太守一。王莽專レ政。召爲ニ前輝光一。西京雜記曰。五侯競致ニ奇膳一。護乃合以爲レ鯖。世盛稱ニ五侯鯖一以爲ニ奇味一焉。

る。王莽政を專にするや、召して前輝光(八)と爲す。西京雜記に曰く、『五侯競ひて奇膳を致す。護乃ち合(九)して以て鯖となす。世盛に五侯鯖と稱して、以て奇味となす』と。

(一)漢の成帝の母元后の兄弟に王譚・王商・王立・王根・王逢時の五人あり、倶に封ぜられて侯となりし者をいふ　(二)谷子雲の文章、樓君卿の雄辯　(三)學識の普ねくゆきわたれること　(四)周禮の篇名　(五)能あるものあれば各侯之を厚遇し、客は其家に止りて他に往くを得ず　(六)何れの侯よりも歡ばれたり　(七)おそれつゝしむ　(八)王莽が特設せる官にて京師の守護を司る　(九)其珍奇の料理を合して鯖とす。鯖は賍に同じく、魚や肉を煮て和したる一種の料理

晉顧愷之字長康。晉陵無錫人。博學有ニ才氣一。好ニ諧謔一。人多愛ニ狎之一。

晉の顧愷之字は長康、晉陵無錫の人なり。博學にして才氣あり。諧謔を好む。人多く之を愛狎す。甘蔗(一)を食ふ毎に、常に尾より本に至る。人或は之を怪む。云く、「漸く佳境に入る」と。尤も丹青(二)を善くし、圖寫(三)特に妙なり。嘗て

前漢谷永字子雲。長安人。與㆓樓護㆒俱爲㆓五侯上客㆒。長安號曰。谷子雲筆札。樓君卿脣舌。言㆔其見㆓信用㆒也。永於㆓經書㆒。汎爲㆓疏達㆒。與㆓杜欽杜鄴㆒略等。不㆑能㆔洽浹如㆓劉向父子及楊雄㆒也。其於㆓天

巻之中

谷永筆札　顧愷丹青

前漢の谷永字は子雲、長安の人なり。樓護と倶に五侯(一)の上客たり、長安號して曰く、『谷子雲(二)の筆札、樓君卿の脣舌』と。其信用せらるゝを言ふ也。永、經書に於て汎く疏達をなすと、杜欽・杜鄴と略ぼ等し。洽浹(三)は劉向父子及楊雄の如くなること能はず。其の天官(四)・京氏易に於ては最も密なり。故に善く災異を言ふ。大司農に終る。護字は君卿、少にして父に隨ひ醫となり、貴戚の家に出入す。是の時王氏方に盛にして、賓客門に滿つ。五侯名を爭ひ、(五)其の客各厚き所あり、左右することを得ず。唯だ護のみ盡く其の門に入り、(六)咸其の驩心を得たり。人となり論議に精辯にして、常に名節に依り、聽く者皆竦る(七)。仕へて廣漢太守に至

と。豈に此れか」と。坐中皆色を失ふ。就已むことを得ず、輦を去らしむ。是より(九)隱閉して人事に關せず。

(一)弘く大いに五經に達せる井大春　(二)名刺を修め調へて顯貴の人を訪問することをせず　(三)沛王輔・東海王彊・楚王英・濟南王康・淮南王延　(四)丹の來訪を請へども招き寄する能はず　(五)我よく丹を招かん果して招き得ば錢一萬を出し給へと約し、さて人をして丹を脅迫せしめ無理やりに招き寄せたる也　(六)ねぎの葉の汁、粗食也　(七)甚だ薄遇ならずや　(八)人の步して挽く車、たごし　(九)それ以來丹は隱居して門を閉ぢて出でず、全く世間の事にかゝはらざりき

弟也。以二外戚一貴盛。乃詭說二五王一。求二錢千萬一。約二能致一レ丹。而別使二人要一レ劫之。丹不レ得レ已既至。就故爲設二麥飯葱葉之食一。丹推二去之一曰。以三君侯能供二甘旨一。故來相過。何其薄乎。更置二盛饌一。乃食。及二就起一。左右進レ輦。丹笑曰。吾聞桀駕二人車一。豈此邪。坐中皆失レ色。就不レ得レ已。令レ去レ輦。自レ是隱閉不レ關二人事一。

曰。窮猿投レ林。豈暇レ擇レ木。乃除二剡縣令一。後爲二著作郎一。時典籍混亂。充刪二除煩重一。以レ類相從。分作二四部一。祕閣以爲二永制一。累二遷中書侍郎一。

(一)魏の鍾繇と晉の索靖、共に名筆なり　(二)縣令　(三)重複せる本をけづり除く　(四)天子の文庫は此甲乙丙丁四部の分類を以て定制とせり

後漢井丹字大春。扶風郿人。少受二業大學一。通二五經一。善二談論一。京師爲二之語一曰。五經紛綸井大春。性淸高。未二嘗修レ刺候レ人。建武末沛王輔等五王。居二北宮一。皆好二賓客一。更請レ丹。不レ能レ致。信陽侯陰就。光烈皐后

後漢の井丹字は大春、扶風郿の人なり。少にして業を大學に受け、五經に通じ、談論を善くす。京師之が語を爲して曰く、『(一)五經紛綸、井大春』と。性淸高にして、未だ嘗て(二)刺を修め人を候せず。建武の末、(三)沛王輔等五王、北宮に居り、皆賓客を好む。更に(四)丹を請へども、致すこと能はず。信陽侯陰就は光烈皇后の弟なり、外戚を以て貴盛なり。乃ち詭りて五王に說き、(五)錢千萬を求め、能く丹を致さんと約す。而して別に人をして要して之を劫さしむ。丹已むことを得ず、既に至る。就故に爲に(六)麥飯蔥葉の食を設く。丹之を推し去りて曰く、「君侯能く甘旨を供するを以て故に來り相過ぐ。(七)何ぞ其れ薄きや」と。更に盛饌を置く。乃ち食す。就起つに及び、左右(八)輦を進む。丹笑ひて曰く、「吾れ聞く、桀は人を車に駕す

以レ辨二識義理一。深重レ之。稍遷二征西長史一。遂顯二於朝廷一。時武子與二吳隱之一。以二寒素博學一。知二名于世一。又善二於賞會一。當時每レ有二盛坐一。而武子不レ在。皆云。無二事公一不レ樂。終二吏部尚書一。

(一)いつも油を得るといふ譯には行かず、兎角油に乏しと也　(二)ねりきぬのふくろ　(三)西征將軍の長史　(四)貧苦の中に勉强して博學となりしを以て有名也　(五)會の席上にて談論して客をたのしますこと　(六)盛大なる宴會のある每に

李充四部　井春五經

晉書。李充字弘度。江夏人。善二楷書一。妙參二鍾索一。世咸重レ之。褚裒引爲二參軍一。充以二家貧一。苦求二外出一。裒將三許レ之爲二縣一。試問レ之。充

晉書にいふ、李充字は弘度、江夏の人なり。楷書を善くし、妙、鍾索(一)に參る。世咸之を重んず。褚裒引きて參軍となす。充、家貧苦なるを以て、外に出でんことを求む。裒將に之を許して縣(二)となさんとす。試に之を問ふ。充曰く、「窮猿林に投ず。豈に木を擇ぶに暇あらんや」と。乃ち剡縣の令に除す。後著作郎となる。時に典籍混亂す。充、煩重(三)を刪除し、類を以て相從へ、分て四部と作し、(四)祕閣以て永制となす。中書侍郎に累遷す。

孫氏世錄曰。康家貧無レ油。常映レ雪讀レ書。少小淸介。交遊不レ雜。後至二御史大夫一。

晉車胤字武子。南平人。恭勤不レ倦。博覽多通。家貧不二常得一レ油。夏月則練囊盛二數十螢火一。以照レ書。以レ夜繼レ日焉。桓溫在二荊州一。辟爲二從事一。

孫康映雪　車胤聚螢

孫氏世錄に曰く、康家貧にして油なく、常に雪に映して書を讀む。少小より淸(一)介、交遊雜ならず。後に御史大夫に至る。

(一) 心淸く志大にて、交り遊ぶにも志尙同じからざる者には雜らず

晉の車胤字は武子、南平の人なり。恭勤にして倦まず。博覽多通、家貧にして常に油を得ず。夏月には則ち練囊に數十の螢火を盛り、以て書を照し、夜を以て(一)日に繼ぐ。桓溫荊州にあり、辟して從事となす。義理を辨識するを以て、深く之(二)を重んず。稍く征西の長史に遷り、遂に朝廷に顯る。時に武子吳隱之と、寒素博(三)學を以て名を世に知られ、又賞會に善し。當時盛坐ある每に、武子在らざれば皆云く、「車公なければ樂まず」と。吏部尙書に終る。(四)(五)(六)

反涕泣。何鄙也。後欲㆑上㆓封事㆒。妻又止㆑之曰。人當㆑知㆑足。獨不㆑念㆓牛衣中涕泣時㆒邪。章曰非㆓女子所㆑知也。書上。果下㆑獄死。死非㆓其罪㆒。衆庶冤㆑之。廣漢傚尊互見㆓於後㆒。

後漢鮑永字君長。上黨屯留人。少有㆓志操㆒。事㆓後母㆒至孝。妻嘗於㆓母前㆒叱㆑狗。永即去㆑之。建武中。爲㆓司隸校尉㆒。乃辟㆓扶風鮑恢㆒。爲㆓都官從事㆒。恢亦抗直。不㆑避㆓强禦㆒。帝嘗曰。貴戚且斂㆑手避㆓二鮑㆒。其見㆑憚如㆑此。父宣。哀帝時爲㆓司隸校尉㆒。爲㆓王莽㆒所㆑害。子昱。中元初亦拜㆓司隸校尉㆒。章帝時官至㆓太尉㆒。

後漢の鮑永字は君長、上黨屯留の人なり。少にして志操あり。後母に事へて至孝なり。(一)妻嘗て母の前に於て狗を叱するに、永即ち之を去る。建武中司隸校尉となり、乃ち扶風の鮑恢を辟して都官從事となす。恢も亦抗直にして、强禦(二)を避けず。帝嘗て曰く、「貴戚も且つ手を斂めて二鮑(三)を避けよ」と。其憚らるゝこと此の如し。父の宣は哀帝の時司隸校尉となり、王莽に害せらる。子の昱は、中元の初め亦司隸校尉に拜せられ、章の時に官太尉に至る。

(一)尊者の前にて狗を叱るは禮に叶はず、永は妻が姑に對し禮なしとして之を去る也　(二)惡强くして善行を禦ぐが如き者をも畏れ避くる事なし　(三)鮑永鮑恢の糾彈を受けぬやうにせよ

故京師稱曰。前有二趙張一。後有二三王一。駿終二御史大夫一。章字仲卿。泰山鉅平人。遷二諫大夫一。在二朝廷一名二致直言一。成帝選爲二京兆尹一。時帝舅王鳳輔レ政專レ權。會二日食一。章奏二封事一。召見言。鳳不レ可二任用一。宜レ選二忠賢一。上不レ忍レ退レ鳳。章遂爲レ鳳所レ陷。初章爲二諸生一學二長安一。疾病無レ被。臥二牛衣中一。與レ妻決涕泣。妻呵二怒之一曰。京師尊貴在二朝廷一。誰踰二仲卿一者。今不二自激昂一。乃

奏す。召され見えて言ふ、「鳳任用すべからず。宜く忠賢を選ぶべし」と。上鳳を退くるに忍びず、章遂に鳳に陷れらる。初め章諸生となり長安に學ぶ。疾病に被(三)なし。牛衣(四)中に臥し、妻と決(五)して涕泣す。妻之を呵怒して曰く、「京師の尊貴朝廷にあり。誰か仲卿に踰ゆる者ぞ。今自ら激昂(六)せず、乃ち反つて涕泣す。何ぞ鄙なるや」と。後封事(七)を上らんと欲するとき、妻又之を止めて曰く、「人當に足るを知るべし。獨り牛衣中にて涕泣せし時を念はざるか」と。章曰く、「女子の知る所にあらざるなり」と。書上る。果して獄に下りて死す。死する其罪にあらざれば、衆庶之を冤なりとす。廣漢・敞・尊(八)は後に互見す。

(一) 能く治を致したるの名あり (二) 趙張は趙廣漢・張敞、三王は王尊・王章・王駿 (三) 褻衣、ふすま (四) 牛に著するもの、亂麻を編みて作る (五) 訣に通ず、將に死すべきを思ひて妻に辭訣するの意ならん (六) 心をふるひはげます事なくして (七) 密見封事、事を言ふに他に漏れざる樣封じて上る也 (八) 趙廣漢・張敞王尊の事は後段に互に記載すと也

疏爲レ令。當レ時爲レ是。何古之法乎。後爲二執金吾一。逐二捕桑弘羊衞皇后昆弟子一刻深。上以爲二盡レ力無レ私。遷二御史大夫一。兩子夾レ河爲二郡守一。家貲累二巨萬一。治皆酷暴。唯少子延年。行寬厚云。

るす　(五)公平に罪を決斷すべき任に在りながら　(六)古へ法律を三尺の竹簡に書したる故に法律を三尺といふ　(七)京師及び宮城外を警察する官　(八)杜周の二人の子　(九)民を治むることむごくあらくし

前漢王駿。諫大夫吉之子。以二孝廉一爲レ郎。成帝欲レ大二用之一。出爲二京兆尹一。試以二政事一。先レ是京兆有二趙廣漢張敞王尊王章一。至レ駿皆有二能名一。

三王尹京　二鮑糾慝

前漢の王駿は、諫大夫吉の子なり。孝廉を以て郎となる。成帝之を大用せんと欲し、出だして京兆の尹となし、試むるに政事を以てす。是より先京兆に趙廣漢・張敞・王尊・王章あり。駿に至るまで皆能名(一)あり。故に京師稱して曰く、『前に趙張(二)あり、後に三王あり』と。駿は御史大夫に終る。章字は仲卿、泰山鉅平の人なり。諫大夫に遷り、朝廷にありて、敢て直言するに名あり。成帝選びて京兆の尹となす。時に帝の舅王鳳、政を輔け權を專にす。日食するに會ひ、章封事を

獄。磔二堂下一。父見レ之。視二文辭一。如二老獄吏一。大驚。遂使レ書レ獄。

前漢杜周。南陽杜衍人。少言重遲。而內深次レ骨。爲二廷尉一。其治倣二張湯一。上所レ欲レ擠者。因而陷レ之。上所レ欲レ釋。久繫待レ問。而微見二其冤狀一。客謂レ周曰。君爲二天下一決平。不レ循二三尺法一。專以二人主意指一爲レ獄。周曰。三尺安出哉。前主所レ是著爲レ律。後主所レ是

前漢の杜周は、南陽杜衍の人なり。(一)少言重遲にして、(二)內深く骨に次る。廷尉となり、其治張湯に倣ふ。(三)上の擠さんと欲する所の者は、因つて之を陷る。上の釋さんと欲する所は、(四)久しく繫ぎ問を待ちて、微かに其冤狀を見はす。客、周に謂て曰く、「君、天下の爲に(五)決平し、(六)三尺の法に循はず、專ら人主の意指を以て、獄を爲む」と。周曰く、「三尺安より出づるか。前主の是とする所著して律と爲し、後主の是とする所疏して令と爲す。時に當るを是となす。何ぞ古の法あらんや」と。後執金吾となり、桑弘羊・衞皇后昆弟の子を逐捕するに刻深なり。上以て力を盡し(七)私なしとなす。御史大夫に遷り、(八)兩子、河を夾みて郡守と爲り、家資巨萬を累ぬ。(九)治皆酷暴、唯だ少子延年のみ行ひ寬厚なりと云ふ。

(一) 口數少なく愚圖々々して敏捷ならず (二) 內心苛酷にて法を用ふること骨に至る程にきびし (三) 天子(武帝)の罪に墜さんとする者は (四) 長く獄につなぎ置き、上の問を待ちて極めて曖昧に無實の罪なる旨を示して之をゆ

に辜を以てす。公卿より以下庶人に至るまで、咸湯を指す(九)。後御史大夫となり、事に坐して自殺す。初め湯の父長安の丞となり、出づるとき湯は兒たりしが舍を守らしむ。還れば鼠肉を盜む。父怒りて湯を笞つ。湯掘り熏べて(一〇)鼠及び餘肉を得、鼠を劾して掠治し、傳(一一)して爰書、訊鞫、論報し、鼠と肉とを幷取し、獄(一二)を具へて堂下に磔す。父之を見て文辭を視るに老獄吏の如し。大いに驚き、遂に獄(一三)を書せしむ。

於文學一之士。每三朝奏レ事語二國家用一。日旰天子忘レ食。丞相取二充位一。天下事皆決レ湯。百姓不レ安二其生一騷動。縣官所レ興。未レ獲二其利一。姦吏並侵漁。於レ是痛繩以レ辜。自二公卿一以下至二庶人一。咸指レ湯。後爲二御史大夫一。坐レ事自殺。初湯父爲二長安丞一。出湯爲レ兒守レ舍。還鼠盜レ肉。父怒笞レ湯。湯掘熏得二鼠及餘肉一。劾レ鼠掠治。傳爰書訊鞫論報。幷二取鼠與レ肉。具レ

(一) 依怙を以て法文を曲げ巧に誣ひ言ひくるむ　(二) 訪問して御機嫌を取る　(三) 文深くとは法をきびしくすること。意忌むとは自己の忌みにくむものを重く罪するなり　(四) 文辭に巧みなる士にて　(五) 天子は日の晩るゝまでも食を忘れて傾聽し、宰相は只其職に備はるのみの姿にて　(六) 朝廷の興し施す所　(七) 民を虐げ掠め取る　(八) 糺彈し、隱す者は罪におとさんとす　(九) 皆張湯の致す所といふ　(一〇) 鼠の穴を掘りくすべ　(一一) 傳するは傳遞といふ事にて、罪人を今一應取調ぶるため送りつかはすこと。爰書は獄書を移しかへて他の官をして考覈せしむるもの。訊鞫は罪をきはむること。論報は書類を上りて報告の下るをまつこと　(一二) 治獄の文を具ふるをいふ　(一三) 決獄裁判の文を作らしむるの意か。一説には律令を學ばしむるの義といふ

之。有二陰德一者天報以レ福。人聞レ之。皆喩二其爲レ仁也。及レ爲二令尹一。未レ治而國人信レ之。列女傳曰。有二陰德一者陽報レ之。德勝二不祥一。仁除二百禍一。天之處レ高聽レ卑。爾必興二於楚一。及レ長爲二令尹一。老終。

(一) やがて死なん、母に先立ちて死ぬるが悲しと也　(二) 他人の見ん事を恐れて其蛇を埋めたるは陰德也、其報として死を免るべしと也

前漢張湯。杜陵人。爲二廷尉一舞レ文巧詆。其造二請諸公一。不レ避二寒暑一。是以湯雖三文深意忌不二專平一。然得二此聲譽一。而深刻吏多爲二爪牙用一者。依二

張湯巧詆　杜周深刻

前漢の張湯は、杜陵の人なり。廷尉となり、(一)文を舞はし巧詆す。其の諸公に(二)造請するに、寒暑を避けず。是を以て湯、(三)文深く意忌み專ら平ならずと雖も、然れども此聲譽を得たり。而して深刻の吏多く爪牙の用となる者は、(四)文學に依るの士にして、朝に事を奏し國家の用を語る每に、(五)日旰るゝまで天子食を忘れ、丞相は充位を取るのみ。天下の事皆湯に決すればなり。百姓其生に安ぜずして騷動す。(六)縣官の興す所、未だ其利を獲ず、姦吏並に(七)侵漁す。是に於て痛く(八)繩す

焉往而不二三黜一。枉レ道而事レ人。何必去二父母之邦一。

● 獄官となりて屢々其役を退けらる。三は三度の義に非ずして屢々の意ならん ● 眞直の道を以て人に仕へば、此國に限らず、何れの國に行きても屢々退けられん、されば迚て道を枉げて人に仕ふる位ならば何も故國を去りて他國に至るに及ばぬ事也

賈誼新書曰。孫叔敖爲二嬰兒一。出遊而還。憂而不レ食。其母問二其故一。泣而對曰。今日吾見二兩頭蛇一。恐去レ死無レ日矣。母曰。今蛇安在。曰吾聞見二兩頭蛇一者死。吾恐二他人又見一。已埋レ之矣。母曰。無レ憂。汝不レ死。吾聞レ

賈誼の新書に曰く、孫叔敖嬰兒たりしとき、出遊して還り、憂へて食せず。其母其故を問ふ。泣いて對へて曰く、「今日吾れ兩頭の蛇を見たり。恐らく(二)死を去ること日なけん。」母曰く、「今蛇安にかある。」曰く、「吾れ聞く、兩頭の蛇を見たる者は死すと。吾れ他人の又見んことを恐れ、已に之を埋む。」母曰く、「憂ふることなかれ。(三)汝死せじ。吾れ之を聞く、陰德ある者は天報ゆるに福を以てすと。」人之を聞き皆其仁たるを喩る。令尹たるに及び、未だ治めずして國人之を信ず。列女傳に曰く、『陰德ある者は陽に之に報ゆ。德は不祥に勝ち、仁は百禍を除く。天は高きに處るも卑きに聽く。爾必ず楚に興らん』と。長ずるに及び令尹となり、老いて終はる。

後漢楊秉字叔節。震中子也。桓帝時。爲二太尉一。毎三朝廷有二得失一。輒盡レ忠規諫。多見二納用一。秉性不レ飮レ酒。又早喪二夫人一。遂不二復娶一。所在以二淳白一稱。嘗言曰。我有二三不惑一。酒色財也。

後漢の楊秉字は叔節、震の中子なり。桓帝の時、太尉となり、朝廷に得失(一)ある毎に、輒ち忠を盡し規諫す。多く納用せらる。秉、性酒を飮まず。又早く夫人を喪ひ、遂に復娶らず。所在淳白を以て稱す。(二)嘗て言て曰く、「我に三不惑あり、酒・色・財なり」と。

(一) 利害得失の事態ある毎に (二) どこへ行きても忠淳潔白を以て稱せらる

論語曰。柳下惠爲二士師一。三黜。人曰。子未レ可二以去一乎。曰直レ道而事レ人。

柳下直道　叔敖陰德

論語に曰く、柳下惠士師(一)となり、三たび黜けらる。人曰く、「子未だ以て去るべからざるか」と。曰く、「道を直くして人に事へば、焉に往くとして三(二)たび黜けられざらん。道を枉げて人に事へば、何ぞ必ずしも父母の邦を去らん」と。

茂才。四遷二荊州刺史一。東萊太守。當レ之レ郡。道經二昌邑一。故所レ擧荊州茂才王密。爲二昌邑令一。謁見。至夜懷二金十斤一以遺レ震。震曰。故人知レ君。君不レ知二故人一何也。密曰。暮夜無二知者一。震曰。天知神知。我知子知。何謂レ無レ知。密愧而出。性公廉不レ受二私謁一。子孫蔬食步行。故舊或欲レ令三爲開二產業一。震不レ肯曰。使二後世稱レ爲二淸白吏子孫一。以レ此遺レ之不二亦厚一乎。震安帝時爲二太尉一。爲二中常侍樊豐一所レ譖而卒。

に之くに當り、道昌邑を經たるに、故擧ぐる所の荊州の茂才王密、昌邑の令となる。謁見す。夜に至り金十斤を懷にして以て震に遺る。震曰く、「(二)故人君を知れるに、君故人を知らざるは何ぞや」と。密曰く、「暮夜知る者なし」と。震曰く、「天知り、神知り、我知り、子知る。何ぞ知るものなしといはん」と。密愧ぢて出づ。性公廉(三)私謁を受けず。子孫蔬食し步行す。(四)故舊或は爲に產業を開かしめんと欲す。震肯ぜずして曰く、「後世をして淸白吏の子孫たりと稱せしめん。(五)此を以て之に遺る、亦厚からずや」と。震、安帝の時、太尉となり、中常侍樊豐に譖(六)せられて卒す。

(一) 科目の名、秀才に同じ　(二) 故き知人、震自ら自身を指していふ也　(三) 內謁の贈物　(四) 粗食し車馬にも乘らず步行す　(五) 淸白吏の子孫なりといふ評判を以て子孫に遺る、亦手厚き遺物ならずや　(六) 讒せられて

爲レ君娶二吾少女一。故相邀耳。將レ書示レ充。乃亡父手札。崔乃命レ女粧二飾於東廂一。引レ充相見成レ禮。留三日。臨レ別謂レ充曰。君婦有レ娠矣。生レ男則當レ還レ之。贈二充衣衾一。令二車送レ之。充至レ家經二三年一三月三日臨レ水戲。忽見二水上一二犢車乍沈乍浮。既達二于岸一。充視二車中一。見下崔氏與二三歲小兒一共載上。其別車即崔少府也。抱レ兒還レ充。及詩一首金椀一枚。俄而不レ見。及二兒長成後一。歷二任數郡一。

之を還すべし」と。(五)充に衣衾を贈り、車をして之を送らしむ。家に至り三年を經て(六)三月三日水に臨みて戲る。忽ち水上を見れば、二犢車乍ち沈み乍ち浮ぶ。既にして岸に達す。充車中を視れば、崔氏の三歲の小兒と共に載れるを見る。其別車は即ち崔少府なり。兒を抱き充に還す。及び詩一首、金椀一枚あり。俄にして見えず。兒長成の後に及び、數郡に歷任す。

(一) 初學記に孔氏志怪を載す。子は氏に作るべきか　(二) 小鹿に似て美、善く驚く獸　(三) 崔少府に　(四) 父上、人の父をいふ尊稱　(五) あなたに其子を還さん　(六) 曲水の宴也

後漢楊震擧二

震畏四知　秉去三惑

後漢の楊震、(一)茂才に擧げられ、四たび荊州の刺史に遷る。東萊の太守となり、郡

黑介幘黃綵單衣一。節因問二幽冥之事一。韶曰。死者爲レ鬼。倶行二天地之中一。在二人間一。而不下與二生者一接上。顏回卜商。今見爲二修文郎一。死之與レ生。略無レ有レ異。死虛生實。此有レ異爾。言終而不レ見。

(三)顏回・卜商は今見に修文郎となる(四)。死と生とは、略異あることなし。死は虛、生は實、此れ異なることあるのみ」と。言ひ終りて見えず。

(一) 黑色のかしらづつみと、黃色のひとへなり。死者の服色となす　(二) あの世、死後の世界　(三) 二人共に孔子の弟子　(四) めいどの修文郎なり

舊注引二孔子志怪一曰。漢盧充范陽人。家西四十里有二崔少府女墓一。充因二獵逐一レ麞。忽見二朱門官舍一。有レ人迎レ充見レ崔。云近得二公尊府君書一。

舊注に孔子志怪(一)を引きて曰く、漢の盧充は范陽の人なり。家の西四十里に崔少府の女の墓あり。充、獵して麞(二)を逐ふに因りて、忽ち朱門の官舍を見る。人あり充を迎へ崔に見はしむ。云ふ、「近ごろ公の尊府君(四)の書を得、君の爲に吾が小女を娶らんと(三)。故に相邀ふるのみ」と。書を持つて充に示す。乃ち亡父の手札なり。崔乃ち女に命じて東廂に粧飾し、充を引きて相見え禮を成さしむ。留ること三日、別に臨み充に謂て曰く、「君の婦は娠めるあり。男を生まば則ち當に

於レ内以レ土封レ之。淵果殺二彌晏一。權數慰二謝昭一。昭固不レ起。權因出過二其門一呼レ昭。昭辭二疾篤一。權燒二其門一。欲三以恐二之。昭更閉レ門。權使三人滅二火。住レ門良久。昭諸子共扶レ昭起。權載以還レ宮深自克責。昭不レ得レ已。然後朝會。昭容貌矜嚴有二威風一。權常曰。孤與二張公一言。不二敢妄一也。擧レ朝憚レ之。

自ら克責す。昭、已むことを得ずして、然る後朝會す。昭、容貌矜嚴にして威風あり。權常に曰く、「孤張公と言ふに敢て妄にせず」と。朝を擧つて之を憚る。

(一)魏の公孫淵が魏に背きて呉の藩臣と爲らんと稱せるにより　(二)昭は淵の言の虚僞なるを信じ之を不可として諫めし也　(三)其諫めを用ひずして二臣を殺すに至りしを悔い謝し慰めて再び仕へしめんとせしも　(四)己の罪を悔い責めて陳謝したり

三十國春秋曰。中牟令蘇韶卒。後從弟節見二韶乘レ馬晝日而行一。著二

蘇韶鬼靈　盧充幽婚

三十國春秋に曰く、中牟の令蘇韶卒す。後從弟の節、韶が馬に乗りて晝日に行くを見るに、(一)黑の介幘・黄綵の單衣を著く。節因つて(二)幽冥の事を問ふ。韶曰く、「死者鬼となり、倶に天地の中を行く。人間に在れども、生者と接せず。

有二大志一。居常慷慨歎曰。衍少事二名賢一。經二歷顯位一。懷レ金垂レ紫。揭レ節奉レ使。不レ求二苟得一。常有二淩雲之志一。三公之貴。千金之富。不レ槩二於懷一。貧而不レ哀。賤而不レ恨。猶庶二幾名賢之風一。修二道德於幽冥之路一。以終二身名一。爲二後世法一。

一〇　人の知らざる處

吳志。張昭字子布。彭城人。博二覽衆書一。孫權拜二輔吳將軍一。昭每二朝見一。辭氣壯厲。義形二於色一。權以二公孫淵稱レ藩。遣二張彌許晏一至二遼東一。拜レ淵爲二燕王一。昭諫不レ用。稱レ疾不レ朝。權恨レ之。土二塞其門一。昭又

吳志にいふ、張昭字は子布、彭城の人、衆書に博覽なり。孫權輔吳將軍に拜す。昭、朝見する每に、辭氣壯厲、義、色に形はる。權(一)公孫淵が藩と稱するを以て、張彌・許晏をして遼東に至りて、淵を拜して燕王と爲さしむ。(二)昭、諫れども用ひず。疾と稱して朝せず。權之を恨み、其門を土もて塞ぐ。昭又內より土を以て之を封ず。淵果して彌・晏を殺す。權數〻昭に慰謝(三)すれども、昭固く起たず。權出でゝ其門を過ぐるに因つて昭を呼べども、昭疾篤しと辭す。權其門を燒き、以て之を恐れしめんと欲せしも、昭更に門を閉づ。權人をして火を滅さしめ、門に住ること良や久し。昭が諸子共に昭を扶け起たしむ。權載せて以て宮に還り、(四)深く

仕。常好二俶儻之策一。時莫三能聽二用其謀一。衞尉陰興等。以二外戚一貴顯。深重レ衍。遂與交結。由レ是爲二諸王一所二聘請一。尋爲二司隷從事一。光武懲二西京外戚賓客一。故皆以レ法繩レ之。由レ此得レ罪而歸二故郡一。閉レ門自保。不下敢與二親故一通上。顯宗卽レ位。又多短レ衍。以三文過二其實一。遂廢二於家一。埳二壈於時一。然

交り結ぶ。是に由り諸王に聘請せらる。尋で司隷從事となる。光武西京(二)外戚の賓客に懲る。故に皆法を以て之を繩す。是に由り罪を得て故郡に歸り、門を閉ぢ自ら保ち、敢て親故と通ぜず。顯宗位に卽く。又多く衍を短るに文(三)其實に過ぐるを以てす。遂に(四)家に廢れ、時に(五)埳壈す。然れども居常慷慨して歎じて曰く、「衍少うして名賢に事へ、顯位を經歷したれども、金(六)を懷にし紫を垂れ、節(七)を掲げ使を奉ずることは、苟くも得ることを求めず。常に凌雲(八)の志を有し、三公の貴き、千金の富は、懷に(九)槩とせず。貧にして哀まず、賤にして恨みず、猶ほ名賢の風を庶幾ひ、道德を幽冥(一〇)の路に修め、以て身名を終へ、後世の法と爲らん」と。

(一) 人に勝れたる大志ありて遠大なる畫策を好みたれど (二) 光武帝は前漢時代の外戚即ち陰興等の外戚の權を擅にして多く賓客を集め非義を謀るに懲り、法を以て之に與るものを糺彈せり (三) 言行を飾りて實德少なし (四) 家は埋もれ (五) 時に容れられず、不遇の境にあり (六) 金は金印、紫は紫綬、丞相の印綬をいふ (七) 天子の節を持ちて外國に使する如き事は (八) 雲を凌ぐが如き高遠の志を抱き (九) 槩は屑也、心に思ふだに屑しとせず

鶯懸二虱於牖一。而望レ之。旬日之間寖大也。三年之後如二車輪一焉。以視二餘物一。皆丘山也。乃以二燕角之弧。朔蓬之簳一射レ之。貫二虱之心一。而懸不レ絶。舊本紀昌誤作二甘蠅一。

淮南子曰。楚王有二白猨一。自射レ之。則搏レ矢而熙。使二養由基射一レ之。始調レ弓矯レ矢。未レ發而猨擁レ樹號矣。

淮南子に曰く、楚王に白猨あり。自ら(一)之れを射れば、則ち矢を搏りて熙る。養由基をして之れを射しむ。始めに弓を調り矢を(二)矯め、未だ發せざるに、(三)猨樹を擁きて號ぶ。

(一) 王自ら之を射るに猨は飛び來る矢を取りて戯る　(二) しごきて直くする也　(三) 其射殺されん事を恐れて泣きさけぶ也

馮衍歸里　張昭塞門

後漢馮衍字敬通。京兆杜陵人。幼有二奇才一。博通二羣書一。王莽時不レ肯レ

後漢の馮衍字は敬通、京兆杜陵の人なり。幼にして奇才あり。博く羣書に通ず。王莽の時仕を肯ぜず。常に(一)俶儻の策を好めども、時に能く其謀を聽き用ふるものなし。衞尉陰興等、外戚を以て貴顯なるが、深く衍を重じ、遂に與に

列子曰。甘蠅古之善射者。彀弓而獸伏鳥下。飛衛學二射於甘蠅一。而巧過二其師一。紀昌學二射於飛衛一。衛曰。爾先學レ不レ瞬。而後可レ言レ射。昌歸偃二臥其妻之機下一。以レ目承二牽挺一。二年之後。雖二錐末倒一レ眥而不レ瞬。以告レ衛。衛曰未也。學レ視而後可。視レ小如レ大。視レ微如レ著。而後告レ我。昌以レ

列子に曰く、甘蠅は古の善く射る者なり。弓を彀けば獸伏し鳥下る。飛衛射を甘蠅に學び、巧なること其師に過ぐ。紀昌射を飛衛に學ぶ。衛曰く、「爾先づ瞬かざることを學べ。而して後に射を言ふべし」と。昌歸りて其妻の機の下に偃臥し、目を以て牽挺(二)を承く。二年の後、錐の末を眥に倒にすと雖も、而も瞬かず。以て衛に告ぐ。衛曰く、「未だし。視を學びて後可なり。小を視て大の如く、微なるを視て著しきが如くなりて後に我に告げよ」と。昌、氂(三)を以て虱を牖に懸けて之を望む。旬日の間に寖く大なり。三年の後、車輪の如し。以て餘物(四)を視れは、皆丘山なり。乃ち燕角(五)の弧、朔蓬(六)の簳を以て之を射れば、虱の心を貫きて、而も懸(七)は絕えず。舊本に紀昌を誤りて甘蠅に作れり。

(一) 走獸もすくんで了ひ、飛鳥も空より墜つ　(二) ふみき、機を織るとき足の踏むにしたがつて上下するもの、それを目の所につけて瞬せざる稽古をなしたる也　(三) 長き毛　(四) 餘の物は皆丘や山の如く大きく見ゆ　(五) 燕國の獸角にて造れる弓　(六) 北國のよもぎにて造れるやがら　(七) 其虱を懸けたる細き毛

新序曰。魏文侯與二士大夫一坐。問曰。寡人何如君也。羣臣皆曰。君仁君也。次至二翟璜一。曰君非二仁君一也。君伐二中山一。不三以封二君之弟一而以封二君之長子一。臣以レ此知レ之。文侯怒逐レ璜。璜起而出。次至二任座一。文侯問レ之。對曰。君仁君也。臣聞。其君仁者其臣直。向聞二璜之言直一。是以知也。文侯曰。善。召二翟璜一入。拜爲二上卿一。舊本。翟璜誤作二任座一。

新序に曰く、魏の文侯士大夫と坐す。問うて曰く、「寡人は如何なる君ぞや」と。羣臣皆曰く、「君は仁君なり」と。(一)次に翟璜に至る。曰く、「君は仁君にあらず。君(二)は中山を伐ち、以て君の弟を封ぜず。以て君の長子を封ず。臣此を以て之を知る」と。文侯怒りて璜を逐ふ。璜起つて出づ。次に任座に至る。文侯之に問ふ。對へて曰く、「君は仁君なり。臣聞く、其君の仁なる者は其臣直なりと。向に翟璜の言は直なり。是を以て知る」と。文侯曰く、「善し」と。翟璜を召し入れ、拜して上卿となす。舊本に、翟璜を誤りて任座に作れり。

(一) 順次に答へて翟璜の番に至る　(二) 國の名。戰國策末卷に出づ

紀昌貫虱　養由號猨

失叱奴下車。因格殺之。主訴帝。帝怒召宣。欲箠殺之。宣叩頭曰。願一言而死。曰。陛下聖德中興。而縱奴殺良人。何以理天下。臣不須箠請自殺。卽以頭擊楹。流血被面。帝使宣謝主。宣不從。强使頓之。兩手據地。終不肯俯。主曰。文叔爲白衣時。藏亡匿死。吏不敢至門。今爲天子。威不能行一令乎。帝笑曰。天子不與白衣同。因敕强項令出。賜錢三十萬。宣悉以班諸吏。由是搏擊豪强。京師號爲臥虎。歌之曰。枹鼓不鳴董少平。文叔光武字也。

宣をして主に謝せしむ。宣從はず。强ひて之を(七)頓せしめんとするに、(八)兩手地に據りて終に肯て俯せず。主曰く、「(九)文叔白衣たりし時、(一〇)亡を藏し死を匿す。吏敢て門に至らざりき。今天子となり、威一令に行はるゝこと能はざるか」と。帝笑つて曰く、「天子は白衣と同じからず」と。因つて勑す、「(一一)强項令出よ」と。錢三十萬を賜ふ。宣悉く以て諸吏に班ち、是によりて豪强を搏擊す。京師號して臥虎となす。之を歌つて曰く、『(一二)枹鼓鳴らず、董少平』と。文叔は光武の字なり。

(一) 帝の姊湖陽公主のめしつかひ (二) 車のそへのりとす (三) 馬の口を牽き留め (四) 手にてなぐり殺す (五) むちにてうち殺すこと (六) 良民 (七) 頓首 (八) 兩手を地につツ張りて (九) 帝が未だ庶人にて無位無官なりし時にすら (一〇) 亡命客や死罪の者をかくまひて (一一) 董宣にあざなをつけたるなり。强情にして容易に叩頭せざる洛陽の令との意 (一二) 枹は鼓をうつ杖なり。歌の意は洛陽には董宣の法嚴しきため盜をいましむる鼓の音もせずとなり

獨酌レ酒詠二左思招隱詩一。忽憶二戴逵一。時逵在レ剡。便夜乘二小船一詣レ之。經レ宿方至。造レ門不レ前而反。人問二其故一。曰。本乘レ興而行。興盡而反。何必見二安道一邪。官至二黄門侍郎一。

(七) 戴逵の字

後漢董宣字少平。陳留圉人。光武時爲二洛陽令一。時湖陽公主蒼頭。白日殺レ人。匿二主家一。吏不レ能レ得。及二主出一。以レ奴驂乘。宣候レ之。駐レ車叩レ馬。大言數二主之

董宣彊項　翟璜直言

漢後の董宣字は少平、陳留圉の人なり。光武の時洛陽の令となる。時に湖陽(一)公主の蒼頭、白日に人を殺し、主家に匿れ、吏得ること能はず。主の出づるに及び、奴を以て驂乘(二)とす。宣之を候ひ、車を駐め馬を叩へ(三)、大言して主の失を數め、奴を叱して車より下し、因つて之を挌殺(四)す。主、帝に訴ふ。帝怒りて宣を召し、之を箠殺せんと欲す。宣叩頭して曰く、「願くは一言して死せん。曰ふ、陛下聖德ありて中興す(五)と。而して奴を縱して良人(六)を殺さしめなば、何を以てか天下を理めん。臣箠を須たず請ふ自殺せん」と。即ち頭を以て楹に撃ち、流血面を被ふ。帝、

入。題二門上一作二鳳字一而去。喜不レ覺。猶以爲レ忻。鳳字凡鳥也。

れんとす　(四)己をあなどりしを覺らずとなり　(五)凡鳥にて飄るに足らずの意にて鳳の字を書く

晉王徽之字子猷。右軍羲之之子。性卓犖不羈。爲二大司馬桓溫參軍一。蓬首散帶。不レ綜二府事一。嘗寄二居空宅中一。便令レ種レ竹。或問二其故一。徽之但嘯詠指レ竹曰。何可三一日無二此君一邪。嘗居二山陰一。夜雪初霽。月色清朗。四望皎然。

晉王徽之字は子猷、右軍羲之の子なり。性卓犖不羈にして、大司馬桓溫の參軍となり、蓬首散帶(一)、府事を綜めず(二)。嘗て空宅中に寄居し、便ち竹を種ゑしむ。或ひと其の故を問ふ。徽之但だ嘯詠し竹を指して曰く、「何ぞ一日も此君(三)なかるべけんや」と。嘗て山陰に居るとき、夜雪初めて霽れ、月色淸朗、四望皎然(四)たり。獨り酒を酌み左思の招隱の詩を詠じ、忽ち戴逵(五)を憶ふ。時に逵は剡にあり。便ち夜小船に乘り之に詣り、宿(六)を經て方に至り、門に造りて前まずして反る。人其故を問ふ。曰く、「本興に乘じて行く。興盡きて反る。何ぞ必ずしも安道(七)を見んや」と。官、黃門侍郎に至る。

(一)髮をくしけづらず帶をむすばざると　(二)綜は理也　(三)竹を指していふ、後世竹を此君といふはこれに基く　(四)眞白なり　(五)戴逵も亦隱者なれば招隱の詩を詠ずるにつけて思出したる也　(六)一夜を經、夜の明け方に

子既爲レ之。徙レ舍甚說。何前後不二相副一也。寶曰。高士不レ爲二主簿一。而大夫君以レ寶爲レ可。一府莫レ言レ非。士安得二獨自高一。前日君男欲レ學レ文。移レ寶自近。禮有二來學一。義無二往教一。道不レ可レ詘。身詘何傷。且不レ遭者。可レ無レ不レ爲。況主簿乎。忠聞レ之慙。上書薦レ寶。平帝時。爲二大司農一。

(六)遭はざれば、爲さゞることなかるべけん。況や主簿をや」と。忠之を聞きて慙ぢ、上書して寶を薦む。平帝の時大司農となる。

(一)試驗の科目の名　(二)自ら狀を上りて自分の過失を糺彈す　(三)書記の役に敍任せらる　(四)大舍を修繕掃除して迎へたり　(五)丞相と御史との兩府に仕ふる高潔の士　(六)知己に遭はざれば如何なるわざにても爲すべき也

呂安題鳳　子猷尋戴

世說曰。嵆康與二呂安一善。每二一相思一。千里命レ駕。安後來。值二康不一レ在。喜出レ戸延レ之。不レ

世說に曰く、嵆康、呂安と善し。一たび相思ふ每に、(一)千里駕を命ず。安後に(二)來り、康の在らざるに値ふ。(三)喜戸を出で之を延く。入らずして門上に題して、鳳の字を作りて去る。(四)喜覺らず、猶ほ以て忻べりと爲す。(五)鳳の字は凡鳥なり。

(一)遠路にても厭はず乘物の用意を命じて訪問す　(二)康の外出したる後に來り　(三)康の兄戸より出でて引き入

一身事二二姓一。下見二故主一哉。語畢不レ開レ口飲食。積二二十四日一死。舍通二五經一。拜二太山太守一。數月乞二骸骨一。哀帝使下使者。拜中光祿大夫上。數賜レ告。終不レ起。舍勝歸レ鄕。二千石長吏初到レ官。皆至二其家一。如二師弟子之禮一。

前漢孫寶字子嚴。潁川鄢陵人。以二明經一爲二郡吏一。御史大夫張忠辟爲レ屬。欲レ令レ授二子經一。寶自劾去。後署二主簿一。寶徙入レ舍。忠怪使二所親問一曰。前大夫爲レ君設二除大舍一。子自劾去者。欲レ爲二高節一也。今兩府高士。俗不レ爲二主簿一。

前漢の孫寶字は子嚴、潁川鄢陵の人なり。明經(一)を以て郡吏となる。御史大夫張忠辟して屬となし、子に經を授けしめんと欲す。寶自ら劾して去る。(二)後主簿(三)に署す。寶徙りて舍に入る。忠怪み、所親をして問はしめて曰く、「前に大夫君が爲に大舍(四)を設除す。子自ら劾し去りしは、高節を爲さんと欲してならん。今兩(五)府の高士、俗として主簿とならず。子既に之をなし、舍に徙りて甚だ說ぶ。何ぞ前後相副はざるや」と。寶曰く、「高士は主簿とならず。而るに大夫君は寶を以て可となし、一府非なりと言ふものなし。士安ぞ獨り自ら高うすることを得んや。前日君の男文を學ばんと欲し、寶を移して自ら近けたり。禮に來り學ぶことあり、義に往きて敎ふることなし。道は詘ぐべからず、身を詘ぐるは何ぞ傷まん。且つ

襲。哀帝時。勝爲二光祿大夫一。王莽秉レ政。乞二骸骨一。莽後遣レ使。即拜二講學祭酒一。稱レ疾不レ應。復遣二使者一。奉二璽書太子師友祭酒印綬安車駟馬一。與二郡太守縣長吏官屬諸生千人以上一。入レ里致レ詔。勝稱二病篤一東首加二朝服一拖レ紳。勝曰。吾受二漢家厚恩一亡二以報一。今老且暮入レ地。誼豈以二

疾と稱して應ぜず。復使者を遣し、璽書、太子師友、祭酒、印綬、安車駟馬を奉じて、郡の太守、縣の長吏、官屬諸生千人以上と、里に入りて（三）詔を致さしむ。勝病篤しと稱し、（四）東首して朝服を加へ、（五）紳を拕く。勝曰く「吾れ漢家の厚恩を受け、以て報ずることなし。今老いて（六）旦暮地に入らんとす。（七）誼豈に一身を以て二姓に事へて下故主に見えんや」と。語畢りて、口を開き飲食することあらず、十四日を積みて死す。舍は五經に通じ、太山の太守に拜せらる。數月にして骸骨を乞ふ。哀帝使者をして光祿太夫に拜せしめ、數〻告を賜ふ。（八）終に起たず。舍●勝鄕に歸れば、二千石長吏の初めて官に到れるもの、皆其家に至り、師弟子の禮（二）如くす。

（一）官をしりぞかんと願ふこと　（二）わざ〳〵其家に就きて　（三）太子の師友並に祭酒たるべき勅書と其印綬と、安車駟馬等とを奉じて　（四）東枕にて褻衣の上に朝服を加へ　（五）大帶を引きて天子に對する禮を備ふ　（六）朝夕の内にも死して地下に入らんとす　（七）義として　（八）休暇をたまふ

二女。皆麗服華裝。佩二兩明珠一。大如二雞卵一。遊二於江漢之湄一。逢二鄭交甫一。交甫說レ之。不レ知二其神一也。遂下與言曰。願請二子之佩一。二女解レ佩以與。交甫受而懷レ之。趨去數十步。視二其懷一空無レ佩。顧二二女一忽然不レ見。

し。江漢の湄に遊び、鄭交甫に逢ふ。交甫之を說び、其神なることを知らず、遂に下りて(二)與に言つて曰く、「願くは子の佩を請ふ」と。二女佩を解きて以て與ふ。交甫受けて之を懷にし、趨り去ること數十步にして、其懷を視れば、空しくして佩なし。二女を顧みれば忽然として見えず。

(一) 二個の明かに美しき珠　(二) 車より下りて　(三) おび

龔勝不屈　孫寶自劾

前漢龔勝字君賓。舍字君倩。楚人。二人相友。並著二名節一。世謂二楚兩

前漢の龔勝字は君賓、舍字は君倩、楚の人にして二人相友たり。並に名節を著はし、世に楚の兩龔と謂ふ。哀帝の時、勝は光祿大夫と爲る。王莽の政を秉るや、(一)骸骨を乞ふ。莽、後に使を遣し、(二)卽きて講學祭酒に拜せんとす。

舊注。引二博物志一云。鮫人從二水中一出。向二人家一寄住。積レ日賣レ綃。臨レ去從二主人一索レ器。泣而出レ珠。滿レ盤以與二主人一。今本無レ載。左思吳都賦云。泉室潛織而卷レ綃。淵客慷慨而泣レ珠。淵客蓋鮫人也。述異記曰。南海中有二鮫人室一。水居如レ魚。不レ廢二機織一。其眼能泣則出レ珠。

淵客泣珠　交甫解佩

舊注に博物志を引きて云ふ、(一)鮫人水中より出で、人家に向ひて寄住し、日を積み綃を賣る。去るに臨み主人に從ひて器を索め、(二)泣いて珠を出し、盤に滿して以て主人に與ふ。今の本には載するなし。左思の吳都賦に云ふ、『(三)泉室に潛みて織り綃を卷き、淵客慷慨して珠に泣く』と。淵客とは蓋し鮫人なり。述異記に曰く、『南海中に鮫人の室あり。水に居ること魚の如し。機織を廢めず。其眼能く泣けば則ち珠を出す』と。

(一) 顔は人にして體はさめなる怪物か、明ならず　(二) 自ら泣いて目の中より珠を出す　(三) 水底の居室

列仙傳。江妃

列仙傳にいふ、江妃の二女は、皆麗服華裝して(一)兩の明珠を佩ぶ。大さ雞卵の如

晉山簡字季倫。司徒濤之子。温雅有二父風一。永嘉中。爲二征南將軍一。鎭二襄陽一。四方寇亂。天下分崩。朝野危懼。簡優游卒レ歳。唯酒是耽。諸習氏荊土豪族。有二佳園池一。簡毎レ出多之二池上一。置酒輒醉。名レ之曰二高陽池一。時有二童兒歌一曰。山公出二何許一。往至二高陽池一。日夕倒載歸。酩酊無レ所レ知。時時能騎レ馬。倒著二白接䍠一。擧レ鞭向二葛彊一。何如幷州兒。彊家在二幷州一。簡愛將也。

晉の山簡字は季倫、司徒濤の子なり。温雅にして父の風あり。永嘉中征南將軍と爲り、襄陽を鎭す。四方寇亂し、天下分崩し、朝野危み懼る。簡優游歳を卒へ、唯だ酒に是れ耽る。諸習氏は荊土の豪族にして、佳なる園池あり。(一)簡出づる毎に多く池上に之き、置酒して輒ち醉ふ。之を名づけて高陽池といふ。時に童兒の歌あり曰く、『山公何許にか出づ、往いて高陽池に至り、日夕倒載して(二)歸る。酩酊して知る所なし。時時能く馬に騎り、倒に白接䍠を著く。(三)鞭を擧げ葛彊に向ひ、(四)如何幷州の兒』と。彊の家は幷州に在り、簡の愛將なり。

(一)風景美しき園池 (二)載せ往きたる酒食をすつかり傾けて家に歸る (三)白さぎの羽毛にてかざりたる白帽 (四)鞭を擧げて葛彊に向ひ、「どうだ己の此樣子はよく似合ふだらう、幷州の坊ちやん」といふと也。葛彊の家幷州にある故に幷州兒といふ也

前漢陳遵字孟公。杜陵人。爲二京兆史一。放縱不レ拘。後爲二校尉一。擊レ賊有レ功。封二嘉威侯一。居二長安中一。列侯近臣貴戚。皆貴二重之一。牧守當レ之レ官。及郡國豪傑至二京師一者。莫レ不三相因到二遵門一。遵嗜レ酒。每二大飲一。賓客滿レ堂。輒關レ門。取二客車轄一。投二井中一。雖レ有レ急終不レ得レ去。

陳遵投轄　山簡倒載

前漢の陳遵字は孟公、杜陵の人なり。京兆の史と爲る。放縱にして拘らず。後校尉となり、賊を擊ちて功あり。嘉威侯に封ぜられ、長安中に居る。列侯・近臣・貴戚皆之れを貴重す。(二)牧守、官に之くに當り、及び郡國の豪傑の京師に至る者、相因つて遵の門に到らざるなし。遵酒を嗜む。大飲する每に賓客堂に滿つ。輒ち門を關ぢ、(三)客の車轄を取りて、井中に投ず。(四)急ありと雖も終に去ることを得ず。

(一) 禮節に無頓着なり (二) 州の牧、郡の守として地方に赴任する場合、又は地方の豪傑の上京せる者、皆遵を訪問す (三) 時としては客の車のくさびを取りて井中に投ずる事すらあり。投轄といふ熟語はこれにもとづく (四) 客急用ありても去る能はず

賜輒分其戯下。飲食與士卒共之。寛緩不苛。士樂爲用。元狩中。爲前將軍。從大將軍衞靑擊匈奴。惑失道。靑欲上書報天子失軍曲折。長史責廣之幕府上簿。廣謂其麾下曰。廣結髮與匈奴大小七十餘戰。今又迷失道。豈非天哉。且廣年六十餘。不能復對刀筆吏矣。遂引刀自剄。百姓聞之。知與不知。老壯皆爲垂泣。贊曰。李將軍恂恂如鄙人。口不能出辭。及死之日。天下知與不知。皆爲流涕。彼其中心誠信於士大夫也。諺曰。桃李不言。下自成蹊。此言雖小。可以喩大。

らんや。且つ廣年六十餘、復(九)刀筆の吏に對すること能はず」と。遂に刀を引き自剄す。百姓之を聞き、知ると知らざると、老壯皆爲に泣を垂る。贊に曰く、『李將軍恂恂として鄙人の如し。口辭を出すこと能はず。死するの日に及び、天下知ると知らざると、皆爲に涕を流せり。彼其中心、士大夫に誠信あり。諺に曰く、桃李(一〇)言はざれども、下自ら蹊を成すと。此の言小なりと雖も以て大に喩ふべし』と。

(一) 矢の羽のかくれる程深く石の中に入る (二) 麾下也、將に直屬する部下 (三) 苛酷 (四) 其爲めに身命をなげうちて働く事を樂めり (五) 靑は廣の報告を得て敗軍の次第を詳細に上奏せんとす (六) 衞靑の幕府に行き始末書を上らしむ (七) 始冠、元服 (八) 天運のみ (九) 文書を司る賤しき官吏に對して其取調を受くるに忍びず (一〇) 桃李は自ら言はざるも、美しき華實の爲め、樹下に自然に小みちを生ず。人誠信あれば自ら行はざるも自然に人を感ぜしむる喩

爲宰分肉甚均。父老善之。平曰。使平得宰天下。亦如此肉矣。從高祖爲護軍中尉。盡護諸將。出黃金四萬斤予平。恣所爲不問出入。平多以金縱反間於楚軍。自初從至天下定。凡六出奇計。定封曲逆侯。惠帝時爲左丞相。呂后時。爲右丞相。又相文帝。乃薨。

前漢李廣。隴西成紀人。世世受射法。武帝時拜右北平太守。匈奴號曰漢飛將軍避之。數歲不入界。廣出獵。見草中石。以爲虎而射之。中石沒矢。視之石也。他日射終不能入。廣歷七郡太守。前後四十餘年。得賞

前漢の李廣は、隴西成紀の人なり。世世射法を受く。武帝の時右北平太守に拜せられ、匈奴號して漢の飛將軍と曰ひて之を避け、數歲界に入らず。廣出獵し、草中の石を見て、以て虎と爲して之を射たるに、(一)石に中り矢を沒す。之を視れば石なり。他日射るに終に入ること能はず。廣、七郡の太守を歷、前後四十餘年、賞賜を得れば輒ち其戲下(二)に分つ。飲食は士卒と之を共にし、寬緩にして苛(三)ならず。士(四)用とならんことを樂む。元狩中、前將軍となり、大將軍衞青に從ひて匈奴を擊ち、惑ひて道を失ふ。青上書して天子に軍(五)を失ふの曲折を報ぜんと欲す。長史廣を責め、幕府(六)に之き簿を上らしむ。廣其麾下に謂て曰く、「廣結髮(七)より匈奴と大小七十餘戰をなす。今又迷ひて道を失す。豈に天(八)にあらざ

欲レ得レ之。負偉レ平。隨至二其家一。迺負郭窮巷。以レ席爲レ門。然門外多二長者車轍一。負歸謂二其子仲一曰。吾欲下以二女孫一予中陳平上。仲曰。平貧不レ事レ事。一縣中盡笑二其所一レ爲。奈何予二之女一。負曰。固有下美如二陳平一長貧者上乎。卒與レ女。予二酒肉資一以內レ婦。戒二其孫一曰。毋下以二貧故一事レ人不上レ謹。里中社。平

ふ。奈何ぞ之に女を予へん。」負曰く、「固に美なること陳平が如くにして長く貧なる者あらんや」と。卒に女を與ふ。酒肉の資を予へ、以て婦を內れしむ。其孫(七)を戒めて曰く、「貧なるの故を以て人に事へて謹まざることなかれ」と。里中の(八)社に、平、宰となつて肉を分つに甚だ均し。父老之を善とす。平曰く、「平をして天下に宰たるを得しめば、亦此肉の如けん」と。高祖に從ひ護軍中尉となり、盡く諸將を護る。黃金四萬斤を出して平に予へ、爲す所に恣にして出入を問はず。平多く金を以て反間(九)を楚軍に縱つ。初め從ひしより、天下定まるに至るまで、凡そ六たび奇計を出す。定まりて曲逆侯(一〇)に封ぜられ、惠帝の時左丞相となり、呂后の時右丞相となり、又文帝に相となり、乃ち薨ず。

(一)黃帝老子の學 (二)娶也 (三)嫁する度每にいつも (四)城郭の背後にある貧乏横丁 (五)陳平の德を慕ひ長者の來訪絕えざる故、車のわだちの跡多き也 (六)生產の業を治めず (七)孫娘即ち今陳平に嫁する其女也 (八)社日、春秋二回五穀の豐穰を祈るために行ふ祭 (九)間諜。まはしもの (一〇)陳平が高祖に從ひしより

舊注曰。江東小兒啼。怖レ之曰二遼來遼來一。無二不レ止者一。

㈠ 李瀚の舊註　㈡ 遼（張遼）が來た遼が來たといへば啼く兒もだまる

陳平多轍　李廣成蹊

前漢陳平。陽武戸牖人。少家貧。好レ讀レ書。治二黃老術一。爲レ人長大美色。及レ長可レ取レ婦。富人莫二與者一。貧者平亦媿レ之。久之富人張負有二女孫一。五嫁夫輒死。人莫二敢取一。平

前漢の陳平は、陽武戸牖の人なり。少にして家貧しく、好みて書を讀み、㈠黃老の術を治む。人となり長大美色、長じて婦を取るべきに及び、富人には與ふる者なく、貧者は平亦之を媿づ。之を久うして、富人張負に女孫あり、五たび嫁して夫輒ち死し、人敢て取るなし。平之を得んと欲す。負、平を偉とし、隨ひて其家に至るに、酒ち負郭の窮巷にして、席を以て門と爲す。然れども門外に長者の車轍多し。負歸りて其子の仲に謂て曰く、「吾れ女孫を以て陳平に予へんと欲す」と。仲曰く、「平は貧にして事を事とせず。一縣の中盡く其爲す所を笑

嘗火發。因二其亂一而擊レ之。襄遂小敗。追後遷二大常一。

蔡裔隕盜　張遼止啼

晉書。蔡裔爲二兗州刺史一。有二勇氣一。聲如二雷震一。嘗有二三盜一入レ室。裔拊レ床一呼。而盜俱隕。故殷浩爲二中軍將軍一。北征。委以二軍鋒一焉。

晉書にいふ、蔡裔兗州の刺史となる。勇氣あり、聲雷震の若し。嘗て三盜ありて室に入る。裔、床を拊ちて一呼すれば、盜俱に隕つ(一)。故の殷浩(二)、中軍となりて北征せしとき、委ぬるに軍鋒(三)を以てす。

(一) 驚きて室上よりころばり落つ　(二) 殷浩既に謫所にて卒したれば故といふ　(三) 軍の先鋒

魏志。張遼字文遠。鴈門馬邑人。武力過レ人。數有二戰功一。累二轉前將軍一。

魏志にいふ、張遼字は文遠、鴈門馬邑の人なり。武力人に過ぎ、數〻戰功あり、前將軍に累轉す。舊注(一)に曰く、『江東の小兒啼くときは、之を怖して、遼來遼(二)來と曰へば、止まざる者なし』と。

鼓譟從之。老弱皆擊銅器爲聲。聲動天地。燕軍大敗。遂復齊七十餘城。迎襄王於莒。王封單號安平君。

晉江逌字道載。陳留圉人。中軍將軍殷浩。請爲諮議參軍。遷長史。時羌及丁零叛。浩軍震懼。姚襄去浩十里結營。以逼浩。浩令逌擊之。逌進兵至襄營。謂將校曰。今兵非不精。而衆少於羌。且其壍柵甚固。難與校力。吾當以計破之。乃取數百雞。以長繩連之。繫火於足。羣雞駭散。飛集襄營。

晉の江逌字は道載、陳留圉の人なり。中軍將軍殷浩、請ひて諮議參軍となし、長史に遷す。時に羌及び丁零(一)叛き、浩の軍震ひ懼る。姚襄、浩を去ること十里に營を結び、以て浩に逼る。浩、逌をして之を擊たしむ。逌、兵を進め襄の營に至り、將校に謂て曰く、「今兵精ならざるにあらず。而も衆、羌より少なく、且つ其壍柵甚だ固く、與に力を校べ難し。吾れ當に計を以て之を破るべし」と。乃ち數百雞を取り、長き繩を以て之を連ね、火を足に繫ぐ。羣雞駭き散じ、飛んで襄の營に集る。營に火發す。其亂るゝに因つて之を擊つ。襄遂に小敗す。逌後に大常(二)に遷る。

(一) 羌も丁零も共に西戎の名　(二) 官名、禮儀に關する事を掌る

史記。田單齊諸田疏屬也。爲二臨淄市掾一。不レ見レ知。及丙燕使二樂毅伐破レ齊。盡降乙齊城甲。而單得レ脫。東保二卽墨一。燕人攻レ之。單乃收二城中一得二千餘牛一。爲二絳繒衣一。畫二五彩龍文一。束二兵刃於其角一。灌レ脂束二葦於尾一。燒二其端一。鑿二城數十穴一。夜縱レ牛。壯士五千人隨二其後一。牛尾熱。怒而奔二燕軍一。燕軍夜大驚。視レ之皆龍文。所レ觸盡死傷。五千人因銜レ枚擊レ之。城中

史記にいふ、田單は齊の諸田の疏屬なり(一)。臨淄の市掾と爲り、知られず。燕、樂毅をして伐ちて齊を破らしめ、盡く齊の城を降すに及び、單は脫るゝことを得て、東、卽墨を保つ。燕人之を攻む。單乃ち城中(二)に收めて、千餘の牛を得、絳繒(三)の衣を爲り、五彩の龍文を畫き、兵刃を其角に束ね、脂を灌ぎて葦を尾に束ね、其端を燒き、城に數十穴を鑿ち、夜牛を縱つて、壯士五千人其後に隨ふ。牛尾熱すれば、怒りて燕軍に奔る。燕軍夜大いに驚き、之を視れば皆龍文なり。觸るゝ所盡く死傷す。五千人因つて枚(四)を銜みて之を擊ち、城中より鼓譟して之に從ひ、老弱皆銅器を擊ちて聲を爲し、聲天地を動かす。燕軍大いに敗れ、遂に齊の七十餘城を復し、襄王を莒より迎ふ。王、單を封じて安平君と號す。

(一) 田氏の遠き血族 (二) 城中より徵發して (三) 赤色の絹の衣 (四) 枚とは箸の如き木片に紐をつけ、之を口にふくみて、紐を頭後に結び、言を發し得ざるやうにしたるもの

淮南子曰。楚欲レ攻レ宋。墨子聞而悼レ之。見ニ楚王ニ曰。臣見ニ大王之必傷レ義。而不レ得レ宋。王曰。公輸天下之巧士。作ニ爲雲梯之械一。設以攻レ宋。曷爲弗レ取。墨子曰。令ニ公輸設一。攻臣請守レ之。於レ是公輸般設ニ攻レ宋之械一。墨子設ニ守レ宋之備一。九攻而墨子九郤レ之。弗レ能レ入。乃偃レ兵不レ攻。公輸魯般也。

淮南子に曰く、楚、宋を攻めんと欲す。墨子(一)聞いて之を悼み、楚王に見えて曰く「臣、大王の必ず義(二)を傷りて、而も宋を得ざるを見ん。」王曰く、「公輸は天下の巧士なり。雲梯(三)の械を作り爲し、設けて以て宋を攻めば、曷爲ぞ取らざらん」と。墨子曰く、「公輸をして設けしめて攻めよ。臣請ふ、之を守らん」と。是に於て公輸般、宋を攻むるの械を設け、墨子は宋を守るの備を設く。九たび攻めて墨子(四)九たび之を郤く。入ること能はず、乃ち兵を偃せて(五)攻めず、公輸は魯般なり。

(一)墨子は宋人なれば也　(二)不義の兵を起すとも　(三)城を攻むる具、非常に高き梯子にて、以て城中を下瞰すべきもの　(四)「墨守」といふ熟語は此話より出づ　(五)兵器を伏せて用ひず

田單火牛　江逌爇雞

後漢張楷字公超。成都人。家二河南一。通二春秋尙書一。門徒常百人。自二父黨夙儒一偕造レ門。車馬塡レ街。徒從無レ所レ止。黃門貴戚家。皆起二舍巷次一。以候二過客往來之利一。楷疾二其如レ此。輒徙避レ之。後隱二弘農山中一。學者隨レ之。所レ居成レ市。華陰山南。遂有二公超市一。五府連辟擧二賢良方正一。不レ就。性好二道術一。能作二五里霧一。後安車聘レ之。以レ疾辭。

後漢の張楷字は公超、成都の人なり。河南に家す。春秋・尙書に通じ、門徒常に百人、(一)父の黨の夙儒より偕に門に造りて、車馬街に塡がり、徒從の止まる所なし。(二)黃門貴戚の家、皆舍を巷次に起し、以て過客往來の利を候ふ。楷其の此の如きを疾み、輒ち徙りて之を避け、後弘農山中に隱る。學者之に隨ひ、居る所市を成す。華陰山の南、遂に(三)公超市あり。(四)五府連りに辟し、賢良方正に擧げられしも就かず。性、道術を好み、能く五里の霧を作す。(五)後安車にて之を聘したれども、疾を以て辭せり。

(一) 父の朋輩たる老儒 (二) 天子の御一族より高位高官の人々まで、皆張楷の邸宅の周圍にあるちまたに舍を建てて楷の門に出入往來する客の便に供ふ (三) 公超といふ市が出來たり (四) 太傅・太尉・司徒・司空・大將軍の五つの官府 (五) 安坐して乘るべき老人婦女用の車

恩禮踰二於前世一。既葬。帝東巡守。幸二其宮一。追感二念昔一。謂二其子一曰。思二其人一至二其鄉一。其處在其人亡。因泣下。幸二其陵一。祠以二太牢一。

後漢司馬徽。字德操。潁川人。口不レ談二人之短一。與レ人語。莫レ問二好惡一。皆言レ好。有三鄉人問二徽安否一。答曰。好。有レ人自陳二子死一。答曰。大好。妻責レ之曰。人以二君有德一。故相告。何忽聞二人子死一。便言レ好。徽曰。卿言亦大好。

後漢の司馬徽字は德操、潁川の人なり。口に人の短(一)を談らず、人と語るに、好惡を問ふことなく、皆好しと言ふ(二)。鄉人の徽の安否を問ふあり。答へて曰く、「好し」と。人あり自ら子の死を陳ぶ。答へて曰く、「大いに好し」と。妻之を責めて曰く、「人、(三)君が有德なるを以て、故に相告ぐ。何ぞ忽ち人の子の死を聞きて便ち好しとは言ふ」と。徽曰く、「卿の言も亦大いに好し」と。

(一) 短才、缺點　(二) 結構々々といふ程の口吻　(三) 君が有德の士なる故、人其子の死を告げて葬儀等につき問ふあらんとせしにの意ならん

公超霧市　魯般雲梯

曰。我以レ不レ貪爲レ寶。爾以レ玉爲レ寶。若以與レ我皆喪レ寶也。不レ若三人有二其寶一。

となり、汝は玉なる寶を失ふ事となる、それよりも我其玉を貪はずして各自に其寶を所有する方可ならん

後漢東平憲王蒼。顯宗同母弟。少好二經書一。雅有二智思一。顯宗愛二重之一。拜二驃騎將軍一。位二三公上一。王既還レ國。後朝二京師一。上問。王處レ家。何等最樂。王言爲レ善最樂。肅宗立。

東平爲善　司馬稱好

後漢の東平憲王蒼は、顯宗の同母弟なり。少にして經書を好み、雅より智思(一)あり。顯宗之を愛重し、驃騎將軍に拜し、三公の上に位せしむ。王既に國に還り、後京師に朝せしに、上問ふ、「王、家に處りしとき、何等か最も樂かりし」と。王言ふ、「善を爲す最も樂し」と。肅宗立ち、恩禮前世に踰ゆ。既に薨ず。帝東に巡守し、其宮に幸し、追つて蒼を感念し、其子に謂て曰く、「其人を思ひて、其鄕に至るに、其處あれども、其人は亡し」と。因つて泣下る。其陵に幸し、祠るに太牢(二)を以てす。

(一) 智慧思慮　(二) 神靈を祭るに牛羊豕の三種の具はれるそなへ物を以てす

博物志曰。澹臺字子羽。渡レ河齎二千金之璧一。予レ河河伯欲レ之。至二陽侯波起一。兩鮫挾レ船。子羽左操レ璧。右操レ劍。擊レ鮫皆死。既渡。三投二璧于河一。河伯躍而歸レ之。子羽毀而去。

博物志に曰く、澹臺字は子羽。河を渡るとき千金の璧を齎す。河に于て河伯(一)之を欲し、陽侯波(二)の起るに至り、兩鮫(三)船を挾む。子羽左に璧を操り、右に劍を操り、鮫を擊つに皆死す。既に渡り、三たび(四)璧を河に投ずるに、河伯躍りて之を歸す。子羽毀ちて去る。

(一)河の神　(二)大風波。昔陵陽國の侯、水に溺れて死し、其靈波神となりて大波を揚ぐといふ傳說、淮南子に見ゆ　(三)二匹のさめ　(四)璧を河に投げ入れて河伯に與へしも河伯躍り上りてそれを返すこと三度に及べり

左傳曰。宋人得レ玉。獻二諸司城子罕一。子罕弗レ受。獻レ玉者曰。以示二玉人一。玉人以爲レ寶。故獻レ之。子罕

左傳に曰く、宋人玉を得、諸を司城の子罕に獻ず。子罕受けず。玉を獻ずる者曰く、「以て玉人(一)に示すに、玉人以て寶と爲す。故に之を獻ず」と。子罕曰く、「我は貪らざるを以て寶と爲し、爾は玉を以て寶と爲す。(二)若し以て我に與へなば、皆寶を喪ふ也。人〻其寶を有つに若かず」と。

(一)玉をみがく人　(二)然るに若し汝其玉を我に與へば、我は玉を貪り取る事となりて「貪らず」てふ我寶を失ふ事

禁二其語一。遇レ有二勝日一。親友時請二一言一。無レ不二咨嗟以爲一レ入レ微。王澄字平子。有二高名一。少レ所二推服一。每レ聞二玠言一。輒歎息絕倒。時人爲二之語一曰。衛玠談レ道。平子絕倒。澄及王玄王濟竝有二盛名一。皆出二玠下一。世云。王家三子。不レ如二衛家一兒一。兒衍有二人倫之鑒一。尤重レ澄。由レ是顯レ名。有レ經二澄所二題目一者。衍不二復有一レ言。輒云。已經二平子一矣。爲二荊州刺史一。爲二王敦一所レ害。

し。王澄字は平子、高名あり、推服する所少なし。玠が言を聞く每に、輒ち歎息して絕倒す(五)。時人之が語を爲して曰く、『衛玠道を談ずれば、平子絕倒す』と。澄及び王玄・王濟竝に盛名あり。皆玠が下に出づ。世に云ふ、『王家の三子(六)は衛家の一兒に如かず』と。兒の衍人倫の鑒(七)あり、最も澄を重んず。是によって名を顯す。澄が題目(八)する所を經ることある者は、衍も復言ふことあらず。輒ち云ふ、「已に平子を經たり(九)」と。荊州の刺史となり、王敦に害せらる。

㊀ 老子幽玄の理 ㊁ 理を語るを禁ず ㊂ 佳節生辰等にて親戚友人の集るとき ㊃ 其一言を聽く者皆な感歎す ㊄ 氣を奪はれて容儀を失ふ ㊅ 王澄・王玄・王濟 ㊆ 人の人物器量を鑑別するの才 ㊇ しなさだめして目きゝすること ㊈ 已に平子（王澄）のめきゝを經たる者也

澹臺毀璧　子罕辭寶

今之冠。太尉郗鑒使三門生求二女壻於導一。導令三徧觀二子弟一。門生歸謂レ鑒曰。王氏諸少並佳。然聞二信至一。咸自矜持。惟一人在二東床一。坦腹食。獨若レ不レ聞。鑒曰。正此佳壻邪。訪レ之乃羲之也。遂妻レ之。仕至二右軍將軍會稽內史一。世說曰。郗夫人謂二二弟司空中郎一曰。王家見二二謝一。傾レ筐倒レ庋見二汝來一平平耳。無レ煩二復往一。二弟。愔與レ曇也。二謝安石與二萬石一也。

之を訪へば乃ち羲之なり。遂に之に妻す。仕へて右軍將軍會稽內史に至る。世說に曰く、『郗夫人、二弟(七)なる司空、中郎に謂て曰く、王家(八)、二謝を見れば筐(九)を傾け庋を倒にす。汝が來るを見ては平平たるのみ。(一〇)復往くを煩はすことなかれと。』二弟は愔と曇となり。二謝は安石と萬石となり。

(一) 牛の心臟のあぶりもの　(二) 辯舌の達者なること　(三) 硬骨なり。剛毅にして人に屈せざること　(四) 使者　(五) 立派に見えるやう氣取りつくらふと　(六) 便々たる腹を出して物を食ひ居りて　(七) 自分の二人の弟にて司空の官と中郎の官とに至れる愔と曇とに　(八) 我が王家にて二謝（安石と萬石）の來る時は非常なるもてなしをする　(九) 筐はものを盛る竹製の器、庋は食物ををさめ置くたな　(一〇) それは汝等の才が彼二人に及ばぬ結果ならんあまり往來せぬがよろしと也

晉衛玠。好言二玄理一。其後多病體羸。母常

晉の衛玠、好みて玄理(一)を言ふ。其後多病にして體羸る。母常に其語(二)を禁ず。勝日(三)あるに遇へば、親友時に一言を請ふ。咨嗟(四)して以て微に入ると爲さゞるな

顆見三老人結レ草以亢二杜回一。杜回躓而顚。故獲レ之。夜夢レ之曰。余而所レ嫁婦人之父也。爾用二先人之治命一。今是以報。

なる時の遺言にしたがふとなり　(四)秦の桓公晉を伐ち輔氏といふ地に據る、魏顆其軍を破りて杜回をとりこにす　(五)杜回は秦の大力無雙の士也　(六)父君の心慥かなりし時の遺命

逸少傾寫　平子絶倒

晉書。王羲之字逸少。司徒導從子。年十三。謁二周顗一。顗異レ之。時重二牛心炙一。坐客未レ噉。顗先割啗レ之。於レ是始知レ名。及レ長辯贍。以二骨鯁一稱。尤善二隷書一。爲二古

晉書にいふ、王羲之字は逸少、司徒の導といふものゝ從子なり。年十三のとき周顗に謁するに、顗之を異とせり。時に牛心炙(一)を重んず。坐客未だ噉はざるに顗先づ割きて之を啗はしむ。是に於て始めて名を知らる。長ずるに及び辯贍(二)たり。骨鯁を以て稱せらる。最も隷書を善くし、古今の冠たり。太尉郗鑒門生をして女壻(三)を導に求めしむ。導、徧く子弟を觀しむ。門生歸りて鑒に謂て曰く、「王氏の諸少並に佳なり。然れども信(四)至ると聞き、咸矜持(五)す。惟だ一人東床に在り。坦腹(六)して食し、獨り聞かざるが若し」と。鑒曰く、「正に此れ佳壻か」と。

之。使レ盡レ之。而爲二之簞食與一レ肉。寘二諸橐一以與レ之。既而與レ爲二公介一。倒レ戟以禦二公徒一而免レ之。問二何故一。對曰。翳桑之餓人也。問二其名居一。不レ告而退。遂自亡也。

分の家に近し　(一〇)母に遺らん　(一一)母の分として別につくる也　(一二)靈公の甲士　(一三)宣公が伏兵にあふ時うち切りして宣公の爲め味方にはむかふ也　(一四)晉を亡命す

左傳曰。晉魏顆武子之子。初武子有二嬖妾一無レ子。武子疾。命レ顆曰。必嫁レ是。疾病則曰。必以爲レ殉。及レ卒顆嫁レ之曰。疾病則亂。吾從二其治一也。及レ敗二秦師于輔氏一。獲二杜回一。秦之力人也

左傳に曰く、晉の魏顆は武子の子なり。初め武子に嬖妾ありて、子なし。武子疾む。顆に命じて曰く、「必ず是を嫁せしめよ」と。(一)疾病なるとき、則ち曰く、(二)「必ず以て殉とせよ」と。卒するに及び顆之を嫁せしめて曰く、(三)「疾病なれば則ち亂る。吾れ其治に從ふ」と。(四)秦の師を輔氏に敗るに及び、杜回なるものを獲たり。(五)秦の力人なり。顆、老人の草を結びて以て杜回を亢ぐを見るに、杜回躓きて顚ぶ。故に之を獲たり。夜之を夢む。曰く、「余は而の嫁せしめし所の婦人の父なり。(六)爾先人の治命を用ふ。余是を以て報ゆ」と。

(一)病氣がひどくなりし時　(二)必ず彼の妾は我に殉死せしめよ　(三)病氣甚しければ心亂る、我は精神のたしか

左傳曰。晉靈公不君。趙宣子驟諫。公患之。飲宣子酒。伏甲將攻之。公嗾夫獒。其車右提彌明搏殺之。宣子曰。棄人用犬。雖猛何爲。鬬且出。明死之。初宣子田於首山。舍于翳桑。見靈輒餓。不食三日。宣子食之。舍其半。問之曰。宦三年矣。未知母之存否。今近焉。請以遺

左傳に曰く、晉の靈公は不君なり。(一)趙宣子驟〻諫む。公之を患へ、宣子に酒を飲ましめ、甲を伏し(二)將に之を攻めんとす。公、夫獒(三)を嗾す。(四)其車右提彌明搏つて之を殺す。宣子曰く、「人を棄て犬を用ふ。猛しと雖も何をか爲さん」と。鬬ひ(五)且つ出づ。明、(六)之に死す。初め宣子首山に田し、翳桑(七)に舍ひ、靈輒が餓ゑたるを見る。食はざること三日なりといふ。宣子之に食はしむるに、其半を舍く。之を問へば、曰く、「宦(八)三年。未だ母の存否を知らず、今近し。(九)請ふ以て之を遺らん」(一〇)と。之を盡さしめ、之が簞食(一一)と肉とを爲り、諸を橐に寘き、以て之に與ふ。既にして公(一二)の介となるに與かり、戟(一三)を倒にして以て公の徒を禦ぎて之を免れしむ。何の故ぞと問へば、對へて曰く、「翳桑の餓人なり」と。其名と居とを問へば、告げずして退き、遂に自ら亡ぐ。(一四)

(一) 君道を失ふ (二) 甲兵を伏して (三) 夫は大の誤かといふ。獒は猛犬なり。猛犬をけしかけたるなり (四) 宣子の車右に陪乘せる (五) 伏兵と鬪ひ〳〵出る (六) 提彌明 (七) 茂りたる桑の木の陰に息ふ (八) 遊學 (九) 自

美ㇾ矉。而不ㇾ知ニ矉之所ニ以美ー。西施越女。所ㇾ謂西子也。有ニ絶世之美ー。越王勾踐獻ニ之吳王夫差ー。嬖ㇾ之卒至ㇾ傾ㇾ國。

㊀心配事あり　㊁其郷里に於て顔をしかめてのみ居たりとなり　㊂胸に手を當て痛さをまぬること　㊃西施は美人なれば顔をしかめて却て美なり、然れども醜人は西施のしかめたるの美なるを知りて、其美なるは何故なるかを知らず、何人もしかめさへすれば美なりと思ひしなり　㊄夫差が其女を寵愛して

後漢梁冀爲ニ大將軍ー。其妻孫壽封ニ襄城君ー。加ニ賜赤紱ー。比ニ長公主ー。壽色美。善爲ニ妖態ー。作ニ愁眉。啼妝。墮馬髻。折腰步。齲齒笑ー。以爲ニ媚惑ー。性鉗忌。能制ニ御冀ー。冀甚寵憚ㇾ之。及ニ冀敗ー自殺。

後漢の梁冀大將軍となる。其妻孫壽襄城君に封ぜられ、赤紱を(一)加賜し、長公主に比す。壽、色美に、善く妖態をなし、愁眉・啼妝・墮馬髻・折腰步・齲齒笑を(二)なして、以て媚惑を爲す。性鉗忌にして(三)能く冀を制御す。冀甚だ寵して之を憚る。冀の敗るゝに及び自殺す。

㊀后妃の服たる朱の紱を着くるを許され、其尊貴帝の姉に比す　㊁愁眉は物あんじをするさま。啼妝は目の下をふきて泣きたるまねすること。墮馬髻は頭の一方の側面に髮をだらりと束ねるゆひ方。折腰步は柳腰。齲齒笑はむし齒にていたむを忍べる如き笑ひ方　㊂嫉妬心強く、夫の行狀をぬけめなくとりしまること

靈輒扶輪　魏顆結草

史一。大議二郊祀制一。多以爲。周郊二后稷一。漢當レ祀レ堯。詔下二公卿一議。議者僉同。光武亦然レ之。林獨以爲。周室之興。祚由二后稷一。漢業特起。功不レ緣レ堯。祖宗故事。所レ宜二因循一。定二林議一。終二大司空一。

して公卿に下し議せしむ。議者僉同じ、光武亦之を然りとす。林獨り以爲らく、周室の興るや、(一)祚は后稷よりす。漢の業は特り起れり、功、堯に緣らず。(二)祖宗の故事は、宜しく因り循ふべき所なりと。林が議に定る。大司空に終る。

(一) 王位 (二) 祖先をまつることは、其事によりしたがひて行ふべきことにして、關係なき者をまつるに及ばずとなり。題に駁堯とある駁は駮に同じ、駁堯とは堯を祀らんとする議を斥けたりとの義也

西施捧心　孫壽折腰

莊子曰。西施病レ心而矉二其里一。其里之醜人。見而美レ之。歸亦捧レ心而矉二其里一。彼知レ

莊子に曰く、西施(一)心を病みて其里に矉む。(二)其里の醜人、見て之を美とし、歸つて亦心を捧げて其里に矉む。彼は矉むるの美なることを知りて、矉むるの美なる所以(三)を知らず。(四)西施は越の女にして、所謂西子なり。絕世の美あり。越王句踐之を吳王夫差に獻ず。(五)之を嬖して卒に國を傾くるに至れり。

夫。汾陰得二寶鼎一。薦二見宗廟一。藏二於甘泉宮一。羣臣皆賀レ得二周鼎一。壽王獨以爲レ非。武帝問レ之。對曰。臣聞。周德始二乎后稷一。長二於公劉一。大二於大王一。成二於文武一。顯二於周公一。德澤上昭レ天。下漏レ泉。無レ所レ不レ通。上天報應。鼎爲レ周出。故名曰二周鼎一。今漢自二高祖一繼レ周。至二於陛下一。恢二廓祖業一。功德愈盛。天瑞竝至。珍祥畢見。天祚二有德一。而寶鼎自出。迺漢寶非二周寶一也。上曰善。賜二黃金十斤一。

す。武帝之を問ふ。對へて曰く、「臣聞けり、周德は后稷に始まり、公劉(一)に長じ大王(二)に大となり、文武(三)に成り、周公に顯る。德澤、上は天に昭かに、下は泉(四)に漏り、通ぜざる所なし。上天報應して、鼎周の爲に出づ。故に名けて周鼎と曰ふと。今漢は高祖より周に繼ぎ、陛下に至りて、祖業を恢廓(五)し、功德愈〻盛に、天瑞(六)竝に至り、珍祥(七)畢く見る。天、有德に祚して、寶鼎自ら出づ。迺ち漢の寶にして周の寶にあらざるなり」と。上曰く「善し」と。黃金十斤を賜ふ。

(一)后稷の曾孫　(二)古公亶父　(三)文王武王　(四)徧く黃泉までも行き布く　(五)大いにひろむること　(六)天より下せるめでたきしるし　(七)珍奇なるめでたききざし

後漢杜林字伯山。扶風茂陵人。拜二侍御

後漢の杜林字は伯山、扶風茂陵の人なり。侍御史に拜せられ、大いに郊祀の制を議す。多くは以爲らく、周は后稷を郊したり、漢は當に堯を祀るべしと。詔

主。拜二尚書郎一。武帝時。拜二度支尚書一。預以三孟津渡險有二覆沒之患一。請レ建二河橋于富平津一。議者以爲。殷周所レ都。歷二聖賢一而不レ作者。必不レ可レ立也。預曰。造レ舟爲レ梁。則河橋之謂也。及二橋成一。帝從二百僚一臨會。擧レ觴屬レ預曰。非レ君此橋不レ成。對曰。非二陛下之明一臣亦不レ得レ施二其微巧一。

立つべからざればならんと。預曰く、「(五)舟を造り梁と爲すとは、即ち河橋の謂なり」と。橋成るに及び、帝、百僚を從へて臨會し、(六)觴を擧げ預に屬して曰く、「君にあらずんば此橋成らず」と。對へて曰く、「陛下の明にあらずんば、臣亦其微巧を施すことを得ず」と。

(一) 國の或は興り或は衰ふる道理 (二) 功を立て名言を立つる如き事は或は之を成し得べし (三) 天子の女を娶るを尚といふ (四) 渡し場 (五) 大雅大明詩にある語 (六) さかづきを杜預にさす

前漢吾丘壽王字子贛。趙人。爲二光祿大

壽王議鼎　杜林駁堯

前漢の吾丘壽王字は子贛、趙人なり。光祿大夫と爲る。汾陰に寶鼎を得て、宗廟に薦見し、甘泉宮に藏む。羣臣皆周鼎を得たるを賀す。壽王獨り以て非と爲

前漢楊僕宜陽人。武帝時。爲二樓船將軍一。初函谷關在二弘農一。僕既有レ功。恥レ爲二關外民一。上書乞下徙二東關一。以二家財一給中其用度上。於レ是徙二於新安一。去二弘農三百里一。以二故關一爲二弘農縣一。

前漢の楊僕は宜陽の人なり。武帝の時、樓船將軍と爲る。初め函谷關は弘農にあり。僕既に功あり、關外の民たるを恥ぢ、上書して(一)東に關を徙すに、家財を以て其用度に給せんと乞ふ。是に於て新安に徙す。弘農を去ること三百里、故關を以て弘農縣と爲す。

(一) 弘農に在る函谷關を東の方なる新安に移し、其費用は己が家財にて辨ぜんと請ふ

晉書。杜預字元凱。京兆杜陵人。博學多通。明二於興廢之道一。常言。德不レ可二以企及一。立レ功立レ言可二庶幾一也。尙二文帝妹高陸公

晉書にいふ、杜預字は元凱、京兆杜陵の人なり。博學多通にして、(一)興廢の道に明かなり。常に言ふ、「德は以て企て及ぶべからず。(二)功を立て言を立つることは庶幾すべし」と。文帝の妹高陸公主を(三)尙り、尙書郎に拜せられ、武帝の時度支尙書に拜せらる。預、孟津の(四)渡險にして覆沒の患あるを以て、河橋を富平津に建てんと請ふ。議者以爲らく、殷周の都とする所、聖賢を歷て作らざるは、必ず

元卿。杜陵人。爲二兗州刺史一。以二廉直一爲レ名。王莽居レ攝。以レ病免。歸二鄕里一。三輔決錄曰。詡舍中竹下開二三逕一。唯故人求仲羊仲從レ之遊。

を爲す。王莽攝に居るを以て、病を以て免じ、鄕里に歸る。三輔決錄に曰く、『詡、舍中の竹下に三逕を開く。唯だ故人求仲・羊仲之に從ひて遊ぶ』と。

(一) 攝政の位に居りて國政を秉り天下を奪ふの志有るを以て　(二) 故舊の求仲・羊仲、二人共に當時の隱士にて二仲の稱あり

逸士傳。許由隱二箕山一。無二盃器一。以レ手捧レ水飮レ之。人遺二一瓢一。得二以操飮一。飮訖掛二於木上一。風吹瀝瀝有レ聲。由以爲レ煩。遂去レ之。

逸士傳にいふ、許由箕山に隱れ、盃器なければ、手を以て水を捧げて之を飮む。人一瓢を遺る、以て操りて飮むことを得たり。飮み訖りて木上に掛くるに、風吹きて瀝瀝として聲あり。由以て煩はしと爲し、遂に之を去つ。

(一) 掬ひ上げて　(二) 水を汲み取りて　(三) 瓢が風に吹かれて水の滴り下る如き聲あり

楊僕移關　杜預建橋

晉書。劉驎之字子驥。南陽人。少尚二質素一。虛退寡欲。不レ修二儀操一。人莫二之知一。好游二山澤一。志存二遯逸一。車騎將軍桓沖聞二其名一。請爲二長史一。驎之固辭。居二于陽岐一。來往莫レ不レ投レ之。驎之躬自供給。士君子頗以二勞累一更憚レ過焉。凡人致レ贈。一無レ所レ受。世說載。驎之高率。善二史傳一。

晉書にいふ、劉驎之字は子驥、南陽の人なり。少にして質素を尚び、虛退寡欲(一)、儀操(二)を修めず、人之を知るなし。好みて山澤に遊び、志遯逸に存す。車騎將軍桓沖其名を聞き、請ひて長史と爲しゝも、驎之固辭し、陽岐に居るに、來往(三)之に投ぜざるなし。驎之躬自ら供給す。士君子頗る勞累を以て更に過るを憚る(四)。凡そ人の贈を致すに、一も受くる所なし。世說に載すらく、『驎の高率(五)史傳に善し』と。

(一) 心を虛しくして驕らず　(二) 威儀節操　(三) 往來する人々　(四) 客あれば驎之自ら饗應し取りもつを以て、人其主人自らを勞するを氣の毒に思ひ來訪をひかふるに至れり　(五) 高尚にてさつぱりせること

蔣詡三逕　許由一瓢

前漢蔣詡字

前漢の蔣詡字は元卿、杜陵の人なり。兗州の刺史と爲り、廉直を以て名

數尺一與レ之。此人大恚曰。那得二割截都盡一。顧二見丘遲一謂曰。餘二此數尺一。既無レ所レ用。以遺レ君。自レ爾淹文章躓矣。又嘗夢。一丈夫。自稱二郭璞一謂曰。吾有レ筆。在二卿處一多年。可二以見一レ還。淹乃探二懷中一。得二五色筆一一。以授レ之。爾後爲レ詩。絶無二美句一。時人謂二之才盡一。

(三) 字は最純、晉代有名なる文人

李廞清貞　劉驎高率

世説。李廞。茂曾第五子。清貞有二遠操一。少羸病不レ肯二婚宦一。王丞相。欲下招二禮之一辟爲中府掾上。廞得二牋命一。笑曰茂弘乃復以レ爵假レ人。

世説にいふ、李廞は茂曾の第五子なり。清貞(一)にして遠操(二)あり。少にして羸病(三)にして婚宦を肯ぜず。王丞相之を招禮し、辟して府掾と爲さんと欲す。廞、牋(四)命を得て、笑つて曰く、「茂弘乃ち復爵を以て人に假さんとするか(五)」と。

(一) 心の清く正しきこと (二) 高遠なるみさを (三) 病勝ちにしてやせ衰へたるを以て、仕官するを欲せざりきとなり (四) 辭令書 (五) 官位を人に假して以て其自由を奪はんとするか

南史。江淹字文通。濟陽老城人。少孤貧。嘗慕二司馬長卿梁伯鸞之爲一レ人。不レ事二章句之學一。留二情文章一。仕レ齊爲二侍中祕書監一。入レ梁至二金紫光祿大夫一。淹以二文章一顯。晚節才思微退云。爲二宣城太守一時罷歸。夢一人自稱二張景陽一。謂曰。前以二一匹錦一相寄。今可レ見レ還。淹探二懷中一。得二

南史にいふ、江淹字は文通、濟陽老城の人、少にして孤貧なり。嘗に司馬長卿梁伯鸞の人となりを慕ひ、章句の學を事とせず、情を文章に留む。齊に仕へては侍中祕書監と爲り、梁に入りては金紫光祿大夫に至る。淹は文章を以て顯る。(一)晚節に才思微しく退くと云ふ。宣城の太守となり、時に罷め歸れるに夢に一人自ら(二)張景陽と稱して、謂て曰く、「前に一匹の錦を以て相寄す。今還さるべし」と。淹懷中を探り、數尺を得て之に與ふ。此人大いに恚つて曰く、「那ぞ割き截りて都て盡せるを得ん」と。(三)丘遲を顧り見て謂て曰く、「此の數尺を餘す。既に用ふる所なし。以て君に遺る」と。爾りしより淹の文章躓く。又嘗て夢む。一大夫自ら(四)郭璞と稱して謂て曰く、「吾に筆あり、卿の處に在ること多年、以て還さるべし」と。淹乃ち懷中を探り、五色の筆一を得、以て之に授く。爾後詩を爲るに絕えて美句なし。時人之を才盡くと謂ふ。

(一)晚年　(二)張協字は景陽、詩藻に名あり　(三)字は希範、辭采麗逸にて名あり、此人も夢の中に出て來りし也

晉書。羅含字君章。桂陽耒陽人。幼孤。爲ニ叔母朱氏一所レ養。少有ニ志尚一。嘗晝臥。夢ニ一鳥文彩異レ常飛入ニ口中一。因起驚說レ之。朱氏曰。鳥有ニ文彩一汝後必有ニ文章一。自レ此藻思日新。江夏守謝尚稱曰。君章可レ謂ニ湘中之琳琅一。桓溫以爲ニ江左之秀一。累ニ遷長沙相一。致仕加ニ中散大夫一。門施ニ行馬一。初含在ニ官舍一。有ニ一白雀一。棲ニ集堂宇一。及レ還レ家。階庭忽蘭菊叢生。以爲ニ德化之感一。

晉書にいふ、羅含字は君章、桂陽耒陽の人なり。幼にして孤、叔母朱氏に養はる。少にして志尚(一)あり。嘗て晝臥し、一鳥の文彩常に異なるが、飛んで口中に入ると夢み、因つて起き驚きて之を說く。朱氏曰く、「鳥に文彩あるは、汝後に必ず文章(二)あらん」と。此より藻思(三)日に新なり。江夏の守謝尚稱して曰く、「君章は湘中の琳琅(四)といふべし」と。桓溫以て江左(五)の秀と爲す。長沙の相に累遷し、致仕(六)して中散大夫を加へられ、門に行馬(七)を施す。初め含の官舍にあるとき、一白雀ありて、堂宇に棲集(八)し、家に還るに及び、階庭忽ち蘭菊叢生す。以て德化の感と爲す。

(一)高き氣品あり　(二)文章を以て有名となるらん　(三)文想　(四)琳は美玉、琅は玉に似たる石、文章の美を喩ふる也　(五)江東に同じ、東晉以來の秀才と也　(六)官を辭して家に歸る　(七)こまよせ、高貴の人の門前に作るが常也　(八)集は止也

公紀。呉人。年六歳。於二九江一見二袁術一。術出レ橘。績懐二三枚一。去拝辭墮レ地。術謂曰。陸郎作二賓客一而懐レ橘乎。績跪曰。欲二歸遺一レ母。術大奇レ之。績博學多識。星歴算數。無レ不二該覽一。孫權辟爲レ掾。以二直道一見レ憚。出爲二鬱林太守一。加二偏將軍一。績意在二儒雅一。非二其志一也。雖レ有二軍事一。著述不レ廢。作二渾天圖一。注レ易釋レ玄。皆傳二於世一。

見ゆ。術橘を出す。績(一)三枚を懐にす。去るとき拝辭して地に墮す。術謂て曰く、「陸郎賓客と作つて、橘を懐にするか」と。績跪いて曰く、「歸つて母に遺らんと欲す」と。術大いに之を奇とす。績や博學多識、星歴算數、該覽(二)せざるなし。孫權辟して掾と爲し、直道を以て憚らる。出で丶鬱林の太守となり、(三)偏將軍を加へらる。績の意は儒雅にあり、(四)其志にあらず。軍事にありと雖も、著述して廢せず、渾天圖を作り、易に注し、(五)玄を釋く。皆世に傳はる。

(一)其出したる橘の内三個をそつと懐中に入る　(二)あまねく博く覧る　(三)左將軍　(四)其如き職は績の本意に非ず　(五)老子幽玄の理を解釋す

羅含呑鳥　江淹夢筆

晉書。胡威字伯武。淮南壽春人。父質以忠清稱。仕魏爲荊州刺史。威自京師定省。家貧無車馬僮僕。自驅驢單行。既至。見父而歸。父賜絹一匹。威曰。大人清高。何得此絹。答曰。是吾俸祿之餘。威受之辭歸。卒取與質帳下都督。後爲徐州刺史。勤於政術。風化大行。入朝。武帝謂曰。卿孰與父清。對曰。臣父清恐人知。臣清恐人不知。是臣不及遠也。

晉書にいふ、胡威字は伯武、淮南壽春の人なり。父の質は忠清を以て稱せられ、魏に仕へて荊州の刺史となる。威、京師より定省(一)するに、家貧しくして車馬僮僕なく、自ら驢を驅つて單行(二)す。既に至り、父を見て歸るとき、父絹一匹を賜ふ。威曰く、「大人清高、何れより此絹を得たるか」と。答へて曰く「是れ吾が俸祿の餘なり」と。威之を受けて辭し歸り、卒に取りて質(三)が帳下の都督に與ふ。後、徐州の刺史と爲り、政術を勤め、風化大いに行はる。入朝せしに、武帝謂て曰く、「卿は父の清(四)なると孰ぞ」と。對へて曰く、「臣が父の清は人の知らんことを恐れ、臣が清は人の知らざらんことを恐る。是れ臣が及ばざること遠きなり」と。

(一) 家にかへりて父母の安否をとふこと　(二) 只一人にて行く　(三) 父質の部下の都督　(四) 清廉

呉志。陸績字

呉志にいふ、陸績字は公紀、呉の人なり。年六歳にして、九江に於て袁術に

果得二諸者一。又嘗在二帝坐一進レ飯。謂二在レ坐人一曰。此勞薪所レ炊。帝遣レ問二膳夫一。實用二故車脚一。擧レ世伏二其明識一。後守二尙書令一。勗久在二中書一。專管二機事一。及レ失レ之甚悵恨。或有二賀レ之者一。勗曰。奪二我鳳凰池一。諸君賀レ我耶。初太子婚未レ定。勗與二左衞將軍馮紞一伺二帝閒一。竝稱二賈充女才色絕世一。遂成レ婚。當時甚爲二正直者所一レ疾。而獲二佞媚之譏一。帝素知二太子闇弱一。恐二後亂一レ國。遣二勗及和嶠往觀一レ之。勗還盛稱二太子之德一。而嶠云。太子如レ初。於レ是天下貴レ嶠而賤レ勗。

たり。帝素より太子の闇弱を知り、後に國を亂さんことを恐れ、勗及び和嶠をして往いて之を觀しむ。勗還りて盛に太子の德を稱す。而るに嶠は云ふ、太子初めの如しと。是に於て天下嶠を貴びて勗を賤む。

㊀他に秀れたる才智を有し、幼にして大人の風あり　㊁政治をとり行ふ資格　㊂著作郎の役をも領せしむ　㊃商人の牛につけたる鈴の音の音律に合へるを聞きてよく其音聲を記臆す　㊄音調よく合ひ和すべし　㊅一度用に立ちし材木を薪に利用したるもの　㊆役にたゝぬすたり車の輪　㊇鳳凰池は中書省の異名、其省に務むる者は天子の寵遇厚きに今其官を奪はれ尙書令に遷されたるは少しも賀すべき筋にあらずと也　㊈其女の貌醜く心狠しきを詐く詐り奏せる也

胡威推縑　陸績懷橘

晉。潁川潁陰人。漢司空爽曾孫。岐嶷夙成。十餘歳能屬レ文。長博學達ニ於從政一。武帝受レ禪。拜ニ中書監一。加ニ侍中一。領ニ著作一。與ニ賈充一共定ニ律令一。旣掌ニ樂事一。又修ニ律呂一。竝行ニ於世一。初勗於レ路逢ニ趙賈人牛鐸一。識ニ其聲一。及レ掌レ樂。音韻未レ調。乃曰。得ニ趙之牛鐸一則諧矣。遂下ニ郡國一。悉送ニ牛鐸一。

して夙に成る。十餘歳にして能く文を屬し、長じては博學にして、從政に達す。(二)武帝禪を受くるや、中書監に拜し、侍中を加へ、(三)著作を領せしむ。賈充と共に律令を定め、旣に樂事を掌り、又律呂を修め、竝に世に行はる。初め勗路に於て趙の(四)賈人の牛鐸に逢ひ、其聲を識る。樂を掌るに及び、音韻未だ調はず。乃ち曰く、「趙の牛鐸を得ば、則ち諧はん」(五)と。遂に郡國に下し、悉く牛鐸を送らしむるに、果して諧ふ者を得たり。又嘗て帝坐にありて飯を進む。坐にある人に謂て曰く、「此れ勞薪(六)にて炊ぐ所なり」と。帝膳夫に問はしむ。實に故車(七)の脚を用ひしなりと。世を擧りて其明識に伏す。後尚書令に守たり。勗久しく中書にあり、專ら機事を管す。之を失ふに及び甚だ悵恨す。或ひと之を賀する者あり。勗曰く、「我が鳳凰池(八)を奪はる、諸君我を賀するか」と。初め太子の婚未だ定まらず。勗左衛將軍馮紞と帝の閒を伺ひ、竝に賈充の女(九)を才色絕世なりと稱す。遂に婚を成す。當時甚だ正直の者の疾む所となりて、佞媚の譏を獲

州刺史桓溫辟爲從事。累遷別駕。溫出征伐。鑿齒或從或守。所在任職。每處機要。莅事有績。善尺牘論議。溫甚器遇之。出爲滎陽太守。時溫覬覦非望。鑿齒在郡。著漢晉春秋以裁正之。起漢光武終晉愍帝。後徵典國史。會卒。初鑿齒嘗與孫綽共行。綽性通率好譏調。時綽在前。顧鑿齒曰。沙之汰之。瓦石在後。鑿齒曰。簸之颺之。糠粃在前。

事に莅みて績あり、(三)尺牘の論議を善くす。溫甚だ之を器とし遇す。出でゝ滎陽の太守と爲る。時に溫(四)非望を覬覦す。鑿齒郡にありしが、漢晉春秋を著し以て之を裁正す。漢の光武より起り晉の愍帝に終る。後徵されて國史を典りしが、會卒す。初め鑿齒嘗て孫綽と共に行く。綽性(五)通率にして、(六)譏調を好む。時に綽前に在り、鑿齒を顧みて曰く、(七)「之を沙し之を汰す。瓦石後にあり」と。鑿齒曰く、(八)「之を簸之を颺れば、糠粃前にあり」と。

(一) 州の刺史の輔佐官、刺史に從ひて巡視する時別の車に乘るより此稱あり (二) 府中樞要の職 (三) 論議を手紙に認むるによく其要を得 (四) 桓溫が帝位を奪はんとの心を抱きし也 (五) 胸中廣くして洒脱なること (六) 冗談をいひからかふこと (七) 米をよなげば瓦石は後にのこる。鑿齒を瓦石にたとへしなり (八) 米を箕にてあふれば糠は前に飛ぶ。孫綽を糠にたとへしなり

晉荀勗字公

晉の荀勗字は公曾、潁川潁陰の人にして、漢の司空爽の曾孫なり。(一)岐嶷に

安謂有二雅人深致一。又嘗內集。俄而雪驟下。安曰。何所レ似也。安兄子朗曰。散二鹽空中一差可レ擬。道韞曰。未レ若二柳絮因一レ風起一。安大悅。凝之弟獻之。嘗與二賓客一談議。詞理將レ屈。道韞遣レ婢白二獻之一曰。欲下爲二小郎一解上レ圍。乃施二青綾步障一自蔽。申二獻之前議一。客不レ能レ屈。

に屈せんとす。道韞婢をして獻之に白はしめて曰く、「小郎の爲に圍を解かんと欲す」と。乃ち青綾の歩障(九)を施して自ら蔽ひ、獻之が前議を申べしに、客屈すること能はず。

(一) 詩經 (二) 大雅烝民の篇の終章の四句 (三) 鑑賞に雅正の詩人の深き趣あり (四) 一族集りを催す (五) さらさらと盛に降る (六) 柳の絮（ワタ）の風に吹かれて舞ひ起つといふ方が優れり (七) ことばの筋が立たず、しどろもどろになる (八) 御身の爲めに客の論鋒を挫かん。小郎は弟をいふ稱 (九) ついたて

晉書。習鑿齒字彦威。襄陽人。少有二志氣一。博學洽聞。以二文筆一著稱。荊

鑿齒尺牘　荀勗音律

晉書にいふ、習鑿齒字は彦威、襄陽の人なり。少にして志氣あり。博學洽聞、文筆を以て著稱せらる。荊州の刺史桓溫、辟して從事と爲す。別駕(一)に累遷す。溫出でゝ征伐するや、鑿齒或は從ひ或は守り、所在職に任ず。機要(二)に處る每に、

衣二食之一。與私焉。法章立。是爲二襄王一。以二太史氏女一爲二王后一。襄王卒。子建立。后事レ秦謹。與二諸侯一信。以レ故建立四十餘年不レ受レ兵。秦昭王嘗使三使者遺二后玉連環一曰。齊多レ智。解二此環一不。后以示二羣臣一。羣臣不レ知レ解。后引レ椎椎二破之一。謝二秦使一曰。謹以解矣。

らしめて曰く、「齊は智多し、此環を解くや不や」と。后以て羣臣に示す。羣臣解くことを知らず。后椎を引きて之を椎破し、秦使に謝して曰く、「謹みて以て解けり」と。

(一) 下男、やとひをとこ　(二) 衣食を與へ私通す　(三) 兩環の相貫きたる玉

晉王凝之妻謝氏。字道韞。聰識有二才辯一。叔父安嘗問。詩何句最佳。道韞稱下吉甫作レ誦。穆如二清風一。仲山甫永懷。以慰中其心上。

晉王凝の妻謝氏、字は道韞、聰識にして才辯あり。叔父安嘗て問ふ、「詩は何の句か最も佳なる」と。道韞『(一)吉甫誦を作りて、穆として清風の如し。(二)仲山甫永く懷ひ、以て其心を慰ず』を稱す。安謂へらく、(三)雅人の深致ありと。又嘗て(四)內集す。俄にして雪驟〻(五)下る。安曰く、「何の似たる所ぞ」と。安の兄の子朗曰く、「鹽を空中に散ずる、差や擬すべし」と。道韞曰く、「未だ柳絮の風に因りて起るといふに若かず」と。安大いに悅ぶ。凝の弟獻之、(六)嘗て賓客と談議し、(七)詞理將

復從舍二學官之旁一。其嬉戲乃設二俎豆一揖讓進退。孟母曰。眞可三以居二吾子一矣。遂居。及二孟子既學而歸一。孟母問二學所レ至。孟子曰。自若也。孟母以レ刀斷二其織一曰。子之廢レ學。若三吾斷二斯織一也。孟子懼。旦夕勤學不レ息。師二事子思一。遂成二名儒一。君子謂。孟母知下爲二人母一之道上。

孟子懼れ、旦夕勤學して息まず。子思に師事し、遂に名儒となる。君子謂ふ、『孟母は人の母たるの道を知る』と。

(一)葬送埋骨哭泣等のまねを爲す也　(二)商人の賣買するさま、衒賣は自分の商品を良き物なりと衒ひ賣る意　(三)學校　(四)祭器をつらねて禮を習ふこと　(五)學力以前と異るところなしとなり　(六)丁度織り居たる織物

齊后破環　謝女解圍

戰國策曰。齊閔王遇レ弑。其子法章變二姓名一。爲二莒太史家庸夫一。太史敫女。奇二其狀貌一。以爲二非常人一。憐而常竊

戰國策に曰く、齊の閔王弑せられ、其子法章姓名を變へて、莒の太史の家の庸(一)夫となる、太史敫の女、其狀貌を奇とし、以爲らく常人にあらずと。憐みて常に竊に之に(二)衣食し、與に私す。法章立つ。是を襄王と爲す。太史氏の女を以て王后と爲す。襄王卒し、子建立つ。后、秦に事へて謹み、諸侯と信あり。故を以て建立つて四十餘年兵を受けず。秦の昭王嘗て使者をして后に(三)玉連の環を遺

坐二陵母一以招レ陵。陵母私送二使者一。泣曰。爲レ妾語レ陵。善事二漢王一。漢王長者。毋下以二老妾故一持中二心上。妾以レ死送二使者一。遂伏レ劍而死。

遂に劍に伏して死す。

(一)人質に取る (二)項羽が王陵を我手に降服せしめんとして招く也 (三)德望器量のすぐれたる大人物 (四)老母といふ意の自稱

古列女傳。鄒孟軻母。其舍近レ墓。孟子少嬉遊。爲二墓間之事一。孟母曰。此非二吾所三以居二處子一也。乃去舍二市傍一。其嬉戲。乃賈人衒賣之事。又曰。此非二吾所三以居二處子一也。

古列女傳にいふ、鄒の孟軻の母、其舍、墓に近し。孟子少にして、嬉遊するに、墓(一)間の事を爲す。孟母曰く、「此れ吾が、子を居處する所以にあらず」と。乃ち去りて市の傍に舍す。其嬉戲、乃ち賈人(二)衒賣の事なり。又曰く、「此れ吾が、子を居處する所以にあらず」と。復徙りて學官(三)の傍に舍す。其嬉戲乃ち俎豆(四)を設け、揖讓進退す。孟母曰く、「眞に以て吾が子を居くべし」と。遂に居る。孟子既に學びて歸るに及び、孟母學の至る所を問ふ。孟子曰く、「自若(五)たるのみ」と。孟母刀を以て其織(六)を斷ちて曰く、「子の學を廢するは、吾が斯の織を斷つが若し」と。

學二直言一不レ詣。公車特徵。再遷二尚書一。數納二忠言一。肅宗重レ之。後告歸。帝東巡。乃幸二均舍一。敕二賜尚書祿一。以終二其身一。時號爲二白衣尚書一。

納れ、肅宗之を重んず。後告歸す。(五)帝東巡して、乃ち均が舍に幸し、尚書の祿を勅賜し、以て其身を終へしむ。時に號して白衣尚書と爲す。(六)

(一) 黄帝老子 (二) 肅宗の年號 (三) 直言を進むる官 (四) 公車署の試問にて特に徵されて仕官す (五) 官を辭し暇を貰ひて故郷に歸る (六) 白衣は庶人の衣。庶人となりて後なほ終身尚書の祿を賜へる故に此稱ある也

前漢王陵沛人。高祖起。陵亦聚二黨數千人一。及三高祖擊二項羽一。迺以レ兵屬レ漢。羽取二陵母一置二軍中一。陵使至。則東向

陵母伏劍　軻親斷機

前漢の王陵は沛の人なり。高祖の起るや、陵も亦、黨數千人を聚む。高祖の項羽を擊つに及び、迺ち兵を以て漢に屬す。羽、陵の母を取りて軍中に置く。(一)陵の使至る。則ち東向きに陵の母を坐せしめ、以て陵を招く。(二)陵の母私に使者を送り、泣いて曰く、「妾が爲に陵に語げよ。善く漢王に事へよ、漢王は長(三)者なり、(四)老妾の故を以て二心を持つことなかれ、妾死を以て使者を送れりと。」

前漢枚乘字叔。淮陰人。爲二吳王濞郎中一。王謀レ爲レ逆。乘奏レ書諫。王不レ用。卒見二禽滅一。乘由レ是知名。景帝召拜二弘農都尉一。乘久爲二大國上賓一。與二英俊一並游。不レ樂二郡吏一。以レ病去レ官。復遊レ梁。及二孝王薨一。歸二淮陰一。武帝卽レ位。乘年老。迺以二安車蒲輪一徵レ乘。道死。

前漢の枚乘字は叔、淮陰の人なり。吳王濞の郎中と爲る。王、逆を爲さんと謀る。乘、書を奏して諫む。王用ひず、卒に禽滅せらる。(一)乘是れによりて名を知らる。景帝召して弘農都尉に拜す。乘久しく大國の上賓となり、(二)英俊と並び游び、郡吏たるを樂まず。病を以て官を去り、復梁に遊ぶ。孝王薨ずるに及び淮陰に歸る。武帝位に卽き、乘年老ゆ。迺ち安車蒲輪(三)を以て乘を徵す。道に死す。

(一) とりこにして殺すこと　(二) 梁の國に上客たり　(三) 安車は安坐して乘らるべき車、蒲輪は車の輪をがまにて包み、車のゆれざるやうにしたるもの

後漢鄭均字仲虞。東平任城人。少好二黃老書一。建初中

後漢の鄭均字は仲虞、東平任城の人なり。少にして黃老(一)の書を好む。建初(二)中に直言(三)に擧げられたれども詣らず。公車(四)特に徵す。再び尙書に遷り、數〻忠言を

居レ世。生當レ封レ侯。死當二廟食一。如其不レ然。閑居可二以養一レ志。詩書足二以自娯一。州郡之職。徒勞レ人耳。後辟命不レ就。肅宗納二其二女一。皆爲二貴人一。小貴人生二和帝一。竇皇后養以爲レ子。諸竇恐三梁氏得レ志爲二己害一。遂譖二殺二貴人一。而陷レ竦以二惡逆一。死二獄中一。

〔一〕其才學を自負す　〔二〕廟に祀らるべし　〔三〕朝廷より命を下して官に召す　〔四〕女官の官名　〔五〕妹の方の貴人　〔六〕詐り誣ひて殺す　〔七〕一本此下に「和帝立ちて褒親愍侯に追封す」とあり

後漢趙溫字子柔。蜀郡成都人。初爲二京兆郡丞一。歎曰。大丈夫當二雄飛一。安能雌伏。遂棄レ官去。歳饑。散二家糧一振二窮餓一。所レ活萬餘人。獻帝西遷。遂爲二三公一。

後漢の趙溫字は子柔、蜀郡成都の人なり。初め京兆郡の丞と爲り、歎じて曰く、「大丈夫當に雄飛(一)すべし。安ぞ能く雌伏せん」と。遂に官を棄てゝ去る。歳饑う。家糧を散じ、窮餓を振ひ、活す所萬餘人。獻帝(二)西に遷り、遂に三公と爲る。

〔一〕雄飛は高位高官に昇るをいひ、雌伏は下位小官に甘ずるをいふ　〔二〕都を西方長安に遷す

枚乘蒲輪　鄭均白衣

後漢梁竦字叔敬。安定烏底人。閉レ門自養。以二經籍一爲レ娯。著二書數篇一。名曰二七序一。班固見而稱曰。孔子著二春秋一。而亂臣賊子懼。梁竦作二七序一。而竊位素餐者慙。竦自負二其才一。鬱鬱不レ得レ意。嘗登レ高遠望。歎息曰。大丈夫

梁竦廟食　趙温雄飛

後漢の梁竦字は叔敬、安定烏底の人なり。門を閉ぢて自ら養ひ、經籍を以て娯と爲す。書數篇を著し、名づけて七序と曰ふ。班固見て稱して曰く、「孔子春秋を著して亂臣賊子懼れ、梁竦七序を作りて竊位素餐の者慙づ」と。竦は(一)自ら其才を負ひ、鬱鬱として意を得ず。嘗て高きに登りて遠望し歎息して言て曰く、「大丈夫の世に居るや、生きては當に侯に封ぜられ、死しては當に(二)廟食すべし。如し其れ然らずんば、閑居して以て志を養ふべく、詩書以て自ら娯むに足れり。州郡の職は徒らに人を勞するのみ」と。後に(三)辟命すれども就かず。肅宗其二女を納れ、皆(四)貴人と爲る。(五)小貴人和帝を生み、竇皇后養ひて以て子と爲す。諸竇、梁氏の志を得て己が害と爲らんことを恐れ、遂に二貴人を(六)譖殺して、竦を陷るゝに惡逆を以てす。(七)獄中に死す。

靈帝時。開鴻都門。榜賣官爵。公卿以下皆有差。富者先入錢。貧者到官而後倍輸。或因常侍阿保。別自通達。是時段熲等。雖有功勳名譽。然皆先輸貨財。而後登公位。烈因傅母。入錢五百萬。爲司徒。嘗問其子鈞曰。吾居三公。於議者如何。鈞曰。大人少有英稱。歷位卿守。人謂當爲三公。今登其位。天下失望。烈曰。何爲然也。鈞曰。論者嫌其銅臭。後拜大尉。董卓既誅拜城門校尉。

ら通達す。是の時段熲等、功勳名譽ありと雖も、然れども皆先づ貨財を輸して後に公位に登る。(四)烈は傅母に因り、錢五百萬を入れ、司徒と爲る。嘗て其子鈞に問うて曰く、「吾れ三公に居る。(五)議者に於て如何」と。鈞曰く、「大人少にして(六)英稱あり、位に卿守を歷たり。人謂ふ當に三公たるべしと。今其位に登る。天下望を失へり」と。烈曰く、「何が爲に然るや。」鈞曰く、「論者其(七)銅臭を嫌ふ」と。後太尉に拜せらる。董卓既に誅せられ、城門校尉に拜せらる。

(一) 高札を立つること (二) 富める者は任官に先立ちて役相當の金を納め、貧者はまづ任官し、後其金の倍額を納む (三) 常に天子のそばに侍する者又は傅母に取入りて任官の望を遂ぐ (四) 崔烈 (五) 世上の評判 (六) 英俊の聞え (七) 錢を納めて官を得たるを嘲る也

發之口一。錢多者處レ前。少者居レ後。錢之所レ祐。吉無レ不レ利。何必讀レ書然後富貴。昔呂公欣二悦於空版一。漢高克二之於贏二一。文君解二布裳一而被二錦繡一。相如乘二高蓋一而解二犢鼻一。官尊名顯。皆錢所レ致。無レ德而尊。無レ勢而熱。排二金門一而入二紫闥一。危可レ使レ安。死可レ使レ活。貴可レ使レ賤。生可レ使レ殺。諺曰。錢無レ耳可レ使レ鬼。凡今之人唯錢而已。疾レ時者傳二其文一。後莫レ知レ所レ終。

しむべし。諺に曰く、錢は耳なくして鬼を使ふべしと。凡そ今の人は、唯だ錢のみ」と。(八)時を疾む者其文を傳ふ。後終る所を知るなし。

（一）錢の中央に四角の孔あり、故にいふ　（二）武く嚴格なる顏　（三）呂公が沛縣の令に客たりし時、高祖なほ微賤にて亭長の役に在り、身に一錢を所持せざりしも、版上に一萬錢を上るべき旨の空事を書して案内を請ひ、いたく呂公を欣ばしめし事、漢書に見ゆ　（四）漢の高祖が蕭何の献ぜし錢の二百文だけ他より多かりし故、之に報ゆるに二千戸の増封を以てせし故事。贏は餘なり、二は二百文なり、克は其恩に報ゆる義　（五）卓文君、父の王孫より錢十萬を得て布の衣裳を錦繡の美しきに更め。中卷「文君當壚」の條參照　（六）其夫たる司馬相如も高貴の身となりしをいふ　（七）金門紫闥共に天子の門。排はおしひらく意　（八）當時の貪卑の風をにくむ者　（九）死所

後漢崔烈涿郡安平人。有レ重二名於北州一。歷二郡守九卿一。

後漢の崔烈は涿郡安平の人にして、北州に重名あり。郡守九卿を歷て、靈帝の時、鴻都門を開き(一)、榜して官爵を賣る。公卿以下皆差あり。富める者は先づ錢を入れ、貧しき者は官に到りて後に倍にして輸す。或は常侍(二)阿保(三)に因り別に自

晉書。魯褒字元道。南陽人。好ㇾ學多聞。以ニ貧素一自立。元康之後綱紀大壞。褒傷ニ時貪鄙一。乃隱ニ姓名一而著ニ錢神論一以刺ㇾ之。其略曰。親ㇾ之如ㇾ兄。字曰ニ孔方一。失ㇾ之則貧弱。得ㇾ之則富昌。無ㇾ翼而飛。無ㇾ足而走。解ニ嚴毅之顏一。開ニ難ㇾ

魯褒錢神　崔烈銅臭

晉書にいふ、魯褒字は元道、南陽の人なり。學を好みて多聞、貧素を以て自立す。元康の後綱紀大に壞る。褒、時の貪鄙を傷み、乃ち姓名を隱して錢神論を著し、以て之を刺る。其略に曰く、『之を親むこと兄の如く、字して孔方と曰ふ。之を失へば則ち貧弱となり、之を得れば則ち富昌となる。翼なくして飛び、足なくして走り、(二)嚴毅の顏を解き、發き難きの口を開く。錢多き者は前に處り、少き者は後に居る。錢の祐くる所、吉にして利ならざるなし。何ぞ必しも書を讀み然る後に富貴ならんや。昔呂公空版に欣悅し、(三)漢高之に贏二に克す。(四)文君衣裳(五)を解きて錦繡を被、(六)相如は高蓋に乘りて犢鼻を解き、官尊く、名顯る。皆な錢の致す所たり。德なくして尊く、勢なくして熱す。(七)金門を排して紫闥に入り、危きも安からしむべく、死も活きしむべく、貴きも賤しからしむべく、生も殺さ

餘歲。有レ詣レ徵者。出則過レ秀。秀母賤。嫡母宣氏不二之禮一。嘗使レ進二饌於客。見者皆爲レ之起。母曰。微賤如レ此。當下應爲二小兒一故上也。宣氏知遂止。時人爲二之語一曰。後進領袖有二裴秀。武帝時。爲二司空。秀儒學洽聞。留二心政事。以三職在二地官。作二禹貢地域圖一奏レ之。藏二於祕府。制レ圖之體有レ六。一曰二分率。所三以辨二廣輪之度。二曰二準望。所三以正二彼此之體。三曰二道里。所三以定二所レ由之數。四曰二高下。五曰二方邪。六曰二迂直。此六者各因レ地而制レ宜。所三以校二夷險之異一

爲の故なるべし」と。宣氏知りて遂に止む。時人之が語を爲して曰く、「後進の領袖裴秀にあり」と。武帝の時司空と爲る。秀、儒學洽聞、心を政事に留め、職、地官にあるを以て、禹貢地域圖を作りて之を奏す。依つて祕府に藏む。圖を制するの體に六あり。一に分率と曰ふ、廣輪の度を辨ずる所以なり。二に準望と曰ふ、彼此の體を正す所以なり。三に道里と曰ふ、由る所の數を定むる所以なり。四に高下と曰ふ。五に方邪と曰ふ。六に迂直と曰ふ。此六は、各〻地に因つて宜しきを制す。夷險の異れるを校する所以なり。

(一) 風采節操 (二) 秀をたづねて其秀才をめづる也 (三) 妾也 (四) 起つて敬意を表す (五) かく賤しき身を以て、かくまで客に敬せらるゝは、小兒の秀でたるが故なるべしとなり (六) 天子の文庫 (七) 東西を廣といひ、南北を輪といふ (八) 一圖を主として其四方の位置隣接の形體を正すをいふ (九) 由りて彼れより此れに至る間の里數を覓むるをいふ (一〇) 圖形の方形か否かを明かにする也 (一一) 平らかなるか險しきかといふ事

訕朝廷一桓帝震怒。逮二捕黨人一。收二執膺等一。後赦歸二田里一。禁二錮終身一。而黨名猶書二王府一。由レ是海內共相標搒。指二名士一爲二之稱號一。上曰二三君一。次曰二八俊八顧八及八廚一。猶二古之八元八凱一也。膺拜二司隸校尉一。諸黃門常侍。皆鞠躬屛レ氣。休沐不三敢復出二宮省一。是時朝廷。綱紀頹弛。膺獨持二風裁一。以二聲名一自高。士有下被二其容接一者上。名爲二登龍門一。靈帝時曹節諷二有司一。奏捕二前黨一。皆死二獄中一。

(四) 耳にはめあふ (五) 法則となるもの。手本たるもの (六) 桑唐の臣 (七) 四方のすみより起る風により吉凶をうかゞふ一種の占卜 (八) 罪科をしらべ正して (九) 鄕里 (一〇) 黨の名籍猶は朝廷に書き遺さる (一一) 搒は榜に通ず。互に相稱揚し (一二) 竇武・劉淑・陳蕃の三人、君主の如く尊崇する意にていふ (一三) 俊は俊才。顧は己の德行を以て他を顧みて之を善導する意。及は其敎導する所に人の追及して宗主とする意。廚は庖廚、料理の能く人を養ふ如く、財を施して人を救ふ者 (一四) 元は善也、八元は高辛氏に仕へし、八才子。愷は和也八愷は高陽氏に仕へし八才子 (一五) 身を屈め愼み敬ふ (一六) 五日毎の休日 (一七) きちんとして立派なる威容

晉裴秀字秀彥。河東聞喜人。少好レ學。有二風操一。八歲能屬レ文。叔父徽有二盛名一。賓客甚衆。秀年十

晉の裴秀字は、季彥河東聞喜の人なり。少うして學を好み、風操(一)あり。八歲にして能く文を屬す。叔父徽、盛名ありて、賓客甚だ衆し。秀年十餘歲、徽に詣る者ありて、出づれば則ち秀に過ぎる(二)。秀の母賤し(三)。嫡母宣氏之を禮せず、嘗に饌を客に進めしむ。見る者皆之が爲に起つ(四)。母曰く、「微賤此の如し(五)。當に小兒の

孝廉ニ高第。遷ニ河南尹一。及ニ黨議起一。流言轉入ニ大學一。諸生三萬餘人。郭林宗賈偉節爲ニ其冠一。竝與ニ膺陳蕃王暢一。更相褒重。學中語曰。天下模楷李元禮。不レ畏ニ彊禦一陳仲擧。天下俊秀王叔茂。時張成善ニ風角一。推ニ占當レ赦。教ニ子殺レ人。膺按殺レ之。其弟子上書告。膺等共爲ニ部黨一誹ニ

重す。學中語りて曰く、『天下の模楷(五)李元禮、彊禦(六)を畏れざる陳仲擧、天下の俊秀王叔茂』と。時に張成風角(七)を善くす。當に赦あるべきを推占し、子をして人を殺さしむ。膺按じて之を殺す。其弟子上書して告ぐらく、『膺等共に部黨をなし、朝廷を誹訕(八)す』と。桓帝震怒し、黨人を逮捕して、膺等を収め執ふ。後赦されて田里(九)に歸り、終身を禁錮さる。而るに黨名(一〇)猶ほ王府に書せらる。是に由つて海内共に相標榜(一一)し、名士を指して之が稱號を爲し、上を三君(一二)と曰ひ、次を八顧(一三)・八俊・八及・八厨と曰ふ。猶ほ古の八元八凱(一四)のごとし。膺、司隷校尉に拜せるゝや、諸黄門常侍は、皆鞠躬(一五)して氣を屏け、休沐(一六)にも敢て復宮省を出でず。是の時朝廷の綱紀頽弛す。膺獨り風裁を持し、聲名を以て自ら高うす。士、其容接を被むる者あれば、名づけて龍門(一七)に登るとなす。靈帝の時、曹節、有司に諷し、奏して前黨を捕ふ。皆獄中に死す。

(一) 人を踈略にし世に高ぶる　(二) 科目の名　(三) 世の流言が大學にまでも入り込み、三萬餘の學生も徒黨を組む

相親愛。其父嘗患ニ耳聰一。聞ニ牀下蟻動一。謂ニ之牛鬭一。帝素聞レ之。而不レ知ニ其人一。至レ是問ニ仲堪一曰。患レ此者爲レ誰。仲堪流レ涕而起曰。臣進退維谷。帝有レ愧焉。仲堪能清言。毎云。三日不レ讀ニ道德論一。便覺ニ舌本閒彊一。其談レ理。與ニ韓康伯一齊レ名。後假レ節鎭ニ江陵一。爲ニ桓玄追兵一逼殺。

維れ谷まる」と。帝愧づるあり。仲堪能く清言す(五)。毎に云ふ、「三日道德論(六)を讀まざれば、便ち舌の本の閒の彊き(七)を覺ゆ」と。其理を談ずる、韓康伯と名を齊うす。後節(八)を假りて江陵を鎭め、桓玄が追兵に逼り殺さる。

(一)夜中平衣のまゝ帶をも解かずに看病す (二)父の喪に服して瘠せ衰ふ (三)耳のあまりきこえ過ぐる奇病 (四)父の事なれば之を言ふに忍びず、臣の道として正直に答へざるを得ず、進退谷まると也 (五)清談なり。老莊虛無の說を爲すこと (六)老子の道德經 (七)こはばる (八)假に天子より旌じるしを受けて

元禮模楷　季彥領袖

後漢李膺字元禮。潁川襄城人。性簡亢。無レ所ニ交接一。擧ニ

後漢の李膺字は元禮、潁川襄城の人なり。性簡亢(一)にして交接する所なし。孝(二)廉に擧げられて高第し、河南の尹に遷る。黨議起るに及び、流言(三)轉じて大學に入り、諸生三萬餘人、郭林宗・賈偉節、其冠となり、竝に膺・陳蕃・王暢と、更に相褒(四)

盃中蛇卽角弓影也。復置二酒於前處一。謂レ客曰。盃中復有レ所レ見不。答曰。所レ見如レ初。廣乃告二其所以一。客豁然意解。沈痾頓愈。廣所在爲レ政。無二當時功譽一。每レ去レ職。遺愛爲レ人所レ思。凡論レ人。必先稱二其所一レ長。則所レ短不レ言而自見。後代二王戎一。爲二尙書令一。始戎薦レ廣。而終踐二其位一。時人美レ之。

爲る。始め戎、廣を薦め、而して(七)終に其位を踐む。時人之を美む。

(一)ごく懇意なる客　(二)心にひどく氣味惡く思ふ　(三)角にて飾りたるなり　(四)永らくの病が急に治したりとなり　(五)其在任當時格別の名譽功績もなけれど　(六)人民を愛して爲し置きたる遺業　(七)廣が戎に代りて

晉殷仲堪陳郡人。父師晉陵太守。初師病積レ年。仲堪衣不レ解レ帶。躬學二醫術一。究二其精妙一。執レ藥揮レ淚。遂眇二一目一。居レ喪毀。以レ孝聞。孝武帝召爲二中庶子一。甚

晉の殷仲堪は陳郡の人なり。父の師は晉陵の太守たり。初め師病みて年を積む。仲堪(一)衣帶を解かず、躬ら醫術を學び、其精妙を究め、藥を執りて淚を揮ひしため、遂に一目を眇す。(二)喪に居て毀す。孝を以て聞こゆ。孝武帝召して中庶子と爲し、甚だ相親愛す。其父嘗て耳聰を患ひて、(三)牀下の蟻の動くを聞き、之を牛鬭と謂へり。帝素より之を聞けども、而も其人を知らず。是に至りて仲堪に問ひて曰く、「之を患ふる者は誰なるか」と。仲堪涕を流して起つて曰く、「(四)臣進退

害。咎在二殘吏一。而勞勤張捕。非二憂恤之本一。可三一去二檻穽一。其後傳言。虎相與東游度レ江。

廣客蛇影　殷師牛鬪

晉書。樂廣字彥輔。南陽淯陽人。遷二河南尹一。常有二親客一。久闊不二復來一。廣問二其故一。答曰。前在レ坐蒙レ賜レ酒。方レ飲忽見二盃中有一レ蛇。意甚惡レ之。既飲而疾。于レ時河南聽事壁上有二角弓一。漆畫作レ蛇。廣意

晉書にいふ、樂廣字は彥輔、南陽淯陽の人なり。河南尹に遷る。常て親客あ(一)りしが、久闊復來らず。廣其故を問ふ。答へて曰く、「前に坐に在りて酒を賜ふを蒙る、飲むに方りて忽ち盃中に蛇あるを見たり。(二)意甚だ之を惡み、既に飲みて疾めり」と。時に河南聽事の壁上に角弓あり、漆畫にて蛇を作れり。廣意ふ、盃中の蛇は卽ち角弓の影ならんと。復酒を前の處に置き、客に謂て曰く、「盃中復見る所ありや不や」(三)と。答へて曰く、「見る所初めの如し」と。廣乃ち其所以を告ぐ。客豁然として意解け、(四)沈痾頓に愈ゆ。廣所在に政を爲す。(五)當時の功譽なきも、職を去る每に、(六)遺愛人に思はる。凡そ人を論ずる、必ず先づ其長ずる所を稱すれば、則ち短なる所は、言はずして自ら見る。後王戎に代り、尙書令と

者。欲ㇾ察二君政迹一耳。今蟲不ㇾ犯ㇾ境。化及二鳥獸一。竪子有二仁心一。三異也。還ㇾ府以ㇾ狀白ㇾ安。是歲嘉禾生二恭便坐庭中一。安上書言ㇾ狀。帝異ㇾ之。在ㇾ事三年。州擧二尤異一。去ㇾ官吏人思ㇾ之。後爲二司徒一。性謙退奏議依ㇾ經。潛有二補益一。然不二自顯一。故不下以二剛直一爲上ㇾ稱。

後漢宋均字叔庠。南陽安衆人。光武時。遷二九江太守一。郡多二虎暴一。數爲二民患一。常募檻二設穽一。猶多二傷害一。均到。下二記屬縣一曰。夫虎豹在ㇾ山。黿鼉在ㇾ水。各有ㇾ所ㇾ託。且江淮之有二猛獸一。猶三北土之有二雞豚一也。今爲二民

後漢の宋均字は叔庠、南陽安衆の人なり。光武の時、九江の太守に遷る。郡、虎の暴るゝこと多くして、數〻民の患を爲す。常に募り(一)て檻穽を設くれども猶ほ傷害多し、均到るや、記(二)を屬縣に下して曰く、『夫れ虎豹は山にあり、黿鼉(三)は水にありて、各〻託する所あり。且つ江淮の猛獸あるは、猶ほ北土の雞豚あるがごとし。今民に害を爲すは、咎殘吏(四)にあり。而るに勞勤(五)して張捕するは、憂恤の本にあらず。一に檻穽を去るべし』と。其後傳へ言ふ、虎相與に東に游ぎて江を渡ると。

(一) 虎を殺す人夫を募りて　(二) 廻狀を其郡に屬する縣々の吏に下す　(三) 黿は大なるすつぽん、鼉はわに似たる一種の動物　(四) 殘忍なる官吏　(五) 勞力を費し、わなを張りて虎捕ふるは、民の勞苦を救ふの本義に非ず

仲康。扶風平陵人。肅宗時拜二中牟令一。專以二德化一爲レ理。不レ任二刑罰一。郡國螟傷レ稼。犬牙緣界。不レ入二中牟一。河南尹袁安聞レ之。疑二其不一レ實使二仁恕掾肥親往廉一レ之。恭隨二行阡陌一。倶坐二桑下一。有レ雉過止二其傍一。傍有二童兒一。親曰。兒何不レ捕レ之。兒言雉方將レ雛。親瞿然起與レ恭訣曰。所二以來一

專ら德化を以て理を爲して(一)、刑罰に任ぜず。郡國に螟(二)ありて稼を傷ふ。犬牙の緣界も、中牟に入らず。河南尹袁安之を聞き、其實ならざるを疑ひ、仁恕掾(三)肥親をして往いて之を廉さしむ(四)。恭阡陌(五)を隨行し、倶に桑下に坐す。雉あり過ぎて其傍に止る。傍に童兒あり。親曰く、「兒何ぞ之を捕へざる」と。兒言ふ、「雉方に雛を將ゐる」と。親、瞿然(六)として起ち、恭と訣れて曰く、「來る所以の者は、君が政迹を察せんと欲するのみ。今蟲境を犯さず、化(七)鳥獸に及ぶ、豎子にも仁心あり。三の異なり」と。府に還り狀を以て安に白す。是の歲嘉禾恭が便坐(八)の庭中に生ず。安上書して狀を言ひ、帝之を異とす。事にあること三年、州、尤異(九)を擧ぐ。官を去り吏人之を思へり(一〇)。後司徒と爲る。性謙退にして奏議にも經に依り、潛に補益するとあるも、然も自ら顯さず。故に剛直を以て稱せられず。

(一) 治也 (二) 稻の害蟲 (三) 犬の牙の如く入り違ひたる國の境も、害蟲中牟には入らず (四) 視察せしむ (五) 阡は南北に通ずる路、陌は東西に通ずる路 (六) 驚く貌 (七) 德化 (八) 役所内の休息の室 (九) 州より種々の奇瑞を上へ申し上ぐ (一〇) 思慕せり

獨。以二李勢妹一為レ妾。甚有レ寵。嘗著二別齋後一。主聞與二數十婢一。拔レ刃襲レ之。値二李梳レ頭。髮垂レ地。姿貌端麗。乃徐下レ地結レ髮。斂レ手向レ主曰。國破家亡。無レ心至レ此。今日若能見レ殺。猶二生之年一。神色閑正。辭氣悽惋。主於レ是擲レ刃前抱レ之曰。我見レ汝亦憐。何況老奴。遂能遇レ之。

を襲ひしに、李が頭を梳るに値ふ。髪は地に垂れ、姿貌端麗、乃ち徐に地に下り髪を結ひ、手を斂め主に向ひて曰く、「國破れ家亡び、心無うして此に至る。今日若し能く殺さるれば、猶ほ生くるの年のごとし」(四)と。神色閑正にして、辭氣悽惋(五)なり。主是に於て刀を擲ち、前みて之を抱きて曰く、「我れ汝を見るも亦憐む。何ぞ況や老奴(六)をや」と。遂に善く之を遇す。

(一)臣下にして天子の女を娶るを尚といふ　(二)別宅にかくし置けりとなり　(三)公主　(四)生きて居ると同様にて誠に喜ばし　(五)悲愴　(六)相温の汝を愛するは尤もなり

魯恭馴雉　宋均去獸

後漢魯恭字

後漢の魯恭字は仲康、扶風平陵の人なり。肅宗の時中牟の令に拜せられ、

右夫人。郭槐性妬忌。怒攘袂數充曰。刊定律令。爲佐命之功。我有其分。李那得與我竝。充乃爲李。築室於永平里。而不往來。惠帝爲太子。納槐女爲妃。初槐欲省李氏。充曰。彼有才氣。卿往不如不往。及女爲妃。乃盛威儀而去。既入戶。李氏出迎。槐不覺脚屈。因遂再拜。自是充每出。槐使人尋之。恐其過李氏。李氏淑美有才行。作女訓。行於世。舊本槐作隗非。

室を永平里に築きて、往來せず。惠帝の太子たりしとき、槐の女を納れて妃と爲す。初め槐、李氏を省せんと欲す。充曰く、「彼才氣あり。卿の往くは、往かざるに如かじ」と。(五)女の妃と爲るに及び、乃ち威儀を盛にして去く。既に戶に入れば、李氏出で迎ふ。槐覺えず脚屈し、因つて遂に再拜す。是より充の出づる每に、槐人をして之を尋ねしめ、其李氏に過らんことを恐る。李氏淑美にして才行有り。女訓を作り、世に行はる。舊本に槐を隗に作るは非なり。

(一) 前妻の李夫人 (二) 郭配の女、名は槐 (三) 前妻の李夫人と後妻の郭槐とを合せて妻とせしむ (四) 賈充が魏の律令を刪定し、天子が天命を受けて天下を平定するを補佐せる功ありしは我が内治の功に依る、即ち自分にも功の分け前ありと也 (五) 李夫人の許を見舞はんとす

世說曰。桓溫尚明帝女南康公主。溫平

世説に曰く、桓溫、明帝の女南康公主を尙る。(一)溫、蜀を平げ、李勢が妹を以て妾と爲し、甚だ寵あり。嘗に(二)別齋の後に著く。(三)主聞きて數十婢と、刃を拔きて之

泰山。志在流水。子期曰。善哉。洋洋兮若江河。伯牙所念。子期必得之。呂氏春秋曰。鍾子期死。伯牙破琴絶絃。終身不復鼓琴。以爲無足爲鼓者。

たりと。呂氏春秋に曰く、鐘子期死せしに、伯牙琴を破り絃を絶ちて、終身復琴を鼓かず。以爲らく爲に鼓くに足る者なしと。

(一) 峨々は山の高大なる貌、其音調峨々たる泰山の如しと也　(二) 聞き知りて違ふとなし

晉書。賈充字公閭。平陽襄陵人。前妻李豐女。豐誅。李氏坐流徙。後娶郭槐。號廣城君。武帝踐祚。李以赦還。特詔充置左

郭槐自屈　南康猶憐

晉書にいふ、賈充字は公閭、平陽襄陵の人なり。前妻は李豐の女なれば、豐の誅せらるゝや、李氏(一)も坐して流徙せらる。後郭槐を娶る。廣城君と號す。武帝祚を踐むや、李、赦を以て還る。特に充に詔(二)して、左(三)右夫人を置かしむ。郭槐は性妬忌なれば、怒りて袂を攘ひ充を數めて曰く、「律(四)令を刊定し、佐命の功を爲しゝは、我にも其分あり。李那ぞ我と竝ぶことを得ん」と。充乃ち李の爲に

者。超然心悟。郭象又述而廣レ之。儒墨之迹見レ鄙。道家之言遂盛焉。嵇康善鍛。秀爲二之佐一。相對欣然。秀若レ無レ人。康誅。秀入レ洛。作二思舊賦一云。嵇博綜二技藝一。於二絲竹一特妙。臨レ當レ就レ命。顧視二日影一。索レ琴而彈レ之。逝將二西邁一。經二其舊廬一。于レ時日薄二虞泉一。寒水淒然。鄰人有二吹レ笛者一。發レ聲寥亮。追二想曩昔游宴之好一。感レ音而歎。故作レ賦云。後爲二散騎常侍一。在レ朝不レ任レ職。容レ迹而已。

覩、琴を索めて之を彈ず。逝きて將に西に邁かんとし、其舊廬を經たり。時に日は虞泉に薄りて、寒水淒然たり。鄰人に笛を吹く者あり、聲を發して寥亮たり。（六）曩昔游宴の好を追想し、音に感じて歎ず。故に賦を作ると云ふ』と。後に散騎常侍と爲りしも、朝にありては職に任ぜず、迹を容るゝのみ。（七）

（一）概括的本旨　（二）老莊の深遠なる學風　（三）孔孟墨家の學風をいふ　（四）鍛冶の業を善くす　（五）刑に行はれ將に命を捨つべききはに　（六）日の入る處　（七）只其官に身を置くのみ

列子曰。伯牙善鼓レ琴。鍾子期善聽。伯牙鼓レ琴。志在二高山一。子期曰。善哉。峩峩乎若二

列子に曰く、伯牙善く琴を鼓き、鍾子期善く聽く。伯牙琴を鼓くに、志高山にあれば、子期曰く、「善いかな、峩峩（一）として泰山の若し」と。志流水にあれば、子期曰く、「善いかな、洋洋として江河の若し」と。伯牙の念ふ所は、子期必ず之を（二）得

哲之書一不レ好。非二其意一雖二富貴一不レ事。哀帝時。丁傅董賢用レ事。諸附二離之一者。或起レ家至二二千石一。時雄方草二太玄一。有三以自守二泊如一也。或嘲レ雄以二玄尙白一。雄解レ之。號曰二解嘲一。客有レ難二玄太深衆人之不一レ好。雄解レ之。號曰二解難一。

向秀聞笛　伯牙絕絃

晉書にいふ、向秀字は子期、河內懷の人なり。淸悟にして遠識あり。少うして山濤に知らる。雅と老莊の學を好み、莊周內外篇は、歷世觀る者ありと雖も、其旨統を適論するものなかりしに、秀乃ち之が解を爲り、奇趣を發明し、玄風を振起し、之を讀む者超然として心悟す。郭象又述べて之を廣め、儒墨の迹鄙められ、道家の言遂に盛なり。嵇康善く鍛す。秀之が佐と爲り、相對して欣然旁に人なきが若し。康の誅せらるゝや、秀は洛に入り、思舊賦を作りて云ふ、『嵇博く技藝を綜べ、絲竹に於て特に妙なり、命に就くべきときに臨み、顧みて日影を

晉書。向秀字子期。河內懷人。淸悟有二遠識一。少爲二山濤一所レ知。雅好二老莊之學一。莊周內外篇。歷世雖レ有二觀者一。莫レ適二論其旨統一。秀乃爲二之解一。發二明奇趣一。振二起玄風一。讀レ之

壥。有ニ宅一區一。世世以ニ農桑一爲レ業。雄少而好レ學。不レ爲ニ章句訓詁一。通而已。博覽無レ所レ不レ見。爲レ人簡易佚蕩。口吃不レ能ニ劇談一。默而好ニ深湛之思一。淸靜亡爲。少ニ耆欲一。不レ汲ニ汲於富貴一。不レ戚ニ戚於貧賤一。不下修ニ廉隅一以徼中名當世上。家產不レ過ニ十金一。乏ニ無儋石之儲一。晏如也。自有ニ大度一。非ニ聖

して見ざる所なし。人となり簡易佚蕩、口吃りて劇談すること能はず。默して深湛の思を好み、淸靜亡爲、耆欲少くして、富貴に汲汲たらず、貧賤に戚戚たらず。(四)廉隅を修めて以て名を當世に徼むることをせず。家產は十金に過ぎず、乏しくして(五)儋石(六)の儲なけれども、晏如(七)たり。自ら大度ありて、聖哲の書にあらざれば好まず、其意にあらざれば、富貴と雖も事へず。哀帝の時、丁傅・董賢事を用ひ、諸〻之に附離(八)する者、或は家より起りて(九)二千石に至る。時に雄方に太玄(一〇)を草し、以て自ら泊如(一一)を守る。或は雄を嘲るに玄尙ほ白しといふを以てす。雄之れを解(一三)き、號して『解嘲』と曰ふ。客の玄(一二)太だ深くして衆人の好まざるを難ずるものあり。雄之を解き、號して『解難』といふ。

(一) 一百畝 (二) 書の大意を明らめ通ずるのみ (三) 手輕くゆるやかにさつぱりせり (四) 憂ふる貌 (五) かどだちたる所爲 (六) 儋は二石、石は一石なり。人のになひ得る程の量をいふ (七) 安んずる貌 (八) 離は著の意 (九) 平人より起りて (一〇) 大玄經 (一一) 安靜なり (一二) 玄は妙理を說くの義なれど其書はあさはかに幼稚なりとの意 (一三) 嘲解の文を作りて

史記。孟軻鄒人。受二業子思之門人一。道既通。游二事齊宣王梁惠王一。皆不レ能レ用。以爲三迂遠而闊二於事情一。是時天下方務二合從連衡一。以二攻伐一爲レ賢。而孟軻乃述二唐虞三代之德一。是以所レ如者不レ合。退而與二萬章之徒一。序二詩書一。述二仲尼之意一。作二書七篇一。嘗曰。我善養二吾浩然之氣一。

史記にいふ、孟軻は鄒の人なり。業を子思の門人に受け、道既に通じ、齊の宣王・梁の惠王に游事せしも、皆用ふること能はず、(一)以て迂遠にして事情に闊しと爲す。是の時天下方に(二)合從連衡を務めて、攻伐を以て賢と爲す。而るに孟軻は乃ち唐虞三代の德を述ぶ。是を以て如く所の者と合はず、退いて萬章の徒と、詩書を序で、(三)仲尼の意を述べ、書七篇を作る。嘗て曰く、「我れ善く吾が浩然の氣を養ふ」と。

(一) 孟子の說を以て　(二) 合從は戰國時代に蘇秦の策せしものにて、楚・燕・齊・韓・趙・魏の六國同盟して秦にあたるものなり。連衡は張儀の策にて六國互に東西卽ち橫に分れて秦に從ふの策なり、六國を秦に從はしめんとする策也

(三) 孔子

前漢楊雄字子雲。蜀郡成都人。有二田一

前漢の楊雄字は子雲、蜀郡成都の人なり。田一(一)塲あり、宅一區あり。世世農桑を以て業となす。雄少にして學を好み、章句訓詁を爲めず、(二)通ずるのみ。博覽に

必小人。温復問曰。天有頭乎。宓曰有。在西方。詩曰。乃眷西顧。以此推之。温曰。天有耳乎。宓曰天處高而聽卑。詩云。鶴鳴九皐。聲聞于天。無耳何以聽之。温曰。天有足乎。宓曰。詩云天步艱難。無足何以歩之。温曰。天有姓乎。宓曰。姓劉。天子姓劉。以此知之。温曰。日生於東乎。宓曰。雖生於東。而没於西。答問如響應聲。温大敬服。宓之文辨皆此類。舊本宓誤作密。

足なくんば何を以てか歩まん。」温曰く、「天に姓あるか。」宓曰く、「姓は劉、(七)天子の姓劉たれば、此を以て之を知る。」温曰く、「日東に生ずるか。」宓曰く、「東に生ずと雖も、西に没す。」答問響の聲に應ずるが如し。温大に敬服す。宓の文辨皆此類なり。舊本に宓を誤りて密に作れり。

(一)防男の軍を主どる、其陣營長水といふ川に近し、故に此稱あり　(二)十二三歳の子供　(三)自分をいふ謙辭
(四)詩經大雅皇矣篇　(五)眷顧は頭にてする事ゆゑ其語によりて天に頭あるを知ると也、蓋し當時三國鼎在の世なりし故、西方の蜀漢に頭ありとして、蜀に統一せらるべき意を寓せるならん　(六)少雅鶴鳴の篇。九雅鶴は水深き淵をいふ　(七)漢の姓也。蜀の劉備は漢の正統、魏と呉とは漢の臣也

孟軻養素　楊雄草玄

食之餘如ニ月之初一。瓊大驚。以ニ其言一應レ詔。深奇ニ愛之一。後瓊爲ニ司徒一。琬以ニ公孫一拜ニ童子郎一。不レ就。知ニ名京師一。獻帝初遷ニ大尉一。坐免。及レ徙ニ西都一。起爲ニ司隸校尉一。與ニ司徒王允一同謀レ誅ニ董卓一。爲ニ卓將李傕一所レ害。

(一)其日食の樣子を奏上す　(二)譬ふる也　(三)三日月をいふ　(四)公卿の子孫　(五)罪のまきぞへにあひて

蜀志秦宓字子勑。廣漢綿竹人。少有ニ才學一。拜ニ長水校尉一。吳遣ニ使張溫一來聘。百官往餞。衆集。而宓未レ往。丞相亮遣レ使促レ之。溫曰、彼何人也。亮曰、益州學士也。及レ至。溫問曰、君學乎。宓曰、五尺童子皆學。何

蜀志にいふ、秦宓字は子勑、廣漢綿竹の人なり。少うして才學あり、長水校尉に拜せらる。吳、張溫をして來り聘せしむるや、百官往きて餞し、衆集(一)れども宓未だ往かず。丞相亮使を遣して之を促す。溫曰く、「彼何人ぞや」亮曰く、「益州の學士なり。」至るに及び、溫問うて曰く、「君學びたりや。」宓曰く、「五尺の童子も皆學ぶ。何ぞ必ずしも小人(三)のみならんや。」溫復問ひて曰く、「天に頭(二)あるか。」宓曰く、「有り、西方にあり。詩に曰く、(四)乃ち顧みて西に眷みると。(五)此を以て之を推す。」溫曰く、「天に耳あるか。」宓曰く、「天は高きに處りて卑きに聽く。詩に云ふ、鶴九皐(六)に鳴きて聲天に聞こゆと。耳なくんば何を以てか之を聽かん。」溫曰く、「天に足あるか。」宓曰く、「詩に云ふ、天步艱難と。

出爲東陽郡。乃祖道於治亭。時賢皆集。安欲以卒迫試之。臨別執其手。顧左右取一扇。授之曰。卿以贈行。宏曰。輒當奉揚仁風。慰彼黎庶。時人歎其率而要焉。

後漢黃琬字子琰。江夏安陸人。少辯慧。祖父瓊初爲魏郡太守。建和元年正月日食。京師不見。瓊以狀聞。太后詔問所食多少。瓊對未知所況。琬年七歲。在旁。曰。何不言日

黃琬對日　秦宓論天

後漢の黃琬字は子琰、江夏安隆の人なり。少うして辯慧なり。祖父瓊初め魏郡の太守たりしとき、建和元年正月に日食あり。京師にては見えず。瓊狀(一)を以て聞す。太后詔して食する所の多少を問ふ。瓊對ふるに未だ況ふる(二)所を知らず。琬年七歲、旁に在りて曰く、「何ぞ日食の餘は月の初の如し(三)と言はざるや」と。瓊大に驚き、其言を以て詔に應じ、深く之を奇として愛す。後瓊司徒となるや、琬は公孫なるを以て、童子郎に拜せしも、就かず。名を京師に知らる。獻帝の初め大尉(四)に遷り、坐(五)して免ぜらる。西都に徙るに及び、起ちて司隷校尉となり、司徒王允と同じく董卓を誅せんと謀り、卓の將李傕に害せらる。

壁障一。時猛獸爲レ暴。而文獨宿十餘年。卒無レ患。常著二鹿裘葛巾一。不二飲レ酒食一レ肉。王導召置二園中一。七年未三嘗出二入一。後逃二歸臨安一。結二廬山中一。

晉袁宏字彦伯。陳郡陽夏人。有二逸才一。文章絶美。謝尚時鎭二牛渚一。秋夜乘レ月。與二左右一微服泛レ江。會宏在二舫中一。諷詠。聲清辭文藻拔。遣レ問焉。即迎升レ舟。與譚論。申旦不レ寐。自レ此名譽日茂。謝安常賞二其機對辯速一。後安爲二陽州刺史一。宏

晉の袁宏字は彦伯、陳郡陽夏の人なり。逸才ありて、文章絶美なり。謝尚時に牛渚を鎭す。秋夜月に乘じ、左右と微服して江に泛ぶ。會〻宏、舫中にありて諷詠す。聲清くして辭文藻拔なれば、問はしむ。即ち迎へて舟に昇せ、與に譚論し、(二)申旦まで寐ねず。此より名譽日に茂し。謝安常に其機對辯速を(三)賞す。後安陽州の刺史と爲るや、宏も出でゝ(四)東陽郡と爲り、乃ち治亭に(五)祖道す。時の賢皆集る。(六)安卒迫を以て之を試みんと欲し、別に臨み其手を執り、左右を顧み一扇を取りて、之に授けて曰く、「聊か以て行を贈る」と。宏曰く、「輒ち當に(七)仁風を奉揚して彼の黎庶を慰むべし」と。時人其(八)率にして要なるを歎ず。

(一) 他の舟中に在りし也　(二) 申は達也。朝までの意　(三) 當意即妙の答　(四) 東陽郡の太守　(五) 治亭は驛の名、祖道は送別の宴を張るをいふ　(六) 思ひ設けざる急の場合　(七) 上の仁德を擧げ惠政を施して人民を慰撫せん。(八) 急遽の際よく其要を得たるを歎賞せり

甚苦。容遂屈。乃作レ色曰。鬼神古今聖賢所二共傳一。君何得二獨言一レ無。即僕便是鬼。於レ是變爲二異形一。須臾消滅。瞻大惡。歲餘病卒。

晉書、郭文字文擧。河内軹人。少愛二山水一。尚二嘉遯一。每遊二山林一。彌レ旬忘レ反。父母終不レ娶。辭レ家遊二名山一。洛陽陷。乃步擔入二吳興餘杭大辟山中窮谷無人之地一。倚二木於樹一。苫覆二其上一而居焉。亦無二

郭文遊山　袁宏泊渚

晉書にいふ、郭文字は文擧、河内軹の人なり。少にして山水を愛し、嘉遯(一)を尚び、每に山林に遊び、旬(二)に彌るも反ることを忘る。父母終るも娶らず、家を辭して名山に遊ぶ。洛陽の陷るとき、乃ち步擔(三)して吳興餘杭の大辟山中窮谷無人の地に入り、木を樹に倚せ(四)、苫を其上に覆ひて居る。亦壁障なし。時に猛獸暴をなせども、文獨り宿すること十餘年、卒に患なし。常に鹿の裘、葛の巾を著け、酒を飲み肉を食ふことをせず。王導召して園中に置くに、七年なるも未だ嘗て出入せず。後臨安に逃れ歸り、廬を山中に結ぶ。

(一) 隱遯なり、世俗をのがれて世を送ること　(二) 十日にもなりて　(三) 徒步にて荷物を擔ひて行く　(四) 材木を立ち樹に倚せ掛け

識二其要一。遇レ理而辯。辭不レ足而旨有レ餘。見二司徒王戎一。戎問曰。聖人貴二名教一。老莊明二自然一。其旨同異。瞻曰將レ無レ同。戎咨嗟良久。卽命辟レ之。時謂二之三語掾一。永嘉中爲二太子舍人一。瞻素執二無鬼論一。自謂此理可三以辯二正幽明一。忽有レ客通レ名詣レ瞻。瞻與レ之言。良久及二鬼神之事一。反覆

貴び、老莊は自然を明かにす。其旨同か異か」と。瞻曰く、「(三)將に同じきことなからんとす」と。戎(四)咨嗟すること良や久し。卽ち命じて之を辟す。時に之を三語の(五)掾と謂ふ。永嘉中太子舍人となる。瞻素より無鬼論を執り、自ら謂ふ「此理以て(六)幽明を辯正すべし」と。忽ち客あり名を通じ瞻に謁す。瞻之と言ひ、良や久うして鬼神の事に及び、(七)反覆甚だ苦む。客遂に屈す。乃ち色を作して曰く、「鬼神は古今聖賢の共に傳ふる所、君何ぞ獨り無しと言ふを得ん。(八)卽ち僕便ち是れ鬼なり」と。是に於て變じて異形と爲り、須臾にして消滅す。瞻大に惡み、歲餘にして病みて卒す。

(一) 心中に自得す、其境遇を樂みて胸中些の煩悶なきをいふ　(二) 議論するに餘り深く其理を究め求むる事はせざれど、而も心の中に其要領を知る　(三) 元來同一理なるも眞理に達せるもの互に相排して將に同じからざらんとするとの意か。或は其根本は同一なれども教義また自ら異なり。同とも言ひ難く不同とも言ひ難しとの意にて斯く答へしにや　(四) 感じなげく　(五) 「將無同」の三語にて召されし故に斯くいふ也　(六) 幽と明卽ち鬼神生死陰陽をいふ　(七) 色々とくり返して勉めて論難す　(八) さういふ譯は敢て他に俟つ迄もなく、我が此身やがてこれ鬼なれば也

季布何罪。臣各爲二其主一用レ職耳。項氏臣可二盡誅一耶。今上始得二天下一。而以二私怨一求二一人一。何示レ不レ廣也。滕公言二於上一。上乃赦レ布。召見拜二郎中一。後爲二河東守一。布初不レ說二辯士曹丘生一。生至揖レ布曰。楚人諺曰。得二黃金百一。不レ如レ得二季布諾一。足下何以得二此聲梁楚之閒一哉。僕與二足下一俱楚人。使三僕游二揚足下名一。顧不レ美乎。何距レ僕深也。布大說。引爲二上客一。史記得二黃金百斤一。不レ如レ得二滕布諾一。

に楚人なり。僕をして足下の名を游揚(七)せしむ、顧ふに美(八)ならずや。何ぞ僕を距ぐことの深きや」と。布大に說び、引きて上客と爲す。史記に、『黃金百斤を得るは、季布の諾を得るに如かず』と。

(一) 千金の懸賞にて季布を捕へしむ　(二) 髮を剃り、首を鐵にてつかねて、罪人あつかひにすること　(三) 喪儀用の車ならん　(四) 度量の狹きを　(五) 謹して　(六) 季布然諾を重んず、故に此諺ある也　(七) 今足下の名を僕が賞揚したればこそ此名聲あるなれとなり　(八) 足下の爲め誠に美ならずや

晉阮瞻字千里。始平太守咸之子。性淸虛寡欲。自二得於懷一。讀レ書不二甚研求一。而默

晉の阮瞻字は千里、始平の太守咸の子なり。性淸虛寡欲にして、懷(一)に自得す。(二)書を讀むに甚だ研求せず。而れども默して其要を識る。理に遇ひて辯ずるや、辭足らざれども旨餘あり。司徒王戎に見えしに、戎問ひて曰く、「聖人は名敎を

前漢季布楚人。任俠有レ名。項籍使レ將レ兵。數窘二高祖一。籍滅。高祖購二求布千金一。敢有二舍匿一。罪二三族一。布匿二濮陽周氏一。周氏迺髠二鉗布一。衣レ褐置二廣柳車中一。幷與二其家僮數十一。之二魯朱家所一賣レ之。朱家心知二其季布一也。乃見二汝陰侯滕公一。說曰。

季布一諾　阮瞻三語

前漢の季布は楚の人なり。任俠にして名あり。項籍兵に將たらしむ。數〻高祖を窘む。籍滅びて高祖布を千金(一)購ひ求め、敢て舍し匿すものあらば、三族を罪せんといふ。布、濮陽の周氏に匿る。周氏迺ち布を髠鉗(二)にし、褐を衣せ廣柳車(三)の中に置き、幷せて其家僮數十とを、魯の朱家の所に之き之を賣る。朱家心に其季布たるを知り、乃ち汝陰侯滕公に見え、說きて曰く、「季布何の罪ぞ。臣は各〻其主の爲に職を用ふるのみ。項氏の臣盡く誅すべけんや。今上始めて天下を得て、私怨を以て一人を求む。何ぞ廣(四)からざるを示すや」と。滕公、上に言ふ。上乃ち布を赦し、召し見て郎中に拜し、後河東の守と爲す。布初め辯士曹丘生を說ばず。生至り布を揖(五)して曰く、「楚の人の諺に曰く、(六)黃金百を得るは、季布の諾を得るに如かずと。足下何を以て此の聲を梁楚の間に得たるか。僕は足下と倶

世說曰。世目二周侯一。嶷如二斷山一。注晉陽秋曰。顗正情嶷然。雖二一時儕類一。皆無二敢媟近一。周侯謂二周顗一也。

世說曰。海西時。諸公每レ朝。朝堂猶暗。唯會稽王來。軒軒如二朝霞擧一。會稽王。謂二道子一也。

周侯山嶷　會稽霞擧

世說に曰く、『世周侯を目して、㈠嶷たること斷山の如しと。』㈡注に『晉陽秋に曰く、顗は正情嶷然として、㈢一時の儕類と雖も、皆敢て媟れ近づく無しと。』周侯は周顗を謂ふなり。

㈠高くそびゆると切り立ちたる山の如し　㈡世說の註に晉陽秋を引きて斯くいふと也、陽秋は春秋　㈢當時の同輩同官人

世說に曰く、『㈠海西の時、諸公朝する毎に、朝堂猶ほ暗し。唯だ會稽王來れば㈡軒軒として朝霞の擧るが如し』と。會稽王とは、㈢道子を謂ふなり。

㈠東晉七世の帝、廢せられて海西縣公となる　㈡衆より高くぬきいでたる貌　㈢東晉第八世簡文帝の子司馬道子

巨卿。山陽金鄕人。少遊二大學一。與二汝南張劭一爲レ友。劭字元伯。二人竝告二歸鄕里一。式謂二元伯一曰。後二年當レ還。將下過拜二尊親一見中孺子上焉。乃共尅二期日一。後期方至。元伯具以白レ母。請レ設レ饌以候レ之。母曰。二年之別千里結レ言。爾何相信之審。對曰。巨卿信士。必不二乖違一。母曰若然當二爲レ爾醞一レ酒。至二其日一巨卿果到。升レ堂拜飮。盡レ歡而別。舊注引二殺レ雞炊レ黍事一。無レ載。

劭と友たり。劭字は元伯、二人竝に鄕里に告歸す(一)。式、元伯に謂て曰く、「後二年にして當に還るべし。將に過りて尊親を拜し孺子(二)をも見んとす」と。乃ち共に期日を尅す(三)。後期方に至る。元伯具に以て母に白し、饌を設けて以て之を候んことを請ふ。母曰く、「二年の別、千里言を結ぶ。爾何ぞ相信ずることの審なる」と。對へて曰く、「巨卿は信士なり(四)。必ず乖違せざらん」と。母曰く、「若し然らば當に爾が爲に酒を醞すべし」と。其日に至り、巨卿果して到る。堂に升り拜飮し、歡を盡して別る。舊注(五)に雞を殺し黍を炊ぐ事を引きたれども、載するなし。

(一) 暇を告げて鄕に歸る　(二) 少子。張劭が子をいふ　(三) 訪問の期日を約束す　(四) 遠路の來訪を約す　(五) 標題の作者李瀚の本をいふ、それには殺雞炊黍の事あれど、そは後漢書の本傳等に所載なしと也

後漢陳重字景公。豫章宜春人。少與鄱陽雷義爲友。義字仲公。太守擧重孝廉。重以讓義。太守不聽。義明年擧孝廉。俱在郎署。後俱拜尚書郎。義代同時人受罪。以此黜退。重見義去。亦以病免。義後擧茂才。讓於重。不應命。郷里爲之語曰。膠漆自謂堅。不如陳與雷。三府同時俱辟。並至御史。

後漢の陳重、字は景公、豫章宜春の人なり。少うして鄱陽の雷義と友たり。義、字は仲公といふ。太守重を孝廉に擧げしに、重以て義に(一)讓る。太守聽かず。義も明年孝廉に擧げられ、俱に郎署に在り。後俱に尚書郎に拜せらる。義同時(二)の人に代りて罪を受け、此を以て黜退(三)せらるゝや、重は義の去るを見て、亦病を以て免ぜらる。義後に茂才(四)に擧げらるゝや、重に讓りて、命に應ぜず。郷里之が語を爲して曰く、『膠漆(五)自ら堅しと謂へども、陳と雷と(六)に如かず』と。三府(七)同時に俱に辟し、並に御史に至る。

(一)雷義に (二)義と同時に尚書郎の官に進みし人 (三)免職になること (四)科目の名、もと秀才と曰ひしが光武帝の諱を避けて斯く改稱せる也 (五)にかはとうるし (六)陳と雷との交はり (七)太尉・司空・司徒の三公の府

後漢范式字

後漢の范式、字は巨卿、山陽金郷の人なり。少うして大學に遊び、汝南の張

衣。與二此屬一取二天下。今已爲二天子。而所レ封皆蕭曹故人所二親愛。所レ誅者皆平生仇怨。此屬畏二陛下不レ能二盡封一。又恐下見レ疑二過失一及上レ誅。故相聚謀レ反耳。上平生所レ憎。羣臣所二共知。誰最甚者。上曰。雍齒與レ我有二故怨。數窘二辱我。我欲レ殺レ之。爲二功多一不レ忍。良曰。今急先封レ齒。以示二羣臣。則人人自堅矣。於レ是上置酒。封レ齒爲二什方侯。而急趣二丞相御史。定レ功行レ封。羣臣罷レ酒。皆喜曰。雍齒且侯。我屬無レ患矣。

る。故に相聚り反を謀るのみ。上平生憎むところにして羣臣の共に知るところ、誰か最も甚しき者ぞ」と。上曰く、「雍齒は我と故き怨あり。數〻我を窘辱す。我之を殺さんと欲すれども、功多きが爲に忍びず」と。良曰く、「今急に先づ齒を封じ、以て羣臣に示さば、則ち人人自ら堅からん(四)」と。是に於て上置酒し、齒を封じて什方侯と爲し、急に丞相御史を趣して、功を定め封を行ふ。羣臣酒を罷め、皆喜びて曰く、「雍齒且つ侯たり(五)。我が屬に患なし」と。

(一) 閣道、上下に道あるを以て復道といふ　(二) 耳うちして二人にてさゝやく　(三) 高祖の良臣蕭何、曹參の如き舊故の人々　(四) 志操堅固に忠を盡さん　(五) にてすらなほ

陳雷膠漆　范張鷄黍

人。季布母弟。爲二項羽將一。逐二窘高祖彭城西一。短兵接。高祖急。顧謂二丁公一曰。兩賢豈相戹哉。丁公引レ兵還。及二項羽滅一。丁公謁見。高祖以二丁公一徇二軍中一曰。丁公爲二項王臣一不忠。使三項王失二天下一者也。遂斬レ之。曰使下後爲二人臣一無上レ傚二丁公一也。

城の西に逐窘む。(二)短兵接して、高祖急なり。顧みて丁公に謂て曰く、「兩賢豈に相戹せんや」と。丁公兵を引きて還る。項羽の滅ぶるに及び、丁公謁見す。(三)高祖、丁公を以て軍中に徇へて(四)曰く、「丁公は項王の臣と爲りて不忠なり。項王をして天下を失はしめし者なり」と。遂に之を斬りて曰く、「後の人臣たるものをして丁公に傚ふことなからしめん」と。

(一) 同母異父の弟　(二) 刀劍にて斬り合ふ　(三) 君と吾と兩賢何んぞ相戰はんやと也　(四) 軍中に引廻しふれ示す

前漢高祖居二雒陽南宮一。從二復道一望見。諸將往往偶語。上問二張良一。良曰。陛下起二布

前漢の高祖雒陽の南宮に居て復道より望み見るに、(一)諸將往往偶語す。(二)上張良に問ふ。良曰く、「陛下布衣より起り、此屬と天下を取り、今已に天子たり。而して封ずる所は皆蕭曹(三)故人親愛する所、誅する所は皆平生の仇怨なり。此屬陛下の盡く封ずること能はざるを畏れ、又過失を疑はれて誅に及ばんことを恐

風張氏之先。爲二郡功曹一。晨起當レ朝。有レ鳩。從二承塵上一。飛下二几前一。功曹曰。鳩何來。爲レ禍飛上二承塵一。爲レ福飛入二我懷一。開レ懷待レ之。鳩乃飛入二懷中一。探得二銅鉤一。帶レ之官至二數郡太守九卿一。有三蜀客至二長安一。私賂二張氏婢一。婢賣レ鉤與二蜀客一。客家喪禍。懼而還二張氏一。張氏得レ鉤。復爲二二千石一。後失レ鉤。張氏遂衰。

あり、承塵(一)の上より、飛んで几前に下る。功曹曰く、「鳩よ何より來れる。禍たらば承塵に上れ。福たらば飛んで我が懷に入れ」と。懷を開きて之を待つ。鳩乃ち飛んで懷中に入る。探れば銅鉤(二)を得たり。之を帶ぶるに官數郡の太守九卿に至る。蜀客の長安に至るものあり、私に張氏の婢に賂す。婢鉤を賣り(三)、蜀客に與へしに、客の家に喪の禍あり。懼れて張氏に還す。張氏鉤を得、復二千石と爲る。後鉤を失ひて張氏遂に衰ふ。

㊀ちりうけ。我國のなげしの如きもの　㊁あかがねのかぎ　㊂鉤を盜み出し代價を取りて蜀客に與へし也

丁公遽戮　雍齒先侯

前漢丁公。薛

前漢の丁公は、薛の人にして、季布の(一)母弟なり。項羽の將と爲り、高祖を彭

下有二金十斤一。願以相贈。死後乞藏二骸骨一。已而命絶。吮鬻二一斤一。營葬。餘悉置二棺下一。人無二知者一。吮後署二大度亭長一。初到。有レ馬馳入二亭中一而止。其日大風。飄二一綉被一。復墮二吮前一。即言二之於縣一。縣以歸レ吮。後乘レ馬到二雒縣一。主人見レ之。問レ所二由得一レ馬。吮具說二其狀一。幷及二綉被一。主人曰。卿何陰德而致レ之。吮因說下葬二書生一事上。主人驚曰。是我子也。大恩久不レ報。天以レ此彰二卿德一耳。由レ是顯レ名。仕レ郡爲二功曹一。

其日大風一綉被(三)を飄へし、復吮の前に墮つ。卽ち之を縣に言ひしに(四)、縣は以て吮に歸せり(五)。後馬に乗り雒縣に到りしに、主人之を見て、由つて馬を得る所を問ふ。吮具に其狀を說き、幷せて綉被に及ぶ。主人曰く、「卿何の陰德ありて之を致すや」と。吮因つて書生を葬りし事を說く。主人驚きて曰く、「是れ我が子なり。大恩久しく報ぜず。天此を以て卿の德を彰すのみ」と。是に由り名を顯す。郡に仕へて功曹と爲る。

(一) 看護介抱す　(二) 代理となりて其役を領す　(三) ぬいとりある夜具なり　(四) 縣の代官所に訴ふ　(五) 下げ渡す　(六) 驀に馳せ來りて亭中に入りし馬

三輔決錄。扶

三輔決錄にいふ、扶風張氏の先、郡の功曹と爲り、晨に起き朝に當るに、鳩

賤。博通二墳籍一。善二談論一。美二音制一。遊二洛陽一。始見二河南尹李膺一。膺大奇レ之。遂相友善。名震二京師一。後歸二鄕里一。諸儒送至二河上一。車數千兩。林宗唯與レ膺同レ舟而濟。賓客望レ之以爲二神仙一焉。

に之を奇とし、遂に相友とし善し。名京師に震ふ。後鄕里に歸るに、諸儒送りて河上に至る、車數千兩あり。林宗唯だ膺と舟を同うして濟る。賓客之を望みて以て神仙と爲す。

㊀ 三皇卽ち伏羲・神農・黃帝の書　㊁ 聲が音律の調子によく合ふをいふ

後漢王忳字少林。廣漢新都人。嘗詣二京師一。於二空舍中一。見二一書生金彥疾困一。愍而視レ之。生曰。我命在二須臾一。腰

王忳繡被　張氏銅鈎

後漢の王忳、字は少林、廣漢新都の人なり。嘗て京師に詣り、空舍の中に於て、一書生金彥の疾みて困するを見、愍みて之を視る。(一) 生曰く、「我が命須臾に在り。腰下に金十斤あり。願くは以て相贈らん。死後乞ふ骸骨を藏めよ」と。已にして命絶ゆ。忳一斤を鬻ぎて營葬し、餘は悉く棺下に置くに、人の知る者なし。忳後に大度亭長に署し、(二) 初めて到るとき、馬あり馳せて亭中に入りて止る。

所二褒貶一也。謝安亦雅重レ之。常云裒雖レ不レ言。而四時之氣亦備矣。仕至二征北大將軍一。

とをいふ ㊄ 春夏秋冬に寒暑冷暖ある如く、人をほめおとすに、よく其人物を見分け知りてそれぞれ軽重あること

荀陳德星　李郭仙舟

異苑。陳寔字仲弓。荀淑字季和。仲弓與二諸子姪一。造二季和父子一討論。于レ時德星聚。太史奏曰。五百里內。有二賢人聚一。

異苑にいふ、陳寔字は仲弓、荀淑字は季和といふ。仲弓、諸子姪(一)と、季和父子に造り討論す。時に德星(二)聚る。太史奏して曰く、「五百里の内に、賢人の聚るあらん」(三)と。

㊀ 我が子供甥や姪等と ㊁ 景星。よい星 ㊂ 仲弓諸子季和父子の德が天に通じ德星の聚りとなりてあらはれし也

後漢郭太字林宗。太原界休人。家世貧

後漢の郭太字は林宗、太原界休の人にして、家世々貧賤なり。博く墳籍(一)に通じ、談論を善くし、音制(二)美なり。洛陽に遊び、始めて河南尹の李膺を見る。膺大

與皇后弟毛曾並坐。玄恥之。不悦形於色。明帝恨之。左遷羽林監。世説曰。曾與玄共坐。時人謂蒹葭倚玉樹。又云朗朗如日月之入懷。

玄と共に坐ず。時人蒹葭玉樹に倚ると謂ひ、又、朗朗たること日月の懐に入るが如しと云ふ』と。

(一) 二十歳　(二) あしの玉の如く立派なる樹によるが如しとなり、蓋し玉樹とは玄をいひ、あしは曾に比せしなり　(三) 玄と交るに其人品高潔にて日月の我が懐に入るが如き思ありと也

晉褚裒字季野。河南陽翟人。康獻皇后父也。少有簡貴之風。與杜乂俱有盛名。冠于中興。桓彝目之曰。季野有皮裏陽秋。言其外無臧否。而内有

晉の褚裒字は季野、河南陽翟の人にして、康獻皇后の父なり。少にして簡貴(一)の風あり。杜乂と倶に盛名ありて、中興(二)に冠たり。桓彝之を目して曰く、「季野には皮裏の陽秋(三)あり」と。其外に臧否(四)なくして内に褒貶する所あるを言ふなり。謝安亦雅より之を重んず。常に云ふ、「裒は言はずと雖も、四時(五)の氣亦備はる」と。仕へて征北大將軍に至る。

(一) おほまかにして貴人らしきこと　(二) 東晉の元帝衰へたるを興す。即ち元帝の時盛名天下に冠たりとなり　(三) 皮の下即ち心の中に人をほめたりくさしたりする心ありとなり。陽秋は春秋の義　(四) よしあしの義、譽めると毀る

綜二衆藝一。王導比二之王戎一。長呼爲二小安豐一。辟爲レ掾。始到レ府通レ謁。導以三其有二勝會一。謂曰。聞君能作二鴝鵒舞一。一座傾想。尙便著二衣幘一而舞。導令二坐者撫レ掌擊一レ節。尙俯二仰其中一。旁若レ無レ人。其率詣如レ此。終二衞將軍散騎常侍一。

を撫し節を撃たしむ。尙其中に俯仰し、旁らに人なきが如し。其率詣(一二)此の如し。衞將軍散騎常侍に終る。

(一)非常にさとく賢こくして早く大人の風あり (二)手を引き連れて (三)孔子の高弟にて亞聖と呼ばれし顏淵の如しと也 (四)孔子 (五)王戎は安豐侯なれば之に比して小安豐侯といへる也 (六)名札 (七)貴賓を招ける會 (八)もずに似たる一種の鳥、其鳥に因みたる舞ならん (九)一座の人々何れもさぞ面白からんとて所望す (一〇)衣は舞の裝束、幘は頭巾の類 (一一)眞率。さつぱりしたること

太初日月　季野陽秋

魏志。夏侯玄字太初。沛國譙人。少知レ名。弱冠爲二黃門侍郞一。嘗進見。

魏志にいふ、夏侯玄字は太初、沛國譙の人なり。少にして名を知られ、弱冠(一)にして黃門侍郞と爲る。嘗て進見し、皇后の弟毛曾と竝び坐す。玄之を恥ぢて悅ばざること色に形はる。明帝之を恨み、羽林監に左遷す。世說に曰く、『曾、

對策高第。爲人剛直高節。志在奉公。然深刻喜陷害人。又好言事刺譏。奸犯上意。時上方用刑法。信任宦官。寬饒奏曰。方今聖道寖廢。儒術不行。以刑餘爲周召。以法律爲詩書。又引韓氏易傳言。五帝官天下。三王家天下。家以傳子。官以傳賢。若四時之運。功成者去。上以其怨謗。遂下吏。自到。

敵さる（四）試驗に成績優秀にて及第すること（五）政を行ふこと甚だきびしく（六）刑餘は一旦罪せられたる者の義にて、宦官をいふ、宦官を以て、周公・召公の如き賢者なりと思ひてとなり（七）五帝は天下を賢者に讓り、賢者を擧げて政を行はしむ、三王は天下を我子に讓る、其子賢なるが故也（八）功成る者は去るといへるを、讓位を請ふ者と解し、諫め用ひられざるが故に此怨謗の言を爲すと思ひて、遂に獄吏の手に引渡せりと也

晉謝尚字仁祖。八歲神悟夙成。其父鯤嘗攜之送客。或曰。此兒一坐之顏回也。尚曰。坐無尼父。焉別顏回。席賓歎異。及長善音樂。博

晉の謝尚、字は仁祖、八歲にして神悟（一）夙に成る。其父鯤、嘗て之を携（二）へ客を送る。或ひと曰く、「此兒は一坐の顏回（三）なり」と。尚曰く、「坐に尼父（四）なし。焉ぞ顏回を別たん」と。席賓歎異す。長ずるに及び音樂を善くし、博く衆藝を綜ぶ。王導之を王戎に比し、長ずるや呼びて小安豐（五）と爲す。辟されて掾と爲る。始めて府に到り謁（六）を通ずるに、導其勝會（七）あるを以て、謂て曰く、「聞く、君能く鴝鵒（八）の舞を作すと。」（九）一座傾想す。尚便ち（一〇）衣幘を著けて舞ふ。導、坐者をして掌

中二千石皆賀。蓋寛饒爲ニ司隸校尉。不レ行。許伯請レ之迺往。酒酣樂作。長信少府檀長卿起舞。爲ニ沐猴與レ狗鬭。坐皆大笑。寛饒不レ說。因起趍出劾奏。長信少府以ニ列卿ニ而沐猴舞。失禮不敬。宣帝欲レ罪ニ少府。許伯爲謝迺解。寛饒字次公。魏郡人。明レ經。以ニ孝廉ニ爲レ郎。擧ニ方正ニ。

信少府の檀長卿起ちて舞ひ、沐猴の狗と鬭ふまねす。坐皆大に笑ふ。寛饒說ばず、因て起ちて趍り出で劾奏すらく、(二)「長信少府、列卿を以て沐猴の舞をなす。失禮不敬なり」と。宣帝少府を罪せんと欲す。許伯爲に謝して(三)迺ち解く。寛饒字は次公、魏郡の人なり。經に明かに、孝廉を以て郎と爲る。方正に擧げられ、對策高第す。(四)人となり剛直高節にして、志公に奉ずるにあり。然れども深刻(五)にして喜んで人を陷れ害し、又好みて事を言て刺譏し、上の意を奸犯す。時に上方に刑法を用ひ、宦官を信任す。寛饒奏して曰く、「方今聖道寖く廢れ、儒術行はれず、(六)刑餘を以て周召と爲し、法律を以て詩書と爲す」と。又韓氏易傳を引きて言ふ、(七)「五帝は天下を官にし、三王は天下を家にす。家とは以て子に傳へ、官とは以て賢に傳ふるなり。四時の運るが若く、功成る者は去る」と。上其(八)怨謗を以て遂に吏に下す。自ら剄ぬ。

(一) 新館成りて、居を移したる也　(二) 彈劾上奏す、法禮に違背せることを一々指摘して訴ふる也　(三) 謝罪して

相之。又曰石也。王又以和爲詐。而刖其右足。文王卽位。和乃抱其璞。而哭於楚山之下。三日三夜。泣盡而繼之以血。王聞之。使人問其故。曰。天下之刖者多矣。子奚哭之悲。和曰。吾非悲刖也。悲夫寶玉而題之以石。貞士而名之以詐。此吾所以悲也。王乃使玉人理其璞。而得寶焉。遂命曰和氏之璧。

多し。子奚ぞ哭き悲むか」と。和曰く、「吾れ刖らるゝを悲むにあらず。夫の寶玉にして之に題するに石を以てし、(三)貞士(四)にして之に名づくるに詐を以てするを悲む。此れ吾が悲む所以なり」と。王乃ち玉人をして其璞を理めしめて、寶を得たり。遂に命じて『和氏の璧』と曰ふ。

(一) あらたま。玉の未だ磨かざるもの　(二) 玉を磨く人　(三) 之に石なりと銘を打つ　(四) 正直の人。自分を指していふ也

檀卿沐猴　謝尚鴝鵒

前漢平恩侯許伯入第。丞相御史。將軍

前漢の平恩侯許伯、第に入る。(一)丞相・御史・將軍・中二千石皆賀す。蓋寛饒、司隷校尉たりしが行かず。許伯之を請ひて迺ち往く。酒酣にして樂作る。長

有レ之。買レ金償。後告歸者至而歸レ金。亡レ金郎大慙。以レ此稱爲二長者一。稍遷二中大夫一。朝廷見。人或毀曰。不疑狀貌甚美。然善盗レ嫂。何也。不疑聞曰。我乃無レ兄。然終不二自明一。景帝末爲二御史大夫一。

何ぞや」と。不疑聞いて曰く、「我に乃ち兄なし」と。然れども終に自ら明かにせず。景帝の末御史大夫と爲る。

(一) 休暇を得て歸省すること (二) 史記「妄」に作り、下につゞけて「妄意」（ミダリニウタガフ）とす (三) 直不疑を稱してもとなしき君子といふ (四) 朝見にて、群臣朝廷に相會して天子にまみゆる時のことなり (五) 嫂と姦通せるはなんぞや

韓非子曰。楚人和氏。得二玉璞楚山中一。奉二獻厲王一。王使二玉人相一レ之。曰石也。王以レ和爲レ詐。而刖二其左足一。及二武王即位一。和又獻レ之。王使二玉人

韓非子に曰く、楚の人和氏、(一)玉璞を楚山の中に得、厲王に奉獻す。王、(二)玉人をして之を相せしむ。曰く、「石なり」と。王、和を以て詐れりと爲して、其左足を刖る。武王卽位するに及び、和又之を獻ず。王、玉人をして之を相せしむ。又曰く、「石なり」と。王又和を以て詐れりと爲して其右足を刖る。文王卽位するや、和乃ち其璞を抱きて楚山の下に哭すること三日三夜。泣盡きて之に繼ぐに血を以てす。王之を聞き、人をして其故を問はしめて曰く、「天下の刖らるゝ者

江水一上至二成都一。見二蜀王杜宇一。立以爲レ相。杜宇號二望帝一。自以德不レ如二鼈令一。以二其國一禪レ之。開明帝下至二五代一。有二開明尙一。始去二帝號一復稱レ王。

德、鼈令に如かずと。其國を以て之に禪る。(一)開明帝より下五代に至り、開明尙あり、始めて帝號を去りて復王と稱す。

(一) 鼈令望帝の讓を受けて開明帝と號せる也

前漢直不疑南陽人。爲レ郎事二文帝一。其同舍有二告歸一。誤持二其同舍郎金一去。已而同舍郎覺レ亡。意二不疑一。不疑謝レ

不疑誣金　卞和泣玉

前漢の直不疑は南陽の人なり。郎と爲り文帝に事ふ。其同舍に告歸する(一)ものあり、誤りて其同舍郎の金を持ちて去る。已にして同舍の郎亡(二)ひしを覺り、不疑を意ふ。不疑、之ありと謝し、金を買ひて償ふ。後告歸する者至りて金を歸す。金を亡ひし郎大に慙づ。此を以て稱(三)して長者と爲す。稍く中大夫に遷る。朝(四)廷の見に、人或は毀りて曰く、「不疑の狀貌甚だ美なり。然るに善く嫂(五)を盜むは

北史。魏聖武皇帝諱詰汾。嘗田二於山澤一。既見二輜軿自レ天而下一。既至。見二美婦人一。自稱二天女一。受レ命相偶。且日請レ還。期年周時。復會二于此一。言終而別。及レ期帝至二先田處一。果見二天女一。以二所レ生男一授レ帝曰。此君之子也。當三世爲二帝王一。語訖而去。卽始祖神元皇帝也。故時人。諺曰。詰汾皇帝無二婦家一。力微皇帝無二舅家一。力微神元諱。

北史にいふ、魏の聖武皇帝諱は詰汾、山澤に田し、輜軿(一)の天より下るを見る。既に至る。美婦人を見る。自ら天女と稱し、命を受けて相偶す。且日(三)還らんことを請ひ、期年(四)周時に復此に會せんと、言ひ終りて別る。期に及び帝先に田せし處に至れば、果して天女を見る。生む所の男を以て帝に授けて曰く、「此れ君の子なり。當に世〻帝王たるべし」と。語り訖りて去る。卽ち始祖神元皇帝なり。故に時人の諺に曰く、『詰汾皇帝は婦家なく、力微皇帝は舅家なし』と。力微は神元の諱なり。

(一)婦人乘用の車　(二)天帝の命を受けて夫婦となる　(三)明朝　(四)來年の今

蜀王本紀曰。荊人鼈令死。其屍流亡。隨二

蜀王本紀に曰く、荊の人鼈令死す。其屍流亡し、江水に隨ひ上りて成都に至り、蜀王杜宇に見ゆ。立てゝ以て相と爲す。杜宇は望帝と號す。自ら以らく、

章於朝。議者欲三以爲二侍御史一。因遁二逃梁沛閒一。賣二卜於市一。遭二黨人禁錮一。遂推二鹿車一載二妻子一。捃拾自資。或寓二息客廬一。或依二宿樹陰一。如レ此十餘年。乃結二草室一而居。有レ時絶レ粒。窮居自若。閭里歌レ之曰。甑中生レ塵。范史雲。釜中生レ魚范萊蕪。

を歌ひて曰く、『甑(一一)中に塵を生ず范史雲。釜中に魚を生ず范萊蕪』と。

(一) 當時の亂れし風俗と違ひて潔白を持し、世俗との交際を絶つ　(二) 人々に異り世にさからひたる行爲　(三) 縣の名　(四) 母の喪　(五) 性急。せつかち　(六) 性急を矯むるためなめし革を帶びて朝廷に出仕す　(七) 桓帝の時、黨を組みて政治をそしりし人々を禁錮せしこと　(八) 柴を積む小さき車　(九) 落穗を拾ふこと　(一〇) 食を絶つ　(一一) 久しく炊がざればこしきの中に塵が溜れり范史雲、久しく物を煮ざれば水くさりて釜中に魚生じたり范萊蕪

晏子春秋曰。晏嬰字平仲。爲二齊相一。常食二脫粟米一。不レ重レ味。

晏子春秋に曰く、晏嬰字は平仲、齊の相と爲り、常に脫粟米(一)を食し、味(二)を重ねず。

(一) 玄米。もみ殼を去りたるばかりの黑米　(二) 菜の物只一品のみ

詰汾興魏　鼈令王蜀

夏天爲レ之降レ霜。江淹書曰。昔者賤臣叩レ心。飛霜擊二於燕地一。庶女告レ天。振風襲二於齊堂一。

(一) 讒言す　(二) 大風が齊の廟堂を襲へり。見出しの語の出典を示す爲めに此一句を引く也

范冉生塵　晏嬰脫粟

後漢范冉字史雲。陳留外黃人。受レ業通レ經。好違レ時絶レ俗。爲二激詭之行一。常慕二梁伯鸞閔仲叔之爲一レ人。桓帝時爲二萊蕪長一。遭二母憂一。不レ到レ官。後辟二太尉府一。以二狷急一。常佩二

後漢の范冉字は史雲、陳留外黃の人なり。業を受けて經に通じ、好みて(一)時に違ひ俗を絶ち、(二)激詭の行を爲す。常に梁伯鸞・閔仲叔の人となりを慕ふ。桓帝の時(三)萊蕪の長となり、(四)母の憂に遭ひ、官に到らず。後太尉の府に辟さる。(五)狷急を以て、常に(六)韋を朝に佩ぶ。議者以て侍御史と爲さんと欲す。因つて梁沛の間に遁逃し、市に賣卜す。(七)黨人の禁錮に遭ひ、遂に(八)鹿車を推し妻子を載せ、(九)捃拾して自ら資す。或は客廬に寓息し、或は樹陰に依宿す。此の如きこと十餘年、乃ち草室を結びて居る。時に(一〇)粒を絶つことあり、窮居するも自若たり。閭里之

淮南子曰。庶女告レ天。雷電下撃。景公臺隕。支體傷折。海水大出。許愼曰。庶賤之女。齊之寡婦。無レ子不レ嫁。事レ姑謹敬。姑無レ男有レ女。女利ニ母財一。令ニ母嫁一レ婦。婦終不レ肯。女殺レ母以誣。婦不レ能ニ自明一。冤結告レ天。

淮南子に曰く、『庶女(一)天に告げ、雷電下り撃ち、景公臺より隕ち、支體傷折し、海水大に出づ』と。許愼曰く、『庶賤の女は、齊の寡婦なり。子なくして嫁せず。姑に事へて謹み敬ふ。(二)姑には男なくして女あり。女母の財を利せんとし、母をして婦を嫁せしめんとす。婦終に肯ぜず、女、母を殺し以て誣ふ。婦自ら明かにする能はず、冤結して天に告げたればなり』と。

(一)庶人の女　(二)母に一男一女あり。男は死して一女存す。此女は寡婦のあるため、母の財をほしいまゝにする能はず。母をして寡婦を再婚せしめんとしたるも遂げず。遂に自ら母を殺し、寡婦のしわざなりとせり。寡婦則ち無實を明かにする能はず、天に訴へて雷電を下し、海水を出でしめしなりと

燕鄒衍事ニ燕惠王一。左右譖レ之。被レ繫ニ於獄一。仰レ天而哭。盛

燕の鄒衍、燕の惠王に事ふ。左右之を譖す。(一)獄に繫がれ、天を仰ぎて哭す。盛夏に天之が爲に霜を降す。江淹の書に曰く、『昔者賤臣心を叩き、飛霜燕地を撃ち、庶女天に告げ、(二)振風齊堂を襲ふ』と。

前漢曹參沛人。從二高祖一有レ功。割レ符封二平陽侯一。高祖以二長子肥一爲二齊王一。以レ參爲二相國一。九年齊國安集。大稱二賢相一。蕭何薨。參聞レ之告二舍人一。趣治レ行。吾且二入相一。居無レ何。果召レ參。參代レ何爲レ相。擧レ事無レ所二變更一。一遵二何之約束一。參薨。百姓歌レ之曰。蕭何爲レ相。講若二畫一一。曹參代レ之。守而勿レ失。載二其清淨一。民以寧一。

前漢の曹參は沛の人なり。高祖に從ひ功あり。符を割き(一)平陽侯に封ぜらる。高祖長子肥を以て齊王と爲し、參を以て相國と爲す。九年齊國安集し(二)、大に賢相と稱す。蕭何薨ず。參之を聞き舍人に告ぐ、「趣に行を治めよ(三)。吾れ且に入りて相たらん」と。居ること何くもなく、果して參を召す。參、何に代り相と爲り、事を擧げて變更する所なく、一に何の約束に遵ふ。參薨ず。百姓之を歌ひて曰く、『蕭何相と爲り、講ぐこと(四)畫一の若し。曹參之に代り、守りて失ふことなし。其清淨(五)を載ひ、民以て寧一なり」と。

(一)わり符を割き封ずるの信と爲す也　(二)民安んじてなつき集ること　(三)旅行の支度を整へよ　(四)溫和にして整齊也　(五)嘗て學べる老子無爲の治を行ひ、爲めに民皆一樣に安らか也

庶女振風　鄒衍降霜

前漢于定國字曼倩。東海郯人。其父于公。爲縣獄史。郡決曹。決獄平。罹文法者。于公所決。皆不恨。郡中爲之生立祠。始其閭門壞。父老方共治之。于公謂曰。少高大閭門。令容駟馬高蓋車。我治獄多陰德。未嘗有所冤。子孫必有興者。至定國。宣帝時爲丞相。封西平侯。子永爲御史大夫。封侯傳世云。

于公高門　曹參趣裝

前漢の于定國字は曼倩、東海郯の人なり。其父于公、縣の獄吏、郡の決曹(一)と爲り、獄を決すること平なり。(二)文法に罹る者も、于公の決する所は、皆恨まず。郡中之が爲に生ながらにして祠を立つ。始め其閭門壞るゝや、父老方に共に之を治めんとす。于公謂て曰く、「少しく閭門を高大にし、駟馬高蓋の車を容れしめよ。我れ獄を治めて陰德多し。未だ嘗て冤する所あらず。子孫必ず興る者あらん」と。定國に至り、宣帝の時丞相と爲り、西平侯に封ぜらる。子の永、御史大夫と爲り、侯に封ぜられて世に傳ふと云ふ。

(一) 罪をたゞし、刑罰を行ふ官　(二) 文も亦法也

遷二司空一。爲レ政清簡。甚得二朝野聲譽一。惠帝爲二太子一。朝臣咸謂。純質不レ能レ親二政事一。瓘每欲二陳啓廢一レ之。而未二敢發一。後會レ宴二陵雲臺一。瓘託レ醉。因跪二帝床前一曰。臣欲レ有レ所レ啓。言而止者三。因以レ手撫レ床曰。此座可レ惜。帝悟因謬曰。公眞大醉邪。瓘不二復有一レ言。賈后由レ是怨レ之。後告レ老。進二位大保一就レ第。惠帝立。以レ瓘錄二尚書事一。賈后素怨レ瓘。且忌二其方直一。不レ得レ騁二已淫虐一。啓レ帝作レ詔。免二瓘官一。遂被レ害。

謂ふ、『純質(一)政事を親らする能はざらん』と。瓘、每に陳啓して之を廢せんと欲し、而も未だ敢て發せず。後陵雲臺に宴するに會ふ。瓘、醉に託し、因て帝の床前に跪きて曰く、「臣、啓す所あらんと欲す」と。言はんと欲して止むこと三たび。因て手を以て床を撫でゝ曰く、「此座惜むべし」(二)と。帝悟る。因て謬りて曰く、「公眞に大に醉へるか」と。瓘復言ふことあらず。賈后是に由り之を怨む。後老(三)を告ぐ。位を太保に進めて第に就かしむ。惠帝立ち、瓘を以て尚書の事を錄せしむ。賈后素より瓘を怨む。且つ其方直にして己が淫虐(四)を騁するを忌み、帝に啓して詔を作り、瓘の官を免ず。遂に害せらる。

(一) 純質は性質なり。性質愚にして親ら政を爲す能はざるべしとなり (二) 申さんと欲すれどさすがに申上げにくく、申さずして此座を立つは誠に殘り惜しとの意にや (三) 老衰の故に辭職せんことを請ふ (四) 恣にする

將。上幸二上林一。皇后愼夫人從。其在二禁中一。常同レ坐。及レ坐二郎署一。盎引二卻夫人坐一。夫人怒不二肯坐一。上亦怒起。盎因前説曰。臣聞尊卑有レ序。則上下和。今陛下既已立レ后。夫人迺妾。主豈可レ同レ坐哉。且陛下幸レ之則厚賜レ之。陛下所三以爲二愼夫人一。適所二以禍一レ之也。獨不レ見二人豕一乎。上迺説。入語二愼夫人一。夫人賜二盎金五十斤一。然亦以二數諫一不レ得二久居一レ中。

び、盎、夫人の坐を引き卻く。夫人怒りて肯て坐せず。上亦怒りて起つ。盎因て前み説きて曰く、「臣聞く、尊卑序あれば、則ち上下和すと。今陛下既に已に后を立つ。夫人は迺ち妾なり。主豈に坐を同うすべけんや。且つ陛下之に幸(二)せば則ち厚く之に賜へ。陛下の愼夫人の爲にする所以は、適に之を禍する所以なり。獨り人豕(三)を見ずや」と。上迺ち説び、入て愼夫人に語る。夫人盎に金五十斤を賜ふ。然れども亦數〻諫むるを以て、久しく中(四)に居ることを得ず。

(一) 天子の御園　(二) 愛幸し給はゞ　(三) 漢の高祖の死するや、呂后は高祖の愛したる戚夫人に對する今迄の腹いせに、之を捕へて不具者となし、厠に入れて人のゐのこと呼びし故事　(四) 宮中に仕へ得ず、外官となる

晉書。衞瓘字伯玉。河東安邑人。武帝時。

晉書にいふ、衞瓘字は伯玉、河東安邑の人なり。武帝の時、司空に遷る。政を爲すこと淸簡なれば、甚だ朝野の聲譽を得たり。惠帝の太子たるとき、朝臣咸

守ㇾ職。幸得ㇾ免ㇾ戾。今所ㇾ説人。非ニ選次一。是以不ニ敢奉ㇾ命。請謁不ㇾ行。時人憚ㇾ之。初太祖平ニ柳城一。班ニ所ㇾ獲器物一。特以ニ素屏風素馮几一賜ㇾ玠曰。君有ニ古人之風一。故賜ニ君古人之服一。玠居ニ顯位一。常布衣蔬食。賞賜以振ニ施貧族一。魏國初建。爲ニ僕射一。復典ニ選擧一。時太子未ㇾ定。而臨菑侯植有ㇾ寵。玠密諫曰。近者袁紹以ニ嫡庶一不ㇾ分。覆ㇾ宗滅ㇾ國。廢立大事。非ㇾ所ㇾ宜ㇾ聞。後太祖目指曰。此古所ㇾ謂國之司直。我之周昌也。

しく聞すべき所にあらず」と。後太祖目指して曰く、「此れ所謂國の司直にして、我が周昌なり」と。

(一)曹操　(二)役人を選び擧ぐ　(三)祿をいふ　(四)車輿衣服　(五)親戚眷族を顧むとなり　(六)罪也　(七)今依頼されし人々は皆役に用ふべき資格なき人々なれば、お斷り致すとなり　(八)素は白なり。白の屏風と白の脇息　(九)臣下より以聞すべきにあらず　(一〇)目くばせして玠を指し其意を知らせていふ也　(一一)君の爲に直き道を司どる人なりとの意　(一二)漢の高祖の臣にして、君を諫めて惠帝を立て、戚夫人の子如意を廢せしめし人なり

袁盎卻坐　衞瓘撫牀

前漢袁盎字絲。安陵人。孝文時爲ニ中郎

前漢の袁盎字は絲、安陵の人なり。孝文の時に中郎將と爲る。上上林に幸し、皇后愼夫人從ふ。其の禁中に在るや、常に坐を同うす。郎署に坐するに及

爲レ相。玠嘗爲二東曹掾一。與二崔琰一並典二選擧一。其擧用皆清正士。雖レ有二盛名一。而行不レ由レ本者。終莫レ得レ進。務以レ儉率レ人。由レ是士以二廉節一自勵。雖二貴寵之臣一。輿服不二敢過一レ度。太祖歎曰。用レ人如レ此。使二天下人自治一。吾復何爲哉。文帝爲二五官將一。親自詣レ玠。屬レ所二親眷一。玠答曰。老臣以二能

正の士なり。盛名ありと雖も、而も行の本(三)に由らざる者は、終に進むことを得るなし。務めて儉を以て人を率ゐる。是に由りて士は廉節を以て自ら勵み、貴寵の臣と雖も、輿服(四)敢て度に過ぎず。太祖歎じて曰く、「人を用ふること此の如くんば、天下の人をして自ら治めしめん。吾れ復何をか爲さんや」と。文帝五官將たりしとき、親自ら玠に詣り、(五)親眷する所を屬す。玠答へて曰く、「老臣能く職を守るを以て、幸に戻(六)を免るゝことを得たり。(七)今說く所の人は、遷次にあらず。是を以て敢て命を奉ぜじ」と。請謁すれども行はれず。時人之を憚る。初め太祖柳城を平げ、獲る所の器物を班つに、特に素屛風・素馮几を以て玠に賜ひて曰く、「君古人の風あり。故に君に古人の服を賜(八)ふ」と。玠顯位に居り、常に布衣蔬食、賞賜は以て貧族に振施す。魏國初めて建つや、僕射と爲り、復選擧を典る。時に太子未だ定まらず、而して臨菑侯植、寵あり。玠密に諫めて曰く、「近者袁紹は嫡庶分たざりしを以て、宗を覆し國を滅せり。廢立は大事なり。宜

才。官至二右僕射一。贈二司徒一。初濤布衣家貧。謂二妻韓氏一曰。忍二飢寒一。我後當レ作二三公一。但不レ知下卿堪レ作二夫人一不上耳。及レ居二榮貴一。貞愼儉約。裴楷有二知レ人鑒一。嘗謂レ濤。若二登レ山臨レ下。幽然深遠。王戎亦目レ濤如二璞玉渾金一。人皆欽二其寶一。莫レ知レ名二其器一。梁任昉爲下范雲讓二尙書吏部一表上云。在レ魏則毛玠公方。居レ晉則山濤識量。以レ臣況レ之一何遼落。

り。嘗て濤を謂て、『山に登り下に臨むが若し。幽然として深遠なり』と。王戎も亦濤を目して『璞玉渾金(六)の如し。人皆其寶たるを欽び、其器に名づくることを知るなし』と。梁の任昉、范雲が尙書吏部を讓る表を爲りて云ふ、『魏に在ては則ち毛玠の公方(七)、晉に居ては則ち山濤の識量、臣を以て之に況ふれば一に何ぞ遼落(八)なる』と。

(一) 分辨ある貌、卽ち物を辨別し妄に人と交り雜せずと也 (二) 上計は地方の會計を京都に出頭報告する役、掾は其屬吏 (三) 役人を選び擧ぐる役 (四) 內官外官、卽ち中央にも地方にもあまねく多く何れも其役に相當の人才を得たり (五) 榮えて貴き身分、卽ち右僕射(我が右大臣といへる類)と成りし時をいふ (六) あら玉、吹き分けぬ金 (七) 公正方直 (八) はるかに下る

魏志。毛玠字孝先。陳留平丘人。魏太祖

魏志にいふ、毛玠字は孝先、陳留平丘の人なり。魏の太祖の相たりしとき、(一)玠嘗て東曹の掾と爲り、崔琰と竝に選擧を(二)典る。其擧げ用ふるところは皆清

擢二太子舍人一。歴二太常卿一。虞性愛レ士。人有二表薦者一。常爲二其辭一。東平太叔廣樞機清辯。廣談虞不レ能レ對。虞筆廣不レ能レ答。更相嗤笑。紛二然於世一云。

笑し、世に紛然たりと云ふ。(四)

㊀ 文章に書きて天子に奏する事あれば、其人に代りて文を書きて遣ると也　㊁ 言清辯にてよく其要を得　㊂ あざけり笑ふ　㊃ 世人或はほめ或は笑ひてやかましと也

山濤識量　毛玠公方

晉書。山濤字巨源。河內懷人。少有二器量一。介然不レ羣。年四十始爲二郡上計掾一。擧二孝廉一。武帝時遷二吏部尚書一。前後選擧。周二徧內外一。竝得二其

晉書にいふ、山濤字は巨源、河內懷の人なり。少にして器量あり。(一)介然として羣せず。年四十にして始めて郡の上計の掾と爲り、(二)孝廉に擧げられ、武帝の時吏部尚書に遷り、(三)前後の選擧に、內外に周徧し、(四)竝に其才を得たり。官は右僕射に至り、司徒を贈らる。初め濤布衣にして家貧し。妻の韓氏に謂て曰く、「飢寒を忍べ。我は後當に三公と作るべし。但だ卿が夫人と作るに堪へんや否やを知らざるのみ」と。(五)榮貴に居るに及び、貞愼儉約なり。裴楷、人を知るの鑒あ

擲レ地。當レ作ニ金石聲一。榮期曰。恐此金石非レ中ニ宮商一。然毎レ至ニ佳句一。輒云。應ニ是我輩語一。除ニ著作郎一。後轉ニ延尉卿一。綽少以ニ文才一稱。于ニ時文士一。綽爲ニ其冠一。溫王郗庾諸公薨。必須ニ綽爲ニ碑文一。然後刊レ石焉。

㊀三都は晉の左思の作にして文選第四にあり、魏都・吳都・蜀都の賦をいふ。二京は後漢の張衡の作にして文選第二にあり、東京、西京の賦をいふ ㊁此等の賦を讀めば五經を讀むたすけになると也。鼓吹は笛太鼓の類を以て拍子を取りて舞樂を奏するに喩へし也 ㊂五音卽ち宮・商・角・徵・羽の正しき調子には合はじと也 ㊃これは貴樣には出來すぎた、我輩の語にふさはしと戲れに自ら矜るならん

晉書。摯虞字仲洽。京兆長安人。才學通博。著述不レ倦。擧ニ賢良一。策爲ニ下第一。拜ニ中郎一。武帝詔會ニ東堂一策問。對畢

大叔辯給　摯仲辭翰

晉書にいふ、摯虞字は仲洽、京兆長安の人なり。才學通博にして、著述して倦まず。賢良に擧げられ、策は下第たり。中郎に拜せらる。武帝詔して東堂に會して策問す。對へ畢りて太子舍人に擢でられ、太常卿を歷たり。虞は性士を愛し、人の表薦(一)する者あれば、常に其辭を爲る。東平の太叔廣は樞機(二)清辯なり。廣の談には虞も對ふる能はず、虞の筆には廣も答ふる能はず。更に相嗤(三)

加ニ散騎常侍一。固辭。改拜ニ太常一。朝廷疑滯皆諮レ之。循輒依ニ經禮一而對。爲ニ世儒宗一。

㈠節操を守ること高く嚴なりとの意　㈡七八歳の童の頃より俗童と交はらずとなり　㈢東晉の第一代元帝の年號　㈣疑はしく滯りある事　㈤儒者の一番の大家

晉書。孫綽字興公。馮翊太守楚之子。博學善屬レ文。居ニ會稽一。遊ニ放山水一十餘年。絶重ニ張衡左思賦一。每云。三都二京。五レ經之鼓吹也。嘗作ニ天台山賦一。辭致甚工。初成。以示ニ友人范榮期一云。卿試

晉書にいふ、孫綽字は興公、馮翊の太守楚の子なり。博學にして善く文を屬す。會稽に居り、山水に遊放すること十餘年、絶だ張衡・左思の賦を重んず。每に云ふ、「三都(一)二京(二)は五經の鼓吹なり」と。嘗て天台山の賦を作る、辭致甚だ工なり。初め成りしとき、以て友人范榮期に示して云ふ、「卿試に地に擲て、當に金石の聲を作すべし」と。榮期曰く、「恐らくは此の金石、宮商(三)に中るに非じ」と。然れども佳句に至る每に、輒ち云ふ、「應(四)に是れ我が輩の語なるべし」と。著作郎に除せられ、後廷尉卿に轉ず。綽、少きより文才を以て稱せらる。時の文士に于ては、綽其冠たり。溫・王・郗・庾諸公の薨ずるや、必ず綽が碑文を爲るを須ち、然る後に石に刋す。

己目。劭鄙二其人一曰。君清平之姦賊。亂世之英雄。操大悦而去。初劭與二從兄靖一。俱有二高名一。好共覈二論郷黨人物一。毎レ月輒更二其品題一。故汝南俗有二月旦評一焉。擧二方正敦樸一。不レ就。兄虔亦知レ名。汝南稱。平輿淵有二二龍一焉。

しかども、就かず。兄の虔亦名を知らる。汝南にて『平輿の淵に二龍あり』と稱せり。

㊀人を其類したる人物に比して評論すること ㊁一に郭泰に作る ㊂賢士を拔擢す ㊃自己の人物の評價を請ふ也 ㊄確實に評論す ㊅毎月朔日の人物評。月旦（しなさだめ）の語こゝに出づ ㊆試驗の科目の名

晉書。賀循字彥先。會稽山陰人。操尙高厲。童齓不羣。言行進止必以二禮讓一。建武初。爲二中書令一。

賀循儒宗　孫綽才冠

晉書にいふ、賀循字は彥先、會稽山陰の人なり。㈠操尙高厲、㈡童齓より不羣なり。言行進止、必ず禮讓を以てす。㈢建武の初め、中書令と爲し、散騎常侍を加へられしも、固辭し、改めて太常に拜せらる。朝廷の㈣疑滯皆之を諮る。循輒ち經禮に依て對ふ。世の㈤儒宗たり。

討諸軍事一。選二大尉一。衆共推爲二元帥一。擧レ軍爲レ勒所レ破。衍欲レ求二自免一。勸レ勒稱二尊號一。勒怒曰。君名蓋二四海一。身居二重任一。少壯登レ朝。至二於白首一。何得レ言レ不レ豫二世事一邪。使三人夜排レ墻塡二殺之一。王戎謂二王衍一。神姿高徹。如二瑤林瓊樹一。自然是風塵表物。王敦曰。夷甫處二衆中一。如三珠玉在二瓦石間一。顧愷之作二畫贊一。亦稱レ衍。巖巖清峙。壁立千仞。其爲レ人所レ尚如レ此。

ぬ事あれば、そばから言ひ直して條理の立つやうにせりと也、即ち辯口の巧なる喩也　(五)　龍門は地名也、水急にして魚之をのぼる能はず、一たびのぼれば龍となるといはれし所。後漢の李膺高德にして人に慕はれ、士の其人に面接せらるゝ者あれば皆羨みて龍門に登るといへり。今其故事により王衍を以て現代の龍門と爲すと也　(六)　帝王と稱すること　(七)　壓殺　(八)　瑤も瓊も玉なり、其美しきにたとふ　(九)　世俗を拔ける物

後漢許劭字子將。汝南平輿人。少峻二名節一。好二人倫一。多レ所二賞識一。時郭太亦知レ人。故天下言二拔レ士者一稱二許郭一。曹操微時。常卑レ辭厚レ禮。求レ爲二

後漢の許劭字は子將、汝南平輿の人なり。少にして名節を峻くし、(二)人倫を好み、賞識する所多し。時に(三)郭太亦人を知る。故に天下士を拔く者を言へば許郭と稱す。曹操微なりし時、常て辭を卑うし禮を厚うし、己が目を爲さんことを(四)求む。劭其人を鄙みて曰く、「君は淸平の姦賊、亂世の英雄なり」と。操大に悅びて去る。初め劭從兄の靖と、倶に高名あり。好みて共に鄕黨の人物を覈論し、(五)月每に輒ち其品題を更む。故に汝南の俗に月旦評あり。(六)方正敦樸に擧げられ(七)

耳。補元城令。終日淸談。縣務亦理。衍有盛才美貌。明悟若神。常自比子貢。聲名藉甚。喜空言。惟談老莊爲事。每捉玉柄麈尾。與手同色。義理有所不安。隨即改更。世號口中雌黄。朝野翕然謂之一世龍門。累居顯職。後進景慕。歷尚書令。及石勒寇京師。以衍都督征

後進景慕す。尚書令を歴、石勒の京師に寇するに及び、衍を以て征討諸軍の事を都督せしめ、大尉に遷し、衆共に推して元帥と爲す。軍を擧げて勒に破らる。衍自ら免れんことを求めんと欲し、勒に勸め尊號(六)を稱せしむ。勒怒りて曰く、「君の名四海を蓋ふ。身重任に居り、少壯より朝に登り、白首に至る。何ぞ世事に豫らずと言ふを得んや」と。人をして夜墻を排し之れを塡殺(七)せしむ。王戎、王衍を謂ふ、「神姿高徹にして、(八)瑤林瓊樹の如し。自然に是れ風塵(九)の表物なり」と。王敦曰く、「夷甫の衆中に處る、珠玉の瓦石の間に在るが如し」と。顧愷之畫贊を作り、亦衍を稱し、『巖巖として淸峙し、壁立千仞』と。其の人に尚ばるゝこと此の如し。

(一) 竹林七賢の一人 (二) なんとまあ彼の老女が斯んな兒を生みたるか。されど天下の萬民をあやまる者は此人に相違あるまじとなり。寧馨兒とは此の如き兒といふ意の晉人の方言。之を出典として英才の兒を寧馨兒といふ (三) 玉を柄にちりばめたる拂子(ホツス)を手にせるが、其手純白にて玉柄の拂子と其色同じかりしと也 (四) 雌黄は鑛物の名にして、文字の寫し誤りをぬり消すに用ふ。口中に雌黄ありとは、講說を爲すに、言ひあやまつて義理に合は

圖畫而頌之。

晉書。王衍字夷甫。神情明秀。風姿詳雅。嘗造山濤。既去。濤目送之曰。何物老嫗生寧馨兒。然誤天下蒼生者。未必非此人。武帝聞其名。問其從兄戎曰。夷甫當世誰比。戎曰未見其比。當從古人中求。

王衍風鑒　許劭月旦

晉書にいふ、王衍字は夷甫。神情明秀にして、風姿詳雅なり。嘗て山濤（一）に造り、既に去る。濤、之を目送して曰く、「何物（二）の老嫗ぞ、寧馨兒を生む。然も天下の蒼生を誤る者は、未だ必ずしも此人にあらずんばあらず」と。武帝其名を聞き、其從兄の戎に問ひて曰く、「夷甫は當世誰が比ぞ」と。戎曰く、「未だ其比を見ず。當に古人の中より求むべきのみ」と。元城の令に補す。終日清談し、縣務も亦理まる。衍盛才美貌あり、明悟神の若し。常に自ら子貢に比す。聲名籍甚たり。空言を喜び、惟だ老莊を談ずるを事と爲す。毎に玉柄（三）の麈尾を捉り、手と色を同じうす。義理に安んぜざる所あれば、隨て即ち改更す。世に『口中（四）の雌黄』と號し、朝野翕然として之を『一世（五）の龍門』と謂ふ。累りに顯職に居り、

常以遠斥候爲務。行必爲戰備。止必堅營壁。尤能持重。愛士卒。先計而後戰。遂至西部都尉府。日饗軍士。士皆欲爲用。虜數挑戰。充國堅守。捕得生口言。羌豪相責曰。語汝亡反。今天子遣趙將軍來。年八九十矣。善爲兵。今請欲一鬪而死可得邪。充國引兵至先零。虜棄車重。赴水溺死者數百。降斬五百餘。後罕幵不煩兵而下。遂上屯田便宜十二事。上聽其計。後罷屯兵。振旅而還。乞骸骨。賜安車駟馬黃金。罷就第。每有四夷大議。常與參兵謀。問籌策。薨諡壯侯。初充國以功德。與霍光等列畫未央宮。成帝時。西羌有警。上思將帥之臣。追美充國。迺召黃門郎揚雄。卽

を煩さずして下る。遂に(六)屯田の便宜十二事を上る。上其計を聽す。後屯兵を罷め、振旅(七)して還り、骸骨(八)を乞ふ。安車駟馬黃金を賜ひ、罷めて第(九)に就かしむ。四夷の大議ある每に、常に兵謀に與參し、籌策を問ふ。薨じて壯侯と諡す。初め充國功德を以て霍光等と未央宮に列畫せらる。成帝の時、西羌警(一〇)むることあり。上將帥の臣を思ひ、充國を追美して、迺ち黃門郎の揚雄を召し、圖畫(一一)に卽きて之を頌せしむ。

(一) 宣帝の年號。羌はえびす、西戎の名也。多くの部落に分るゝ故に諸といふ (二) 趙充國の自稱 (三) 遠く敵地に斥候を出して其情を察し之を取るをいふ (四) とりこ、捕虜 (五) 酋長ども相警戒す (六) 屯田兵の便宜なること十二條。屯田兵とは戰時には兵となり、平時には其地に屯して農耕に從事する兵をいふ (七) 兵を收めてかへること (八) 老の故を以て仕を辭せんと願ふこと (九) 大きな屋敷を賜ひて之に居らしむと也 (一〇) 兵亂の事あり

(一一) 畫像の側に頌德の文を書き添へしむ

字翁孫。隴西上邽人。善騎射。補羽林。爲人沈勇有大略。少好將帥之節。而學兵法。通知四夷事。宣帝時爲後將軍。封營平侯。神爵初諸羌背叛犯塞。時充國年七十餘。上老之。使御史大夫丙吉問誰可將者。充國對曰。亡踰於老臣者。臣願馳至金城。圖上方略。充國

となり沈勇にして大略あり。少にして將帥の節を好みて、兵法を學び、四夷の事を通じ知る。宣帝の時後將軍と爲り、營平侯に封ぜらる。（一）神爵の初め諸羌背叛して塞を犯す。時に充國年七十餘なり。上之を老とし、御史大夫丙吉をして誰か將たるべき者ぞと問はしむ。充國對へて曰く、「（二）老臣に踰ゆる者なし。臣願くは馳せて金城に至り、圖して方略を上らん」と。充國常に（三）斥候を遠するを以て務と爲す。行けば必ず戰備を爲し、止れば必ず營壁を堅くし、尤も能く持重し、士卒を愛し、計を先にし、戰を後にす。遂に西部都尉の府に至り、日に軍士を饗す。士皆用を爲さんと欲す。虜數〻戰を挑めども、充國堅く守る。捕へ得たる（四）生口言ふ、『（五）羌豪相責めて曰く、汝に語ぐ、反することなかれ。今天子趙將軍を遣し來らしむ。年八九十なり。善く兵を爲む。今一たび鬬ひて死なんと欲すと請へども得べけんやと。』充國兵を引きて先零に至る。虜、車重を弃て、水に赴きて溺死する者數百、降りて斬らるゝもの五百餘なり。後罕幵兵

前漢枚皐字少孺。至二長安一。上二書北闕一。自陳二枚乘之子一。始乘死。詔問二乘子一。無二能爲レ文者一。乘在レ梁時。取二皐母一爲二小妻一。及二東歸一。皐母不二肯隨一。留與レ母居。上得大喜。召入見待レ詔。因レ賦二殿中一。詔使レ賦二平樂館一。善レ之。拜爲レ郎。使二匈奴一。皐不レ通二經術一。詼笑類二俳倡一。爲二賦頌一。好二嫚戲一。以レ故得二媟黷貴幸一。比二東方朔郭舍人等一。

前漢の枚皐字は少孺。長安に至り、北闕(一)に上書し、自ら枚乘の子なりと陳ぶ。始め乘の死せしとき、詔して乘の子を問ふ。能く文を爲る者なし。乘、梁に在りし時、皐の母を取りて小妻(二)と爲し、東に歸るに及び、皐の母肯て隨はず。(三)留めて母と居らしむ。上得て大に喜び、召し入れて見て詔を待たしむ。殿中を賦するに因りて、詔して平樂館を賦せしむ。之を善しとし、拜して郎と爲し、匈奴に使せしむ。皐、經術(四)に通ぜず、詼笑(五)俳倡に類す。賦頌を爲るにも、嫚戲を好む。故を以て媟黷(六)の貴幸を得ること、東方朔・郭舍人等に比す。

(一)未央殿正面の門内　(二)妾　(三)皐を母の許に留まらしむ　(四)聖人經典の學術　(五)たはむれ笑ふこと、恰もわざをぎ卽ち藝人の如しとなり　(六)なれけがすこと。則ち上になれ近づいて思はぬ寵幸を受けたりとなり

前漢趙充國

前漢の趙充國字は翁孫、隴西上邽の人なり。騎射を善くし、羽林に補す。人

鄉曲之譽ー。年四十餘。始參ニ鎭東軍事ー。終ニ馮翊太守ー。初楚少時欲ニ隱居ー。謂ニ王濟ー曰。當レ欲ニ枕レ石漱ヒ流。誤云ニ漱レ石枕ヒ流。濟曰。流非レ可レ枕。石非レ可レ漱。楚曰。所ニ以枕ヒ流。欲レ洗ニ其耳ー。所ニ以漱ヒ石。欲レ厲ニ其齒ー。

し流に漱がんと欲すといふべきを、誤つて石に漱ぎ流に枕せんと云ふ。濟曰く、「流は枕とすべきにあらず。石は漱ぐべきにあらず」と。楚曰く、「流に枕する所以は、其耳を洗はんと欲するなり。石に漱ぐ所以は、其齒を厲かんと欲するなり」と。

㈠たかぶりて人を見下すこと　㈡鄉里の評判よろしからず　㈢世を遁れ山水を樂しみて心を清くする意

世說。郝隆。七月七日。出ニ日中ー仰臥。人問ニ其故ー。曰。我曬ニ腹中書ー也。

世說にいふ、郝隆、(一)七月七日、日中に出でて仰臥す。人其故を問ふ。曰く、「我は(二)腹中の書を曬すなり」と。

㈠此日虫干の風習ありし事、前にも見ゆ　㈡書は皆自分の腹中にある故、腹を日にさらすと也

枚皐詣闕　充國自贊

臣不肯。置之左右。厠之謀議之官。安得不與臣議。臣所言非私。乃社稷之慮也。帝不答。起入內。毗隨而引其裾。帝遂奮衣不還。良久乃出曰。卿持我何太急邪。毗曰今徙旣失民心。又無以食。帝遂徙其半。嘗從帝射雉。帝曰。射雉樂哉。毗曰。於陛下甚樂。羣下甚苦。帝默然。後遂乃爲之稀出。終衛尉。

徙す。嘗て帝の雉を射るに從ふ。帝曰く「雉を射るは樂しいかな」と。毗曰く、「陛下に於ては甚だ樂しからんも、羣下は甚だ苦む」と。帝默然たり。後遂に乃ち之が爲に出づること稀なり。衛尉に終る。

㊀ 魏、新に漢の後に起り、帝都戸數少なき故、冀州より移し滿して賑かにせんとせし也　㊁ 稻の害虫　㊂ おそろしい權幕をする　㊃ 厠はさし加へる意、侍中は拾遺補闕の官なれば斯くいふ　㊄ 國家に關する問題　㊅ 冀州の十萬戸を河南に移さば

孫楚漱石　郝隆曬書

晉書。孫楚字子荊。太原中都人。才藻卓絕。爽邁不羣。多所陵傲。缺

晉書にいふ、孫楚字は子荊、太原中都の人なり。才藻卓絕、爽邁不羣、〔一〕陵傲する所多く、〔二〕鄉曲の譽を缺く。年四十餘にして、始めて鎭東軍事に參し、馮翊の太守に終る。初め楚の少き時、隱居せんと欲し、王濟に謂て曰く、當に〔三〕石を枕と

鴻門。亞父范增。令項莊拔劍舞欲擊帝。項伯常屛蔽之。噲聞事急。持盾直入。怒甚。羽壯之。賜以卮酒彘肩。噲飮酒拔劍。切肉食之曰。臣死且不辭。豈特卮酒乎。帝如厠。麾噲出。獨騎馬。噲等步從山下走。歸霸上軍。是日微噲幾殆。

魏志。辛毗字佐治。潁川陽翟人。文帝踐阼。遷侍中。帝欲徙冀州士家十萬戶實河南。時連蝗民饑。羣司以爲不可。而帝意甚盛。毗與朝臣倶求見。帝知其欲諫。作色以見之。皆莫敢言。毗曰。陛下不以

魏志にいふ、辛毗字は佐治、潁川陽翟の人なり。文帝阼を踐むや、侍中に遷る。帝、冀州の士家十萬戶を徙し、(一)河南に實さんと欲す。時に連に(二)蝗ありて民饑う。羣司以て不可となす。而も帝の意甚だ盛なり。毗、朝臣と倶に見えんことを求む。帝其諫めんと欲するを知り、(三)色を作して以て之を見る。皆敢て言ふ莫し。毗曰く、「陛下臣が不肖を以てせず、之を左右に置き、之を謀議(四)の官に厠ふ。安ぞ臣と議せざるを得ん。臣の言ふ所は私に非ず。乃ち社稷(五)の慮なり」と。帝答へず、起て内に入らんとす。毗隨ひて其裾を引く。帝遂に衣を奮つて還らず。良や久うして乃ち出でゝ曰く、「卿我を持すること何ぞ太だ急なりや」と。毗曰く、「今徙さば(六)已に民心を失はん。又以て食はるゝことなけん」と。帝遂に其半を

日。噲乃排レ闥直入。大臣隨レ之。上獨枕二一宦者一臥。噲等流レ涕曰。始陛下與二臣等一。起二豐沛一定二天下一。何其壯也。今天下已定。又何憊也。且陛下病甚。不下見二臣等一計上レ事。顧獨與二一宦者一絕乎。且獨不レ見二趙高之事一乎。帝笑而起。初帝已定二關中一。項王至。怒欲レ攻レ之。帝從二百餘騎一見二羽

るや。且つ陛下病甚しきに、臣等を見て事を計らずして、顧つて獨り一宦者と溘(三)なんか。且つ獨り(四)趙高の事を見ざるか」と。帝笑つて起つ。初め帝の已に關中を定めしとき、項王至り、怒つて之を攻めんと欲す。帝百餘騎を從へ、羽を鴻門に見る。(五)亞父范增、項莊をして劍を拔き舞はしめ、帝を擊たんと欲す。項伯常に之を屛蔽(六)す。噲、事の急なるを聞き、盾を持ち直に入り、怒ること甚し。羽之を壯なりとし、賜ふに(七)卮酒彘肩を以てす。噲酒を飲み劍を拔き、肉を切り之を食して曰く、「臣、死すら且つ辭せず。豈に特に卮酒のみならんや」と。帝、廁に如き、噲を麾きて出で、獨り馬に騎る。噲等歩して山下より走り、(八)霸上の軍に歸る。是の日噲微りせば幾ど殆し。

(一) 禁中の戸を番する者　(二) 禁中の小門　(三) 死也　(四) 秦の始皇の死する時に侍せし宦官の名、秦を亡ぼすの因をなせる者也　(五) 項羽范增を尊ぶこと父に亞(ツ)ぐ、故に此稱ある也　(六) かばふこと　(七) 卮はさかづき。彘肩はゐのこの肩の肉　(八) 長安の東にありし高祖の本營

以爲二太尉一。時拜二三公一者。皆輸二東園禮錢千萬一。令二中使督一レ之。名爲二左騶一。其所二之往一。輒迎致二禮敬一。厚加二贈賂一。續乃坐二使於單席一。擧二縕袍一示レ之曰。臣所レ資唯斯而已。以レ此故不レ登二公位一。

騶之し、東力の園圃中に役所を設け、官を得るものは之に禮金を上納せしめし也 (五) 東園は禁裡の左方に在り、其所より騶（騎馬）して行くの義にて斯く稱せし也 (六) 三公の (七) 一枚のむしろ (八) ふるぬのこ

前漢樊噲沛人。以レ屠レ狗爲レ事。從二高祖一定二天下一。以レ功封二舞陽侯一。帝嘗病。惡レ見レ人。臥二禁中一。詔二戶者一。無レ得レ入二羣臣一。羣臣絳灌等莫二敢入一十餘

樊噲排闥　辛毘引裾

前漢の樊噲は沛の人なり。狗を屠るを以て事と爲す。高祖に從ひ天下を定め、功を以て舞陽侯に封ぜらる。帝嘗て病み、人を見るを惡み、禁中に臥し、戶(一)者に詔すらく、「羣臣を入るゝことを得るなかれ」と。羣臣絳・灌等敢て入る莫きこと十餘日なり。噲乃ち闥を排し直に入り、大臣之に隨ふ。上獨り一宦者を枕にして臥せり。噲等涕(二)を流して曰く、「始め陛下臣等と與に、豐沛より起りて天下を定めんとす、何ぞ其れ壯なるや。今天下已に定まる、又何ぞ憊れた

生二一犢一。及レ去留二其犢一。謂二主簿一曰。令來時本無二此犢一。犢是淮南所レ生。時人皆以爲レ激。然由レ是名聞二天下一。後遷二中郎將一。

あめ色の牝牛に引かせ ㈣ 皺衣を藏めたる布の囊を携へしのみ ㈤ 令の下役 ㈥ 壽春の令即ち自稱 ㈦ 壽春は淮南郡に屬すれば斯くいふ ㈧ 殊更に激して潔白の辭を爲すの意か

後漢羊續字興祖。太山平陽人。爲二南陽太守一。班二宣政令一。候二民病利一。百姓歎服。常敝衣薄食。車馬羸敗。府丞嘗獻二其生魚一。續受而懸二之於庭一。後又進レ之。續乃出二前所レ懸者一。以杜二其意一。靈帝欲三

後漢の羊續字は興祖、太山平陽の人なり。南陽の太守と爲り、政令を班ち宣べ、民の病利を候ふ。(一)百姓歎服す。常に敝衣薄食にして、車馬は羸敗せり。(二)(三)府丞嘗て其生魚を獻ずるに、續受けて之を庭に懸く。後又之を進むるに、續乃ち前に懸けし所の者を出し、以て其意を杜ぐ。靈帝以て太尉と爲さんと欲す。時に三公に拜せらるゝ者は、皆東園に(四)禮錢千萬を輸し、中使をして之を督せしむ。名づけて左騶となす。(五)其之き往く所、(六)輒ち迎へて禮敬を致し、厚く賄賂を加ふ。續乃ち使を單席に坐せしめ、(七)縕袍を擧げ之に示して曰く、(八)「臣が資とする所唯だ斯れのみ」と。此を以ての故に公位に登らず。

㈠ 人民に取つての利害得失 ㈡ 馬はやせ、車はやぶれたり ㈢ 部下の役人の賄賂也 ㈣ 桓帝靈帝の頃朝廷

之大廈。有二棟梁之用一。累二遷中書令一。武帝深器二遇之一。舊監令共レ車入朝。時荀勗爲レ監。嶠鄙二其爲一レ人。以二意氣一加レ之。毎二同乘一高抗專レ車而坐。乃使二監令異一レ車。自レ嶠始也。

(一)風采正しくうるはしきをいふ　(二)高く聳えたる貌。其才の高俊なるを喩ふる也　(三)木の節くれ立ちたる貌　(四)大なる家。ふし多けれども、之を大家の建築に用ふれば、以て家のさゝへたるはりと爲し得べしと也　(五)中書監と中書令　(六)氣勢を以て之を壓す　(七)氣勢を高くして之に張向ひ其車席を獨占す

時苗留犢　羊續懸魚

魏略。時苗字徳胄。鉅鹿人。少清白。爲レ人疾レ惡。建安中爲二壽春令一。令行風靡。其始之レ官。乘二薄耷車一。黃牸牛布被囊。歲餘牛

魏略にいふ、時苗字は徳胄、鉅鹿の人なり。少にして清白、人となり惡を疾む。(一)建安中に壽春の令となる。令行はれ風靡す、其始め官に之くに、(二)薄耷車に乘り、(三)黃牸牛布(四)の被囊のみ。歲餘にして牛一犢を生む。去るに及び其犢を留め主簿(五)に謂て曰く、(六)「令の來る時本此犢なし。犢は是れ淮南(七)の生む所なり」と。時人皆(八)以て激すと爲す。然れども是に由りて名天下に聞こゆ。後中郞將に遷る。

(一)後漢獻帝の年號。壽春は縣の名、淮南郡の内にあり　(二)竹をあみて車上のとまとなしたる粗末なる車　(三)

之。又嘗同レ席讀レ書。有ニ乘レ軒冕過レ門者一。寧讀レ書如レ故。歆廢レ書而看。寧割レ席分レ坐曰。子非ニ吾友一也。寧歆邴原倶遊學。三人相善。故時人號爲ニ一龍一。謂レ寧爲ニ龍頭一。原爲ニ龍腹一。歆爲ニ龍尾一。

邴原倶に遊學し、三人相善し。故に時人號して一龍と爲し、寧を謂て龍頭と爲し、原を龍腹と爲し、歆を龍尾と爲す。

（一）軒は大夫の車、冕は高官の冠。高貴の者の通行するをいふ　（二）一枚の坐席を引き割きて別々にする

晉和嶠字長輿。汝南西平人。少有ニ風格一。厚自崇重。有レ盛ニ名於世一。朝野許下其能整ニ風俗一理中人倫上。庾凱見而歎曰。嶠森森如ニ千丈松一。雖ニ礧砢多ニ節目一。施ニ

晉の和嶠字は長輿、汝南西平の人なり。少うして（一）風格あり、厚く自ら崇重す。世に盛名あり。朝野、其能く風俗を整へ人倫を理めんことを許す。庾凱見て歎じて曰く、「嶠は（二）森森として千丈の松の如し。（三）礧砢節目多しと雖も、之を（四）大廈に施せば、棟梁の用あり」と。中書令に累遷し、武帝深く之れを器として遇す。（五）舊監令、車を共にして入朝す。時に荀勖、監たり。嶠、其人となりを鄙み、（六）意氣を以て之に加ふ。同乘する毎に、（七）高抗して車を専にして坐す。乃ち監令をして車を異にせしむるは、嶠より始まる。

方今丞相王嘉。健而蓄縮。不可用。御史大夫賈延。墮弱不任職。左將軍公孫祿。司隷鮑宣。皆外有直項之名。內實騃不曉政事。諸曹以下。僕遬不足數。卒有強弩圍城。長戟指闕。陛下誰與備之。

らず。卒(六)に強弩城を圍み、長戟闕を指すことあらば、陛下誰と與に之れに備へん」と。

(一)あまねくそしること　(二)物事にらちのあかざること　(三)剛く直きこと　(四)愚なること　(五)平凡短才の貌　(六)にはかに敵軍襲來して強きいしゆみを以て城をかこみ、長きほこを以て宮門を攻むることあらば、陛下は誰とともに防ぎ給ふぞとなり

管寧割席　和嶠專車

世說。管寧字幼安。與華歆共園鋤菜。見地有金。寧揮鋤與瓦石不異。歆捉而擲

世說にいふ、管寧字は幼安。華歆と園を共にして菜を鋤く。地に金あるを見る。寧は鋤を揮ふこと瓦石と異ならず。歆は捉て之を擲つ。又嘗て席を同じうして書を讀む。(一)軒に乘り冕して門を過ぐる者あり。寧は書を讀みて故の如し。歆は書を廢して看る。寧席(二)を割き坐を分ちて曰く、「子は吾が友にあらず」と。寧•歆•

字少季。琅邪人。以二明經一爲二郡文學一。特立剛直。元帝擢爲二司隸校尉一。刺擧無レ所レ避。京師爲二之語一曰。閒何闊。逢二諸葛一。上嘉二其節一。加二秩光祿大夫一。

直なり。元帝擢でゝ司隷校尉と爲す。(二)刺擧避くる所なし。京師之れが語を爲して曰く、『閒(三)何ぞ闊しき。諸葛に逢ふか』と。上其の節を嘉し、(四)秩、光祿大夫を加ふ。

(一)學問を以て任とする役 (二)人の罪をさがし出すこと (三)「此頃永らく御目に掛らぬが、若しや諸葛に咎めても受けたのではなかつたか」と互に挨拶し合へりとの意か (四)光祿大夫二千石だけの秩を增加せらる

前漢息夫躬字子微。河內河陽人。少爲二博士弟子一。受二春秋一。通二覽記書一。哀帝擢二光祿大夫給事中一。上疏歷二詆公卿大臣一曰。

前漢の息夫躬字は子微、河內河陽の人なり。少にして博士の弟子と爲り、春秋を受け、記書を通覽す。哀帝、光祿大夫給事中に擢きんづ。上疏して公卿大臣を歷詆して曰く、(一)『方今丞相王嘉は健にして(二)蓄縮なれば、用ふべからず。御史大夫賈延は墮弱にして職に任へず。左將軍公孫祿・司隷鮑宣は皆外に直項の(三)名あれども、內は實に駭(四)にして政事を曉らず。諸曹以下、僕遬(五)にして數ふるに足

柱。上益饜レ之。通說レ上。願徵二魯諸生。與二臣弟子一共起二朝儀一。頗采三古禮與二秦儀一。雜二就之一。上使レ徵二魯諸生。與二其弟子一。爲二綿蕞野外一。習レ之月餘。通曰。上可二試觀一。七年長樂宮成。諸侯羣臣朝二十月一。行レ禮畢置酒。以二尊卑次一起上レ壽。觴九行。謁者言レ罷レ酒。御史執レ法。擧二不レ如レ儀者一輒引去。竟レ朝無二敢喧嘩失レ禮者一。帝曰。吾乃今日知レ爲二皇帝之貴一也。拜レ通爲二奉常一。賜二金五百斤一。

るべし」と。七年長樂宮成り、諸侯羣臣十月に朝す。禮を行ひ畢りて置酒し、尊卑の次を以て起て壽を上る。(五)觴九たび行るや、(六)謁者酒を罷めよと言ふ。(七)御史法を執り、儀の如くせざる者を擧げ輒ち引き去る。(八)朝を竟ふるまで敢て喧嘩して禮を失する者なし。帝曰く、「吾れ乃ち今日皇帝の貴きものなるを知れり」と。通を拜して奉常(九)と爲し、金五百斤を賜ふ。

(一) 文學を以て博士となり更に其の上の任官の詔を待つ (二) 高祖也 (三) 魯國の學者 (四) 繩を張り、茅を地に立てて位の次第を表すること (五) 萬歲の祝賀を言上す (六) 儀式を取行ひ祝辭を取次ぐ役人 (七) 非法を正す御目付の役人 (八) 朝儀を終ふるまで (九) 式部長官の如く宗廟の祭祀等を掌る官

前漢諸葛豐

葛豐刺擧　息躬歷詆

前漢の諸葛豐字は少季、琅邪の人なり。明經を以て郡の文學(一)と爲る。特立剛

作律九章。高祖布衣時。何數以吏事護高祖。高祖爲沛公。何嘗爲丞督事。沛公至咸陽。諸將皆爭走金帛財物之府分之。何獨先入。收秦丞相御史律令圖書藏之。沛公具知天下阨塞。戶口多少強弱處。民所疾苦者。以何得秦圖書也。高祖卽位。論功行封。以何功最盛。先封酇侯。

圖書を得たるを以てなり。高祖位に卽き、功を論じ封を行ふに、何の功最も盛なるを以て、先づ酇侯に封ず。

(一) 函谷關　(二) 秦の法律のわづらはしくむごきを削る　(三) 拾ひあつむる意　(四) けはしき要害の地の義

前漢叔孫通薛人。秦時以文學待詔博士。降漢拜博士。號稷嗣君。漢王爲皇帝。悉去秦儀法。爲簡易。羣臣飲爭功。醉或妄呼。拔劍擊

前漢の叔孫通は薛の人なり。秦の時、文學(一)を以て博士に待詔し、漢に降り博士を拜し、稷嗣君と號す。漢王皇帝と爲り、悉く秦の儀法を去り、簡易と爲すや、羣臣飲んで功を爭ひ、醉ひて或は妄に呼び、劍を拔き柱を擊つ。(二)上益〻之を饜ふ。通、上に說く、「願くは(三)魯の諸生を徵し、臣が弟子と、共に朝儀を起し、頗る古禮と秦の儀とを采り、之を雜へ就さん」と。上、魯の諸生を徵し、其弟子と、(四)綿蕝を野外に爲り、之を習はしむること月餘にして、通曰く、「上試に觀

覽知レ之。徑起取レ酒。祥疑二其有一レ毒。爭而不レ與。朱遽奪反レ之。自後朱賜二祥饌一。覽輒先嘗。覽孝友恭恪。名亞二於祥一。仕至二光祿大夫一。門施二行焉一。

蕭何定律　叔孫制禮

前漢高祖初入レ關。約レ法三章。曰殺レ人者死。傷レ人及盜抵レ罪。蠲二削煩苛一。秦民大說。其後四夷未レ附。兵革未レ息。三章之法。不レ足二以禦一レ姦。於レ是相國蕭何。攈二摭秦法一。取下宜二於時一者上

前漢の高祖、初め關（一）に入り、法を約すること三章、曰く、『人を殺す者は死さん、人を傷け及び盜めば罪に抵らん』と。（二）煩苛なるを蠲削す。秦の民大に說ぶ。其後四夷未だ附かず、兵革未だ息まずして、三章の法、以て姦を禦ぐに足らず。是に於て相國蕭何、秦法を攈摭し、（三）其時に宜しき者を取り、律九章を作る。高祖布衣の時、何、數ゝ吏事を以て高祖を護る。高祖沛公たるとき、何嘗に丞と爲り事を督す。沛公咸陽に至るとき、諸將皆爭ひて金帛財物の府に走りて、之を分つ。何獨り先づ入り、秦の丞相御史の律令圖書を收めて之を藏す。沛公、具さに天下の阨塞（四）、戶口の多少强弱の處、民の疾苦する所を知る者は、何が秦の

郷里稱二江巨孝一。及二母終一。擧二賢良方正一。遷二司空長史一。肅宗崇二禮之一。拜二諫議大夫一。賜二告歸一。因謝レ病。常以二八月一。長吏存問。致二羊酒一。以終二厥身一。巨孝之稱。行二於天下一。舊本巨作レ忠非

晉王覽字玄通。母朱遇二兄祥一無道。覽年數歲。見三祥被二楚撻一。輒涕泣抱持。每諫二其母一。母少止二凶虐一。朱屢以二非理一使レ祥。覽輒與倶。又虐二使祥妻一。覽妻亦趍而共レ之。朱患レ之乃止。祥喪レ父後。漸有二時譽一。朱深疾レ之。密使レ酖レ祥。

晉の王覽字は玄通。母朱、兄祥を遇すること無道なり。覽、年數歲、祥が楚撻(一)せらるゝを見、輒ち涕泣(二)して抱持(三)し、每に其母を諫む。母少しく凶虐を止む。朱屢〻(四)非理を以て祥を使へば、覽輒ち與に倶にす。又祥の妻を虐使すれば、覽の妻も亦趍りて之を共にす。朱之を患へ乃ち止む。祥父を喪ひて後、漸く時譽(五)あり、朱深く之を疾み、密かに祥を酖(六)せしめんとす。覽之を知り、徑ちに起ちて酒を取る。祥其毒あらんを疑ひ、爭ひて與へず。朱遽に奪ひて之を反す。自後朱より祥に饌を賜へば、覽輒ち先づ嘗む。覽、孝友恭恪(七)にして名祥に亞ぐ。仕へて光祿大夫に至り、門(八)に行馬を施す。

(一) 王覽の母朱が繼子たる異腹の兄祥を虐待す (二) むちうたるゝこと (三) だきかゝへていたはる (四) 母が非道に兄を使ふ時には、覽も兄の祥と共に其業に從ふとなり (五) 其時の人々より受くるほまれ (六) 毒殺 (七) 親に孝に、兄に友に、うや〳〵しくつゝしむこと (八) 門にこまよせを施すの名譽を得たりとなり

獨與母居。遭亂負母逃難。備歷阻險。常採拾以爲養。數遇賊。或切欲將去。革輒涕泣言有老母。辭氣愿款。有足感動人者。賊不忍犯之。革轉客下邳。窮貧。裸跣行傭以供母。建武末。與母歸鄕里。至歳時縣當案比。革以母老不欲搖動。自在轅中輓車。不用牛馬。由是

數々賊に遇ひ、或は劫されて將る去られんと欲す。革輒ち涕泣して老母ありと言ふ。辭氣愿款(二)、人を感動するに足る者あり。賊之を犯すに忍びず。革轉じて下邳に客たり(三)。窮貧、(四)裸跣行傭以て母に供す。建武の末、母と鄕里に歸る。歳時に至り縣の案比(五)するに當り、革、母の老いたるを以て搖動するを欲せず、自ら轅中に在りて車を輓き、牛馬を用ひず。是に由りて鄕里江の巨孝(六)を稱す。母の終るに及び、賢良方正(七)に擧げられ、司空長史に遷る。肅宗之を崇禮し、諫議大夫に拜し、告歸(八)を賜ふ。因て病を謝す(九)。(一〇)常に八月を以て長吏をして存問して、羊酒を致さしめ、以て厥身を終へしむ。巨孝の稱天下に行はる。舊本に巨を忠に作るは非なり。

(一) 落穗を拾ふをいふ　(二) ことばつき謹み誠ありて人を感ぜしむるに足るとなり　(三) 旅寓し居ること　(四) 衣類もなくはだかはだしの姿にて日傭かせぎを爲す　(五) 戶口調査。戶口調査に老母を吏の前につれゆかざるべからざるに當りて也　(六) 大孝　(七) 試驗科目の名　(八) 病にかゝりて三月に逹するとき、官爵等は其儘にて、家に歸りて病を養はしむる特典　(九) 病を以て引退する也　(一〇) 天子が也

不ㇾ擇ㇾ地而休。家貧親老不ㇾ擇ㇾ祿而仕。昔由事ニ二親一之時。常食ニ藜藿之實一。爲ㇾ親負ニ米百里之外一。親沒之後。南遊ニ於楚一。從車百乘。積粟萬鍾。累ㇾ茵而坐。列ㇾ鼎而食。願下欲食ニ藜藿一爲ㇾ親負上ㇾ米。不ㇾ可ㇾ得也。子曰。由也事ㇾ親。可ㇾ謂ニ生事盡ㇾ力。死事盡ㇾ思者一也。

親に事へし時、常に藜藿(一)の實を食ひ、親の爲に米を百里の外に負へり。親歿するの後、南、楚に遊び、從車百乘、積粟萬鍾、茵を累ねて坐し、鼎(二)を列べて食せり。藜藿を食し親の爲に米を負はんことを願ひ欲すれども、得べからざるなり」と。子曰く、「由や親に事ふるに、生事(三)には力を盡し、死事には思を盡す者と謂ふ可きなり」と。

㊀ 藜はあかざ、藿は豆の葉。實は椀に盛り入れたる物の稱　㊁ 食の豐かなるをいふ　㊂ 生に事ふには

江革巨孝　王覽友弟

後漢江革字次翁。齊國臨淄人。少失ㇾ父。

後漢の江革字は次翁、齊國臨淄の人なり。少にして父を失ひ、獨母と居る。亂に遭ひ、母を負ひて難を逃れ、備に阻險を歴、常に採拾(一)して以て養を爲す。

之。坐定而府檄適至。以義爲守令。義奉檄而入。喜動顔色。奉者志尚士也。心賤之。自恨來。固辭而去。及義母死。去官行服。數辟公府。爲縣令。進退必以禮。後擧賢良。公車徵不至。張奉歎曰。賢者固不可測。往日之喜。乃爲親屈。所謂家貧親老不擇官而仕者也。章帝下詔褒寵義。賜穀千斛。常以八月。長吏問起居。加賜羊酒。壽終于家。

之を賤み、自ら來れるを恨み、固辭して去る。義の母死するに及び、官を去りて服を行ふ。(三)數〻公府に辟されて、縣令と爲りしも、進退必ず禮を以てす。後賢(四)良に擧げられ、公車に徵されしも至らず。張奉歎じて曰く、「賢者固より測る可からず。往日の喜は、乃ち親の爲に屈せしなり。所謂家貧く親老ゆれば、官を擇ばずして仕ふる者なり」と。章帝詔を下して義を褒寵し、穀千斛を賜ひ、常に八月を以て長吏をして起居を問はしめ羊酒を加賜す。(五)壽を以て家に終れり。

(一) 府の招命の書也　(二) 志を高尙に持する人　(三) 喪に服す　(四) 科目の名。公車は徵官の士を驗する役所。共に前出　(五) 出て仕へず家居して天壽を全うせり

家語。仲由字子路。見孔子曰。負重涉遠。

家語にいふ、仲由字は子路。孔子に見えて曰く、「重きを負ひ遠きを涉れば、地を擇ばずして休み、家貧くして親老ゆれば祿を擇ばずして仕ふと。昔由の二

匿ㇾ瑕。寛簡有ニ大量一。博覽該通。長好ニ老莊一。與ニ魏宗室一婚。拜ニ中散大夫一。所ニ與交一者。唯阮籍山濤。預ニ其流一者。向秀劉伶阮咸王戎爲ニ竹林之遊一。世所ㇾ謂竹林七賢也。戎與ニ叔夜一居ニ山陽一二十年。未ニ嘗見ニ其喜慍之色一。世說曰。叔夜之爲ㇾ人。喦喦若ニ孤松之獨立一。其醉也。傀俄若ニ玉山之將ㇾ頹。

に曰く、『叔夜の人と爲り、喦喦(四)として孤松の獨立てるが若く、其醉ふや傀俄(五)として玉山の將に頹れんとするが若し』と。

(一) 風儀あれども、形體を土や木の如くにして、自ら飾らずとなり (二) 人にそしり辱しめらるゝも之を忍びて爭はず、人にきづつけ難ぜらるゝもそのまゝに受けて敢て構はず (三) 其風流を共にする者は (四) 高くけはしき貌 (五) 傀は偉也、俄は傾也、立派にて偉大なるからだの傾きくづるゝ形容

後漢毛義字少節。廬江人。家貧以ニ孝行一稱。南陽張奉慕ニ其名一。往候ㇾ

毛義奉檄　子路負米

後漢の毛義字は少節、廬江の人なり。家貧うして孝行を以て稱せらる。南陽の張奉、其の名を慕ひ、往きて之を候ふ。坐定りて府檄(一)適至り、義を以て守令と爲す。義、檄を奉げて入り、喜顏色に動く。奉は志尙(二)の士なれば、心に

音律。善彈二琵琶一。雖レ處レ世不レ交二人事一。唯共二親知一絃歌酣宴而已。荀勗毎與レ咸論二音律一。自以爲遠不レ及。疾レ之。出補二治平太守一。顔延年作二五君詠一。其一曰。仲容靑雲器。實禀二生民秀一。達レ音何用深。識レ微在二金奏一。郭奕已心醉。山公非二虛覯一。屢薦不レ入レ官。一麾乃出守。

㊀意の欲するまゝに任せて外見を憚らざること ㊁所謂竹林七賢の遊也 ㊂阮氏の一族 ㊃道の北方なる阮氏は富み、南方の阮氏は貧し ㊄ふんどし ㊅阮籍・嵇康・劉伶・阮咸・向秀を詠ずる詩 ㊆一首の意は、仲容は高位大官にのぼるべき器量の人にして、實に人民中にても特に秀でたる資質をうけて生れたり。其音律に達すること何故に斯くは深き。人情の微を識るものは音樂（金奏）なり。されば郭奕は仲容が心の淸美なるに心より醉ひ、山濤は仲容を見てよく其器量を見ぬき、屢ば彼を推薦すれども彼は官に仕へず、されど荀勗のまねきになびきて出でゝ太守たりと也 ㊇山公は山濤。虛覯に非ずば只ぼんやり見て居ず、よく其人物を見ぬくをいふ

晉嵆康字叔夜。有二奇才一。遠邁不レ羣。美二詞氣一。有二風儀一而土二木形骸一。不二自藻飾一。人以爲二龍章鳳姿。天質自然一。恬靜寡欲。含レ垢

・晉の嵆康字は叔夜、奇才有り。遠邁不羣、詞氣美なり。(一)風儀有りて、形骸を土木にし、自ら藻飾せず。人以て龍章鳳姿天質自然なりと爲す。恬靜寡慾、垢を含み瑕を匿し、寛簡にして大量有り。博覽該通、長じて老莊を好む。魏の宗室(二)と婚し、中散大夫に拜す。與に交はる所の者には、唯だ阮籍・山濤あり、其流に預る者には、向秀・劉伶・阮咸・王戎ありて、竹林の遊を爲す。世に所謂竹林の七賢(三)なり。戎、叔夜と山陽に居ること二十年、未だ嘗て其の喜慍の色を見ず。世說

晉書。阮咸字仲容。陳留尉氏人。任達不レ拘。與二叔父籍一爲二竹林之游一。當世譏二其所レ爲。咸與レ籍居二道南一。諸阮居二道北一。北阮富而南阮貧。七月七日。北阮盛曬二衣服一。錦綺粲レ目。咸以レ竿挂二大布犢鼻於庭一。曰。未レ能レ免レ俗。歷二散騎侍郎一。妙解二

仲容青雲　叔夜玉山

晉書にいふ、阮咸字は仲容、陳留尉氏の人なり。(一)任達にして拘らず。叔父籍と、(二)竹林の游を爲す。當世其爲す所を譏る。咸、籍と道の南に居り、(三)諸阮は道の北に居る。(四)北阮は富みて南阮は貧し。七月七日、北阮盛に衣服を曬し、錦綺目に粲たり。咸、竿を以て大布の(五)犢鼻を庭に挂けて曰く、「未だ俗を免るゝ能はず」と。散騎侍郎を歷たり。妙に音律を解し、善く琵琶を彈ず。世に處すと雖も人事に交らず、唯だ親知と共に絃歌酣宴するのみ。荀勗も毎に咸と音律を論じ、自ら以爲らく遠く及ばずと。之を疾み、出だして治平の太守に補せしむ。顏延年、(六)五君詠を作る。其一に曰く、(七)『仲容は靑雲の器。實に生民の秀を稟く。音に達する何を用て深き。微を識る金奏に在り。郭奕已に心醉す。(八)山公虛覯に非ず。屢〻薦むれども官に入らず。一たび麾いて乃ち出で〻守たり』と。

此吾亡兒所レ失物。云何持去。乳母具言レ之。李氏悲惋。時人異レ之謂二李氏子即祜之前身也一。祜博學能屬レ文。魏高貴郷公時。公車徵。拜二中書侍郎一。武帝有二滅レ呉之志一。以レ祜都督荊州諸軍事。出鎭二南夏一。累二進征南大將軍南城侯一。卒贈二太傅一。初有二善相レ墓者一。言。祜祖墓所有二帝王氣一。若鑿レ之則無レ後。祜遂鑿レ之。相者見曰。猶出二折臂三公一。祜竟墮レ馬折レ臂。仕至レ公而無レ子。祜樂二山水一。每二風景一必造二峴山一。置酒言詠。終日不レ倦。襄陽百姓於二祜平生遊憩之所一。建レ碑立レ廟。歲時享祀。望二其碑一者。莫レ不レ流レ涕。杜預因名爲二墮淚碑一。荊州人爲レ祜諱レ名云。

傳を贈らる。初め善く墓を相する者有り。言ふ、「祜の祖の墓所には帝王の氣有り。若し之を鑿らば、則ち(五)後無からん」と。祜遂に之を鑿る。相者見て曰く、「猶ほ折臂の三公を出さん」と。祜竟に馬より墮ち臂を折り、仕へて(六)公に至るも子無し。祜山水を樂み、(七)風景每に必ず峴山に造り、置酒言詠して、終日倦まず。襄陽の百姓、祜が平生遊憩せし所に、碑を建て廟を立て、(八)歲時に享祀す。其碑を望む者、涕を流さゞるは莫し。杜預因て名づけて墮淚碑と爲す。荊州の人(九)祜の爲に名を諱むと云ふ。

(一) 乳母は父の妾なる生母の義といふ。乳母に向ひ、我が前に弄びし金環を取り來れと命ず (二) 死亡せし子 (三) 曹操の曾孫、魏の第四世 (四) 官人の詰所、天子の御車を置く所。仕官者はこゝに召して其才を試みし也 (五) 子孫絶えん (六) 三公 (七) 四季折々の好風景につけて (八) 每歲四季に (九) 祜といふ名をはゞかりて附けず

歳墮レ井死。其父母訪問。皆符驗。覩學兼二內外。明二天文河洛書。後遷二南海太守。嘗見二仙人陰君。授二道訣。百餘歳卒。

南海の太守に遷る。嘗て仙人陰君を見、道訣を授かり、百餘歳にして卒す。(五)

(一)「吾は」と補ひ見よ　(二)李家を尋ねて其事を問ふに證據ありて一々符合せり　(三)儒と老莊と　(四)河は伏羲の河圖、洛は禹王の洛書をいふ　(五)道家の方術の祕訣

晉羊祜字叔子。泰山南城人。世吏二千石。至レ祜九世。竝以二清德一聞。祜年五歳時。令三乳母取二所レ弄金環一。乳母曰。汝先無二此物一。祜卽詣二鄰人李氏東垣桑樹中一探二得之一。主人驚曰。

晉の羊祜字は叔子、泰山南城の人なり。世〻吏二千石たり。祜に至るまで九世、竝に清德を以て聞ゆ。祜、年五歳の時、(一)乳母をして弄ぶ所の金環を取らしむ。乳母曰く、「汝先に此物無し」と。祜卽ち鄰人李氏の東の垣なる桑樹中に詣り之を探し得たり。主人驚きて曰く、「此は吾が亡兒の失ひし所の物なり、云何ぞ持ち去る」と。乳母具に之を言ふ。李氏悲惋す。時人之を異とし、『李氏の子(二)は卽ち祜の前身なり』と謂へり。祜、博學にして能く文を屬す。魏の高貴鄕公(三)の時、公車(四)に徵され、中書侍郎に拜す。武帝、吳を滅すの志有り。祜を以て都督荆州諸軍事とし、出でゝ南夏を鎭せしむ。征南大將軍南城侯に累進し、卒して太

邦。字季。沛豐邑中陽里人。姓劉氏。母媼嘗息二大澤之陂一。夢與レ神遇。是時雷電晦冥。父太公往視。則見二交龍於上一。已而有レ娠。遂產二高祖一。隆準而龍顏。美二鬚髯一。左股有二七十二黑子一。寬仁愛レ人。意豁如也。常有二大度一。不レ事二家人生產作業一。

澤の陂に息ひ、夢に神と遇ふ。是時雷電晦冥なり。父太公往きて視れば、則ち(二)交龍を上に見る。已にして娠む有りて、遂に高祖を産む。(三)隆準にして龍顏、鬚髯美しく、左の股に七十二の黑子有り。寬仁にして人を愛し、意豁如たり。常に大度有りて、家人の生産作業を事とせず。

(一) 媼も亦母也　(二) つがひ居る龍　(三) 隆準は鼻の高きこと。龍顏は龍の顏貌の如く威あるをいふ

鮑靚記井　羊祜識環

晉書。鮑靚字太玄。東海人。年五歲語二父母一云。本是曲陽李家兒。九

晉書にいふ、鮑靚字は太玄、東海の人なり。年五歲にして、父母に語りて云ふ、「(一)本是れ曲陽李家の兒なりしが、九歲のとき井に墮ちて死せるものなり」と。其父母(二)訪問するに皆符験す。靚、學は(三)内外を兼ね、(四)天文河洛の書に明かなり。後

大略。博學洽聞。漢末大亂。常慨然有二憂一天下一心上。魏武爲二丞相一。辟爲二文學掾一。累二遷相國一。武帝受レ禪。上二尊號一曰二宣皇帝一。帝內急而外寬。猜忌而多二權變一。魏武察二帝有二雄豪志一。聞レ有二狼顧相一。欲レ驗レ之。乃召使二前行一。令二反顧一。面正向レ後。而身不レ動。又嘗夢三三馬同二食一槽一。甚惡レ焉。因謂二太子丕一曰。司馬懿非二人臣一也。必預二汝家事一。太子素與レ帝善。毎相全佑。故免。

す。武帝禪を受け、尊號を上りて宣皇帝と曰ふ。帝、內急(二)にして外寬に、猜忌にして權變多し。魏武、帝(三)の雄豪の志有るを察し、狼顧(四)の相有りと聞き、之を驗せんと欲す。乃ち召して前行せしめ、反顧せしむるに、面正しく後に向ひて身動かず。又嘗て三馬(五)の一槽に同食するを夢み、甚だ焉を惡む。因て太子丕(六)に謂て曰く、「司馬懿は人臣に非るなり。必ず汝の家事に預らん」と。太子素より帝と善く、毎に相全佑(七)す。故に免る。

(一) 曹操也 (二) 內心氣短かにて外見寬大を裝ふ (三) 宣帝卽ち仲達 (四) 狼の如く體は正しく前に向ひて、顏面は後にむき得ること (五) 宣帝の姓は司馬也、其子司馬師、又その子司馬昭、共に魏に臣たり、槽の木扁を去れば魏武の姓たる曹の字を爲す、卽ち後來三人の司馬氏曹氏の魏を亡ぼさんと也 (六) 魏武がその太子丕に (七) 助け全うす

前漢高祖諱

前漢の高祖、諱は邦、字は季、沛の豐邑中陽里の人、姓は劉氏なり。母(一)媼嘗て大

乃是山鹿野麋。獸微弩强。是以發遲。華撫レ手大笑。刺史周浚。召爲二從事一。謂レ人曰。士龍當今之顏子也。官至二中書侍郎一。與レ機同被レ害。初雲嘗行逗二宿故人家一。夜暗迷レ路。莫レ知レ所レ從。忽望二草中有一レ火趣レ之。至二一家一寄宿。見二一年少美二風姿一。共談二老子一。辭致深遠。向レ曉辭去。行十許里。至二故人家一。云此數十里中無二人居一。雲意始悟。卻尋二昨宿處一。乃王弼冢。雲本無二玄學一。自レ此談レ老殊進。

㈠ 駿馬の子、鸞鳥の雛。後來必ず大人物たらんと也 ㈡ 陸雲、荀隱の二人偶然相會したり ㈢ 爭ひて辭を出さんと氣張るさま ㈣ 白雉は鸞鳥、陸雲自ら譬ふる也。心の弓を張りて智恵の一矢を此白雉に射向くべしと也 ㈤ もと雲間の龍は奔逸するものと聞きしに、其さま恰も山野の麋鹿の如くのろきものなりき。故にわが弓あまりに強くして相手とするに足らぬ故發つこと遲きなり。駿々は強く盛にして奔逸する狀 ㈥ 孔子の弟子顏回に其才德を喩ふる也 ㈦ 兄機雲と共に成都王穎に害せらる ㈧ 親しき友の家に投宿せんとし ㈨ 老子の學

晉宣皇帝諱懿。字仲達。河內溫縣孝敬里人。姓司馬氏。少聰明多二

晉宣狼顧　漢祖龍顏

晉の宣皇帝、諱は懿、字は仲達、河內溫縣孝敬里の人、姓は司馬氏なり。少にして聰明、大略多く、博學洽聞なり。漢末大に亂るゝや、常に慨然として天下を憂ふるの心有り。魏武丞相と爲るや、辟されて文學の掾と爲り、相國に累遷

吳尚書閔鴻。見而奇之曰。此兒若非龍駒。是鳳雛。後擧雲賢良。吳平入洛。雲與荀隱未相識。嘗會張華坐。華曰。今日相遇。可勿爲常談。雲因抗手曰。雲間陸士龍。隱曰。日下荀鳴鶴。鳴鶴隱字也。雲又曰。既開青雲覩白雉。何不張爾弓挾爾矢。隱曰。本謂是雲龍駿騤。

こと勿る可し」と。雲、因りて手を抗げて曰く、「雲間の陸士龍」と。隱曰く、「日下の荀鳴鶴」と。鳴鶴は隱の(三)字なり。雲又曰く、「(四)既に青雲を開きて白雉を覩る。何ぞ爾の弓を張り爾の矢を挾まざる。」隱曰く、「(五)本謂ふ是れ雲龍騤騤たりと。乃ち是れ山鹿野麋、獸微にして弩強く、是を以て發つこと遲し」と。華、手を撫でゝ大に笑ふ。刺史周浚召して從事と爲し、人に謂て曰く、「士龍は當今の(六)顏子なり」と。官中書侍郎に至り、(七)機と同じく害せらる。初め雲嘗て行きて(八)故人の家に逗宿せんとし、夜暗くして路に迷ひ、從る所を知る莫し。忽ち草中に火有るを望みて之に趣き、一家に至り寄宿す。一年少の風姿美なるを見、共に老子を談ずるに、辭致深遠なり。曉に向ひ辭し去り、行くこと十許里にして故人の家に至る。云ふ此數十里の中人居無しと。雲、意始めて悟り、卻きて昨宿りし處を尋ぬれば、乃ち王弼の冢なり。雲は本(九)玄學無かりしが、此より老を談ずること殊に進む。

規。規臥不レ迎。既入。而問。卿前在レ郡食レ鴈美乎。有レ頃又白。王符在レ門。規素聞二符名一。乃驚遽而起。衣不レ及レ帶。屣履出迎。援二符手一而還。與同レ坐極レ歡。時人爲二之語一曰。徒見二二千石一。不レ如二一縫掖一。言二書生道義之爲一レ貴也。後竟不レ仕。

㊀志氣高くしてつよきこと　㊁金を奉献し其手柄にて　㊂其者が名刺を書いて　㊃横臥したるまゝにて起つて出迎もせず　㊄皇甫規が也　㊅貸によりて鴈門に大守たりしを譏りてかくいふ也　㊆取次ぎの者が也　㊇はきものも滿足にはかず履（クツ）を足へ引つかけて　㊈わきの下を縫ひたる儒者の衣　㊉學を爲す者　(一一)王符が也

鳴鶴日下　士龍雲閒

晉書。陸雲字士龍。六歲能屬レ文。性清正有二才理一。少與二兄機一齊レ名。雖二文章不一レ及レ機。而持論過レ之。號二二陸一。幼時。

晉書にいふ、陸雲字は士龍、六歲にして能く文を屬す。性、清正にして才理有り。少にして兄機と名を齊うす。文章は機に及ばずと雖も、持論は之に過ぎ、二陸と號せらる。幼時呉の尚書閔鴻見て之を奇として曰く、「此兒若し(一)龍駒に非ざれば是れ鳳雛ならん」と。後雲を賢良に擧ぐ。呉平ぎ洛に入るや、雲、荀隱と未だ相識らず。嘗て張華の坐に會す。華曰く、「今日相遇ふ(二)、常談を爲す

致上者。非下惡二臣國一而樂中吳民上也。竊高二下風之行一、尤說二大王之義一。願大王無レ忽。王不レ納。陽乃去。從二梁孝王一。卒爲二上客一。

後漢王符字節信。安定臨涇人。少好レ學有二志操一。耿介不レ同二於俗一。以レ此遂不レ得二升進一。乃隱居著二書三十餘篇一。以譏二當時失得一。號二潛夫論一。後度遼將軍皇甫規解レ官歸。鄉人有下以レ貨得二鴈門大守一者上。亦去レ職還レ家。書レ刺謁レ

後漢の王符字は節信、安定臨涇の人なり。少にして學を好み志操有り。(一)耿介にして俗に同ぜず。此を以て遂に升進するを得ず。乃ち隱居して書三十餘篇を著し、以て當時の失得を譏り、潛夫論と號す。後、度遼將軍皇甫規、官を解かれて歸る。鄉人にして(二)貨を以て鴈門の太守を得たる者有りしが、亦職を去りて家に還る。(三)刺を書して規に謁せんとするに、規、(四)臥して迎へず。既に入りしに、(五)問ふ、「卿、前に郡に在り、(六)鴈を食して美なりしか」と。頃く有りて、(七)又白す、「王符門に在り」と。規、素より符の名を聞けり。乃ち驚き遽てゝ起ち、衣、帶するに及ばず、(八)屣履出で迎へ、符が手を援りて還り、與に坐を同うして歡を極む。時の人之が語を爲して曰く、『徒らに二千石を見るは、(九)一縫掖に如かず』と。(一〇)書生は道義を之れ貴しと爲すべきを言へるなり。(一一)後竟に仕へず。

合。漢興。諸侯王皆自治ㇾ民聘ㇾ賢。吳王濞招二致四方游士一。陽仕ㇾ吳。以二文辯一著名。久ㇾ之吳王以二太子事一怨望。稱ㇾ疾不ㇾ朝。陰有二邪謀一。陽奏ㇾ書諫。略曰。今臣盡ㇾ智畢ㇾ議。易ㇾ精極ㇾ慮。則無二國不一ㇾ可ㇾ奸。飾二固陋之心一。則何王之門不ㇾ可ㇾ曳二長裾一乎。然臣所三以歷二數王之朝一。背ㇾ淮千里而自

仕へ、文辯(三)を以て著名なり。之を久うし、(四)吳王、太子の事を以て怨望し、疾と稱して朝せず、陰に邪謀有り。陽、書を奏して諫む。略に曰く、『今臣智を盡し議を畢し、精を易へ慮を極めば、則ち國として奸す(五)可からざる無く、固陋の心を飾らば、則ち何れの王の門か、(六)長裾を曳く可からざらん。然るに臣が(七)數王の朝を歷、淮を背にして千里自ら致す所以の者は、(八)臣が國を惡みて吳の民たるを樂むに非ざるなり。竊に(九)下風の行を高しとし、尤も大王の義を說べばなり。願くは大王忽にすること無れ』と。王、納れず。陽乃ち去り、梁の孝王に從ひ、卒に上客と爲る。

(一) 己の志を曲げて人の氣に合ふ如き事はせず　(二) 仕官せざる賢士を招き寄す　(三) 文藻辯辭　(四) 吳王濞の太子と文帝の太子と碁を爭ひ、文帝の太子碁盤にて吳の太子を擊ち殺す、吳王其事を怨みて朝せざる也　(五) 奸は干也、仕進を求むるをいふ　(六) 仕へて官吏となるをいふ　(七) 數國の王の朝廷を經、淮水を背後にして遠路わざわざ來れるは　(八) 自己の本國　(九) 下風に在りて聞く所の大王の行を高尚なりとし

後漢戴憑字次中。汝南平輿人。光武時擧二明經一。試二博士一。後拜二侍中一。正旦朝賀。百僚畢會。帝令二羣臣能說レ經者。更相難詰一。義有レ不レ通。輒奪二其席一。以益二通者一。憑遂重二坐五十餘席一。故京師爲二之語一曰。解レ經不レ窮。戴侍中。舊本憑作レ馮誤。

後漢の戴憑、字は次中、汝南平輿の人なり。光武の時、(一)明經に擧げられ博士に試みらる。後侍中に拜す。(二)正旦の朝賀に百僚畢く會するや、帝、羣臣の能く經を說く者をして更〻相難詰せしめ、義通ぜざる有れば、輒ち其(三)席を奪ひ、以て通ずる者に益す。憑遂に坐五十餘席を重ぬ。故に京師之が語を爲して曰く、『經を解きて窮せず戴侍中』と。舊本憑を馮に作るは誤れり。

(一) 科擧の試驗科目也　(二) 正月元旦　(三) 坐席、敷きて其上に坐り居るもの

鄒陽長裾　王符縫掖

前漢鄒陽齊人。爲レ人有二智略一。慷慨不二苟

前漢の鄒陽は齊の人なり。人と爲り智略有り、慷慨(一)苟も合はず。漢の興りしとき、諸侯王皆自ら民を治め賢を聘す。吳王濞四方の(二)游士を招致するや、陽、吳に

晉書。郤詵字廣基。濟陰單父人。博學多才。瓌偉倜儻。不ㇾ拘ニ細行一。州郡禮命竝不ㇾ應。泰始中。擧ニ賢良一。對策上第。拜ニ議郎一。遷ニ雍州刺史一。武帝於ニ東堂一會送。問ㇾ詵曰。卿自以爲ニ何如一。詵對曰。臣擧ニ賢良一。對策爲ニ天下第一一。猶ニ桂林一枝崑山片玉一。帝笑。詵在ㇾ任。威嚴明斷。甚得ニ聲譽一。

郤詵一枝　戴憑重席

晉書にいふ、郤詵(一)字は廣基、濟陰單父の人なり。博學多才、(二)瓌偉倜儻、細行に拘らず。州郡の(三)禮命竝に應ぜず。(四)泰始中賢良に擧げられ、對策上第す。議郎に拜し、雍州の刺史に遷る。武帝、(五)東堂に於て會送し、詵に問うて曰く、「卿自ら以て何如と爲す」と。詵應へて曰く、「臣、賢良に擧げられ、對策して天下第一と爲る、猶ほ(六)桂林の一枝、崑山の片玉のごとし」と。帝笑ふ。詵任に在るや、威嚴明斷、甚だ聲譽を得たり。

(一) 一に郄詵（チシン）に作る、蓋し郄詵の誤也、郄は郤に同じ (二) 才德衆人とことなりすぐれて (三) 篤厚き招聘の命 (四) 晉の武帝の年號 (五) 東堂は御殿の名、そこに官人を會して其行を送る (六) 桂の林の中の一小枝、崑崙山の玉の一片を得たる如し。僅かに數多き文人の仲間に入り得たるのみとの謙辭也

仁。滎陽中牟人。少以二才穎一見レ稱。鄕邑號爲二奇童一。謂。終賈之儔也。夏侯湛字孝若。譙國譙人。幼有二盛才一。文章宏富。善構二新詞一。美二容觀一。與二潘岳一友善。每二行止一。同レ輿接レ茵。京都謂二之連璧一。岳美二姿儀一辭藻絕麗。少時常挾レ彈出二洛陽道一。婦人遇レ之者。皆連レ手縈繞。投レ之以レ果。滿レ車而歸。擧二秀才一名冠レ世。爲レ衆所レ疾。棲遲十年。出爲二河陽令一。負二其才一。鬱鬱不レ得レ志。後至二黃門侍郞一。湛擧二賢良一。對策中第。終二散騎常侍一。

號して奇童と爲し、謂ふ、『終賈(一)の儔なり』と。夏侯湛字は孝若、譙國譙人なり。幼にして盛才有り、文章宏富にして、善く(二)新詞を構ふ。容觀美しく、潘岳と友とし善し。行止每に輿を同うし茵を接ふ。京都之を(三)連璧と謂ふ。岳、姿儀美しく、辭藻絕麗なり。少時常に(四)彈を挾み洛陽の道に出づ。婦人の之に遇ふ者、皆(五)手を連ねて縈繞し、之に投ずるに果を以てし、車に滿ちて歸る。秀才に擧げられ名世に冠たり。衆の爲に疾まれ、(六)棲遲すること十年、出でゝ河陽の令と爲る。其才を負み、鬱鬱として志を得ず。後黃門侍郞に至る。湛、賢良に擧げられ、對策中第し、散騎常侍に終る。

(一) 前漢の終軍と賈誼と (二) 新しき文詞を創作構成す (三) 一對の美玉 (四) はじき弓にて小さき彈丸をはじき鳥を取る也 (五) 其美しさに見とれ、手をひきて周圍をまとひめぐるとなり (六) 官につかずして遊息すること

以レ法御レ下。視二尙書一若二參佐一。郞若二掾屬一。瓘學問深博。明二習文藝一。與二尙書郞索靖一。俱善二草書一。時號二一臺二妙一。漢末張芝亦善二草書一。論者謂瓘得二伯英筋一。靖得二伯英肉一。瓘筆勝レ靖。然有二楷法一。遠不レ能レ及レ靖。靖字幼安。敦煌人。少有二逸羣之量一。與二鄕人氾衷張彪索紒索永一。俱詣二大學一。馳二名海內一。號二稱敦煌五龍一。靖該二博經史一。擧二賢良一。對策高第。累二遷遊擊將軍一。伯英芝字也。

草書を善くし、時に一臺二妙(四)と號せらる。漢末に張芝亦草書を善くす。論者謂ふ、『瓘は伯英(五)の筋を得、靖は伯英の肉を得』と。瓘の筆は靖に勝る、然れども楷法(六)有ること遠く靖に及ぶ能はず。靖字は幼安、敦煌の人なり。少にして逸羣の量有り。鄕人氾衷・張彪・索紒・索永と、倶に大學に詣り、名を海内に馳せ、敦煌の五龍と號稱せらる。靖、經史に該博なり。賢良(七)に擧げられ、對策して高第し、遊擊將軍に累遷す。伯英は芝の字なり。

(一) 兼任する也　(二) 屬官　(三) 尙書郞を視ること更に其下役の如し　(四) 一つの尙書臺に於ける二人の妙手の義　(五) 張芝のあざな　(六) 眞書の筆法　(七) 賢良科に擧げられ對策して第一番にて及第す

晉潘岳字安

晉の潘岳字は安仁、滎陽中牟の人なり。少にして才穎を以て稱せらる。鄕邑

下ㇾ人。其推ニ轂士及官屬丞史。常引以爲ㇾ賢ニ於己。聞ニ人之善言。進ニ之上。唯恐ㇾ後。山東諸公。以ㇾ此翕然稱ニ鄭莊。後陷ㇾ罪。起爲ニ汝南太守一卒。家亡ニ餘財。先ㇾ是下邽翟公爲ニ廷尉。賓客亦塡ㇾ門。及ㇾ廢。門外可ㇾ設ニ爵羅。後復爲ニ廷尉。客欲ㇾ往。翟公大ニ署其門ニ曰。一死一生。迺知ニ交情。一貧一富。迺知ニ交態。一貴一賤。交情乃見。

の馬を洛外へ通ずる諸方の口に出し置き、以て諸賓を招請するの便に備ふ (五) 大父は祖父、行は列なり、則ち祖父と同年輩位の人といふ意 (六) 鄭當時が大司農の役になりたる時 (七) 速かに取次ぎて内に引入れよと也 (八) 推轂して官を進むるをいふ (九) 皆相一致同心する貌 (一〇) 再び起用せられて (一一) 田興甫の國字解に、翟公の事を引用せるは、二者共に盛衰相似たれど、翟公は人をとがめ鄭當時は德を樂んで人をとがめず、以て鄭をあらはすの意也といへり (一二) 來訪する人絕え、門前に雀を捕ふる網を張るべし

晉書。衞瓘字伯玉。河東安邑人。武帝時拜ニ尙書令。加ニ侍中。性嚴整。

瓘靖二妙　嶽湛連璧

晉書にいふ、衞瓘字は伯玉、河東安邑の人なり。武帝の時、尙書令に拜し、侍中を加へらる。(一)性、嚴整にして法を以て下を御す。尙書を視ること參佐の若く、(二)郎は掾屬の若し。(三)瓘、學問深博にして文藝に明習す。尙書郞索靖と、倶に

字莊。陳人。孝文時以ニ任俠一自喜。脫ニ張羽於阨一。聲聞ニ梁楚閒一。孝景時爲ニ太子舍人一。每ニ五日洗沐一。常置ニ驛馬長安諸郊一。請ニ謝賓客一。夜以繼レ日。常恐レ不レ偏。其知友皆大父行。天下有名之士。武帝時遷ニ大司農一。當時爲ニ大吏一。戒ニ門下一。客至亡ニ貴賤一。亡レ留ニ門者一。執ニ賓主之禮一。以ニ其貴一

より脫せしめ、(二)聲梁楚の閒に聞ゆ。孝景の時太子舍人と爲る。五日の洗沐(三)每に、常に驛馬(四)を長安の諸郊に置き、賓客を請謝し、夜以て日に繼ぎ、常に徧からざるを恐る。其知友は皆大父行(五)にして、天下有名の士なり。武帝の時大司農に遷る。(六)當時大吏となりて門下を戒むらく、「客至らば貴賤と亡く門に留むること亡く、賓主の禮を執れ」と。其貴を以て人に下る。其士及び官屬丞吏(七)を推轂(八)するに、常に引きて以て己より賢れりと爲す。人の善言を聞けば之を上に進め、唯だ後るゝを恐る。山東の諸公此を以て翕然(九)として鄭莊を稱す。後罪に陷り、起ちて(一〇)汝南太守と爲りて卒す。家に餘財亡し。是より先き、下邽(一一)の翟公廷尉と爲るや、賓客亦門に塡つ。廢むるに及び門外爵羅(一二)を設く可し。後復廷尉と爲るや、客往かんと欲す。翟公其門に大署して曰く、『一死一生迺ち交情を知り、一貧一富迺ち交態を知り、一貴一賤交情乃ち見る』と。

(一) 梁の孝王の將軍張羽を危難より救ふ　(二) 名聲、評判　(三) 髮をあらひすゝぐ意にて、休暇をいふ　(四) 宿傳

雪二先王之恥一。孤之願也。先生視二可者一。得二身事一レ之。隗曰。王必欲レ致レ士。先從レ隗始。況賢二於隗一者。豈遠二千里一哉。於レ是昭王。爲レ隗改築レ宮。而師二事之一。樂毅自レ魏往。鄒衍自レ齊往。劇辛自レ趙往。士爭趨レ燕。後與二秦楚三晉一。合レ謀伐レ齊敗レ之。齊城之不レ下者。唯聊莒卽墨。餘皆屬レ燕。孔文擧與二曹公一書曰。昭王築レ臺以尊二郭隗一。鮑昭樂府曰。豈伊白璧賜。將レ起二黃金臺一。注云。燕昭王置二千金於臺上一。以延二天下之士一。

爲に改めて宮を築きて之に師事す。樂毅は魏より往き、鄒衍は齊より往き、劇辛は趙より往き、士爭うて燕に趨く。後、秦楚三晉と、謀を合はせ齊を伐ちて之を敗り、齊城の下らざる者、唯、聊・莒・卽墨のみ。餘は皆燕に屬す。孔文擧曹公に與ふる書に曰く、『昭王臺を築きて以て郭隗を尊ぶ』と。鮑昭の(二)樂府に曰く、『豈に伊れ白璧の賜のみならんや。將に黃金の臺を起さんとす』と。注に云ふ、『燕の昭王千金を臺上に置き、以て天下の士を延く』と。

(一) 先づ拙者を厚遇し給へ、然らば拙者よりも賢ならんもの、必ず遠路も厭はず來り仕へん (二) 朝廟にて用ふる樂章。此全文文選に出づ、註は李善の註の文也

前漢鄭當時

前漢の鄭當時字は莊、陳の人なり。孝文の時任俠を以て自ら喜ぶ。(一)張羽を阨

書率寓言。洸洋自恣以適ㇾ己。故王公大人不ㇾ能ㇾ器ㇾ之。楚威王聞ニ周賢ー。使ニ使厚ㇾ幣迎ㇾ之。許以ㇾ爲ㇾ相。周引ニ此辭ー應ㇾ之。郭象云。樂ㇾ生者畏ㇾ犧而辭ㇾ聘。

ころし　㊄ 蒙は縣名。漆園は城の名　㊅ 其著書はおほむねつくりごとにして、極めて廣大、自ら意のまゝに論議し以てひとり自ら快とすとなり　㊆ 前述の犧牛云々の辭を指す　㊇ 字は子玄、莊子を註す、所謂郭註也

燕昭築臺　鄭莊置驛

史記。燕昭王即ㇾ位。卑ㇾ身厚ㇾ幣。以招ニ賢者ー。謂ニ郭隗ー曰。齊國因ニ孤之國亂ー。而襲破ㇾ燕。孤極知ニ燕小力少。不ㇾ足ニ以報ー。然誠得ニ賢士ー。以共ㇾ國。以

史記にいふ、燕の昭王位に即くや、身を卑うし幣を厚うし、以て賢者を招く。郭隗に謂て曰く、「齊國は孤の國の亂るゝに因りて、襲うて燕を破る。孤、極めて燕の小にして力少く、以て報ゆるに足らざるを知る。然れども誠に賢士を得て以て國を共にし、以て先王の恥を雪がんこと孤の願也。先生可なる者を視て、身之に事ふるを得しめよ」と。隗曰く、「王必ず士を致さんと欲せば、先づ隗より始めよ。況や隗より賢なる者、豈に千里を遠しとせんや」と。是に於て昭王、隗の

鳥也。誼既適居。長沙卑濕。自傷悼以爲。壽不レ得レ長。迺爲レ賦以自廣。歳餘帝思レ誼徵レ之。入見。上方受レ釐坐二宣室一。因感二鬼神事一。而問二鬼神之本一。誼具道下所二以然一之故上。至二夜半一。帝前レ席。既罷曰。吾久不レ見二賈生一。自以爲過レ之。今不レ及也。迺拜二誼梁王太傅一。死年三十三。孔藏鵩賦云。昔賈生有識之士。忌二茲鵩鳥一。

莊子曰。或聘二於莊子一。莊子應二其使一曰。見二夫犧牛一乎。衣以二文繡一。食以二芻菽一。及三其牽而入二於太廟一。雖レ欲レ爲二孤犢一。其可レ得乎。史記曰。莊周蒙人。嘗爲二蒙漆園吏一。與二梁惠王一同レ時。其學本二於老子一。著レ

莊子に曰く、或ひと莊子を聘す。莊子其の使に應へて曰く、「夫の犧牛(一)を見たるか。衣するに文繡(二)を以てし、食せしむるに芻菽(三)を以てす。其牽かれて太廟に入るに及びて、孤犢(四)たらんと欲すと雖も其れ得可けんや」と。史記に曰く、莊周は蒙の人なり。嘗て蒙の漆園の吏と爲る。梁の惠王と時を同うし、其學老子に本づく。(六)書を著す率ね寓言(五)にして、洸洋自ら恣にし、以て己に適す。故に王公大人も之を器とする能はず。楚の威王周の賢なるを聞き、使をして幣を厚うして之を迎へしめ、許すに相と爲すを以てす。周、此辭(七)を引き之に應ふ。郭象(八)云ふ、『生を樂む者は、犧を畏れて聘を辭す』と。

(一) いけにへとなるべき牛　(二) 雜模樣のきぬ。綉は繡の俗訛也　(三) まぐさ、豆　(四) 野原に只一つはなれ居る

之。超遷歲中至二太中大夫一。誼以爲。漢興當下改二正朔一。易二服色制度一。定二官名一。興中禮樂上。迺草二具其儀一。帝謙二讓未一レ皇也。然諸法令所二更定一。皆誼發レ之。天子以レ誼任二公卿之位一。絳灌之屬害レ之。於レ是上亦疎レ之。不レ用二其議一。以爲二長沙王太傅一。三年有レ鵩飛入レ舍。止二於坐隅一。鵩似レ鴞不祥

坐隅に止る。鵩は鴞に似て不祥の鳥なり。誼、既に適居し(九)、長沙は卑濕なれば、自ら傷悼して以爲らく、壽長きを得じと。迺ち賦を爲り以て自ら廣くす(一〇)。歲餘にして帝、誼を思ひて之を徵す。入りて見ゆるに、上、方に釐を受けて(一一)宣室(一二)に坐す。因りて鬼神の事に感じ、鬼神の本を問ふ。誼、具に然る所以の故を道ひ、夜半に至る。帝、席を前む。既にして罷めて曰く、「吾れ久しく賈生を見ず、自ら以爲らく(一三)之に過ぎたりと。今は及ばざるなり」と。迺ち誼を梁王の太傅に拜す。死するとき年三十三。孔藏の鴞賦に云ふ、『昔、賈生有識の士、茲の鵩鳥を忌む』と。

(一) 文を作る　(二) 罪人を取調ぶる役。我が檢非違使の官之に類せるを以て亦廷尉といふ　(三) 各人皆我が言はんと欲する所の如し。其言說各人の意に叶ふと也　(四) 順序を飛び越えて官の進むをいふ　(五) 正月を立てかへる、卽ち曆を改正する義　(六) 遑に同じ、暇也　(七) 絳侯周勃、灌嬰の徒之をいみねたみて惡しざまにいふ　(八) 天子　(九) 適は謫に通ず。謫居せる其上に也　(一〇) 心を廣くし慰む　(一一) ひもろぎ、神に供へたる肉　(一二) 未央宮前の正室の名稱　(一三) 我が學才賈生に過ぎたりと思ひしが、今にして到底及ばざるを知れり。一說「之を過てり」と訓じ、賈生を見ざりしを過ちと思へども今は悔いても及ばずと解す。又一說「之に過たると。今及ばざる也」と訓じ、今迄賈生に過たれたりと思ひしも斯く說を聽きて見れば到底賈生に及ばずと解す

前漢賈誼。雒陽人。年十八。能誦二詩書一。屬レ文。稱二於郡中一。河南守吳公。聞二其秀材一。召置二門下一。及レ爲二廷尉一。迺言。誼年少頗通二諸家書一。文帝召爲二博士一。每二詔令議下一。諸老先生未レ能レ言。誼盡爲二之對一。人人各如二其意所一レ出。諸生以爲レ能。帝說レ

賈誼忌鵩　莊周畏犧

前漢の賈誼は雒陽の人なり。年十八にして、能く詩書を誦し文を屬し、郡中に稱せらる。河南の守吳公、其秀材を聞き、召して門下に置く。(二)廷尉と爲るに及び、迺ち言うす、「誼、年少にして頗る諸家の書に通ず」と。文帝召して博士と爲す。詔令の議下る每に、諸老先生未だ言ふ能はず。誼、盡く之が對を爲し、(三)人人各々其意の出さんとする所の如し。諸生以て能と爲し、帝之を說ぶ。(四)超遷して歲中に太中大夫に至る。誼以爲らく、漢興り、當に正朔(五)を改め、服色・制度を易へ、官名を定め、禮樂を興すべしと。迺ち具に其儀を草す。帝、未だ皇あらずと謙讓す。然れども諸法令更定する所、皆誼之を發す。天子、誼を以て(六)公卿の位に任ぜんとす。(七)絳灌の屬之を害ふ。是に於て上も(八)亦之を疎んじ、其議を用ひず、以て長沙王の太傅と爲す。三年にして、鵩有り飛んで舍に入り、

生。在位六年無レ子。先レ是三吳女子。相與簪二白花一。望レ之如二素柰一。傳言。天公織女死。爲レ之著レ服。至レ是而后崩。

㈠成帝の后、諡は恭、姓は杜　㈡いつも其爲めに結婚の話が中止になる　㈢成帝より結納をいるゝ日　㈣吳郡、吳興、丹陽の稱といふ　㈤白き花の山梨。山梨の花には青白赤の三色あり　㈥天帝の后たる織女死し、その爲めの喪服として白花を簪とすと也　㈦此いひふらしが讖を爲して遂に皇后が崩じたりと也

左氏傳。王子朝曰。定王六年。秦人降レ妖曰。周其有二髭王一。亦克能修二其職一。諸侯服享。二世共レ職。王室其有レ閒二王位一。諸侯不レ圖。而受二其亂災一。至二于靈王一。生而有レ髭。王甚神聖。無レ惡二於諸侯一。靈王景王克終二其世一。

左氏傳にいふ、王子朝曰く、定王の六年、秦人、妖㈠を降して曰く、『周に其れ髭王㈡有り、亦克く能く其職を修め、諸侯服享㈢し、二世職を供せん。㈣王室其れ王位を㈤閒ふ有り、諸侯圖らずんば、其亂災を受けん』と。靈王に至り、生れながらにして髭有り。王甚だ神聖にして、諸侯に惡まるゝこと無く、㈥靈王・景王克く其世を終へたり。

㈠妖言をいひふらして　㈡鼻下にひげの生じたる人出來るならん　㈢歸服して貢を奉り　㈣其ひげの有る王及び其子の二世の間諸侯よく其職をそなへつとめん　㈤奪はんとしてすきをねらふ　㈥妖言の二世といふに當れる也

傳。蕭芝至孝。除二尚書郎一。有二雉數十頭一。飲啄宿止。當二上直一。送至二岐路一。及二下直一入レ門。飛二鳴車前一。

宿止す。(三)上直に當れば、送りて岐路に至り、(四)下直に及びて門に入り、車前に飛鳴す。

(一)拜す、任ぜらる　(二)蕭芝の家に集りて、水を飲み食をついばみて止る　(三)蕭芝が宿直に當れば、雉は芝を送りて分れ路の所まで行く　(四)役所を下りて歸宅すること

晉書。成恭杜皇后。諱陵陽。鎭南將軍預曾孫。后少有二姿色一。然長猶無レ齒。有二來求レ婚者一。輒中止。及二帝納采之日一。一夜齒盡

杜后生齒　靈王出髭

晉書にいふ、(一)成恭杜皇后、諱は陵陽、鎭南將軍預の曾孫なり。后、少にして姿色有り。然れども長じて猶ほ齒無し。來りて婚を求むる者有れども、輒ち(二)中止す。帝、(三)納采の日に及び、一夜にして齒盡く生ず。在位六年にして子無し。是より先き三吳の女子、(四)相與に白花を簪にす。之を望めば素柰の如し。(五)傳へ言ふ、(六)『天公の織女死して、之が爲に服を著く』と。(七)是に至りて后崩ず。

府吏舍百餘區。井水皆竭。又其府中列ニ柏樹一。常有ニ野烏數千一。棲ニ宿其上一。晨去暮來。號曰ニ朝夕烏。烏去不レ來者數月。長老異レ之。後二歲餘。博爲ニ大司空一奏言。高皇帝置ニ御史大夫一。位次ニ丞相一。今中二千石。未レ更ニ御史大夫一而爲ニ丞相一。權輕。非レ所ニ以重ニ國政一也。臣以爲大司空官可レ罷。復置ニ御史大夫一。遵ニ奉舊制一。臣願盡レ力。以爲ニ百僚率一。從レ之。迺更拜ニ博御史大夫一。後爲ニ丞相一。坐レ事自殺。

り暮に來る、號して朝夕烏と曰ふ。烏去りて來らざること數月、長老之を異む。後二歲餘にして、博、大司空と爲り、奏して言ふ、「高皇帝、御史大夫を置き、位丞相に次ぐ。今、中二千石(三)、未だ御史大夫を更へずして丞相と爲るをもて、權輕し。國政を重んずる所以に非ざるなり。臣以爲らく、大司空の官は罷む可し、復御史大夫を置きて、舊制を遵奉せん。臣願くは力を盡し、以て百僚の(四)率とならん」と。之に從ふ。迺ち更めて博を御史大夫に拜す。後丞相と爲り事に坐して自殺す。

(一)裁判所也　(二)役人の家、官舍　(三)一ケ月二千石の祿、多くは郡國の刺史の受くる秩也　(四)百官の率先者、多くの役人の手本

蕭廣濟孝子

蕭廣濟の孝子傳にいふ、蕭芝至孝なり。尙書郞に除す。(一)雉數十頭有り、(二)飮啄

稱詠以爲。自下所二聞識一刺史上。未レ有二及レ習者一。文帝時復爲二刺史一。政治常爲二天下最一。舊本習作レ集誤。

淮南子曰。楊子見二逵路一而哭レ之。爲下其可二以南一可中以北上。墨子見二練絲一而泣レ之。爲下其可二以黄一可中以黒上。高誘曰憫二其本同而末異一。

墨子悲絲　楊朱泣岐

淮南子に曰く、楊子逵路(一)を見て之に哭す。其以て南す可く、以て北す可きが爲なり。墨子練絲(二)を見て之に泣く。其以て黄にす可く以て黒にす可きが爲なり。高誘曰く、『其本同じくして末異なるを憫むなり』と。

(一) 道の幾筋にも分れる所　(二) ねり上げたるばかりにて色を染めざる眞白き絲

前漢朱博字子元。杜陵人。哀帝時。御史

朱博烏集　蕭芝雉隨

前漢の朱博字は子元、杜陵の人なり。哀帝の時、御史府(一)の吏舍(二)百餘區、井水皆竭く。又其府中栢樹を列せるに、常に野烏數千有りて、其上に棲宿し、晨に去

史一。承二高幹荒亂之餘一。胡狄在レ界。張レ雄跋扈。吏民亡叛入二其部落一。兵家擁レ衆作爲二寇害一。更相扇動。往往棊跱。習到レ官。誘喩招納。皆禮二召其豪右一。稍相薦擧。使レ詣二幕府一。邊境肅清。百姓布レ野。勤勸二農桑一。令行禁止。貢二達名士一。咸顯二於世一。太祖嘉レ之。賜二爵關內侯一。更拜爲レ眞。長老

往棊跱す(四)。習、官に到り、誘喩(五)招納し、皆其豪右(六)を禮召し、稍く相薦擧し、幕府(七)に詣らしむ。邊境肅清、百姓野(八)に布く。勤めて農桑を勸め、令行はれ禁止み、名士を貢達し、咸世に顯る。太祖(九)之を嘉して爵關內侯を賜ひ、更に拜して眞(一〇)と爲す。長老(一一)稱詠して以爲らく、聞識(一二)する所の刺史より、未だ習に及ぶ者有らずと。文帝の時、復刺史と爲りしが、政治常に天下の最(一三)たり。舊本に習を集(一四)に作るは誤なり。

(一) 大將軍の營を五部に分ち、各部校尉軍司馬各一人あり、其内にて校尉を置かざる部は軍司馬一人のみ、其場合の別營の小頭を別部司馬といふ (二) もと幷州の刺史にて一旦曹操に降り、後又反して亡されたる者。梁習は其後へ行きて治めたる也 (三) 胡夷の部落 (四) 處々に勢威を振ふ (五) 背き逃れんとする者を諭し止め、既に逃亡せるものを招き返す (六) 豪族、勢力ありて頭立ちたる者 (七) 將軍の陣營。曹操のもとに也 (八) 野の末まで家を立て連ぬ (九) 曹操也 (一〇) 名目だけでなく、眞の關內侯とすること (一一) 故老といふに同じ、世故に長じたる老人たち也 (一二) 噂に聞き又は自ら識れる多くの刺史中にて習に及ぶもの一人も無しと思へりとなり (一三) 第一等 (一四) 見出しの梁習を梁集と作れるは誤也

帝時擢揚州刺史。以賢良高第爲潁川太守。力行教化而後誅罰。外寛内明。得吏民心。戸口歳増。治爲天下第一。徴守京兆尹。坐貶秩歸潁川。前後八年。郡中愈治。是時鳳凰神爵。數集郡國。潁川尤多。天子以霸治行終長者。下詔稱揚。賜爵關内侯。黄金百斤。秩中二千石。後爲丞相。霸材長於治民。及爲相總綱紀號令。風采不及丙魏于定國。功名損於治郡。

を下して稱揚し、爵關内侯、黄金百斤、秩中二千石を賜ふ。後丞相と爲る。霸の材や治民に長ず、相と爲りて綱紀號令を總ぶるに及びては、(一二)風采丙・魏・于定國に及ばず、(一三)功名は郡を治むるときよりも損ぜり。

㊀才能ある者を官に召し、なほ正官に任ぜざるもの ㊁錢を献納して官を賜はる ㊂朝廷に於ける取次の役人 ㊃京師中の東の方面を治むる官、卒史は其下役頭也 ㊄上位高官に置かずとなり ㊅計算を掌らしむ ㊆試驗の賢良科を第一番にて及第すること ㊇京師の事を掌る役に任ず ㊈罪のまきぞへにあひて ㊉共に國のよく治りたる時にあちはるると謂はるゝ瑞鳥なり (一一)黄霸の治績は實に有德の長者たる行爲に至れるを以て (一二)一ケ月二千石の秩祿 (一三)丙吉、魏相、此二人は黄霸前の相、于定國は後の相

魏志。梁習字子虞。陳郡拓人。以別部司馬。領并州刺

魏志にいふ、梁習字は子虞、陳郡拓の人なり。(一)別部司馬を以て、并州の刺史を領す。(二)高幹が荒亂の餘を承け、胡狄は界に在り。雄を張りて跋扈し、吏民は亡叛して其部落に入り、(三)兵家は衆を擁し作つて寇害を爲し、更〻相扇動し、往

及ㇾ薨朝廷痛惜焉。初安父歿。訪ニ求葬地一。道逢ニ三書生一。問ㇾ安。何之。安告ㇾ之。生乃指ニ一處一云。葬ニ此地一當ニ世爲ニ上公一。須臾不ㇾ見。安異ㇾ之。於ㇾ是葬ニ其地一。故累世隆盛。

前漢黃霸字次公。淮陽陽夏人。武帝末。以ニ待詔一入ㇾ錢賞ㇾ官。補ニ侍郎謁者一。後復入ㇾ穀。補ニ左馮翊二百石卒史一。馮翊以ニ霸入ㇾ財爲ㇾ官。不ㇾ署ニ右職一。使ㇾ領ニ郡錢穀計一。簿書正以ㇾ廉稱。宣

黃霸政殊　梁習治最

前漢の黃霸字は次公、淮陽陽夏の人なり。武帝の末、待詔(一)を以て錢を入れ官(二)に賞せられ、侍郎謁者(三)に補せらる。後復穀を入れ、左馮翊(四)二百石の卒史に補せらる。馮翊、霸が財を入れ官と爲るを以て、右職(五)に署せず、郡の錢穀の計(六)を領せしむ。簿書正しく廉を以て稱せらる。宣帝の時楊州の刺史に擢でられ、賢良高第(七)を以て潁川の太守と爲る。力めて教化を行ひて誅罰を後にす。外寛に內明かに、吏民の心を得、戶口歲に增し、治、天下第一たり。徵されて京兆の尹(八)に守たり。坐して(九)秩を貶され潁川に歸る。前後八年、郡中愈〻治まる。是の時鳳凰(一〇)・神爵數〻郡國に集り、潁川最も多し。天子、霸(一一)の治行終に長者たるを以て、詔

是爲二桓帝一。以レ此譏二毀於時一。自レ在二公臺一三十餘年。歷二事安順沖質桓靈六帝一。凡一履二司空一。再作二司徒一。三登二大尉一。又爲二太傅一。其所二辟命一皆天下名士。與二故吏陳蕃李咸一。竝爲二三司一。蕃等每二朝會一。輒稱レ疾避レ廣。時人榮レ之。

後漢袁安字邵公。汝南汝陽人。嚴重有レ威。見レ敬二於州里一。肅宗末爲二司空一。遷二司徒一。和帝時薨。初安以二天子幼弱外戚擅一レ權。每下朝會進見及與二公卿一言中國家事上。未三嘗不二噫嗚流涕一。自二天子一及二大臣一。皆倚二賴之一。

後漢の袁安、字は邵公、汝南汝陽の人なり。嚴重にして威有り、州里に敬はる。肅宗の末に司空と爲り、司徒に遷り、和帝の時薨ず。初め安、天子幼弱にして外戚の權を擅にするを以て、朝會(一)・進見及び公卿と國家の事を言ふ每に、未だ嘗て噫嗚流涕(二)せずんばあらず。天子より、大臣に及ぶまで、皆之に倚賴す。薨ずるに及び朝廷痛惜す。初め安の父歿し、葬地を訪ね求むるに、道に三書生に逢ふ。安に問ふ、「何にか之く」と。安、之を告ぐ(三)。生(四)乃ち一處を指して云ふ、「此地に葬むらば當に世〻上公(五)と爲るべし」と。須臾にして見えず。安、之を異とす。是に於て其地に葬むる。故に累世隆盛なり。

(一)朝會は臣下の朝廷へ參集すること。進見は單獨に天子に拜謁すること (二)なげき悲しみ涙を流す (三)父の葬地を尋ね求むることを告ぐ (四)三書生 (五)三公也

性温柔謹素。常遜言恭色。達二練事體一。明二解朝章一。雖レ無二謇直之風一。屢有二補闕之益一。故京師諺曰。萬事不レ理問二伯始一。天下中庸有二胡公一。及下共二李固趙戒杜喬一議上レ立二清河王蒜一。而蠡吾侯志取二梁冀妹一。冀欲レ立レ之。廣戒憚レ冀皆曰。惟大將軍令。獨固與レ喬。堅守二本議一。竟立二蠡吾侯一。

を立てんと議するに及びて、蠡吾侯志、梁冀の妹を娶れるをもて、冀、之を立てん(八)と欲す。廣・戒、冀を憚り、皆曰く、『惟だ大將軍の令のまゝなり(九)』と。獨り固と喬とは、堅く本議(一〇)を守りしが、竟に蠡吾侯を立つ。是を桓帝と爲す。此を(一一)以て時に譏毀せらる。公臺(一二)に在りてより三十餘年、安・順・沖・質・桓・靈の六帝に歴事し、凡そ一たび司空を履み(一三)、再び司徒と作り、三たび大尉に登り、又太傅と爲る。其辟命(一四)する所、皆天下の名士なり。故吏(一五)陳蕃・李咸と、竝に三司と爲る。蕃等朝會毎に、輒ち疾と稱して(一六)廣を避く。時人之を榮(一七)とす。

(一) 孝廉に擧げられ、其試驗に天子へ上奏の文を書くこと。孝廉は試驗の科目の名なり (二) 累進して (三) 萬事によく練達し (四) 朝廷の法令儀式に明かなり (五) 直言して憚らざるの風はなけれど、政治の闕けたるを補ふの益ありとなり (六) 理解せずば、譯が分らずば (七) 胡廣を尊重していふ語 (八) 蠡吾侯志を (九) 梁冀をいふ (一〇) 清河王を立てんとする最初よりの議 (一一) 廣が梁冀の威におそれて其不道を制せざりし故を以て也 (一二) 三公の位 (一三) 其位に居るをいふ (一四) 胡廣が任命したる者は (一五) 廣の以前の下役 (一六) 重んじ憚る也 (一七) 廣の榮譽

乃使下隸二夏侯駿一西征上。伏波將軍孫秀謂レ之曰。卿有二老母一。可三以レ此辭二。處曰。忠孝之道。安得二兩全一。既辭レ親事レ君。父母安得而子乎。已而戰敗。左右勸レ退。處按レ劍曰。此吾效レ節授レ命之日。何退之爲。且古者良將。受二命凶門一以出。蓋有レ進無レ退也。諸君負レ信。勢必不レ振。我爲二大臣一。以レ身殉レ國。不二亦可一乎。遂力戰而沒。追二贈平西將軍一。

子として私する譯には行かず　一四　國家の爲めに一命を捨てる　一五　死者を送出す門。生還を期せざるをいふ　一六　君と約したる信に負き一命を惜むやうにては軍威振はずして必ず敗れん　一七　時に副將軍たれば斯くいふ

後漢胡廣字伯始。南郡華容人。察二孝廉一試二章奏一。安帝以レ廣爲二天下第一一。累爲二三公一。年已八十。而心力克壯。

胡廣補闕　袁安依賴

後漢の胡廣字は伯始、南郡華容の人なり。(一)孝廉に察せられ章奏を試す。安帝、廣を以て天下第一と爲す。累して三公と爲る。年已に八十にして心力克く壯なり。性溫柔謹素にして、常に(二)遜言恭色なり。事體に(三)達練し、(四)朝章を明解す。(五)謇直の風無しと雖も、屢〻補闕の益有り。故に京師の諺に曰く、『萬事理せず(六)んば伯始に問へ、天下の中庸は胡公に有り』(七)と。李固・趙戒・杜喬と共に、淸河王蒜

何謂也。答曰。南山白額猛虎。長橋下蛟。并レ子爲レ三矣。處曰。吾能除レ之。乃入レ山射二殺猛虎一。投レ水搏二殺蛟一。遂勵レ志好レ學有二文思一。志存二義烈一。言必二忠信一。克レ己朞年。州府交辟。仕レ晉爲二御史中丞一。凡所二糾劾一。不レ避二寵戚一。及二氏人齊萬年反一。朝臣惡二處强直一。皆曰。處名將子。忠烈果毅。

寵戚を避けず。氏(一〇)の人齊萬年の反するに及び、朝臣、處が强直を惡み、皆曰く、『處は名將(一一)の子、忠烈果毅(一二)なり』と。乃ち夏侯駿に隷して、西征せしむ。伏波將軍孫秀之に謂て曰く、「卿に老母有り、此を以て辭す可し」と。處曰く、「忠孝の道は安ぞ兩全を得ん。既に親を辭して君に事ふ。(一三)父母安ぞ得て子とせんや」と。已にして戰敗る。左右退かんことを勸む。處、劍を按じて曰く、「此れ吾が節を效し命(一四)を授くるの日なり。何ぞ退くことをこれ爲さん。且つ古の良將、命を(一五)凶門に受け以て出づ。蓋し進む有りて退く無きなり。(一六)諸君信に負かば、勢必ず振はざらん。我は大臣たり、身を以て國に殉ず、亦可ならずや」と。遂に力戰して沒す。平西(一七)將軍を追贈す。

(一) うで力 (二) 世間並みの細々しき操行 (三) 州里。其むらざとの人々 (四) 世平和にて (五) お前。周處を指していふ (六) 文雅の志 (七) 滿一年 (八) あちらよりもこちらよりも召し抱へんとす (九) 罪のたゞすべきは、其寵臣たると貴戚の人たるとを問はず、容赦なく之を罰す (一〇) 西南の夷の名 (一一) 處の父周鲂は呉の鄱陽の太守にて軍功ありし人也 (一二) 果断豪毅、氣性のつよきをいふ (一三) 既に君に捧げたるからだなれば、父母とても我

大事。而不レ求二劇孟一。吾知三其無二能爲一已。天下騷動。大將軍得レ之。若二一敵國一。

(一)任俠、をとこぎ　(二)景帝の三年吳王濞楚王戊等七國の反せしをいふ　(三)劇孟が麾下に投じたる也　(四)周亞夫の劇孟を得たるは　(五)一敵國を得たるがごとし。劇孟を味方に得たる以上必ず敵に勝つべし、卽ち劇孟を得たるは戰はずして既に一敵國を征服したるが如く思ふと也

晉周處字子隱。義興陽羨人。膂力絕レ人。不レ修二細行一。州曲患レ之。處自知二爲レ人所一レ惡。慨然有二改勵之志一。謂二父老一曰。今時和歲豐。何苦而不レ樂。父老歎曰。三害未レ除。何樂之有。處曰。

晉の周處字は子隱、義興陽羨の人なり。膂力人に絕し、細行を修めず。州曲之を患ふ。處、自ら人に惡まるゝを知り、慨然(一)として改勵の志(二)有り。父老(三)に謂て曰く、「今時(四)和して歲豐なり。何を苦んで樂まざる。」父老歎じて曰く、「三害未だ除かず、何の樂かこれ有らん。」處曰く、「何の謂ぞや。」答へて曰く、「南山の白額の猛虎と、長橋の下の蛟と、子とを并せて三と爲す。」處曰く、「吾れ能く之を除かん」と。乃ち山に入りて猛虎を射殺し、水に投じて蛟(五)を搏殺し、遂に志を勵まし學を好みて文思(六)有り。志は義烈を存し、言は忠信を必とす。己に克つこと(七)朞年にして、州府交(八)〻辟す。晉に仕へて御史中丞と爲る。凡そ(九)糾劾する所

一相思。輒千里命ㇾ駕。康友而善ㇾ之。

家語曰。孔子之ㇾ郯。遭二程子於塗一。傾ㇾ蓋而語。終日甚相親。顧謂二子路一曰。取二束帛一以贈二先生一。

家語(一)に曰く、『孔子郯に之く。程子に塗に遭ひ、蓋(二)を傾けて語り、終日甚だ相親む。顧て子路に謂て曰く、束帛(三)を取り以て先生に贈れと。』

(一) 孔子家語、巻の二致思篇　(二) 車を駐むるをいふ　(三) たばねたるきぬ

劇孟一敵　周處三害

前漢劇孟洛陽人。以ㇾ俠顯。呉楚反時。條侯周亞夫爲二大尉一。東將ㇾ至二河南一。得二劇孟一。喜曰。呉楚擧二

前漢の劇孟は洛陽の人なり。(一)俠を以て顯る。(二)呉楚の反せし時、條侯周亞夫大尉と爲り、東、將に河南に至らんとして、(三)劇孟を得、喜んで曰く、「呉楚大事を擧げて劇孟を求めず。吾れ其能く爲す無きを知るのみ。天下騷動するとき、(四)大將軍之を得るは、(五)一敵國の若し」と。

兵革。上下相安。何因有二大水暴至一。此必訛言。上遽止。果訛言。上美二壯商之固守一。數稱二其議一。而鳳大慙。後爲二丞相一。爲レ人多質有二威重一。長八尺餘。身體鴻大。容貌過レ人。單于來朝。商坐二未央廷中一。單于前拜二謁商一。仰見大畏レ之。遷延却退。上聞歎曰。眞漢相矣。鳳怨レ商。陰求二其短一。卒爲レ所レ中。免レ相薨。

㊀噂しさわぐ也　㊁押合ひへし合ひてさわぐ形容　㊂太后は天子及び后宮と共に船に召させらるべし　㊃戰亂　㊄あやまりの言ひふらし　㊅質朴にて飾なきをいふ　㊆匈奴の王をいふ　㊇宮殿の名　㊈あとしざりして引きさがる　㊉缺點過失　⑪罪におとされ法に處せらる

晉書。嵇康字叔夜。譙國銍人。性巧好レ鍛。宅中有二一柳樹一。甚茂。乃激レ水圜レ之。毎二夏月一居二其下一以鍛。東平呂安服二其高致一。毎二

嵇呂命駕　程孔傾蓋

晉書にいふ、嵇康字は叔夜、譙國銍の人なり。性、巧にして鍛(一)を好む。宅中に一柳樹有り、甚だ茂る。乃ち水を激(二)して之を圜らし、夏月毎に其下に居り以て鍛す。東平の呂安其高致(三)に服し、一たび相思ふ毎に、輒ち千里駕(四)を命ず。康、友として之に善くす。

㊀鍛冶　㊁堰き上げて　㊂高遠の風致　㊃遠路を厭はず車馬の用意を命じて訪問すと也

前漢王商字子威。涿郡蠡吾人。成帝時爲二左將軍一。京師民無レ故相驚言。大水至。百姓奔走相蹂躪。老弱號呼。長安中大亂。天子召二公卿一議。大將軍王鳳以爲。太后與二上及后宮一可レ御レ船。令下吏民上二長安城一以避上レ水。商曰。自レ古無道之國。水猶不レ冒二城郭一。今政治和平。世無二

前漢の王商字は子威、涿郡蠡吾の人なり。成帝の時左將軍と爲る。京師の民故無くして相驚(一)かして言ふ、『大水至る』と。百姓奔走して相蹂躪(二)し、老弱號呼し、長安中大に亂る。天子、公卿を召して議せしむ。大將軍王鳳以爲らく、太后(三)は上及び后宮と船に御す可し。吏民をして長安城に上り以て水を避けしめんと。商曰く、「古より無道の國も、水猶ほ城郭を冒さず。今政治和平にして、世に兵革(四)無く、上下相安ず。何に因て大水の暴に至ること有らんや。此れ必ず訛言ならん」と、上迺ち止む。果して訛言なりき。上、商の固守を美壯とし、數〻其議を稱し、鳳大に慙づ。後丞相(五)と爲る。人と爲り質(六)多く威重有り。長八尺餘、身體鴻大にして、容貌人に過ぎたり。單于(七)の來朝するや、商、未央(八)の廷中に坐せり。單于前みて商に拜謁し、仰ぎ視て大に之を畏れ、遷延(九)却退す。上聞きて歎じて曰く、「眞に漢の相なり」と。鳳、商を怨み、陰に其短(一〇)を求む。卒に中(一一)つる所と爲り、相を免ぜられて薨ず。

後漢桓譚字君山。沛國相人。好二音律一。世祖卽レ位。拜二議郎給事中一。後詔會二議靈臺所一レ處。時帝方信レ讖。多以決二定嫌疑一。謂レ譚曰。吾欲二讖決一レ之。何如。譚曰。臣不レ讀レ讖。帝問二其故一。譚復極二言讖之非一レ經。帝大怒曰。譚非レ聖無レ法。將二下斬一レ之。叩頭流レ血。乃得レ解。出爲二六安郡丞一卒。

桓譚非讖　王商止訛

後漢の桓譚字は君山、沛國相の人、音律を好む。世祖位に卽くや、議郎給事中に拜せらる。後詔して靈臺の處かるゝ所を會議す。時に帝方に讖を信じ、多く以て嫌疑を決定す。譚に謂て曰く、「吾れ讖して之を決せんと欲す、何如」譚曰く、「臣は讖を讀まず」と。帝其故を問ふ。譚復讖の經に非ざるを極言す。帝大に怒りて曰く、「譚は聖を非り法を無す」と。將に下して之を斬らんとす。叩頭血を流し、乃ち解くことを得たり。出でゝ六安郡の丞と爲り卒す。

(一)光武帝　(二)議郎は天子の左右に伺候して下問に答ふる役、給事中は早朝參內して尙書の官よりの上申を處理する役　(三)天文臺　(四)未來記の類、纖緯符命とて五經及び孝經などを本として將來の事を占ふやうに其文を引き合はせたるもの　(五)疑はしきこと　(六)聖經に非らざる故信ずるに足らずとなり。(七)帝は讖を崇拜して之を聖といひ法といふ也　(八)帝の怒を解き斬を許さる

藻宏麗。華嘗謂レ之曰。人之爲レ文。常恨二才少一。而子更患二其多一。弟雲嘗與レ書曰。君苗見二兄文一。輒欲レ燒二其筆硯一。華薦二之諸公一。累二遷中書郎一。後成都王穎起レ兵。討二長沙王乂一。假二機後將軍河北大都督一。機以二羇旅一入宦。頓居二羣士之右一。皆有二怨心一。譖二之於穎一。穎怒使二人收レ機。機歎曰。華亭鶴唳。豈可二復聞一乎。遂遇レ害。初機有二駿犬一。名二黃耳一。既羇二寓京師一。久無二家問一。笑語レ犬曰。我家絕無レ書。汝能齎レ書。取二消息一否。犬搖レ尾作レ聲。機乃爲レ書。以二竹筒一盛レ之。繫二其頸一。犬尋レ路南走。遂至レ家。得レ報還レ洛。後以爲レ常。

黃耳と名づく。既に京師に羇寓し、久しく家問(一三)無し。笑ひて犬に語りて曰く、「我が家絕えて書無し。汝能く書を齎して消息を取るや否や」(一四)と。犬、尾を搖し聲を作す。機、乃ち書を爲り竹筒を以て之に盛り、其頸に繫ぐ。犬、路を尋ねて南に走り、遂に家に至り、報を得て洛に還る。後には以て常と爲せり(一五)。

(一) 大常は官名。國中及び宗廟の禮儀を掌る　(二) 陸機陸雲の二俊に逢ふは第一の利益也　(三) 羊乳にて製したる美味　(四) 吳中には此に比すべき珍品あるかと問ひしに、吳國の千里湖に產する蓴菜のあつものに鹽味噌を添へたるものは天下の珍品也、羊酪は未だ鹽豉を添へざる前の味しかなしと答へしなり　(五) うまいこたへ　(六) 詩文の語句宏大にして美し　(七) 陸雲の幼時の字名　(八) 其巧みなるに及ばずして文を作るを止めたくなる　(九) 假に此官に任ずる也　(一〇) 旅人の身にてありながら入りて仕官し、にはかに他の諸士の上に立つ　(一一) 捕へて刑に行はしむ　(一二) 華亭は陸機が故鄉にて吳王より始めて封ぜられたる縣名。鶴唳は鶴のなきごゑ　(一三) 故鄉よりの音信　(一四) 我が書を持ち行きて先方よりの音信を取り來るや否や　(一五) 常に犬を使として遣したり

晉陸機字士衡。呉郡人。大司馬抗之子。身長七尺。其聲如鍾。少有二異才。文章冠レ世。與二弟雲一倶入レ洛。造二太常張華一。華素重二其名一。如二舊相識一。曰伐レ呉之役。利レ獲二二俊一。又詣二侍中王濟一。濟指二羊酪一謂曰。呉中何以敵レ此。答云。千里蓴羹。未レ下二鹽豉一。時人稱爲二名對一。機天才秀逸。辭

晉の陸機字は士衡、呉郡の人、大司馬抗が子なり。身の長七尺、其聲鍾の如し。少にして異才有り、文章世に冠たり。弟雲と倶に洛に入り、太常張華に(一)造る。華素其名を重じ、舊相識の如し。曰く、「呉を伐つの役、二俊を(二)獲るを利とす」と。又侍中王濟に詣る。濟、(三)羊酪を指し謂て曰く、「呉中(四)何を以てか此に敵せん。」答へて云ふ、「千里の蓴羹未だ鹽豉を下さず」と。時人稱して名對と爲せり。機、天才秀逸、辭藻(六)宏麗なり。華嘗て之に謂て曰く、「人の文を爲る、(五)常に才の少きを恨む。而るに子は更に其多きを患ふ」と。弟雲嘗て書を與へて曰く、「君苗、(七)兄の文を見れば、輒ち其筆硯を燒かんと欲す」と。華、之を諸公に薦む。中書郎に累遷す。後、成都王穎、(八)兵を起し、長沙王乂を討つや、機に後將軍河北大都督を假す。(九)機、羈旅を(一〇)以て入りて宦し、頓に羣士の右に居る。皆怨むる心有りて、之を穎に譖る。穎怒り、人をして機を收めしむ。(一一)機歎じて曰く、「華亭の鶴唳、(一二)豈に復聞く可けんや」と。遂に害に遇ふ。初め機に駿犬有り、

後漢傅毅字武仲。扶風茂陵人。少博學。肅宗博召二文學之士一。以レ毅爲二蘭臺令史一。拜二郎中一。與二班固賈逵一共典二校書一。毅追二美明帝功德一最盛。而廟頌未レ立。乃依二清廟一。作二顯宗頌十篇一奏レ之。由レ是文雅顯二於朝廷一。魏文帝典論曰。文人相輕。自レ古而然。傅毅之於二班固一。伯仲之間耳。而固小レ之。與二弟超一書曰。武仲以二能屬一レ文。爲二蘭臺令史一。下レ筆不レ能二自休一。

後漢の傅毅字は武仲、扶風茂陵の人、少にして博學なり。肅宗、博く文學の士を召し、毅を以て蘭臺令史と爲す。(一)郎中に拜し、班固・賈逵と共に校書(二)を典る。毅、明帝の功德を追美(三)すること最も盛なれども、廟頌(四)未だ立たず。乃ち清廟(五)に依り、顯宗の頌十篇を作つて之を奏す。是に由て文雅朝廷に顯る。魏の文帝の典論に曰く、『文人相輕ずる古よりして然り。傅毅の班固に於ける、伯仲(六)の間のみ。而るに固、之を小とし、(七)弟超に與ふる書に曰く、武仲能く文を屬するを以て蘭臺令史と爲り、筆(八)を下して自ら休む能はずと。』

(一) 天子の文庫の長官にて天子へ奉る表文、天子詔書の文案作製等を掌る (二) 諸書の校訂註解 (三) 後より讃美する (四) 功德を稱美し、宗廟の前にて、音樂に合せて歌ふ詩。立たずは未だ作らずと也 (五) 詩經周頌中の詩篇の名、周の文王の德を頌せるもの。之を本據として顯宗（明帝の廟號）を頌する詩を作れる也 (六) 伯は長子、仲は二子。格別の優劣なき喩 (七) 傅毅を立派なる文士ならずとし (八) ひたすら文を作りて筆を休めず。其能文にはこるを誇りたる詞也

迺與二其客二人一。乘レ傳詣二洛陽一。謝二使者一曰。横始與二漢王一倶南面稱レ孤。今王爲二天子一。而横爲二亡虜一。其愧已甚。遂自剄。令下客奉二其頭一奏上レ之。高帝爲レ之流レ涕。以二王禮一葬レ之。拜二其二客一爲二都尉一。既葬。二客穿二其冢旁一。皆自到。其餘五百人在二海中一。聞二横死一。亦皆自殺。李周翰曰。横自殺。從者不二敢哭一。而不レ勝レ哀。故爲二悲歌一以寄レ情。後廣レ之爲二薤露蒿里歌一。以送レ終。至二李延年一。分爲二二等一。薤露送二王公貴人一。蒿里送二士大夫庶人一。挽レ柩者歌レ之。因呼爲二挽歌一。

葬る。二客其冢旁(五)を穿ち、皆自剄す。其餘の五百人海中に在り。横の死を聞き亦皆自殺す、李周翰(六)曰く、『横自殺す。從者敢て哭せざれども、哀に勝へず、故に悲歌を爲り以て情を寄す。後之を廣め、薤露蒿里(七)の歌と爲し以て終を送る。李延年に至り、分ちて二等と爲し、薤露は王公貴人を送り、蒿里は士大夫庶人を送る。柩を挽く者之を歌ふ。因て呼んで挽歌と爲す』と。

(一) しゆくつぎの馬車 (二) 君の座は南に向へる故君位にあるを南面すといふ。孤は王の自稱 (三) 亡國の囚はれ人 (四) 自殺 (五) 墓の傍 (六) 唐代の學者 (七) 人を葬る時、柩を挽くに歌ふ二つの歌也、歌中「薤上朝露」「蒿里誰家地」といふ句あるを以て名とす

武仲不休　士衡患多

風鳴二北林一。熠燿東南飛。浮雲日千里。安知二我心悲一。武別レ陵詩曰。雙鳧俱北飛。一鳧獨南翔。子當レ留二斯館一。我當レ歸二故鄉一。一別如二秦胡一。會見何渠央。愴恨切二中懷一。不レ覺淚霑レ裳。願子長努力。言笑莫二相忘一。五言詩蓋自レ此始。

かるのみ。無心なる浮雲なればどうして我が心の愁を知らんやと也 (四) 梁は橋 (五) 小路 (六) 相したひて別る
る能はざる形容 (七) 鸇の異名 (八) 螢火 (九) 二匹の鳧が北に飛ぶが如く、君と我とは共に北匈奴に來たりしが、
我のみ漢に歸り、君は匈奴に留るべきことゝなれり。一たび別るれば秦と胡との相距たるが如く萬里復相會の期な
ければ、永く相會し居らんと思へるに、何ぞ相見る期の俄に盡くることよ。我が胸はいたみうらみの悄切にして、
淚は衣裳を濕せり。願くば君とこしへに相努めよ。されど我と言笑せし往日を永く忘るゝ勿れとなり (一〇) 渠は
遽と通ず、央は盡也 (一一) 胸中なり。

前漢田橫。狄人。故齊王田氏之族。秦末自立爲二齊王一。漢將灌嬰敗二橫軍一。遂平二齊地一。橫懼レ誅。與二其徒一居二海島中一。高帝召レ之。

前漢の田橫は狄の人にして、故の齊王田氏の族なり。秦の末に自立して齊王と爲る。漢將灌嬰、橫が軍を敗り、遂に齊の地を平ぐ。橫、誅を懼れ、其徒と海島中に居る。高帝之を召す。迺ち其客二人と、傳(一)に乘りて洛陽に詣り、使者に謝して曰く、「橫始め漢王と俱に南面(二)して孤と稱せり。今王は天子と爲り、橫は亡虜(三)と爲る。其愧已に甚し」と。遂に自剄(四)し、客をして其頭を奉じ之を奏せしむ。高帝之が爲に流涕し、王の禮を以て之を葬り、其二客を拜して都尉と爲す。既に

善二騎射一。愛レ人。謙遜下レ士。甚得二名譽一。武帝以爲レ有二廣之風一。拜二騎都尉一。天漢二年。將二步卒五千人一。征二匈奴一。戰敗遂降焉。初陵與二蘇武一。俱爲二侍中一。武使二匈奴一。明年陵降。後昭帝立。與二匈奴一和親。武得レ還レ漢。陵以レ詩贈別曰。攜レ手上二河梁一。游子暮何之。徘二徊蹊路側一。恨恨不レ得レ辭。晨

敗れて遂に降る。初め陵は蘇武と、俱に侍中たり。武、匈奴に使し、明年陵降る。後昭帝立ちて、匈奴と和親し、武は漢に還るを得たり。陵、詩を以て贈別して曰く、『(三)手を携へて(四)河梁に上る。游子暮に何にか之く。(五)蹊路の側に徘徊し。(六)恨恨として辭するを得ず。(七)晨風北林に鳴き。(八)熠燿東南に飛ぶ。浮雲日に千里。安ぞ我が心の悲を知らん』と。武、陵に別るゝ詩に曰く、『(九)雙鳬俱に北に飛び、一鳬獨南に翔る。子は當に斯館に留るべく、我は當に故郷に歸るべし。一別秦胡の如く、會見何ぞ(一〇)渠に央くる。愴恨(一一)中懷に切なり。覺えず淚裳を霑す。願くは子長へに努力せよ。言笑相忘るゝ莫れ』と。五言の詩は蓋し此れより始る。

(一) 建章といふ御殿の目附役 (二) 李陵の祖父 (三) 君と我とは親しき間柄なりしに、君は此度漢に歸るを得、我は獨り匈奴に留るべきを思へば萬感交々胸に迫る。今別に臨み君と手を携へて夕暮に河の橋まで來れり。君は何處へ行かるゝぞ。餘りの慕しさに小路をさまよひて別れ歸るを得ず。我は帝の許しなく匈奴にありて泣けり、これ鷹が北方の林に鳴けるが如し。君はめでたく南なる漢に歸らる。螢火の東南に飛ぶが如し。浮雲は日々たゞ千里にか

六。具爲二天子一言二其地形所一レ有。元朔中。以二校尉一從二大將軍一擊二匈奴一。知二水草處一。軍得二以不一レ乏。封二博望侯一。贊曰。禹本紀言。河出二崑崙一。崑崙高二千五百里餘。日月所三相避隱爲二光明一也。自三張騫使二大夏一之後。窮二河源一。惡睹二所レ謂崑崙者一乎。舊注云。得二支機石一歸。未レ詳レ所レ出。

を睹んや。舊注に云ふ、『支機石を得て歸る』(一二)と。未だ出づる所を詳にせず。(一三)

(一) 官名、門戸守衛の役　(二) 西方のえびすの名　(三) 其途次匈奴の地を通り囚へられて　(四) 漢の天子より與へられし使節としての旗じるしを持して失はず、必ず其役目を仕遂げんと期したり　(五) 下役の者　(六) 何れも今の蒙古の西部より新疆、青海、西藏方面にありし蠻族也　(七) 所産、物産　(八) 武帝の年號　(九) 水や草のある所をよく知り居りし故人馬不自由を感ずる事なかりき　(一〇) 黄河　(一一) 月と日と互にかくれあひ、日が此方を照らせば月は彼方を照す、山のうらとおもてとにて世界の晝夜分ると也　(一二) 織女星が機の糸を支ふる石なり、張騫天の川に至りて之を得たりと也　(一三) 其說の出所不明也

前漢李陵字少卿。前將軍廣之孫。少爲二侍中建章監一。

李陵初詩　田横感歌

前漢の李陵、字は少卿、前將軍廣の孫なり。少にして侍中建章監と爲る。(一)騎射を善くし人を愛す。謙遜にして士に下り、甚だ名譽を得たり。武帝以て廣の(二)風有りと爲し、騎都尉に拜す。天漢二年、歩卒五千人を將ゐ、匈奴を征し、戰

平。後復請レ擊ニ武陵五溪蠻夷一。時年六十二。帝愍ニ其老一。援曰。臣尚能被レ甲上レ馬。帝令レ試レ之。援據レ鞍顧眄。以示レ可レ用。帝笑曰。矍鑠哉是翁也。遂遣征レ之。進營ニ壺頭一。會ニ暑甚一。中レ病卒。廣州記曰。援到ニ交阯一。立ニ銅柱一爲ニ漢之極界一。

前漢張騫。漢中人。建元中爲レ郞。武帝方欲レ事レ滅レ胡。迺募ニ能使者一。騫應レ募使ニ月氏一。徑ニ匈奴一留十餘歲。持ニ漢節一不レ失。因與ニ其屬一亡鄕ニ月氏一。後亡歸。拜ニ太中大夫一。騫身所レ至者。大宛大月氏大夏康居。而傳ニ聞其旁大國五

前漢の張騫は、漢中の人なり。建元中、(一)郞と爲る。武帝方に胡を滅するを事とせんと欲し、迺ち能く使する者を募る。騫、募に應じて月氏(二)に使す。(三)匈奴を徑、留ること十餘歲、(四)漢節を持して失はず。因つて其屬と亡げて(五)月氏に鄕ふ。後亡げ歸り、太中大夫に拜す。騫が身ら至る所の者は、(六)大宛、大月氏、大夏、康居にして、而して其旁の大國五六を傳へ聞き、具に天子の爲に其地形(七)所有を言ふ。元朔中、校尉を以て大將軍の匈奴を擊つに從ひ、(九)水草の處を知るをもて、軍以て(八)乏しからざるを得たり。博望侯に封ぜらる。贊に曰く、『禹本紀に言ふ、(一〇)河は崑崙より出づ。崑崙の高さ二千五百里餘、(一一)日月相避隱して光明を爲す所なりと。張騫、大夏に使せしより後、河の源を窮めたり』と。惡んぞ所謂崑崙なる者

當ニ益壯ー。建武中。歷ニ虎賁中郎將ー。數被ニ進見ー。爲レ人明ニ鬚髮ー。眉目如レ畫。閑ニ於進對ー。又善ニ兵策ー。帝嘗言。伏波論レ兵。與ニ我意ー合。有レ謀未ニ嘗不ーレ用。後交阯女子徵側等反。蠻夷皆應レ之。拜レ援爲ニ伏波將軍ー。擊破レ之。封ニ新息侯ー。援乃擊レ牛釃レ酒。勞ニ饗軍士ー。將ニ樓船戰士ー。進擊ニ餘黨ー。嶠南悉

を論ずる、我意と合ふ。謀有れば未だ嘗て用ひずんばあらず」と。後交阯(七)の女子徵側等反し、蠻夷皆之に應ず。援を拜して伏波將軍と爲す。擊ちて之を破り、新息侯に封ぜらる。援乃ち牛を(八)擊ち酒を釃し、軍士を勞饗し、樓船の戰士を將ゐ、進みて餘黨を擊ち、嶠南悉く平ぐ。後復武陵五溪の蠻夷を擊たんと請ふ。時に年六十二、帝其老いたるを愍む。援曰く、「臣尙ほ能く甲を被り馬に上る」と。帝、之を試みしむ。援、鞍に據りて顧眄(九)し、以て用ふ可きを示す。帝笑ひて曰く、「矍鑠(一〇)たる哉是の翁や」と。遂に遣して之を征せしむ。進んで壺頭(一一)に營す。暑さ甚しきに會ひ、病に中りて卒す。廣州記に曰く、「援、交阯に到り、銅柱(一二)を立てゝ漢の極界と爲す」と。

(一) 後漢光武帝の年號 (二) 武帝に愛せられ屢々拜謁を仰せつかる (三) 明らかは美しき義、容貌の秀麗なるをいふ (四) 進退應對の禮に習へりとなり。或は「對」當に「退」に作るべしともいふ (五) 軍謀 (六) 伏波將軍、即ち馬援 (七) 交阯郡、今の安南北部の東京州邊の稱 (八) 牛を殺して料理し、篩にて酒を漉して其かすを去る (九) かへりみる。ふりかへりみる (一〇) 輕健の貌。老いて益々壯なるをいふ (一一) 山の名 (一二) 本文の見出に所謂標柱也

如二芝蘭玉樹一。欲レ使三其生二於庭堦一耳。安悅。時苻堅入寇。朝廷求四文武良將。可三以鎭二禦北方一。安乃以レ玄應レ擧。累二遷冠軍將軍一。爲二前鋒都督一。與二從弟輔國將軍琰一。決二戰肥水南一。堅衆奔潰。奔レ甲宵遁。聞二風聲鶴唳一。皆以爲二王師已至一。進二號前將軍一。

くりなの譬 (八) 謝玄 (九) 才物として重んぜらる (一〇) いましむるをいふ (一一) 子弟等よ、汝等の善良となるは自らの力にして他人の與り知るべきにあらず。されど吾が今子等を戒むるは、子等が善良ならんことを冀めばなりとの意 (一二) 英才の士の謝安の門より出づれば其の名譽は安に歸する事ゆゑ、其の培養を念として斯くは教訓あるならんとの意 (一三) 前の秦の主、狄の種族の出也 (一四) 命により推薦す (一五) 全軍に冠たる意の稱號 (一六) 鶴唳は鶴のなき聲。此の文を出典としてつまらぬ事に聞きおぢして敗走する意の熟語とす (一七) 號を進めて前將軍といふ

後漢馬援字文淵。扶風茂陵人。少有二大志一。嘗謂二賓客一曰。丈夫爲レ志。窮當二益堅一。老

伏波標柱　博望尋河

後漢の馬援字は文淵、扶風茂陵の人なり。少にして大志有り。嘗て賓客に謂て曰く、「丈夫の志たる、窮しては當に益々堅かるべく、老いては當に益々壯なるべし」と。(一)建武中、虎賁中郎將を歷、(二)數々進見せらる。人と爲り(三)鬚髮明らかに、眉目畫けるが如く、(四)進對に閑へり。又(五)兵策を善くす。帝嘗て言ふ、「(六)伏波の兵

也。孝武時爲僕射。領吏部。帝雅好典籍。以才學文章見昵。夢人以大筆如椽與之。既覺語人曰、此當有大手筆事。俄而帝崩。哀冊諡議、皆珣所草。玄字幼度。少穎悟。爲叔父安所器重。安嘗戒約子姪。因曰。子弟亦何預人事。而正欲使其佳。諸人莫有言者。玄答曰。譬

の事有るべし」と。俄にして帝崩ず。(七)哀冊諡議、皆珣が草する所なり。玄字は(八)幼度、少にして穎悟、叔父謝安の爲に器重せらる。(九)安嘗て子姪に戒約し、(一〇)因て曰く、「子弟亦何ぞ人の事に預らん。(一一)而も正に其をして佳ならしめんとす」と。諸人言ふ者有る莫し。玄答へて曰く、「譬へば(一二)芝蘭玉樹の如し。其をして庭堦に生ぜしめんと欲するのみ」と。安悅ぶ。時に苻堅入寇す。(一三)朝廷、文武の良將の以て北方を鎭禦す可きを求む。安乃ち玄を以て擧に應ず。(一四)冠軍將軍に累進し、(一五)前鋒都督と爲る。從弟輔國將軍琰と、肥水の南に決戰す。堅が衆奔潰し、甲を弃てゝ宵遁る。(一六)風聲鶴唳を聞き、皆以て王師已に至ると爲す。號を(一七)前將軍に進む。

(一) 二十歲 (二) 旄は旄牛の尾毛を飾とせるはた、節も旄なり、天子より賜はる。旄節を擁し杖つかんとは、軍師となり藩鎭州牧の任たらんと也 (三) 黑頭は壯年、公とは三公、即ち壯年にして三公たらんと也 (四) 珣は常に才學文章にて帝に親しまる (五) これ即ち椽大の筆(大文章)といふ熟語の出典也 (六) 大文章を草すべき事件あらん。王后葬禮の大事あらんと也 (七) 哀冊とは天子崩御して將に殯宮に遷さんとする時其功德を讃揚する文。諡議はお

司馬桓溫辟爲二參軍一。溫英氣高邁。罕レ有レ所レ推。與レ超言。常謂レ不レ能レ測。遂傾レ意禮待。超亦深自結納。時王珣爲二溫主簿一。亦爲レ溫所レ重。府中語曰。髯參軍。短主簿。能令二公喜一。能令二公怒一。超髯珣短故也。

亦溫の爲に重んぜらる。府中語りて曰く、『髯參軍、短主簿、能く公を喜ばしめ能く公を怒らしむ』と。超は髯あり、珣は短きが故なり。

(一) 卓犖は才智の秀でたること。不羈は才識高遠にて物事に拘束せられざること。曠世の度は世に稀なる大度量をいふ (二) 桓溫は、すぐれたる氣象ありて才智すぐれたる人なれば、其推重し敬服する人極めて稀なるに、郗超のみは之を尊重したり (三) 其才識高遠にて測り知られず (四) 交を結べり (五) 文書簿籍を管理する役

晉王珣字元琳。丞相導之孫。弱冠與二謝玄一爲二溫掾一。溫嘗謂レ之曰。謝掾年四十必擁レ旄杖レ節。王掾當レ作二黑頭公一。皆未レ易レ才

晉の王珣字は元琳、丞相導の孫なり。(一)弱冠にして謝玄と與に溫の掾と爲る。溫嘗て之に謂て曰く、「謝掾は年四十にして必ず旄を擁し節を杖かん。(二)王掾は當に黑頭公と作るべし、(三)皆未だ易からざる才なり」と。孝武の時、僕射と爲り吏部を領す。帝雅典籍を好む。(四)才學文章を以て昵まる。夢に人ありて大(五)筆椽の如きを以て之に與ふ。既にして覺めて人に語りて曰く、「此れ當に大手筆(六)

乘輿乃其次焉。一門前後七封侯。三皇后。六貴人。二將軍。在レ位二十餘年。窮極滿盛。威行二內外一。百僚側レ目。莫二敢違一レ命。天子恭レ己。不レ得レ有レ所二親豫一。帝既不レ平之。後發レ怒誅レ冀。中外宗親無二長少一。皆棄市。他連及公卿列校。刺史二千石。死者數十人。故吏賓客。免黜者三百餘人。朝廷爲空。收二冀財貨三十餘萬一。以充二王府一。用減二天下稅租之半一。

るもの。瞠はぢつと直視するをいひ、眄は横目でじろツと見るをいふ （四） どもりて言語明かならず （五） 我儘を以て世にはびこれる將軍 （六） 毒殺 （七） 罪無きを曲げて罪におとす （八） 四方よりの租税、年々のたてまつりものは、皆先づ其第一のものを冀に致し、天子は其次を取れりとの意。乘輿は天子ののりものなれど、轉じて天子を指す （九） 百官 （一〇） 自ら政にあづかること （一一） 殺して屍を市にさらすこと （一二） まきぞへになりたる （一三） 列校とは諸々の校尉をいひ、二千石とは郡の太守をいふ （一四） 冀に仕へたる舊吏 （一五） 官吏無きに至る

晉書。郗超字景興。太尉鑒之孫。少卓犖不羈。有二曠世之度一。善二談論一。義理精微。大

郗超髯參　王珣短簿

晉書にいふ、郗超字は景興、太尉鑒の孫なり。少にして卓犖不羈、（一）曠世の度有り。談論を善くし、義理精微なり。大司馬桓溫辟して參軍と爲す。（二）溫は英氣高邁にして、推す所有る罕なるも、超と言ふときは、常に（三）測ること能はずと謂へり。遂に意を傾けて禮待す。超も亦深く自ら（四）結納す。時に王珣溫の主簿たり。（五）

伯卓。褒親愍侯竦之曾孫。爲レ人鳶肩豺目。洞精矘眄。口吟舌言。拜二大將軍一。侈暴滋甚。冲帝崩。冀立二質帝一。少聰惠。知二冀驕橫一。嘗朝二羣臣一。目レ冀曰。此跋扈將軍也。冀聞深惡レ之。遂鴆殺。復立二桓帝一。而枉二害太尉李固杜喬一。海內嗟懼。其四方調發。歲時貢獻。皆先輸二上第於冀一。

眄し、(四)口吟舌言す。大將軍に拜し、侈暴滋〻甚し。冲帝の崩ずるや、冀、質帝を立つ。少にして聰惠、冀が驕橫なるを知り、嘗て羣臣を朝せしめ、冀を目して曰く、「此れ(五)跋扈將軍なり」と。冀聞きて深く之を惡み、遂に(六)鴆殺し、復桓帝を立て丶、太尉李固、杜喬を(七)枉害し、海內嗟き懼る。其四方の(八)調發、歲時の貢獻は、皆先づ上第を冀に輸り、乘輿は乃ち其次なり。一門前後七封侯、三皇后、六貴人、二將軍あり。位に在ること二十餘年、窮極滿盛、威內外に行はれ、(九)百僚目を側めて、敢て命に違ふ莫く、天子己を恭しくし、(一〇)親豫する所有るを得ず。帝既に之に不平なり。後怒を發して冀を誅し、中外の宗親長少と無く、皆(一一)棄市す。他の(一二)連及する公卿、(一三)列校、刺史、二千石にして、死する者數十人、(一四)故吏、賓客の免黜せらる丶者三百餘人、朝廷爲に(一五)空し。冀の財貨三十餘萬を收め、以て王府に充て、用て天下稅租の半を減ず。

㈠ 梁竦の追封の稱 ㈡ 肩は鳶の肩の如く怒り、目は豺の目の如くするどし ㈢ 洞精とはひとみのすきとほれ

酒。其母擧レ觴賜二三子一曰。吾本渡レ江。託レ足無レ所。不レ謂爾等並貴。列二吾目前一。吾復何憂。嵩起曰。恐不レ如二尊旨一。伯仁志大而才短。名重而識闇。好乘二人之弊一。非二自全之道一。嵩性抗直。亦不レ容二於世一。唯阿奴碌碌。當レ在二阿母目下一耳。阿奴嵩弟謨小字也。後顗嵩並爲二王敦一所レ害。謨歷二侍中護軍一。世說抗直作二狼抗一。晉書周顗傳。處仲剛愎强忍。狼抗無レ上。處仲王敦字也。

ざらん。伯仁は志大にして才短かく、名重くして識闇く、好んで人の弊に乘ず。(五)自全の道に非ず。嵩は性抗直(六)にして、亦世に容れられず。唯だ阿奴(七)は碌碌、當に阿母の目下に在るべきのみ」と。阿奴とは嵩が弟謨の小字なり。後顗嵩並に王敦の爲に害せられ、謨は侍中護軍を歷たり。世說(八)に抗直を狼抗に作る。晉書周顗傳に、『處仲は剛愎(九)强忍にして、狼抗上を無す』と。處仲は王敦の字なり。

(一)元帝の楊子江をわたり南京に都して東晉と號せし時　(二)さかもりす　(三)西晉愍帝の時、天下の亂に會し、落魄して楊子江を渡り、南方に逃げ來りて、落着きて身を寄すべき所もなかりしと也　(四)御考の如くにはあらじ　(五)自ら身を全うするの道　(六)正直にして人に屈せざること　(七)三子の最末弟なる周謨の幼時の字。碌碌とは平凡なること。則ち三人の中にて阿奴のみは凡庸なる故母の膝下にありて孝養せんも、吾々は能はずとなり　(八)書名、本叢書の一卷たる世說新語。狼抗は狼の如くに性むごくして且つ人に屈せざること　(九)剛愎は剛情にして理にもとること。强忍は殘忍なり、むごきこと

後漢梁冀字

後漢の梁冀字は伯卓、(一)褒親愍侯竦の曾孫なり。人となり(二)鳶肩豺目、(三)洞精矘

短レ抵レ罪。後上欲三以爲二郡守一。公孫弘曰。臣爲二小吏一時。成爲二濟南都尉一。其治如二狼牧一レ羊。不レ可レ使レ治レ民。上乃拜爲二關都尉一。歲餘。關東吏隸二郡國一出二入關一者。號曰。寧見二乳虎一。無レ値二甯成之怒一。其暴如レ此。

も甯成の怒に値ふことなかれ』と。其暴なること此の如し。

(一) 官名、宮廷に在りて咨を取次ぐ役 (二) なとこぎを出すを好む (三) 部下を拘束制御する (四) しめりたるたきぎは束ね易し、以て束縛のきびしき喩とせるならん (五) 廉直は郅都に及ばず (六) 天子 (七) 其時の丞相なり (八) 隷は閲也、検閲しての意。或は「郡國に隷して」と訓じ、郡國の長吏の隷屬となりて關を出入する關東の小吏と解す。漢書には「関吏ノ郡國ヲ税肄シテ關ヲ出入スル者」に作る。税肄は検閲の義也 (九) 仔を哺育せる虎をいふ。氣特にあらし

晉書。周嵩字仲智。兄顗字伯仁。汝南安成人。中興時。顗等竝列二貴位一。嘗冬至置

周嵩狼抗　梁冀跋扈

晉書にいふ、周嵩字は仲智、兄の顗字は伯仁、汝南安成の人なり。中興の時(一)顗等竝に貴位に列す。嘗て冬至に置酒(二)す。其母觴を擧げ、三子に賜ひて曰く、「吾れ本江を渡り(三)、足を託するに所無し。謂はざりき爾等竝に貴く、吾が目前に列せんとは。吾れ復何をか憂へん」と。嵩起ちて曰く、「恐くは尊旨(四)の如くなら

鴈門大守。匈奴素聞二都節一。擧レ邊爲引去。竟二都死一不レ近二鴈門一。匈奴至下爲二偶人一象レ都。令二騎馳射一莫中能中上。其見レ憚如レ此。匈奴患レ之。竇太后乃中レ都以二漢法一。卒斬レ之。

畏れて敢て正視せず　(五) 其擧つ勢のはげしきに喩ふ　(六) 匈奴は今の蒙古地方に住せしえびすなり。則ち凶暴の名ある匈奴さへ郅都の節きびしきを聞き、皆境界より引き上げて、都の死するまで雁門に近づかざりしとなり　(七) 人形　(八) 騎馬武者をして人形を射しむ、然れども都を恐るゝこと甚だしければ、人形の都にさへ中て得ずとなり　(九) 竇太后は都が太后の子臨海王を鞫して自殺せしめしを怒り、景帝に迫り殊更に法にあてゝ之を斬れり

前漢甯成南陽穰人。以二郎謁者一事二景帝一。好レ氣。爲二小吏一。必陵二其長吏一。爲二人上一。操レ下急如レ束二濕薪一。爲二中尉一。其治效二郅都一。其廉弗レ如。武帝卽レ位。徙爲二内史一。外戚多毀二其

前漢の甯成は南陽穰の人なり。(一)郎謁者を以て景帝に事ふ。(二)氣を好み、小吏たれば必ず其長吏を陵ぎ、人の上と爲れば(三)下を操ること急にして(四)濕薪を束ぬるが如し。中尉と爲る。其治は郅都に效ひしも、(五)其廉は如かず。武帝の位に卽くや、徙りて内史と爲る。外戚多く其短を毀り罪に抵す。後、(六)上以て郡守と爲さんと欲す。(七)公孫弘曰く、「臣が小吏たりし時、成は濟南の都尉たり。其治は狼の羊を牧するが如し。民を治めしむ可からず」と。上乃ち拜して關都尉と爲す。歲餘にして、關東の吏の(八)郡國を隷して關を出入する者、號して曰く、『寧ろ(九)乳虎を見ると

嘗入レ市。市人見レ之皆曰。閉戸先生來也。辟命不レ至。

㊀ねむけを催す時は斯くして之を覺す也　㊁官より招かるゝも出で仕へず

前漢郅都。河東大陽人。景帝時爲二中郎將一。敢直諫。面二折大臣於朝一。遷二中尉一。是時民樸畏レ罪自重。而都獨先二嚴酷一。致二行法一。不レ避二貴戚一。列侯宗室見レ都。皆側レ目而視。號曰二蒼鷹一。拜二

郅都蒼鷹　甯成乳虎

前漢の郅都は、河東大陽の人なり。景帝の時中郎將と爲り、敢て直諫し、大臣を朝に面折(一)す。中尉に遷る。是時民樸(二)にして罪を畏れ自重す。而るに都は獨り嚴酷を先にし、法を致し行ふに貴戚(三)を避けず。列侯宗室都を見れば、皆目を側め(四)て視、號して蒼鷹(五)と曰ふ。鴈門の大守に拜す。(六)匈奴素より都の節を聞き、邊を擧げて爲に引き去り、都の死を竟ふるまで、鴈門に近づかず。匈奴偶人(七)を爲りて都に象り、騎(八)をして馳射せしむるに、能く中つる莫きに至る。其憚らるゝと此の如し。匈奴之を患ふ。竇太后(九)乃ち都に中つるに漢の法を以てし、卒に之を斬る。

㊀まのあたり過失をせむ　㊁素樸にて罪を畏れ、身を重んじて法を犯さず　㊂貴族たりとて容赦せず　㊃

過ニ絶人一。諸儒爲ニ之語一曰。無レ說レ詩。匡鼎來。匡說レ詩。解ニ人頤一。射策甲科。元帝時爲ニ丞相一。西京雜記曰。衡勤レ學無レ燭。鄰舍有レ燭而不レ逮。衡乃穿レ壁。引ニ其光一而讀レ之。邑大姓文不識名ニ家富多レ書。衡乃與レ其客作。而不レ求レ償。願ニ得レ書遍讀レ之。主人感歎。資給以レ書。遂成ニ大學一。

『衡、學を勤むるに燭無し。鄰舍に燭有れども逮ばず。衡乃ち壁を穿ち、其光を引いて之を讀む。邑の大姓(六)文不識は家富みて書多きをもて名あり。衡乃ち其れが與に客作(七)して、償を求めず、書を得て遍く之を讀まんと願ふ。主人感歎して、資給するに書を以てす。遂に大學(八)を成す』と。

㈠ 承縣 ㈡ 日傭取りをなして ㈢ 匡衡方に來る。鼎は方也 ㈣ 說話が巧妙なるため人を笑ひ興ぜしむとなり ㈤ 試驗の際、竹札にむづかしき問題を記して甲科とし、易き問題を記して乙科とし、之を混じて人々にわからぬやうにして竹札をとらしめ、其あたりたる札の問題に答へしむ。此際甲科をあて得たるを射策甲科といふ ㈥ 豪封家 ㈦ 庸作に同じ。やとはること ㈧ 大學者となる

楚國先賢傳。孫敬字文寶。常閉レ戶讀レ書。睡則以レ繩繫レ頸。懸ニ之梁上一。

楚國先賢傳にいふ、孫敬字は文寶、常に戶を閉ぢて書を讀み、睡(一)めば則ち繩を以て頸に繫け、之を梁上に懸く。嘗て市に入る。市人之を見て、皆曰く、『閉戶先生來る』と。辟命(二)せらるゝも至らず。

導知二天下已亂一。遂傾レ心推奉。潛有二興復之志一。帝亦雅相器重。及三帝出鎭二下邳一。請レ導爲二安東司馬一。軍謀密策。知無レ不レ爲。帝常謂曰。卿吾之蕭何也。累二遷中書監。錄尚書事一。及三帝登二尊號一。百官陪列。命レ導升二御床一共坐。導固辭曰。若太陽下同二萬物一。蒼生何由仰レ照。帝乃止。進二位司空一。

しむ。導、固辭して曰く、「若し太陽下りて萬物と同ぜば、蒼生何に由りてか照を仰がん」と。帝乃ち止む。位を司空(八)に進む。

(一) 風は風采。鑒は人を視る明をいふ (二) 淸くして高遠なること (三) 高士は德行高潔の人士の稱。陳留は地名 (四) 一心に元帝を推奉し (五) 王導を人材なりとして重んず (六) 蕭何は漢高祖の股肱の臣なり。元帝と王導との關係正に蕭何の高祖に於けるが如しと也 (七) いよ〳〵帝位に卽くに及びて (八) 水土に關する事を司る長官

前漢匡衡字稚圭。東海承人。父世農夫。至レ衡好レ學。家貧。庸作以供二資用一。尤精力

匡衡鑿壁　孫敬閉戸

前漢の匡衡字は稚圭、東海承(一)の人なり。父は世〻農夫たり。衡に至り學を好めども、家貧しければ、庸作(二)以て資用に供す。尤も精力人に過絕す。諸儒之が語を爲して曰く、『詩を說くなかれ、匡鼎(三)に來る。匡が詩を說くや人の頤(四)を解かしむ』と。射策(五)して甲科にあたり、元帝の時丞相と爲る。西京雜記に曰く

馬一。朝士咸送。中丞高崧戲レ之曰。卿屢違二朝旨一。高二臥東山一。諸人每相與言。安石不レ肯レ出。將下如二蒼生一何上。今蒼生亦將レ如レ卿何。安有二愧色一。後拜二吏部尙書一。時孝武立。政不レ自レ已。桓溫威振二內外一。安盡レ忠匡翼。終能輯穆。進二中書監一。錄尙書事一。苻堅率レ衆次二淮肥一。加二安征討大都督一。既破レ堅。以二總統功一進二太保一。薨贈二太傅一。諡二文靖一。

が君の出でて桓溫の幕下に屈するを深く惜まんとの意　(一二) 帝より出でず　(一三) たゞし、たすく　(一四) をさめ和して亂るゝなからしむ　(一五) 軍を宿す　(一六) 苻堅

晉王導字茂弘。光祿大夫覽之孫。少有二風鑒一。識量清遠。陳留高士張公。見而奇レ之。謂二其從兄敦一曰。此兒容貌志氣。將相之器也。元帝爲二琅邪王一。與レ導素相親善。

晉の王導字は茂弘、光祿大夫覽の孫なり。少にして風鑒(一)有り、識量清遠(二)なり。陳留の(三)高士張公見て之を奇とし、其從兄敦に謂て曰く、「此兒の容貌志氣將相の器なり」と。元帝、琅邪王たるとき、導と素相親み善し。導、天下の已に亂るゝを知り、遂に心を傾けて推奉し、潛に興復の志有り。帝も亦推相器重(五)す。帝の出でゝ下邳(四)を鎭するに會ふや、導を請うて安東司馬と爲す。軍謀密策、知りて爲さゞる無し。帝常に謂て曰く、「卿は吾が蕭何(六)なり」と。中書監、錄尙書事に累遷す。帝、(七)尊號に登るに及び、百官陪列するや、導に命じ御床に升り共に坐せ

導亦深器レ之。由レ是。少有二重名一。初辟除並以レ疾辭。有司奏。安被レ召歷レ年不レ至。禁二錮終身一。遂棲二遲東土一。常往二臨安山中一。放二情丘壑一。然毎二遊賞一。必以二妓女一從。時弟萬爲二西中郎將一。總二藩任之重一。安雖レ處二衡門一。名出二其右一。有二公輔望一。年四十餘。始有二仕志一。征西大將軍桓溫。請爲二司

遲す。常に臨安の山中に往き、(六)情を丘壑に放にす。然して遊賞する毎に必ず妓女を以て從ふ。時に弟萬、西中郎將と爲り、藩(七)任の重を總ぶ。安、衡門(八)に處ると雖も、名は其右に出で、公輔(九)の望有り。年四十餘にして、始めて仕ふるの志有り。征西大將軍桓溫、請うて司馬と爲し、朝士咸送る。中丞高崧之に戲れて曰く、「卿、屢朝旨に違ひ、東山に高臥す。諸人毎に相與に言ふ、安石出づるを肯ぜずんば、將に蒼生(一〇)を如何せんとすると。今蒼生(一一)亦將に卿を如何せんとかする」と。安愧づる色有り。後吏部尚書に拜す。時に孝武立ち、政、己(一二)よりせず、桓溫の威内外に振ふ。安、忠を盡して匡翼(一三)し、終に能く輯穆(一四)す。中書監錄尚書事に進む。苻堅衆を率ゐ、淮肥(一五)に次す。安に征討大都督を加ふ。既にして堅(一六)を破り、總統の功を以て太保に進み、薨じて、太傅を贈り、文靖と諡す。

(一) 東海の太守王承。王東海に劣らざるやうになるべしとなり (二) 召して官に任ぜられ (三) 謝安 (四) 生涯仕進の路を塞ぎて仕へしむる勿れと也 (五) 仕へずして靜に游息するをいふ (六) 意のまゝに丘壑に遊ぶ (七) 藩鎭たるの重任 (八) かぶき門、隱者の門なり。隱棲すれどもの意 (九) 三公輔弼の人望あり (一〇) 人民 (一一) 人民

爲二項生從者一。讀レ易精敏。材過二項生一。遂事レ何。學成東歸。何謂二門人一曰。易已東矣。寬復從二周王孫一受二古義一。號二周氏傳一。景帝時爲二梁孝王將軍一。作二易說三萬言一。訓詁擧二大誼一而已。

寬復た周王孫に從ひて古義を受け、周氏傳と號す。景帝の時、梁の孝王の將軍と爲る。(六)易說三萬言を作る。(七)訓詁して大誼を擧ぐるのみ。

(一)齊東の人　(二)丁寬　(三)田何　(四)梁に也。田何は齊東の人なるが徙りて杜陵に居る、杜陵は長安に近ければ梁を指して東といふ。一本「家歸」(家に歸る)に作る　(五)易に精通せる丁寬の東の方梁に去りし故也　(六)やはり田何より易を學びし人　(七)訓詁は古言の解釋。大誼は大義、大意

晉書。謝安字安石。陳國陽夏人。年四歲。桓彝見而嘆曰。此兒風神秀徹。後當レ不レ減二王東海一。王

謝安高潔　王導公忠

晉書にいふ、謝安字は安石、陳國陽夏の人なり。年四歲、桓彝見て嘆じて曰く、「此の兒や風神秀徹、後當に王東海に(一)減ぜざるべし」と。王導亦深く之を器とす。是に由りて、少きより重名有り。初め(二)辟除せれしも、並に疾を以て辭す。有司奏す、『(三)安は召さるれども年を歷て至らず、(四)終身、禁錮せん』と。遂に東土に(五)棲

明ㇾ經。博覽無ㇾ不ㇾ窮究。諸儒爲ㇾ之語曰。關西孔子。楊伯起。常客居於湖。不ㇾ答州郡禮命數十年。衆謂之晩暮。而志愈篤。後有鸛雀。銜三鱣魚。飛集講堂前。都講取ㇾ魚進曰。蛇鱣者卿大夫服之象也。數三者。法三台也。先生自ㇾ此升矣。年五十乃始仕州郡。安帝時爲太尉。

湖に客居し、州郡よりの禮命に答へざること數十年、衆之を晩暮と謂ふ。而して志愈〻篤し。後鸛雀有り、三鱣魚を銜み、飛びて講堂の前に集る。都講、魚を取り進みて曰く、「蛇鱣は卿大夫の服の象なり。數の三なるは三台に法る。先生此より升らんと」。年五十にして乃ち始めて州郡に仕へ、安帝の時太尉と爲る。

(一) 關は函谷關をいふ。孔子は關東の人なるが、楊伯起は關西の孔子とも稱すべき大人物なりとの意 (二) 湖城縣 (三) 仕へしめんとて禮を以て招くこと (四) 仕官甚だ遲れて晩年に及べりとの意 (五) あまさぎ。鶴程の大さにて頭長く喙赤き鳥 (六) うみへび。うなぎに似たるものにて黃色の地に黑のあや有り、卿大夫の服に似たり、故に下文に服の象といふ也 (七) 學舍の長 (八) 楊震に對していふ也 (九) 三公

前漢丁寬字子襄。梁人。初梁項生。從田何受ㇾ易。時寬

前漢の丁寬字は子襄、梁の人なり。初め梁の項生といふもの、田何に從ひて易を受く。時に寬は項生の從者たり。易を讀むこと精敏にして、材、項生に過ぐ。遂に何に事へ學成りて東に歸る。何、門人に謂て曰く、「易已に東す」と。

茅以漁。文王勞而問之。乃載與歸。立爲師。舊本非熊作非羆。疑流俗承誤。後世莫知是正耳。按後漢崔駰達旨辭曰。或以漁父見兆於元龜。注云。西伯出獵卜之。曰。所獲非龍非螭。非熊非羆。所獲覇王之輔。所謂非熊。蓋本諸此。

らん。

(一) 獵也 (二) 卜は龜の甲をやきて吉凶を卜ふこと。卽ち龜甲をしきつらねて卜ひしなり (三) 龍の角なきものをいふ (四) 其うらかたによりて見るに (五) 文王の名 (六) 舜の名臣の名 (七) 只今のうらかたは卽ち其比也 (八) 齋也。齋戒すること、ものいみすること (九) 自分の車に。但、史記には載をスナハチといふ助語の如く用ひたり (一〇) 舊本見出しの非熊を非羆に作れるは誤也、今之を正すと也 (一一) 文章の篇名 (一二) 太公望は漁夫の身を以て、己を用ふべき兆を、大龜の占にあらはし、以て文王に用ひられしなりとの意 (一三) 文王をいふ。伯は覇にして當時文王は西方諸侯のはたがしらたりしを以て云ふ。(一四) 本書舊版の「非羆」を改めて「非熊」とせるはこれに本づくかと也

後漢楊震字伯起。弘農華陰人。少好學

楊震關西　丁寬易東

後漢の楊震字は伯起、弘農華陰の人なり。少にして學を好み經に明かに、博覽にして窮究せざる無し。諸儒之が語を爲して曰く、『(一)關西の孔子楊伯起』と。常に

飛等不レ悦。先主曰。孤之有二孔明一。猶二魚之有一レ水也。願勿二復言一。及レ稱二尊號一。以レ亮爲二丞相一。漢晉春秋曰。亮家二南陽鄧縣襄陽城西一。號曰二隆中一。

六韜曰。文王將レ田。史編布レ卜曰。田二於渭陽一。將二大得一焉。非レ龍非レ彲。非レ虎非レ羆。兆得二公侯一。天遺二汝師一。以レ之佐レ昌。施及二三王一。文王曰。兆致レ是乎。史編曰。編之太祖史疇。爲レ舜占得二皐陶一。兆比二於此一。文王乃齊三日。田二於渭陽一。卒見二太公坐レ

六韜に曰く、文王將に田せんとす。史編卜を布いて曰く、「渭陽に田せば、將に大に得んとす。龍に非ず彲に非ず、虎に非ず羆に非ず。兆、公侯を得ん。天汝に師を遺り、之を以て昌を佐け、施いて三王に及ばん。」文王曰く、「兆是を致すか。」史編曰く、「編が太祖史疇、舜の爲に占ひて皐陶を得たり。兆此に比す」と。文王乃ち齊すること三日、渭陽に田し、卒に太公の茅に坐して以て漁るを見る。文王勞ひて之に問ひ、乃ち載せて與に歸り、立てゝ師と爲す。舊本非熊を非羆に作る。疑ふらくは流俗誤を承け、後世是正するを知る莫きのみ。按ずるに後漢崔駰の達旨の辭に曰く、『或は漁夫を以て兆を元龜に見す』と。注に云ふ、『西伯出でゝ獵せんとし、之を卜ふ。曰く、獲る所は龍に非ず螭に非ず、熊に非ず羆に非ず、獲る所は霸王の輔ならん』と。所謂非熊は、蓋し此に本づくな

隴畝。好爲二梁父吟一。每自比二管仲樂毅一。時人莫二之許一。惟崔州平徐庶與レ亮友善。謂爲二信然一。時先主屯二新野一。徐庶見レ之謂曰。諸葛孔明臥龍也。將軍豈願レ見レ之乎。此人可二就見一。不レ可二屈致一。宜二枉レ駕顧一レ之。先主遂詣レ亮。凡三往乃見。因屏レ人與計レ事。善レ之。於レ是情好日密。關羽張

平と徐庶とのみ亮と友とし善し。謂ひて信に然りと爲す。時に先主(五)新野に屯す。徐庶之に見え、謂ひて曰く、「諸葛孔明は(六)臥龍なり。(七)將軍豈に之を見んことを願ふか。(八)此人就いて見る可し。(九)屈致す可からず。宜しく駕を枉げて之を顧るべし」と。先主遂に亮に詣る。凡そ三たび往きて(一〇)乃ち見る。因て人を屏け與に事を計り、之を善しとす。是に於て情好日に密なり。關羽・張飛等悦ばず。先主曰く、「孤(一一)の孔明有るは、猶ほ魚の水有るがごとし。(一二)願くは復言ふこと勿れ」と。尊號を稱するに及び、(一三)亮を以て丞相と爲せり。漢晉春秋に曰く、『亮南陽鄧縣襄陽城の西に家し、號して隆中と曰ふ』(一四)と。

(一) 田畑。田畑のうね (二) 諸葛亮所作の有名なる詩。梁父一に梁甫に作る。地名也 (三) 管仲は齊の桓公をたすけて諸侯の覇たらしめ、樂毅は燕の昭王に事へて齊の七十餘城を攻取りし名臣なり (四) 崔州平・徐庶の二人は孔明と相親しく、よく其謂ふを信なりとせり (五) 劉備也 (六) 世を避けたる英雄。一たび起たば大いに爲す有るべき大人物 (七) 劉備を指していふ (八) 劉備が「君ともに連れ來れ」といひし故此言ある也 (九) 身を屈し節をまげてこちらに來らする事は出來ぬ (一〇) 御出掛けなされて (一一) 朕の。先主劉備の自稱也 (一二) 所謂水魚の交也。互に相俟ちて離るゝ能はざる深き間柄をいふ (一三) 劉備帝位に卽くに及び (一四) 山の名を取りて號とせる也

特精二理義一。時謂二之玉人一。又稱。見二叔則一如レ近二玉山一。照二映人一也。轉二中書郎一。出二入官省一。見者肅然改レ容。武帝登祚。探レ策以卜二世數多少一。既而得レ一。不レ悅。羣臣失レ色。楷曰。臣聞。天得レ一以清。地得レ一以寧。王侯得レ一以爲二天下貞一。帝大悅。累二遷中書令侍中一。

を得て以て天下の貞たり(一四)」と。帝大に悅ぶ。中書令侍中に累遷す。

(一) 見識度量 (二) 並び稱せらる。共に有名なりき (三) 人名 (四) 宰相の屬官 (五) 淸を好みながら而も狹隘ならずしてよく世態に通ず (六) 行ひ簡にして而も要務を忽がせにせず (七) 適任なり (八) 風采精神高潔にして衆にすぐれ (九) 風采や擧動がすぐれて快活なり (一〇) 老子及び易の義。魏晉の頃には老易の學を理學といへり (一一) 卽位 (一二) 策はめどぎ也。幾代續くかとトひ見たるに只一つを得たり、これ一世(父より子に傳ふるを一世といふ)にて亡ぶるの兆なればとて帝悅ばず、群臣も色を失へる也 (一三) 老子の言。一は絕對の道をいふ (一四) 天下を常恒に保全するもの

孔明臥龍　呂望非熊

蜀志。諸葛亮字孔明。琅邪陽都人。躬耕二

蜀志にいふ、諸葛亮字は孔明、琅邪陽都の人なり。躬ら隴畝(一)に耕し、好んで梁父の吟(二)を爲し、毎に自ら管仲・樂毅(三)に比す。時の人之を許す莫し。惟だ崔州

交。籍每ニ適レ渾去。輙過視レ戎。良久然後出。謂レ渾曰。濬沖淸賞。非ニ卿倫一也。共レ卿言。不レ如下共ニ阿戎一談上。歴レ官至ニ司徒一。

舎 ㊅ 用務を帶びて渾を訪問する毎にいつも戎の許に立寄りて ㊆ 容姿人物すぐれて淸く貴ぶべくして到底卿（渾を指す）とくらべものにならず ㊇ 君と共に物を言ふより戎と談ずる方が遙かに面白い。阿は親みていふ語

晉裴楷字叔則。河東聞喜人。明悟有ニ識量一。少與レ戎齊レ名。鍾會薦ニ於文帝一。辟ニ相國掾一。及ニ吏部郞缺一。帝問ニ鍾會一。曰裴楷淸通。王戎簡要。皆其選也。於レ是用レ楷。楷風神高邁。容儀俊爽。博渉ニ羣書一。

晉の裴楷字は叔則、河東聞喜の人なり。明悟(一)にして識量有り、少にして戎と名(二)を齊くす。(三)鍾會文帝に薦め、(四)相國の掾に辟さる。吏部郞缺くるに及びて、帝鍾會に問ふ。曰く、「裴楷は淸通、(五)王戎は簡要、(六)皆其の選(七)なり」と。是に於て楷を用ふ。楷風神(八)高邁、(九)容儀俊爽、博く羣書に渉り、特に理義(一〇)に精し。時に之を玉人と謂ふ。又稱す、『叔則を見れば、玉山に近づくが如く、人を照映す』と。中書郞に轉じ、官省に出入するに、見る者肅然として容を改む。武帝登祚す(一一)るや、(一二)策を探りて以て世數の多少を卜ふ。旣にして一を得、悦ばず。羣臣色を失ふ。楷曰く、「臣聞く、(一三)天は一を得て以て淸く、地は一を得て以て寧く、王侯は一

晉書。王戎字濬沖。琅邪臨沂人。幼而穎悟。神彩秀徹。視レ日不レ眩。裴楷見而目レ之曰。戎眼爛爛如二巖下電一。阮籍素與二戎父渾一爲レ友。戎年十五。隨レ渾在二郎舍一。少レ籍二十歲。籍與レ之

蒙求卷之上

王戎簡要　裴楷清通

晉書にいふ、王戎字は濬沖、琅邪臨沂の人なり。幼にして穎悟(一)、神彩秀徹(二)、日を視て眩せず(三)。裴楷見て之を目して曰く、「戎が眼爛爛(四)として巖下の電の如し」と。阮籍素戎の父渾と友たり。戎年十五、渾に隨ひて郎舍(五)に在り。籍より少きこと二十歲、籍之と交る。籍、渾に適きて(六)去る每に、輒ち過りて戎を視、良や久しうして然る後に出づ。渾に謂て曰く、「濬沖淸賞(七)、卿が倫に非ざるなり。卿(八)と共に言ふは、阿戎と共に談ずるに如かず」と。官を歷て司徒に至る。

(一) かしこくさとし (二) 風采美しくすぐれて才氣英發し (三) 眼光するどく日を見つめても目くらまず (四) きらきらと光りかゞやきて。巖下は幽暗なる故電光一入强し因て以て形容すともいひ、又王戎は隆額（おでこ）なりし故斯く形容せりともいふ。これを出典として目のするどき形容に巖電といふ熟語を用ふる事あり (五) 郎官の官

二大者附焉。庶幾照然若日星之麗天。煥然可觀。命曰補注。將以備遺志。而助討論。不亦文範之捷徑歟。時己酉仲冬之月辛卯吉日。徐子光序。

安平李瀚。著蒙求一篇。列古人言行美惡。參之聲律。以授幼童。隨而釋之。比其終始。則經史百家之要。十得其四五矣。推而引之。源而流之。易於諷誦。形於章句。不出卷知天下。其蒙求哉。周易有童蒙求我之義。李公子以其文碎。不敢輕傳達識者。所務訓蒙而已。故以蒙求爲名。題其首。亦每行注兩句人名外。傳中有別事可記者。亦此附敍之。雖不配上文。所資廣博。從切韻東字起。每韻四字。凡五百九十六句云爾。

子光序

前言往行。載在經史。炳若丹青。然簡編浩博。未易研究。非眞積力久。莫能撮其要。唐李瀚。搜羅載籍。采古人行事。著爲蒙求。擬議聲韻。以類折偶。剪剔煩蕪。掊摭精英。事跡粲然。斑斑可攷。其於屬辭備閱。不爲無補矣。然鮮究本根。類多舛訛。覽者病焉。豈瀚之所載然歟。抑亦後世傳襲之誤也。予嘗嘉其用意。而惜其未備。於是漁獵史傳。旁求百家。窮本探源。摭華食實。大抵傳記無見。而語淺謬妄者。就加是正。至於載籍之中。間有故實可以槩擧者。仍掇其一

薦蒙求表

饒州刺史李良上表

臣良言。臣聞建官擇賢。其來有素。抗表薦士。義或可稱。爰自宗周。逮茲炎漢。競徵茂異。咸重儒術。竊見臣境內寄住客。前信州司馬倉參軍李瀚。學藝淹通。理識精究。撰古人狀跡。編成音韻。屬對類事。無非典實。名曰蒙求。約三千言。注下轉相敷演。向萬餘事。瀚家兒童。三數歲者。皆善諷誦。談古策事。無減鴻儒。不素諳知。謂疑神遇。司封員外郎李華。當代文宗。名望夙著。與作序云。不出卷而知天下。豈其蒙求哉。漢朝王子淵。製洞簫賦。漢帝美其文。令宮人誦習。近代周興嗣。撰千字文。亦頒行天下。豈若蒙求哉。錯綜經史。隨便訓釋。童子則固多弘益。老成亦頗覽起予。臣屬忝宗枝。職備藩扞。每廣聽遠視。採異訪奇。未嘗遺一才。蔽片善。有可甄錄。不敢不具狀聞奏。陛下察臣丹誠。廣達四聰之義。令瀚志學開奬善之門。伏願量授一職。微示勸誡。臣良誠惶誠恐頓首頓首謹言。天寶五年八月一日。饒州刺史李良上表。

李華序

蒙求等の書あり、近く明治の世にも、日本蒙求續編・東西蒙求・世界蒙求・萬國蒙求など云へるもの出でたり。以上は李瀚の蒙求が東西古今に及ぼしたる影響の一とも見るべきものなり。

大正八年六月　　岡田正之識

元に入りては純正蒙求・歴代蒙求あり、明には續蒙求・新蒙求あり、清に及び家塾蒙求あり、如何に李瀚の蒙求が世人の嗜好に投ぜしかを徵すべし。更に我が邦に就いて之を言へば、古き諺に「勸學院の雀は蒙求を囀る」といふ、卽ち「門前の小僧習はぬ教を讀む」と同一の意にして、蒙求の書が盛に子弟に讀まれてゐたりしにより、遂に雀までも感化を受けしことを謂へるものなり。我が邦に於ける蒙求の流行は、此の一諺にて充分に證明せらる。此の上他の例證を要せざるも、今特に一二の顯著なる事を擧げん。平安朝の時に、文章博士の橘廣相が淸和帝の第四皇子貞保親王に蒙求を御授け申しゝにより、帝は特に都良香等の學者を引きて宴を命じ詩を作らしめ給ひしことあり。又鎌倉幕府時代に源光行が蒙求の句を題として二百五十首を詠みしことあり。足利徳川時代の讀書家の間に愛讀せられたることは、記するまでもなし。新に蒙求に擬して作りたるものも少からず、蒙求續貂・蒙求拾遺・扶桑蒙求・桑華蒙求・本朝蒙求・本朝修身蒙求・瑞穗蒙求・皇朝蒙求・日本蒙求・藝林蒙求・自警

以上に擧げし各方面の人は、上は堯舜時代より、下は南北朝の宋齊時代に至る間のものなり。試に孰れの時代の人が多きを占めしかを見るに、晉代の人最も多く、百五六十人あり、之れに次ぎては前漢の百三四十人、後漢の百二三十人なり、周代は周初と春秋戰國とを合せて九十餘人あり、三國(魏蜀吳)時代の五六十人も時代の短き割合に多き方なり。蒙求は此の五百六七十人の事を集めたる縮史圖とも謂ふべし。

第七　蒙求の流傳

流行の盛なるものほど、模擬の多きものはなし、蒙求に於ても亦其の然るを見る。李瀚が一たび蒙求を作りしより、宋代の學者の之に倣へるもの多く、左氏蒙求・兩漢蒙求・十七史蒙求・南北史蒙求・宋朝蒙求・禪蒙求等あり。蒙求の名を附けざるも、其の文を模したるものには、國史對韻・唐史屬辭・孝悌類鑑・左氏綱領など云へるものあり。

發明家あり、豫言者あり、批評家あり、奇癖家あり。風流に身を寄せる隱遁の士もあれば、名利に心を惱むる輕薄の徒もあり。地方長官としては、民利を圖れる人、學校を興せる人、農業を奬勵せる人、前後に散見せり。其他陰德を施せる慈善家、己の身を捨てゝ人の危急を救ふ俠客、奮鬬努力して成功せる苦學者、一躍して巨萬の富を致せる資産家、十餘年の間、沙漠の牢獄に苦みしも、屈撓することなくして、中央亞細亞との交通を開きし冒險使節あり。時には禪宗の問答に類する談話あり、時には寸鐵人を殺す如き奇警の語を放つものあり、時には教訓的の人を訓戒するものあり、時には諷刺的の悚然として猛省せしむるものあり、又時には滑稽談の腹を抱へて笑はしむるものあり。其の間には神仙談もあれは、妖怪談もあり。諢名(アダナ)を取れるものには、智嚢、金穴、閉戶先生、跋扈將軍、生きた本箱など云へるものもあり。見來れば千態萬狀にして、人をして應接に暇あらざらしむる感あり。是れ蒙求の世に歡迎せらるゝ所以にして、其の價値も亦實に此に存せり。

に増補せる所あり、名けて補註といふ。是より李瀚の古註廢れて、徐子光の補註のみ行はれ、支那に於ては古註全く絕え、明清の學者なども、此の書あるを知らず。僅に我邦に傳はりし古本の殘れるに因り、幸に今日に存するを得たるものなり。然し本文を說明する事實の備はれるは、徐子光の補註を以て勝れりとなす。世人往往本文を標題といひ、補註を本文と心得るものあり、此は大なる誤なり。

第六　蒙求の價値

蒙求の價値は、簡短なる韻文を以て、あらゆる方面の人物を網羅せるに在り。觀よ聖賢あり、豪傑あり、忠臣あり、孝子あり、公正廉潔の士あり。必ずしも人格の人のみにあらず、殘酷の官吏もあれば、橫暴の貴族もあり。更に女性の側より見れは、名媛あり、女丈夫あり、良妻賢母あるにあらずや。大學者も出づれば、老將軍も見はれ、詩を善くする人、文に巧なる人、書畫に妙なる人は、言ふに及ばず。名醫あり、名工あり、

韻を、第四解に泰の仄韻を用ひし如く、解の奇數は平韻にして偶數は仄韻なり。但し去聲の御・遇・霽・號の四韻のみは、平韻を用ふべき場合に用ひしは、異例にして研究の餘地あるものなり。

第五　書名と古註補註

此の史的唱歌を名けて蒙求といひしは、周易の「童蒙求我」の句に本づき、兒童が我に說明を求めしといふ義に取り、專ら兒童用の爲に作りしものとの意を表したるものなり。

然るに本文のみにては、兒童は勿論普通の讀書の士も、其の人物事實の知るべからざるものあるを以て、作者李瀚は深切に註を加へて其の出典を明にし、併せて別事の記すべきものをも附記して誦讀者の便に供したり。之を古註とも舊註とも稱するなり。南宋の末に徐子光といへる學者は、李瀚の古註の備はらざるに因り、更

用ふる作詩の韻法は皆是なり。世間には往往蒙求の韻を說くに、平水の韻の分け方を以てせるものあるは、見當違ひたるを免れざるなり。

蒙求の韻の蹈み方に就いて注意を拂ふべきもの三項あり。

一、八句四韻を一解となしゝこと。

二、同一の韻を蹈まざりしこと。

三、平韻と仄韻と交互に蹈みたること。

右の三項に對し、少しく說明を加へん、一項は、八句即ち二句の對を四個合せたるものを一解(一きれ)とし、其の間は四字の韻を蹈むを例とせし也。但し最後の一解のみを四句となせるは例外なり。二項は、一解每に韻を轉じ、蒙求の全篇五百九十二句即ち七十四解なるが、韻も亦七十四回轉換し、其の間同一の韻を用ひしものなし。但し最後の一解の韻のみは同韻を重用したり。三項は、平聲の韻と仄聲の韻とを交互に用ふ、例へば第一解に東の平韻を、第二解に姥の仄韻を、第三解に歌の平

を心得置くは、必ずしも無用にあらざるべく、況して作者の苦心が其の間に存するものに於いてをや。韻の踏み方を述ぶるに先ち、四聲と韻の分け方とに就いて一言せん。漢字の韻を分けしとは、極めて古きことにて、詩經の詩や、楚辭の辭賦を見ても、韻の分け方に一定の約束ありしこと知らるべし。六朝の初より、作詩作文の上には殊に音調を重んじ、從ひて音韻の硏究も起り、四聲の說も始まれり。四聲とは、文字の發音の高低緩急に本づき四種の聲に分ちたるものにして卽ち平聲と上聲と去聲と入聲となり。隋の時に陸法言といへる人が切韻と稱する書を著はして、總ての文字を二百六韻に分類したり、卽ち平聲に五十八韻、上聲に五十五韻、去聲に五十九韻、入聲に三十四韻あり、平聲に屬する韻を平韻といひ、上聲去聲入聲に屬する韻を仄韻といふ。唐宋時代の詩又は韻文を作るものは、皆此の陸法言の韻の分け方に從ふ、蒙求の文も亦全く此に依りたるものなり。南宋に至り平水の劉淵は二百六韻を併合して一百七韻となしゝより、其の韻の分け方が行はれ、現今普通に

岳と夏侯湛とは竝に風采美しく時人は連璧と稱せしによりて「岳湛連璧」の句あり。又一人の事の見ゆるは、多く一回に止まれるが、二回まで詠まれたるものも五六人あり、例へば魏の文學者として最も有名なる曹植（字は子建、陳思王に封ぜらる）の如きは「子建八斗」と「陳思七步」と二回出でたり、前者の八斗とは、其の多才なる譬喩、後者の七步とは、僅か七步の間に一詩を作りし敏捷を稱したるものなり。又三回まで詠まれたるものは、蜀漢の忠臣を以て稱せられたる諸葛亮と、晉の高節の士なる陶淵明となり、「孔明臥龍」と「諸葛顧廬」と「亮遺巾幗」とは、竝に諸葛亮の事に係り、「武陵桃源」と「陶潛歸去」と「淵明把菊」とは、竝に陶淵明の事に係れり。要するに著名の事實は、務めて漏さゞらんことを期し、斯く二三回に及びしものならん。

第四　韻の踏み方

韻文の必要條件は、韻の蹈み方なり。蒙求の文は如何なる韻の蹈み方をなしゝか

美談、第二は晉の李充が書籍を整理し、始めて經・史・子・集といふ四部の名目を設けしことと、後漢の井丹（字は子春、故に井春といふ）が博學にして五經（詩經・書經・周易・春秋・禮記）の大義に通じたることゝを竝べて、書物に關する數字上の對をなし、第三は前漢の谷永が筆札（文章）に巧なることと、晉の顧愷之が丹靑繪畫）に妙を得たることを對せしめ、第四は琴を善くせし戴逵が權勢家より樂人視せられたるを怒りて琴を破りし奇矯談と、高隱の士なる謝敷の死が、早く天象に其の兆候を示せし感應談とを以て相對せしめたるものなり。蒙求の文は總べて此の如き體裁を以て作られたるものなり。而して八句の中に蹈みたる韻の字は、二重丸の符號を附けたる螢と經と靑と星との四字なり。

一句を以て一人の事を詠むは、蒙求の一般の例にして既に上文に擧示したる如し。然るに時には二人を交へて一句となすものなり、後漢の陳重と雷義とは其の交の堅きこと膠漆以上なりとの世評ありしによりて、「陳雷膠漆」の句あり、晉の潘

ずるに足らず。清朝の學者中に李瀚を唐末五代の人なりと云ひ、或は五代の晉の人なりとも云ひ、又或は遼の宣政殿學士なりなど云ふものあれども、大に時代を謬れるものなり。

第三　文の形式

蒙求の文は、韻文なり、長篇の詩なり。每句四言即ち四字を一句とし、全篇五百九十六句より成れり。一句おきに韻を踏み、二句相對せしめ、務めて音調を善くし、諷誦し易く、記臆し易からしめんとしたるものなれば、純然たる史的の唱歌なり。試に一例を擧ぐれば左の如し。

孫康映雪　車胤聚螢◎　李充四部　井春五經◎
谷永筆札　顧愷丹青◎　戴逵破琴　謝敷應星◎

第一に掲げたる二句は、よく古今の詩歌に歌はれたる雪と螢とに苦學せし一對の

第二　作者李瀚

李瀚は、定州安平縣(今の直隷省保定府定州地方)の人にして、恰も我が奈良朝の天平時代に當れり。學問該博にして古今の事蹟に精通せり。是れ此の作ありし所以なり。職を地方に奉じて信州(今の江西省廣信府地方)の司馬倉參軍となりしことありしも、後罷められて饒州(今の江西省饒州府)に寄寓せり、時に饒州の刺史の李良は、蒙求を讀み、其の作の有益なるに感じ、特に書を朝廷に上りて、蒙求を推奬し、李瀚に一職を授けられんことを乞へり、實に玄宗の天寶五年の事なりき。李瀚は之に由りて果して官職を授けられしや否は、知るべからざるも、蒙求の書が、當時既に識者の稱する所となりしを觀るべし。李瀚の事實としては、此より以上知るべからず。一説に李瀚は夫の弔古戰場文を以て有名なる李華の子なりと云ひ、或は韓退之と文章を上下したる李觀の兄なりとも云ふ、孰れも皆深く考へざる説にして信

蒙求解題

第一　蒙求の由來

支那に於ける古人の著名にして而かも興味多き行事說話を韻文に詠み集めたるものとしては、唐の李瀚の作りたる蒙求を以て、第一となさゞるべからず。蒙求の書は、早く我が王朝時代に傳はり、德川時代に盛んに行はれ、論語孟子と共に書を讀むもの〻必ず讀むべき書となり、初學の徒に對して、博く史的の知識を與へ、人口に膾炙せる許多の故事を知らしむるのみならず、歌を詠む人、詩を作る輩、文章を綴る士、畫題を求むる畫家等に向つて、多大なる材料を供給し、誠に簡便にして重寶なることは、古今の共に認むる所なり。現今に於て、中學校師範學校等にも教科書に充つるものあるも、極めて少し。余は廣く讀書界に向つて一讀せんことを勸むるものなり。

卷之下

卷之中

蒙求目次

卷之上

例言

一補註蒙求の全部を收め、其原文を上欄とし、之に對する譯文及び註解を下欄とし、以て本書一巻と爲す。

一本書の下欄中漢字四字一對を以て成れる標題様のもの卽ち蒙求の本文にして、其本文の如き形式を爲す者は徐子光の補註なること、解題中に述ぶるが如し。今姑く世間流布の體裁に從ふ。

一上欄の補註原文は箋註蒙求校本に從ふ。而して譯文亦主として其訓點によリ、傍ら諸家の說を參酌せり。

一註解に關しては、箋註・詳說の類を參考して其宜しきに從へり。

蒙求　全